

序

東日本大震災から四年を経過した平成27年度は、多くの幼児児童生徒が避難を余儀なくされる厳しい状況が続いたものの、「ふたば未来学園高等学校」が双葉郡の未来を拓く学校として開校するなど、復興に向け着実に歩みを進める俊でした。また、教育委員会制度改革により総合教育会議が新たに設けられ、道徳の教科化や、高校教育・大学教育。大学入学者選抜の一体的な改革、さらには、幼児教育の無償化や小中一貫教育の制度化などの議論が国において進められるなど、我が国の教育が大きく変わろうとした年でもありました。

このような中、県教育委員会では、平成25年3月に改訂した第六次福島県総合計画においてその基本理念である「“ふくしまの和”で奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり」の実現に向け様々な施策を展開してまいりました。

さて、本教育年報は、平成27年度における教育に関する施策概要や事業実績等を収録しており、本県教育行政を一望することができる資料として、また、本県の過去の教育行政を現在まで伝える貴重な資料として、教育関係者のみならず、多方面の方々に広く御利用いただいています。

今後も本書が、教育施策や各種事業を推進する上での参考資料として広く活用され、本県教育振興の一助となりますことを願っています。

平成29年3月

福島県教育委員会

教育年報目次

第1章 教育行政の概観

1 平成27年度の教育の概要及び重点施策	1
2 教育の情報化関係	6
3 義務教育関係	7
4 高等学校教育関係	7
5 特別支援教育関係	8
6 社会教育関係	8
7 文化関係	9
8 生涯学習関係	9
9 スポーツ関係	10
10 福利厚生関係	10

第2章 教育行政

第1節	教育委員会	11
	1 教育委員会	11
	2 審議事項	11
第2節	教育庁組織	14
第3節	企画調整	15
	1 教職員現職教育計画の策定	15
	2 調整事務	15
第4節	広報・広聴	16
	1 教育委員会だより	16
	2 教育年報	16
	3 福島県の教育	16
	4 ふくしま教育ニュース	16
	5 教育庁各課・所・館の広報誌・紙	17
	6 教育長記者会見	19
	7 記者発表及び資料提供（投げ込み）件数	19
	8 教育フォーラム	19
	9 平成27年度「ふくしま教育の日」啓発推進事業	19
	10 「県庁に みんなの声を 届けよう！」プロジェクト	19
第5節	調査統計	20
	1 学校統計要覧	20
	2 地方教育費調査（一般統計）	20
	3 社会教育調査（基幹統計）	20
	4 進路状況等に関する調査	20
第6節	教職員の給与	20
	1 給料関係	20
	2 通勤手当（平成28年4月1日適用）	20
	3 単身赴任手当（平成28年4月1日適用）	20
	4 地域手当（平成28年4月1日適用）	20
	5 期末・勤勉手当（平成27年12月1日適用）	21
	6 へき地手当（平成28年4月1日適用）	21
第7節	附属機関等	21
	1 福島県学校教育審議会	21
	2 福島県社会教育委員の会議	21
	3 福島県文化財保護審議会	22
第8節	市町村教育委員会	23
	1 概要	23
	2 組織	23
	3 平成27年度市町村教育委員会援助指導の概要	23

第9節	職員団体との話し合い	24
	1 福島県教職員組合	24
	2 福島県高等学校教職員組合	24
	3 福島県立高等学校教職員組合	24
	4 福島県学校事務労働組合	25
第10節	不利益処分審査請求事件及び損害賠償請求事件	25
	1 不利益処分審査請求事件	25
	2 損害賠償請求事件	25
第11節	公益法人等の指導等並びに公益信託の状況	26
	1 公益法人等	26
	2 公益信託	26
第12節	表彰及び叙勲	26
	1 教育・文化関係表彰	26
	2 文部科学大臣表彰	27
	3 春・秋・高齢者叙勲、死亡叙位・叙勲	27
第13節	奨学育英	30
	1 福島県奨学資金	30
	2 福島県高等学校定時制課程及び通信制課程修学資金貸与制度	30
第3章 教育財政		
第1節	平成27年度決算	31
	1 歳入	31
	2 歳出	32
第2節	学校教育施設	34
	1 県立学校	34
	2 幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校(市町村立分)	36
第3節	産業教育設備整備事業	37
	1 産業教育施設・設備の整備	37
第4節	理科教育振興法補助事業	37
	1 理科設備	37
	2 算数・数学特別設備	37
第5節	情報処理設備整備事業	37
	1 県単独事業	37
第4章 教育の情報化		
第1節	基盤整備	38
第2節	人材の育成・活用	39
第5章 義務教育		
第1節	学校管理	41
	1 児童生徒数・学級数と教職員定数	41
	2 教職員人事・任用	43
	3 教育職員の免許	43
	4 学校の設置及び統廃合	44
	5 学校防火	44
	6 へき地対策	45
第2節	学校教育	47
	1 概要	47
	2 現職教育	48
	3 教育課程	50
	4 学力向上等	51
	5 放射線教育(放射線教育推進支援事業)	51
	6 防災教育(「生き抜く力」を育む防災教育推進事業)	51

7	道徳教育	52
8	特別活動	53
9	生徒指導・進路指導	53
10	幼稚園教育	54
11	へき地教育	54
12	環境教育	55
13	教科用図書	55
14	教育研究団体	56
第3節	国際化・科学技術の進展等への対応	58
1	中学生・高校生の科学・技術研究論文	58
2	中学生・高校生の国際理解・国際交流論文	59

第6章 高等学校教育

第1節	学校管理	61
1	生徒数と教職員数	61
2	教職員人事・任用	65
3	学校の設置及び統廃合	68
第2節	学校教育	69
1	概要	69
2	現職教育	76
3	教育課程	77
4	学力向上対策等	77
5	生徒指導・進路指導	78
6	学校行事	78
7	産業教育	79
8	学校訪問	80
9	県立学校学校教育指導委員	80
10	教科用図書	81
11	教育研究団体	81

第7章 特別支援教育

第1節	学校管理	83
1	児童生徒数と教職員定数	83
2	特別支援学校及び特別支援学級の実態	85
3	教職員人事・任用	87
第2節	学校教育	88
1	概要	88
2	現職教育	90
3	教育課程	91
4	訪問教育	91
5	生徒指導・進路指導	92
6	特別活動	93
7	学校訪問	93
8	県立学校教育指導委員	93
9	就学指導	93
10	教科用図書	94
11	教育研究団体	94

第8章 社会教育

第1節	社会教育一般	95
1	概要	95
2	社会教育推進体制の充実	95
3	社会教育施設の整備充実	96

	4 社会教育関係職員の研修	96
	5 社会教育研究集会	96
	6 社会教育指導員の設置	97
	7 社会教育主事の市町村派遣	97
	8 社会教育研修会	97
	9 福島県公民館研究集会	97
	10 福島県公民館主事部会研修会	97
	11 社会教育職員研修派遣	97
	12 出版資料	98
第2節	地域の教育力向上	98
	1 概要	98
	2 体験活動・ボランティア推進センター事業	98
第3節	地域コミュニティの再生	99
	1 概要	99
	2 放課後子ども教室推進事業	99
	3 学校支援地域本部事業	99
	4 地域支援推進事業	99
	5 学校・家庭・地域連携サポート事業	99
	6 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業	100
	7 地域における防災力向上支援事業	100
第4節	家庭教育	102
	1 概要	102
	2 地域でつながる家庭教育応援事業	102
第5節	青少年教育	103
	1 概要	103
	2 十七字のふれあい事業	104
第6節	成人教育	104
	1 概要	104
第7節	子どもの読書活動推進	104
	1 概要	104
	2 子ども読書活動推進会議の設置	104
	3 子どもの夢をはぐくむ読書活動推進事業	104
	4 子どもの本がたなぐスマイルプロジェクト	104
第8節	ユネスコ活動	105
	1 概要	105
	2 ユネスコ協会事務局一覧	105
	3 福島県ユネスコ活動研修会	105
第9節	ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業	105
	1 目的	105
	2 内容	105
第10節	公民館等社会教育施設	106
	1 概要	106
	2 公民館を除く主な社会教育施設	106

第9章 文 化

第1節	概要	113
	1 文化活動の振興	113
	2 文化の伝承の充実	113
	3 文化施設の整備充実	113
第2節	文化活動の振興	114
	1 芸術文化活動発表機会の充実	114
第3節	文化財の愛護と伝統文化の継承	120
	1 文化財保護体制の充実	120

	2 埋蔵文化財の保護の充実	120
	3 平成27年度文化財保存助成の充実	137
	4 文化財の愛護と公開の推進	140
	5 銃砲刀剣類の登録状況	140
第4節	公益財団法人福島県文化振興財団による文化財保護の推進	141
	1 埋蔵文化財関係事業	141
	2 文化財センター整備業務	144

第10章 体育・健康

第1節	概要	145
	1 学校体育の充実	145
	2 学校保健・学校安全の充実	145
	3 食育の推進	145
	4 学校給食の充実	145
第2節	表彰	146
	1 体育関係	146
	2 学校保健・学校安全関係	146
	3 学校給食関係	149
第3節	学校体育	149
	1 学校体育関係各種研修	149
	2 福島県高等学校体育連盟	150
	3 福島県中学校体育連盟	152
第4節	学校保健・学校安全	153
	1 学校保健・学校安全研修会等	153
	2 児童・生徒の健康管理費補助	153
	3 教職員の健康管理	153
	4 福島県学校保健会	154
	5 独立行政法人日本スポーツ振興センター	154
第5節	学校給食	155
	1 学校給食に関する研修会	155
	2 学校給食用パン品質調査	155
	3 食育等に関する研修会等	155
	4 地場産物活用のための研修会	156
	5 学校給食関係の国庫助成実績	156
第6節	体育施設	156
	1 公立学校施設整備費補助（学校体育諸施設補助）	156
	2 社会体育施設整備費補助	157

第11章 福利厚生

	[福利厚生事業]	159
第1節	概要	159
第2節	保健・厚生事業	159
	1 保健事業	159
	2 厚生事業	161
第3節	貸付事業	163
	1 共済組合	163
第4節	宿泊・保養施設	163
第5節	児童手当（特例給付を含む）	164
第6節	財産形成貯蓄制度	164
	[福利給付事業]	164
第7節	概要	164
第8節	短期給付	164
	1 共済組合	164

	2 互助会	165
第9節	長期給付	165
	1 恩給	165
	2 退職手当	166
	3 年金	166
第12章 福島県教育センター		
第1節	概要	169
	1 調査・研究事業	169
	2 研修事業	169
	3 情報教育事業	169
	4 教育相談事業	170
	5 教育図書・資料事業	170
第2節	調査・研究事業	170
	1 調査・研究	171
	2 長期研究員制度による研究	171
第3節	研修事業	171
	1 研修講座の概要	171
	2 研修講座	173
	3 指導主事派遣等	175
第4節	情報教育事業	175
	1 研修講座の概要	175
	2 施設利用概況	176
第5節	教育相談	176
	1 対象別	176
	2 区分別	176
	3 地区別来所相談件数	176
	4 月別相談件数・回数	176
第6節	教育図書・資料事業	176
	1 教育図書・教育資料の収集	176
	2 教育資料の刊行	177
第13章 福島県養護教育センター		
第1節	概要	179
	1 教育相談事業	179
	2 教職員研修事業	179
	3 調査研究・教育研究事業	179
	4 教育図書・資料の収集・提供事業	179
	5 広報・啓発事業	180
	6 情報教育事業	180
第2節	教育相談事業	180
	1 相談対象	180
	2 形態	180
	3 現状と課題	180
第3節	教職員研修事業	180
	1 教職員の研修講座	181
第4節	調査研究・教育研究事業	182
	1 調査研究	182
	2 教育研究	182
第5節	教育図書・資料の収集・提供事業	183
	1 教育図書・資料の収集・整理	183
第6節	広報・啓発事業	183
	1 所報「特別支援教育」(68号)	183

	2 研究紀要「第29号」	184
第7節	情報教育事業	184
	1 ICT活用支援	184
	2 情報機器活用	184
	3 情報教育ネットワークとWebページの充実	184
第14章 福島県立図書館		
第1節	概要	185
	1 運営の概要	185
	2 図書館協議会	185
第2節	資料の収集・整理	185
	1 図書館資料の収集	185
第3節	館内奉仕	187
	1 調査相談(レファレンス)	187
	2 館内サービス	188
	3 館外個人貸出	188
	4 特別貸出	188
	5 一般資料	188
	6 地域資料	189
	7 逐次刊行物	189
	8 児童サービス	189
	9 東日本大震災福島県復興ライブラリー	189
	10 特殊文庫・貴重資料紹介コーナー	189
	11 複写サービス	190
	12 来館者用インターネットコーナー	190
	13 展示	190
	14 普及事業	191
第4節	館外奉仕	192
	1 移動図書館「あづま号」	192
	2 市町村援助のための支援貸出	192
	3 福島県立図書館資料の譲与	192
	4 学校図書館活動支援貸出	192
	5 学校図書館活動支援セット貸出	192
	6 広報資料の発行	193
第5節	図書館協力	193
	1 相互協力と遠隔地返却	193
	2 図書館協力車事業	193
	3 県内図書館職員研修会	193
	4 第13回福島県図書館研究集会	193
	5 子どもの本がつなぐスマイルプロジェクト	194
	6 県内大学図書館間との連携	194
第15章 福島県立美術館		
第1節	概要	195
	1 美術館運営協議会	195
	2 他館等との連携	195
第2節	美術品の収集・保存	195
	1 収蔵作品点数(平成28年3月31日現在)	195
	2 収集評価委員会	195
	3 平成27年度収蔵作品	195
	4 保存修復	196
第3節	展示事業	196
	1 常設展	196

	2 企画展	197
第4節	調査研究事業	198
	1 調査研究	198
第5節	普及事業	198
	1 館内解説	198
	2 実技教室	198
	3 美術館・学校教育連携事業	198
	4 友の会、協力会との連携事業	199
	5 その他の事業	200
第6節	施設・設備の整備	200
	1 改修工事等	200

第16章 福島県立博物館

第1節	概要	201
	1 運営の概要	201
	2 運営協議会	201
第2節	調査研究事業	201
	1 展示資料調査研究	201
	2 その他の調査研究事業	202
第3節	資料収集事業	202
	1 収集展示委員会	202
	2 受贈・受託	202
	3 購入	203
第4節	保存管理事業	203
	1 資料の収蔵	203
	2 登録・整理	203
	3 保存	204
	4 貸出	204
第5節	展示事業	205
	1 常設展示	205
	2 企画展示	206
	3 特集展	208
	4 移動展	208
	5 指定文化財の公開	210
	6 展示解説	210
	7 体験学習室	211
	8 リニューアルチーム	211
第6節	東日本大震災からの復興支援	211
	1 文化財レスキュー	212
	2 ふくしま応援ミュージアムイベント	213
	3 復興応援パートナー事業	213
	4 はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト2015	214
	5 震災遺産保全プロジェクト	223
第7節	平成27年度行事	226

第17章 福島県自然の家

第1節	沿革及び所在地	233
	1 沿革	233
	2 所在地	233
第2節	教育目標及び基本的視点	233
	1 教育目標	233
	2 基本的視点	233
第3節	各施設の利用者数	234

福島県郡山自然の家

第1節	概要	235
	1 職員組織	235
	2 平成27年度重点目標と成果	236
第2節	施設・設備の概要	236
	1 所在地	236
	2 宿泊定員	236
	3 敷地面積	236
	4 建物面積	236
	5 設備備品等	236
第3節	利用状況	237
	1 月別利用状況	237
	2 利用団体別・宿泊日数利用状況	238
	3 研修活動の分類と実施団体数	239
第4節	企画事業	240
	1 研修会事業	240
	2 利用拡大事業	240
	3 協力事業	242

福島県会津自然の家

第1節	概要	243
	1 職員組織	243
	2 平成27年度重点目標と成果	243
第2節	施設・設備の概要	244
	1 所在地	244
	2 宿泊定員	244
	3 敷地面積	244
	4 建物面積	244
	5 運動広場面積	244
	6 設備備品等	245
第3節	利用状況	245
	1 当施設の利用可能対象者	245
	2 平成27年度の利用団体数	245
	3 子どもたちへ体験活動機会提供	245
	4 利用状況	245
	5 月別利用状況	246
	6 利用団体別・宿泊日数利用状況	247
	7 研修活動の分類と実施団体数	248
第4節	企画事業	249
	1 指導者の研修	249
	2 利用促進事業	249
	3 その他の企画事業	252

福島県いわき海浜自然の家

第1節	概要	253
	1 平成27年度重点目標と成果	253
	2 職員組織	254
第2節	施設・設備の概要	254
	1 所在地	254
	2 宿泊定員	254
	3 敷地面積	254
	4 建物面積	254

	5 野外活動施設面積	254
	6 設備備品等	254
第3節	利用状況	255
	1 平成27年度 月別利用状況一覧表(3月末現在)	255
	2 平成27年度 利用団体別・宿泊日数利用状況	256
	3 平成27年度 研究活動の分類と実施団体数	257
第4節	企画事業	259
	1 研修会事業	259
	2 利用促進事業	259
	3 その他の企画事業	260
	4 協力事業	261

第18章 福島県文化財センター白河館

第1節	白河館の運営状況	263
	1 利用者数	263
	2 入館者の内訳と傾向	263
	3 団体利用者の内訳と傾向	263
	4 情報発信事業の利用者	264
	5 資料管理業務	264
	6 研修事業の状況	264
	7 体験学習事業の状況	264
	8 常設展事業	266
	9 企画展事業	266
	10 ボランティア運営事業	266

第19章 文化スポーツ局

第1節	組織	267
第2節	附属機関	267
	1 福島県文化振興審議会	267
	2 福島県生涯学習審議会	267
	3 福島県スポーツ推進審議会	268
第3節	表彰	269
	1 文化功労賞受賞者	269
	2 第68回福島県文学賞受賞者	269
	3 文化・スポーツ知事感謝状受賞者	269
	4 体育・スポーツ関係	270
第4節	文化	276
	1 概要	276
	2 文化の振興	276
第5節	生涯学習	279
	1 概要	279
	2 生涯学習の推進体制	279
	3 生涯学習情報提供及び啓発	279
	4 生涯学習による復興応援	279
	5 復興を担う子どもたちの育成	279
第6節	スポーツ	280
	1 概要	280
	2 生涯スポーツ・競技スポーツの振興	280
	3 体育・スポーツ施設	303

ふくしま海洋科学館

第1節	施設の概要	305
	1 本館施設	305

	2 水生生物保全センター	305
	3 海水取水・送水施設	305
	4 展示生物の収集、蓄養施設	305
第2節	各種事業	305
	1 飼育展示事業	305
	2 移動水族館事業	306
	3 研究交流事業	306
	4 海洋文化推進事業	306
	5 企画営業事業	306
	6 学習交流事業	307
	7 スクール開催事業	309
	8 ボランティア等活動事業	309
第3節	月別入館者数	309
第4節	公益財団法人ふくしま海洋科学館の概要	310
	1 財団法人の名称	310
	2 財団法人の目的	310
	3 財団法人の事業	310
	4 基本財産	310
	5 組織(平成28年3月現在)	310

福島県文化センター

第1節	概要	313
	1 業務内容	313
第2節	施設の概要	313
	1 福島県文化会館	313
	2 福島県歴史資料館	313
第3節	事業の実施状況	313
	1 管理運営事業	313
	2 文化情報の発信	314
	3 歴史資料館事業	314
	4 文化事業	316
第4節	公益財団法人福島県文化振興財団の概要	318
	1 法人の名称	318
	2 財団の目的	318
	3 定款に定める事業	318
	4 組織(平成28年3月31日現在)	318
	5 助成・顕彰事業	319

第1章 教育行政の概観

1 平成27年度の教育の概要及び重点施策

東日本大震災がら四年を経過してもなお、多くの幼児児童生徒が県内外への避難生活を余儀なくされ、本県は依然として厳しい状況が続いている。こうした中、平成27年度は、教育委員会制度改革を含めた地教行法の改正や、高大接続システム改革の検討推進、学校と地域の連携・協働を推進するための「次世代の学校・地域」創生プランの策定など、更なる改革が国において進められた。

県教育委員会では、平成22年3月に策定した本県の教育指針である第6次福島県総合教育計画に基づき、その基本理念である「“ふくしまの和”で奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり」の実現に向け、3つの基本目標それぞれについて各施策を展開することにより、目標の達成を目指している。なお、第6次福島県総合教育計画については、平成24年12月に改定された本県の最上位計画である福島県総合計画「ふくしま新生プラン」及び平成23年12月に策定された福島県復興計画を踏まえ、震災からの復旧・復興に向けた取組を加えるなど、平成25年3月に必要な改定を行っている。

基本理念

“ふくしまの和”で奏でる、
こころ豊かなたくましい人づくり

基本目標

- 基本目標1 知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成
- 基本目標2 学校、家庭、地域が一体となった教育の実現
- 基本目標3 豊かな教育環境の形成

基本目標を達成するための施策

- 基本目標1
- 施策1 子どもたちの豊かなこころをはぐくみます
 - 施策2 子どもたちの健やかな体をはぐくみます
 - 施策3 子どもたちの生き抜く力を支える「確かな学力」を身につけさせます
 - 施策4 望ましい勤労観・職業観をはぐくみます
 - 施策5 障がいのある子どもたちが「地域で共に学び、共に生きる教育」を推進します
 - 施策6 高度情報化社会を主体的に生きていく力をはぐくみます
 - 施策7 国際化の進展に対応できる人づくりを進めます
 - 施策8 公立大学において、社会をリードし、地域に

貢献する人づくりを進めます

基本目標2

- 施策9 地域全体で子どもたちを教える取組を支援します
- 施策10 家庭における教育を支援します
- 施策11 生涯を通して学習し、その成果が生きる環境を整備します
- 施策12 自然に親しみ、自然を尊重するところをはぐくみます
- 施策13 地域に根ざした伝統文化を保存・継承し、地域を愛するところをはぐくみます

基本目標3

- 施策14 教員の資質の向上を図ります
- 施策15 一人一人の子どもに教員が向き合うことができる環境を整備します
- 施策16 透明性の高い、開かれた教育を推進します
- 施策17 安全で安心できる学習環境の整備を促進します
- 施策18 地域における身近な文化・スポーツ環境を整備します
- 施策19 私立学校の振興を図ります
- 施策20 社会情勢や環境の変化に対応した学校づくりを推進します

この計画の運用に当たっては、毎年度、基本目標ごとに重視する観点を定め、これに基づき実施する事業を明らかにするとともに、計画の進捗状況を点検・評価し、計画の適切な運用に努めることとしている。平成27年度は次の3つの観点を重視し、これらに沿った施策・事業を総合的に展開した。

私立学校及び公立大学法人に係る事業については、知事部局の総務部において、生涯学習、文化及びスポーツに関する事業については企画調整部文化スポーツ局において所管しているが、その他の部局における関連事業も含め、部局間連携を図りながら推進した。

(★印は、知事部局所管の事業等)

平成27年度に重視する観点及び対応する重点事業

基本目標1において重視する観点

○ふくしまの復興・再生に向けた、生き抜く力をはぐくむ教育の推進

子どもたちの「確かな学力」、「豊かなこころ」と「健やかな体」をバランスよく育て、ふくしまの復興・再生に向けた、生き抜く力を育む教育を推進します。

このため、理数教育、放射線教育、防災教育を一層充実するとともに、国際的な視点を持ったグローバルリーダーの育成や、学校、家庭、地域の連携による学

力の向上に引き続き取り組みます。

また、いのちを大切にすする心や郷土愛等を養う道徳教育、ふくしまの復興に寄与する社会体験活動に取り組む機会やキャリア教育を充実するとともに、インクルーシブ教育システム構築に努めます。

さらに、学校、家庭、地域が一体となった体力・運動能力の向上を図る取組や、望ましい食生活の形成を進める食育を一層推進します。

継続 ピューアハートサポートプロジェクト

大震災を経験したこの時に、「いのち」、「家族愛」、「郷土愛」等について系統的に学ぶための読み物資料の作成、ゲストティーチャーの学校への派遣、道徳教育啓発資料の作成・配付を行うことにより、道徳教育を推進し、今後の福島県の復興を担うことになる児童生徒の健全育成を図った。

また、心のケアを必要としている児童生徒が増加していることから、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置し、教育相談体制の充実を図るとともに、学校・家庭・地域が連携し、問題行動やPTSD等の未然防止と早期解決を図った。

新規 子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業

復興に貢献したいという子どもたちの想いを具現化するため、主体的に復興に寄与する社会体験活動に取り組むことを通して、新生ふくしまを担うたくましい子どもたちの育成を図った。

継続 子供たちによるふるさと「ふくしま」の学び事業★

復興に向け取り組んでいる本県の現状や地域の文化、自然等について取材して新聞にまとめたり、ふくしまのよさや夢・希望等についてふくしまゆかりの著名人にインタビュー・ラジオ放送等でその思いやふくしまの今を発信した。

継続 緊急スクールカウンセラー等派遣事業（私立学校）★

東日本大震災により被災した児童生徒等の心のケアなどに当たるため、国の委託により緊急にスクールカウンセラー等の派遣を実施した。

継続 子どもの夢をはぐくむ読書活動推進事業

講義や演習を通し、読書ボランティアの資質向上を図った。また、受講者にボランティア登録を呼びかけ、県内の各市町村教育委員会に依頼し活用を要請した。高校生の不読率を改善するために、ビブリオバトルを実施した。

継続 子どもの健康を守る安全・安心対策支援事業

学校と地域の協働による学びを通じて、放射線に対する不安や外出や屋外活動を控えている児童生徒の精神的なストレスや運動不足を解消し、被災地の地域コミュニティの再生を図った。

新規 ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト

原子力発電所事故により低下した児童生徒の体力向上や肥満傾向児の出現率を低下させるため、個人の健康等に関する情報を一元管理できる自分手帳を開発し、体育の授業等に専門アドバイザーを派遣し、運動能力の向上や食育等による健康増進に向けた事業を展開した。

一部新 平成29年度南東北インターハイ開催事業

平成29年度の南東北インターハイ開催に向けて高校生の強化等を実施し、高校部活動を通して福島県の復興を県内外に発信した。

一部新 学校給食地場産物活用事業

望ましい食習慣の形成や食育の観点から、学校給食に地場産物を活用する市町村の取組を支援した。

一部新 ふくしまから はじめよう。元気なふくしまっ子食環境整備事業

保健福祉部・農林水産部・教育委員会等関係機関が連携し、家庭・学校・地域が一体となって地域における食育推進体制を整備するとともに、食育推進体系を再構築し「元気なふくしまっ子」が育つ食環境整備を進めた。

一部新 学力向上推進支援事業

指導の改善に資する評価問題の作成と活用、効果的な指導法の実践研究を行った。さらに学力調査を実施して児童生徒の学力の実態を把握し、授業改善を図った。

継続 サポートティーチャー派遣事業

児童生徒の心のケアと学習のつまづきを解消するため、サポートティーチャーを学校や教育委員会に派遣し、実験・実習を中心とした教科の学習を支援するとともに、授業外や長期休業時における相談活動と学習支援を充実させた。

継続 ふくしまから はじめよう。学力向上のための「つなぐ教育」推進事業

児童生徒の学力向上を図るため、事業推進地域を指定し、学校間・家庭及び地域との連携を図った取組を推進するとともに、その成果を県内すべての学校に普及し、地域全体で児童生徒の学習習慣・生活習慣を確立する体制を構築した。

一部新 ふくしまから はじめよう。未来を拓く理数教育充実事業

知識基盤社会において重要な科学技術に対する関心と基礎的素養を高めるとともに、本県の復興を担う人材育成のために、教員の理科、算数・数学科の指導力向上を図るとともに、理数に関して児童生徒の学ぶ環境や専門的な学習の機会を充実させた。

継続 ふくしま高校生進路実現サポート事業

高等学校において生徒の学力向上を図り将来への展望を抱かせるとともに、地域に貢献できる人材や社会においてリーダーシップを発揮できる人材を育成した。

継続 「生き抜く力」を育む防災教育推進事業

学校における防災教育の一層の充実を図り、児童生徒の防災意識の向上に資するため、授業等で活用できる防災教育指導資料を作成するとともに、防災教育に関する研修会を開催した。

継続 中山間地域インターネット活用学力向上支援事業

中山間地域の学習指導及び学習環境の充実を図るため、町村教育委員会の実施するインターネットを活用した授業や教材の提供など学力向上の取組を支援した。

継続 放射線教育推進支援事業

児童生徒が、自ら考え、判断し、行動する力を身に付け、心身ともに健康で安全な生活を送れるよう、放射線等に関する基礎的な知識や放射線からの防護等についての理解を深めるための取組を行った。

継続 ふくしま地域医療の担い手育成事業

高等学校の医学部進学希望生徒に、最新の医学や地域医療の実情を理解させ、医学や地域医療に対する関心を高めて学習の動機付けを図ることにより、進路希望の実現を支援し、地域医療に貢献できる人づくりを推進した。

新規 次世代のふくしまを担う人材育成事業

学校教育から職場へのスムーズな移行や職業選択のミスマッチ防止などの観点から、学校と受入企業が連携し、生徒の主體的な進路選択の能力・態度を育成した。

一部新 インクルーシブ教育システム構築事業

特別な支援を必要とする子どもたちへの支援体制の整備・充実のために、関係機関連携によるネットワークの構築や乳幼児期からの一貫した相談体制の整備等の取組を支援した。

継続 社会自立を目指すスキルアップ事業

特別支援学校高等部生徒の自立と社会参加を促すため、特別支援学校作業技能大会を開催し、日頃の進路に関する学習の成果を発表するとともに、外部専門家から客観的な評価を受ける機会とした。

継続 小学生外国語活動・異文化体験活動充実事業

インターネットを活用した外国語活動のライブ授業や異文化体験活動を通して、コミュニケーション能力の素地を育成するとともに、国際感覚を養った。

新規 スーパーグローバルハイスクール事業

ふたば未来学園高等学校において、企業や大学等と連携を図り、国際的素養の育成をはじめとした質の高いカリキュラムの開発・実践に取り組んだ。

継続 ふくしまの未来を担う高校生海外研修支援事業

国際社会に貢献できる人材を育成するため、学校が実施する海外ホームステイ研修に参加する高校生を対象に旅費の一部を支援した。

一部新 英語指導力向上事業

震災からの復興に向けて、国際社会の進展に対応する人づくり及び国際社会に貢献できるグローバル人材の育成を図るため、小中高等学校等における英語指導及び学習評価の改善についての実践研究を行い、その成果を県内の学校へ普及した。

継続 医科大学修学支援宿泊施設整備事業★

地域社会に貢献する熱意を持った真に人間性豊かな医療人を養成し、その県内定着に大きな役割を果たしてきた学生寮の整備に要する経費を補助した。

継続 私立幼稚園心と体いきいき事業★

園児の体力向上や肥満防止等を目的とした年間プログラムを計画的に実践する私立幼稚園を支援した。

継続 「ふくしま子ども夢宣言」推進事業

「ふくしま子ども憲章」について、児童生徒はもとより広く県民に周知した。憲章の一項目である「読書で心を豊かにする」をテーマに、作文コンクールを実施した。

継続 学校における食育推進プロジェクト

栄養教諭を中心として効果的な食育を進めるため、関係機関・団体と連携しながら実践の検証結果に基づいた食育のモデル実践プログラムを構築し、食育の充実を図った。

継続 地域スポーツ人材の活用実践支援事業

中学校の武道・ダンスの授業と中学校・高等学校の運動部活動に対し、県教育委員会が委嘱する地域スポーツ人材を派遣することにより指導の一層の充実を図った。

継続 学校すこやかプラン

児童・生徒の現代的健康課題を解決するため、地域の保健関係機関、保護者等と連携し、支援体制の整備充実や健康教育担当教員の資質向上を図ることにより、健康教育を推進した。

継続 双葉地区教育構想（福祉健康人材育成プラン）

福祉・健康に関する専門的な授業を行い、将来、総合的な健康づくりをコーディネートでき、福祉・健康分野で活躍する人づくりを推進した。

継続 高等学校学習支援推進事業

高等学校に在籍している発達障がい等の生徒において、学習の遅れに加え、東日本大震災の影響による環境の変化への不適応等が見られることから、高等学校における発達障がい等の生徒への支援をより充実させるために、在籍数の多い高等学校に学習支援員を配置し、生徒の特性に応じた学習支援を行った。

継続 特別支援学校における医療的ケア実施事業

特別支援学校で学ぶ幼児児童生徒の障がいの重度・重複に伴い、吸引等の医療的ケア（日常的応急の手当）を必要とする幼児児童生徒が常在しているため、これらの幼児児童生徒が健康で安全・安心な学校生活を送るとともにその保護者の負担を軽減するため医療的ケアを実施した。

継続 特別支援学校における外部専門家活用事業

東日本大震災に伴う環境の変化や災害に対する幼児児童生徒の不安を解消するため、外部専門家を活用し助言を受け、特別支援学校の指導力の向上や幼児児童生徒の防災についての学習活動の充実を図った。

継続 うつくしま教育ネットワーク事業

学校を含めた教育文化機関に安全で安定したインターネット活用環境を提供した。さらに授業等でのネットワークの使用量増加に対応するためのシステム改良、情報セキュリティの維持、有害情報の遮断、テレビ会議システムの運用などの支援を行った。

継続 双葉地区教育構想（国際人育成プラン）

震災からの復興に向けて、国際社会に貢献できるグローバル人材の育成及び双葉地区教育構想の基本目標の1つ「国際人として社会をリードする人材の育成」を図るため、スポーツ交流事業及び国際理解事業に取り組んだ。

基本目標2において重視する観点

○学校、家庭、地域の連携・協力による、総合的な教育力の向上

学校、家庭、地域の連携・協力により、地域全体で教育に取り組みます。

このため、地域全体で学校教育を支援する体制の充実や、地域と学校をつなぐコーディネーターの資質向上を図ります。また、地域の協力のもと、放課後等に子どもたちがスポーツ・文化活動や交流活動を行う取組の支援や、学校、PTA、地域の企業との連携による親自身の学ぶ機会を充実するとともに第三次「福島県子ども読書活動推進計画」を踏まえた読書活動を推進します。

さらに、生涯学習活動の成果を地域課題の解決に生かすため関係者等のネットワーク化を推進するとともに、被災した文化財の修復や民俗芸能の伝承に対する支援、自然体験活動や交流活動等に係る支援をさらに推進します。

継続 学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業（学校支援地域本部事業）

教員や地域の大人が子どもと向き合う時間の増加、住民等の学習成果の活用機会の拡充及び地域の教育力の活性化を図るために、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進した。

継続 学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業（地域支援推進事業）

公民館等の社会教育施設を活用し、コーディネーターを中心に学習活動の活性化を図っていくことで、地域住民の学習・交流促進した。これらを通じ、学びを媒介としたコミュニケーションの活性化や地域の課題解決の取組を支援した。

継続 学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業（放課後子ども教室推進事業）

子どもの健全育成と安心して子育てできる地域社会の実現のため、地域の協力のもと、子どもたちがスポーツ・文化活動や交流活動を行う放課後子ども教室の設置を支援した。また、県内各地で本事業に関わる人材の資質向上を目的とする研修会を実施した。なお、「放課後児童健全育成事業」（こども未来局）と連携し総合的な放課後対策事業として実施した。

継続 学校・家庭・地域連携サポート事業

学校支援地域本部事業や放課後子ども教室推進事業の先進的な取組の実施状況を見学し、実践を学ぶために「学校支援実践研修会」を実施するとともに、地域支援推進事業、また学校支援地域本部事業推進のためのコーディネーター養成とボランティア人口の拡充を図るために「コーディネーター養成研修会」を実施した。

継続 子どもの本がっさぐスマイルプロジェクト

震災で被災して心が傷ついている子どもたちや親たち

に、本とのふれあいを通して心を癒してもらうため、読み聞かせなどを行うフェスティバルを開催した。

また、読書ボランティアの活動も推進しながら、本を通じて子どもたちや親たちの心の復興を図った。

継続 地域でつながる家庭教育応援事業

「親の学び」を支援するために、PTAと連携し、親自身が学ぶ機会が充実するよう支援した。また、家庭教育支援者が、家庭教育の支援を行うための学習プログラムを作成し、あわせて、家庭教育支援者を育成するための研修会を行った。さらに、企業と連携して地域の家庭教育推進を働きかけた。

継続 地域における防災力向上支援事業

今後の災害に備え、地域の防災拠点である公民館等社会教育施設において地域防災力を向上させるため、市町村の社会教育関係者等を支援するプログラム等を実施した。

継続 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業

東日本大震災に関連する資料等を収集・保存し、広く県民に情報を提供するとともに、移動図書館車の巡回による資料の貸出を行った。

継続 東日本大震災記録保存活用事業★

東日本大震災及び原子力災害の体験や教訓等を次世代に継承するため、伝えるべき資料、残すべき資料を収集・保存し、活用を図った。

継続 ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業

震災の経験を踏まえ、再発見した郷土の良さを伝え合い発信していくような交流活動を行うとともに、充実した自然体験活動を行う機会を提供し、豊かな人間性と生きる力の育成を図った。

継続 ふくしまから はじめよう。再生可能エネルギー教育実践事業

発達段階に応じて再生可能エネルギーと資源の利用に関する意識の醸成を図り、主体的に行動する態度や資質、能力を育成するため、教員の大学における研修、エネルギー学習教材の開発、専門家の派遣、成果の普及・啓発等を大学に委託し、モデル校において学習プログラムの実践を行った。

継続 指定文化財保存活用事業（災害復旧事業）

東日本大震災で被災した国・県指定文化財の修復を実施する場合に事業実施に要する経費を補助した。

継続 地域に根差した文化財の災害復旧支援事業

地域の宝である文化財の保護・継承を図るため、国登録有形文化財の個人所有者が、東日本大震災により被災した文化財の修復を実施する場合に事業実施に要する経費を補助した。

継続 アートによる新生ふくしま推進事業★

文化芸術に触れる機会や地域コミュニティの交流の場をつくり、文化芸術による地域活力の創出と心の復興という視点から復旧・復興を支援するため、様々なアートプログラムを企画実施した。

継続 地域の「きずな」を結ぶ民俗芸能支援事業

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の影響により、継承の危機に瀕している民俗芸能の円滑な継承を促進し、ふるさとに対する誇りや郷土愛を確認し、地域のつながりを再構築するための活動に対して補助をした。また、稽古の様子、公演での演目披露の様子の記録保存を委託した。

一部新 ふくしまから はじめよう。「地域のたから」伝統芸能継承事業★

被災した民俗芸能の復活に向け、民俗芸能等の発表の機会を提供するとともに、専門家による助言や団体間の交流を促進し、民俗芸能の継承とその向上を図った。

継 続 十七字のふれあい事業

子どもと大人が家庭や地域の「人と人とのかかわり」の中で感じたこと等を十七字の作品として募集し、優秀作品を表彰した。

新 規 全国生涯学習ネットワークフォーラム2015福島大会

行政や大学等の教育機関、NPO等、生涯学習関係者が一堂に会し、地域づくり・社会づくりについての研究協議等を行いその成果を発信した。また、継続的な取組が推進されるよう、関係者等のネットワーク化を図った。

基本目標3において重視する観点

○復興・再生に向けた教育環境の一層の充実

子どもたちが安心して学ぶことができる教育環境の一層の充実を図ります。

このため、被災した教育施設の復旧や学校施設の耐震化・老朽化対策を推進し学校施設の安全性を確保するとともに、学校給食の検査体制の支援にも引き続き取り組みます。

また、地域や子どものニーズに応じた教育環境づくりのため、特別支援学校の整備の推進や、双葉郡の教育復興に引き続き取り組むなど、更なる教育環境の充実を図るとともに、適切な教員の配置や教員研修の充実を努めます。

さらに、被災した児童生徒に対し、奨学資金等による経済的な支援を行います。

継 続 県立学校校舎等改築事業

耐震改修工事による耐震化が不可能と判断された校舎及び実習棟について改築を行った。

継 続 大規模改造事業

老朽化した学校施設の機能を回復する大規模改修とともに耐震改修を併せて行い、大規模な地震による災害時には応急的な避難施設となる学校施設の安全性を確保した。

継 続 高校等奨学資金貸付事業

高校・専修学校（高等課程）に在学し、能力があるにもかかわらず、経済的理由により修学困難と認められる者及び東日本大震災により被災し経済的に就学困難と認められる者に対して修学資金の貸与を行った。

継 続 高等学校通学費支援事業

東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴うサテライト校への通学等により、通学環境が大きく変化し、経済的負担が大きくなる生徒の通学費を支援した。

継 続 被災児童生徒等就学支援事業

東日本大震災により被災、または原子力発電所事故により避難している幼児児童生徒に就学支援等を行った。

継 続 学校給食検査体制支援事業

学校給食の一層の安全・安心を確保するため、学校給食用食材の放射性物質検査を実施する市町村等を支援した。

継 続 学校給食モニタリング事業

希望する市町村において、学校給食センター等で提供した学校給食1食分に含まれる放射性物質の検査を民間の検査機関に委託して行った。

継 続 県立学校施設応急仮設校舎等設置事業

東日本大震災の発生により校舎が被災した学校や、原発事故により国から区域外への避難指示がなされ移転を余儀なくされた学校を対象に応急仮設校舎等の設置・賃借を行った。

継 続 県立学校施設等災害復旧事業

東日本大震災により被災した県立学校施設等について、建物、工作物、土地、設備等の復旧を行った。

継 続 公立学校等校舎内緊急環境改善事業

東京電力福島第一原子力発電所事故の影響により、市町村が行う市町村立学校等への空調機器等の整備を支援した。

継 続 未来の子どもを守る食の安全確保事業★

私立学校における学校給食食材の放射性物質検査に要する費用の一部を補助した。

新 規 チャレンジふくしまフォーミングアーツプロジェクト★

プロの劇作家、音楽家等の支援を受けながら、中学生、高校生が、舞台芸術の創作・公演や記録映像作成等により県内外に新しいふくしまの姿を発信した。

継 続 文化で元気！”新生ふくしま”グランドステージ事業★

全国的に著名な芸術家等による公演、展覧会等の開催により誘客を図り、本県の姿を全国に発信するため、主催者に対して補助金を交付した。

一部新 ふくしまから はじめよう。スポーツ発信・全国大会誘致事業★

来県者が期待できるブロック大会規模以上のスポーツやレクリエーションの大会を本県に誘致し、県民へ元気を与えるとともに、地域の活性化につなげた。また、全国に福島県の本当の姿を発信していただくことで、風評被害の払拭を図った。

新 規 2020東京オリンピック・パラリンピック関連復興推進事業★

復興に取り組む本県の姿を全世界に発信するため、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、事前合宿の誘致等を始めとした関連事業を実施した。

新 規 福島の輝く未来へ！スポーツわくわくプロジェクト★

小中高生を対象に様々なスポーツ分野のトップ選手や指

導者との交流を行い、スポーツの楽しさ・厳しさ・達成感を共有し、未来に向けて考える機会を提供した。

継続 ふくしまから世界へ！ 「ふくしま夢アスリート」育成支援事業★

本県から将来の活躍が期待される青少年（15歳～20歳）を指定し、国際的な競技力向上を見据えた中央競技団体等の実施する強化練習会などへの参加とそのサポートとして指導支援、医科学支援を行った。

継続 「陸上王国福島」パワーアップ事業★

陸上競技をツールに用いた取組を行い、子どもたちの体力向上と心身の健康を図るとともに、日本一の陸上選手の本県からの誕生を目指し、県全体の活性化を図った。

一部新 スポーツ環境復興緊急対策事業★

短期間での競技力向上が見込める以下の10競技を対象として競技力の向上を図るため、より高度な技術や戦術について指導できる県外の優秀な指導者を「アドバイザーコーチ」として指定し、県内と県外でコーチングクリニックを行った。

- ①水泳 ②ウエイトリフティング ③自転車 ④カヌー
- ⑤スキー ⑥ボート ⑦ボウリング ⑧ボクシング
- ⑨フェンシング ⑩弓道

継続 福島県私学振興会貸付金★

私立学校等の校舎等の整備を促進し、教育条件の向上を図るとともに、その整備事業の実施に伴う父母の負担の軽減に資するため、(公社)福島県私学振興会が私立学校の施設設備事業、災害復旧事業及び防災強化施設整備のための資金として、私立学校へ融資する場合の当該貸付金の原資を同振興会へ貸付けを行った。

継続 私立学校被災児童生徒等就学支援★

東日本大震災に起因する事情により被災した児童生徒等の就学を支援するため、授業料等減免措置を行った私立学校に対して減免相当額を補助した。

新規 双葉郡教育復興推進事業

双葉郡教育復興ビジョン推進に係る事業を、双葉郡教育復興ビジョン推進協議会事務局と連携して推進するとともに、ふたば未来学園高等学校への外部講師の招へいや連携中学との交流等の事業を実施した。

継続 双葉郡中高一貫校整備事業

ふたば未来学園高等学校の施設を整備し、生徒の学習環境、生活環境の確保を図った。

一部新 双葉郡中高一貫校設置事業

ふたば未来学園高等学校の備品・教材・教具等の整備や、寮及び食堂を運営するための事業を行った。

新規 特別支援学校整備事業

特別支援学校の児童生徒数の増加や通学地域の広域化による長時間通学等の課題を解消するために、障がいのある児童生徒等の学習活動が適切に行える環境づくりと複数の障がい種に対応した専門的な教育が行われる学校づくりを推進した。

継続 双葉地区教育構想推進事業

日本サッカー協会等との連携の下、スポーツにおいて世界で活躍できるスペシャリストの育成に取り組むとともに、語学や福祉・健康の分野においても国際的な感覚を身に付けた、豊かな人間性と確かな学力を有する人づくりを推進した。

継続 サテライト校の整備・充実

サテライト校の集約に伴い、保護者の元からの通学が困難な生徒のための宿泊施設の確保や、サテライト校の運営管理に関する経費の支援、各学校における学力向上・キャリア教育に関する取組や、生徒が一同に会したり、連携型中高一貫校が互いに連携する機会をとおして一体感を高めるための支援等を行った。

継続 復旧・復興の基盤づくりのための教員配置

震災により遅れが懸念される児童生徒の学習を支援するための教員を配置した。

継続 優秀教職員表彰制度

学習指導や生徒指導等において、日常的に努力を積み重ね顕著な成果を上げている教職員を、優秀教職員として積極的に称え表彰することによって、教職員の志気を高めるとともに、教育活動全体の活性化を図った。

新規 いわき海星高等学校実習船福島丸代船建造事業

実習船「福島丸」の安全確保と、老朽化により低下している教育効果の回復を図るため、代船建造に係る計画策定を行った。

継続 少人数教育推進事業

個に応じたきめ細かな指導が可能となるよう、小・中学校において30人及び30人程度学級編制に必要な教員を配置した。

2 教育の情報化関係

平成13年1月の高度情報通信ネットワーク社会形成基本法の施行後、「e-Japan戦略（平成13年1月）」、「IT新改革戦略（平成18年1月）」、「i-Japan戦略2015（平成21年7月）」などにおいて、教育分野を含めた様々な情報通信技術に関する国家戦略が策定されてきた。

また、平成20年1月の中央教育審議会答申の中でも、情報教育の重要性、ICT環境に関する条件整備の必要性が指摘され、学習指導要領においても、情報教育や授業におけるICT活用等、教育の情報化について一層充実が図られることとなっている。

このような情勢に対応し、本県の教育の情報化を推進するためには、①基盤整備、②人材の育成・活用、③教育用コンテンツの充実の3つの観点から取り組むことが重要であるとの認識に立ち、事業を実施している。まず、基盤整備として情報通信技術を活用した教育に不可欠な“安定”かつ“安全”なネットワーク環境を、学校や教育関係機関などに提供するため、「うつくしま教育ネットワーク」の整備を行ってきた。

また、インターネットを活用するなどして学習効果の向

上を図るためには、教育にICTを活用できる教員の育成が急務であり、コンピュータを操作できる教員の育成に加えコンピュータで指導できる教員の育成を図る研修を実施している。

さらに、教育用コンテンツの充実のため、「うつくしま教育ネットワーク」で、テレビ会議システムを再構築し、学校のみならず各教育関係機関での積極的な利活用の促進を図っている。

3 義務教育関係

(1) 県内の小・中学校児童生徒の学力の向上を図るため、「授業改善のための定着確認シート活用実践事業」、「ふくしまからはじめよう。学力向上のための『つなぐ教育』推進事業」、「学力調査研究事業」及び「理数教育優秀教員活用事業」を実施した。

また、県内の児童生徒の数学的な考え方や科学的な思考力を高めるため、小学生算数・理科講座事業及び福島県算数・数学ジュニアオリンピック事業、「科学の甲子園」福島県大会事業を実施した。

さらに、少人数教育充実のために、30人程度学級又は少人数指導の教員を配置するなど、各市町村教育委員会への支援を通して、各小・中学校における日々の授業の工夫改善を図り、学力向上に努めた。

(2) 「ピュアハートサポートプロジェクト」の一環として、教育センターに学校教育相談員を配置し、電話相談等を実施した。また、小学校23校、中学校134校に文部科学省事業によるスクールカウンセラーを配置し、いじめ問題や不登校等の学校不適応問題への指導援助の強化を図った。

また、大震災後、児童生徒がPTSD等にならないように文部科学省事業による緊急スクールカウンセラーを小学校93校、中学校86校に派遣し、心のケアに当たった。

さらに、カウンセリング研修会や各種連絡協議会を開催し、教職員の資質の向上を図った。

4 高等学校教育関係

(1) 高等学校において、生徒の学力向上を図り将来への展望を抱かせるとともに、地域に貢献できる人材や社会においてリーダーシップを発揮できる人材を育成するため、「ふくしま高校生進路実現サポート事業」を実施した。

ア 地域に貢献できる人づくりプロジェクト

- 対象校 27校
- 各校の取組内容
 - ・生徒の基礎学力を高める取組
 - (ア) 学ぶ意欲を向上させ主体的に学習に取り組む態度を育む講演会やガイダンス
 - (イ) 指導力向上のための校内研修の活性化
 - ・3年間の計画的な進学指導体制の充実を図る取組
- 進路指導連絡協議会の開催
- ・生徒・保護者・教員・地域をつなぐ取組

(ア) 地域人材を活用した職業研究講話

(イ) 地域貢献活動

(ウ) 進路便りや年間指導計画表の作成・配布

・社会人としての在り方についての理解を深める取組

(ア) 社会人としての在り方についての講演会

(イ) 職場見学会（選択）

(ウ) デュアルシステム等の実施（選択）

イ 大学進学プロジェクト

○ 対象校 13校

○ 各校の取組内容

・論理的思考力・読解力・表現力養成講座

・教員による、難関大学等の入学試験問題の研究と発展的内容に係る指導

・生徒の実態に応じた各校独自作成による校内模擬試験等の実施

・社会人としての在り方についての理解を深める講話

・大学教授等による最先端研究や理論に関する講義や演習

・大学等と連携した最先端研究実習体験や課題研究指導（選択）

・卒業生（大学生等）による講話

・保護者を交えた進学勉強会

・進路便りや年間進路指導計画表の作成・配布

○ 研究会等の開催

・進学指導力向上のための研究会

(ア) 予備校等を活用した大学入試の方法、模擬試験のデータ等の活用、各生徒の希望・適性に見合った大学選び等についての研究

(イ) 大学の入試担当によるAO及び推薦入試に係る研究会

(ウ) 大学入試センター等主催のシンポジウム等への参加

・学力向上のための教科指導力向上研究会

言語活動の充実を意識し、生徒の主体性を生かす授業改善を進めるための研究

・進路指導連絡協議会

ウ オールふくしまリーダー育成プロジェクト

○ 対象 県立高等学校1年生

○ 実施内容

・教員による入試問題研究講座（国語・数学・英語）

・予備校等講師による難関大合格に向けたハイレベル講座（国語・数学・英語）

・生徒によるグループ協議とプレゼンテーション等

・社会人等による講演会等

・大学生との交流会、パネルディスカッション等

(2) 教職員現職教育計画に基づいて、各種研修会や講習会を開催し、教職員の職責にふさわしい資質・能力の向上に努めるとともに、社会の変化や時代の進展に対応した実践的指導力を習得させるため、各種の研修等を実施した。

(3) 多様化した生徒の心の問題の解決のために、ピュアハー

トサポートプロジェクトとしてカウンセリング等の各種研究会を開催し、教員の資質向上に努めた。さらに、教育相談専門研修及び関係機関との連携強化のために各種連絡協議会を開催し、教員の実践的指導力の向上を図った。

5 特別支援教育関係

- (1) 県教育委員会では、福島県学校教育審議会に本県における今後の特別支援教育の在り方について諮問し、平成21年9月に「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進を基本理念とする答申を受けた。

本答申を具体的な施策に反映させるため、第6次福島県総合教育計画（改訂版）においては、「地域におけるインクルーシブ教育システムの構築と理解啓発の促進」、「小・中学校における特別支援教育の充実」、「高等学校における特別支援教育の充実」、「特別支援学校における特別支援教育とセンター的機能の充実」、「教員の特別支援教育に関する指導力の向上」の5項目を本県の目指すべき特別支援教育の方向性として示した。

- (2) 「社会自立を目指すスキルアップ事業」を実施し、高等部設置県立特別支援学校全校による特別支援学校作業技能大会を開催した。各校の進路に関する学習の成果を発表し合うとともに、作業技能検定等において外部専門家から客観的な評価を受けることを通して、生徒の社会参加・自立につながる学力や技能、意欲の向上を図った。また、「キャリア教育推進事業（特別支援学校就労推進事業）」を実施し、特別支援学校高等部生徒の就職率と職場定着率の向上に向けて、労働や福祉の関係機関と連携体制の構築と、企業への理解啓発並びに企業で働き続けることのできる人材の育成を図った。
- (3) 「地域支援体制整備充実事業」では、県内全域を推進地域とし、理解啓発セミナーや研修会等を通して、市町村における相談機能や支援体制の整備を進めた。各地域では、保健福祉部局と連携を図り、相談支援ファイルを作成し、早期からの継続した支援を充実させる取組を進めた。また、教育事務所を中心として養護教育センター、特別支援学校がそれぞれの役割や機能を生かし、地域支援チームとして連携・協力して市町村や学校等のニーズに応じて、支援体制整備に向けた取組を行った。
- (4) 「平成27年度特別支援学校における医療的ケア実施事業」を実施し、教育・医療・福祉等関係者からなる「医療的ケア実施運営協議会」を設置し、本県における医療的ケアの在り方について研究・協議を行った。また、常時、医療的ケアを必要とする児童生徒（訪問教育や病院入院生徒は除く）が在籍している学校(12校)に常勤講師及び特別非常勤講師として看護師を配置した。さらに、医療的ケアの実施を指導する「指導医の委嘱」、地域の保健・医療・福祉機関のバックアップ体制の確立のための「医療的ケアサポート会議の設置」、医療的ケアの実施に必要な「医療機器等の整備」を行った。

6 社会教育関係

- (1) 県社会教育委員の会議では、公募委員2名を含む16名に委員を委嘱した。

本年度も引き続き、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を自覚し、連携・協力しながら、地域社会全体で子どもたちの教育を支援していくための体制づくりや人材育成、本県における社会教育事業のあり方等について審議した。

- (2) 震災からの復興のために、地域コミュニティを再生していくことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、地域の教育力向上を図ることができるよう、子どもたちの健全育成と安心安全な活動拠点づくりを推進するための「放課後子ども教室推進事業」や、地域人材や社会教育団体などの参画を得て、学校と地域の連携の構築を図り、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する「学校支援地域本部事業」、学校や公民館等の社会教育施設に学習活動をコーディネートする人材を配置し、地域住民の学習・交流を促進するとともに、子どもたちの良好な生活環境を整備し地域コミュニティの再生を図る「地域支援推進事業」を実施するとともに、「学校・家庭・地域連携サポート事業」において、コーディネーターやボランティアを対象とした研修等を実施した。

また、災害記録の保存と県民への情報提供に活用する資料の収集を行い、移動図書館や協力車の巡回を実施して読書普及を通じた支援を行った。

- (3) 家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける上で重要な役割を担っている。しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化している。そこで、地域ぐるみで子どもたちを育む仕組みの構築に努め、「地域でつながる家庭教育応援事業」等を実施した。
- (4) 青少年の豊かな人間性や社会性を育むためには、異年齢の子ども同士や地域の大人等の関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等の様々な体験の機会の充実や社会環境づくりが促進されることが必要である。そのために、「体験活動・ボランティア推進センター事業」を実施するとともに、学校・家庭・地域が連携を進めながら、地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりが推進されるよう、子どもと大人が、共通の体験をとおして、感動したことや共感したことを話し合い、日本古来の五・七・五の十七音で表現した作品を募集、表彰、広報する「十七字のふれあい事業」を実施した。
- (5) 地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力の向上への取組と関連させながら、成人の学習活動や社会参加活動を促進する

よう努めた。

- (6) 第三次「福島県子ども読書活動推進計画」に基づき、関係機関と連携して、地域で子どもの読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館への支援等もできる人材の養成に努めるとともに、福島県子ども読書活動推進会議を開催し、読書活動推進に向けた協議を行った。
また、読書の楽しさや自ら進んで読書に親しむきっかけとして、高校生によるビブリオバトルを開催した。
- (7) ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるよう努めた。
- (8) 子どもたちの豊かな人間性や生きる力を育むために「ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業」を実施し、東日本大震災の経験を踏まえ、再発見した郷土の良さを伝え合い発信していく様な交流活動を行う団体や充実した自然体験活動等を行う団体に対し、補助金を交付した。
- (9) 子どもたちが福島の今を伝える活動を行う中で主体的に復興に寄与する社会体験活動に取り組むことなど、その想いを具現化できる機会を提供するため、「子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業」を実施し、市町村や青少年育成団体等が実施する事業に対し、補助金を交付した。

7 文化関係★

- (1) 文化振興による地域づくりを施策の柱に加えた新しい「福島県文化振興基本計画」～ふくしま文化元気創造プラン～を平成22年3月に策定したが、東日本大震災・原子力災害などによる社会経済情勢の変化を踏まえ、平成25年3月に本計画を見直し、文化の力による創造的な復興を目指し改訂した。
- (2) 福島県文学賞、福島県総合美術展覧会等の事業を実施し、県民文化活動の促進と発表機会の充実に努めた。
- (3) 史跡及び名勝として、白河市の「南湖公園」が追加指定された。
- (4) 各種の開発から埋蔵文化財を保護するため、一般国道115号相馬福島道路など3事業について表面調査・試掘確認調査を実施した。
また、現状保存できない遺跡については、会津縦貫南道路など6事業で記録保存のための発掘調査を実施し、報告書を刊行した。
- (5) 文化財の保存と活用を一体的に図るため、文化財の修理等の保存事業と公開等活用事業を併せて実施する場合に助成を行う指定文化財保存活用事業を実施し、国・県指定19件の助成を行った。
また、東日本大震災で甚大な被害を受けた文化財については国・県指定4件の修復事業に対して助成を行った。
- (6) 各種コンクール等においては、例年のとおり音楽関係分野の活躍がめざましく、平成27年度NHK全国学校音楽コンクール高等学校部門では、郡山高校が金賞で1位を受賞、第68回全日本合唱コンクール全国大会高等学校部門において、会津高等学校が5年連続の金賞および2年連続の文部

科学大臣賞（第1位）を受賞した。

同コンクール中学校部門では、郡山市立郡山第五中学校が3年連続、混声・同声で金賞と最高賞の文部科学大臣賞を受賞した。さらに混声で郡山市立郡山第二中学校が、13年連続金賞と第2位に相当するさいたま市長賞を受賞した。日本学校合奏コンクール全国大会では、郡山市立郡山第二中学校が最高賞の文部科学大臣賞を受賞した。

音楽以外の分野でも、第6回国際ナノ・マイクロアプリケーションコンテストにおいて、郡山北工業高等学校が世界第3位、第6回ものづくり日本大賞では「内閣総理大臣賞」を受賞、第62回NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会のラジオドキュメント部門においては、磐城高等学校が最優秀賞を受賞、全国高等学校ダンスドリル選手権大会冬季大会2016では、郡山商業高校がPOM部門で第1位、さらに、全国電卓競技大会と全日本電卓競技大会では、団体競技において郡山商業高校が優勝、高等学校の部で若松商業高校も優勝、また、第2回高校新聞部インターハイ新聞コンクールでは郡山東高校が最優秀を受賞した。

個人では、全国高等学校弁論大会で会津高校の加藤さわさんが内閣総理大臣賞・文部科学大臣賞特選を受賞、全農学生「酪農の夢」コンクールでは、相馬農業高校の高山直哉さんが最優秀賞、第63回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会ホームプロジェクトの部では、喜多方東高等学校の渡部結依さんが第1位相当の文部科学大臣賞を受賞、第7回全国高等学校ダンスドリル選手権大会2016ではMs. SOLO部門で郡山高校の鈴木梨奈さんが第1位、全国特別支援学校文化祭では、造形美術部門で郡山養護学校の蜂須賀渉さんが最優秀賞、全国簿記電卓競技大会（簿記部門）では、若松商業高校の渡部美咲さんが優勝、全国電卓競技大会、全国高等学校珠算・電卓競技大会では個人総合競技で郡山商業高校の鈴木樹里さんが優勝、また、全国高等学校珠算・電卓競技大会では、郡山商業高校の鈴木沙也加さんが伝票算競技で優勝するなど、本県のめざましい活躍が見られた。

8 生涯学習関係★

県民の多様なニーズや学習活動の広域化に対応するため、県・市町村・大学等高等教育機関、民間教育機関等が連携・協力し、県民が主体的、継続的に学習活動に取り組めるよう、生涯学習に関する情報や学習機会を体系化して提供するしくみである「まなびとファインダー」を運営し、生涯学習の推進に努めた。

子どもたちが、地域の現状やふくしまの未来について考え、新聞にまとめHP等を活用し、県内外に発信したり、ふくしまのよさや夢・希望等について、放送原稿等にまとめ、ラジオ放送等の中で自分の声で発信したりする事業を実施し、ふくしまの復興を担う子どもたちの育成に努めた。

福島県を復興し地域コミュニティを再生するには、地域課題を解決するための県民一人ひとりの「力」が欠かせないことから、地域をつなぐ活動や地域課題を解決するための学びの場の提供を行い、地域の核となる人材を養成する

ための事業「全国生涯学習ネットワークフォーラム 2015 福島大会」を実施した。

東日本大震災の記録及び教訓等を次世代に継承するため、資料の収集及び保存等を行った。

9 スポーツ関係★

平成25年3月に「福島県スポーツ推進基本計画」を策定し、以後8年間のスポーツ施策の方向性を定めた。平成22年3月に策定した福島県スポーツ振興基本計画は、東日本大震災や津波、原子力発電所事故により、本県を取り巻く社会経済情勢が大きく変化したことや、国が新たに「スポーツ基本法」を施行し、同法に基づいて「スポーツ基本計画」が策定されたことから、その内容の見直しを行ったものである。

今年度、多くの本県中高生が国際大会に出場し多くの上位入賞者を輩出した。陸上競技では日・中・韓ジュニア陸上競技大会で田母神一喜選手（学法石川高3年）が優勝、アジア・クロスカンントリーでは遠藤日向選手（学法石川高2年）が5位入賞を果たした。バドミントン競技でも、ニュージーランドオープン2015とベトナムオープン2015で川上紗恵奈選手（富岡高3年）が女子シングルスで優勝、三橋健也選手、渡辺勇大選手（富岡高3年）がオーストラリアジュニアインターナショナル2015とデンマークジュニア2015で優勝した。その他、バドミントン競技で富岡高校の選手が世界ジュニア選手権大会に派遣され男女とも3位入賞を果たしている。中・高校生が世界の舞台で活躍し、スポーツの力で県民に勇気や元気を与えた。

本県では競技力の向上を図るため、強化選手や強化チーム並びに中・高校の運動部を指定し、長期的・組織的・計画的に選手を育成する「競技別一般強化合宿事業」を中心に、各種事業を実施した。特にバドミントン競技及びゴルフ競技においては、トップレベルの指導者を招聘し、中高連携の一貫した指導体制のもと、優秀な選手を育成する「専任コーチ等招聘事業」を実施した。また、前事業を継承し陸上競技をツールに用いて、子どもたちの体力向上や心身の健康増進、将来の日本一の選手誕生を目指した「陸上王国福島」パワーアップ事業を実施するとともに、昨年度本県で開催された第98回日本陸上競技選手権大会のメモリアルイベントとして県内の小・中学生対象に「福島の輝く未来へ」トップアスリート陸上教室を実施し、292名が参加した。さらに、優秀な人材の発掘と育成を目標とした「うつくしまスポーツキッズ発掘事業」では特に第2・第3ステージにおいて充実したプログラムを実施できた。

全国中学校体育大会で猪苗代中学校バドミントン部（原発事故の影響により富岡一中の生徒が在籍）が男女団体とともに3位入賞、個人では女子シングルスで水井ひらり（猪苗代中3年）、ダブルスで福本真恵七・佐藤 杏組（猪苗代中）が優勝を果たした。また、二本松第一中学校男子ソフトテニス部が3位入賞、個人では男子ダブルスで北野亮介・鈴木竜弥組（西郷一中）が優勝を果たした。陸上競技11

0mハードルでは、高橋直生（富岡一中3年）が優勝を果たした。

全国高等学校総合体育大会においては、陸上競技男子1500mで田母神一喜選手（学法石川高3年）、ウエイトリフティング競技男子94kg級で青木智也選手（田村高3年）、自転車競技ポイント・レースで小玉和寿選手（学法石川高3年）、個人ロードレースで渡邊歩選手（学法石川高3年）、ロード総合成績で小玉和寿・渡邊歩・渡邊祐希選手（学法石川高）、バドミントン競技男子シングルスで渡辺勇大選手（富岡高3年）、男子ダブルスで渡辺勇大・三橋健也選手（富岡高）が優勝するという大活躍があった。

年度末に開催された全国高等学校選抜大会においては、富岡・ふたば未来学園高校バドミントン部が学校対抗で男女とも準優勝であり、ウエイトリフティング競技85kg級の穴戸大輔選手（福島工業高2年）が優勝を果たした。

国民体育大会においては、陸上競技少年男子5000mで遠藤日向選手（学法石川高2年）、自転車競技少年男子個人ロードレースで渡邊祐希選手（学法石川高3年）、バドミントン競技少年男子団体で渡辺勇大選手・三橋健也選手・山澤直貴選手（富岡高2年）のチームが見事優勝を果たした。冬季大会では、スケート競技少年女子500mで増子楓佳選手（熱海中3年）が中学生ながら8位入賞を果たすなど、少年種別で全国の強豪相手に健闘した。

また、平成29年度全国高等学校総合体育大会（南東北インターハイ）に向け、県内の有望チーム・選手を指定し、強化合宿等を行うインターハイ選手特別強化事業、及び県外の強豪チーム・選手を県内に招き合同合宿等を行う「ふくしまで一緒にやろう！」プロジェクトを実施し、競技力の向上及び本県の復興状況の発信に努めた。次年度以降も、大会に向けての選手育成を図るとともに、引き続き子どもたちの活力ある姿等を通じて「ふくしまの今」を全国に発信していくこととしている。

10 福利厚生関係

- (1) 特定健康診査等を実施するとともに、教職員の生活習慣病の早期発見・早期治療に資するため、人間ドック等の健診事業を、県、市町村、公立学校共済組合、一般財団法人福島県教職員互助会等が連携を図りつつ実施した。
- (2) 教職員の健康管理意識を高めるため、生活習慣病、メンタルヘルス等に関する各種セミナー事業を実施し、教職員の心身の健康づくりを支援した。

また、ふくしま教職員こころのケア事業等をはじめとする各種相談事業やストレスチェック事業を実施し、メンタルヘルス対策の充実を図った。

第2章 教育行政

第1節 教育委員会

1 教育委員会

平成27年4月1日より新教育委員会制度への移行に係る経過措置規定（平成26年6月20日法律第76号附則）が適用された（翌年3月31日まで）。

併せて、平成27年4月1日付けで浅川なおみ氏が、境野米子委員の後任として教育委員に任命された。

また、平成27年12月16日に開催された教育委員会定例会において、委員長に蜂須賀藤子委員が互選（指名推薦）により選出され、委員長職務代理者には佐藤有史委員が指定された。

＜平成27年4月1日現在＞

職名	氏名	委員就任日	職業	備考
委員長	高橋 金一	平成23年 12月27日	弁護士	郡山市
委員長職務代理者	蜂須賀藤子	平成24年 10月19日	生花 販売	大熊町
委員	浅川なおみ	平成27年 4月1日	ピアノ 教室 主催	白河市
委員	小野 栄重	平成25年 12月24日 (2期目)	会社代 表取締 役	いわき市
委員	佐藤 有史	平成24年 10月19日	会社代 表取締 役	会津若松市
教育長	杉 昭重	平成24年 4月1日		福島市

2 審議事項

4月定例会（平27.4.17）

- 審議事項
 - (1) 福島県教育庁指導主事の懲戒処分について
 - (2) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
 - (3) 福島県公立学校教員の懲戒処分について
 - (4) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
 - (5) 平成28年度福島県公立学校教員採用予定者数について
- 報告事項
 - (1) 平成27年度福島県立高等学校入学者選抜の結果について
 - (2) 平成27年度福島県立特別支援学校高等部入学者選抜の結果について
 - (3) 福島県公立学校事務職員の人事について

- (4) 訓告処分等について

5月定例会（平27.5.15）

- 報告事項
 - (1) 平成28年度使用教科用図書の採択等に関する答申について
 - (2) 訓告処分等について

6月定例会（平27.6.12）

- 審議事項
 - (1) 平成28年度使用教科用図書調査研究資料について
 - (2) 教育長臨時代理による処理の承認について（平成26年度福島県一般会計補正予算（教育委員会関係部分）について）
 - (3) 平成27年度6月補正予算案（教育委員会関係部分）について
 - (4) 福島県社会教育委員の任免について
 - (5) 福島県公立学校教員の懲戒処分について
 - (6) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
 - (7) 福島県公立学校教員の懲戒処分について
 - (8) 福島県市町村公立学校長の懲戒処分について
 - (9) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づく意見照会の回答について
- 報告事項
 - (1) 審査請求の裁決に係る対応について
 - (2) 訓告処分等について

7月定例会（平27.7.17）

- 審議事項
 - (1) 福島県社会教育委員の任免について
 - (2) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
- 報告事項
 - (1) 訓告処分等について

8月定例会（平27.8.21）

- 審議事項
 - (1) 平成28年度使用県立特別支援学校小学部・中学部・高等部の教科用図書の採択について
 - (2) 平成28年度使用県立高等学校の教科用図書の採択について
 - (3) 平成28年度使用県立中学校の教科用図書の採択について
 - (4) 福島県立図書館協議会委員の解嘱について
 - (5) 平成27年度福島県指定重要有形民俗文化財・福島県指定重要無形民俗文化財指定の諮問について
 - (6) 平成27年度福島県指定天然記念物指定の諮問について

- (7) 福島県教育庁事務職員の人事について
- (8) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
- (9) 福島県公立学校教員の懲戒処分について

○ 報告事項

- (1) 訓告処分等について

9月定例会（平27.9.9）

○ 審議事項

- (1) 平成28年度福島県立中学校入学者選抜について
- (2) 平成28年度福島県立高等学校入学者選抜について
- (3) 平成28年度福島県立特別支援学校高等部入学者選抜について
- (4) 平成27年度9月補正予算案（教育委員会関係部分）について
- (5) 平成27年度教育・文化関係表彰について
- (6) 平成28年度福島県公立学校実習助手採用予定者数及び平成28年度福島県公立学校寄宿舎指導員採用予定者数について
- (7) 福島県公立学校教員の懲戒処分について

○ 報告事項

- (1) 福島県公立学校教員の分限免職処分の無効について
- (2) 訓告処分等について

10月定例会（平27.10.16）

○ 審議事項

- (1) 平成28年度福島県立学校生徒募集定員について
- (2) 福島県立図書館協議会委員の任命について
- (3) 福島県立美術館運営協議会委員の任免について
- (4) 平成27年度教育・文化関係表彰について
- (5) 平成28年度人事異動方針及び各人事異動実施要項について
- (6) 平成28年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験について

○ 報告事項

- (1) 訓告処分等について

11月定例会（平27.11.30）

○ 審議事項

- (1) 平成27年度12月補正予算案（教育委員会関係部分）について
- (2) 平成27年度中学生・高校生の国際理解・国際交流論文朝河貫一賞の受賞者について
- (3) 平成27年度中学生・高校生の科学・技術研究論文野口英世賞の受賞者について
- (4) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
- (5) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
- (6) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
- (7) 福島県公立学校教員の懲戒処分について
- (8) 福島県公立学校教員の懲戒処分について
- (9) 退職手当の支給について（追加議案）

○ 報告事項

- (1) 平成27年度福島県市町村立学校教職員の勤務評定について
- (2) 平成27年度福島県立学校教職員の勤務評定について
- (3) 訓告処分等について
- (4) 応訴について

12月定例会（平27.12.16）

○ 審議事項

- (1) 福島県教育委員会が取り扱う個人情報の保護に関する規則の一部を改正する規則について
- (2) 福島県立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について
- (3) 市町村公立学校教頭の人事について
- (4) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
- (5) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について
- (6) 福島県公立学校教員の懲戒処分について
- (7) 福島県公立学校教員の懲戒処分について
- (8) 福島県市町村公立学校教員の懲戒処分について

○ 報告事項

- (1) 訓告処分等について

○ 委員長選挙

○ 委員長職務代理者の指定

1月定例会（平28.1.15）

○ 審議事項

- (1) 平成26年度教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価結果について
- (2) 平成27年度教育・文化関係表彰について
- (3) 教育職員免許法第5条第3項の規定による特別免許状の授与について
- (4) 平成28年度福島県公立学校実習助手採用候補者選考試験の合格者について
- (5) 平成28年度福島県公立学校寄宿舎指導員採用候補者選考試験の合格者について
- (6) 市町村公立学校長の人事について
- (7) 福島県公立学校教員の懲戒処分について

○ 報告事項

- (1) 訓告処分等について
- (2) 平成28年度人事異動（教員系）について

2月定例会（平28.2.12）

○ 審議事項

- (1) 福島県立高等学校学則の一部を改正する規則について
- (2) 平成28年度当初予算案（教育委員会関係部分）について
- (3) 平成27年度2月補正予算案（教育委員会関係部分）について
- (4) 工事請負契約案について
- (5) 工事請負契約案について

- (6) 福島県立博物館運営協議会委員の任命について
- (7) 福島県自然の家条例の一部を改正する条例案について
- (8) 福島県立美術館条例の一部を改正する条例案について
- (9) 福島県立博物館条例の一部を改正する条例案について
- (10) 福島県教育関係職員定数条例等の一部を改正する条例案について
- (11) 福島県義務教育諸学校等の教育職員の給与等の特別措置に関する条例の一部を改正する条例案について
- (12) 福島県市町村立学校職員の降給に関する条例案について
- (13) 福島県いじめ問題対策委員会条例案について
- (14) 福島県市町村立学校教員の懲戒処分について
- (15) 福島県市町村立学校事務職員の懲戒処分について

○ 報告事項

- (1) 平成27年度福島県市町村立学校教職員の勤務評定について
- (2) 平成27年度福島県立学校教職員の勤務評定について
- (3) 訓告処分等について

○ 協議事項

- (1) 平成28年度人事異動（教員系）について

2月臨時会（平28.2.26）

○ 審議事項

- (1) 教育長臨時代理による処理の承認について（福島県市町村立学校職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例について）
- (2) 教育長臨時代理による処理の承認について（福島県教育委員会教育長の給与、勤務時間等に関する条例を廃止する条例の一部を改正する条例について）
- (3) 技能労務職員の給与及び勤務時間等に関する規則の一部を改正する規則について
- (4) 指導不適切教諭等に対する措置について
- (5) 平成28年度教育庁及び教育機関の主要職員（教員系）の人事について
- (6) 平成28年度市町村公立小・中・特別支援学校長の人事について
- (7) 平成28年度市町村公立小・中・特別支援学校教頭の人事について
- (8) 平成28年度県立学校長の人事について
- (9) 平成28年度県立学校教頭の人事について

3月定例会（平28.3.22）

○ 審議事項

- (1) 福島県市町村立学校教員の懲戒処分について
- (2) 福島県公立学校教員の懲戒処分について
- (3) 福島県公立学校教員の懲戒処分について
- (4) 第6次福島県総合教育計画における指標の変更について
- (5) 第6次福島県総合教育計画「平成28年度アクションプラン」について

- (6) 福島県指定重要有形民俗文化財の指定について
- (7) 福島県指定重要無形民俗文化財の指定について
- (8) 福島県指定天然記念物の指定について
- (9) 福島県教育庁組織規則の一部を改正する規則について
- (10) 福島県教育委員会が保有する公文書の開示等に関する規則の一部を改正する規則について
- (11) 福島県教育委員会が取り扱う個人情報の保護に関する規則の一部を改正する規則について
- (12) 福島県教育委員会行政不服審査法施行細則について
- (13) 福島県立高等学校の授業料の免除等に関する規則の一部を改正する規則について
- (14) 福島県立会津学鳳中学校の入学検定料の免除に関する規則の一部を改正する規則について
- (15) 技能労務職員の給与及び勤務時間等に関する規則等の一部を改正する規則について
- (16) 市町村立学校職員の給料等の決定の基準に関する規則の一部を改正する規則について
- (17) 教育職員の免許状に関する規則の一部を改正する規則について
- (18) 福島県市町村立学校職員の標準的な職及び標準職務遂行能力を定める規則について
- (19) 福島県市町村立学校職員の人事評価に関する規則について
- (20) 福島県立学校職員の勤務成績の評定に関する規則を廃止する規則について
- (21) 福島県教育関係職員倫理規則の一部を改正する規則について
- (22) 福島県立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について
- (23) 福島県立美術館長の委嘱について
- (24) 平成27年度教育・文化関係表彰について
- (25) 平成29年度使用教科用図書選定審議会委員の任命について
- (26) 平成28年度教育庁及び教育機関の職員の人事について
- (27) 平成28年度市町村公立小・中・特別支援学校教職員の人事について
- (28) 平成28年度県立学校教職員の人事について

○ 報告事項

- (1) 平成29年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験実施に係る改善点について
- (2) 教職員等による不適切な行為に関する実態調査について
- (3) 訓告処分等について

第2節 教育庁組織

理事兼政策監 笠原 裕二
 教育次長（業務） 菅野 誠
 教育庁参事（人事・企画） 佐久間 弘元

課室名	職名	課長等名
教育総務課	課長 庁主幹兼副課長 庁企画主幹兼副課長	大類 由紀子 三浦 爾 佐藤 秀美
財務課	課長 主幹兼副課長	高木 正弘 松本 勉
施設財産室	室長 主幹	坂内 健二 伊東 誠
職員課	課長 主幹兼副課長 主幹	山田 英一 吉田 強栄 佐藤 等
福利課	課長 主幹兼副課長	須藤 幹子 大槻 善行
社会教育課	課長 主幹兼副課長 主幹	佐川 正人 秋山 和則 鈴木 基之
文化財課	課長 主幹（兼）副課長 副課長兼専門文化財主査	津田 正美 芳賀 友則 佐藤 耕三
義務教育課	庁参事（兼）課長 主幹兼副課長 主幹 主幹	飯村 新市 東間 孝文 歌川 哲由 渡辺 惣吾
高校教育課	課長 主幹兼副課長 主幹 主幹	大沼 博文 斎藤 理恵 加藤 知道 佐藤 秀美
特別支援教育課	課長 主幹兼副課長	上妻 弘 小檜山 宗浩
健康教育課	課長 主幹兼副課長 主幹 主幹（全国高校総体担当）	塩田 正信 眞壁 勝 佐藤 文男 鈴木 義祐

南会津	所長 伊藤 隆幸 次長（総） 佐々木孝一 次長（業） 馬場 俊忠	総務社会教育（兼） 佐々木孝一 学校教育（兼） 馬場 俊忠
相双	所長 木村 政文 次長（総） 芳賀 宏政 次長（業） 午來 勝頭	総務社会教育（兼） 芳賀 忠政 学校教育（兼） 午來 勝頭
いわき	所長 菊池 篤志 次長（総） 佐藤 光洋 次長（業） 伊達多津也	総務社会教育（兼） 佐藤 光洋 学校教育（兼） 伊達多津也

所管教育機関等

教育機関名	所館長名	次長等名
福島県教育センター	渡辺 昇	次長（総務） 鈴木 芳夫 総務管理部長（兼） 鈴木 芳夫 研究・研修部長 鈴木 睦治
福島県養護教育センター	片寄 一	主幹兼事務長 鈴木 純 企画事業部長 橋本 淳一
福島県立図書館	玉井 章	副館長 石幡 敦
福島県立美術館	早川 博明	副館長 佐藤 泰彦
福島県立博物館	赤坂 憲雄	副館長 矢吹幸一郎
郡山自然の家	秦 公男	主幹（兼）次長 山口 祥則
会津自然の家	永瀬 功一	次長 佐藤 広威

教育事務所

教育事務所	所長・次長名	課長名
県北	所長 有賀 仁一 次長（総） 糸 圭次 次長（業） 佐々木義通	総務社会教育（兼） 糸 圭次 学校教育（兼） 佐々木義通
県中	所長 水野 達雄 次長（総） 石井 一志 次長（業） 御代田進一	総務社会教育（兼） 石井 一志 学校教育（兼） 御代田進一
県南	所長 佐藤 晃 次長（総） 鎌田 忠夫 次長（業） 佐久間芳雄	総務社会教育（兼） 鎌田 忠夫 学校教育（兼） 佐久間芳雄
会津	所長 星 克一 次長（総） 小檜山滋人 次長（業） 菊地 裕二	総務社会教育（兼） 小檜山滋人 学校教育（兼） 菊地 裕二

第3節 企画調整

1 教職員現職教育計画の策定

(1) 福島県公立学校教職員現職教育計画

教職員現職教育担当者会議を開催し、平成28年度の教職員研修計画及び研究学校(地区)指定計画について、策定に関する協議や関係課・所間の調整を行い、「福島県公立学校教職員現職教育計画」を策定した。

(2) 策定計画

回	開催期日	会議の場所	議事及び協議の概要
第1回	27.6.3	自治会館 303 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ○平成28年度教職員現職教育計画作成日程について ○平成28年度教職員現職教育計画策定に向けた全体及び各課・所の検討事項について ○平成28年度教職員現職教育計画作成方針を踏まえ、関係課・所において、予算化等を見通した研修の改善及び新設、変更、廃止の案の検討について
第2回	27.8.28	西庁舎9階 教育委員室	<ul style="list-style-type: none"> ○第1回会議の確認事項について ○各課・所における予算化等を見通した具体的計画案について ○平成28年度教職員現職教育計画修正案作成の関係課・所への依頼について

(3) 構成員

教育総務課

企画主幹兼副課長、主任主査

社会教育課

主幹、主任社会教育主事、社会教育主事兼指導主事

義務教育課

課長、主幹、主任管理主事、主任指導主事、管理主事、指導主事

健康教育課

主幹、主任指導主事、主任栄養技師、指導主事

特別支援教育課

主幹兼副課長、主任指導主事、管理主事、指導主事

高校教育課

課長、主幹、主任管理主事、主任指導主事、管理主事、指導主事

教育センター

研究・研修部長、主任指導主事、指導主事

養護教育センター

企画事業部長、主任指導主事

2 調整事務

(1) 教育庁内企画・調整事務

- ア 総合教育計画に関する連絡調整
- イ 県教委重点施策に関する連絡調整
- ウ 県教委点検・評価に関する連絡調整
- エ 県重点事業に関する連絡調整
- オ 県重点施策評価に関する連絡調整
- カ 政府予算対策に関する連絡調整
- キ 双葉地区教育構想推進事業に関する連絡調整

(2) 知事部局との調整事務

- ア 総務部
 - 行財政改革推進本部
- イ 危機管理部
 - 風評・風化対策プロジェクトチーム
 - 公立大学法人関係庁内連絡会議
 - 安全で安心な県づくり推進庁内連絡会議
 - 総合教育会議
- ウ 企画調整部
 - 県総合計画・復興計画関係、施策評価関係、県重点事業関係、政府予算対策活動関係、過疎・中山間地域経営戦略本部会議、エネルギー政策検討会、電子社会推進本部会議、政策調整会議、避難地域復興推進会議、新生ふくしま復興推進本部会議、地産地消推進会議、地域創生・人口減少対策本部会議、原子力損害対策協議会、復興対策推進プロジェクトチーム、渇水対策連絡会議、東京オリンピック・パラリンピック関連事業推進本部会議
- エ 生活環境部
 - ユニバーサルデザイン推進本部会議、青少年健全育成推進本部、環境影響評価庁内連絡会議、循環型社会形成庁内推進会議、景観形成推進庁内連絡会議、特定外来生物対応庁内連絡会議、野生鳥獣被害対策庁内連絡会議、男女共同参画推進本部会議、環境・エネルギー施策推進庁内連絡会議、ふくしま地球温暖化対策推進本部会議、除染・廃棄物対策推進会議
- オ 保健福祉部
 - 子育て支援推進本部会議、高齢社会対策推進本部会議
 - 青少年育成推進本部幹事会議
- カ 商工労働部
 - 緊急経済・雇用対策本部会議、企業誘致・立地企業振興対策本部会議、商業まちづくり推進調整会議
- キ 農林水産部
 - ふくしま県産木材利用推進会議、ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動
- ク 警察本部
 - 福島県被害者等支援連絡協議会

第4節 広報・広聴

1 教育委員会だより

(1) 編集方針

教育庁の新陣容や教育行政の諸領域の中から広報を要する事項及び教職員に周知させる必要のあるものを掲載し、教育委員会施策の徹底を図る。

(2) 内容

県教育委員会重点施策、県教育委員会所管予算、県教育庁組織改編の概要、県教育委員名簿・県教育庁新陣容、県教育庁の組織及び電話番号一覧

(3) 規格・部数

- ア 規格 A4判 4ページ
- イ 部数 4,000部

(4) 配布対象

市町村教育委員会、県内公立学校、私立団体連合会、各教育関係機関、北海道・東北各県教育委員会等

(5) 発行時期

4月に発行

2 教育年報

(1) 編集方針

平成26年度の県教育行政の成果を記録し、将来に残る公的記録として保存する。

(2) 内容

平成26年度の本県教育行政の実績

(3) 規格・部数

- ア 規格 A4判 321ページ
- イ 部数 150部

(4) 配布対象

市町村教育委員会、各教育関係機関

3 福島県の教育

(1) 編集方針

本県教育の実績と教育行政の要点を図式化して掲載し、教育庁への来訪者等に配布し、本県教育に対する理解を図る。

(2) 内容

本県教育の実情及び教育行政の要点

(3) 規格・部数

- ア 規格 A4判 8ページ カラー
- イ 部数 1,000部

(4) 配布対象

教育機関への来訪者、市町村教育委員会、県内公立学校、各教育関係機関、各都道府県教育委員会等

4 ふくしま教育ニュース

(1) 編集方針

県教育委員会の教育行政施策、実績等を県民、特に保護者を対象として伝えることにより、本県教育に対する理解を図る。6月・10月の年2回発行した。

(2) 内容

ア 第44号（6月発行）

ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト
新校舎完成報告

ふたば未来学園高等学校・いわき養護学校くぼた校
子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業

第三次福島県子ども読書活動推進計画

ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業

子どもたちの夢を探し、夢の実現を応援します
博物館・自然の家・美術館利用案内

夏休みの主なコンテスト等

奨学生・各種相談窓口の案内

イ 第45号（10月発行）

子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業

「県庁にみんなの声を届けよう！」プロジェクト

「2015夏 全国の頂点に立った生徒たち」

「生き抜く力」を育む 福島県の防災教育

「ふくしま教育週間」

博物館・美術館利用案内

転入学・入学者選抜に関する情報

ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業

相談窓口の案内

(3) 規格・部数

- ア 規格 A4判 4ページ カラー
- イ 部数 各号 263,000部

(4) 配布対象

県内公立学校の全保護者、県外に避難している児童生徒の保護者、私立幼稚園及び小・中・高等学校、市町村教育委員会、各教育関係機関等

5 教育庁各課・所・館の広報誌・紙

課・所・館名	広報誌・紙名	内 容	発行回数	判	ページ	発行部数	配 布 対 象
教育総務課	福島県の教育	本県教育の実情及び教育行政の要点を図式化して表示	1	A 4	8	1,000	教育機関への来訪者、教育関係機関等
	教育委員会だより	県教育長あいさつ、教育施策及び予算、県教育委員名簿、県教育庁新陣容、組織及び電話番号	1	A 4	4	4,000	県内公立学校、私学団体連合会、教育関係機関等
	教育年報	前年度の県教育行政の実績	1	A 4	319	150	市町村教委、教育関係機関等
	ふくしま教育ニュース	県教育委員会の教育行政施策、実績、事業のお知らせ等	2	A 4	4	各263,000	県内公立学校の全保護者・教職員、教育関係機関等
福利課	ふくしまり福利だより	教職員の福利・厚生事業の紹介等	4	A 4	20 (6月) 16 (9月) 12 (12月、3月)	20,500	全教職員
社会教育課	社会教育	社会教育に関する情報、活動状況の取りまとめ	1	A 4	12	—	webに掲載
健康教育課	29南東北インターハイNEWS	インターハイ関連広報	4	A 4	3~4	—	webに6回掲載
教育センター	要 覧	教育センターについての沿革、設置の趣旨、組織、予算、事業内容を掲載	1	A 4	20	200	学校、関係機関
	所報ふくしま「窓」	教育関係者の提言や県内教員の教育研究等についての紹介及び教育センターからの案内	2	A 4	8	—	webに掲載
	研究紀要	研究の成果をとりまとめて刊行し、本県学校教育の向上に資する。	1	A 4	80	850	学校、関係機関
	長期研究員個人研究報告書	長期研究員の個人研究の成果をとりまとめた報告書	1	A 4	70	140	関係機関
養護教育センター	リーフレット	事業内容・研修講座名等	1	A 5	4	100	来所者、webに掲載
	所報特別支援教育	センターの取組や国内外の教育動向等	1	A 4	16	200	関係機関
	要 覧	沿革、事業体系、事業概要、施設・設備	1	A 4	16	20	関係機関
	研究紀要	調査研究・教育研究及び授業研究支援の成果報告	1	A 4	70	80	関係機関 webに掲載

課・所 ・館名	広報誌・紙名	内 容	発行 回数	判	ページ	発行部数	配 付 対 象
図 書 館	館 報 あ づ ま	図書館業務の広報	1	A 4	6	1,000	図書館・関係機関
	福島県立図書館要覧	県立図書館の概況	1	A 4	22	—	web に掲載
美 術 館	美術館ニュース ART INFORMATION	企画展・普及事業等の案内	6	A 4 三折		各11,000	関係機関、来館者等
	ミュージアム カレンダー	年間事業紹介	1	B 5		35,000	〃
博 物 館	県立博物館年報	前年度の事業実績	1	A 4	85	400	関係機関
	月行事予定表	月行事予定	12	A 4	1	各1,400	〃
	博物館だより	行事予定、企画展案内、講演要旨等	4	A 4	8	各3,500	学校、関係機関
	はくぶつかん ニュース	月毎の博物館行事予定及び博物館にかかわるニュース	12	A 4	2	各12,600	〃
	企画展ポスター・ リーフレット	企画展 2 回分・特別展 1 回分紹介	3	ポスター-B2 リーフレット A4		8,500 120,000	学校、関係機関 関係機関、来館者など
	年間催し物案内	主催行事などの紹介	1	200×394 四折		45,000	関係機関、来館者など
自 然 の 家	利 用 案 内 (いわき)	施設概要、利用方法等	1	A 4	28	1,000	関係機関
	し お ね (いわき)	企画事業内容、実施期日、対象等	1	A 4	8	10,000	関係機関
	リーフレット (いわき)	施設概要、全体図等	3	A 3	1	6,000	関係機関
	企画事業案内 (郡 山)	企画事業内容、実施期日、対象等	1	A 4	1	—	w e b に掲載
	会津自然の家だより (会 津)	企画事業内容、実施期日、対象等	1	A 4	2	—	w e b に掲載
文セ白 化ン河 財タ館 	年 報	沿革、事業の概要、入館者統計、予算等	1	A 4	28	500	関係機関
	まほろん通信	イベントの内容、体験学習の案内等	4	A 4	4	各4,000	関係機関、利用者等
	研 究 紀 要	学芸員の調査、研究成果の報告	1	A 4	72	500	関係機関

6 教育長記者会見

(1) 平成28年度福島県公立学校教職員及び教育庁職員
人事異動について

ア 日時 平成28年3月24日(木) 10:30～

イ 場所 教育委員室

佐藤 有史 (県教育委員会委員)
浅川 なおみ (県教育委員会委員)
杉 昭重 (県教育委員会教育長)
笠原 裕二 (理事兼政策監)
菅野 誠 (教育次長)
笠原 裕二 (教育庁参事)
大類由紀子 (教育総務課長)
飯村 新市 (義務教育課長)
大沼 博文 (高校教育課長)
有賀 仁一 (県北教育事務所長)

(エ) 参加者 約300名

7 記者発表及び資料提供(投げ込み)件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
記者発表	-	3	1	-	-	1	-	2	-	-	1	1	9
資料提供	34	8	20	34	21	27	37	27	31	24	29	29	321

8 教育フォーラム

(1) 目的

県民各層との対話をとおして、多様化している県民の意向を積極的かつ多角的に把握し、県民と一体となった開かれた教育を推進するために実施した。

今年度は、スポーツと健康をテーマに開催し、「平成29年度南東北インターハイ」及び「2020年東京オリンピック・パラリンピック」開催への機運を高める。あわせて、本県ならではの運動能力の向上や食育等の取組を広く紹介する。

(2) テーマ

「スポーツがつなぐ 絆そして未来」

(3) 内容

ア 開催形態

意見発表・意見交換・独唱及び合唱披露
メッセージ発表

イ 会場

福島県立橋高等学校

ウ 開催日時

平成27年11月1日(日)

「ふくしま教育の日」13:00～15:40

エ 出席者

(ア) 意見発表者

水井ひらり 猪苗代町立猪苗代中学校3年
(富岡町立富岡第一中学校)
近内 樹 県立須賀川養護学校高等部3年

大竹美沙季 県立須賀川養護学校高等部2年

山下 潤 県立福島高等学校3年

半谷 静香 県立盲学校 理療科

長沼 美帆 郡山女子大学4年

(イ) 復興応援パフォーマンス

県立橋高等学校 ダンス部

県立福島高等学校 応援団・チアリーダー部

(ウ) 福島県教育委員会

高橋 金一 (県教育委員会委員長)

蜂須賀 禮子 (県教育委員会委員)

小野 栄重 (県教育委員会委員)

9 平成27年度「ふくしま教育の日」啓発推進事業

県民の教育に対する理解、関心を高め、学校教育、社会教育及び文化の充実、発展を期するため、平成15年3月にふくしま教育の日条例を制定し、ふくしま教育の日(11月1日)及びふくしま教育週間(11月1日～7日)を設けている。当該期間を含むその前後の期間において「教育の日」の趣旨にふさわしい取組が実施されるよう、市町村や関係機関に働きかけた。さらに、今年度は「ふくしま教育の日」に教育フォーラムを実施し、普及啓発を図った。

10 「県庁に みんなの声を 届けよう！」プロジェクト

子どもたちに県庁を見学する機会を提供することにより、職業や社会への理解を深めてもらう機会とした。

また、この取組を広報することにより、県民に対して復興をアピールする機会とするため、子どもたちに福島県の復興のためにできることを話し合ってもらい、その考えや意見を知事に届ける活動を行うことで、復興に向けた県の取組を理解してもらうとともに、子どもたちを勇気づけ、生きる力を涵養することも目的とした。

(1) 日時 平成27年8月7日(金) 9:00～14:30

(2) 参観者 小学生とその保護者など計34人

(3) 内容 ア 県庁見学(知事室・河川流域総合情報システム室・通信司令室)

イ 教育庁見学

ウ 教育委員との懇談

第5節 調査統計

平成27年度において実施した調査統計事業は、次のとおりである。

1 学校統計要覧

平成27年5月1日現在で調査した「学校基本調査」（指定統計13号）の調査結果及び県独自に実施している進路状況等に関する調査結果に基づき、学校数、児童生徒数、教職員等の基本的事項や県内の中学生・高校生の進路状況等を収録した「学校統計要覧」を作成し、県教委ホームページで公開した。

2 地方教育費調査（一般統計）

この調査は、平成26会計年度において、学校教育、社会教育、生涯学習関連及び教育行政における県及び市町村（教育事務組合を含む。）から支出された経費並びに授業料等の収入の実態及び地方教育行政機関の組織等の状況を明らかにし、教育諸施策を検討・立案するための基礎資料を得ることを目的として文部科学省が実施したものである。

3 社会教育調査（基幹統計）

この調査は、社会教育行政に必要な社会教育に関する基本的事項を明らかにすることを目的として、文部科学省が実施したものである。

4 進路状況等に関する調査

この調査は、中学校・高等学校生徒の進路希望及び卒業後の状況を調査し、進路指導及び高等学校の適正配置計画並びに課程・学科等の整備計画の基礎資料を得ることを目的とした県単独調査である。

第6節 教職員の給与

平成27年度の教職員の給与改定については、平成27年10月6日の県人事委員会給与勧告に基づき、給料月額及び諸手当について、平成28年2月県議会において、給与条例等の一部改正が提案され、議決・公布された。その概要は、次のとおりである。

1 給料関係

(1) 給料月額（平成27年4月1日適用）

全ての給料表において、若年層に重点を置いて給料月額が引き上げられた。

(2) 給料の調整額（平成27年4月1日適用）

給料月額の改定に伴い、一部の調整基本額が改められた。

(3) 昇格時号給対応表（平成27年4月1日適用）

給料表の改定に伴い、昇格時号給対応表の一部が改められた。

(4) 等級別基準職務表（平成28年4月1日施行）

地方公務員法の改正に伴い、職務の級の分類の基準となる等級別基準職務表が定められた。

(5) 降格時号給対応表（平成28年4月1日施行）

職員が降格した場合の号給を定める降格時号給対応表が定められた。

(6) 降号（平成28年4月1日施行）

職員を降号させる場合の号給が定められた。

2 通勤手当（平成28年4月1日適用）

自動車等交通用具使用者の手当額が次のとおり改められたこと。

片道の 自動車等の 使用距離	手当額	
	自動車	自動車以外の原動機付きの交通用具
2 km以上 4 km未満	2,400 円	2,000 円
4 km以上 6 km未満	3,600 円	2,000 円
6 km以上 8 km未満	4,700 円	2,400 円
8 km以上 10 km未満	5,900 円	3,000 円
10 km以上 12 km未満	7,100 円	3,600 円
12 km以上 14 km未満	8,300 円	4,200 円
14 km以上 16 km未満	9,500 円	4,800 円
16 km以上 18 km未満	10,700 円	5,400 円
18 km以上 20 km未満	11,900 円	6,000 円
20 km以上 22 km未満	13,100 円	6,600 円
22 km以上 24 km未満	14,300 円	7,200 円
24 km以上 26 km未満	15,500 円	7,800 円
26 km以上 28 km未満	16,600 円	8,300 円
28 km以上 30 km未満	17,800 円	8,900 円
30 km以上 32 km未満	19,000 円	9,500 円
32 km以上 34 km未満	20,200 円	10,100 円
34 km以上 36 km未満	21,400 円	10,700 円
36 km以上 38 km未満	22,600 円	11,300 円
38 km以上 40 km未満	23,800 円	11,900 円
40 km以上 45 km未満	26,400 円	13,200 円
45 km以上 50 km未満	29,000 円	14,500 円
50 km以上 55 km未満	31,500 円	15,800 円
55 km以上 60 km未満	33,800 円	16,900 円
60 km以上 65 km未満	35,500 円	17,800 円
65 km以上 70 km未満	38,300 円	19,200 円
70 km以上 75 km未満	41,000 円	20,500 円
75 km以上 80 km未満	43,700 円	21,900 円
80 km以上	46,500 円	23,300 円

3 単身赴任手当（平成28年4月1日適用）

基礎額が 26,000 円から 30,000 円に改められ、距離に応じた加算額の限度額が 58,000 円から 70,000 円に改められたこと。

4 地域手当（平成28年4月1日適用）

支給地域等の見直し及び支給割合の引き上げがされたこと。

5 期末・勤勉手当（平成27年12月1日適用）

支給割合が次のとおり改められたこと。

◎一般職員

	区分	6月期	12月期	年間支給割合	
改正前	期末手当	1.225ヶ月	1.325ヶ月	2.55ヶ月	計
	勤勉手当	0.75ヶ月	0.75ヶ月	1.50ヶ月	4.05ヶ月
改正後 (27年度)	期末手当	1.225ヶ月	1.325ヶ月	2.55ヶ月	計
	勤勉手当	0.75ヶ月	0.85ヶ月	1.60ヶ月	4.15ヶ月
(28年度)	期末手当	1.225ヶ月	1.325ヶ月	2.55ヶ月	計
	勤勉手当	0.8ヶ月	0.8ヶ月	1.60ヶ月	4.15ヶ月

◎特定幹部職員

	区分	6月期	12月期	年間支給割合	
改正前	期末手当	1.025ヶ月	1.125ヶ月	2.15ヶ月	計
	勤勉手当	0.95ヶ月	0.95ヶ月	1.90ヶ月	4.05ヶ月
改正後 (27年度)	期末手当	1.025ヶ月	1.125ヶ月	2.15ヶ月	計
	勤勉手当	0.95ヶ月	1.05ヶ月	2.0ヶ月	4.15ヶ月
(28年度)	期末手当	1.025ヶ月	1.125ヶ月	2.15ヶ月	計
	勤勉手当	1.0ヶ月	1.0ヶ月	2.0ヶ月	4.15ヶ月

6 へき地手当（平成28年4月1日適用）

平成27年5月1日現在の状況に基づき、支給公署が見直されたこと。

なお、支給公署の見直しにより手当が支給されないこととなる職員については、当該学校に在籍している間、経過措置が適用されること。

第7節 附属機関等

1 福島県学校教育審議会

根拠法令

福島県学校教育審議会条例（昭和41年福島県条例第42号）

目的

- ・教育委員会の諮問に応じ、学校教育の振興についての総合計画に関する事項及び学校教育についての基本的な重要施策に関する事項について調査審議する。
- ・学校教育に関する事項について、必要があると認めるときは、教育委員会に対し、意見を申し出る。

(1) 審議・経過

東日本大震災及び原子力発電所事故の影響により、県内の状況がいまだ流動的であることから、県立高等学校の改革について依然として議論できる状況にないと判断し、平成23年度・24年度及び25年度に引き続き開催しなかった。

なお、委員は平成24年3月18日に前委員の任期が満了して以降、欠員となっている。

2 福島県社会教育委員の会議

根拠法令

社会教育法（昭和24年法律第207号）第15条並びに福島県社会教育委員の委嘱の基準、定数及び任期に関する条例（昭和24年福島県条例第56条）

目的

社会教育に関する諸計画を立案するとともに教育委員会の諮問に応じ、意見を述べたり必要な研究調査を行ったりし、社会教育に関して教育長を経て教育委員会に助言する。

(1) 福島県社会教育委員

任期 平成26年6月20日～平成28年6月19日

区分	氏名	役職名	備考
学校教育関係者	二谷京子	伊達市立桂沢小学校長	新任
	深谷哲三	会津若松市立第三中学校長	新任
	高野成一	福島県立福島北高等学校長	新任
社会教育関係団体の関係者	双石正義	福島県公民館連絡協議会会長	副議長・新任
	羽田利秋	福島県市町村社会教育委員連絡協議会副会長	新任
	渡辺直也	福島県連合青年会会長	
	梅津司	福島県PTA連合会副会長	新任
	小林清美	福島県婦人団体連合会会長	
	新井田萬壽子	福島県子ども会育成会連合会会長	
	今泉秀記	福島県商工会連合会専務理事	新任
	遠野馨	特別非営利活動法人うつくしまNPOネットワーク	
家庭教育関係者	星尚子	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会理事	
学識関係者	五十嵐敦	福島大学総合教育研究センター教授	
	中田スウラ	福島大学人間発達文化学類教授	議長
公募	佐藤房枝	会津坂下町八幡コミュニティセンター事務局長	
	佐藤晴美	主婦	

(2) 定例会の開催

ア 第1回定例会

- (ア) 日時 平成27年7月28日(火)
 (イ) 場所 県庁西庁舎9階 教育委員会
 (ウ) 内容
 a 報告事項
 平成27年度社会教育に関する主要施策・事業の概要について
 b 審議事項
 本県における社会教育推進のあり方について

イ 第2回定例会

- (ア) 日時 平成28年2月12日(金)
 (イ) 場所 自治会館
 (ウ) 内容
 a 報告事項
 平成27年度社会教育関係事業報告について
 平成28年度社会教育関係主要施策・事業(案)について
 b 審議事項
 本県における社会教育推進のあり方について

3 福島県文化財保護審議会

(1) 福島県文化財保護審議会委員

任期 平成27年4月1日~平成29年3月31日

氏名	所属等	担当分野	備考
阿部 俊夫	郡山女子大学短期大学部講師	古文書、歴史資料	
泉 武夫	東北大学大学院教授	絵画	
伊藤 喜良	福島大学名誉教授・歴史学研究会・東北史学会	古文書(中世)・書跡・典籍	会長
永広 昌之	東北大学総合博物館・東北大学名誉教授・日本地質学会・日本古生物学会	天然記念物(地質鉱物、古生物)	
荒木 志伸	山形大学基盤教育院准教授	史跡・考古資料・埋蔵文化財	
懸田 弘訓	会津大学非常勤講師・民俗芸能学会・福島県民俗学会・日本民俗音楽学会	有・無形民俗文化財	副会長
狩野 勝重	元日本大学教授・工学博士・日本建築学会	建造物・伝統的建造物群	
鈴木 俊行	(公財)福島県都市公園・緑化協会・樹木医学会・日本桜学会	天然記念物(植物)	
竹原 明秀	岩手大学教授・日本生態学会・植生学会・日本植物学会	天然記念物(植生)	
田辺 真弓	郡山女子大学短期大学部教授・服装美学会・国際服飾学会	工芸品・染織	
辻 秀人	東北学院大学教授・日本考古学協会	考古資料・史跡・埋蔵文化財	
塘 忠顕	福島大学教授・日本動物学会・日本昆虫学会	天然記念物(動物)	
藤井 英二郎	千葉大学大学院教授・日本庭園学会	史跡・名勝地(庭園)	
守谷 早苗	福島市史編纂室(嘱託員)	歴史資料	
若林 繁	東京家政大学教授・美術史学会	彫刻	

(2) 会議

ア 第1回審議会

- (ア) 期日 平成27年8月31日(月)
 (イ) 場所 福島県庁本庁舎3階 総務委員会室
 (ウ) 内容
 a 福島県指定文化財候補等の審議

イ 第2回審議会

- (ア) 期日 平成28年2月1日(月)
 (イ) 場所 福島県庁本庁舎3階 総務委員会室
 (ウ) 内容
 a 福島県指定文化財候補等の審議
 b 新たな県指定文化財の候補について

第8節 市町村教育委員会

1 概要

本県の市町村教育委員会数は、平成27年5月1日現在、13市46町村1組合の計60である。

県教育委員会は、市町村教育委員会連絡協議会、都市教育長協議会、町村教育長協議会等との密接な連絡、連携のもとに、教育行政の適正な事務の執行と管理に努めている。

2 組織

平成27年5月1日現在、県内各市町村教育委員会の委員長及び教育長は次のとおりである。

教育委員会名	教育委員長	教育長
県北(8)		
福島市	芳賀 裕	本間 稔
伊達郡川俣町	佐藤 捷善	神田 紀
伊達市	高野 保夫	湯田 健一
伊達郡桑折町	柴田 宣広	会田 智康
伊達郡国見町	高橋 幸子	岡崎 忠昭
二本松市	宮前 貢	小泉 裕明
安達郡大玉村	伊藤 忠和	佐藤 吉郎
本宮市	仲川 清	原瀬久美子
県中(12)		
郡山市	阿部 晃造	小野 義明
須賀川市	深谷 敬一	柳沼 直三
岩瀬郡鏡石町	塩田 重男	高原孝一郎
岩瀬郡天栄村	清水 栄一	増子 清一
石川郡石川町	中島 世一	田口 和憲
石川郡玉川村	近内 弘道	富岡ケイ子
石川郡平田村	上遠野泰基	吾妻 幹廣
石川郡浅川町	小室 孝行	内田 賢壽
石川郡古殿町	鈴木 茂	大樂 宣和
田村市	二瓶恵美子	助川 弘道
田村郡三春町	武地 優子	遠藤 真弘
田村郡小野町	大千里義市	西牧 裕司
県南(9)		
白河市	藤田 克彦	伊藤 渉
西白河郡西郷村	菊池千代子	加藤 征男
西白河郡中島村	水野谷剛夫	佐藤 正敏
西白河郡矢吹町	水戸 勘十	栗林 正樹
西白河郡泉崎村	山田 睦子	穂積 貞子
東白川郡棚倉町	鈴木 正男	松本 市郎
東白川郡塙町	瀬谷 八洲	藤田 充
東白川郡矢祭町	片野 宗和	古張 金一
東白川郡鮫川村	水野 春雄	奥貫 洋
会津(13)		
会津若松市	白井美津子	星 憲隆
耶麻郡磐梯町	物江 秀典	齋藤 就治
耶麻郡猪苗代町	岩橋 紀男	土屋 重憲

教育委員会名	教育委員長	教育長
喜多方市	関口 高志	芳賀 忠夫
耶麻郡北塩原村	阿部 好喜	鈴木 力雄
耶麻郡西会津町	五十嵐長孝	新井田 大
河沼郡会津坂下町	佐藤 千恵	佐藤 玄
河沼郡湯川村	風間いく子	星 三千男
河沼郡柳津町	二瓶 裕美	目黒健一郎
大沼郡会津美里町	弓田 修司	佐治 和則
大沼郡三島町	坂内 洋二	
大沼郡金山町	諏江 康幸	
大沼郡昭和村	本名 敬	本名 幸平
南会津(5)		
南会津郡南会津町	渡部 謙一	星 英雄
南会津郡下郷町	白石 光史	渡部 岩男
南会津郡檜枝岐村	星 賢二	平野 信之
南会津郡只見町	角田 行雄	齋藤 修一
南会津地方広域市町村圏組合	平野 信之	星 英雄
相双(12)		
相馬郡新地町	加藤 潤一	佐々木孝司
相馬市	宗形 明子	堀川 利夫
南相馬市	大石 力彌	阿部 貞康
相馬郡飯館村	佐藤 真弘	八巻 義徳
双葉郡浪江町	四條 賢清	畠山熙一郎
双葉郡葛尾村	東海林幸敏	猪狩 省造
双葉郡双葉町	岡村 隆夫	半谷 淳
双葉郡大熊町	嶋貫 光喜	武内 敏英
双葉郡富岡町	関本 征司	石井 賢一
双葉郡川内村	遠藤 眞一	秋元 正
双葉郡檜葉町	渡邊 司	矢内賢太郎
双葉郡広野町	根本 修行	浅野 一
いわき(1)		
いわき市	馬目 順一	吉田 尚

3 平成27年度市町村教育委員会援助指導の概要

県教育委員会は、市町村教育委員会教育長会議、新任教育委員研修会を開催して助言指導を行うとともに、教育行政関係の諸資料等を配布して県内市町村教育委員会への援助に努めた。

(1) 平成27年度福島県市町村教育委員会教育長会議

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期日 平成27年4月13日(月)
- ウ 会場 西庁舎12階 講堂
- エ 出席者 市町村教育委員会教育長 59名
- オ 内容

平成27年度教育庁各課(室)・所の重点施策の説明

(2) 平成27年度福島県市町村教育委員会新任教育委員研修会

- ア 主催 福島県市町村教育委員会連絡協議会

- 福島県教育委員会
- イ 期日
平成27年11月18日（水）
- ウ 会場
本庁舎5階 正庁
- エ 参加者
平成26年11月20日から平成27年9月30日の間に任命された委員及び、それ以前に就任し未参加の委員 26名
- オ 内容
- 講話
- ・演題 「教育委員に期待するもの」
 - ・講師 福島県教育委員会教育長 杉 昭重
- 講話
- ・演題 「教育委員会の運営はいかにあるべきか」
 - ・講師 福島県市町村教育委員会連絡協議会長 芳賀 裕
- 講義
- ・演題 「教育委員会の組織と運営について」
 - ・講師 福島県教育庁職員課管理主事 穂積 浩

第9節 職員団体との話合い

平成27年度における「福島県教職員組合」「福島県高等学校教職員組合」「福島県立高等学校教職員組合」「福島県学校事務労働組合」との話合いのうち、主なものは次のとおりである。

1 福島県教職員組合

- (1)平成27年4月23日
- ア 給与について
 - イ 新たな人事評価制度について
 - ウ 臨時的任用教職員の待遇及び勤務条件の改善について
 - エ 児童・生徒の安全・安心を確保した教育について
 - オ 震災に係る復興加配について
 - カ 教職員の休暇制度について
 - キ 多忙化解消、労働安全衛生体制の確立について
 - ク 教職員のメンタルヘルスケア対策について
 - ケ セクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメントの根絶について
 - コ 放射線対策について
 - サ 特別支援教育の充実について
 - シ 再任用制度について
- (2)平成27年11月12日
- ア 給料について
 - イ 臨時的任用教職員の処遇改善について
 - ウ 被災地の教職員住宅の確保について
 - エ 学校事務職員の共同・連携実施について
 - オ 子どもたちを守る安全対策について
 - カ 多忙化解消について
 - キ 職場内のハラスメント防止について
 - ク 休暇制度について
 - ケ 特別支援教育について
- (3)平成27年11月20日
- ア 給料の改定について

- イ 手当等について
- ウ 臨時的任用職員の年次有給休暇について
- エ 人事評価制度について
- オ 多忙化解消について

2 福島県高等学校教職員組合

- (1)平成27年4月24日
- ア 耐震改修工事について
 - イ ふたば未来学園高校及びサテライト校について
 - ウ 新たな県立高等学校再編計画について
 - エ 特別支援学校の教育環境整備について
 - オ 教員の加配措置について
 - カ 給与、諸手当について
 - キ 人事評価制度について
 - ク 高齢期雇用について
 - ケ 臨時的任用職員の処遇改善について
 - コ ICT環境の整備について
 - サ 教職員のメンタルヘルス対策について
 - シ 免許更新制について
 - ス 子育て休暇について
- (2)平成27年11月13日
- ア 給料について
 - イ 耐震改修工事について
 - ウ ふたば未来学園高校及びサテライト校について
 - エ 新たな県立高等学校再編計画について
 - オ 教員の加配措置について
 - カ 給与、諸手当について
 - キ 人事評価制度について
 - ク 高齢期雇用について
 - ケ 実習教員の生徒引率について
 - コ ICT環境の整備について
 - サ 教職員のメンタルヘルス対策について
 - シ 主権者教育の実施について
- (3)平成27年11月24日
- ア 給料の改定について
 - イ 手当等について
 - ウ 臨時的任用職員の年次有給休暇について
 - エ 人事評価制度について
 - オ 多忙化解消について
 - カ スクールカウンセラー配置について
 - キ 特別支援教育について
 - ク 実習教員の生徒引率について
 - ケ 仕事と子育て・介護の両立推進について

3 福島県立高等学校教職員組合

- (1)平成27年4月24日
- ア 賃金諸手当の改善について
 - イ 長時間過密労働の解消について
 - ウ 休日、休暇制度の拡充について
 - エ 人事異動について
 - オ 高齢期雇用について
 - カ 教育環境等の整備について
 - キ 採用について
 - ク 新しい人事評価制度について
- (2)平成27年11月13日

- ア 賃金諸手当の改善について
- イ 長時間過密労働の解消について
- ウ 休日、休暇制度の拡充について
- エ 人事異動について
- オ 高齢期雇用について
- カ 教育環境等の整備について
- キ 採用について
- ク 学校司書の配置について
- ケ 新しい人事評価制度について

(3)平成27年11月24日

- ア 給料の改定について
- イ 手当等について
- ウ 臨時的任用職員の年次有給休暇について
- エ 人事評価制度について
- オ 多忙化解消について
- カ 特別支援教育について
- キ 採用試験受験年齢の制限について
- ク 学校司書の研修について

4 福島県学校事務労働組合

(1)平成27年4月23日

- ア 給与について
- イ 新人事評価制度について
- ウ 再任用制度について
- エ 主任主査昇任について

- オ 学校事務の共同実施について
- カ 採用について
- キ 臨時的任用職員の任用について
- ク 労働安全衛生規定等について

(2)平成27年11月12日

- ア 給与について
- イ 主任主査昇任について
- ウ 55歳昇給停止について
- エ 永年勤続昇給加算について
- オ 人事評価制度について
- カ 学校事務職員の複数配置について
- キ 再任用短時間勤務について
- ク 学校事務の共同・連携実施について
- ケ 臨時的任用職員の任用について
- コ 旅費について

(3)平成27年11月20日

- ア 給料の改定について
- イ 手当等について
- ウ 臨時的任用職員の年次有給休暇について
- エ 人事評価制度について
- オ 多忙化解消について
- カ 55歳昇給停止について
- キ 学校事務共同連携実施について
- ク 旅費の配分について
- ケ マイナンバー制度について

第10節 不利益処分審査請求事件及び損害賠償請求事件

1 不利益処分審査請求事件

平成28年3月31日現在、県人事委員会に不利益処分審査請求事件として係属中のものはない。

2 損害賠償請求事件

平成28年3月31日現在、裁判所損害賠償等請求等事件として係属中のものは3件であり、その概要及び進行状況等は下表のとおりである。

請求事件名	請求年月日	請求の内容	請求者	備考
懲戒処分取消等請求事件	平26.4.4	平24.6.15付懲戒処分等についてその取消を請求	元県立高等学校 教員	係属中
安全な場所で教育を受ける権利の確認等請求事件	平26.8.29 平27.1.14	安全な場所で教育を受けることができる権利の確認等	県内住民 多数	係属中
損害賠償請求事件	平27.9.28	退学処分とされた事等に対する慰謝料等の請求	元県立高等学校 生徒	係属中

第11節 公益法人等の指導等並びに 公益信託の状況

1 公益法人等

平成28年3月31日現在、県教育委員会の所管に属する公益法人等は63法人である。

各法人から事業報告書・収支決算書、事業計画書、収支予算書等の提出を求めた。

法人ごとの内訳は下表のとおり。

法人種別	所管する 法人数	平成27年度に公益法人又は 一般法人に移行した法人数
公益財団法人	21	0
公益社団法人	1	0
一般財団法人	26	2
一般社団法人	4	2
特例民法法人	2	—
解散した法人	9	—
計	63	4

2 公益信託

平成28年3月31日現在、県教育委員会の所管に属する公益信託は3件である。

なお、平成27年度に引き受けを許可した公益信託はない。

第12節 表彰及び叙勲

平成27年度教育・文化関係表彰式は11月2日(月)福島県文化センター、平成28年2月5日(金)杉妻会館において、それぞれ厳粛のうちにも盛大に行われた。

また、文部科学大臣による地方教育行政功労者表彰式は10月6日(火)、また、教育者表彰式は12月1日(火)、文部科学省講堂において、それぞれ行われた。

1 教育・文化関係表彰

(1) 地方教育行政功労者(5名)

(前) 福島市教育委員会教育委員	村島 勤子
(前) 二本松市教育委員会教育委員	山崎 友子
(前) 泉崎村教育委員会委員長	本柳 功
(前) 会津若松市教育委員会教育長	星 憲隆
(前) 猪苗代町教育委員会委員長	岩橋 紀男

(2) 学校教育功労者(14名)

福島市立三河台小学校長	佐久間裕晴
福島市立福島第一中学校長	菅野 善昌
本宮市立本宮第一中学校長	青田 誠
石川町立石川小学校長	矢吹 伸一
平田村立蓬田中学校長	嶋原 由光
会津若松市立城北小学校長	田中 靖則
いわき市立平第一小学校長	沢 宏一
福島県立福島高等学校長	田代 公啓
福島県立福島明成高等学校長	横山 道夫
福島県立福島工業高等学校長	内田 貞俊
福島県立福島東高等学校長	本多 光弥
福島県立磐城高等学校長	箱崎 温夫
福島県立原町高等学校長	松岡 浩三
福島県立豊学校長	井戸川恵理子

(3) 社会教育関係

ア 社会教育功労者(4名)

郡山市婦人団体協議会会長	小林 清美
(前)白河市社会教育委員	鈴木きよ子
ボーイスカウト福島連盟副連盟長	工藤 信行
福島県婦人団体連合会常務理事	瀧本 チイ

イ 功績顕著な団体・施設(2団体・3施設)

〈社会教育団体〉

伊達市立五十沢小学校PTA

田村市立大越小学校父母と教師の会

〈社会教育施設〉

福島市松川学習センター

郡山市立高瀬地域公民館

南会津町図書館

(4) 文化財保護関係

ア 文化財保護功労者(2名)

(前)湯川村文化財保護審議委員会委員長 小野 留作
南相馬市文化財保護審議会長 二上 裕嗣

郡山市立西田中学校 教 諭 吉田 圭輔
平田村立蓬田中学校 教 諭 高田 秀人
会津若松市立第五中学校 教 諭 星 貴之
南会津町立南会津中学校 教 諭 馬場 仁子
檜枝岐村立檜枝岐中学校 主 査 馬場真由美
南相馬市立原町第一中学校 教 諭 阿部 和代
いわき市立川部中学校 教 諭 竹中亜木子
福島県立福島高等学校 教 諭 国分 聡
福島県立磐城高等学校 教 諭 中野 淳之
福島県立小高商業高等学校 教 諭 中島 裕
福島県立聾学校 教 諭 飯塚 和也
福島県立南会津高等学校 教 諭 猪股 俊伸

(5) 学校体育・学校保健関係

ア 学校保健功労者(4名)
(元)二本松市立二本松南小学校 学校医 桑島 利力
いわき市立草野中学校 学校歯科医 山崎 隆博
いわき市立入遠野小学校 学校薬剤師 阿部 正敏
福島県立須賀川養護学校 学校医 豊増 公一

(6) へき地教育関係

ア 功績顕著な団体(2団体)
磐梯町立磐梯第二小学校
下郷町立江川小学校

(7) 特別支援教育関係

ア 特別支援教育功労者(1名)
福島県立大笹生養護学校長 紺野登喜子

(8) 永年勤続関係

	小学校	中学校	県立学校	教育庁	計
校 長	27	20	10		57
教 頭	22	23	9		54
教 員	208	149	88		445
教員以外	2	3	6	20	31
計	259	195	113	20	587

(9) 特別功績者

- ア 児童・生徒(団体)の部(11団体)
○ いわき市立錦小学校吹奏楽部
○ 郡山市立郡山第二中学校管弦楽部
○ 郡山市立郡山第五中学校合唱部
○ いわき市立勿来第一中学校報道委員会
○ 郡山高等学校合唱部
○ 郡山商業高等学校珠算部
○ 会津高等学校合唱部
○ 磐城高等学校吹奏楽部
○ 若松商業高等学校簿記研究部
○ 磐城高等学校放送委員会
○ 富岡高等学校バドミントン部

イ 優秀教職員の部(21名)
福島市立鳥川小学校 教 諭 大橋 重光
川俣町立川俣小学校 教 諭 宍戸 宏
郡山市立芳山小学校 教 諭 成田 和邦
西郷村立羽太小学校 教 諭 鈴木 純子
会津若松市立日新小学校 教 諭 圖所 貞之
猪苗代町立緑小学校 教 諭 菅井 明人
会津坂下町立坂下東小学校 主 査 野邊久美子
南会津町立館岩小学校 教 諭 阿久津広恵
郡山市立郡山第五中学校 教 諭 柳沼 智恵

2 文部科学大臣表彰

(1) 地方教育行政功労者表彰(5名)

(前)郡山市教育委員会教育長 木村 孝雄
(前)昭和村教育委員会教育委員 羽染としの
西郷村教育委員会教育長 加藤 征男
磐梯町教育委員会教育委員長 齋藤 就治
双葉町教育委員会教育委員長 岡村 隆夫

(2) 教育者表彰(2名)

福島県立福島高等学校長 田代 公啓
福島県いわき市立平第一小学校長 沢 宏一

3 春・秋・高齢者叙勲、死亡叙位・叙勲

(1) 平成27年春の叙勲

ア 瑞宝小綬章
佐藤 忠夫(教育功労 元福島県立相馬高等学校長)
君島 整(教育功労 元福島県立橋高等学校長)
関根 敬次(教育功労 元福島県立福島工業高等学校長)
イ 瑞宝双光章
大森 俊輔(教育功労 元いわき市立平第一小学校長)
小井戸雅典(教育功労 元いわき市立平第三中学校長)
増井 健二(教育功労 元いわき市立湯本第一中学校長)
石岡 恒憲(教育功労 元桑折町立醸芳小学校長)

(2) 平成27年秋の叙勲

ア 瑞宝小綬章
小平 良男(教育功労 元福島県立磐城高等学校長)
廣瀬 渉(教育功労 元福島県立安積高等学校長)
イ 瑞宝双光章
佐藤 晃(教育功労 元会津若松市立謹教小学校長)
関根 直次(教育功労 元白河市立白河第三小学校長)
西牧 庸一(教育功労 元石川町立石川中学校長)
福島 俊男(教育功労 元白河市立白河中央中学校長)
松浦 芳孝(教育功労 元福島市立福島第三小学校長)
猪狩 征弘(教育功労 元いわき市立平第三小学校長)

(3) 高齢者叙勲(平成27年4月1日～平成28年3月1日発令)

ア 瑞宝小綬章(教育功劳)

大和田寅彌(元福島県立平工業高等学校校長)
鈴木 雄一(元福島県立長沼高等学校校長)
佐藤 富重(元福島県立勿来工業高等学校校長)
藤岡興八郎(元福島県立勿来高等学校校長)
大川原和助(元福島県立若松商業高等学校校長)
佐藤 重雄(元福島県立盲学校校長)

イ 瑞宝双光章(教育功劳)

道山 昭次(元鏡石町立第一小学校校長)
立川 光平(元喜多方市立熊倉小学校校長)
木村 昭雄(元いわき市立高坂小学校校長)
永山 親雄(元棚倉町立棚倉中学校校長)
馬場武二郎(元喜多方市立姥堂小学校校長)
江原 靖男(元矢祭町立矢祭中学校校長)
河内 三男(元いわき市立三和中学校校長)
高橋 秀彦(元東和町立木幡第二小学校校長)
鈴木 保男(元福島市立飯坂小学校校長)
近藤 ヤエ(元棚倉町立社川小学校校長)
佐藤 覚(元福島市立松川小学校校長)
猪井 廣文(元南相馬市立原町第二中学校校長)
國分 久榮(元猪苗代町立千里小学校校長)
下山 政一(元福島市立清水小学校校長)
三田 和夫(元岩代町立小浜小学校校長)
坂内 三郎(元河東町立河東第一小学校校長)
大崎萬太郎(元湯川村立勝常小学校校長)
井上 徹三(元郡山市立薫小学校校長)
雪下 仁(元金山町立本名小学校校長)
松本 道夫(元浪江町立浪江中学校校長)
石井喜美雄(元いわき市立小名浜第一小学校校長)
三田 行雄(元郡山市立熱海小学校校長)
松永 則暢(元田島町立荒海中学校校長)
永倉 彰郎(元東和町立下太田小学校校長)
八巻 誠(元靈山町立靈山中学校校長)
小林 隆夫(元古殿町立宮本小学校校長)
鈴木 輝雄(元郡山市立郡山第四中学校校長)
岡崎 英夫(元福島市立福島第三中学校校長)
江川 誠(元会津坂下町立若宮小学校校長)
矢橋 俊夫(元二本松市立二本松南小学校校長)
花澤 繫(元福島市立杉妻小学校校長)
馬場 昭(元下郷町立旭田小学校校長)
松井幸三郎(元泉崎村立泉崎第二小学校校長)
渡部 光裕(元猪苗代町立月輪小学校校長)
鈴木 一右(元郡山市立小原田小学校校長)
今井 安富(元福島市立大波小学校校長)

(4) 死亡叙位・叙勲

《平成27年度》

従五位 夏井 久悦
(元喜多方市立第三中学校校長)

正六位瑞宝双光章

正六位瑞宝双光章

従五位

正六位瑞宝双光章

従六位

正六位瑞宝双光章

正六位瑞宝双光章

従六位瑞宝双光章

正六位瑞宝双光章

従六位瑞宝双光章

正六位

従五位

正六位瑞宝双光章

従五位

正六位瑞宝双光章

正六位瑞宝双光章

従六位

従六位

正六位瑞宝双光章

正六位瑞宝双光章

従六位

正五位瑞宝小綬章

正六位瑞宝双光章

従五位

正七位

佐藤 一位

(元福島市立森合小学校校長)

青戸 可一

(元富岡町立富岡第二小学校校長)

小林 源重

(元福島県立岩瀬農業高等学校校長)

鈴木 邦意

(元喜多方市立上三宮小学校校長)

酒井 邦雄

(元福島市立立子山中学校校長)

木幡 保喜

(元南相馬郡鹿島町立鹿島中学校校長)

大山 三夫

(元小野町立小野中学校校長)

井上 祐悦

(元会津若松市立城西小学校校長)

小針 繁

(元いわき市立磐崎小学校校長)

関 博長

(元二本松市立安達中学校校長)

佐治 靖雄

(元会津高田町立尾岐小学校校長)

棚木 貢

(元会津坂下町立第一中学校校長)

武藤 信義

(元長沼町立長沼中学校校長)

大和田 寅彌

(元福島県立平工業高等学校校長)

佐藤 文一

(元会津高田町立高田小学校校長)

小平 兼嗣

(元会津坂下町立第一中学校校長)

福羽 天迫

(元福島県立原町高等学校校長)

深谷 喜三郎

(元須賀川市立第一中学校校長)

高橋 三郎

(元福島市立福島第四中学校校長)

束原 弘一

(元会津若松市立日新小学校校長)

熊田 晴彦

(元福島市立三河台小学校校長)

三瓶 清

(元福島県立喜多方工業高等学校校長)

渡部 匡延

(元会津坂下町立広瀬小学校校長)

鈴木 政之

(元いわき市立御厩小学校校長)

濱名 光晴

(元相馬市立中村第一小学校校長)

正六位	半沢 正 (元保原町立大田小学校校長)	正六位瑞宝双光章	渡邊 洋子 (元いわき市立錦東小学校校長)
従五位	厚海 國男 (元郡山市立日和田中学校校長)	従五位瑞宝小綬章	古川 雅弘 (元福島県立会津農林高等学校校長)
従五位	二瓶 義喜 (元会津若松市立鶴城小学校校長)	従五位	岩谷 敬恒 (元福島市立森合小学校校長)
正六位	河内 三男 (元郡山市立三和小学校校長)	正六位瑞宝双光章	高木 三郎 (元いわき市立好間第一小学校校長)
従六位瑞宝双光章	猪狩 佳久 (元いわき市立錦中学校校長)	正六位瑞宝双光章	渡邊 博 (元福島市立荒井小学校校長)
正六位瑞宝双光章	池上 喜宣 (元三春町立御木沢小学校校長)	正六位瑞宝双光章	田母神 貞次 (元郡山市立栃山神小学校校長)
従五位瑞宝双光章	小野 弘 (元福島市立平石小学校校長)	従五位瑞宝小綬章	内田 吉春 (元福島県立福島明成高等学校校長)
正六位	小針 孝定 (元玉川村立泉中学校校長)	正六位	佐藤 繁雄 (元浪江町立東中学校校長)
従六位	阿部 務 (元福島市立福島第三中学校校長)	従五位瑞宝小綬章	小柳津 滋 (元福島県立聾学校校長)
従五位	岡 清明 (元原町市立原町第三中学校)	正六位瑞宝双光章	七宮 成夫 (元二本松市立岳下小学校校長)
従五位	星 勇弥 (元福島県立会津農林高等学校校長)	正六位瑞宝双光章	黒羽 照男 (元川俣町立飯坂小学校校長)
正六位瑞宝双光章	高守 正憲 (元本宮町立岩根小学校校長)	正六位	中山 知美 (元南郷村立南郷第一小学校校長)
正六位	横山 茂男 (元喜多方市立第一中学校校長)	正六位	齋藤 良眞 (元福島市立福島第四小学校校長)
正六位	山内 兵衛 (元福島市立信陵中学校校長)	従五位	齋藤 重幸 (元福島県立郡山高等学校校長)
従六位瑞宝双光章	佐藤 彦一 (元原町市立大甕小学校校長)	従六位瑞宝双光章	古川 正博 (元原町市立原町第三小学校校長)
正六位	佐藤 晃暢 (元福島市立福島第二中学校校長)	正六位	齋藤 正 (元会津坂下町立第一中学校校長)
正六位	角田 新平 (元長沼町立長沼中学校校長)	正六位瑞宝双光章	渡部 正人 (元北塩原村立第一中学校校長)
従六位瑞宝双光章	湯田 康男 (元田島町立田島中学校校長)	従五位	長谷川 虎男 (元西会津町立野沢小学校校長)
従五位	緑川 武 (元中島村立中島中学校校長)	従五位	遊佐 恭平 (元福島県立福島中央高等学校校長)
従五位	横山 義秋 (元会津若松市立日新小学校校長)	従五位	宇田 良平 (元滝根町立滝根中学校校長)
正六位瑞宝双光章	遠藤 皓一 (元三春町立三春小学校校長)	正六位	山口 佐幸 (元会津高田町立高田小学校校長)
従六位	猪井 博文 (元原町市立原町第三中学校校長)	正六位	薄井 重光 (元いわき市立平第三中学校校長)
正六位	雪下 仁 (元金山町立本名小学校校長)	正六位	藁谷 俊雄 (元いわき市立江名中学校校長)
正六位瑞宝双光章	佐藤 輝雄 (元熱塩加納村立会北中学校校長)	正六位瑞宝双光章	横山 大太郎 (元会津若松市立第四中学校)
正六位瑞宝双光章	大和田 健一 (元双葉町立双葉南小学校校長)	正六位	近藤 ヤエ (元棚倉町立社川小学校校長)

従六位瑞宝双光章	池田 威信 (元福島市立平田小学校長)
正七位	出牛 千夫 (元郡山市立三和小学校長)
正六位	五十嵐 巖 (元山都町立山都第一小学校長)
正六位瑞宝双光章	若松 善男 (元いわき市立玉川中学校長)
正六位瑞宝双光章	荒 隆 (元飯野町立大久保小学校長)
従五位	三瓶 芳徳 (元福島市立福島第二中学校長)
従六位瑞宝双光章	長沼 源治 (元福島市立渡利中学校長)
正六位瑞宝双光章	西牧 宏 (元船引町立瀬川中学校長)
従五位瑞宝双光章	内藤 良夫 (元矢吹町立善郷小学校長)

第13節 奨学育英

1 福島県奨学資金

(1) 貸与金額

区 分	貸与月額		
高等学校	国公立	自宅	18,000円
		自宅外	23,000円
	私 立	自宅	30,000円
		自宅外	35,000円
高等専門学校	18,000円		
大 学	国公立	35,000円	
	私 立	40,000円	
入学一時金(H25～)	(一括貸与) 500,000円		

(2) 平成27年度の貸与状況

ア 募集期間

(イ) 在学採用

平成27年4月入学以降～6月30日

(ロ) 震災特例採用

平成27年5月1日～7月31日

イ 奨学生決定

(イ) 在学採用

平成27年8月12日

(ロ) 震災特例採用

平成27年9月18日

ウ 貸与状況

区 分	継続 貸与	新 規 貸 与		計
		応募者	貸与者	
高 等 学 校 (うち震災特例)	573人 (305人)	368人 (202人)	357人 (202人)	930人 (507人)
大 学 高等専門学校	232人	179人	120人	352人
大学等 入学一時金		93人	73人	73人
計	805人	640人	550人	1,355人

2 福島県高等学校定時制課程及び通信制課程 修学資金貸与制度

(1) 貸与月額

定時制課程

1～4学年 14,000円

通信制課程

1～4学年 14,000円

(2) 平成27年度の貸与状況

学 年 別	定時制	通信制	計
1 年 生	0人	0人	0人
2 年 生	0人	0人	0人
3 年 生	2人	0人	2人
4 年 生	2人	0人	2人
計	4人	0人	4人

第3章 教 育 財 政

第1節 平成27年度決算

1 歳入

一般会計

(単位：千円)

款	項	決 算 額	%
分 担 金 及 び 負 担 金		0	0.0
	負 担 金	0	0.0
使 用 料 及 び 手 数 料		3,501,192	6.5
	使 用 料	3,365,241	6.2
	手 数 料	135,951	0.3
国 庫 支 出 金		38,144,470	70.8
	国 庫 負 担 金	31,487,970	58.5
	国 庫 補 助 金	5,770,119	10.7
	委 託 金	886,381	1.6
財 産 収 入		230,505	0.4
	財 産 運 用 収 入	45,182	0.1
	財 産 売 払 収 入	185,323	0.3
寄 附 金		3,416	0.0
	寄 附 金	3,416	0.0
繰 入 金		2,227,442	4.1
	特 別 会 計 繰 入 金	85,500	0.1
	基 金 繰 入 金	2,141,942	4.0
諸 収 入		633,101	1.2
	預 金 利 子	1	0.0
	貸 付 金 元 利 収 入	40,370	0.1
	受 託 事 業 収 入	331,440	0.6
	収 益 事 業 収 入	66,883	0.1
	雑 入	194,407	0.4
県 債		9,147,500	17.0
	県 債	9,147,500	17.0
計		53,887,626	100.0

福島県奨学資金貸付金特別会計

(単位：千円)

款	項	決算額	%
国庫支出金		0	0.0
	国庫補助金	0	0.0
繰入金		310,056	48.1
	一般会計繰入金	310,056	48.1
繰越金		43,627	6.8
	繰越金	43,627	6.8
諸収入		290,084	45.0
	預金利子	7	0.0
	貸付金元利収入	288,669	44.8
	雑収入	1,408	0.2
財産収入		979	0.1
	財産運用収入	979	0.1
計		644,746	100.0

2 歳 出

(1) 県予算に占める教育費

(単位：千円)

区分	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
県 予 算	1,899,420,582	100.0	2,285,545,165	100.0	2,013,104,646	100.0
教 育 費	233,208,329	12.3	234,511,994	10.2	227,990,430	11.3
教育委員会所管分	201,753,407	10.6	204,130,850	8.9	197,898,773	9.8
知事部局所管分	31,454,922	1.7	30,381,144	1.3	30,091,657	1.5
教育委員会所管分総務費	0	0.0	729	0.0	729	0.0
教育委員会所管分災害復旧費	851,503	0.0	3,860,514	0.2	2,848,757	0.1

(最終予算額及び決算額には繰越分を含む)

(2) 教育委員会所管目的別予算及び決算状況

(単位：千円)

区 分 (款・項・目)			当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
総務	費		0	0.0	729	0.0	729	0.0
総務管理	費		0	0.0	729	0.0	729	0.0
諸費	費		0	0.0	729	0.0	729	0.0
教育	費		201,753,407	99.6	204,130,850	98.1	197,898,773	98.6
教育総務	費		24,865,657	12.4	22,586,970	10.9	22,024,898	11.0
教育委員会	費		13,338	0.0	13,225	0.0	13,117	0.0
教育事務局	費		4,286,985	2.1	4,326,761	2.1	4,298,293	2.1
財務管理	費		738,695	0.4	813,122	0.4	748,739	0.4
義務教育指導	費		721,154	0.4	661,088	0.3	633,144	0.3
教職員福利厚生	費		16,985,810	8.4	14,744,375	7.1	14,409,941	7.2
教育英	費		1,555,049	0.8	1,518,585	0.7	1,443,517	0.7
恩給及び退職年金	費		155,214	0.1	132,960	0.1	131,173	0.1
教育センター	費		398,930	0.2	366,372	0.2	336,798	0.2
養護教育センター	費		10,482	0.0	10,482	0.0	10,176	0.0
小学校	費		64,449,396	31.8	63,901,040	30.7	63,795,875	31.8
教職員	費		64,449,396	31.8	63,901,040	30.7	63,795,875	31.8
中学校	費		41,410,281	20.4	41,190,622	19.8	41,112,138	20.5
教職員	費		41,410,281	20.4	41,190,622	19.8	41,112,138	20.5
高等学校	費		52,235,083	25.8	55,952,360	26.9	50,787,479	25.3
教職員	費		36,748,110	18.1	36,977,504	17.8	36,919,172	18.4
高等学校指導	費		419,821	0.2	396,764	0.2	379,513	0.2
高等学校管理	費		13,310,127	6.6	15,257,491	7.3	11,673,403	5.8
施設等整備	費		1,204,536	0.6	1,357,522	0.6	1,141,096	0.6
農業高等学校実習	費		149,261	0.1	149,261	0.1	148,339	0.1
水産高等学校実習	費		229,928	0.1	210,385	0.1	209,436	0.1
24～27勿来工業高等学校校舎改築費			173,300	0.1	326,765	0.2	316,520	0.1
27～29実習船福島丸代船建造費			0	0.0	1,276,668	0.6	0	0.0
特別支援学校	費		14,799,997	7.3	14,643,570	7.0	14,477,729	7.2
特別支援学校	費		1,750,054	0.9	1,700,975	0.8	1,569,808	0.8
教職員	費		13,049,943	6.4	12,942,595	6.2	12,907,921	6.4
社会教育	費		3,158,757	1.5	2,802,982	1.3	2,749,728	1.3
社会教育総務	費		963,975	0.5	776,138	0.4	755,601	0.4
図書館	費		80,841	0.0	80,529	0.0	79,992	0.0
自然の家	費		304,520	0.1	310,027	0.1	305,042	0.1
文化振興	費		1,000	0.0	1,000	0.0	1,000	0.0
文化財保護	費		819,529	0.4	621,361	0.3	608,913	0.3
美術館	費		518,208	0.3	551,352	0.3	547,377	0.3
博物館	費		230,442	0.1	222,333	0.1	211,566	0.1
文化財センター	費		240,242	0.1	240,242	0.1	240,237	0.1
保健体育	費		834,236	0.4	3,053,306	1.5	2,950,926	1.5
保健体育総務	費		345,566	0.2	269,599	0.1	265,320	0.1
学校保健	費		327,292	0.1	2,629,395	1.3	2,541,572	1.3
体育振興	費		161,378	0.1	154,312	0.1	144,034	0.1
災害復旧	費		851,503	0.4	3,860,514	1.9	2,848,757	1.4
文教施設災害復旧	費		851,503	0.4	3,860,514	1.9	2,848,757	1.4
公立文教施設災害復旧	費		851,503	0.4	3,860,514	1.9	2,848,757	1.4
計			202,604,910	100.0	207,992,093	100.0	200,748,259	100.0

区 分 (款・項・目)	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
奨学資金貸付事業費	617,341	100.0	608,927	100.0	595,987	100.0
奨学資金貸付事業費	617,341	100.0	608,927	100.0	595,987	100.0
貸付金	604,618	97.9	511,362	84.0	498,706	83.7
償還金	300	0.1	49	0.0	49	0.0
事務費	12,422	2.0	12,016	2.0	11,732	2.0
一般会計繰出金	1	0.0	85,500	14.0	85,500	14.3
計	617,341	100.0	608,927	100.0	595,987	100.0

第2節 学校教育施設

1 県立学校

(1) 学校建設の概要

平成28年5月1日現在の県立学校の現況は、別表のとおりである。全体を構造的に見ると、鉄筋コンクリート造が74.0%、鉄骨その他造が24.2%と非木造建物が98.2%を占めており、木造建物が1.8%となった

別表 県立学校建物の現況

区 分	中学校		高等学校		盲・聾学校		特別支援学校		計		
	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	
	m ²	%	m ²	%	m ²	%	m ²	%	m ²	%	
校 舎	R	5,583	100.0	634,442	85.6	9,996	73.5	69,488	96.3	719,509	86.4
	S	0	0.0	91,564	12.4	1,621	11.9	2,187	3.0	95,372	11.5
	W	0	0.0	15,060	2.0	1,987	14.6	473	0.7	17,520	2.1
	計	5,583	100.0	741,066	100.0	13,604	100.0	72,148	100.0	832,401	100.0
体 育 館	R	1,297	100.0	24,131	13.8	0	0.0	4,919	64.9	30,347	16.3
	S	0	0.0	150,039	85.7	2,240	100.0	2,658	35.1	154,937	83.2
	W	0	0.0	937	0.5	0	0.0	0	0.0	937	0.5
	計	1,297	100.0	175,107	100.0	2,240	100.0	7,577	100.0	186,221	100.0
寄 宿 舎	R	0	0.0	11,304	98.6	2,433	93.9	2,231	100.0	15,968	98.0
	S	0	0.0	164	1.4	101	3.9	0	0.0	265	1.6
	W	0	0.0	0	0.0	57	2.2	0	0.0	57	0.3
	計	0	0.0	11,468	100.0	2,591	100.0	2,231	100.0	16,290	99.9
計	R	6,880	100.0	669,877	72.2	12,429	67.4	76,638	93.5	765,824	74.0
	S	0	0.0	241,767	26.1	3,962	21.5	4,845	5.9	250,574	24.2
	W	0	0.0	15,997	1.7	2,044	11.1	473	0.6	18,514	1.8
	計	6,880	100.0	927,641	100.0	18,435	100.0	81,956	100.0	1,034,912	100.0

R 鉄筋コンクリート造、 S 鉄骨その他造、 W 木造

※一部仮設校舎を使用している学校及び別敷地に仮設建物等を用いて学校を開設しているものについては除外している。

磐城農業、双葉、浪江、浪江津島校、富岡、双葉翔陽、ふたば未来学園、相馬農業飯館校、小高商業、小高工業、富岡養護

(2) 平成27年度事業実績

ア 高等学校一般施設整備事業

事 項	校数	学 校 名	事 業 費	財 源 内 訳		
				国 庫	その他	県 費
			千円	千円	千円	千円
大規模改造事業	21	福島、福島北、川俣、本宮、安積黎明、郡山東、郡山、湖南、修明、石川、田村、小野、葵、会津学鳳、会津工業、喜多方東、坂下、会津農林、磐城桜が丘、湯本、小名浜	2,942,870		387,709	2,555,161
合 計	21		2,942,870	0	387,709	2,555,161

イ 特別支援学校施設整備事業(一般施設)

事 項	校数	学 校 名	事 業 費	財 源 内 訳		
				国 庫	その他	県 費
			千円	千円	千円	千円
大規模改造事業	4	聾、石川養護、会津養護、猪苗代養護	227,589			227,589
合 計	4		227,589	0	0	227,589

2 幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校（市町村立分）

(1) 構造物保有面積

平成28年5月1日現在

区 分	小学校		中学校		小・中学校計		特別支援学校		幼稚園		
	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	
	m ²	%	m ²	%	m ²	%	m ²	%	m ²	%	
校舎	R	1,429,086	96	849,806	96	2,278,892	96	2,461	66	32,230	31
	S	30,726	2	21,057	2	51,783	2	1,290	34	44,233	43
	W	21,257	2	15,932	2	37,189	2	0	0	27,508	26
	計	1,481,069	100	886,795	100	2,367,864	100	3,751	100	103,971	100
屋内運動場	R	152,216	42	128,019	52	280,235	46	391	94	0	0
	S	202,675	56	117,668	47	320,343	53	26	6	0	0
	W	5,753	2	2,014	1	7,767	1	0	0	0	0
	計	360,644	100	247,701	100	608,345	100	417	100	0	0
寄宿舎	R	65	100	2,427	89	2,492	89	0	0	0	0
	S	0	0	312	11	312	11	0	0	0	0
	W	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	65	100	2,739	100	2,804	100	0	0	0	0
計	R	1,581,367	86	980,252	86	2,561,619	86	2,852	68	32,230	31
	S	233,401	13	139,037	12	372,438	12	1,316	32	44,233	43
	W	27,010	1	17,946	2	44,956	2	0	0	27,508	26
	計	1,841,778	100	1,137,235	100	2,979,013	100	4,168	100	103,971	100

R 鉄筋コンクリート造、 S 鉄骨その他造、 W 木造

※檜葉町、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村の全学校及び従来の施設の全てが被災等により使用できず、仮設建物等を用いて学校を開設しているものについては除外している。

(2) 公立学校施設整備事業（市町村分実績額）

平成27年度

区分	単年度		国庫債務負担行為	
	学校数	負担金及び交付金(千円)	学校数	負担金及び交付金(千円)
公立小学校の 校舎の 新増築	—	—	2	86,221
公立中学校の 校舎の 新増築	—	—	—	—
公立小学校 屋内運動場 の新増築	2	77,048	1	39,215
公立中学校 屋内運動場 の新増築	—	—	—	—
公立小・中 学校の統合	—	—	1	708,964
公立小・中 学校危険 建物の改築	5	278,536	—	—
公立小・中 学校不適 格建物の改築	9	674,846	—	—
屋外環境 整備	3	16,974	—	—
大規模改 造	14	615,897	—	—
地震補強	37	1,144,948	—	—
地震改築	1	38,477	—	—
公立幼稚園 の新増築	3	130,231	—	—
太陽光発 電	4	20,413	—	—
防災機能 強化	24	107,637	—	—
長寿命化	1	175,281	—	—
計	(延べ 校数) 103	3,280,288	(延べ 校数) 4	834,400

第3節 産業教育設備整備事業

1 産業教育施設・設備の整備

高等学校産業教育施設・設備等整備

県立高等学校における産業教育のための設備促進を図った。平成27年度における実施状況は次のとおりである。

設備

(1) 県単独事業

老朽設備の整備 250,827千円

第4節 理科教育振興法補助事業

1 理科設備

学校規模別設備現有状況

規模別	区分	学校数	基準金額	現有金額	現有率
高校 I		89	9,269,439,000	1,096,195,438	11.8
高校 II		0	0	0	—
小計		89	9,269,439,000	1,096,195,438	11.8
盲学校		1	170,615,000	5,299,060	3.1
聾学校		4	149,698,000	10,626,975	7.1
特別支援学校		16	968,293,000	35,993,082	3.7
小計		21	1,288,606,000	51,919,117	4.0

2 算数・数学特別設備

学校規模別設備現有状況

規模別	区分	学校数	基準金額	現有金額	現有率
高校 I		89	189,353,000	71,584,023	37.8
高校 II		0	0	0	—
小計		89	189,353,000	71,584,023	37.8
盲学校		1	3,180,000	42,400	1.3
聾学校		4	5,951,000	616,443	10.4
特別支援学校		16	36,206,000	4,575,459	12.6
小計		21	45,337,000	5,234,302	11.5

第5節 情報処理設備整備事業

1 県単独事業

(1) 教育用コンピュータの整備

86校（リース・保守） 320,574千円

(2) 校内LAN保守

110校（特別支援・分校含む） 14,228千円

第4章 教育の情報化

第1節 基盤整備

県立学校、図書館、美術館及び博物館等の教育関係機関が専用イントラネット及び電子メール等のインターネットサービスを利用できるよう、平成11年度から情報環境の基盤「うつくしま教育ネットワーク」を整備してきた。「うつくしま教育ネットワーク」は県教育センターを拠点とし、県立の学校、図書館等はもとより県内の市町村立学校などの教育関係機関との接続を可能としている。ネットワークの高速化を図るために、県の情報通信ネットワークへの接続を進め、平成15年度に全県立学校の接続を完了するとともに、平成18年度には回線を更新することでその高速化を行った。これにより、高速回線で教育情報の提供・検索、情報教育での活用などが可能になり、電子情報利活用のための利便性向上が図られた。

生涯学習については、インターネットを利用し、生涯学習に関する情報を県民に提供する「福島県生涯学習情報提供システム（検索ツールの「まなびとファインダー」等）の運用を行っている。

さらに、平成18年1月の「IT新改革戦略」に基づき、校務事務の効率化及び情報管理の徹底のために、平成19年度から平成21年度までに、県立学校に教員1人1台に相当するパソコンの配備を行った。（平成21年度「学校情報通信技術環境整備事業費補助金を一部利用）

また、児童・生徒の学習意欲の向上や教員の多忙化解消、特別支援学校における児童・生徒の交流に資するため、平成23年2月にテレビ会議システムの再構築を行った。

うつくしま教育ネットワークのサービス

- ・ ホームページの利用環境
学校や教育関係機関等のホームページを設置できるスペースを提供し、取組や研究成果などを広く共有する場を提供する。
- ・ 電子メールサービス
電子メールアカウントを、教職員、学校、教育関係機関等に発行する。
- ・ 不適切情報のフィルタリング
児童・生徒に触れさせたくない情報をネットワーク拠点で一元的に管理し、教育にふさわしい情報の提供を行う。
- ・ セキュリティやウイルス等への対策
- ・ 教育情報データベース（アーカイブとして公開）
- ・ コミュニケーション環境（メーリングリスト、メールマガジン等）
- ・ ヘルプデスクによるネットワークサービスの相談受付
- ・ テレビ会議システムの運用

過去10年間の県立学校基盤整備状況

年度	教職員PC配備実績	校内LAN整備
H18	H19年度から配備 ※1	3校
H19	926台	
H20	735台	
H21	2,049台	7校
H22	0台	
H23	316台 ※2	
H24	1,395台 ※3	1校
H25	814台 ※3	
H26	0台	
H27	0台	

※1 うつくしま教育NW・県情報通信NWへの接続は、平成15年度に整備済み

※2 東日本大震災に伴うサテライト拠点校等への緊急配備

※3 WindowsXPのサポート終了に伴う更新

学校の基盤整備状況（小・中・高・特別支援学校）

項目	福島県	全国平均
コンピュータ1台当たりの児童生徒数	5.6人	6.2人
校務用PCの整備率	105.8%	116.1%
普通教室のLAN整備率	81.0%	87.7%
電子黒板のある学校	72.5%	78.8%
超高速インターネット接続率	76.8%	84.2%
校務支援システムの整備状況	57.7%	83.4%
デジタル教科書の整備状況	42.9%	42.8%
学校CIOの設置状況	27.4%	41.6%

H28.3月現在 文部科学省調べ

第2節 人材の育成・活用

すべての教員がコンピュータを操作でき、コンピュータを用いて指導できることを目指して、研修の充実を図っている。

人材の育成状況

項目	福島県	全国平均
教材研究・指導の準備・評価などに ICT を活用する能力	78.9%	83.2%
授業中に ICT を活用して指導する能力	64.4%	73.5%
児童・生徒の ICT 活用を指導する能力	62.7%	66.2%
情報モラルなどを指導する能力	75.9%	78.9%
校務に ICT を活用する能力	74.0%	79.4%

H28.3月現在 文部科学省調べ

第5章 義務教育

第1節 学校管理

1 児童生徒数・学級数と教職員定数

(1) 小学校

年度	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
本校	538	531	530	525	512	511	497	489	479	472	468	458
分室	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
分校	18	12	10	10	9	8	8	6	5	5	5	5
計	556	543	540	535	521	519	505	495	484	477	473	463
前差	△4	△13	△3	△5	△14	△2	△14	△10	△11	△7	△4	△10

(2) 平成27年度の学級数別学校数(小学校) ※臨時休業が4校(5/1時点)あり、0学級になります。

学級数別	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合計
本校	98	187	101	50	17	453
分室	—	—	—	—	—	—
分校	5	—	—	—	—	5
計	103	187	101	50	17	458
構成比	22	41	22	11	4	100

(3) 中学校

年度	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
本校	240	240	240	239	239	237	237	237	236	232	229	224
分室	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
分校	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	240	240	240	239	239	237	237	237	236	232	229	224
前差	△1	0	0	△1	0	△2	0	0	△1	△4	△3	△5

※平成19年度から県立中学校を含む。

(4) 平成27年度の学級数別学校数(中学校) ※臨時休業が2校(5/1時点)あり、0学級になります。

学級数別	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合計
本校	69	75	54	19	5	222
分室	—	—	—	—	—	—
分校	—	—	—	—	—	—
計	69	75	54	19	5	222
構成比	31	34	24	9	2	100

(5) 公立幼稚園の設置状況

年度	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
園数	225	219	218	216	210	209	206	204	201	193	191	184
園児数	11,874	11,643	11,742	11,541	11,162	11,083	10,749	9,136	8,646	8,320	8,005	7,590

(6) 小学校児童数・学級数の推移

小学校の児童数は昭和34年度が最高で、その後は減少を続けてきた。昭和52年度を境に児童数、学級数とも増加傾向にあったが、昭和60年度を境に児童数が再び減少傾向にあり、学級数も学級編制基準の改善にもかかわらず少しずつ減少している。

年 度	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
単 式	4,947	5,125	5,042	4,950	4,948	4,849	4,795	4,465	4,301	4,197	4,103	4,019
複 式	196	183	211	218	202	219	197	180	204	203	215	209
特別支援	303	320	326	328	329	333	336	332	350	377	403	440

年 度	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
児 童	125,795	123,856	121,591	120,270	118,036	116,177	107,043	102,095	99,339	96,776	94,686
学 級	5,628	5,579	5,496	5,479	5,401	5,328	4,977	4,855	4,777	4,721	4,668

(7) 中学校生徒数・学級数の推移

中学校の生徒数は昭和37年度が最高となり、その後は減少を続けてきた。昭和56年度を境に生徒数、学級数とも増加傾向にあったが、昭和63年度より再び減少傾向にある。

年 度	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
単 式	2,248	2,398	2,396	2,350	2,311	2,251	2,180	2,089	2,079	2,050	1,997	1,953
複 式	6	5	5	6	6	7	10	8	8	8	8	8
特別支援	131	144	142	153	162	177	191	187	203	218	233	248

年 度	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
生 徒	68,680	67,489	66,447	65,234	63,696	62,642	60,746	58,212	56,922	56,262	54,929	53,608
学 級	2,385	2,547	2,543	2,509	2,479	2,435	2,381	2,284	2,290	2,276	2,238	2,209

(8) 小・中・特別支援学校条例定数の推移

年 度		18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
小 学 校	教 員	7,762	7,640	7,490	7,402	7,293	7,235	7,131	7,028	6,979	6,944	6,850
	事 務 職 員	528	521	509	505	495	487	474	466	468	467	458
	充 指 導 主 事	26	27	26	19	15	22	23	23	25	26	27
	補 充 教 職 員	347	349	365	360	353	329	312	293	332	321	309
	県単独負担教員	320	312	305	272	246	211	182	171	170	141	155
	学校栄養職員	148	146	144	145	141	138	128	124	125	123	121
中 学 校	教 員	4,567	4,508	4,450	4,401	4,326	4,361	4,399	4,324	4,337	4,241	4,240
	事 務 職 員	232	230	231	225	229	228	227	228	229	244	241
	充 指 導 主 事	51	58	53	46	42	40	40	38	35	40	40
	補 充 教 職 員	165	182	159	178	169	160	150	143	167	167	163
	県単独負担教員	230	219	209	183	166	188	161	160	151	143	144
	学校栄養職員	66	65	64	61	66	67	65	67	69	70	74
市 立 特 別 支 援 学 校	教 員	92	106	65	64	36	40	46	41	39	32	30
	事 務 職 員	6	6	4	4	2	2	2	2	2	2	2
	補 充 教 職 員	8	8	10	10	12	13	13	13	7	6	6
	県単独負担教員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	学校栄養職員	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1

2 教職員人事・任用

平成27年度人事異動方針

教育に対する県民の期待と要望にこたえ、第6次福島県総合教育計画に沿った教育施策を推進するとともに、東日本大震災及び東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故からの復興に向けた取組を進め、本県教育の一層の充実と向上発展を目指すためには、各学校の教職員組織及び教育庁職員組織を充実・強化し、各学校の教職員及び教育庁職員の志気の高揚を図らなければならない。

本委員会は、この実現のため、下記の方針に基づき人事異動を行うものである。

I 基本方針

- 1 全県的視野に立ち、適材を適所に配置し、教育効果及び行政効果の向上を図る。
- 2 教育の機会均等の理念に立脚し、各学校の教職員組織の充実と均衡に努めるとともに、第6次福島県総合教育計画に沿った教育施策を推進するため、教育庁職員組織の充実を図る。
- 3 厳正かつ適正な人事を行い、各学校の教職員及び教育庁職員の志気の高揚を図る。
- 4 教育に対する県民の期待と要望にこたえるため、人事の公平性、公正性、透明性の確保に一層努める。
- 5 東日本大震災及び東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故に伴う様々な課題に適切に対応するための教員配置等を継続し、復興に向けた取組を進める。

II 重点

- 1 市町村立学校関係
 - (1) 教育の充実を図るため、有能適格な教職員の採用と新進有為な人材を登用する。
 - (2) 教職員組織の充実と均衡を図るため、計画的な異動を推進する。
 - (3) 特別支援教育及びへき地教育の振興を図るため、適任者を配置するとともに適正な異動を行う。
 - (4) 管理監督の立場となる職への登用に当たっては、その職責の重要性に鑑み、適任者を厳選し、適所に配置する。

◎平成27年度公立小・中学校人事(平成27年3月末公表)

- (1) 異動件数
異動件数2,982件(前年度2,954件) 28件の増加となった。
- (2) 採用について
本年度は274名(小学校教諭151名、中学校教諭84名、養護教諭28名、事務職員8名、栄養職員3名)を新規に採用した。
- (3) 異動について
各学校の均衡を図るため、免許状、年齢構成、性別等に考慮して、努めて広域にわたるとともに、各地域の実態に応じ、都市、へき地等相互間の計画的な異動を積極的に行うようにした。

また、東日本大震災後の児童・生徒の学力向上や心のケアに配慮するとともに、警戒区域等にあつて臨時休業中の学校の再開を視野に入れた教職員配置に努め、相双地区で臨時休業中の学校の教職員については、被災した児童生徒を受け入れている学校に兼務加配として配置した。

(4) 昇任について

ア 管理職への昇任は校長84名(小学校74名、中学校10名、前年度比12名増)、教頭99名(小学校67名、中学校32名、特別支援学校0名、前年度比7名増)、計183名で、前年度より19名増加した。

イ 女性教員の管理職登用に意を用いた。小学校長4名、中学校長0名、小学校教頭6名、中学校教頭1名を登用した。

ウ 教頭の昇任は受考者557名に対し、99名で昇任率は17.7%となっている。

(5) 退職について

ア 平成26年度末の退職者数は428名で前年度に比べ62名の増である。

イ 退職者の内訳は定年退職者266名、勸奨による退職者129名、普通退職者33名となっている。

ウ 退職者中、校長は95名(小学校57名、中学校37名、市立特別支援学校1名)、教頭は16名となっている。

3 教育職員の免許

(1) 教育職員免許状の授与状況

平成27年度中に本県で授与した教育職員免許状は、総数で1,506件あり前年度より11件減となっている。

普通免許状は、前年度より7件増で1,423件、臨時免許状は18件減で80件、特別免許状は昨年同様の3件となっている。

普通免許状のうち平成27年度大学卒業者の占める割合は、約77%で、1,096件となっている。

免許状の種類別授与件数は、次のとおりである。

小学校教諭専修免許状	17件
同 一種免許状	139件
同 二種免許状	22件
中学校教諭専修免許状	35件
同 一種免許状	259件
同 二種免許状	10件
高等学校教諭専修免許状	38件
同 一種免許状	354件
同 特別免許状	3件
幼稚園教諭専修免許状	0件
同 一種免許状	43件
同 二種免許状	389件
特別支援学校教諭専修免許状	0件
同 一種免許状	24件
同 二種免許状	63件
養護教諭専修免許状	0件

同 一種免許状	3件
同 二種免許状	13件
栄養教諭専修免許状	0件
同 一種免許状	12件
同 二種免許状	2件
特別支援学校自立活動教諭一種免許状	0件
小学校助教諭免許状	43件
中学校助教諭免許状	9件
高等学校助教諭免許状	15件
幼稚園助教諭免許状	5件
特別支援学校助教諭免許	7件
特別支援学校自立教科助教諭免許状	1件
養護助教諭免許状	0件

4 学校の設置及び統廃合

地域社会における過疎・過密化の進行に伴い地域の事情に応じた教育諸条件の整備充実が図られてきた。学校規模の適正化もその一つであり、地域にあった設置、廃止が計画的に進められている。

公立小・中学校の設置・廃止

	廃止(平成28.3.31)	設置(平成28.4.1)	
小学校	矢祭町立東館小学校	矢祭町立矢祭小学校	
	矢祭町立下関河内小学校		
	矢祭町立関岡小学校		
	矢祭町立内川小学校		
	矢祭町立石井小学校		
	田村市立滝根小学校		田村市立滝根小学校
	田村市立広瀬小学校		
田村市立菅谷小学校			
中学校	平田村立蓬田中学校	平田村立ひらた清風中学校	
	平田村立小平中学校		

5 学校防火

学校火災は、公有財産を消失し、児童生徒に精神的な打撃を与え学校教育の質の低下を招くとともに、教育行政を停滞させるなど、社会に及ぼす物心両面の影響はきわめて大きい。

県教育委員会は、市町村教育委員会の協力のもと、次の観点から、各学校における防火体制を再点検し、その強化を図っているところである。

- ・ 学校防火計画及び防火診断の内容と方法の改善
- ・ 木造校舎を中心とする防火上の施設設備の充実と整

備方法の改善

- ・ 児童生徒及び教育関係者の防火意識の高揚と防火訓練の強化

平成27年度の学校火災は、市町村立中学校において3件発生し、前年度と同数である。今後とも学校火災の絶無を期するよう努める。

また、昭和50年度以降の県内の学校火災は原因別にみると、放火又は放火の疑い、火遊び、たばこの不始末など生徒指導上の問題と関連の深い火災が多く、防火の面からも生徒指導の一層の充実と強化を図る必要がある。なお、原因不明による火災が突出している。

次に、学校の警備状況を見ると、その多くが機械警備となっており、機械が探知した火災情報の確認から消火活動に至るまで、関係者の連携が一層迅速になるよう検討し、改善を図っていくことが重要である。

さらに、灯油、アルコール、シンナー等の燃えやすい物質や混合爆発、発火等の可能性の高い毒劇物・危険物等薬品の保管については、防火上のみならず、防犯上からも厳重な管理を徹底していくことが必要である。

平成27年度の学校防火診断の概要及び学校管理の状況は次のとおりである。

(1) 平成27年度公立小・中・特別支援学校防火診断項目

- ア 防火体制について
- イ 警備員、代行員の勤務状況について
- ウ 火気関係設備及び取り扱い状況について
- エ 電気設備について
- オ 消防用設備及びその管理について
- カ その他
 - ・ 諸表簿の管理状況
 - ・ 毒劇物・危険物等薬品の保管状況

(2) 学校防火診断の実施と活用

- ア 各学校における防火診断に係る報告を集約し、実施状況や課題を確認した。
- イ 学校事故防止対策研究協議会において、防火診断の結果や実際の学校火災事例等をもとに、防火対策上必要な措置を市町村教育委員会及び各小・中・特別支援学校に指導した。

※ 平成21年度より県教育委員会による研修を目的とした学校防火診断は実施しないこととしたが、市町村教育委員会と連携を図りながら、各学校における防火診断の適正な実施を行っていく。

6 へき地対策

(1) へき地学校の状況

ア へき地学校

教育事務所	級地	4級		3級		2級		1級		準1級		特地		教育事務所指定		計	
		本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校
小学校	県北							2		1				14		17	0
	県中					2		3	1	2	1	2	1	24	1	33	4
	県南			1				3				1		8		13	0
	会津					3		4		1				6		14	0
	南会津					7				1				6		14	0
	相双					3		2		2				4		11	0
	いわき					2		1				1		9	1	13	1
	計	0	0	1	0	17	0	15	1	7	1	4	1	71	2	115	5
中学校	県北							1					5		6	0	
	県中					2		3		2		1	9		17	0	
	県南							1					4		5	0	
	会津					2		4		1			6		13	0	
	南会津					4				1			3		8	0	
	相双					3		2					1		6	0	
	いわき					2		1				1	4		8	0	
	計	0	0	0	0	13	0	12	0	4	0	2	0	32	0	63	0
総計	0	0	1	0	30	0	27	1	11	1	6	1	103	2	178	5	
		0		1		30		28		12		7		105		183	

イ 特別へき地学校数、学級数、児童生徒数、教員数(休校中も含む)

級地	小学校												中学校												合計														
	学校数			児童数			学級数			教職員数			学校数			生徒数			学級数			教職員数			学校数			児童生徒数			学級数			教職員数					
	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計			
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
3級	1	0	1	13	0	13	3	0	3	9	0	9	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	9	0	9						
2級	17	0	17	616	0	616	72	0	72	200	0	200	2	0	2	403	0	403	39	0	39	192	0	192	2	0	2	30	0	30	1019	0	1019	111	0	111	392	0	392
1級	15	1	16	899	12	911	74	2	76	212	4	216	1	2	3	778	0	778	50	0	50	221	0	221	1	27	28	1677	12	1689	124	2	126	433	4	437			
準1	7	1	8	442	6	448	38	2	40	91	3	94	準1	4	0	4	245	0	245	17	0	17	70	0	70	準1	11	1	12	687	6	693	55	2	57	161	3	164	
特地	4	1	5	373	17	390	26	2	28	54	4	58	特地	2	0	2	36	0	36	4	0	4	28	0	28	特地	6	1	7	409	17	426	30	2	32	82	4	86	
教育事務所指定	71	2	73	5393	29	5423	392	5	397	959	8	967	教育事務所指定	32	0	32	3515	0	3515	173	0	173	601	0	601	教育事務所指定	103	2	105	8908	29	8937	565	5	570	1560	8	1568	
合計	115	5	120	7736	64	7800	605	11	616	1525	19	1544	合計	63	0	63	4977	0	4977	283	0	283	1112	0	1112	合計	178	5	183	12713	64	12777	888	11	899	2637	19	2656	

(2) へき地教育の振興策

へき地の学校は、概して小規模であり、また、複式学級も多い。したがって、教育条件の改善充実を図るとともに、へき地学校に優秀な教員を確保することが緊要である。

ア へき地教育の人事行政

「平成27年度人事異動方針」第1の2において、「教育の機会均等の理念に立脚し、各学校の教職員組織の充実と均衡に努めるとともに、第6次福島県総合教育計画に沿った教育施策を推進するため、教育庁職員組織の充実を図る」ことを基本として掲げ、これを受けて平成26年度小・中・特別支援学校教職員人事異動実施要項第2の2の(1)において「異動のための区分を設定し、すべての教職員を在職期間中に都市、平地、へき地の勤務を公平に経験させる」こととし、へき地と各地域との計画的な異動の推進を図った。

(ア) へき地異動

a 地域区分

県内の地域区分を次のとおりとする。

- A地域 市の中心部で比較的交通の便のよい地区及び桑折町、国見町、鏡石町、石川町、浅川町、三春町、小野町、棚倉町、塙町、会津坂下町、会津美里町、浪江町、富岡町の中心部の学校
- B地域 A及びC地域以外の学校
- C地域 へき地の学校(人事委員会・教育事務所指定の学校)

b 異動基準

- (a) へき地学校勤務については次の基準による。
 - へき地学校勤務未了者については、へき地学校へ計画的に転出させる。へき地学校勤務満了者であっても、へき地学校に勤務すべき該当者が少ない場合においては、へき地学校へ計画的に転出させる。
 - へき地学校勤務については、別表1による期間勤務した場合は満了とする。ただし、会津ブロック外出身者の会津ブロックへき地学校勤務については、別表2による。
 - すでに、へき地学校勤務満了者が、再び相当期間へき地学校に勤務し、都市又は平地の学校に転出を希望する者については考慮する。相当期間とは、2年以上とする。

別表1 (教員のへき地校勤務年数)

級別	教育事務所指定のへき地	人事委員会指定へき地				
		特 地・ 準1級地	1 級地	2 級地	3 級地	4 級地
勤続年数	4年以上	3年以上		2年以上		

別表2 (教員のへき地校勤務年数)

会津ブロック外出身者の会津ブロックへき地勤務年数 (新採は含まない)	へき地級地別	
	教育事務所指定	特 地、準1級地、 1級地以上
		3年以上

(b) 他管内へき地等への計画的異動

小学校・中学校等に勤務する教員のうち、学習指導等実績のある優秀な教員を選考して、他管内へき地等の学校に計画的に異動させ、その教育実践を通して、県内全域の教育の振興・充実を図ることとした。異動先での勤務期間は3年以上である。また、異動先での勤務期間を良好な成績で勤務した者については、教頭昇任選考筆頭試験の一部(指導関係)を免除する施策もあわせて実施した。

イ へき地学校教職員の経済的優遇策

(ア) へき地手当等の支給

人事委員会指定のへき地学校等に勤務する教職員に対し、次の手当が支給される。

○ へき地手当

勤務するへき地学校等の級別区分に応じて、次のとおり支給される。

級地	手当額	支給割合
4級地	(給料の月額+教職調整額+扶養手当)×支給割合	20/100
3級地		16/100
2級地		12/100
1級地		8/100
準1級地		4/100

(注) 給料の月額=給料月額+給料の調整額

○ へき地手当に準ずる手当

へき地学校等又は特別の地域に所在する学校等(人事委員会指定)へ、異動に伴い住居を移転した場合に支給される。

・異動日から5年間

(異動等の日における給料の月額+教職調整額+扶養手当)×4%

・5年を経過した後の1年間

(異動等の日における給料の月額+教職調整額+扶養手当)×2%

ウ へき地学校教職員の配置に対する特別措置

へき地教育振興法第4条の2項に「都道府県は、へき地学校に勤務する教員及び職員の決定について特別の考慮を払わなければならない。」とあり、本県としてもへ

き地学校教職員及び養護教員、事務職員等の配置について特別措置を講じている。

(3) 今後の問題点

- ア ヘき地学校の教職員配置の改善を図ること。
ヘき地学校の教職員の年齢構成からみて、中堅教員が少ない傾向にある。今後中堅教員を計画的にヘき地に配置していく必要がある。
また、ヘき地に勤務する教職員の優遇策や地元の受け入れ態勢の整備充実にいっそう努力する必要がある。
- イ 都市・平地とヘき地との人事異動を推進すること。
ヘき地学校勤務未了者を解消するため、これまででも計画的に平地、ヘき地の異動を推進してきた。今後一層計画的、広域的な異動を推進する必要がある。

第2節 学校教育

1 概要

(1) 指導行政の基本方針

平成22年3月に策定した本県の教育施策を総合的・計画的に推進するための指針である「第6次福島県総合教育計画」(平成25年3月改定)では、「ふくしまの和」を奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり」を基本理念に、

- ① 知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成
 - ② 学校、家庭、地域が一体となった教育の実現
 - ③ 豊かな教育環境の形成
- の3つの基本目標のもと、平成26年度の成果を踏まえるとともに、引き続き、震災後の本県学校教育分野の復興に適切に対応するため、事業を展開してきた。

特に、「ふくしまの復興・再生に向けた、生き抜く力をはぐくむ教育の推進」「学校・家庭・地域の連携・協力による総合的な教育力の向上」「復興・再生に向けた教育環境の一層の充実」を、重視する3つの観点として、学校教育の推進を図ってきた。

(2) 指導組織

各課長を中心に、主幹、主任指導主事、指導主事及び各教育事務所学校教育課長、指導主事、各市町村教育委員会指導主事等(下表)によって、幼稚園、小学校、中学校の指導に当たった。

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
指導主事数 (学校教育課長を含む)	11	12	9	13	7	12	8	72
市町村教育委員会 指導主事等数	24	42	12	13	2	14	17	124

(3) 学校教育指導の重点

学習指導要領の趣旨を踏まえ、「確かな学力」「豊かな人間性・社会性」の育成を図るため、教育課程の改善・充実、

学習指導と生徒指導の充実に努めた。

ア 教育内容・方法の改善充実に努めた。

- (ア) 「学校教育指導の重点」などにより、具体的な実践例を紹介したり指導の重点を示したりし、授業の改善が図られるようにした。
- (イ) 本県教育行政の推進を図るため、指導担当者の資質向上のための研修に努めた。
 - 指導担当者研究協議会
 - 学校教育課長等会議
 - 学力向上担当指導主事会議
 - 生徒指導担当指導主事会議
- (ウ) 小・中学校教育課程研究協議会を開催し、学習指導要領の趣旨の徹底と教員の指導力向上を図った。
 - 対象者 各校長・教頭及び教務主任等のうちから2名

(エ) 福島県小・中学校教育研究会を共催し、教育課程実施上の諸問題を研究し、その改善・充実に努めた。

(オ) 各種研究学校(地区)を指定し、指導内容や指導方法の改善・充実に努めた。

- 文部科学省及び国立教育政策研究所の研究委託による研究指定校等
 - ・ 生徒指導・進路指導総合推進事業 ほか
- 県教育委員会による研究指定校
 - ・ 学力向上推進支援事業 ほか

イ 教職員の資質と指導力の向上に努めた。

- (ア) 小学校、中学校初任者研修の実施
- (イ) 事務職員、教職経験者、校長研修会、新任校長、新任教頭、新任教務主任等の研修会の実施
- (ウ) 中央研修講座への派遣
- (エ) 長期研修生(内地留学)の派遣
- (オ) 教育研究団体に対する援助と指導
- (カ) 教職員研究論文の募集

ウ 免許外教科担当教員の研修の充実と指導力の向上に努めた。

(ア) 中学校免許外教科担任教員研修会

エ 幼稚園教育担当教員の研修の充実と指導力の向上に努めた。

- (ア) 幼稚園等新規採用教員研修
- (イ) 幼稚園経験者研修Ⅱ
- (ウ) 幼稚園教育理解推進事業中央協議会
- (エ) 幼稚園教育課程研究協議会
- (オ) 幼児教育実技研修会

オ 生徒指導の充実に努めた。

- (ア) 運営協議会を開催し、生徒指導の充実に努めた。
 - いじめ対策等生徒指導総合推進事業運営協議会 (2回)

(イ) 各種研修会を実施し、生徒指導の充実・改善に努めた。

- いじめ等対策担当者協議会 (県内7地区開催)

(ウ) ピュアハートサポートプロジェクトを実施した。

いじめの問題の解消とその未然防止に努めるとと

もに、不登校等の学校不適応問題の解決に努めた。

- 教育相談体制の充実
 - ・ スクールカウンセラー等活用事業
 - ・ 緊急時カウンセラー派遣事業
 - ・ 学校教育相談員（教育センターに配置）
 - ・ スクールカウンセラー緊急派遣事業（震災対応）
 - ・ スクールソーシャルワーカー緊急派遣事業
 - ・ 子ども24時間いじめ電話相談
 - ・ サポートティーチャー派遣事業
- 道徳教育の充実
 - ・ 道徳教育総合支援事業
 - ・ 道徳教育推進校による実践研究（7地区）
 - ・ 道徳教育教材作成
- 教育相談専門研修及び関係機関との連携強化

カ 社会の変化に対応した教育の充実に努めた。

- (ア) 情報化社会への対応
 - 学校におけるコンピュータ等の整備(市町村教委)
- (イ) 国際化への対応
 - 語学指導等を行う外国青年招致事業の実施
 - 139名の外国JET青年の受入れ(104名を市町村教育委員会が配置)

(4) 県立中学校入学者選抜

ア 基本方針

「平成28年度福島県立中学校入学者選抜における基本方針」

県立中学校入学者選抜に当たっては、適性検査及び作文の成績、面接の結果、並びに小学校の校長から提出される調査書を資料として、志願者の意欲・能力・適性等を総合的に判定し、入学予定者を決定するものとする。

- (ア) 選抜の資料は次のとおりとする。
 - a 適性検査
問題発見・解決能力、思考力、判断力、表現力等、小学校における教育において身に付けた総合的な力をみる。
 - b 作文
与えられた課題について、考えたことや感じたことなどをまとめ表現する力をみる。
 - c 面接
志願者の目的意識、意欲や長所等をみる。
 - d 調査書
小学校での学習や生活の状況をみるために、各教科の学習の記録、外国語活動の記録、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録、行動の記録などが記載された調査書を選抜資料に用いる。
なお、調査書は福島県教育委員会教育長が定める様式及び調査書作成要領に基づき、志願者の在学している小学校の校長が作成する。
- (イ) 入学予定者の決定に当たっては、次の手順で行う。
まず、適性検査及び作文の成績の合計並びに調査書の成績のいずれもが定員内にある者で、かつ、調

査書の記載事項及び面接の結果に特に問題のない者を入学予定者とする。

次に、その他の者については、適性検査及び作文の成績、調査書の記載事項並びに面接の結果を十分に精査して、総合的に判定し、入学予定者を決定する。

- (ウ) 選抜結果については、志願者及び志願者の在学している小学校の校長に通知するものとする。
- (エ) 入学辞退その他の理由により入学予定者の定員に欠員が生じた場合は、入学予定者とならなかった者の中から速やかに新たな入学予定者を決定し、入学の意思を確認の上、補充するものとする。

イ 入学者選抜関係日程

- 6月11日 第1回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
- 7月16日 第2回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
- 8月25日 県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善に関する調査研究報告書提出
- 10月6日、10月8日 県中及び会津地区で入学者選抜実施要綱説明会実施
- 10月16日 平成28年度入学者募集定員決定
- 12月7日～12月11日 出願書類受付
- 1月9日 適性検査、作文及び面接
- 1月15日 選抜結果通知書の発送
- 1月18日～1月22日 入学確約書提出
- 1月25日～1月29日 欠員補充

2 現職教育

(1) 教職員等中央研修

ア 趣旨

校長、教頭、中堅教員に対し、学校の管理運営、学習指導などの諸問題について、それぞれの職務に必要な研修を行い、その識見を高め、指導力の向上を図る。

- イ 主催 独立行政法人教員研修センター
- ウ 共催 文部科学省
- エ 会場 独立行政法人教員研修センター
- オ 期間及び参加者

◇校長マネジメント研修

- 6月22日（月）～6月26日（金）
猪苗代町立吾妻中学校 田代 新一
郡山市立三町目小学校 八代 之宏

- 10月19日（月）～10月23日（金）
中島村立滑津小学校 大塚 克己
郡山市立守山中学校 古川 尚弘

◇副校長・教頭研修

- 1月6日（水）～1月22日（金）
福島市立御山小学校 教頭 伊藤 勝彦
教育センター 指導主事 鈴木 信司
- 1月25日（月）～2月10日（水）
南相馬市立原町第三中学校 教頭 佐藤 公一

◇中堅教員研修

7月21日(火)～8月7日(金)

伊達市立保原小学校 朽木 克明
 田村市立常葉小学校 坂内 清昭
 白河市立白河第一小学校 深谷 麻紀
 下郷町立旭田小学校 児島 敦
 郡山市立桜小学校 横田 紀子

8月11日(火)～8月28日(金)

須賀川市立第二中学校 星 哲雄
 双葉町立双葉中学校 小泉 尚久
 郡山市立郡山第七中学校 濱津 太

- 県南 5月12日(火)【白河合同庁舎】
 小学校10名 中学校5名 特別支援学校0名
- 会津 5月15日(金)【ユースピアゆがわ】
 小学校7名 中学校7名 特別支援学校0名
- 南会津 5月29日(金)【南会津合同庁舎】
 小学校3名 中学校4名 特別支援学校0名
- 相双 5月15日(金)【南相馬合同庁舎】
 小学校3名 中学校3名 特別支援学校0名

オ 公立小・中学校経験者研修(Ⅰ、Ⅱ)

(ア) 経験者研修Ⅰ

- 主催 福島県教育委員会
- 期間・会場
 - a 5月～12月 勤務校
 - b 5月～12月 研修会等への参加
 ※先進校での研修
 - c 6月～10月 教育センター
- (小) 6月9日(火)～11日(木)
- (中) 10月14日(水)～16日(金)
 10月19日(月)～21日(水)
- 参加人数(小学校70名、中学校40名)
- 講師 教育センター依頼の外部講師・大学教授
 ※主にセンター指導主事が講座担当、一部大学教授等が講師

(イ) 経験者研修Ⅱ

- 主催 福島県教育委員会
- 期間・会場
 - a 4月～11月 教育事務所
 - b 5月～1月 勤務校
 - c 9月～11月 教育センター
- (小) 9月28日(月)～9月30日(水)
- (中) 9月2日(水)～9月4日(金)
- 参加人数(小学校110名、中学校90名)
- 講師 教育センター依頼の外部講師・大学教授、教育センター指導主事等

(2) 各種研修会

ア 福島県公立学校長研修会地区別研修会(公立小・中・特別支援学校長、県立学校長)

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 管内・期日・会場・参加人数【参加765名】

- 県北 6月23日(火)
 【伊達市ふるさと会館】 164名
- 県中 6月23日(火)
 【田村市文化センター】 186名
- 県南 6月17日(水)
 【西郷村文化センター】 77名
- 会津 6月29日(月)
 【会津美里町新鶴公民館】 113名
- 南会津 7月6日(月)
 【南会津町あたご館】 24名
- 相双 6月23日(火)
 【安達公民館】 83名
- いわき 6月22日(月)
 【いわき合同庁舎】 118名

イ 公立小・中・特別支援学校新任校長研修会

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 福島県教育センター

(ウ) 期間・参加人数

4月30日(木)～5月1日(金) 小学校 64名
 中学校 13名

(エ) 講師 義務教育課長 飯村 新市 他

ウ 公立小・中・特別支援学校新任教頭研修会

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 福島県教育センター

(ウ) 期間・参加人数

5月18日(月)～5月19日(火) 小学校 65名
 中学校 27名

(エ) 講師 義務教育課主幹 歌川 哲由 他

エ 公立小・中・特別支援学校新任教務主任研修会

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 管内・期日・会場・参加人数

- 県北 5月27日(水)【県教育センター】
 小学校22名 中学校6名 特別支援学校1名
- 県中 5月22日(金)【郡山市合同庁舎】
 小学校16名 中学校10名 特別支援学校0名

カ 公立小・中学校初任者研修

(ア) 校内における研修 150時間以上

各学校で年間を通じて計画し、実施する。

(イ) 校外における研修 22日間

a 地区別研修A

(7日間、各教育事務所の計画による)

- ・ 一般研修 1日間
- ・ 授業研修 2日間
- ・ へき地校研修 1日間
- ・ カウンセリング研修 2日間
- ・ 特別支援学校研修 1日間

b 地区別研修B

(9日間、各市町村教育委員会の計画による)

- ・ 一般研修 1日間
- ・ 研究発表集会等研修 5日間
- ・ 社会奉仕体験活動研修 2日間
- ・ 他校種園参観研修 1日間

- c 宿泊研修
 - ・ 磐梯青少年交流の家 3日間
 - ・ 教育センター 3日間

(ウ) 参加者数

- a 小学校 115名
- b 中学校 80名

キ 公立小・中・特別支援学校事務職員研修

(ア) 新規採用職員研修

- ・ 対象 平成27年度新規採用者
- ・ 日数 前期5日間、後期5日間
- ・ 参加人数 8名(小学校6名、中学校2名)
- ・ 会場 ふくしま自治研修センター

(イ) 基礎力アップ研修

- ・ 対象 採用後5年目
- ・ 日数 3日間
- ・ 参加人数 3名

(ロ) 応用力アップ研修

- ・ 対象 採用後9年目
- ・ 日数 2日間
- ・ 参加人数 5名

(ハ) 実行力アップ研修

- ・ 対象 採用後13年目
- ・ 日数 3日間
- ・ 参加人数 4名

(ニ) 総合力アップ研修

- ・ 対象 採用後21年目、41歳以上
- ・ 日数 2日間
- ・ 参加人数 12名

(ホ) 新任係長研修会

- ・ 対象 新任の主任主査
- ・ 日数 3日間
- ・ 参加人数 16名

ク 事務職員研修(小・中学校)

- 主催 独立行政法人教員研修センター
- 期間 2月22日(月)～2月26日(金)
- 参加人数 3名(小学校0名、中学校3名)
- 会場 独立行政法人教員研修センター

(3) 教員長期研修

(研修機関、研修期間、研修生)

ア 上越教育大学

(ア) 平成26年4月1日～平成28年3月31日

- 金山町立金山中学校教諭 伊藤 大輔
- 只見町立只見中学校教諭 齋藤 聡

(イ) 平成27年4月1日～平成29年3月31日

- 北塩原村立第一中学校教諭 稲場 哲郎
- 昭和村立昭和中学校教諭 室井 章太

イ 福島大学

(ア) 平成26年4月1日～平成28年3月31日

- 福島市立土湯小学校教諭 今野 友華
- 白河市立みさか小学校教諭 前林 伸也
- 矢祭町立矢祭中学校教諭 久保木 学

- 鮫川村立青生野小学校教諭 佐々木雄一郎
- 会津若松市立永和小学校教諭 渡邊 匡彦
- 新地町立新地小学校 今野 真幸
- いわき市立久之浜中学校 花塚 寛

(イ) 平成27年4月1日～平成29年3月31日

- 福島市立吉井田小学校教諭 内池 美穂
- 三春町立三春小学校教諭 佐藤 幸子
- 石川町立中谷第二小学校教諭 力丸 愛
- いわき市立小名浜第一中学校 志賀 匡行

(4) 平成27年度産業・情報技術等指導者養成研修(中学校)

教科	技術・家庭
氏名	三品 卓弘
職名	教諭
学校名	白河市立白河中央中学校
研修先	国立大学法人宮城教育大学
研修期間	7月27日～7月31日

(5) 教育研究奨励

- ア 名称 福島県教職員研究論文
- イ 主催 福島県教育委員会
- ウ 応募資格 福島県公立幼稚園・小・中・高・特別支援学校の教職員

エ 審査委員

- 福島大学総合教育研究センター特任教授 丹野 学
- 福島市教育実践センター所長 鈴木 昭雄
- こむこむ館 学習指導員 長尾順一郎

オ 応募数 34点

カ 入賞者

(ア) 特選

氏名	所属
福島市立福島第四小学校 通級指導教室	グループ
教諭 加藤興志輝	郡山市立金透小学校
郡山市立芳山小学校	団体
昭和村立昭和中学校	団体
教諭 吉田 史緒	葛尾村立葛尾小学校

(イ) 入選

氏名	所属
伊達市立保原小学校	団体
養護教諭 鈴木智恵	郡山市立熱海中学校
矢祭町立関岡小学校	団体
教諭 近藤 和哉	白河市立白河第三小学校
企画指導専門職 渡辺 聡	国立磐梯青少年交流の家
只見町立朝日小学校	団体
教諭 徳永 一夢	いわき市立泉北小学校

(ウ) 奨励賞

氏名	所属
教諭 石垣 千晴	福島県立郡山養護学校
教諭 岩本 宏幸	会津若松市立鶴城小学校

3 教育課程

(1) 平成27年度福島県小・中学校教育課程研究協議会

(平成27年度福島県小学校教育課程研究協議会)

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 実施期間
 - 県北域内 9月3日(木)
 - 県中域内 9月4日(金)

- 県南域内 9月10日(木)
- 会津域内 9月17日(木)
- 南会津域内 9月14日(月) 小中合同
- 相双域内 9月3日(木) 相馬地区 小中合同
- 9月9日(水) 双葉地区 小中合同
- いわき域内 9月9日(水)

ウ 実施教科等

総則、国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動

エ 参加者数 418名

〈平成27年度福島県中学校教育課程研究協議会〉

ア 主催 福島県教育委員会

イ 実施期間

- 県北域内 9月1日(火)
- 県中域内 9月10日(木)
- 県南域内 9月24日(木)
- 会津域内 9月15日(火)
- 南会津域内 9月14日(月)
- 相双域内 9月3日(木) 相馬地区 小中合同
- 9月9日(水) 双葉地区 小中合同
- いわき域内 9月15日(火)

ウ 実施教科等

総則、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語、道徳、総合的な学習の時間、特別活動

エ 参加者数 232名

4 学力向上等

(1) 学力向上推進支援事業

ア 授業改善のための定着確認シート活用実践事業

イ 学力調査研究事業

ウ 学校図書館の活性化実践事業

(2) ふくしまからはじめよう。学力向上のための「つなぐ教育」推進事業

(3) ふくしまからはじめよう。未来を拓く理数教育充実事業

ア 理科力アップ事業

イ 理数教育優秀教員活用事業

ウ 小学生算数・理科講座事業

エ 福島県算数・数学ジュニアオリンピック事業

オ 「科学の甲子園」福島県大会事業

(4) 少人数教育推進事業

学力向上や人間性・社会性の育成を総合的・効果的に推進するための「個に応じた指導」の徹底を図るため、ティーム・ティーチングや習熟度別等指導、及び30人学級編制等の少人数教育を進め、教員等の目が子ども一人一人に行き届き、きめ細かな指導や評価ができる体制を作る。

○ 30人程度学級

○ 30人学級編制(小1、小2、中1)

5 放射線教育(放射線教育推進支援事業)

児童生徒が心身ともに健康で安全な生活を送るために、

放射線等に関する基礎的な知識についての理解を深め、自ら考え、判断し、行動する力を育成することを目的とした取組の支援として、下記の事業等を実施した。

(1) 実践協力校

ア 小学校

川俣町立川俣南小学校

西郷村立羽太小学校

会津若松市立謹教小学校

飯館村立白石・草野・飯樋小学校

いわき市立小名浜第一小学校

イ 中学校

郡山市立富田中学校

三春町立三春中学校

南会津町立館岩中学校

いわき市立小名浜第一中学校

(2) 指導者養成研修会

ア 主催 福島県教育委員会

イ 期日 平成27年6月30日(火)

ウ 会場 ビッグパレットふくしま

エ 参加者 98名

(3) 地区別研究協議会

ア 主催 福島県教育委員会

イ 期日

県北域内 9月10日(木)

県中域内 9月9日(水)

県南域内 11月16日(月)

会津域内 11月6日(金)

南会津域内 9月1日(火)

相双域内 10月2日(金)

いわき域内 8月3日(月)

ウ 参加者数 807名

(4) 運営協議会

ア 主催 福島県教育委員会

イ 期間 4月～2月(6回)

ウ 参加対象者 本庁関係課、教育事務所、教育センターの担当指導主事等及び実践協力校担当者、放射線教育推進委員

エ 内容 各種放射線教育研究協議会の企画・立案、指導資料の作成及び事業の総括

(5) 「放射線等に関する指導資料第5版」の作成と配付

ア 発行者 福島県教育委員会

イ 発行 平成28年3月

ウ 部数 3000部

6 防災教育

「生き抜く力」を育む防災教育推進事業)

地域の自然環境、災害や防災について正しい知識を身に付け、災害発生時における危険を理解し、状況に応じた確かな判断の下に、自らの安全を確保するための行動ができ

たり、災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができたりする態度及び能力を児童生徒に育成するため、下記の事業等を実施した。

(1) 実践協力校

- 福島市立清明小学校
- 猪苗代町立吾妻小学校
- 南相馬市立八沢小学校

(2) 地区別研究協議会

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期日
 - 県北域内 8月21日(金)
 - 県中域内 9月9日(水)
 - 県南域内 9月3日(木)
 - 会津域内 10月1日(木)
 - 南会津域内 9月1日(火)
 - 相双域内 10月2日(金) 相馬・双葉合同
 - いわき域内 7月14日(火)
- ウ 参加者 800人

(3) 運営協議会

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期間 4月～1月(6回)
- ウ 参加対象者 本庁関係課、教育事務所、教育センターの担当指導主事等及び実践協力校担当者
- エ 内容 防災教育地区別研究協議会の企画・立案、指導資料の作成及び事業の総括

(4) 「防災個人カード」の作成と配付

- ア 発行者 福島県教育委員会
- イ 発行 平成27年4月
- ウ 配付者 県内国公私立小学1年生

(5) 「防災教育指導資料第3版」の作成と配付

- ア 発行者 福島県教育委員会
- イ 発行 平成28年3月
- ウ 部数 3000部

7 道徳教育

(1) 道徳教育

- ア 道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修
 - (ア) 主催 中央指導者研修
 - 独立行政法人教員研修センター
 - ブロック別指導者研修
 - 独立行政法人教員研修センター、山形県教育委員会
 - (イ) 会場 中央：独立行政法人教員研修センター
 ブロック：山形テルサ・山形市民会館(山形市)

(ウ) 期日

中央指導者研修 平成27年5月18日～22日
 ブロック別指導者研修 平成27年8月31日～9月2日

〈中央指導者研修〉

氏名	勤務先	職名
渡辺 貴生	県南教育事務所	指導主事
二瓶 悦子	只見町立只見小学校	校長
中田 敬介	いわき市立三和中学校	教頭
鈴木 順	郡山市立富田東小学校	教諭
星 美由紀	郡山市立郡山第五中学校	教諭
角田 健司	いわき市教育委員会総合教育センター	指導主事

〈ブロック別指導者研修〉

伏見 珠美	川俣町立山木屋小学校	校長
春山 晃洋	須賀川市立第三中学校	教頭
本田 一弘	福島県立大沼高等学校	教諭
小林 正和	相双教育事務所	指導主事

イ 小学校教育研究会道徳部会

(ア) 研究主題

「道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考え方を深める指導の充実」

(イ) 主催

福島県小学校教育研究会

(ウ) 会場・期日

各地区ごとに設定

ウ 中学校教育研究会道徳部会

(ア) 研究主題

「ふるさとを愛し、ふくしまの未来を拓く、たくましい心を育てるためにはどうすればよいか」
 ～郷土に根ざした資料の活用の工夫～

(イ) 主催

福島県中学校教育研究会

(ウ) 会場・期日

各地区ごとに設定

(2) 道徳教育総合支援事業

ア 趣旨

学習指導要領の趣旨並びに児童生徒、学校等の実態を踏まえ、創意工夫を生かした道徳教育を推進するための実践研究を行い、その成果を普及することにより道徳教育の充実を図る。

イ 福島県道徳教育推進協議会

年2回開催(5月19日、2月9日)

ウ 福島県道徳教育地区別推進協議会

各事務所ごとに設定、1回開催

エ 道徳教育推進校

小学校3校、中学校3校、高等学校1校

オ 道徳教材作成

「ふくしま道徳教育資料集全3集」【補訂版】

カ 道徳教育リーフレットの作成

「道徳のとびら」

(3) 人権教育

- ア 人権教育研究開発事業
- 趣旨
人権意識を培うための学校教育の在り方について幅広い観点から実践的な研究を行い、人権教育に関する指導方法等の改善及び充実を図る。
 - 推進地域
大玉村（大玉村教育委員会）村内幼・小・中学校（2園3校）
 - 研究テーマ
共によりよく生きる子どもの育成
～自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めよう～
 - 研究期間
平成26・27年度
- イ 人権教育指導者養成研修
- 主催 独立行政法人教員研修センター
 - 期日 平成27年7月8日～10日
 - 会場 独立行政法人教員研修センター
 - 参加者 南会津町立南会津中学校

教諭 馬場 仁子

いわき市立小名浜第三小学校

教諭 佐々木 博之

(4) 「モラル・エッセイ」コンテスト

- ア 趣旨
モラルやマナー、いのち、家族、人との絆など、心温まるちょっといいお話、今伝えたいメッセージ等を募集し、学校と家庭・地域が一体となって、子どもたちの道徳的実践力を養うとともに、県民一丸となって「生きる力」を身に付ける機会とする。

- イ 応募期間
平成27年7月1日～8月28日

- ウ 応募数
- | | |
|------|---------|
| 中学校 | 1, 459点 |
| 高等学校 | 71点 |
| 一般 | 2点 |

エ 受賞者

【中学校】

- | | | | |
|------|-------------|----|-------|
| 最優秀賞 | 会津若松市立第二中学校 | 1年 | 伊藤 要 |
| 優秀賞 | 白河市立白河第二中学校 | 2年 | 阿部 真子 |
| | 白河市立白河第二中学校 | 3年 | 深津日向子 |

【高等学校】

- | | | | |
|------|-----------|----|-------|
| 最優秀賞 | 白河高等学校 | 1年 | 野内 佳奈 |
| 優秀賞 | 白河高等学校 | 1年 | 鈴木 萌 |
| | 浪江高等学校津島校 | 3年 | 上田 りか |

【一般】

- | | | |
|------|-------|-------|
| 最優秀賞 | 西郷村在住 | 大塚 由美 |
| 優秀賞 | 天栄村在住 | 吉田ひとみ |

8 特別活動

主な研修及び行事

(1) 県小学校教育研究会特別活動部会

- ア 主催 県小学校教育研究会
- イ 研究主題
望ましい集団活動を通して、個性の伸長を図るとともに、よりよい生活や人間関係を築き、自主的、実践的な態度を育てる特別活動の指導の在り方

- ウ 県研究協議会
- 期日 平成27年10月14日(水)
 - 会場 福島県文化財センター白河館

(2) 県中学校教育研究会特別活動部会

- ア 主催 県中学校教育研究会、開催市町村教育委員会
- イ 研究主題
学校の創意工夫を生かし、よりよい集団や社会を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるための特別活動の指導はどうすればよいか。

- ウ 県研究協議会
- 期日 平成27年10月7日(水)
 - 会場 石川町立石川中学校

9 生徒指導・進路指導

(1) 生徒指導

- ア 生徒指導研究連絡会議
国立教育政策研究所主催
- 期日 平成27年6月5日
 - 会場 文部科学省講堂
 - 参加者 県教育庁義務教育課
主任指導主事 福地 裕之
いわき市教育委員会
指導主事 玉澤 淳
郡山市総合教育支援センター
指導主事 高山 良勝

イ 生徒指導指導者養成研修

- 期日 平成27年6月29日～7月14日
- 会場 独立行政法人教員研修センター
- 参加者 白河市立東中学校
教諭 青木 哲也
郡山市立富田西小学校
教諭 三坂 克典

ウ 教育相談指導者養成研修

- 期日 平成27年8月24日～8月27日
- 会場 独立行政法人教員研修センター
- 参加者 会津教育事務所
主任指導主事 武藤 成也
いわき市総合教育センター
指導主事 廣原 哲

(2) 進路指導・キャリア教育

- ア キャリア教育指導者養成研修会（第2回）
- (ア) 主催 独立行政法人教員研修センター
 - (イ) 会場 独立行政法人教員研修センター
 - (ウ) 期間 6月1日(月)～6月5日(金)
 - (エ) 参加者 南会津町立荒海小学校教諭 星 克彦

10 幼稚園教育

平成27年度公立幼稚園数は、184園（休園17を含む）であった。学級数は前年度より8学級減の477園であったが、東日本大震災及びその後の原子力発電所事故の影響による幼児数の減少も影響し、少人数保育になっているところが多い。県全体の公立幼稚園平均学級園児数は、15.9人である。幼稚園未設置市町村の解消や就園率の地域格差是正、3年保育、その他混合保育、預かり保育など課題も多い。

さらに、幼稚園教育の一層の充実を図るため、市町村教育委員会、福島県公立幼稚園教育研究会及び公益社団法人福島県私立幼稚園連合会協会等の協力を得て、次の事業を実施した。

(1) 幼稚園教育課程研究協議会

ア 主催 福島県教育委員会

イ 期日

県北域内	10月15日(木)
県中域内	9月11日(金)
県南域内	9月29日(火)
会津・南会津域内	10月6日(火)
相双域内	9月16日(水)
いわき域内	9月18日(金)

ウ 内容

- 幼稚園教育要領の理解
- 幼稚園の教育活動及び運営に係る課題と対応策
- 幼児期における運動遊びに関する講義

エ 参加者数 286名（6地区合計）

(2) 幼児教育実技研修会

ア 主催 福島県教育委員会

イ 期日 平成27年8月5日(水)～8月7日(金)

ウ 会場 福島大学附属幼稚園

エ 受講者 のべ278名(3日間合計)

(3) 福島県幼稚園等新規採用教員研修

ア 主催 文部科学省、福島県教育委員会

イ 会場 教育センターが定めた場所、勤務園、参観を希望する幼稚園、保育所、小学校

ウ 日数 園外研修(教育センターの計画) 3泊4日
" (教育センターの計画) 3日間
" (幼稚園、保育園、小学校参観) 3日間

園内研修(勤務園) 10日間

エ 参加者 研修対象者 公立42名 私立48名 計90名

オ 内容 講義……教師の役割、幼稚園教育の現状

演習……遊びに必要な材料の工夫

協議……諸問題、教師のかかわり

実技……絵本のイメージと遊び、みんなで

(4) 幼稚園経験者研修Ⅱ

ア 主催 文部科学省、福島県教育委員会

イ 期日 年間

ウ 日数・内容・会場

- 園外研修…5日以上
 - ・共通研修………1日(各教育事務所)
 - ・保育専門研修…1泊2日(教育センター)
 - ・社会体験研修…1日(社会体験を行う各施設等)
 - ・選択研修 ……1日以上(幼児教育実技研修会等)
- 園内研修…7日以上
 - ・保育力の向上に関する研修
 - ・教育課題の解決に向けた実践に関する研修
 - ・パイオニア研修

エ 参加者 研修対象者 公立16名 私立0名 計16名

11 へき地教育

本県におけるへき地学校は、県全体の小・中学校別の総数に対して、小学校115校で、25.1%、中学校63校で28.3%を占め、小・中学校総数に対して25.5%の割合となっている。

このへき地、山村、過疎地域の教育の振興を図るため、下記の事業を実施した。

(1) 複式学級担当教員研修会

ア 主催 福島県教育委員会

イ 期日 平成27年5月28日(木)～5月29日(金)

ウ 会場 福島県教育センター

エ 講師 小学校教諭他

オ 参加者数 39名

(2) 中学校免許外教科担当教員研修会

ア 主催 福島県教育委員会

イ 期日 平成27年5月13日(水)～5月15日(金)
平成27年5月20日(水)～5月22日(金)

ウ 会場 福島県教育センター

エ 講師 中学校教諭他

オ 参加者数 140名

(3) 全国へき地教育研究大会

第64回全国へき地教育研究大会熊本大会

ア 主催 文部科学省、全国へき地教育研究連盟
熊本県教育委員会

イ 期日 平成27年10月15日(木)～10月16日(金)

ウ 会場 全体会・分散会 熊本市民会館
学校別分科会 県内12会場

エ 研究主題

- 大会主題

「ふるさとに誇りと愛着を持ち、人間力豊かに時代を牽引する子どもの育成」

オ 派遣者氏名

氏名	職	勤務先
大内 克之	校長	いわき市立三和小学校
大竹 孝喜	指導主事	福島県教育庁義務教育課

新潟県 県内小・中学生16名

オ 活動内容 尾瀬レクチャー・フィールド活動・意見交換会

カ 知事報告会 平成27年7月31日(金) 県庁

(4) 福島県へき地・小規模学校教育研究会

平成22年度末に福島県へき地・小規模学校教育研究会が解散している。

12 環境教育

学校における環境教育は、学校教育全体を通して行う必要があり、自然とふれあいを深め自然を愛護することの大切さを理解させるように努めている。

(1) 「尾瀬サミット」小・中学生3県交流事業「尾瀬子どもサミット」

- ア 主催 福島県教育委員会
群馬県・群馬県教育委員会
新潟県教育委員会
- イ 期日 平成27年7月28日(火)～7月31日(金)
- ウ 会場 福島県南会津郡檜枝岐村「尾瀬沼ヒュッテ」
- エ 参加者数 福島県 県内小・中学生18名
群馬県 県内小・中学生20名

13 教科用図書

(1) 平成28年度使用教科用図書の採択 公立小・中学校教科用図書の採択は、「義務教育諸学校

の教科用図書の無償措置に関する法律」に基づき、中学校用教科用図書及び学校教育法附則第9条図書を採択した。小学校用教科書は継続採択であった。

ア 教科用図書選定審議会

(ア) 委員 16名

(イ) 任期 平成27年4月1日～平成27年8月31日

(ウ) 開催期日 第1回 平成27年4月14日

第2回 平成27年5月28日

(エ) 会場 第1回 ふくしま中町会館6F北会議室

第2回 福島県教育センター231研修室

イ 教科書展示会

平成27年6月19日から14日間、県内18の会場で開催した。会場及び来会者は下の表のとおりである。

※ 双葉教科書センターは震災の影響により休止

教科書センター (展示会場)	採択地区名	展示教科書(該当に○印)			展示会場設置場所(該当に○印)			来会者総数
		小・中・高	小・中	高	教科書センター	分館	その他	
福島教科書センター(福島市立図書館)	福島・伊達・安達地区	○			○			110
伊達教科書センター(保原小学校)	〃		○		○			69
二本松教科書センター(二本松市文化センター)	〃		○		○			62
郡山教科書センター(郡山市中央図書館)	郡山地区	○			○			122
須賀川教科書センター(須賀川第二小学校)	岩瀬地区		○		○			57
〃(山村開発センター)	〃		○			○		50
石川教科書センター(石川中学校)	石川地区		○		○			68
三春教科書センター(田村市図書館)	田村地区		○		○			69
〃(三春小学校)	〃		○				○	50
〃(小野町文化の館)	〃		○				○	14
西白河教科書センター(白河市立図書館)	西白河・東白川地区	○			○			192
東白川教科書センター(榎倉町立図書館)	〃	○			○			41
会津若松教科書センター(城北小学校)	会津地区	○			○			24
喜多方教科書センター(喜多方第一小学校)	〃	○			○			16
会津坂下教科書センター(坂下南小学校)	〃	○			○			33
南会津教科書センター(御蔵入交流館)	〃		○		○			38
南会津教科書センター(伊南会館)	〃		○			○		3
相馬教科書センター(相馬市立中央図書館)	相馬地区	○			○			116
双葉教科書センター(富岡町文化交流センター)	双葉地区		—		—			—
いわき教科書センター(いわき市総合教育センター)	いわき地区	○			○			71
合計	(展示会場19箇所) (採択地区10地区)	9	9		15	1	2	1205

ウ 平成28年度使用小学校教科書採択一覧(採択2年目)

種目	国語	書写	社会	地図	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	保健
採択地区											
福島・伊達・安達	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	日文	開隆堂	東書
郡山	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	開隆堂	東書	学研

田村	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	日文	東書	東書
岩瀬	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	日文	東書	東書
石川	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	開隆堂	開隆堂	東書
西白河・東白川	光村	光村	東書	東書	教出	東書	東書	教出	開隆堂	開隆堂	東書
会津	東書	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	日文	東書	東書
相馬	光村	光村	東書	東書	東書	東書	東書	教芸	日文	東書	東書
双葉	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	日文	東書	東書
いわき	光村	東書	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	日文	開隆堂	東書

エ 平成28年度使用中学校教科書採択一覧（採択1年目）

種目	国語	書写	社会 (地理的分野)	社会 (歴史的分野)	社会 (公民的分野)	地図	数学	理科	音楽 (一般)	音楽 (器楽合奏)	美術	保健体育	技術・家庭 (技術)	技術・家庭 (家庭)	英語
採択地区															
福島・伊達・安達	光村	東書	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書
郡山	光村	光村	帝国	帝国	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	学研	東書	東書	東書
田村	光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教芸	日文	東書	東書	開隆堂	東書
岩瀬	光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書
石川	光村	光村	東書	帝国	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	開隆堂	開隆堂	東書
西白河・東白川	光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	開隆堂	東書
会津	光村	光村	東書	東書	帝国	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書
相馬	光村	光村	帝国	東書	帝国	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書
双葉	光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	東書	東書	東書	東書
いわき	光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書

(2) 教科用図書無償給与

平成27年度も義務教育諸学校の全児童生徒に教科書の無償給与が行われた。また、平成28年度使用教科用図書無償給与事務説明会を市町村教育委員会及び県立特別支援学校・私立学校等の教科書事務担当者を対象に下表のとおり開催し、適正かつ円滑な事務処理が図られるようにした。

期日	会場	参集範囲
平成28年2月4日	福島県教育センター	県北
平成28年2月12日	郡山合同庁舎	県中
平成28年2月5日	白河合同庁舎	県南
平成28年2月9日	ユースピアゆがわ	会津
平成28年2月10日	南会津合同庁舎	南会津
平成28年2月2日	相双保健福祉事務所	相双
平成28年2月15日	いわき合同庁舎	いわき

協議 主題2	特別な支援を必要とする幼児の状態等に応じた計画的、組織的な指導の在り方について
-----------	---

イ 組織及び財政の状況

- 会長 佐藤 明彦
- 会員数 776名
- 平成27年度予算額 1,291,186円
- 上記のうち補助金 なし

ウ 主な事業

- ブロック研究協議会(2年に1回公開)
平成27年度は各地区ごとに実施。
- 研究主題研修会
(ア) 期日・会場
平成27年6月2日(火) 福島市吾妻学習センター
(イ) 講師 福島県教育庁義務教育課指導主事

1.4 教育研究団体

(1) 福島県公立幼稚園・こども園教育研究会

ア 研究主題(平成27年度)

協議 主題1	幼稚園教育要領の理念を実現するための、各幼稚園における教育課程の編成、実施、評価、改善の一連のカリキュラム・マネジメントの適切な実施について
-----------	--

(2) 福島県小学校教育研究会

- ア 基本主題(平成25年度～平成27年度)
(ア) 「確かな学びと豊かなかかわりを通して生きる力をはぐくむ授業」
- イ 各研究部研究主題

「未来を切り拓く確かな学力を身につけ、人間性豊かにたくましく生きる生徒の育成」

研究部	研究主題
国語	児童一人一人の表現力や理解力を育成し、伝え合う力を高める指導はどうあればよいか。
社会	子ども一人一人が社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を身に付け、観察や調査、資料の活用などの活動をとおして、社会的な見方や考え方を成長させる社会科の授業はどうあればよいか。
算数	算数的活動を通して、数量や図形について実感的に理解し、次の学びに生かそうとする子どもの育成
理科	自ら自然にはたらきかけ、感じ、考え、実感できる理科学習の充実
生活・総合	人・社会・自然に進んでかかわり、質の高い気付きや学びができる子どもを育成するにはどうすればよいか。
音楽	多様な音楽活動と豊かな学びを通して、音楽を愛好する子どもの育成
図画工作	つくり出す喜びを味わう造形活動を通して、感性を働かせながら、自分の思いを豊かに表現することができる図画工作科の指導
家庭	家族とのきずなを深め、生き抜く力をはぐくむ家庭科の学習はどうあればよいか。
体育	多様な運動の特性に触れる経験を通して学び合う中で、めあての達成を目指して主体的に運動に取り組むたくましい子どもを育てる体育指導
道徳	道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考えを深める指導の充実
特別活動	望ましい集団活動を通して、個性の伸長を図るとともに、よりよい生活や人間関係を築き、自主的、実践的な態度を育てる特別活動の指導の在り方

ウ 組織及び財政の状況

- (ア) 会長 阿部 雅典 (郡山市立行健第二小学校)
- (イ) 会員数 5,901名
- (ウ) 平成27年度決算額 5,494,875円

エ 主な事業

○ 研究協議会

- (ア) 主催 福島県小学校教育研究会
- (イ) 共催 福島県教育委員会・開催地区関係市町村教育委員会
- (ウ) 期日・会場
 - a 地区研究協議会 各地区
各地区の計画による
 - b 県研究協議会 10月6日(火)～10月22日(木)
県内11会場
- (エ) 指導助言者 指導主事等

(3) 福島県中学校教育研究会

ア 研究主題

- (ア) 基本主題

イ 各部研究主題

部会	平成27年度の研究主題・研究副主題
国語	言語感覚を豊かにし、社会生活に生きて働くことばの力を身につけさせるための指導はどうあればよいか。 H27 「話すこと・聞くこと」の領域における指導の工夫
社会	社会の変化に主体的に立ち向かう力を育成する社会科の指導はどうすればよいか。 H27 社会的事象を多面的・多角的にとらえさせる指導の工夫
数学	数学的活動の充実を図り、確かな学力を身につけさせるためにはどうすればよいか。 H27 数学的に説明し伝え合う活動の工夫
理科	科学的な体験や自然体験を通して、日常生活や社会で活用できる力を育む指導はどうすればよいか。 H27 科学の学ぶ楽しさや有用性を実感させ、学ぶ意欲を高める学習活動の工夫
音楽	幅広い音楽活動を通して、生徒一人一人の感性を磨き、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育て、豊かな情操を養う指導はどうすればよいか。 H27 音楽活動を通して、基礎的な能力を伸ばす学習活動の工夫
美術	生徒一人一人に自己実現の喜びを味わわせ、心豊かな生活を創造していこうとする態度を育てる美術教育をどうすればよいか。 H27 確かな力を基盤とした自己表現
保健体育	生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、積極的に体力の向上と健康の保持増進に取り組ませる指導はどうあればよいか。 H27 基礎的・基本的な内容を確実に身につけさせ、体力の向上と運動意欲の向上を図る指導の工夫 ～体育分野～
技術・家庭	社会の変化に主体的に対応し、生活に生かせる力をはぐくむためにはどう指導すればよいか。 H27 生徒を取り巻く状況とのつながりを重視した題材や課題設定の工夫
英語	自らの体験や考えなどを互いに発信できるコミュニケーション能力をはぐくむためには、どう指導すればよいか。 H27 CAN-DOリストを生かし、4技能を総合的に育成する指導の工夫
道徳	ふるさとを愛し、ふくしまの未来を拓く、たくましい心を育てるためにはどうすればよいか。 H27 郷土に根ざした資料の活用の工夫
特別活動	学校の創意工夫を生かし、よりよい集団や社会を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるための特別活動の指導はどうすればよいか。 H27 学級の一員としての役割を遂行し、望ましい人間関係を築く学級活動の実際

ウ 組織及び財政の状況

- (ア) 会長 吉田 務 (福島市立岳陽中学校)
- (イ) 会員数 3,457名
- (ウ) 平成27年度の決算額 8,232,660円

エ 主な事業

○ 研究協議会

(ア) 主催 福島県中学校教育研究会

(イ) 共催 福島県教育委員会

(ウ) 期日・会場

a 支部研究協議会 各支部

b 県研究協議会 10月7日(水)

県内11会場

(エ) 指導助言者 指導主事等

(4) 福島県小学校長会

ア 組織及び財政の状況

(ア) 会長 佐久間 裕晴(福島市立三河台立小学校)

(イ) 会員数 452名

(ウ) 平成27年度の決算額 15,744,044円

イ 主な事業

(ア) 第55回東北連合小学校長研究協議会福島大会

(イ) 開催期日 7月2日(木)、7月3日(金)

(ウ) 会場 會津風雅堂

(エ) 参加者数 1,334名

(5) 福島県中学校長会

ア 組織及び財政の状況

(ア) 会長 菅野 善昌(福島市立福島第一中学校)

(イ) 会員数 225名

(ウ) 平成27年度の決算額 8,249,409円

イ 主な事業

(ア) 平成27年度福島県中学校長会総会

(イ) 開催期日 4月22日(水)

(ウ) 会場 福島県教育会館

(6) 福島県公立小・中学校教頭会

ア 組織及び財政の状況

(ア) 会長 遠藤 嘉人(福島市立清水小学校)

(イ) 会員数 686名

(ウ) 平成27年度の決算額 10,875,106円

イ 主な事業

○ 平成27年度福島県小・中学教頭会総会及び研修会

(ア) 開催期日 5月11日(月)

(イ) 会場 福島県教育会館

(7) 福島県学校図書館協議会

ア 組織及び財政の状況

(ア) 会長 圓谷 円(郡山市立朝日が丘小学校)

(イ) 加盟校 683校

平成27年度の決算額 852,035円

イ 主な事業

(ア) 第64回福島県学校図書館研究大会伊達大会

(イ) 研究主題 「未来を拓き、学びの中核となる学校図書館」

(ウ) 開催期日 平成27年11月6日(金)

(エ) 会場 伊達市立伊達小学校

伊達市立保原小学校

伊達市立伊達中学校

伊達市立桃陵中学校

(オ) 参加人数 254人

(8) 福島県公立小中学校事務研究協議会

ア 組織及び財政の状況

(ア) 会長 野邊 久美子

(イ) 会員数 605名

(ウ) 平成27年度の予算額 4,325,000円

イ 主な事業

学校事務研修会

研修Ⅰ(講話)

福島県教育庁義務教育課 管理主事 佐藤由弘

「福島県の教育施策と学校事務職員の役割」

研修Ⅱ(講演)

福島大学人間発達文化学類 准教授 阿内 春生

「これからの学校と学校事務

～学校ガバナンスと学校事務職員の役割～」

・開催期日 平成27年5月27日(水)

・会場 ユラックス熱海

・参加人数 役員・代議員159名、一般会員120名

第3節 国際化・科学技術の進展等への対応

1 中学生・高校生の科学・技術研究論文

(野口英世賞)

(1) 趣旨

郷土が生んだ世界的な医学者、「医聖のぐち」とうたわれた野口英世博士の名を冠した賞を制定し、県内の中学校・高等学校生徒を対象に論文の募集、表彰を行い、科学及び技術の発展に対応した人材の育成に努める。

(2) 応募期間

平成27年9月1日(火)～9月9日(水)

(3) 応募数

中学校 11点(10校)

高等学校 12点(5校)

(4) 審査会

平成27年10月13日(火) 自治会館 301会議室

(審査員長)

福島大学 副学長 小沢喜仁

(審査員)

いわき明星大学教授 岩田 恵理
 福島大学 教授 大山 大
 福島大学 准教授 川越 清樹

県中学校教育研究会理科部長 半澤 敏
 県私立中学高等学校協会監事 山崎 尚宏
 県高等学校教育研究会理科部会長 坂爪 靖夫

(5) 受賞者

【中学校】

・個人研究の部

賞	氏名	学校名	論文の題名
優秀賞	菅野 遥登	福島市立福島第三中学校	水中シャボン玉の研究
入選	小林 瑞	福島市立福島第三中学校	アジサイの強さを知り植物の「知恵」を調べよう
	木口創太郎	福島大学附属中学校	カブトムシの挑戦 ー成虫の抗菌作用ー
	斎藤恵太郎	会津若松市立第五中学校	「紫外線をさえぎる植物の不思議を探る」 ～紫外線の秘密を探る PART2～

・共同研究の部

賞	団体名	論文の題名
優秀賞	いわき市立勿来第二中学校	アサガオのつるの秘密をさぐる I
入選	会津若松市立湊中学校	風力発電による発電量の研究 ～翼の角度と枚数による発電量の違い～

【高等学校】

・個人研究の部

賞	氏名	学校名	論文の題名
入選	佐藤 駿人	福島県立福島高等学校	真性粘菌の光および酸に対する忌避反応について
	渡辺 英彦	福島県立福島東高等学校	森林環境中に自生する植物を用いた内生菌分離

・共同研究の部

賞	団体名	論文の題名
最優秀賞	福島県立福島高等学校 SS部生物班好適環境水チーム	好適環境水での魚の生理学的変化の解明2 ～陸上養殖の普及を目指して～
優秀賞	福島県立会津学鳳高等学校 SSH探求部物理班	メガソーラー発電の発電効率向上の研究
	福島県立磐城高等学校 天文地質部津波班	防波堤の形状による減災効果の違い
入選	福島県立会津学鳳高等学校 SSH化学班	バイオエタノール生成のための最適環境に関する研究
	福島県立磐城高等学校 天文地質部天文班	電波望遠鏡の製作と太陽フレアの観測

2 中学生・高校生の国際理解・国際交流論文

(朝河貫一賞)

(1) 趣旨

国際化の進展に対応し、世界のさまざまな文化や価値観を尊重するとともに、国際社会の平和と発展を担っていくことのできる青少年の育成を図る観点から、郷土が生んだ国際的な歴史学者「朝河貫一博士」の名を冠した賞を制定し、県内の中学校・高等学校の生徒を対象に論文の募集、表彰を行い、国際化に対応した人材の育成に努める。

(2) 応募期間

平成27年9月1日（火）～9月9日（水）

(3) 応募数

中学校 66点（19校）
 高等学校 32点（4校）

(4) 審査会

平成27年10月15日(木) 自治会館301会議室

(審査員長)

郡山女子大学非常勤講師 ジョンティルマント

(審査員)

福島学院大学客員講師 玄永牧子

福島大学行政政策学類准教授 真歩仁 しょうん

福島民報社論説委員長 佐藤研一

福島民友新聞社編集局報道部長 佐藤 掌

福島県中学校長会理事 小野田 敏之

福島県高等学校長協会普通部会長 青山 修身

(5) 受賞者

【中学校の部】

賞	氏名	学校名	学年	論文の題名
最優秀賞	五十嵐由樹	二本松市立二本松第一中学校	2	差別のない社会へ
優秀賞	宍戸 美咲	福島市立福島第三中学校	3	平和を「伝える」
	和田 奈那	郡山市立行健中学校	3	今あるものを大切に
	佐藤 玄佳	いわき市立泉中学校	3	まだ見える国境
	大関 元喜	福島県立会津学鳳中学校	2	「ブラジル移民」から僕が学んだこと
	磯部 優香	福島大学附属中学校	2	互いにかけてえのない友人になりたい
入選	寺島 瑞稀	福島市立福島第三中学校	3	日本人ができること
	渡邊穂奈美	本宮市立本宮第一中学校	1	「異文化」理解のために

【高等学校の部】

賞	氏名	学校名	学年	論文の題名
最優秀賞	吉田ちひろ	福島県立白河高等学校	1	真の愛国主義者とは
優秀賞	小池 泰宇	福島県立あさか開成高等学校	1	発信することからはじまる未来
	河野 雄大	福島県立郡山萌世高等学校	2	私がアメリカ研修から学んだこと
	近内 翔	福島県立白河高等学校	1	戦後七十年の今日
	松浦奈々帆	福島県立白河高等学校	1	世界と農業
	富井 治弥	福島県立白河高等学校	1	永遠の戦後を目指すために
入選	佐藤 理湖	福島県立あさか開成高等学校	1	世界をつなぐ人と人
	眞田 萌花	福島県立白河高等学校	1	戦後70年が経ち、考えたこと

第6章 高等学校教育

第1節 学校管理

1 生徒数と教職員数

(1) 県立高等学校の推移

区分		年度									
		18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
全日制	本校	85	85	85	84	83	83	83	83	83	84
	分校	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5
定時制	独立	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	併置	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	計	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	分校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(注)募集基準として学校数を算定(課程の変更、募集停止を実施した場合、2年以上の生徒が在籍しても学校数に含めない)。

(2) 中学校卒業者の進学状況

区分		年度											
		16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
卒業生数(A)		25,067	23,593	22,851	23,127	22,333	21,807	21,930	20,887	20,220	19,427	19,782	18,929
進学志願者数(B)		24,392	22,957	22,231	22,471	21,704	21,176	21,305	20,219	19,659	18,873	19,150	18,215
進学者数(C)		24,441	22,981	22,337	22,593	21,873	21,371	21,529	20,467	19,835	19,072	19,388	18,548
進学志願率(B/A)		97.3	97.3	97.3	97.2	97.2	97.1	97.2	96.8	97.2	97.1	96.8	96.2
進学率(C/A)		97.5	97.4	97.8	97.7	97.9	98.0	98.2	98.0	98.1	98.2	98.0	98.0
入学率(C/B)		100.2	100.0	100.5	100.5	100.8	100.9	101.1	101.2	100.9	101.1	101.2	101.8

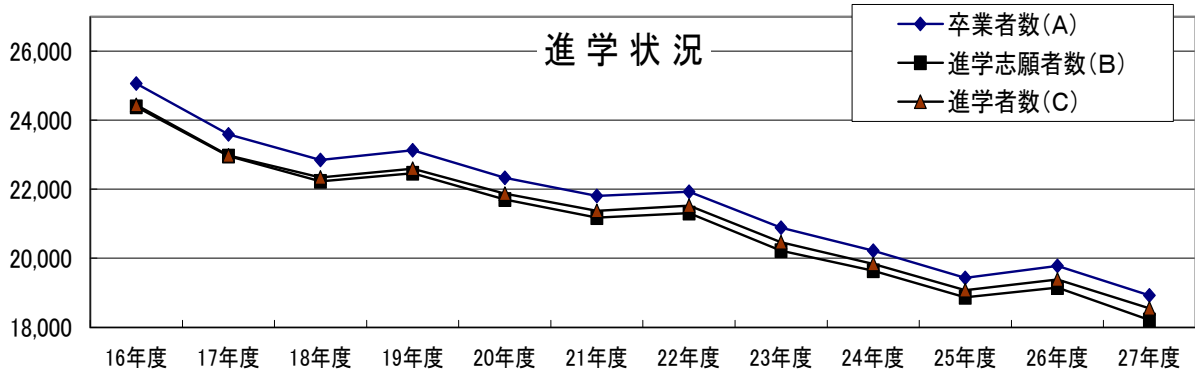
(注)進学とは中学校卒業者のうち県内外を問わず、高校の全日制、定時制、通信制、別科、高専及び特別支援学校高等部へ進学したことをいう(就職者を含む)。進学志願者数には高校の通信制課程志願者は含まれない。

中学校卒業生数は前年度より853名減少し、進学率は前年度と同率、入学率は0.6ポイント増となった。

平成27年度の進学者の内訳は次のとおりである。

高等学校全日制 17,440名 (94.0%)
 高等学校定時制 265名 (1.4%)
 高等学校通信制 432名 (2.3%)
 高等専門学校 238名 (1.3%)
 特別支援学校高等部173名 (0.9%)

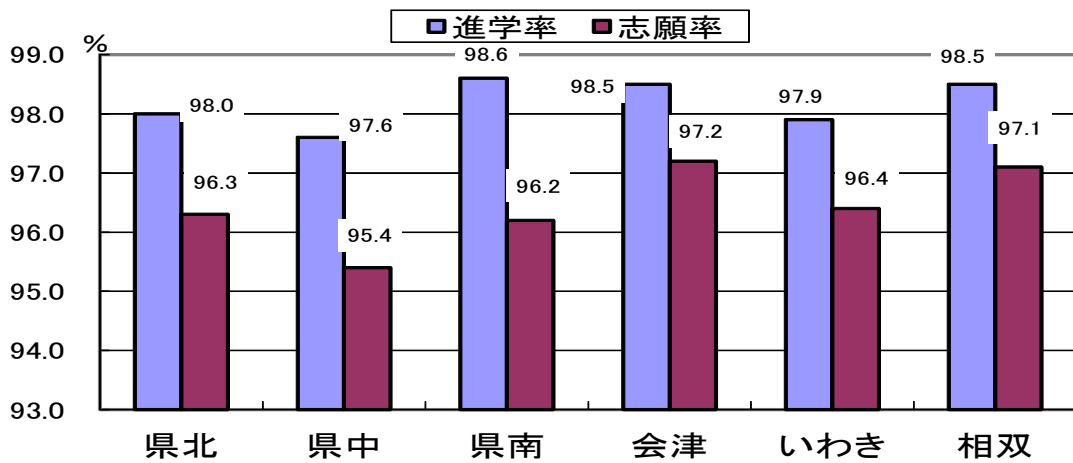
ア 中学校卒業者の進学状況の推移、進学率の推移



○ 高校進学率 (%)

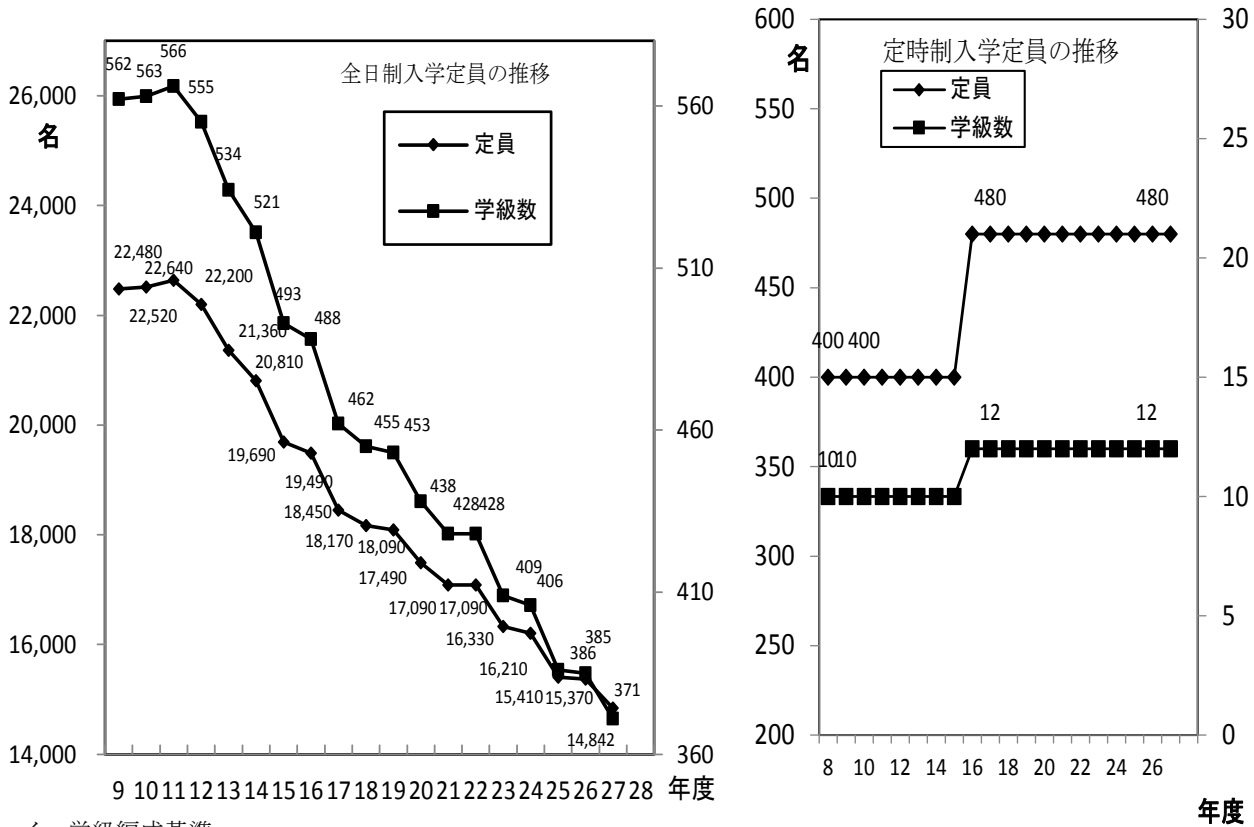
年度	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
全国	96.8	96.8	96.8	96.9	97.0	96.9	97.0	97.3	97.5	97.6	97.7	97.7	97.8	97.9	98.0	98.2	98.3	98.4	98.4	98.5
本県	95.1	95.5	95.2	95.6	96.3	96.0	96.6	96.9	97.5	97.4	97.8	97.7	97.9	98.0	98.2	98.0	98.1	98.2	98.0	98.0

イ 地域別高校志願率・進学率



(3) 県立高等学校入学定員の推移

ア 全日制入学定員並びに定時制入学定員の推移



イ 学級編成基準

学科の区分	全日制	定時制	学科の区分	全日制	定時制
普通科	35, 40	40	国際文化に関する学科	40	-
農業に関する学科	40	-	英語に関する学科	40	-
工業に関する学科	40	40	体育に関する学科	40	-
商業に関する学科	40	-	美術に関する学科	40	-
家庭に関する学科	40	-	国際科学に関する学科	40	-
水産に関する学科	40	-	総合学科	40	-
理数に関する学科	40	-	国際・スポーツに関する学科	40	-
文理に関する学科	40	-			

(4) 県立高等学校全日制課程入学状況の推移

年度	中学校卒業生数	入学定員		志願者数		志願倍率	入学者数	
	A	B 定員	B/A (%)	C 志願者数	C/A (%)	C/B (%)	D 入学者数	D/C (%)
18	22,851	18,170	79.5	19,988	87.5	113	17,508	87.6
19	23,127	18,090	78.2	20,130	87.0	111	17,530	87.1
20	22,333	17,490	78.3	19,368	86.7	111	16,934	87.4
21	21,807	17,090	78.4	18,975	87.0	111	16,666	87.8
22	21,930	17,090	77.9	18,996	86.6	111	16,599	87.4
23	20,887	16,330	78.2	17,725	84.9	109	15,460	87.2
24	20,220	16,210	80.2	16,961	84.3	105	15,090	89.0
25	19,427	15,410	79.3	16,231	83.5	105	14,307	88.1
26	19,782	15,370	77.7	16,589	83.9	108	14,421	86.9
27	18,929	14,842	78.4	15,716	83.0	105	13,961	88.8

(5) 県立高等学校生徒数 (27.5.1現在)

学科の区分		課程	全日制	定時制			専攻科	合計	通信制
				学年制	単位制	計			
普通科	男	10,034	129	320	449		10,483	949	
	女	11,286	107	328	435		11,721	929	
	計	21,320	236	648	884		22,204	1,878	
農業に関する学科	男	1,385					1,385		
	女	1,404					1,404		
	計	2,789					2,789		
工業に関する学科	男	5,580	61		61		5,641		
	女	528	13		13		541		
	計	6,108	74		74		6,182		
商業に関する学科	男	1,667					1,667		
	女	2,995					2,995		
	計	4,662					4,662		
家庭に関する学科	男	8					8		
	女	53					53		
	計	61					61		
水産に関する学科	男	295				35	330		
	女	74				2	76		
	計	369				37	406		
理数に関する学科	男	285					285		
	女	183					183		
	計	468					468		
文理に関する学科	男	397					397		
	女	588					588		
	計	985					985		
国際文化に関する学科	男	20					20		
	女	102					102		
	計	122					122		
国際・スポーツに関する学科	男	82					82		
	女	37					37		
	計	119					119		
国際科学に関する学科	男	128					128		
	女	470					470		
	計	598					598		
英語に関する学科	男	44					44		
	女	195					195		
	計	239					239		
体育に関する学科	男	86					86		
	女	30					30		
	計	116					116		
美術に関する学科	男	11					11		
	女	99					99		
	計	110					110		
総合学科	男	1,454					1,454		
	女	2,403					2,403		
	計	3,857					3,857		
合計	男	21,476	190	320	510	35	22,021	949	
	女	20,447	120	328	448	2	20,897	929	
	計	41,923	310	648	958	37	42,918	1,878	

(6) 県立高等学校通信制課程入学者、卒業者の推移

区分 学校		年度											
		16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
入学者	安積第二高校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	あさか開成高校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	郡山萌世高校	242	263	253	239	262	278	290	216	197	152	133	124
	計	242	263	253	239	262	278	290	216	197	152	133	124

区分 学校		年度											
		15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
卒業者	安積第二高校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	あさか開成高校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	郡山萌世高校	241	233	207	204	200	218	228	260	223	231	192	155
	計	241	233	207	204	200	218	228	260	223	231	192	155

(7) 県立高等学校教職員数の推移

区分	種別	高等学校																			
		全日制・定時制										通信制									
	職種	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
教員	校長	87	87	87	86	85	85	85	85	85	86										
	教諭等	3853	3790	3730	3674	3617	3523	3446	3351	3312	3223	36	37	37	37	37	37	37	36	36	36
	養護教員	120	119	116	114	113	110	110	109	106	106										
	補充教員	155	161	167	155	148	148	144	157	153	153										
	講師																				
	寄宿舎指導員	5	5	5	5	5	5	5	3	3	5										
	実習助手	353	351	346	334	330	330	329	326	326	323										
	計	4573	4513	4451	4368	4298	4201	4119	4031	3985	3896	36	37	37	37	37	37	37	36	36	36
その他職員	事務職員	274	272	266	263	262	257	256	251	249	245	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	技能員																				
	学校司書	65	65	64	61	62	58	57	55	53	53										
	用務員	57	56	56	56	54	53	52	49	48	45										
	ボイ技師	18	17	16	16	14	11	10	11	10	7										
	栄養士	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4										
	調理給食員	4	4	4	4	4	5	4	4	3	3										
	計	149	147	144	141	138	131	127	123	118	112										
練習船	技能職員	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9										
	その他の職員	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13										
	計	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22										
合計	5018	4954	4883	4794	4720	4611	4524	4427	4374	4275	42	43	43	43	43	43	43	42	42	42	

2 教職員人事・任用

(1) 人事異動の概要

平成27年度の高等学校教職員定数は、前年度比99人減の4,187人となった。このうち、教諭等は、前年度比89人減の3,259人である。

また、特別支援学校については、前年度比17人増の1,543人となった。このうち教諭等は前年度比13人増の1,314人となった。

ア 新採用(教諭)について

平成27年度は52名(国語6名・地理歴史公民3名・数学3名・理科9名・保健体育8名・音楽2名・美術1名・書道1名・英語4名・家庭1名・情報1名・農業4名・工業7名・商業2名)の新採用教員を県立高等学校に配置した。

平成27年度に実施した平成28年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験は、採用予定者数50名程度に対して、高等学校志願者は前年度比67名減の780名であった。

一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は54名(前年度比1名増)となり、そのうち辞退者を除く53名(前年度比1名増)が新採用教員として配置されることになる。

イ 校長への昇任

県立学校の校長への昇任は、その職責の重要性にかんがみ、資格・人物・指導力等を十分考慮のうえ、教頭から8名、教育庁関係から現場復帰による2名の登用をみた。これらの管理職は、できる限り自分の専門性をいかせるよ

う適材を適所に配置し、適正な学校管理運営をするよう努めた。

ウ 異動について

本年度も昨年度同様の方針にのっとり、同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に3年以上勤務する者等を含めて392名の教諭等の異動が実現した。

経験豊かな教員の転出が促進されたこととともに、定時制・通信制・及び特別支援学校と全日制高校との交流が進んだことは、教育組織の強化充実に資するところであり、全県的に教育水準及び教育効果の向上に役立つものと期待される。

(2) 平成27年度県立学校教員異動基準

I 一般基準

(ア) 過員解消のための異動は、全県的視野から優先的に取り扱う。

(イ) 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡化を図り主免許教科を担当させるように努める。

(ウ) 優秀な人材の定時制(夜間)・通信制・分校及びへき地校への転入を図るとともに、その者が相当年数(3年以上)勤務した場合の転出については、特に考慮する。

(エ) 同一校には、原則として、最低3年は勤務するものとする。

(オ) 2親等以内の者（姻族を含む。）は、原則として、同一校勤務を避ける。

(カ) 教員人事公募選考制度については、別に定める。

II 異動基準

ア 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

(ア) 採用後引き続き同一校に3年以上勤務した者（以下「初任者」という。）

(イ) 異動2校目において3年以上勤務した者（以下「若年者」という。）

ただし、(ア)、(イ) いずれの場合も、原則として3年以上5年以内で異動させるものとする。

（「若年者」については平成21年度以降の採用者から適用する。）

(ウ) 同一校に8年以上勤務した者（以下「永年者」という。）

ただし、若年者が中通り地域の4校（湖南・埜工業・修明・修明鮫川）、会津地域の4校（川口・田島・南会津・只見）及び浜通り地域の2校（浪江津島・相馬農業飯館）に勤務した場合は、原則として3年以上勤務した場合は、永年とみなすことができる。

イ 地域、地区及び学校群による基準

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内を中通り、会津、浜通りの3地域に分け、各地域に所在する学校を学校規模及び交通の利便性等を考慮して、別表①に定めるⅠ・Ⅱ群に分類し、以下により異動を促進する。

(ア) 原則として、採用後20年以内に3地域の学校に勤務するものとする。

(イ) 農業、工業、商業、看護、福祉等を除く教科の教員については、Ⅱ群の学校に勤務している者が同一地区内で異動するときは、原則としてⅠ群の学校に勤務するものとする。

ただし、Ⅱ群普通系からⅡ群専門系への異動、Ⅱ群専門系勤務者のうち直近の勤務がⅠ群校の者のⅡ群普通系への異動は可とする。

なお、相双地区においてはⅡ群普通系内の異動も可とする。

(ウ) 農業、工業、商業、看護、福祉等の教科の教員については、全県的視野から地域間で相互に異動させるものとする。

ウ 平成20年度以前の採用者について

平成30年度までは次の基準（以下「旧基準」という。）を準用し、下記の(イ) aを満たす者は、上記イ(ア)の規定を満たすものとする。

(ア) 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

a 初任者 b 永年者

(イ) 地区及び学校群による基準

教員組織の均衡化を図るため、県内を県北・県南・会津・いわき・相双の5地区に分け、地区ごとに所在する学校を地理的特殊性等を考慮して、別表②に定めるA・B・C3群に分類し、以下により異動を促進する。

a 原則として次の条件を満たすよう勤務するものとする。

(a) 採用後15年以内に2地区以上の学校に勤務する。

(b) A・B2群の学校に勤務する。ただし、A群については、採用後15年以内とする。

b 県南地区の4校（湖南・埜工業・修明・修明鮫川）、会津地区の4校（川口・田島・南会津・只見）及び相双地区の3校（浪江津島・富岡川内・相馬農業飯館）は、それぞれ1地区とみなす。

c 本宮は平成16年度より県北地区とし、平成16年度以降の転入・在籍者から適用する。

d 群の取扱いの変更は、別表③の適用年度以降に当該校へ転入・在籍した者について適用する。

e 同一学校群内の異動については、次の諸点に留意する。

(a) A群については、原則として、へき地校間、分校間の異動は行わない。

(b) B群については、原則として、同一市内間の異動は行わない。ただし、いわき市及び南相馬市は除く。

(c) C群については同一市内間の異動は行わない。

f 職業に関する学科の教員で、永年者については、全県的視野から地区間で相互に異動することができるものとする。

また、異動後同一校に3年以上勤務した場合は、直近の勤務地区内へ異動することができる。

エ 寄宿舎指導員

原則として2に準ずるが、採用後20年以内に2地域の学校に勤務するものとする。

オ 交流

(ア) 学校種別間の交流

高等学校、特別支援学校及び中学校における教育を充実させるため、県立特別支援学校、市町村公立中学校との交流を促進する。

a 県立特別支援学校との交流は教諭、養護教諭、実習助手、寄宿舎指導員を対象とする。

その期間は、教諭及び実習助手については原則として3年とし、養護教諭及び寄宿舎指導員については原則として3年から8年とする。

b 市町村公立中学校との交流は教諭を対象とし、その期間は原則として2年とする。

(イ) 他県との交流

他県との交流については、別に定める。

別表① 地域・地区・群学校分類表

群 地域・地区	I		II	
	中	北	福島工業(定) 福島北 川俣 梁川 保原 保原(定) 安達 二本松工業 安達東 本宮 福島中央	普通系 福島 橋 福島西 福島東 福島南
通	北	安積(御館) 湖南 須賀川 須賀川桐陽 清陵情報 長沼 岩瀬農業 石川	普通系 安積 安積黎明 郡山東 郡山 あさか開成	福島商業 福島明成 福島工業
中	中	田村 船引 小野 小野(平田) 郡山萌世	普通系 安積 安積黎明 郡山東 郡山 あさか開成	郡山商業 郡山北工業
南	南	光南 塙工業 修明 修明(鮫川) 白河二	普通系 白河 白河旭	白河 白河旭
		喜多方 喜多方東 喜多方桐桜	普通系 喜多方 喜多方東 喜多方桐桜	会津 葵

会 津		猪苗代 耶麻農業 西会津 大沼 川口 坂下 会津農林 田島 南会津 只見 会津二	専門系	会津学鳳 若松商業 会津工業
		会津学鳳中学校		
浜 わ き	い わ き	湯本 小名浜 いわき海星 磐城農業 勿来 勿来工業 好間 遠野 四倉 いわき翠の杜	普通系	磐城 磐城桜が丘 いわき光洋
			専門系	平工業 平商業 いわき総合
相 双	浪 江	浪江 浪江(津島) 富岡 双葉翔陽 ふたば未来学園 相馬農業 相馬農業(飯館) 小高商業 小高工業 新地	普通系	双葉 相馬 原町
			専門系	相馬東

別表② 地区・群別学校分類表

群 地区	A	B	C	特別支援学校 (A群校扱い)
北	福島工業(定) 川俣 梁川 保原(定) 安達東 福島中央	福島商業 福島明成 福島北 保原 安達 二本松工業 本宮	福島 橋 福島工業 福島西 福島東 福島南	盲 聾(福島) 大笹生養護 須賀川養護(医大)
南	安積(御館) 長沼 石川 船引 小野 小野(平田) 郡山萌世 白河第二 湖南 塙工業 修明 修明(鮫川)	須賀川 須賀川桐陽 清陵情報 岩瀬農業 光南 白河実業 田村	安積 安積黎明 郡山東 郡山商業 郡山北工業 郡山 あさか開成 白河 白河旭	聾 郡山養護 あぶくま養護 あぶくま養護(安積) 須賀川養護 須賀川養護(郡山) 西郷養護 石川養護
会 津	猪苗代 耶麻農業 西会津 会津第二 川口 田島 南会津 只見 会津学鳳中学校	喜多方 喜多方東 喜多方桐桜 大沼 坂下 会津農林	会津 葵 会津学鳳 若松商業 会津工業	聾(会津) 会津養護 会津養護(竹田) 猪苗代養護
い わ き	いわき海星 磐城農業 勿来 勿来工業 遠野 いわき翠の杜	いわき総合 いわき光洋 湯本 小名浜 好間 四倉	磐城 磐城桜が丘 平工業 平商業	聾(平) 平養護 いわき養護
相 双	双葉翔陽 新地 浪江(津島) 相馬農業(飯館)	双葉 浪江 富岡 相馬農業 小高商業 小高工業	相馬 相馬東 原町	富岡養護 相馬養護

別表③

高校名	群	適用年度	高校名	群	適用年度	高校名	群	適用年度
小野	A	昭和52	白河実業	B	昭和61	棚倉	A	平成10
福島明成	B	昭和56	川俣	A	平成2	東白川農商	A	〃
福島北	B	〃	福島商業	B	〃	あさか開成	C	平成11
いわき海星	A	〃	梁川	A	平成8	光南	B	〃
磐城農業	A	〃	船引	A	〃	石川	A	〃
勿来工業	A	〃	いわき光洋	C	〃	いわき光洋	B	平成16
双葉翔陽	A	〃	勿来	A	〃			
猪苗代	A	昭和58	相馬農業	B	〃			

(3) 教頭複数制実施校(平成27年度実績)

福島	橘	福島西	福島北
保原	安積	安積黎明	郡山東
郡山北工	郡山	須賀川	岩瀬農業
光南	白河	白河実業	修明
田村	葵	会津学鳳	会津工業
喜多方桐桜	磐城	磐城桜が丘	平工業
平商業	いわき総合	湯本	勿来工業
富岡	ふたば未来学園		郡山萌世
いわき翠の杜	盲	聾	大笹生養護
郡山養護	あぶくま養護	須賀川養護	会津養護
平養護	いわき養護		

3 学校の設置及び統廃合

- 公立高等学校の設置・廃止等(平成28年度) -

(1) 学校の 신설・廃止

なし

(2) 学級増

全日制 2校 2学級

課程	学校名	内 容
全日制	ふたば未来学園	総合学科1学級
	小高工業	機 械 科1学級

(3) 学級減

全日制 2校 2学級

課程	学校名	内 容
全日制	田島	普通科1学級
	小名浜	普通科1学級

(4) 募集停止

なし

(5) 35人学級編制

全日制 3校 6学級

課程	学校名	内 容
全日制	川口	普通科2学級
	南会津	普通科2学級
	只見	普通科2学級

(6) 課程廃止

なし

(7) 学科転換・学科改編

課程	学校名	内 容
全日制	小高工業	機械科1学級、電気科1学級、工業化学科1学級→機械科2学級、電気科1学級、産業革新科1学級

(8) 学科名変更

課程	学校名	内 容
全日制	岩瀬農業	生物工学科1学級→ヒューマンサービス科1学級 生産情報科1学級→アグリビジネス科1学級
	猪苗代	国際観光科1学級→観光ビジネス科1学級

(9) 校名変更

なし

(10) 連携型中高一貫教育校

課程	学校名	連携中学校
全日制	埴工業	埴
	田島 富岡 ふたば未来学園	田島、檜沢、荒海 富岡第一、富岡第二、檜葉、広野 浪江、浪江東、津島、葛尾、双葉 大熊、富岡第一、富岡第二、川内 檜葉、広野
	相馬東	玉野、中村第一、中村第二、向陽、磯部

(11) 併設型中高一貫教育校

会津学鳳高等学校(会津学鳳中学校)

(12) 定時制・通信制

変更なし

(13) 専攻科

変更なし

第2節 学校教育

1 概要

(1) 指導行政の基本方針

生徒の能力・適性、進路・関心等を十分考慮し、地域や学校の実態に応じた教育指導の充実を図りながら、人間性豊かな生徒の育成を目指して、学校教育活動が活発に展開されるよう次の重点目標を設定し、その達成に努めた。

ア 生徒の実態等を踏まえ、各学校が主体性をもって、多様な教育課程を編成し、特色ある学校づくりができるよう指導・援助する。

イ 指導内容の精選と構造化に努め、言語活動の充実と生徒のよい点を積極的に評価するなどの評価の改善を進めることにより、生徒一人一人の個性を生かす指導方法の工夫・改善が図られるよう指導・援助する。

ウ 生徒指導の組織・体制を点検するとともに、教職員の共通理解を基盤として、中学校や家庭との連携を深めながら、生徒理解に基づいた指導が展開されるよう、指導・援助する。

エ 生徒の学校生活への適応を促し、中途退学者の減少及び問題行動・生徒事故の未然防止が図られるよう指導・援助する。

オ 教職員の資質と指導力の向上に努める。

カ 勤労観・職業観の育成にかかわる体験的な学習及び産業教育、情報教育の推進を図る。

(2) 指導組織

高校教育課長を中心に、主幹、主任指導主事及び指導主事が一体となって、それぞれの分掌に従い、企画・運営・指導助言に当たった。

また、学校教育指導委員の指名については、県立高校教諭及び養護教諭40名を指名し、各教科等の指導活動の充実・強化を図った。

(3) 学校教育指導の重点

前記の基本方針に基づき、指導の重点を次のように設定し、指導の充実を図った。

ア 教育課程の適切な運営と指導法の改善を図る。

(イ) 教育課程の適正な実施について、校長会、教頭会において周知徹底を図った。

(ロ) 福島県高等学校教育課程講習会において、高等学校学習指導要領について、その趣旨の徹底を図るとともに、教育課程実施に伴う諸問題について研究協議を行った。

イ 学力向上を図る。

「ふくしま高校生進路実現サポート事業」を実施し、生徒の進路希望実現を目指した各学校の学力向上やキャリア教育に関する取組の支援、授業改善や進学指導力向上のための研究会などを実施した。また、将来社会においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指し、難関大学進学への意識、意欲の高い生徒を対象とした学習セミナーを実施した。さらに対象校の進路担当者が出席した進路指導連絡協議会を実施した。

ウ 生徒指導の充実を図る。

(イ) 各種研修会、学校訪問等の指導を通して、校内における指導体制の確立を図るとともに、教職員の共通理解を図り、同一歩調による生徒指導の充実に努めた。

(ロ) 生徒指導担当者研修会を開催し、生徒の多様化に即した生徒指導の在り方、開かれた生徒指導の在り方について研究協議を行った。

(ハ) 学校における教育相談体制の確立と教育相談活動の改善・充実を図った。

(ニ) スクールカウンセラー活用事業として、生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有するスクールカウンセラーを配置し、いじめや不登校等生徒の問題行動の解決に当たった。

エ 進路指導の充実を図る。

各種の研修会や講座を通して、下記事項の徹底に努めた。

(イ) キャリア教育の観点より低学年からの計画的・組織的な進路指導を通じ進路意識の高揚に努めること。

(ロ) ホームルーム活動における進路指導の充実に努めること。

(ハ) 面談や諸調査・諸検査を通して、生徒の能力・適性・進路の希望等を的確に把握すること。

(ニ) 生徒の自己理解の促進に努めること。

(ホ) 進路指導室の整備及び進路に関する情報や資料の収集に努めるとともに、その効果的な活用を図ること。

(ヘ) 組織的・計画的な進路相談の充実に努めること。

(ト) きめ細かな就職指導の充実・徹底に努めること。

オ 産業教育の充実を図る。

産業教育の改善・充実を図るため、施設・設備の充実及び情報教育の推進に努めた。

(イ) 体験入学の内容の質的改善・充実に努めた。

(ロ) 情報教育の充実のため、教員の研修に努めた。

(ハ) 産業教育関係機関との連携により、産業教育の振興に努めた。

(4) 教職員の資質の向上と学校管理運営の充実

ア 現職教育の充実

(イ) 校内における研修体制の改善・充実に努めた。

(ロ) 研修会、講習会等への積極的な参加を促進し、指導力の向上を図った。

(ハ) 自己研修の充実により、教職員の能力が効果的に発揮されるように努めた。

イ 学校管理運営の適正化

(イ) 学校経営・運営ビジョンを定め、その達成度を客観的に評価し、その結果を公表するように努めた。

(ロ) 管理者が学校管理運営について積極的に指導助言を行うよう努めた。

(ハ) 諸表簿の整理と保管、設備・備品の管理と活用については、適正に行われるように努めた。

- (エ) 学校事務の責任分担を明確にし、正確、敏速、円滑に処理するよう努めた。
- (オ) 各種調査報告について、厳正、的確に作成し、期限の厳守に努めた。
- ウ 勤務体制の確立
 - 教職員の勤務内容を明確にし、その実績について客観的に評価できるようにした。
- エ 使命感の高揚
 - (ア) 教育公務員としての使命感に徹し、規律と責任ある体制を整え、教育能率の向上に努めた。
 - (イ) 教育公務員としての立場を自覚するとともに、服務倫理委員会を活用して事故防止に努め、社会的信用を失墜させることのないようにした。
 - (ウ) 絶えず自己研修に努め、豊かな知性を養い、指導力を高め、職責を十分果たせるようにした。

(5) 教育環境の整備充実

- ア 学習環境の整備充実
 - (ア) 環境整備については、方針を確立し、年次計画による充実を図った。
 - (イ) 学習環境を整備し、学習意欲の高揚を図った。
 - (ウ) 施設・設備の管理と運営の適正化を図った。
- イ 学校事故防止の徹底
 - (ア) 安全教育の計画的実施と、事故防止を配慮した環境の整備改善に努めた。
 - (イ) 学校事故、教職員事故の防止については、適切な対策を講じ、事故の絶無を期した。
 - (ウ) 指導・管理の充実を図るため、関係機関、団体等との連携を密にして協力体制の確立に努めた。

(6) 県立高等学校入学者選抜

- ア 基本方針
 - 平成28年度福島県立高等学校入学者選抜における基本方針
 - (ア) I期選抜
 - I期選抜は、各高等学校が自校の特色に応じてどのような受験生に志願してほしいかを選抜方法と併せて明示し、受験生は、それに応じて自分の志願したい高等学校を主体的に選択し出願できる選抜とする。選抜に当たっては、受験生の個性や学ぶ意欲を重視するとともに、自校の特色に応じた選抜となるよう選抜資料を活用し、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。
 - a 選抜に当たっては、志願理由書の記載内容、調査書の審査結果、面接の結果を資料とする。なお、各高等学校の判断により、学校の特色や学科の特性に応じて、小論文（又は作文）の結果、実技等の結果を選抜資料に加えることができるものとする。
 - b I期選抜においては、各高等学校が自校の教育目標にふさわしい入学者を選抜するため、受験生を多面的・多元的に評価するための資料の一つとして面接の結果を積極的に活用するものとする。
 - このため、面接の内容としては、受験生の個性や

学ぶ意欲をみるとともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

- c I期選抜の定員枠については、県教育委員会が定める範囲の中で、各高等学校が、その特色や学科の特性に応じて設定するものとする。
- (イ) II期選抜
 - II期選抜は、中学校における学習活動の成果を総合的にみる選抜とする。選抜に当たっては、学力検査の成績、調査書の審査結果を資料とし、さらに面接を実施する高等学校においては面接の結果とを併せて資料とし、各学校の特色、学科の特性等に配慮しつつ、その教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。
 - a 学力検査を実施する教科は、全日制の課程においては、国語、社会、数学、理科、外国語(英語)の5教科とする。
 - 定時制の課程においては、各高等学校の判断により、実施教科を減じることができるものとする。
 - また、定時制の課程においては、年齢18歳以上の者については、学力検査を免除することができるものとし、学力検査を免除した場合、小論文（又は作文）を実施することができるものとする。
 - b 学力検査の問題作成に当たっては、中学校学習指導要領に示された各教科の目標及び内容を踏まえて、基礎的・基本的な内容の確実な定着をみる出題を一層工夫するとともに、論述式の解答を求める出題や思考力・分析力を問う出題をさらに工夫するものとする。
 - c 学力検査問題の配点については、各問の標準配点に留意しつつ、各高等学校の判断により配点ができるものとする。
 - d 特定の教科の学力検査の配点の比重を変える傾斜配点については、各学校の特色・学科の特性を考慮し、各高等学校の判断により実施することができるものとする。
 - また、志願者の自己申告による傾斜配点についても、各高等学校の判断により実施できるものとする。
 - e II期選抜の可否判定に当たっては、学力検査と調査書の成績の比重を原則として同等とする。
 - ただし、各高等学校が自校の特色化を図るために必要と判断する場合には、学力検査と調査書の成績の比重を変えることができるものとする。
 - 具体的には、次のようにして可否判定を行う。
 - (a) 学力検査と調査書の成績の比重を同等とする場合
 - 学力検査と調査書の成績のいずれもが定員内にある者で、調査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその結果に特に問題のない者を合格とする。次に、その他の者については、学力検査の成績と調査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその結果とを十分に精査して、総合的に判定する。
 - (b) 学力検査と調査書の成績の比重を変える場合
 - 学力検査と調査書の成績のいずれか一方に一定の数値を掛けて両者を加えて得られた成績と、調

査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその結果とを十分に精査して、総合的に判定する。

ただし、学力検査と調査書の成績の比重を変える場合には、学力検査の特定の教科への傾斜配点及び自己申告による傾斜配点は実施しないものとする。

f 面接については、各高等学校の判断により実施できるものとする。

(ウ) Ⅲ期選抜

Ⅲ期選抜は、Ⅰ期選抜、Ⅱ期選抜及び連携型中高一貫教育に係る入学者選抜（以下「連携型選抜」という。）により定員（会津学鳳高等学校においては、会津学鳳中学校から会津学鳳高等学校への入学を志願する者の数を除いた数とする。）を充足しない高等学校において実施するものとし、Ⅰ期選抜、Ⅱ期選抜及び連携型選抜の受験の有無にかかわらず出願できる選抜とする。

選抜に当たっては、調査書の審査結果、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を資料として、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

なお、Ⅰ期選抜、Ⅱ期選抜又は連携型選抜に合格した者は出願できないものとする。

a 選抜に当たっては、調査書の成績とともに、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を十分に精査する。

b Ⅱ期選抜における学力検査の成績は、Ⅲ期選抜の資料とはしないものとする。

c Ⅲ期選抜における面接は、受験生の学ぶ意欲をみる内容とともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

(エ) 連携型選抜

連携型中高一貫教育を実施する高等学校（以下「連携型高等学校」という。）において、連携型中高一貫教育を実施する中学校（以下「連携型中学校」という。）から目的意識や意欲のある生徒の入学を促進し、6年間を通して生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を図るため連携型選抜を実施する。選抜に当たっては、受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、連携している内容に応じた選抜となるよう配慮し、各連携型高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

a 選抜に当たっては、中学校長から提出された調査書及び面接の結果を資料とする。

なお、各連携型高等学校長の判断により、学校の特色や連携している内容に応じて、課題研究レポート、適性検査等の結果を選抜資料に加えることができるものとする。

b 連携型選抜においては、各連携型高等学校が連携型中高一貫教育にふさわしい入学者を選抜するため、面接の内容としては、受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、中学校における学習活動の成果を

問う内容を含むことができるものとする。

c 募集定員枠については、別に公告する募集定員の30%を下限とし、各連携型高等学校が学校・学科の特色や地域の特性に応じて設定する。

ただし、定員枠については、当該高等学校長はあらかじめ県教育委員会と協議するものとする。

また、Ⅰ期選抜の募集定員枠は、これとは別に設定するものとする。

d 連携型高等学校の連携型選抜に出願することができる者は、当該高等学校と連携している中学校を卒業する見込みの者とする。

なお、連携型中学校を卒業する見込みの者は、当該中学校と連携している高等学校のⅠ期選抜へ出願することはできない。

e 実施期日については、Ⅰ期選抜と同日又はⅠ期選抜に近接した日とする。

なお、併設型中高一貫教育校である会津学鳳中学校から会津学鳳高等学校への入学を志願する者については、各選抜に出願することはできないものとする。

イ 入学者選抜関係日程

6月11日 第1回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議

7月16日 第2回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議

8月25日 第3回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議

8月25日 県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善等に関する調査研究報告書提出

10月9日～10月16日

県北・県中・県南・会津・南会津・いわき・相双の7地区で入学者選抜実施要綱説明会実施

10月16日 平成28年度入学者募集定員決定

(7) Ⅰ期選抜関係日程

1月19日～1月22日 出願書類受付

2月2日（2月3日） 面接等

2月5日 合格内定通知

2月9日～2月12日 入学確約書提出

3月14日 合格者発表

(イ) Ⅱ期選抜関係日程

2月15日～2月18日 出願書類受付

2月19日～2月23日 出願先変更

2月24日～2月25日 調査書提出

3月8日 学力検査

3月8日又は9日 面接等

3月14日 合格者発表

(ウ) Ⅲ期選抜関係日程

3月15日～3月16日 出願書類受付

3月17日 出願先変更

3月22日 面接等
3月23日 合格者発表

(エ) 連携型選抜関係日程

1月19日～1月22日 出願書類受付
I期選抜と同日又はI期選抜に近接した日 面接等
2月5日 合格内定通知
2月9日～2月12日 入学確約書提出
3月14日 合格者発表

(オ) 通信制の課程選抜日程

2月15日～3月25日 出願書類受付
4月5日 合格者発表(個人宛通知)

ウ ふたば未来学園高等学校の入学者選抜

平成27年度入学者選抜において、双葉高等学校(普通科)、浪江高等学校(普通科)、浪江高等学校津島校(普通科)、富岡高等学校(国際・スポーツ科)、双葉翔陽高等学校(総合学科)を募集停止とし、平成27年4月にふたば未来学園高等学校を開校した。平成28年度連携型選抜においては、次の(ア)～(ウ)に該当する者を出願資格を有する者とした。

(ア) 出願時にJFAアカデミー福島又は双葉地区教育構想ビクトリープログラムに参加している者

(イ) 次の双葉郡の中学校に在籍している者

双葉郡浪江町立浪江中学校
双葉郡浪江町立浪江東中学校
双葉郡浪江町立津島中学校
双葉郡葛尾村立葛尾中学校
双葉郡双葉町立双葉中学校
双葉郡大熊町立大熊中学校
双葉郡富岡町立富岡第一中学校
双葉郡富岡町立富岡第二中学校
双葉郡川内村立川内中学校
双葉郡檜葉町立檜葉中学校
双葉郡広野町立広野中学校

(ウ) ふたば未来学園高等学校との連携型中高一貫教育を実施している中学校に在籍している者以外で、東日本大震災が発生した時に、双葉郡内の小学校に在籍していた者又は双葉郡内に保護者が居住していた者で、中学校若しくはこれに準ずる学校若しくは中等教育学校の前期課程を平成28年3月に卒業見込み又は修了見込の者

エ 志願者数・合格者数

◇ 各選抜ごとの集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、国際文化科、英語科、体育科、デザイン科学科、国際科学科が含まれる。

() 内は平成27年度入試のもの。

(1) I期選抜

《全日制》

学科	入学定員	I期選抜 定員	志願者数			志願 倍率	合格内定者数		
			男	女	計		男	女	計
普通科等	8,330	2,067	1,274	1,914	3,188	1.54	853	1,320	2,173
農 業	1,040	446	230	327	557	1.25	182	252	434
水 産	160	56	76	14	90	1.61	49	13	62
工 業	2,200	994	1,295	160	1,455	1.46	915	115	1,030
商 業	1,640	682	319	761	1,080	1.58	206	527	733
家 庭	40	14	2	5	7	0.50	2	5	7
総 合	1,400	453	269	481	750	1.66	176	305	481
計	14,810 (14,842)	4,712 (4,679)	3,465 (3,498)	3,662 (3,735)	7,127 (7,233)	1.51 (1.55)	2,383 (2,272)	2,537 (2,517)	4,920 (4,789)

《定時制》

学科	入学定員	I期選抜 定員	志願者数			志願 倍率	合格内定者数		
			男	女	計		男	女	計
普 通	440	140	75	83	158	1.13	52	62	114
工 業	40	12	3	0	3	0.25	1	0	1
計	480 (480)	152 (150)	78 (55)	83 (64)	161 (119)	1.06 (0.79)	53 (47)	62 (61)	115 (108)

(2) 連携型選抜

学科	入学定員	連携型選抜 定員	志願者数			志願 倍率	合格内定者数		
			男	女	計		男	女	計
普 通	80	40	9	20	29	0.73	9	19	28
工 業	80	24	13	3	16	0.67	12	3	15
総 合	320	160	76	79	155	0.97	57	67	124
計	480 (512)	224 (239)	98 (133)	102 (126)	200 (259)	0.89 (1.08)	78 (118)	89 (101)	167 (219)

(3) II期選抜

《全日制》

学科	入学定員	I期選抜・連携型選抜合格内定者を除いた定員	志願者数			志願倍率	合格者数		
			男	女	計		男	女	計
普通科等	8,330	6,129	3,225	3,332	6,557	1.07	2,695	2,770	5,465
農 業	1,040	606	333	226	559	0.92	289	210	499
水 産	160	98	69	11	80	0.82	63	11	74
工 業	2,200	1,155	1,109	94	1,203	1.04	948	65	1,013
商 業	1,640	907	417	585	1,002	1.10	336	483	819
家 庭	40	33	0	3	3	0.09	0	3	3
総 合	1,400	710	360	422	782	1.10	297	355	652
計	14,810 (14,842)	9,638 (9,746)	5,513 (5,508)	4,673 (4,826)	10,186 (10,334)	1.06 (1.06)	4,628 (4,587)	3,897 (4,028)	8,525 (8,615)

《定時制》

学科	入学定員	I期選抜合格内定者を除いた定員	志願者数			志願倍率	合格者数		
			男	女	計		男	女	計
普 通	440	326	109	80	189	0.58	83	67	150
工 業	40	39	11	1	12	0.31	7	1	8
計	480 (480)	365 (372)	120 (116)	81 (62)	201 (178)	0.55 (0.48)	90 (88)	68 (51)	158 (139)

(4) 外国人生徒等に係る特別枠選抜

学校名	学科名	定員	志願者数			合格者数		
			男	女	計	男	女	計
福島北	総合	若干名	0	0	0	0	0	0
福島南	国際文化	若干名	1	3	4	1	3	4
あさか開成	国際科学	若干名	2	2	4	2	0	2
光南	総合	若干名	0	2	2	0	2	2
会津学鳳	総合	若干名	0	0	0	0	0	0
湯本	英語	若干名	0	2	2	0	2	2
相馬東	総合	若干名	0	0	0	0	0	0

(5) Ⅲ期選抜

《全日制》

学科	入学定員	志願者数			合格者数		
		男	女	計	男	女	計
普通科等	664	102	75	177	74	62	136
農 業	107	25	10	35	16	8	24
水 産	24	4	0	4	4	0	4
工 業	142	42	2	44	32	1	33
商 業	88	5	14	19	3	13	16
家 庭	30	1	3	4	1	3	4
総 合	58	16	9	25	13	9	22
計	1,113 (1,131)	195 (230)	113 (115)	308 (345)	143 (148)	96 (102)	239 (250)

《定時制》

学科	入学定員	志願者数			合格者数		
		男	女	計	男	女	計
普 通	176	34	23	57	23	17	40
工 業	31	6	1	7	2	1	3
計	207 (233)	40 (39)	24 (12)	64 (51)	25 (26)	18 (10)	43 (36)

◇ Ⅲ期選抜実施後の最終集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、国際文化科、英語科、体育科、デザイン科学科、国際科学科が含まれる。

() 内は平成27年度入試のもの。

《全日制》

学科	入学定員	Ⅰ期選抜 合内定者数	連携型選抜 合内定者数	Ⅱ期選抜 合格者数	Ⅲ期選抜 合格者数	合格者数		
						男	女	計
普通科等	8,330	2,173	28	5,465	136	3,631	4,171	7,802
農 業	1,040	434		499	24	487	470	957
水 産	160	62		74	4	116	24	140
工 業	2,200	1,030	15	1,013	33	1,907	184	2,091
商 業	1,640	733		819	16	545	1,023	1,568
家 庭	40	7		3	4	3	11	14
総 合	1,400	481	124	652	22	543	736	1,279
計	14,810 (14,842)	4,920 (4,789)	167 (219)	8,525 (8,615)	239 (250)	7,232 (7,125)	6,619 (6,748)	13,851 (13,873)

《定時制》

学科	入学定員	Ⅰ期選抜 合内定者数	連携型選抜 合内定者数	Ⅱ期選抜 合格者数	Ⅲ期選抜 合格者数	合格者数		
						男	女	計
普 通	440	114		150	40	158	146	304
工 業	40	1		8	3	10	2	12
計	480 (480)	115 (108)		158 (139)	43 (36)	168 (161)	148 (122)	316 (283)

2 現職教育

(1) 各種研修並びに講習会

名称	期日	期間	会場	参加者
新任校長研修会	5.7 ～5.8	2日	教育センター	新任県立高等学校校長 10名
新任教頭研修会	5.11 ～5.12	2日	教育センター	新任県立高等学校教頭 16名
経験者研修Ⅲ (中堅教員研修)	10.28 ～30	3日	教育センター	県立学校中堅教員67名
初任者研修 (基本研修)	4.2 ～4.3	2日	教育センター	高等学校初任者研修 対象教員46名
〃 (第1次)	4.22 ～4.24	3日	教育センター	
〃 (第2次)	2.17 ～2.19	3日	教育センター	
〃 (教科別研修)	(1班) 9.9 ～9.11	3日	・国語(郡山) ・数学(新地) ・英語 (平商業) ・保健体育 (船引) ・美術(相馬) ・家庭 (磐城農業) ・農業 (岩瀬農業) ・工業 (平工業) ・商業 (郡山商業) ・情報 (川俣)	
	(2班) 10.7 ～10.9	3日	・書道 (会津学鳳) ・地歴公民 (二本松工業) ・理科(大沼) ・音楽(田村)	
〃 (地区別研修)	4月～ 11月	11日	各地区施設 学校等	
〃 (所属校に おける研修)	4月 ～3月	150 時間	各所属校	

名称	期日	期間	会場	参加者
経験者研修 Ⅰ	1班 10.14 ～ 10.16 2班 10.19	3日	教育センター	県立学校教職経験5年 を経過した者93名

	～ 10.21			
各所属校に おける研修	5月～ 12月	5日	各所属校	
経験者研修 Ⅱ 共通	4.15	1日	教育センター	県立学校教職経験10年 を経過した者56名
〃 教科指導Ⅰ	7.7 ～7.8	2日	教育センター	
〃 教科指導Ⅱ	2.9 ～2.10	2日		
〃 社会体験研 修	4月 ～1月	2日	各所施設等	
〃 各所属校に おける研修	4月 ～1月	15日	各所属校	
〃 選択研修	4月 ～1月	3日 以上	各所、施設等	
新任教務 主任研修会	8.18 8.20 8.19 7.30	1日 1日 1日 1日	福島南高校 安積黎明高校 会津工業高校 好間高校	新任教務主任125名

(2) 教員体験研修(2か月)

実施せず

(3) 教職員等中央研修

ア 趣旨

校長、教頭、中堅教員に対し、学校の管理運営、学習指導などの諸問題について、それぞれの職務に必要な研修を行い、その識見を高め、指導力の向上を図る。

イ 主催 独立行政法人教員研修センター

ウ 共催 文部科学省

エ 会場 独立行政法人教員研修センター

オ 期間及び参加者

◇校長マネジメント研修(10月19日～23日)

県立小高工業高等学校校長 比佐 功

◇副校長・教頭等研修(9月30日～10月16日)

県立安積黎明高等学校教頭 森下 陽一郎

◇学校組織マネジメント指導者養成指導者養成研修
(10月26日～10月30日)

県立磐城高等学校教頭 齋藤 靖

◇中堅教員研修(11月17日～12月11日)

県立いわき総合高等学校教諭 藁谷 悟
 県立白河高等学校教諭 梅野 史代

3 教育課程

(1) 高等学校教育課程説明会

平成27年度は実施せず。

(2) 福島県高等学校教育課程講習会

ア 目的

高等学校学習指導要領について、その趣旨の徹底を図るとともに、教育課程実施に伴う諸問題について研究協議を行う。

イ 主催

文部科学省及び福島県教育委員会

ウ 期日・会場・参加者数

地 区	期 日	会 場	参加者数
相 双	8月3日	相 馬 高 等 学 校	41
県 北	8月4日	福 島 明 成 高 等 学 校	176
県 中・県 南	8月5日	清 陵 情 報 高 等 学 校	249
会 津・南 会 津	8月6日	会 津 学 鳳 高 等 学 校	119
い わ き	8月7日	い わ き 光 洋 高 等 学 校	132
合 計			717

エ 部会の参加者

設置部会及び参加者数は次の通りである。

部 会	参加者数	部 会	参加者数
総 則	52	書 道	3
国 語	105	家 庭	18
地理歴史	47	情 報	4
公 民	12	農 業	39
数 学	115	工 業	101
理 科	69	商 業	59
保健体育	84	水 産	
音 楽	3	福 祉	2
美術・工芸	4	計	717

※平成27年度は、水産部会の開催なし。

※外国語部会については、教育課程講習会を実施せず英語教育推進リーダー中央研修参加者による研修を実施する。

(3) 情報教育の充実

ア 情報教育研修

(7) 専門研修 高等学校教育の産業教育及び教育センターの情報処理教育講座の欄参照

(4) 一般研修 各種研修において情報処理に関する演習等を実施

イ 情報処理関係学科の設置状況

農 業	生産情報	福島明成、岩瀬農業
工 業	情報技術	郡山北工業、会津工業、平工業
	情報電子	福島工業、清陵情報
	情報システム	二本松工業
商 業	情報処理	郡山商業、清陵情報
	情報会計	福島南、本宮、清陵情報
	情報ビジネス	福島商業、白河実業、若松商業、小高商業
	オフィス情報	須賀川
	情報マネジメント	修明
	情報システム	喜多方桐桜、平商業
水 産	情報通信	いわき海星

(4) 国際理解教育の充実

語学指導等を行う外国青年招致事業

国際化に対応できる人材の育成及び外国語教育の充実

ア 招致人数 32名

イ 配 置 ○県内23の高校に各1名を配置、配置校における指導及び訪問指導
 ○県内8つの高校に各1名、県立中学校に1名配置、専任教における指導

4 学力向上対策等

(1) 平成26年度文部科学省指定各種研究校

研究種別	学校名	指定年度	研究主題
ス ー パ ー サイエンス ハイスクール (SSH)	福 島	24 ～ 28	【通常枠】 「震災・原発被災地として国内外に認知された福島の地域性と5年間のSSH研究開発を融合し、災害復興を可能とする領域横断的な科学力と国際コミュニケーション力を持つ次世代型の指導的人材育成プログラムの開発研究」
	会 津 学 鳳	27	大学、研究機関、地元企業の協力のもとに、高度なコンピュータリテラシーをそなえ、国際化、情報化社会で活躍できる科学技術系人材を、中学校・高等学校・大学の連携体制を通して

		育成するプログラムの研究開発。
磐城	23 ～ 27	最先端の研究機関や大学との連携を密にし、科学技術に対する興味、関心、探究心を高め、地域性を生かした研究を通して才能を伸ばし、国際化社会でも活躍できる人材を育成する理数系教育に関する研究

(2) ふくしま高校生進路実現サポート事業

ア 地域に貢献できる人づくりプロジェクト

生徒の進路実現に必要な学力向上や指導力の向上及び地域とのつながりを重視したプログラム等を実施し、社会人としての自覚や基礎学力の育成を図る。さらには、各学校における指導内容や指導法について連携を図り、3年間を見通した計画的な指導体制の充実を図る。

○対象校：県立高等学校27校

福島商業、福島明成、福島西、梁川、安達、須賀川、須賀川桐陽、長沼、岩瀬農業、光南、白河旭、白河実業、塙工業、石川、田村、船引、小野、若松商業、喜多方東、猪苗代、川口、田島、南会津、湯本、いわき海星、相馬農業、新地

イ 大学進学プロジェクト

生徒の大学進学へ向けた早期の意識改革と学力向上を図る。さらには、教員の教科指導力や進学指導力の向上を図るとともに、各学校における指導内容や指導法等について情報共有や連携を進めて、3年間を見通した計画的な指導体制の充実を図る。

○対象校：県立高等学校13校

福島、福島東、安積、安積黎明、郡山東、郡山、白河、会津、葵、会津学鳳、喜多方、磐城、原町

ウ オールふくしまリーダー育成プロジェクト

教員や予備校講師によるレベルの高い授業を実施し学力の向上を図るとともに、進路講演会や大学の先輩との交流、参加者同士の協議等を通して進路意識の高揚を図り、将来リーダーシップを発揮し社会に貢献できる人材としての礎を築く。

○日時：平成28年3月28日～31日（3泊4日）

○場所：国立磐梯青少年交流の家

○対象：難関大学進学への意識、意欲の高い県立高等学校1年生150名程度。

5 生徒指導・進路指導

(1) 教育事務所指導主事の活動

県内7地区の教育事務所の指導主事の活動によって生徒指導の充実を図った。

主な活動は次のとおりである。

- ア 地区内の高等学校の訪問指導（計画・随時）
- イ 地区内の高等学校生活指導協議会の指導・援助
- ウ 関係諸機関、諸団体との連携
- エ 生徒指導関係の情報と資料の収集
- オ 生徒指導関係の諸研修会における指導

(2) スクールカウンセラーの配置

生徒の問題行動の多様化や深刻化、東日本大震災に伴う心のケアに対応するため、全ての県立高等学校（94校）にスクールカウンセラーを配置した。

6 学校行事

(1) 卒業式

ア 県立高等学校卒業生数

課程	性別	男	女	計
全 日 制		6,970	6,727	13,697
定 時 制		118	113	231
通 信 制		63	95	158
計		7,151	6,935	14,086

イ 卒業式実施期日

種別	全日制	定時制	通信制	計
3月1日	87	5	0	92
3月2日	1	1	0	2
3月4日	0	1	0	1
3月6日	0	0	1	1
合 計	88	7	1	96

ウ 県知事、県議会議長、県教育長臨席校

県知事臨席校	3月1日	福島高等学校 福島工業高等学校
県議会議長臨席校	3月1日	大沼高等学校
県議会副議長臨席校	3月1日	白河高等学校
県教育長臨席校	3月1日	原町高等学校

(2) 修学旅行（県立高等学校）（ ）は前年度

ア 参加生徒総数 14,012人(13,980人)
 イ 参加率 95.2%(99.0%)
 ウ 行先

九州方面 2校(3校)
 沖縄方面 22校(31校)
 広島 0校(0校)
 愛媛 0校(0校)
 海外 3校(4校)

行先	北海道	関東	奈良・京都	中国・近畿	九州	沖縄	四国・中国・近畿	四国・近畿	四国	海外
校数	2 (0)	0 (0)	49 (48)	14 (5)	2 (3)	22 (31)	0 (1)	1 (0)	0 (0)	3 (4)

オ 泊日数
 1泊2日 0校(0校)
 2泊3日 4校(1校)
 3泊4日 75校(84校)
 4泊5日 14校(7校)

カ 必要経費
 生徒一人当たりの最高額 167,254円(168,500円)
 最低額 67,739円(75,354円)
 平均額 99,848円(98,680円)

エ 航空機利用 49校(61校)
 北海道方面 2校(0校)
 大阪方面 20校(23校)

キ 引率責任者
 校長 46校(49校)
 教頭 47校(43校)

7 産業教育

(1) 県産業教育フェア

平成27年度は実施せず。

(2) 文部科学省主催の研修講座と内容

ア 平成27年度産業・情報技術等指導者養成研修

教科	氏名	職名	学校名	研修先	研修期間
農業	太田 理恵子	教諭	岩瀬農業高等学校	クリエイト浜松	8月3日～8月7日
農業	齋藤 勇樹	教諭	相馬農業高等学校	クリエイト浜松	8月3日～8月7日
工業	佐藤 孝則	教諭	二本松工業高等学校	金沢工業大学	8月18日～8月22日
商業	佐久間千鶴子	教諭	修明高等学校	千葉商科大学	7月27日～7月31日
水産	久野 文教	教諭	いわき海星高等学校	茨城県立海洋高等学校	8月24日～8月28日
家庭	門脇 広子	教諭	安達東高等学校	全国高等学校長協会家庭部 会事務局他	8月3日～8月6日

イ 平成27年度学校農業・家庭クラブ連盟指導者養成講座

教科	氏名	職名	学校名	研修先	研修期間
農業	藤原 忍	教諭	相馬農業高等学校	国立オリンピック記念 青少年総合センター	8月10日～8月12日
家庭	高久 礼子	教諭	会津学鳳高等学校	国立オリンピック記念 青少年総合センター	7月23日～7月24日

8 学校訪問

(1) 目的

指導主事等が県立学校を訪問し、関係者とともに授業研究や教科の指導に関する研究協議を行うことにより、学習指導等の充実を図る。

(2) 訪問校

経験者研修Ⅰ、又は経験者研修Ⅱの該当者の勤務する学校から教校を選定する。

(3) 訪問学校一覧

福島高等学校	地理・歴史
福島商業高等学校	商業
福島明成高等学校	農業
福島南高等学校	保健体育
二本松工業高等学校	工業
本宮高等学校	国語、数学
安積黎明高等学校	英語、保健体育
郡山北工業高等学校	学校保健、工業
あさか開成高等学校	国語、地歴・公民
光南高等学校	美術
白河実業高等学校	工業
修明高等学校	地理・歴史、農業
小野高等学校	学校保健
会津高等学校	英語
葵高等学校	理科
会津学鳳高等学校	保健体育
喜多方高等学校	数学
喜多方桐桜高等学校	工業
猪苗代高等学校	商業
耶麻農業高等学校	家庭
大沼高等学校	数学
田島高等学校	音楽
磐城高等学校	地理・歴史、公民
磐城桜が丘高等学校	国語
湯本高等学校	英語、保健体育
好間高等学校	理科
相馬東高等学校	理科
相馬農業高等学校	農業

9 県立学校学校教育指導委員

教科名	氏名	職名	学校名
国語	小野 桃子	教諭	福島東高等学校
	根本久美子	教諭	須賀川桐陽高等学校
	青木 仁志	教諭	小名浜高等学校
地理・歴史	武田 重信	教諭	安積黎明高等学校
	坂本 千春	教諭	いわき光洋高等学校
公民	清野 浩幸	教諭	清陵情報高等学校
	石淵 雅士	教諭	安積高等学校
数学	佐藤 誠一	教諭	葵高等学校
	小池 博枝	教諭	郡山東高等学校
	五十嵐健博	教諭	会津学鳳高等学校
理科	矢澤 和美	教諭	保原高等学校
	根本 靖彦	教諭	安積黎明高等学校
	西山 博文	教諭	相馬高等学校
	生田目淳司	教諭	白河旭高等学校
保健体育	菅野 真幸	教諭	福島東高等学校
	澤田 匡史	教諭	小名浜高等学校
	五島 裕美	教諭	田村高等学校
	相原 隆幸	教諭	川口高等学校
芸術(美術) (書道) (音楽)	朝倉裕一郎	教諭	原町高等学校
	佐藤 真紀	教諭	白河高等学校
	近藤 和子	教諭	須賀川桐陽高等学校
外国語	遠藤 利幸	教諭	耶麻農業高等学校
	吉田 寛	教諭	小野高等学校
	折内 豊	教諭	磐城高等学校
家庭	急式 祐子	教諭	福島北高等学校
	渡邊ひとみ	教諭	相馬農業高等学校
情報	近藤 秀生	教諭	船引高等学校
	鈴木 文武	教諭	いわき光洋高等学校
農業・水産	伊藤 仁	教諭	安達東高等学校
	山田みどり	教諭	相馬農業高等学校
	清水 弥	教諭	いわき海星高等学校
工業	井上 浩一	教諭	会津工業高等学校
	田中 哲也	教諭	勿来工業高等学校
	高橋 健也	教諭	福島工業高等学校
	清水 隆司	教諭	塙工業高等学校
商業	春木 祐二	教諭	郡山商業高等学校
	五十嵐陽一	教諭	湖南高等学校
定通	近江 敬	教諭	いわき翠の杜高等学校
学校保健	添田 多恵	養護教諭	いわき総合高等学校
	森田千香子	養護教諭	郡山養護高等学校

(40名)

10 教科用図書

(1) 教科書採択事務説明会

平成27年度は実施せず。

11 教育研究団体

(1) 福島県高等学校長協会

組織

平成27年度福島県高等学校長協会役員名簿

役職名	氏名
会長	久保田 範 夫 (安積)
副会長	田 代 公 啓 (福島)
副会長	丹 藤 茂 (会津)
副会長	箱 崎 温 夫 (磐城)
副会長	松 岡 浩 三 (原町)
監査	高 野 成 一 (福北)
監査	阿 部 正 春 (福南)
事務局長	本 多 光 弥 (福東)

支部

支 部	支部長	副支部長
県 北	田代 公啓 (福島)	青山 修身 (橘)
		内田 貞俊 (福工)
県 南	久保田範夫 (安積)	高橋 正人 (白河)
		源後 正能 (黎明)
会 津	丹藤 茂 (会津)	高城 友治 (葵)
		佐藤 肇 (喜多方)
いわき	箱崎 温夫 (磐城)	渡邊 望 (桜が丘)
		本馬 忠幸 (好間)
相 双	松岡 浩三 (原町)	日高 裕志 (相馬)
		小島 稔 (双葉)

理事会

	氏名	
理事会	久保田範夫 (安積)	青山 修身 (橘)
	田代 公啓 (福島)	喜多見 薫 (福商)
	丹藤 茂 (会津)	横山 道夫 (福明)
	箱崎 温夫 (磐城)	内田 貞俊 (福工)
	松岡 浩三 (原町)	池田健一郎 (萌世)
	本多 光弥 (福東)	阿部 教夫 (盲)

専門委員会

◎印 委員長 ○印 副委員長

専門委員会	氏名	
管 理 運 営 委 員 会	◎阿部 武彦 (勿来)	○山内 正之 (会学鳳)
	田代 公啓 (福島)	丹野 純一 (ふ未来)
	阿部 正春 (福南)	阿部 教夫 (盲)
	安瀬 一夫 (石川)	大関 彰久 (石養)
	長岐 博 (田村)	芳賀 孝美 (会養)
	松本 明倫 (平工)	須田 康仁 (相養)

教 育 課 題 委 員 会	◎安田 徹 (川口)	○佐川 尚史 (埜工)
	佐藤 誠一 (川俣)	井戸川恵理子 (聾)
	荒井 勝彦 (清陵)	紺野登喜子 (大笹養)
	水野 晴夫 (修明)	眞部 知子 (郡養)
	安田 修久 (耶農)	田中 誠 (猪養)
	長田 公雄 (四倉)	齋藤 秀美 (い養)
生 徒 指 導 委 員 会	山崎 雅弘 (富岡)	小野 誠子 (富養)
	丹藤 茂 (会津)	
	◎二瓶 賢一 (白夷)	○高梨 哲夫 (二工)
	高野 成一 (福北)	菅野 利彦 (双翔)
	安倍真一郎 (湖南)	江尻 雅彦 (新地)
	伊豆 幸男 (船引)	根本 良政 (翠社)
教 育 課 程 委 員 会	澁谷 栄一 (桐桜)	古河志津子 (あ養)
	皆川 正信 (西会津)	瀬戸 良英 (平養)
	◎佐藤 恵一 (田島)	○吉田 佳正 (大沼)
	横山 道夫 (福明)	森田 晶代 (遠野)
	内田 貞俊 (福工)	佐藤 京治 (浪江)
	横山 隆 (只見)	池田健一郎 (萌世)
高 校 入 試 検 討 委 員 会	本馬 忠幸 (好間)	水野 徳子 (西養)
	◎坂爪 靖夫 (保原)	○瓜生 康弘 (梁川)
	刈屋 俊樹 (あ開)	箱崎 温夫 (磐城)
	瀬谷真理子 (須賀川)	長場 壮夫 (小名浜)
	菅野 哲哉 (光南)	深谷 茂樹 (勿工)
	鈴木 健生 (喜東)	大和田範雄 (相農)
大 学 入 試 対 策 委 員 会	諏佐 一夫 (坂下)	
	◎竹田 真二 (郡東)	○吉田啓一郎 (福西)
	青山 修身 (橘)	佐藤 肇 (喜多方)
	本多 光弥 (福東)	二瓶 晃一 (猪苗代)
	久保田範夫 (安積)	渡邊 望 (桜が丘)
	源後 正能 (黎明)	廣瀬 敬彦 (い光)
就 職 指 導 対 策 委 員 会	大和田 修 (郡山)	遠藤雄二郎 (湯本)
	高橋 正人 (白河)	小島 稔 (双葉)
	宍戸 弘治 (白旭)	日高 裕志 (相馬)
	高城 友治 (葵)	
	◎小林 喜則 (郡商)	○木田 英男 (郡北)
	喜多見 薫 (福商)	松田 泰夫 (平商)
人 権 教 育 委 員 会	太田 孝 (本宮)	澤尻 京二 (海星)
	菅野 直芳 (岩農)	佐久間秀夫 (磐農)
	渡辺 譲治 (小野)	齋藤 寿 (小商)
	深津 文夫 (若商)	比佐 功 (小工)
	二瓶 益幸 (会工)	鹿目 敦子 (須養)
	渡邊 芳広 (会農)	
人 権 教 育 委 員 会	◎佐藤 信常 (安達)	○鎌田 由人 (相東)
	中野 幹夫 (安達東)	吉津三千彦 (南会津)
	五輪美智子 (須桐)	吉田 豊彦 (い総)
	杉内 聡恵 (長沼)	松岡 浩三 (原町)

部会長

部 会	氏 名
普通部会	青山 修身 (橘)
商業部会	喜多見 薫 (福島商業)
農業部会	横山 道夫 (福島明成)
工業部会	内田 貞俊 (福島工業)
水産部会	澤尻 京二 (いわき海星)
家庭部会	森田 晶代 (遠野)
定通部会	池田健一郎 (郡山萌世)
特別支援部会	阿部 教夫 (盲)
理数部会	五輪美智子 (須賀川桐陽)
英語国際部会	阿部 正春 (福島南)
体育部会	長岐 博 (田村)
総合学科部会	高野 成一 (福島北)

全国校長会

部 会	氏 名
理 事	田代 公啓 (福島)
理 事	久保田範夫 (安積)
理 事	箱崎 温夫 (磐城)
管理運営	阿部 武彦 (勿来)
教育課題	安田 徹 (川口)
生徒指導	二瓶 賢一 (白河実業)
教育課程	佐藤 恵一 (田島)
大学入試	竹田 真二 (郡山東)
就職対策	小林 喜則 (郡山商業)
人権教育	佐藤 信常 (安達)

(2) 福島県高等学校教育研究会

ア 財政及び組織の状況

(7) 本部

平成27年度福島県高等学校教育研究会

役職名	氏名	所属校・職名
会長	青山 修身	福島県立橘高等学校長
副会長	坂爪 靖夫	保原高等学校長
副会長	喜多見 薫	福島商業高等学校長
監査	内田 貞俊	福島工業高等学校長
監査	横山 道夫	福島明成高等学校長
委員	比佐 功	小高工業高等学校長
委員	佐藤 恵一	田島高等学校長
委員	横山 道夫	福島明成高等学校長
委員	高橋 正人	白河第二高等学校長
委員	二瓶 晃一	猪苗代高等学校長
委員	佐久間秀夫	磐城農業高等学校長
委員	竹田 真二	郡山東高等学校長
委員	菅野 哲哉	光南高等学校長
幹事	吉村 淳	橘高等学校教頭
幹事	伊東 光司	橘高等学校教頭

(4) 部会

部会名	部会長氏名	所属校・職名	会員数
養護教諭	荒井 勝彦	清陵情報高等学校長	151
保健体育	比佐 功	小高工業高等学校長	449
理 科	坂爪 靖夫	保原高等学校長	500
音 楽	佐藤 恵一	田島高等学校長	87
農 業	横山 道夫	福島明成高等学校長	223
工 業	内田 貞俊	福島工業高等学校長	424
商 業	喜多見 薫	福島商業高等学校長	350
定 通	高橋 正人	白河第二高等学校長	155
英 語	二瓶 晃一	猪苗代高等学校長	465
数 学	竹田 真二	郡山東高等学校長	514
家 庭	佐久間秀夫	磐城農業高等学校長	152
美術工芸	菅野 哲哉	光南高等学校長	70

○平成27年度予算 7,045,906円

第7章 特別支援教育

第1節 学校管理

1 児童生徒数と教職員定数

(1) 児童生徒数の推移

種別	部/年度	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
視覚障がい 特別支援学校	小学部	12	8	8	10	9	7	6	6	4	3
	中学部	5	11	12	10	7	6	7	8	6	5
	高等部	36	39	28	29	32	33	35	30	25	24
	計	53	58	48	49	48	46	48	44	35	32
聴覚障がい 特別支援学校	幼稚部	13	13	14	17	17	14	16	11	17	12
	小学部	39	33	35	35	44	42	46	54	45	44
	中学部	24	24	21	24	20	21	17	18	22	25
	高等部	24	27	25	23	24	25	29	24	24	22
計	100	97	95	99	105	102	108	107	108	103	
知的障がい 特別支援学校	小学部	457	460	462	464	493	498	504	501	517	529
	中学部	330	354	385	408	376	345	334	362	373	371
	高等部	546	601	657	670	746	763	824	757	749	751
	計	1,333	1,415	1,504	1,542	1,615	1,606	1,662	1,620	1,639	1,651
肢体不自由 特別支援学校	小学部	113	117	114	118	119	120	124	128	142	139
	中学部	80	67	77	73	71	58	71	68	69	70
	高等部	86	91	84	90	78	83	75	76	72	79
	計	279	275	275	281	268	261	270	272	283	288
病弱 特別支援学校	小学部	29	26	30	29	37	40	34	29	35	27
	中学部	39	39	39	40	36	46	46	36	25	32
	高等部	58	40	42	40	45	44	46	40	32	37
	計	126	105	111	109	118	130	126	105	92	96
計	1,891	1,950	2,033	2,080	2,154	2,145	2,214	2,148	2,157	2,170	

※1 知的障がい特別支援学校は市立特別支援学校、福島大学附属特別支援学校を含む。

※2 視覚障がい特別支援学校高等部は専攻科を含む。

(2) 平成27年度児童生徒数

(H27.5.1 学校基本調査、含む訪問学級)

種別	性別	部	小学部						中学部				高等部				総計			
			本科			専攻科		合計												
			1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	計	1	2	3		計		
視覚障がい 特別支援学校	男		0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	3	3	3	9	8	17	19	
	女		0	0	1	1	1	0	3	1	1	1	3	2	1	3	6	1	7	13
	計		0	0	1	1	1	0	3	2	1	2	5	5	4	6	15	9	24	32
聴覚障がい 特別支援学校	男	5	4	2	6	3	8	5	28	5	7	1	13	7	5	1	13			59
	女	7	2	1	5	4	2	2	16	4	4	4	12	3	4	2	9			44
	計	12	6	3	11	7	10	7	44	9	11	5	25	10	9	3	22			103
知的障がい 特別支援学校	男		64	56	52	57	71	65	365	75	84	99	258	190	158	151	498			1122
	女		23	32	31	26	27	25	164	43	42	28	113	86	101	65	252			529
	計		87	88	83	83	98	90	529	118	126	127	371	276	259	216	751			1651
肢体不自由 特別支援学校	男		14	14	9	15	16	11	79	15	13	18	46	19	16	13	48			173
	女		7	12	16	11	8	6	60	7	7	10	24	11	11	9	31			115
	計		21	26	25	26	24	17	139	22	20	28	70	30	27	22	79			288
病弱 特別支援学校	男		1	4	1	2	4	2	14	8	2	6	16	10	6	7	23			53
	女		2	0	2	2	5	2	13	6	3	7	16	4	6	4	14			43
	計		3	4	3	4	9	4	27	14	5	13	32	14	12	11	37			96

※ 市立特別支援学校、福島大学附属特別支援学校を含む。

(3) 県立特別支援学校教職員定数の推移

種別	年度	盲学校・聾学校										養護学校										
		18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	
教員	校長	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	11	11	11	11	12	12	12	12	12	12	
	教頭・教諭	115	117	114	122	123	121	117	119	115	131	853	868	882	887	948	994	965	963	967	1,145	
	養護教諭	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	23	23	23	23	24	25	24	24	23	24	
	兼任主事																					
	補充教員	8	9	11	7	10	5	10	11	16	14	71	94	120	148	147	132	162	159	160	160	
	講師																					
	寄宿舍指導員	25	25	22	24	24	24	26	25	25	25	28	32	31	30	31	34	33	33	32	34	
	実習助手	8	6	8	8	8	8	8	8	8	8	22	22	22	22	24	24	24	24	24	24	
	計	162	163	161	167	171	164	167	169	170	184	1,008	1,050	1,089	1,121	1,186	1,221	1,220	1,215	1,218	1,399	
事務職員	11	11	11	11	10	11	11	12	11	11	47	46	45	44	48	48	49	53	51	50		
その他の職員	技能労務員																					
	学校司書																					
	用務員	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	9	8	8	8	6	6	6	6	6	6	
	ボイラー技師	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	0	1	1	1	2	2	2	1	1	1	
	栄養職員		2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	4	6	6	7	7	9	8	9	9	
	調理給食員																					
	技能訓練士																					
	マッサージ師																					
	運転手											1	1	1	1	1	1					
計	4	6	5	6	6	6	6	6	6	6	13	14	16	16	16	16	17	15	16	16		
合計	178	180	177	184	187	181	184	187	187	201	1,068	1,110	1,150	1,181	1,250	1,285	1,286	1,283	1,285	1,465		

種別	年度	計									
		18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
教員	校長	13	13	13	13	14	14	14	14	14	14
	教頭・教諭	968	985	996	1,009	1,071	1,115	1,082	1,082	1,082	1,276
	養護教諭	27	27	27	27	28	29	28	28	27	28
	兼任主事	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	補充教員	79	103	131	155	157	137	172	170	176	174
	講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	寄宿舍指導員	53	57	53	54	55	58	59	58	57	59
	実習助手	30	28	30	30	32	32	32	32	32	32
	計	1,170	1,213	1,250	1,288	1,357	1,385	1,387	1,384	1,388	1,583
事務職員	58	57	56	55	58	59	60	65	62	61	
その他の職員	技能労務員										
	学校司書										
	用務員	11	10	10	10	8	8	8	8	8	8
	ボイラー技師	2	3	2	3	4	4	4	3	3	3
	栄養職員	3	6	8	8	9	9	11	10	11	11
	調理給食員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	技能訓練士										
	マッサージ師										
	運転手	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0
計	17	20	21	22	22	22	23	21	22	22	
合計	1,245	1,290	1,327	1,356	1,437	1,466	1,470	1,470	1,472	1,666	

2 特別支援学校及び特別支援学級の実態

(1) 特別支援学校（学部別学級・児童生徒数）

障 が い 種 別	種 別 校 名	幼 稚 部		小 学 部		中 学 部		高 等 部				計	
		学 級 数	幼 児 数	学 級 数	児 童 数	学 級 数	生 徒 数	本 科		専 攻 科		学 級 数	児 童 生 徒 数
								学 級 数	生 徒 数	学 級 数	生 徒 数		
視 覚	県立盲学校			2	3	3	5	8	15	3	9	16	32
	小 計			2	3	3	5	8	15	3	9	16	32
聴 覚	県立聾学校	2	6	6	16	9	25	8	22			25	69
	県立聾学校福島分校	1	3	6	16							7	19
	県立聾学校会津分校	0	0	1	2							1	2
	県立聾学校平分校	1	3	4	10							5	13
	小 計	4	12	17	44	9	25	8	22			38	103
知的 障 が い	県立大笹生養護学校			31	91	12	47	18	95			61	233
	県立あぶくま養護学校			30	99	21	79	32	177			83	355
	県立あぶくま養護学校安積分校			7	16	6	14					13	30
	県立西郷養護学校			17	47	7	26	12	56			36	129
	県立石川養護学校			17	46	9	28	12	57			38	131
	県立会津養護学校			23	72	10	30	20	100			53	202
	県立猪苗代養護学校			4	11	5	15	7	22			16	48
	県立いわき養護学校			23	75	20	64	17	82			60	221
	県立いわき養護学校くぼた							3	7			3	7
	県立富岡養護学校			3	7	5	13	4	13			12	33
	県立相馬養護学校			8	24	5	13	8	53			21	90
	福島市立福島養護学校			8	27	6	25	14	68			28	120
	小 計			171	515	106	354	147	730			424	1599
不 自 由	県立郡山養護学校			30	87	17	47	23	62			70	196
	県立平養護学校			20	52	10	23	8	17			38	92
	小 計			50	139	27	70	31	79			108	288
病 弱	県立須賀川養護学校			3	6	7	17	12	37			22	60
	県立須賀川養護学校医大分校			4	12	2	4					6	16
	県立須賀川養護学校郡山分校			3	1	3	9					6	10
	県立会津養護学校竹田分校			2	8	2	2					4	10
	小 計			12	27	14	32	12	37			38	96
合 計		4	12	252	728	159	486	206	883	3	9	624	2118

(2) 特別支援学級（障がい別・児童生徒数）

管内	学校別 種別 内容	小学校							中学校							計		
		弱視	難聴	知的障がい	病弱	肢体不自由	言語障がい	情緒障がい	小計	弱視	難聴	知的障がい	病弱	肢体不自由	言語障がい		情緒障がい	小計
県北	学校数		4	58		1		39	102		1	35		2		24	62	164
	学級数		4	66		1		47	118		1	39		2		27	69	187
	児童生徒数		6	289		1		208	504		4	161		4		94	263	767
県中	学校数		1	56				46	103		2	38				26	66	169
	学級数		1	66				55	122		2	40				27	69	191
	児童生徒数		2	263				264	529		3	136				92	231	760
県南	学校数	2	1	22		2		8	35			14				6	20	55
	学級数	2	1	24		2		10	39			15				6	21	60
	児童生徒数	2	1	84		2		44	133			48				14	62	195
会津	学校数			30		1		17	48			20				4	24	72
	学級数			30		1		18	49			21				4	25	74
	児童生徒数			113		3		60	176			70				14	84	260
南会津	学校数			8				2	10			5				0	5	15
	学級数			8				2	10			5				0	5	15
	児童生徒数			17				5	22			8				0	8	30
相双	学校数		1	21	1	2		14	39			14				7	21	60
	学級数		1	21	1	2		14	39			14				7	21	60
	児童生徒数		2	76	1	2		44	125			44				15	59	184
いわき	学校数	1		35		0		22	58	1	1	22				10	34	92
	学級数	1		40		0		22	63	1	1	25				11	38	101
	児童生徒数	2		197		0		83	282	1	1	97				35	134	416
計	学校数	3	7	230	1	6	0	148	395	1	4	148	0	2	0	77	232	627
	学級数	3	7	255	1	6	0	168	440	1	4	159	0	2	0	82	248	688
	児童生徒数	4	11	1039	1	8	0	708	1771	1	8	564	0	4	0	264	841	2612

(3) 通級による指導（障がい別・児童生徒数）

管内	学校別 種別 内容	小学校							中学校							計		
		弱視	難聴	言語障がい	自閉症	情緒障がい	L D	ADHD	小計	弱視	難聴	言語障がい	自閉症	情緒障がい	L D		ADHD	小計
県北	学校数			3	1		2	3	9				1		1	1	3	12
	学級数			11	3		4	3	21				1		1	1	3	24
	児童生徒数			146	91		71	34	345				21		11	15	47	392
県中	学校数		1	2	2			6	11			1				1	2	13
	学級数		1	3	2			6	12			1				1	2	14
	児童生徒数		7	39	32			77	155			5				14	19	174
県南	学校数							2	2								0	2
	学級数							2	2								0	2
	児童生徒数							19	19								0	19
会津	学校数			1			1	1	3						1	1	2	5
	学級数			2			1	1	4						1	1	2	6
	児童生徒数			13			17	9	39						13	5	18	57
南会津	学校数							0	0								0	0
	学級数							0	0								0	0
	児童生徒数							0	0								0	0
相双	学校数			2				2	4							1	1	5
	学級数			5				2	7							1	1	8
	児童生徒数			83				25	108							5	5	113
いわき	学校数			2		1		2	5			1					1	6
	学級数			4		1		2	7			1					1	8
	児童生徒数			54		7		34	95			2					2	97
計	学校数	0	1	10	3	1	3	16	34	0	0	2	1	0	2	4	9	43
	学級数	0	1	25	5	1	5	16	53	0	0	2	1	0	2	4	9	62
	児童生徒数	0	7	335	123	7	88	198	761	0	0	7	21	0	24	39	91	852

(4) 訪問教育対象児童生徒数及び担当教員数

年 度	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
対象児童生徒数	76	80	77	75	89	69	90	80	69	58	55	54	49	50	43	42	39	43	38	33	34	36
担 当 教 員 数	33	35	33	36	41	36	45	36	41	33	33	35	27	27	27	27	30	29	24	19	27	32

(5) 障がいによる就学義務の猶予・免除者の推移

年 度	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
猶 予 者 数	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
免 除 者 数	4	4	5	7	5	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3 教職員人事・任用

(1) 人事異動の概要

平成27年度の県立特別支援学校教職員の定数は、前年比21人増の1,409人となった。このうち、教諭等は、前年比17人増の1,275人である。

ア 新採用について

平成28年度福島県公立学校教員採用試験での特別支援学校の志願者数は、平成27年度に比べ、前年比5人増の256人（小中学校教員採用試験との併願者を含む）であった。一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は61人であり、60人が教諭として採用された。

イ 交流について

平成27年度人事異動は、例年通り4月1日付け実施となった。同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に3年以上勤務する者等を含め116人の教諭の交流が実現した。

また、小・中学校・市立特別支援学校及び福島大学附属特別支援学校との交流（転入）は26人で、高等学校との交流（転入）は9人であった。特別支援教育の更なる充実が期待される。

(2) 平成27年度県立特別支援学校教員異動・交流基準

ア 一般基準

- (ア) 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡をはかるように努める。
- (イ) 同一校には原則として最低3年は勤務するものとする。
- (ウ) 2親等以内の者（姻族を含む）は原則として同一校勤務をさける。

イ 平成20年度以前の採用者についての基準（以下「旧基準」）という。

(ア) 勤続年数による基準

次の基準に該当する者は、原則として異動の対象とする。

○ 採用後引き続き同一校に3年以上勤務した者（以下「初任者」という。）

○ 同一校に8年以上勤務した者（以下「永年者」という。）

(イ) 地区、障がいによる基準

教員の均衡化を図るため、県内を県北、県南、会津、

いわき、相双の5地区に分け、地区及び障がい別に、所在する学校を別表1に定めるⅠ・Ⅱ群に分類し、以下により異動を促進する。

○ 昭和52年度以降、特別支援学校教員採用者は、原則として、15年以内に2地区および2障がい以上の学校に勤務するものとする。

○ 上記の2障がいの経験については、原則として、別表1注によるものとする。

ウ 平成21年度以降の採用者についての基準（以下「新基準」という。）

(ア) 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

○ 初任者

○ 異動2校目において3年以上勤務したもの（以下「若年者」という。）

○ 永年者

(イ) 地域による基準

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内各学校を別表2のとおり中通り、会津、浜通りの3地域に分け、異動を促進する。

原則として、採用後20年以内に3地域の学校に勤務するものとする。

エ 平成24年度より、採用年度にかかわらず新基準を適用する。

ただし、平成20年度以前の旧基準採用者については、平成30年度まではイ(イ)別表1を準用し、(イ)○印を満たす者は、ウ(イ)の規定を満たす者とみなす。

オ 交流

特別支援学校及び小学校、中学校、高等学校における教育を充実させるため、県立特別支援学校と市立特別支援学校及び市町村公立小・中学校、県立高等学校との交流を促進する。その期間は、教諭及び実習助手については原則として3年とし、養護教諭及び寄宿舎指導員については、原則として3年から8年とする。

別表1 県立特別支援学校地区別・障がい別・群別学校

群分類 障がい 地区	I 群	II 群			
	知的障がい教育を主とする学校	視覚障がい教育を主とする学校	聴覚障がい教育を主とする学校	肢体不自由教育を主とする学校	病弱教育を主とする学校
県北	大笹生養護	盲	聾(福島)		須賀川養護(医大)
県南	あぶくま養護 あぶくま養護(安積) ----- 西郷養護 石川養護		聾	郡山養護	須賀川養護 須賀川養護 須賀川養護(郡山)
会津	会津養護 猪苗代養護		聾(会津)		会津養護(竹田)
いわき	いわき養護 いわき養護(くぼた)		聾(平)	平養護	
相双	富岡養護 相馬養護				

注：平成20年度までの採用教員について

- (1) II群内の学校のみ経験者は、I群の学校に勤務することを必須とする。
- (2) I群の学校に勤務している者、又は勤務した者で、2障がいの経験を有していない者は、II群内の学校での勤務をするものとする。
- (3) ただし、平成7年度までに2地区及び2障がいの勤務経験を終了している者はこの限りではなく、これまで2地区及び2障がいの勤務経験を有していない者、及び平成8年度以降平成20年度までの採用教員については、(1)、(2)の勤務経験を必要とする。

別表2 県立特別支援学校地域別学校

地域	地区	学校	
中通り	県北	盲聾(福島)	大笹生養護 須賀川養護(医大)
	県中	聾 須賀川養護 あぶくま養護	郡山養護 須賀川養護(郡山) あぶくま養護(安積)
	県南	石川養護	西郷養護
会津	会津	会津養護 聾(会津)	会津養護(竹田) 猪苗代養護
浜通り	いわき	平養護 聾(平)	いわき養護 いわき養護(くぼた校)
	相双	富岡養護	相馬養護

第2節 学校教育

1 概要

(1) 指導行政の基本方針

学校教育審議会答申(平成21年9月)の基本理念「地域で共に学び、共に生きる教育」をもとに、第6次総合教育計画(改訂版)で、特別支援教育の推進に向けた取組を行った。

本県では、「共に学ぶ」理念のもと、障がいのある子どもが障がいのない子どもと共に学ぶ環境づくりを推進し、障がいのある子どもが地域の小・中学校等で、障がいのない子どもと共に学ぶことができる教育環境の整備を進めた。第6次総合教育計画(改訂版)では、次の基本的な方針のもとに、大きく5つの具体的な取組を示し、その充実に努めた。

○ 基本的方向性

- ・ 障がいのある子どもたちが、就学前、在学中、さらには卒業後において、一貫した支援を受けることができるよう、医療、保健、福祉、教育、労働等の関係機関の連携を深めることなどにより、地域で「共に生きる」ことができる体制の整備を進める。
- ・ 障がいのある子どもが、一人一人のニーズに応じて、地域の幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校において学ぶことができるよう、教員の専門性の向上、校内支援体制の整備・充実、すべての保護者に対する特別支援教育への理解の促進などにより、各学校における「共に学ぶ」環境づくりを進める。

○ 具体的な取組

- ・ 地域におけるインクルーシブ教育システムの構築と理解啓発の促進、小・中学校における特別支援教育の充実
- ・ 高等学校における特別支援教育の充実
- ・ 特別支援学校における特別支援教育とセンター的機能の充実
- ・ 教員の特別支援教育に関する指導力の向上

(2) 指導組織

課長、主幹兼副課長、主任管理主事1名、管理主事3名、主任指導主事1名、指導主事5名、各教育事務所特別支援教育担当指導主事7名、教育委員会委嘱特別支援教育担当学校教育指導委員8名をもって指導に当たった。

(3) 学校教育指導の重点

前記の基本方針に基づき、指導の重点を次のように設定し、指導の充実を図った。

ア 教育内容・方法の改善充実

- (7) 児童生徒一人一人の障がいの状態や教育的ニーズに応じた適切な教育を行うために特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室等の教員に対し、教育課程実施に伴う指導上の問題点、個に応じた指導の工夫改善、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成等について研修を行い、指導担当者の指導力の向上に努めた。
- (4) 各種研修会、要請訪問等を通して、幼児児童生徒の実

態に応じた学習指導、生徒指導等の諸問題について協議を深め、学校運営の質的向上に努めた。

イ 生徒指導の充実

幼児児童生徒の障がいの状態や特性について、教職員の共通理解を図り、幼・小・中・高等部の一貫した指導に努めるとともに、生徒指導の機能を生かした授業や家庭及び関係機関との連携に努めた。

また、県立特別支援学校の生徒指導担当者による連絡協議会を7月と11月の2回開催し、本県の生徒事故の現状や課題の共有を図り、事故の未然防止に向けた取組の充実に努めた。

ウ 進路指導の充実

「社会自立を目指すスキルアップ事業」を実施し、生徒の社会参加・自立を図るため、全ての高等部設置県立特別支援学校による「特別支援学校作業技能大会」を開催した。作業技能検定や作業製品品評等で得られた外部専門家からの評価を生かし、各校の進路に関する取組のさらなる充実に努めると共に、生徒の就労に向けた企業等への理解啓発を行った。また、「次世代のふくしまを担う人材育成事業（特別支援学校における就労総合支援事業）」において、生徒の就職率とその定着率の向上を目指し、高等部を設置する特別支援学校の進路指導担当者による進路支援チーム会議を開催し、教員の進路指導に関する専門性の向上と、労働、福祉の各関係機関と連携した早期からの支援体制の構築を図った。

エ 発達障がいのある児童生徒への指導の充実

障がいの多様化に対応した教育課程の編成に努め、個に応じた指導計画の作成及び指導の充実に努めるなど、学習指導要領の趣旨を生かした特別支援学級経営の充実に努めた。また、通常の学級に在籍する発達障がいのある児童生徒の理解や指導の在り方について、各地域において幼稚園、小・中学校、高等学校等の特別支援教育コーディネーターや教員を対象とした研修を開催し、指導力や専門性の向上に努めた。

オ 交流及び共同学習の推進

近隣の幼稚園や小・中学校、高等学校との交流及び共同学習や、児童生徒の居住地における学校との交流を通し、幼児児童生徒の経験を広め、社会性を養うとともに、障がいのあるなしにかかわらず、お互いを理解し尊重する心を育むことに努めた。

カ 情報教育の充実

幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難を改善・克服し、学習を支援するために情報機器や情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用するとともに児童生徒の情報活用能力の育成に努めた。

(4) 教職員の資質と指導力の向上

ア 「インクルーシブ教育システム構築事業」事業担当者会議の開催

事業を推進する指導主事が参集し、各事業実施状況等の報告及び課題についての協議を行い、各教育事務所域

内の支援体制の整備や特別支援教育に関する指導の重点や事業概要等について研究協議を行い、各教育事務所域内の特別支援教育の充実に向けた指導業務の円滑な推進を図った。

イ 学校教育指導委員連絡協議会の開催

特別支援教育に関する指導の重点や事業概要及び学校教育指導委員の任務についての研修を行い、学校教育指導委員の資質の向上を図った。

ウ 特別支援学校初任者研修、経験者研修の実施

特別支援学校の初任者に対し、校内・校外における研修を通して、実践的指導力と使命感を養った。

また、教職経験に応じた経験者研修を実施し、校内におけるリーダーとしての力量の向上に努めた。経験者研修において、教科（領域）指導研修や社会体験研修等を行った。

エ 特別支援教育担当教員専門研修

特別支援教育に関し、指導的立場に立つ教員の育成に対し、専門的知識及び技術を習得させ、資質の向上と指導力の向上を図るため、教員6名を国立特別支援教育総合研究所の専門研修へ派遣した。

(5) 就学相談の推進

学校教育法施行令一部改正による就学の仕組み等の周知を図るため、「就学指導の手引き」を作成し、市町村教育委員会、学校、関係機関に配布するとともに、市町村教育委員会を対象に就学指導協議会を県内7か所で開催した。

また、市町村の就学先決定における相談の充実については、各教育事務所で支援し、障がい児の早期からの一貫した支援に努めた。

(6) 特別支援教育の推進

ア 特別支援学校における医療的ケア実施事業

「平成27年度特別支援学校における医療的ケア実施事業」を実施し、教育・医療・福祉等関係者からなる「医療的ケア実施運営協議会」を設置し、本県における医療的ケアの在り方について研究・協議を行った。また、常時、医療的ケアを必要とする児童生徒（訪問教育や病院入院生徒は除く）が、在籍している学校（12校）に看護師を配置した。さらに、医療的ケアの実施を指導する「指導医の委嘱」、地域の保健・医療・福祉機関のバックアップ体制の確立のための「医療的ケアサポート会議の設置」、医療的ケアの実施に必要な「医療機器等の整備」を行った。

※看護師配置校

聾学校、大笹生養護学校、郡山養護学校、あぶくま養護学校、須賀川養護学校、西郷養護学校、石川養護学校、会津養護学校、会津養護学校竹田分校、平養護学校、いわき養護学校、相馬養護学校

【平成27年度医療的ケア実施運営協議会委員】

氏名	委嘱時の職名
◎三島 博	大原総合病院・顧問
○森田 浩之	県総合療育センター・副所長
古橋 知子	福島医科大学看護学部・准教授
遠藤 智子	保健福祉部自立支援総室障がい福祉課主幹
鈴木 朋子	保健福祉部自立支援総室障がい福祉課主査
片寄 一	県養護教育センター・所長
鈴木 仁	白河こひつじ学園・相談支援アドバイザー
齋藤 恵子	聾学校・教頭
和知 学	大笹生養護学校・教頭
菅野かおり	郡山養護学校・教頭
杉山 裕恵	あぶくま養護学校・教頭
小野 美花	須賀川養護学校・教頭
江見 浩二	西郷養護学校・教頭
菅野美恵子	石川養護学校・教頭
佐藤 登	会津養護学校・教頭
渡邊 周二	会津養護学校竹田分校・分校長
阿部 和行	平養護学校・教頭
千葉 秀樹	いわき養護学校・教頭
本田 知史	相馬養護学校・教頭
鈴木志保子	平養護学校・看護師
小林 玲子	郡山養護学校・看護師

(◎委員長 ○副委員長)

【医療的ケア実施運営協議会の開催】

○ 平成27年7月9日

【会議における検討事項】

○ 「社会福祉士及び介護福祉士法の一部改正」や「福島県特別支援学校医療的ケア実施要綱の一部改正」を踏まえた県立特別支援学校における医療的ケアの今後の在り方について

【看護師研修会の開催】

○ 年1回の医療的ケア実施校看護師研修会を県養護教育センターにおいて実施した。

イ 「インクルーシブ教育システム構築事業」による市町村における支援体制整備の促進

県内7地区において「特別支援教育体制促進協議会」を年2回開催し、市町村における支援体制の整備・機能充実に向けた支援や、地域自立支援協議会子ども部会等の充実のための具体的方策について協議するとともに、保健福祉部局と連携した相談体制の整備や相談支援ファイルの作成・活用の促進に取り組んだ。また、各教育事務所で特別支援教育啓発セミナーを開催し、地域住民への特別支援教育の理解・啓発に努めた。

ウ 地域支援体制の充実

地域教育相談推進事業として、県内6箇所で開催した相談支援チームを編制し、巡回相談員による教育相談を実施した。相談件数は445件であった。

また、特別支援学校では、地域の特別支援教育のセンターとして特別支援教育に関する研修会や教育相談を行い、市

町村教育委員会等と連携を図り、地域に開かれた学校づくりを推進した。

エ 「高等学校学習支援推進事業」による後期中等教育における発達障がい支援の充実

平成17年度から平成23年度まで、文部科学省「研究開発学校」制度や、県重点事業「LD等の中高連携型生徒支援事業」、「特別支援教育総合推進事業」において進めてきた学習支援員を活用した生徒支援のノウハウを活かし、平成27年度は県立高等学校18校に学習支援員を配置し、高等学校における支援を必要とする生徒への支援の充実を図った。

オ 障がいのある幼児児童生徒の就学相談の充実

市町村教育委員会、公立小・中学校長を対象に学校教育法施行令の一部改正に伴い、「特別支援教育就学指導協議会」において、平成26年4月に発行した「特別支援学校にかかわる就学事務の手引き」を活用し新しい就学の考え方、就学先決定の流れを周知した。また、本協議会を通して各市町村における早期からの相談支援体制の整備と各学校における教育相談の充実を図った。

2 現職教育

(1) 教職員の研修

研修会については、下表のとおり実施し、教職員の資質向上に努めた。

名称	期日	期間	会場	人数	対象
特別支援学校教育課程運営改善講座	8月19日	1日	県養護教育センター	40	特別支援学校教員
特別支援学級等新任担当教員研修会	4月22日～23日	2日	県養護教育センター	97	特別支援学級担当教員
通級指導教室担当教員研修会	7月16日 12月18日	2日	県養護教育センター	62	通級指導教室担当教員
特別支援学校経験者研修Ⅰ	6月30日～7月2日	3日	県養護教育センター	35	特別支援学校教員
特別支援学校経験者研修Ⅱ	6月23日～25日	3日	県養護教育センター	31	特別支援学校教員

特別支援学校初任者研修

名称	期日	期間	会場
宿泊 一次研修	7月28日～30日	3日	郡山自然の家
研修 二次研修	2月17日～19日	3日	郡山自然の家
一般研修	4月15日 ～16日	2日	県養護教育センター

	カウンセ リング研修	6月17日 ～18日	2日	県養護教育 センター
地 区 別 研 修	講習会研 修会等参 加研修	各校ごとに実施	1日	各地区内の該当 学校等
	他校参観 研修	各校ごとに実施	5日	各地区内の該当 学校等
	企業等 体験研修	各校ごとに実施	4日	各地区内の該当 学校等
	社会奉仕 体験活動 研修	各校ごとに実施	2日	各地区内の該当 施設
教育課程別 研修	9月16日	1日	初任者配置校	
学部別研修	11月11日	1日	初任者配置校	
			年間 150 時間 以上	各所属校

(2) 特別支援教育教員短期研修

国立特別支援教育総合研究所（専門研修 2か月）

氏名	職名	学校名	コース等	期間
鈴木新太郎	教諭	相馬養護学 校	知的障害 教育専修	9月2日～ 11月10日
佐藤 綾	教諭	西郷養護学 校	知的障害教 育専修	9月2日 ～ 11月10日
木原 清和	教諭	郡山養護学 校	肢体不自由 教育専修	9月2日～ 11月10日
阿部 真弘	教諭	平養護学校	肢体不自由 教育専修	9月2日～ 11月10日
石垣 太郎	教諭	聾学校	聴覚障害教 育専修	平成28年 1月7日～ 3月11日

(3) 小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会

小・中学校の特別支援教育コーディネーターに対し、校内支援や関係機関との連携の在り方について研修し、特別支援教育コーディネーターの実践力の向上を図った。

(4) 高等学校特別支援教育コーディネーター研修会

高等学校の特別支援教育コーディネーターに対し、校内支援や関係機関との連携の在り方について研修し、特別支援教育コーディネーターの実践力の向上を図った。

(5) 特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会

特別支援学校の特別支援教育コーディネーターを対象に、センターの機能の在り方、国や県の教育施策、コンサル

テーションの進め方等について研修し、特別支援教育コーディネーターとしての専門性の向上及び実践力の向上を図った。

地区	会場	期日	受講者数
県内	県養護教育センター	5月16日 1月21日	42

3 教育課程

特別支援学校教育課程運営改善講座

特別支援学校における教育課程実施上の諸問題に関する専門的な研修を実施することにより、指導的立場にある教員の指導力の向上を図るとともに、学校の実態や児童生徒の障がいの種類と程度に応じた教育課程の編成と適切な実施及び管理に努め、特別支援教育の改善・充実に資する。

地区	期日	会場	人数	参加対象
県内	8月29日	県養護教育セ ンター	40	特別支援学校の 教務主任等

4 訪問教育

通学して教育を受けることが困難な児童生徒に対して行う訪問教育を週3回実施し、登校可能な児童生徒に対して、定期的に他の子どもたちと交流したり、集団学習を行ったりすることができるように、1回はスクーリング(登校学習)を実施した。

さらに、郡山養護学校、会津養護学校、石川養護学校では高等部の訪問教育を実施している。

実施状況は次のとおりである。

校名	学級数		学級数							児童生徒数							スクーリング児童生徒数			
	小学部	病院訪問	中学部	病院訪問	高等部	病院訪問	学部計	病院訪問計	小学部	病院訪問	中学部	病院訪問	高等部	病院訪問	学部計	病院訪問計	小学部	中学部	高等部	計
大笹生養護学校	2		1				3		5		3			8		2			2	
郡山養護学校	1		1		2		4		3		1		6	10		1		2	3	
須賀川養護学校郡山分校		1		1			2				2				2					
須賀川養護学校医大分校		1					1		1						1					
石川養護学校	1				1		2		1			1		2				1	1	
会津養護学校	1				1		2		3			1		4		3		1	4	
平養護学校	1	2		1		1	4	2	4		1		1	2	6	1			1	
相馬養護学校	1						1		1					1		1			1	
合計	7	4	2	2	4	1	13	7	15	5	4	3	8	1	27	9	8	4	12	

※スクーリング児童生徒数は再掲。

5 生徒指導・進路指導

(1) 生徒指導

障がいのある児童生徒一人一人の意思や個性を生かしながら、障がいの状態や発達段階・特性等に応じた指導が十分に行えるように、校内の生徒指導体制の確立に努めた。

特に、児童生徒一人一人の課題を的確に把握し、児童生徒の立場に立った行動理解を行い、児童生徒の自己実現を図るべく、生徒指導の機能を生かした指導援助に努めた。

(2) 進路指導

ア 社会自立を目指すスキルアップ事業

(ア) 事業の趣旨

特別支援学校高等部生徒の社会参加・自立を促すため、特別支援学校作業技能大会を開催し、日頃の進路に関する学習の成果を発表するとともに、外部専門家から客観的な評価を受ける機会とする。

(イ) 実施校

高等部設置県立特別支援学校 15校

(ウ) 実施状況

a 特別支援学校作業技能大会の開催

- ・ 期日 7月29日（火）
- ・ 場所 ビッグパレットふくしま

b 実施部門

- ・ 作業技能検定部門
ビルクリーニング、喫茶接客サービス、パソコンデータ入力
- ・ 作業製品品評部門
作業製品の品評と作業学習の紹介等
- ・ デモンストラーション部門
盲学校理療科のあん摩マッサージ等の技術披露

c 外部評価の活用

- ・ 各作業技能検定部門及び作業製品品評部門の評価表に関する助言
- ・ 作業技能検定部門と作業製品品評部門の審査

イ 次世代のふくしまを担う人材育成事業（特別支援学校における就労総合支援事業）

(ア) 事業の趣旨

高等部を設置する特別支援学校を対象として、労働、福祉等の各関係機関と連携した支援体制整備を基盤とし、企業への理解啓発と、企業で働き続けることのできる人材育成を充実させることにより、就職率と定着率の向上を図る。

(イ) 実施校

高等部設置県立特別支援学校 15校

(ウ) 実施状況

a 進路支援チーム会議の実施

- ・ 特別支援学校進路指導担当による就労促進及び支援の充実に関する協議

b 移行支援機能の充実

- ・ 障がい者就業・生活支援センターとの連携強化

c 企業の求める人材育成

- ・ 作業学習の内容や手法の見直し
- ・ ジョブコーチや企業等からの指導助言
- ・ 「障がい者就職面接会」への参加
- ・ 「特別支援学校早期訓練コース」の活用

d 外部評価の活用

- ・ 「特別支援学校作業技能大会」における作業

技能検定の活用

- ・ 「障がい者技能競技大会」への参加

6 特別活動

(1) 卒業式

ア 県立特別支援学校卒業生数

障がい	学部					合計
	幼稚部	小学部	中学部	高等部		
視覚障がい		0	2	9	11	
聴覚障がい	5	7	5	3	20	
知的障がい		85	112	187	384	
肢体不自由		17	26	22	65	
病弱		2	13	11	26	
計	5	111	158	232	506	

イ 県立特別支援学校卒業式学部別開催日(校数)

学部	開催日							
	3月1日	3月4日	3月10日	3月11日	3月16日	3月17日	3月18日	
幼稚部					1	1	1	
小学部				1	6	4	5	
中学部				3	5	4	5	
高等部	1	2	1	1	3	2	4	

(2) 修学旅行

学部	行き先	日数										人数		
		県内	東北	関東	北陸	関西	九州・沖縄	北海道	日帰り	一泊二日	二泊三日		三泊四日	四泊五日
小学部		2	9	5					11	5				115
中学部			1	14					3	12				141
高等部		1	1	2		6	2	3		2	9	6		230

7 学校訪問

(1) 県立特別支援学校

ア 経験者研修

経験者研修Ⅰ、Ⅱの研究授業日に学校訪問を実施した。

No.	訪問日	学校名
1	9月29日	いわき養護学校くぼた校
2	10月7日	大笹生養護学校
3	10月29日	石川養護学校
4	11月17日	西郷養護学校
5	11月18日	いわき養護学校
6	11月30日	会津養護学校竹田分校

8 県立学校教育指導委員

氏名	職名	所属校
渡部 経子	教諭	盲学校
佐々木孝幸	教諭	聾学校
加藤 良一	教諭	富岡養護学校
加藤 賢一	教諭	あぶくま養護学校安積分校
折原 清治	教諭	郡山養護学校
齋藤 顕	教諭	須賀川養護学校
加藤 一之	教諭	会津養護学校竹田分校
山田真里恵	教諭	相馬養護学校

9 就学指導

(1) 福島県特別支援教育推進会議

ア 福島県特別支援教育推進会議委員

委員	職名
学識見識者	大学教授
関係機関	NPO団体代表
関係機関	県総合療育センター所長
関係機関	県保健福祉部障がい福祉課長
関係機関	県商工労働部雇用労政課長
関係機関	県保健福祉部子育て支援課長
関係機関	県保健福祉部児童家庭課長
教育関係	小・中学校長会代表
教育関係	高等学校長会代表
教育関係	特別支援学校長会代表
教育関係	県養護教育センター所長
教育関係	県教育庁特別支援教育課長

(2) 特別支援教育就学指導協議会

ア 期日及び会場

地区	期日	会場	参加者数
県北	6月11日	吾妻学習センター	58
県中	6月10日	県養護教育センター	38
県南	5月29日	白河合同庁舎	31
会津	6月20日	新鶴公民館	45
南会津	6月5日	御蔵入交流館	9
相双	6月26日	県養護教育センター	22
	6月30日	相馬市教育実践センター	19
いわき	5月19日	いわき合同庁舎	35

イ 参加者

- ・ 各市町村教育委員会就学指導関係者

ウ 説明及び協議

(ア) 説明「障がいのある児童生徒の就学について～平成26年4月作成「特別支援学校にかかわる就学事務の手引き」より～」

(イ) 説明及び協議
「就学事務の手続きについて」
「自校における就学相談の取組」

10 教科用図書

(1) 教科用図書事務説明会

- ア 開催日時・場所
平成27年6月8日・福島県教育センター
- イ 参加者
各教育事務所 各市町村教育委員会
特別支援学校教科書担当者

(2) 学校教育法附則第9条に規定する一般図書の展示期日及び会場

6月15日～6月16日	相馬養護学校
6月17日～6月18日	福島市立福島養護学校
6月19日～6月22日	大笹生養護学校
6月23日～6月24日	福島大学附属特別支援学校
6月25日～6月29日	会津養護学校
6月30日～7月1日	南会津町御蔵入交流館
7月2日～7月6日	石川養護学校
7月7日～7月9日	あぶくま養護学校
7月10日～7月14日	いわき養護学校
7月15日～7月24日	県養護教育センター(一般公開)

11 教育研究団体

(1) 平成27年度福島県特別支援学校長会役員

役職名	氏名	所属校
会長	阿部教夫	盲学校
副会長	井戸川恵理子	聾学校
副会長	塚野薫	福島市立福島養護学校

(2) 平成27年度福島県特別支援学校教頭会役員

役職名	氏名	所属校
会長	岡崎典泰	須賀川養護学校医大分校
副会長	櫛田省吾	平養護学校
副会長	渡邊周二	会津養護学校竹田分校

(3) 福島県特別支援教育研究会

ア 組織

役職名	氏名	所属校
会長	塚野薫	福島市立福島養護学校
副会長	阿部教夫	盲学校
副会長	小林伸行	郡山市立薫小学校

イ 事業の概要

事業名	期日	会場	概要
役員会	2月18日	県養護教育センター	H27事業報告、H28事業計画について

(4) 福島県特別支援教育振興会

ア 役員

役職名	氏名	所属
会長	柳沼穹壹	元あぶくま養護学校長
副会長	桜井和朋	元県PTA連合会長
副会長	穴澤由美	元大笹生養護学校長
理事	丹野功一	県北支部長
理事	松井壽則	県中支部長
理事	緑川孝夫	県南支部長
理事	木村秀	会津支部長
理事	只野裕一	相双支部長
理事	大谷明	いわき支部長
監事	片寄一	県養護教育センター所長
監事	高屋隆男	元聾学校長

イ 事務局

(7) 本部事務担当

聾学校	校長	井戸川恵理子
"	教頭	門馬 栄
		齊藤 恵子
	事務長	加藤 吉昭

(4) 支部

支部	事務局校	支部	事務局校
県北	盲学校	会津	会津養護学校
県中	郡山養護学校	相双	相馬養護学校
県南	西郷養護学校	いわき	平養護学校

第8章 社会教育

第1節 社会教育一般

1 概要

(1) 地域の教育力向上

子どもたちの育ちを支援するためには、地域社会全体で支え合うことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、地域の教育力向上を図ることができるよう、次の事業を実施した。

- ・青少年の体験活動の支援や家庭教育支援、社会教育施設等での学習支援を行うボランティアの登録及びコーディネートを推進する「体験活動・ボランティア推進センター事業」

(2) 地域コミュニティの再生

東日本大震災からの自立的な復興に向けて、住民一人一人が主体的に参画することのできる地域コミュニティ再生のための学びやコミュニケーションの場づくりを推進していくことが必要である。

このため、学校や公民館等の社会教育施設を活用しつつ、学習活動のコーディネートや指導、安全管理等に従事する人材による地域住民の学習・交流活動を促進するとともに、子どもたちの良好な生活環境を整備する。これらを通じ、学びを媒介としたコミュニケーションの活性化や地域の課題解決のための取組を支援し、地域コミュニティの再生を図るために次の事業を実施した。

- ・地域住民の参画を得て、放課後等における子どもたちの健全育成と安全安心な活動拠点づくりを推進する「放課後子ども教室推進事業」
- ・地域人材や社会教育団体などの参画を得て、学校と地域が連携し、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する「学校支援地域本部事業」
- ・公民館等の社会教育施設を活用し、コーディネーターを中心に学習活動の活性化を図っていくことで、地域住民の学習・交流を促進する「地域支援推進事業」

また、未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校、家庭、地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚し、地域全体で教育活動を支援する体制づくりを目指すための「学校・家庭・地域連携サポート事業」を実施した。

さらに、今後の災害に備え、地域の防災拠点である公民館等の社会教育施設における防災体制の整備・充実を図り地域防災力を向上させるために「地域における防災力向上支援事業」を実施し、市町村の社会教育関係者等を支援した。

(3) 家庭教育

家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける

上で重要な役割を担っている。

しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化している。そこで、地域ぐるみで子どもたちを育む仕組みの構築に努めた。

(4) 青少年教育

青少年の豊かな人間性や社会性を育むためには、異年齢の子ども同士の関わりや地域の大人等との関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等の様々な体験の機会の充実を図るとともに環境づくりを促進していくことが必要である。

そのために、学校・家庭・地域が連携を進めながら、地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりが推進されるよう次の事業を実施した。

- ・子どもの体験活動を奨励するとともに、子どもと大人が共通の体験から得た思いや感動を十七音で表現する作品づくりを通して、子どもの豊かな心を育成する「十七字のふれあい事業」

(5) 成人教育

地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力向上のための取組と関連させながら、成人の学習活動や社会参加活動を促進するよう努めた。

(6) 子どもの読書活動推進

第三次「福島県子ども読書活動推進計画」に基づき、関係機関と連携して、地域で子どもの読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館への支援等もできる人材の養成に努めるとともに、福島県子ども読書活動推進会議を開催し、読書活動推進に向けた協議を行った。

また、読書の楽しさや自ら進んで読書に親しむきっかけとして、高校生によるビブリオバトルを開催した。

(7) ユネスコ活動

ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるよう努めた。

(8) ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業

子どもたちの豊かな人間性や生きる力を育むために「ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業」を実施し、東日本大震災の経験を踏まえ、再発見した郷土の良さを伝え合い発信していく様な交流活動を行う団体や充実した自然体験活動等を行う団体に対し、補助金を交付した。

2 社会教育推進体制の充実

(1) 社会教育行政の推進

社会教育担当者会議

第1回 日時 平成27年4月10日(金)

場所 ふくしま中町会館

第2回 日 時 平成28年2月5日(金)
場 所 公立学校共済組合飯坂保養所

(2) 社会教育主事の設定

社会教育活動の充実を図るため、県立自然の家へ社会教育主事を配置するなど設置促進に努めた。

(3) 社会教育関係職員の研修

ア 市町村の社会教育主事や公民館職員、図書館職員、社会教育指導員などの社会教育関係職員を対象とした研修機会の充実を図り、その資質向上に努めた。

イ 国立教育政策研究所等で実施する専門的な研修講座への計画的な派遣に努めた。

(4) 各種社会教育関係団体等との連携

地域の教育力向上を図る観点から、各種社会教育関係団体等の果たす役割や学校・家庭・地域住民の連携を促進するための活動が重要であるため、各種社会教育関係団体等との連携に努めた。

3 社会教育施設の整備充実

(1) 県立社会教育施設の整備充実

ア 県立図書館の整備充実

県民への図書館サービスの向上を図るため、図書館資料や設備・備品等の整備充実に努めるとともに、「県立図書館情報ネットワークシステム」を活用して公立図書館や公民館図書室、学校図書館等との連携の強化に努めた。

イ 福島県自然の家の整備充実

自然の中での集団宿泊体験を通して青少年の健全育成を図る場や機会を拡充するため、自然の家の整備充実に努めた。

(2) 市町村立社会教育施設の整備促進

ア 公民館の整備促進

地域住民のための学習の拠点となる社会教育施設として、多様化した学習ニーズに的確に対応し、充実した公民館活動が行われるよう、市町村に対し、長期的な展望に立った施設・設備の在り方について助言した。

イ 市町村立図書館の整備促進

市町村立図書館を7コース26自治体巡回し、図書館の運営相談や相互貸借資料等の搬送等を行った。

また、高等教育機関にも巡回しその連携体制の強化に努めた。

(3) 災害復旧国庫補助事業

激甚災害に指定された東日本大震災で被災した、公立社会教育施設の災害復旧事業を補助するため、災害査定(現地調査)等の事務を行った。また、未だ申請できない双葉地区等の市町村について情報収集を行い、復旧に向けての準備ができるよう働きかけた。

4 社会教育関係職員の研修

(1) 公民館職員研修会

ア 期日 平成27年5月20日(水)～21日(木)

イ 会場 福島県男女共生センター

ウ 参加対象 市町村公民館職員でおおむね3年未満の者及び社会教育関係者

エ 参加者数 58名

オ 講師

教育庁社会教育課主幹 鈴木 基之
東北学院大学非常勤講師・プランニング開代表

新田新一郎

須賀川市小塩江公民館主事 武田 貴志

ボーイスカウト福島連盟理事長 増子 恵二

郡山市立柴宮地域公民館長 鈴木 峯雄

(2) 福島県市町村社会教育担当者研修会

ア 期日 平成27年9月10日(木)～11日(金)

イ 会場 福島県男女共生センター

ウ 参加対象

社会教育関係行政職員(公民館職員、社会教育主事等の社会教育関係事業担当2年目以上の職員)、社会教育指導員等

エ 参加者数 26名

オ 講師

杉並区教育委員会事務局社会教育主事

中曽根 聡

棚倉町教育委員会生涯学習課生涯学習係長兼学芸員

藤田 直一

棚倉町教育委員会生涯学習課生涯学習係主事

古市 裕幸

福島市吾妻学習センター館長

田村 勝寛

5 社会教育研究集会

(1) 主催

福島県市町村社会教育委員連絡協議会

(2) 主管

田村地区社会教育委員連絡協議会

(3) 後援

福島県教育委員会 田村市教育委員会

三春町教育委員会 小野町教育委員会

郡山市教育委員会

(4) 日程・内容

ア 期日 平成27年8月27日(木)～28日(金)

イ 会場 郡山ユラックス熱海

ウ 参加対象 市町村社会教育委員 市町村社会教育行政担当者 社会教育関係施設職員 社会教育関係団体会員

エ 参加者数 300名

オ 基調講演

講師 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課

演題 「社会総がかりでの人づくりを」

カ 分科会

- 第1分科会「家庭教育支援について」
- 第2分科会「地域の教育力向上について」
- 第3分科会「生涯学習振興について」
- 第4分科会「社会教育委員の役割について」
- 第5分科会「社会教育施設について」

6 社会教育指導員の設置

(1) 設置数

- ア 県北 49名
- イ 県中 18名
- ウ 県南 10名
- エ 会津 72名
- オ 南会津 11名
- カ 相双 13名
- キ いわき 6名

合計 179名

(2) 福島県市町村社会教育指導員研修会（年2回）

ア 第1回

- (ア) 期日 平成27年5月11日（月）
- (イ) 場所 郡山市公会堂
- (ウ) 対象 福島県市町村社会教育指導員
- (エ) 参加者数 144名
- (オ) 講師 社会教育課主幹

イ 第2回

- (ア) 期日 平成27年10月2日（金）
- (イ) 場所 三春交流館「まほら」
- (ウ) 対象 福島県市町村社会教育指導員、青少年教育指導員、社会教育主事、公民館職員等社会教育関係者
- (エ) 参加人数 126名
- (オ) 講師 福聚寺住職 玄侑 宗久
演題「祈りのある暮らし」

7 社会教育主事の市町村派遣

※ 平成22年度より派遣していない。

8 社会教育研修会

(1) 内容

社会教育推進上の諸問題についての協議等を通してその方策を明らかにし、市町村における社会教育の振興・充実に資する。

市町村職員及び社会教育委員等を対象として希望市町村の計画に基づき実施する。

(2) 対象

公民館職員、公民館運営審議会委員、社会教育委員
社会教育関係者

(3) 期日・会場

域内	期日	実施市町村等	参加者
県北	6月8日	福島市	25名
県中	7月9日	石川地区	35名
	7月16日	天栄村	20名
	10月5日	田村市	29名
県南	6月25日	泉崎村	18名
	6月30日	中島村	15名
	12月9日	塙町	14名
会津	11月6日	三島町	5名
	11月17日	喜多方市	56名
	11月25日	北塩原村	11名
	12月22日	会津若松市	35名
南会津	7月6日	只見町	17名
	7月9日	南会津町	21名
相双	6月8日	大熊町	11名
	6月24日	葛尾村	15名
	11月30日	新地町	14名

合計 16箇所 参加者 341名

9 福島県公民館研究集会

- (1) 期日 平成27年10月23日（金）
- (2) 会場 いわき市文化センター
- (3) 参加対象 公民館職員、公民館運営審議会委員等
- (4) 参加者数 111名
- (5) 講師 文部科学省科学技術・学術総括官兼政策課長 神代 浩
演題「福島復興と公民館」

10 福島県公民館主事部会研修会

（福島県公民館研究集会と同日開催）

- (1) 期日 平成27年10月23日（金）
- (2) 会場 いわき市文化センター
- (3) 参加対象 公民館職員等
- (4) 参加者数 111名
- (5) 講師 文部科学省科学技術・学術総括官兼政策課長 神代 浩
演題「福島復興と公民館」

11 社会教育職員研修派遣

(1) 東北大学社会教育主事講習

- ア 主催 東北大学教育学部
- イ 期日・会場
平成27年6月11日（木）～6月12日（金）
福島県男女共生センター
平成27年6月29日（月）～8月7日（金）
国立磐梯青少年交流の家
東北大学教育学部
- ウ 受講者数 17名

エ 修了者名

域内	氏名	勤務先
県中 (3)	井上 謙一	須賀川市立大東中学校
	土屋香代子	郡山市役所中央公民館
	武田 貴志	須賀川市教育委員会小塩江公民館
県南 (2)	角田 敏文	白河市立白河中央中学校
	吉田 剛	西郷村立西郷第一中学校
会津 (3)	酒井 央	昭和村立昭和中学校
	齋藤 和久	会津若松市立第五中学校
	神田 忠恒	会津坂下町立坂下南小学校
南会津 (2)	三瓶 克	南会津町立南郷小学校
	青田 亮一	只見町立只見中学校
相双 (2)	木村 裕之	新地町立駒ヶ嶺小学校
	高野伸一郎	南相馬市立石神第一小学校
いわき (5)	渡邊 博朗	いわき市立平第三中学校
	鈴木 健二	いわき市立小玉小学校
	佐藤 宏	いわき市立川前中学校
	竹田 裕子	いわき市教育文化事業団
	赤津 智彦	いわき市立常磐公民館

(2) 国立教育政策研究所主催講習

ア 社会教育主事講習

(ア) 会場 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

(イ) 期日

a A講習 平成27年7月22日(水)～8月26日(水)

b B講習 平成28年1月20日(水)～2月26日(金)

(ウ) 受講者数

a A講習 0名

b B講習 1名

(エ) 修了者名

域内	氏名	勤務先
B講習(1)	古市 裕幸	棚倉町教育委員会

イ 専門講座等

講座名	期間	受講者数
社会教育主事専門講座	11月9日(火) ～13日(金)	0

12 出版資料

資料名	部門	規格	頁数	広報手段
社会教育 No.336	社会教育	A4	12	ホームページ掲載

第2節 地域の教育力向上

1 概要

子どもたちの育ちを支援するためには、地域社会全体で支え合うことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、地域の教育力向上を図ることができるよう努めた。

2 体験活動・ボランティア推進センター事業

(1) 目的

青少年の社会性や思いやりの心など豊かな人間性を育むため、学校内外を通じた体験活動やボランティア活動の機会の充実を図ることを目的に情報提供やコーディネート等を行う推進センターを県に設置し、市町村並びに市町村センターにおける体験活動・ボランティア活動の推進体制を支援する。

(2) 内容

ア 本部センターの設置

(ア) 構成

- ・センター長(社会教育課長)
- ・副センター長(社会教育課主幹)
- ・コーディネーター(社会教育主事兼指導主事)

(イ) 内容

- ・各種研修会に関する事
- ・連絡調整、情報収集、調査研究に関する事
- ・人材登録に関する事
- ・地域センターの統括、指導助言に関する事

イ 地域センターの設置

(ア) 構成

- ・センター長(教育事務所総務社会教育課長)
- ・コーディネーター(社会教育主事、指導主事)

(イ) 内容

- ・公民館及び学校の訪問指導に関する事
- ・連絡調整、情報収集、調査研究に関する事
- ・人材登録に関する事
- ・市町村センターとの連携に関する事

ウ 学校における推進体制の整備

(ア) 体験活動等推進委員会の開催

(イ) 体験活動等推進委員会主任(教頭又は社会教育主事有資格者等)の配置

エ 学習支援ボランティアの登録推進

(ア) 目的

青少年の体験活動の支援にあたるボランティアの登録を促進するとともに、学校内外における青少年の体験活動を支援することにより、地域の教育力の向上に寄与する。

(イ) 対象 ボランティアを推進する県民一般

(ウ) 内容

学習支援ボランティア、読書活動ボランティア、ノートテイクボランティア、外国出身者支援ボランティア、家庭教育支援ボランティア、病院訪問学習支援ボランティアの登録や活動を支援する。

- ・学習支援ボランティア登録人数 427名
- ・読書活動ボランティア登録人数 264名
- ・ノートテイクボランティア登録人数 2名
- ・外国出身者支援ボランティア登録人数 25名
- ・家庭教育支援ボランティア登録人数 205名

・病院訪問学習支援ボランティア登録人数 19名
計 942名

第3節 地域コミュニティの再生

1 概要

東日本大震災からの自律的な復興に向けて、住民一人一人が主体的に参画することのできる地域コミュニティ再生のための学びの場づくり、コミュニケーションの場づくりを推進していくことが必要である。

このため、学校や、公民館等の社会教育施設を活用しつつ、学習活動のコーディネートや指導、安全管理等に従事する人材による地域住民の学習・交流活動を促進するとともに、子どもたちの良好な生活環境を整備する。

2 放課後子ども教室推進事業

(1) 目的

すべての児童を対象とし、地域の方々の参画を得て、様々な体験活動や交流活動を行う「放課後子ども教室」を設置し、放課後等の子どもたちの安全で健やかな居場所をつくる。

(2) 県事業

ア 研修会の実施

○放課後子どもプラン地区別研修会 6箇所
県北地区

期 日：平成27年9月1日（月）
会 場：福島市松川学習センター
参加者数：48名
内 容：講演・実技研修

県中地区

期 日：平成27年7月2日（木）
会 場：三春町三春交流館「まほら」
参加者数：81名
内 容：講演・演習・情報交換

県南地区

期 日：平成27年7月29日（水）
会 場：白河市表郷公民館
参加者数：33名
内 容：講話・グループ協議

会津地区

期 日：平成27年9月5日（土）
会 場：福島県会津自然の家
参加者数：36名
内 容：講話・演習・交流会・実技講習

南会津地区

期 日：平成27年10月27日（火）
会 場：下郷町コミュニティセンター
参加者数：42名
内 容：講演・実技講習

相双地区

期 日：平成27年10月15日（木）
会 場：相馬市総合福祉センター
参加者数：27名
内 容：ワークショップ・実技講習

イ 放課後子ども教室の実施

県立特別支援学校（3教室）

- ・ 福島県立聾学校福島分校
- ・ 福島県立聾学校平分校
- ・ 福島県立平養護学校

(3) 市町村事業

ア 運営委員会の実施

イ 子ども教室の実施

37市町村 114教室実施

3 学校支援地域本部事業

(1) 目的

地域人材や団体などの参画を得て、学校と地域が連携し、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する。

(2) 市町村委託

19の市町村（桑折町、国見町、大玉村、本宮市、鏡石町、天栄村、石川町、玉川村、田村市、三春町、西郷村、北塩原村、西会津町、柳津町、三島町、相馬市、飯舘村、大熊村、川内村）に29の学校支援地域本部が設置され実施した。

4 地域支援推進事業

(1) 目的

公民館等の社会教育施設を活用し、学習活動の活性化を図ることで、地域住民の学習・交流を促進する。

(2) 市町村委託

22の市町村（伊達市、国見町、本宮市、須賀川市、鏡石町、天栄村、平田村、西郷村、中島村、棚倉町、鮫川村、会津若松市、猪苗代町、喜多方市、西会津町、会津坂下町、三島町、金山町、昭和村、南相馬市、双葉町、楡葉町）で900の講座を実施した。

5 学校・家庭・地域連携サポート事業

(1) 目的

未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校、家庭、地域住民等がそれぞれの役割と自覚し、地域全体で教育活動を支援する体制づくりを目指す。特に、震災後の子どもたちを取り巻く環境の変化に対応した要望に応えることのできる支援を行うことにより、教育環境の復興を加速させる。

(2) 県事業

ア 第1回コーディネーター養成研修会

(ア) 期日 平成27年6月26日（金）

(イ) 場所 いわき合同庁舎

(ウ) 内容

○講演

「子どもを育む地域の力～学校・家庭・地域の連携による教育の推進とその効果～」

文教大学人間科学部人間科学科教授 金藤ふゆ子

○事例発表Ⅰ

「社会教育活動のコーディネート」

いわき市教育委員会生涯学習課生涯学習係

事業推進コーディネーター 矢吹 清光

○事例発表Ⅱ

「三島町学校支援地域本部の取り組み」

三島町学校支援地域本部コーディネーター

小柴奈穂美

○グループ協議

「地域をつなぐコーディネーターの役割～確かなボランティアを育むために～」

(エ) 参加者 71名

イ 第2回コーディネーター養成研修会

(ア) 期日 平成27年10月6日(火)

(イ) 場所 ビッグパレットふくしま

(ウ) 内容

○講演

「地域との連携で学校支援の充実を」

特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク 理事長 生重 幸恵

○事例発表Ⅰ

「地域の子どもは地域で育てる～子どもたちのためにできることを～」

本宮市学校支援地域本部コーディネーター

佐々木菜穂子

○事例発表Ⅱ

「学校を地域みんなで支える北塩原村～学校の応援団～」

北塩原村学校支援地域本部コーディネーター

酒井 美代子

○グループ協議

「地域をつなぐコーディネーターの役割パート2～確かなボランティアを育むために～」

(エ) 参加者 72名

ウ 第3回コーディネーター養成研修会

(ア) 期日 平成28年1月26日(火)

(イ) 場所 ふくしま中町会館

(ウ) 内容

○講演

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」について

文部科学省生涯学習政策局社会教育課地域・学校支援推進室室長補佐 下田 力

○情報交換

「評価・検証委員会設置及び運営方法等について」

(エ) 参加者 55名

エ 学校支援実践研修会 6箇所

(ア) 概要 県北地区、県中地区、県南地区、会津地区、南会津地区、相双地区で合計12回実施。

(イ) 内容 講演、事例発表、グループ協議

6 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業

(1) 目的

災害記録の保存と県民への情報提供のため、関連資料の収集を行う。資料は館内での提供と貸出に加え、出張展示にも活用する。また、避難自治体の教育委員会と連携し学校等への移動図書館(あづま号)の巡回を実施し、資料の貸出による支援を行う。

(2) 内容

ア 震災及び原発事故関連資料収集

資料収集件数 9,457件

イ 避難自治体支援

移動図書館(あづま号)による資料貸出

稼働21回(延べ23ヶ所) 貸出3,585冊

(開催場所 飯館村、檜葉町他 計23ヶ所)

7 地域における防災力向上支援事業

(1) 目的

今後の災害に備え、地域の防災拠点である公民館等社会教育施設における防災体制の整備・充実を図り、地域防災力を向上させるため、市町村の社会教育関係者等を支援する。

(2) 支援者養成プログラム

ア 期日:平成27年5月25日(月)

イ 会場:福島中町ビル

ウ 参加者:24名

エ 内容:

①講義 「地域の防災力を高めよう」

講師 減災と男女共同参画 研修推進センター
浅野幸子

②講義演習「減災・防災と地域コミュニティ」

講師 大阪大学大学院人間科学研究科

教授 渥美公秀

(3) 地域防災力向上支援プログラム

【県北地区研修】

第1回 基礎編

ア 期日:平成27年9月16日(水)

イ 場所:福島県青少年会館

ウ 参加者:42名

エ 内容

①講演 「負けてたまるか!震災との戦い」

講師 南三陸町社会福祉協議会

事務局長 猪俣隆弘

②事例発表「防災サマーキャンプ等」

講師 防災サマーキャンプ実行委員 田子真弓

事務局長 三輪浩尉
インストラクター 加藤義雄

第2回 実践編

ア 期 日：平成27年10月15日（木）

イ 場 所：福島県青少年会館

ウ 参加者：26名

エ 内 容

①講演「地域の防災力向上について」

講師 NPO法人プラスアーツ理事長 永田宏和

②演習「災害時支援体制構築の手順と防災事業の企画・立案」

講師 福島大学ふくしま未来推進事務局

北村育美

【県中地区研修】

第1回 基礎編

ア 期 日：平成27年7月10日（金）

イ 場 所：郡山市労働福祉会館

ウ 参加者：42名

エ 内 容

①講義 「災害時の食のあり方と役割」

講師 ホリカフーズ株式会社取締役 別府 茂

②演習 「わが家の災害対応ワークショップ」

講師 災害ボランティアセンター職員 合田茂広

第2回 実践編

ア 期 日：平成27年9月11日（金）

イ 場 所：郡山市労働福祉会館

ウ 参加者：54名

エ 内 容

①講演 「災害時における災害救援者のストレス等」

講師 筑波大学人間総合科学研究所

教授 松井 豊

②演習 「防災対応力を身につける『クロスロード』」

講師 和信興産株式会社代表取締役 田中勢子

【県南地区研修】

第1回 基礎編

ア 期 日：平成27年9月28日（月）

イ 場 所：塙町防災センター

ウ 参加者：37名

エ 内 容

①塙町防災センターの説明及び施設視察

講師 塙町総務課長補佐兼総務課係長 金澤秀浩

②演習「地域の防災力を高めよう」

講師 減災と男女共同参画 研修推進センター

浅野幸子

第2回 実践編

ア 期 日：平成27年12月3日（木）

イ 場 所：県文化財センター白河館 まほろん

ウ 参加者：21名

エ 内 容

①講義・演習「身近にあるものを避難所経営に生かす」

講師 一般財団法人小野田記念財団

【会津地区研修】

第1回 基礎編

ア 期 日：平成27年8月24日（月）

イ 場 所：会津大学

ウ 参加者：60名

エ 内 容

①講義・事例発表「平時から取り組む〈災害福祉コミュニティ〉の構築」

講師 岩手県立大学社会福祉学部講師 菅野道生

東京都日野市社会福祉協議会職員 宮崎雅也

第2回 実践編

ア 期 日：平成27年9月25日（金）

イ 場 所：会津大学

ウ 参加者：45名

エ 内 容

①講義・演習「防災シミュレーション教材による講義・演習」

講師 福島大学 客員准教授 天野和彦

講師 福島大学 地域コーディネーター

北村育美

【南会津地区研修】

第1回 基礎編

ア 期 日：平成27年8月18日（火）

イ 場 所：只見町朝日振興センター

ウ 参加者：34名

エ 内 容

①講義「災害時のトイレ事情と緊急用トイレの作り方」

講師 日本トイレ研究所 代表理事 加藤 篤

②事例発表「只見の豪雨災害から学んだこと」

講師 渡部スミ子

第2回 実践編

ア 期 日：平成27年9月1日（火）

イ 場 所：南会津町御蔵入交流館

ウ 参加者：53名

エ 内 容

①講話「福島県の防災教育」

講師 福島県教育庁義務教育課指導主事

吉川武彦

②演習「地域の防災力を高めよう」

講師 減災と男女共同参画 研修推進センター

浅野幸子

【相双地区研修】

第1回 基礎編

ア 期 日：平成27年9月17日（水）

イ 場 所：南相馬市消防・防災センター

ウ 参加者：31名

エ 内 容

- ①講義 「地域の防災力を高めよう」
 講師 減災と男女共同参画 研修推進センター
 浅野幸子
- ②施設紹介・見学「南相馬市消防・防災センター」
 講師 相馬地方広報消防本部
 警防課長補佐 太田秀明

第2回 実践編

- ア 期 日：平成27年11月26日（木）
 イ 場 所：南相馬市原町福祉会館
 ウ 参加者：25名
 エ 内 容
- ①講義「防災のまちづくり（東久留米の実践より）」
 講師 防災のまちづくりの会東久留米
 名誉会長 金澤 淳
- ②講義「災害時のトイレ事情と緊急用トイレの作り方」
 講師 日本トイレ研究所 代表理事 加藤 篤

【いわき地区研修】

第1回 基礎編

- ア 期 日：平成27年10月19日（月）
 イ 場 所：いわき合同庁舎南分庁舎
 ウ 参加者：24名
 エ 内 容
- ①講義「平時から取り組む（災害福祉コミュニティ）
 の構築」
 講師 岩手県立大学社会福祉学部
 講師 菅野道生
- ②事例発表
 講師 杉並ボランティアセンター所長 中島 篤

第2回 実践編

- ア 期 日：平成27年11月13日（金）
 イ 場 所：いわき合同庁舎南分庁舎
 ウ 参加者：24名
 エ 内 容
- ①講話「福島県の防災教育」
 講師 福島県教育庁義務教育課指導主事
 吉川武彦
- ②演習「地域の防災力を高めよう」
 講師 減災と男女共同参画 研修推進センター
 浅野幸子

第4節 家庭教育

1 概要

家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける上で重要な役割を担っている。

しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化している。そこで、家庭教育の自主性を尊重しつつ、家庭教育

についての学習機会の提供や家庭教育サポートブックの活用など子育てを支援する体制を整備するなどの取組の推進に努めた。

2 地域でつながる家庭教育応援事業

(1) 目的

本県の家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するために、PTAと連携し、家庭教育について親自身が学ぶ機会が充実するよう支援する。また、各地域で主体的に家庭教育の支援が行えるよう学習プログラムを作成するとともに、家庭教育支援者をリードする人材を育成する。さらに、企業と連携し地域の家庭教育を推進する。

(2) 家庭教育応援プロジェクト

- ア 福島県地域家庭教育推進協議会
 第1回 平成27年5月26日（火）
 杉妻会館
 第2回 平成28年2月22日（月）
 杉妻会館
- イ 地域家庭教育推進各地区ブロック会議
 各教育事務所域内（7箇所）
 各地区2回実施（6月～1月）
- ウ 家庭教育応援企業推進活動

連携企業数	
県北地区	35社
県中地区	68社
県南地区	8社
会津地区	30社
南会津地区	30社
相双地区	3社
いわき地区	19社
計	193社

エ 親子の学び応援講座

県北地区	
二本松第二中学校	250名
「学力に対する考え方の変化と学力向上」	
くにみ幼稚園	215名
「親子ふれあい遊び」	
国見小学校	291名
「映像メディアが子どもの発達に及ぼす影響」	
川俣小学校	112人
「秋田に学ぶ学校・家庭のあり方」	
県中地区	
いずみ幼稚園	165名
「親子での体験レクリエーション」	
大越小学校	244名
「過剰な映像メディア漬けによる発達への悪影響」	
県南地区	
常豊幼稚園	13名
「子どもと向き合うために」	

- 五箇幼稚園 45名
「子どもと向き合うために」
- ひがし幼稚園 126名
「子育てに絵本を」
- 会津地区
- 鶴城小学校 339名
「笑顔満開！『元気の魔法』早寝・早起き・朝ごはん」
- 会津若松市立第二中学校 447名
「ソーシャルメディアの光と影～私たちはどう向き合ってゆくべきか」
- 西会津中学校 236名
「未来の子供たちの輝く笑顔のために…」
- 野沢保育所、尾野本保育所、群岡保育所 110名
「家庭における『食育』」
- 西会津小学校 106名
「461個の弁当は、親父と息子の男の約束」
- 南会津地区
- 旭田小学校 72名
「情報モラルについて」
- 館岩小学校 62名
「学校・家庭が手を取り合って、『こころ豊かでたくましい子どもたち』を育て、『生きる力』を身に付けさせるための読書活動」
- 江川小学校 88名
「親子で読み聞かせを行ったり、読書をしたりしよう」
- 朝日小学校 52名
「家庭で『スマートフォン、携帯等』の安全対策についてのルール作りをしよう」
- 田島第二小学校 215名
「親子で楽しむ紙芝居」
- 檜原小学校 113名
「正しいメディアの活用について学び、親子でルール作りをしよう」
- 桧沢小学校 80名
「家庭ふれあう時間、子どもと向き合う時間を作る」
- 相双地区
- 飯豊小学校、飯豊幼稚園（1回目） 209名
「親子でとも考える『心とからだ』」
- 飯豊小学校、飯豊幼稚園（2回目） 147名
「食育」
- いわき地区
- 好間第一小学校 53名
「メディアにむしばまれる子どもたち～世界一寂しい・自尊心の低い・笑顔のない・大人になれない日本の子どもたち～」
- (3) 家庭教育応援リーダー育成事業**
家庭教育支援者の実践力向上と学習プログラムの

- 開発
- ア 家庭教育支援者スキルアップセミナー
- 「子育て支援における傾聴の意義と方法」
いわき明星大学教授 窪田文子
平成27年 6月27日（木）郡山市 34名
平成27年 7月29日（水）二本松市 34名
- 「ファシリテーターの役割について」
子ども家庭リソースセンター理事長 福川須美
平成27年 6月27日（土）郡山市 31名
平成27年 7月29日（水）二本松市 31名
- 「家庭教育講座の企画・運営について」
桜の聖母短期大学教授 西内みなみ
平成27年 7月25日（土）湯川町 16名
平成27年 8月27日（木）いわき市 52名
- 「思春期の発達と支援」
一般社団法人福島県助産師会会長 石田登喜子
平成27年 7月25日（土）湯川町 16名
平成27年 8月27日（木）いわき市 54名
- 「親子食育教室の運営と実践」
東北福祉大学教育学部教授 畠山 英子
平成27年 7月15日（水）西郷村 30名
平成27年 9月12日（土）相馬市 13名
- 「発達障害の理解と支援」
国立特別支援教育総合研究所 総括研究員 梅田 真理
平成27年 7月15日（水）西郷村 65名
平成27年 9月12日（土）相馬市 18名
- 「親子健康教室の運営と実践」
福島大学教授 鈴木裕美子
平成27年 8月 7日（金）郡山市 12名
平成27年 9月 5日（土）いわき市 25名
- 「家庭教育支援団体のNPO法人化にむけて」
新座子育てネットワーク代表 坂本純子
平成27年 8月 7日（金）福島市 14名
平成27年 9月 5日（土）いわき市 25名
- イ 親育ち応援学習プログラム
作成委員会 平成28年1月25日（月）
県内の新入学児童保護者等に配付

第5節 青少年教育

1 概要

青少年の豊かな人間性や社会性をはぐくむためには、異年齢の子ども同士や地域の大人等の関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等の様々な体験の機会の充実や社会環境づくりが促進されることが必要である。

そのために、学校・家庭・地域が連携を進めながら、地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりが推進されるよう努めた。

2 十七字のふれあい事業

(1) 目的

家庭・学校・地域が連携を進め、地域ぐるみで子どもの体験活動を奨励し、子どもと大人、子どもと子どもが共通の体験から得た思いや感動を十七音で表現する作品づくりを通して、子どもの豊かな心を育成する。

(2) 内容

- ア 応募期間 7月1日～9月30日
- イ 応募総数 38,594組
- ウ 最終審査会 平成27年12月1日(火)
- エ 審査員 半澤 勇一郎 佐藤 秀美 小野 聡
- オ 表彰式 平成28年1月6日(火) 杉妻会館
- カ 入賞数 最優秀賞5組、優秀賞5組、佳作10組

(3) 広報・普及活動

- ア 募集・応募
県内各幼稚園、保育園、小・中学校、高等学校、特別支援学校、社会教育施設、教育事務所等にチラシ・応募用紙を配布した。また、社会教育課のホームページに掲載した。
- イ 事後の広報
社会教育課においては、入賞作品集を作成し、各学校や社会教育施設等へ配布した。各教育事務所においては、域内で入選した作品集を作成し、事業の普及に努めた。

第6節 成人教育

1 概要

地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力向上への取組と関連させながら、成人の学習活動や社会参加活動を促進するよう努めた。

第7節 子どもの読書活動推進

1 概要

第三次「福島県子ども読書活動推進計画」に基づいて、機会をとらえて子どもの読書活動を推進するための研修会を開催するなど啓発、広報に努めた。

また、子ども読書活動を推進するため、ボランティアの育成等を目指し、「人材育成基礎研修」を県内7地区で、「ステップアップ研修」を4地区で実施した。

2 子ども読書活動推進会議の設置

(1) 目的

第三次「福島県子ども読書活動推進計画」に沿って、読書活動推進に向けた取組等について協議・評価を行う。

(2) 子ども読書推進シンポジウム

- 平成27年8月21日(金)
- ビッグパレットふくしま 105名
- 講演：学校図書館アドバイザー 五十嵐絹子

- J P I C 読書アドバイザー 児玉ひろ美
- 問題提起：郡山市立朝日が丘小学校長 圓谷 円
- 白河市立五箇小学校長 増子 春夫
- J P I C 読書アドバイザー 児玉ひろ美

(3) 子ども読書推進会議委員

氏名	職業等	区分
高野 保夫	国立大学法人福島大学名誉教授	学識経験者
梅津 司	福島県PTA連合会副会長	社会教育関係者
圓谷 円	郡山市立朝日が丘小学校長	学校図書館関係者
菅野 安彦	本宮市しらさわ夢図書館長	公立図書館等関係者
矢吹 貴美	家庭教育インストラクター	家庭教育関係者
齋藤千江子	児童図書研究グループ「トトロ」	読書活動に係るボランティア団体関係者

3 子どもの夢をはぐくむ読書活動推進事業

(1) 人材育成基礎研修

- 【県北地区】 平成27年6月10日(水)
伊達ふれあいセンター 受講者73名
- 【県中地区】 平成27年6月12日(金)
郡山市労働福祉会館 受講者50名
- 【県南地区】 平成27年7月7日(火)
棚倉町立図書館 受講者50名
- 【会津地区】 平成27年7月6日(月)
新鶴公民館 受講者63名
- 【南会津地区】 平成27年6月24日(水)
御蔵入交流館 受講者59名
- 【相双地区】 平成27年7月30日(木)
南相馬市鹿島農村環境改善センター 受講者28名
- 【いわき地区】 平成27年8月11日(火)
いわき市文化センター 受講者22名

(2) ステップアップ研修

- 【相双会場】 平成27年8月11日(月)～12日(火)
鹿島農村環境改善センター 受講者14名
- 【南会津会場】 平成27年9月17日(木)～18日(金)
下郷ふれあいセンター 受講者22名
- 【県南会場】 平成27年10月15日(木)～16日(金)
中島村生涯学習センター 受講者22名
- 【県中会場】 平成27年11月12日(木)～13日(金)
郡山市立中央公民館 受講生33名

4 子どもの本がつなぐスマイルプロジェクト

- 【第1回】期 日 平成27年7月25日(土)
- 会 場 南相馬市立中央図書館

参加者数 80名
 【第2回】期 日 平成27年11月3日(火)
 会 場 会津稽古堂
 参加者数 152名

第8節 ユネスコ活動

1 概要

ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるとともに研修の機会を提供して、ユネスコ活動の充実発展に努めた。

本県には、以下の協会が組織され、県内の各地において国際平和と人類の福祉に貢献する民間活動が展開されている。県教育委員会としても、積極的に普及の啓発と民間ユネスコ運動の支援に努めた。

2 ユネスコ協会事務局一覧

協会名	会長名	事務局	事務局長	設立年月日
須賀川地方ユネスコ協会	岩田悦次郎	須賀川市教委文化・スポーツ課内 須賀川市牛袋町5	河村 朝子	S46.9.13
いわきユネスコ協会	松本 恒雄	いわき市教委生涯学習課内 いわき市堂根町4-8	佐久間静子	S51.10.23
郡山ユネスコ協会	過足 満雄	学校法人尚志学園高等学校内 郡山市大槻町字担ノ腰2	宗像 金三	S53.1.24
白河ユネスコ協会	小野 利廣	白河市教委生涯学習スポーツ課内 白河市八幡小路7-1	岡崎 貞男	S53.11.19
福島ユネスコ協会	河田 亨	福島市中央学習センター内 福島市松木町1-7	阿部 隆	S55.7.19
会津ユネスコ協会	吉田 幸代	会津若松市教委生涯学習センター内 会津若松市栄町3-50	石田 明夫	S55.11.16
川俣ユネスコ協会	佐藤 好弘	川俣町教育委員会内 伊達郡川俣町字樋ノ口11	遠藤貴美子	H16.11.26
郡山次世代	大本 研二	学校法人こおり	遠藤 典雄	H28.1.16

代ユネスコ協会		やま東都学園本部 気付 郡山市区景2-9-3		
福島県ユネスコ連絡協議会	河田 亨	福島市笹木野字中西表60-6 近野元洋宅	近野 元洋	S56.12.5

3 福島県ユネスコ活動研修会

平成27年11月20日(金) 郡山自然の家
 参加者数 36名

第9節 ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業

1 目的

子どもたちの豊かな人間性や生きる力を育むために東日本大震災の経験を踏まえ、再発見した郷土の良さを伝え合い発信していく様な交流活動を行う団体や充実した自然体験活動等を行う団体に対して、補助金を交付する。

2 内容

(1) 小・中学校自然体験・交流活動等支援事業

- ・対象者：県内の小・中学校、特別支援学校小学部・中学部の児童生徒及び引率者等
- ・対象期間：4月から3月末まで
- ・実施内容：小・中学校や特別支援学校小学部・中学部が、教育課程等に位置付けられている各教科、特別活動などをよりよい環境(県内外)のもとで行う宿泊を伴う体験活動に宿泊費と活動費・交通費を補助する。
- ・補助基準：①宿泊費 一人当たり1泊5千円上限 13泊まで
 ②活動費・交通費 活動日数に一人当たり2千円を乗じた額を上限

(2) 幼稚園・保育所自然体験活動等支援事業

- ・対象者：県内の幼稚園・保育所・認定こども園(認可外保育施設も含む)、特別支援学校幼稚部の幼児及び引率者等
- ・対象期間：4月から3月末まで
- ・実施内容：幼稚園・保育所・認定こども園や特別支援学校幼稚部が、年間計画等に位置付けられている園行事などをよりよい環境(県内外)のもとで行う日帰り及び宿泊を伴う体験活動に宿泊費と活動費・交通費を補助する。
- ・補助基準：①宿泊費 一人当たり1泊5千円上限 13泊まで
 ②活動費・交通費 活動日数に一人当たり2千円を乗じた額を上限

(3) 社会教育団体自然体験活動支援事業

- ・対象者：県内の社会教育団体（子ども会、スポーツ少年団、PTA等）
- ・対象期間：7月から8月末、12月から1月末
- ・実施内容：社会教育団体（子ども会、スポーツ少年団、PTA等）が、よりよい環境（県内外）のもとで行う長期宿泊（6泊～）を伴う体験活動に宿泊費と活動費・交通費を補助する。
- ・補助基準：①宿泊費 一人当たり1泊5千円上限 13泊まで
②活動費・交通費 活動日数に一人当たり2千円を乗じた額を上限

(4) ふくしまっ子体験活動応援補助事業

- ・対象者：県内の社会教育団体等（子ども会、スポーツ少年団、PTA、公民館、ファミリーグループ等）
- ・対象期間：7月から8月末、12月から1月末
- ・実施内容：市町村や社会教育関係団体等が、よりよい環境（県内）のもとで体験活動や交流活動を実施する場合、宿泊費と交通費・体験活動費を補助する。
- ・補助基準：①宿泊費 一人当たり1泊5千円上限 5泊まで（食費を含む）
②交通費・体験活動費 一人当たり1回2千円上限

(5) ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業

- ・対象者：県内の幼児、小・中学生とその家族（乳児含む）
- ・実施回数：夏期間各1回、冬期間各1回
- ・場所：郡山自然の家、会津自然の家、いわき海浜自然の家
- ・内容：自然体験活動の日帰り開放プラン 計6回 交通費のみ参加者負担

第10節 公民館等社会教育施設

1 概要

地域住民のための学習の拠点となる社会教育施設として、多様化した学習ニーズに的確に対応し、充実した公民館活動や図書館サービスが行われるよう助言した。

2 公民館を除く主な社会教育施設

※震災により休館中の施設を含む

(1) 図書館の設置状況

	名 称	所在地・電話番号	設置者
県立	福島県立図書館	福島市森合字西養山1 024-535-3220	福島県
市町	福島市立図書館	福島市松木町1-1 024-531-6551	福島市

	名 称	所在地・電話番号	設置者
市町	福島市西口ライブラリー	福島市三河南町1-20 024-525-4023	福島市
村立	福島市子どもライブラリー	福島市早稲町1-1（こむこむ内） 024-526-4200	福島市
	伊達市 教育部市立図書館	伊達市箱崎字川端7 024-551-2132	伊達市
	二本松市立二本松図書館	二本松市本町1丁目102番地 0243-23-5082	二本松市
	二本松市立岩代図書館	二本松市小浜字藤町242番地 0243-55-3255	二本松市
	しらさわ夢図書館	本宮市白岩字堤崎500 0243-44-2112	本宮市
	郡山市中央図書館	郡山市麓山一丁目5-25 024-923-6601	郡山市
	郡山市中央図書館 田村分館	郡山市田村町岩作字穂多礼40-3 024-955-3842	郡山市
	郡山市中央図書館 喜久田分館	郡山市喜久田堀之内字下河原1 024-959-2205	郡山市
	郡山市中央図書館 緑ヶ丘分館	郡山市緑ヶ丘東三丁目1-21 024-944-0001	郡山市
	郡山市中央図書館 日和田分館	郡山市日和田町字小堰23-4 024-958-2352	郡山市
	郡山市中央図書館 三穂田分館	郡山市三穂田町字東屋敷6 024-953-2820	郡山市
	郡山市中央図書館 中田分館	郡山市中田町下枝字大平385 024-973-2951	郡山市
	郡山市中央図書館 西田分館	郡山市西田町三丁目桜内259 024-972-2807	郡山市
	郡山市中央図書館 大槻分館	郡山市大槻町字中前田56 024-951-1512	郡山市
	郡山市希望ヶ丘図書館	郡山市希望ヶ丘1-5 024-961-1600	郡山市
	郡山市安積図書館	郡山市安積一丁目38 024-946-8850	郡山市
	郡山市富久山図書館	郡山市富久山町福原字泉崎181-1 024-921-0030	郡山市
	須賀川市図書館	須賀川市八幡町134 0248-75-3309	須賀川市

	名 称	所在地・電話番号	設置者
市 町 村 立	須賀川市長沼図書館	須賀川市長沼字金町85 0248-67-2138	須賀川市
	須賀川市岩瀬図書館	須賀川市柱田字中地前22番地 0248-65-3549	須賀川市
	鏡石町図書館	鏡石町旭町440-6 0248-62-1288	鏡石町
	古殿町図書館	古殿町松川字横川235 0247-53-2305	古殿町
	三春町町民図書館	三春町字大町12-1 0247-62-3375	三春町
	小野町ふるさと文化の館・図書館	小野町大字小野新町字中通2 0247-72-2120	小野町
	田村市図書館	田村市船引町船引字扇田19 0247-82-1001	田村市
	田村市図書館滝根分館	田村市滝根町神俣字町48-1 0247-78-2001	田村市
	田村市図書館大越分館	田村市大越町上大越字元池87-5 0247-79-2161	田村市
	田村市図書館常葉分館	田村市常葉町常葉字町裏1 0247-77-2013	田村市
	田村市図書館都路分館	田村市都路町古道字本町33-4 0247-75-2063	田村市
	白河市立図書館	白河市道場小路96-5 0248-23-3250	白河市
	白河市立図書館表郷分館	白河市表郷金山字長者久保2 0248-32-4784	白河市
	白河市東図書館	白河市東釜子字狐内47 0248-34-1130	白河市
	白河市大信図書館	白河市大信町屋字沢田25 0248-46-3614	白河市
	矢吹町図書館	矢吹町小松481 0248-44-3595	矢吹町
	泉崎図書館	泉崎村大字泉崎字館24-9 0248-53-4779	泉崎村
棚倉町立図書館	棚倉町大字棚倉字棚倉字森町21-1 0247-33-4342	棚倉町	
塙町立図書館	塙町大字塙字栄町68-6 0247-43-0808	塙町	
矢祭もったいな図書館	矢祭町大字東館字石田25 0247-46-4646	矢祭町	
鮫川村図書館	鮫川村大字赤坂中野字巡ヶ作128 0247-49-3151	鮫川村	

	名 称	所在地・電話番号	設置者
市 町 村 立	会津若松市立会津図書館	会津若松市栄町3-50 0242-22-4711	会津若松市
	猪苗代町図書館歴史情報館	猪苗代町字古城町132-7	猪苗代町
	喜多方市立図書館	喜多方市字柳原7503-1 0241-22-1855	喜多方市
	南会津町図書館	南会津町田島字宮本東22 0241-62-5522	南会津町
	相馬市図書館	相馬市中村字塚ノ町65-16 0244-37-2630	相馬市
	新地町図書館	新地町谷地小屋字樋掛田40-1 0244-62-5031	新地町
	南相馬市立中央図書館	南相馬市原町区朝日町二丁目7-1 0244-23-7789	南相馬市
	南相馬市立鹿島図書館	南相馬市鹿島区寺内字迎田22-1 0244-46-5116	南相馬市
	南相馬市立小高図書館	南相馬市小高区本町二丁目89-1 (休館中) 0244-44-3049	南相馬市
	浪江町図書館	浪江町権現堂字矢沢町6-1 (休館中) 0240-34-5024	浪江町
	双葉町図書館	双葉町大字長塚字鬼木1 (休館中) 0240-33-4214	双葉町
	大熊町図書館	大熊町大字下野上字大野 (休館中) 669-3 0240-32-3011	大熊町
	富岡町図書館	富岡町大字本岡字王塚 (休館中) 622-1 0240-21-3665	富岡町
	いわき市立総合図書館	いわき市平字田町120 0246-22-5552	いわき市
	いわき市立内郷図書館	いわき市内郷綴町榎下40-1 0246-45-1030	いわき市
	いわき市立小名浜図書館	いわき市小名浜字愛宕上7-2 0246-54-9257	いわき市
	いわき市立常磐図書館	いわき市常磐関船町作田1 0246-44-6218	いわき市
	いわき市立勿来図書館	いわき市植田町南町1丁目2-2 0246-62-7431	いわき市
	いわき市立四倉図書館	いわき市四倉町字東一丁目50 0246-32-5980	いわき市

名称	所在地・電話番号	設置者
法人 クローバー子供図書館	郡山市開成6丁目346-1 024-932-2118	(財)金森和心会

(2) 博物館の設置状況

ア 登録博物館及び相当施設

名称	所在地・電話番号	設置者種別 登録・指定年月日
登録博物館		
福島県立美術館	福島市森合字西養山1 024-531-5511	福島県 美術博物館 59.7.16
福島県立博物館	会津若松市城東町 1-25号 0242-28-6000	福島県 総合博物館 61.11.28
須賀川市立博物館	須賀川市池上町6 0248-75-3239	須賀川市 歴史博物館 46.7.10
いわき市立美術館	いわき市平字堂根町4-4 0246-25-1111	いわき市 美術博物館 59.9.3
郡山市立美術館	郡山市安原町字大谷地 130-2 024-956-2200	郡山市 美術博物館 平5.1.20
南相馬市博物館	南相馬市原町区牛来字出口194 0244-23-6421	南相馬市 総合博物館 平8.5.9
野口英世記念館	猪苗代町大字三ツ和字前田81 0242-85-7867	(公財)野口英世記念会 歴史博物館 29.10.21
会津民俗館	猪苗代町大字三ツ和字前田33-1 0242-65-2600	会津民俗館 歴史博物館 55.10.3
白虎隊記念館	会津若松市一箕町大字八幡字弁天下33 0242-24-9170	(一財)白虎隊記念館 歴史博物館 63.6.30
奥会津博物館	南会津町糸沢字西沢山 3692-20 0241-66-3077	南会津町 歴史博物館 平21.6.16
諸橋近代美術館	北塩原村大字松原字剣ヶ峰1093-23 0241-37-1088	(公財)諸橋近代美術館 美術博物館 平11.8.17
藤田記念博物館 (休館中)	白河市五郎窪37-1 0248-24-1780	(公財)藤田教育振興会 美術博物館 54.9.1
CCGA 現代グラフィックアートセンター	須賀川市塩田宮田1 0248-79-4811	(公財)DNP 文化振興財団 平25.12.25
博物館相当施設		
やないづ町立齋藤清美術館	柳津町柳津字下平乙 187 0241-42-3630	柳津町 美術博物館 平11.9.28
龍が城美術館 (休館中)	いわき市平字旧城跡27-1 0246-22-1601	(一財)白龍会 美術博物館 30.2.10
会津武家屋敷会津歴史資料館	会津若松市東山町大字石山字院内1 0242-28-2525	(株)会津武家屋敷歴史博物館 56.11.25

名称	所在地・電話番号	設置者種別 登録・指定年月日
博物館相当施設		
安積歴史博物館	郡山市開成5-25-63 024-938-0778	(公財)安積歴史博物館 歴史博物館 59.9.8
磐梯山噴火記念館	北塩原村松原字剣ヶ峰 1093-36 0241-32-2888	(株)ゴールトハウス目黒 科学博物館 平5.7.1
會津藩校日新館	会津若松市河東町南高野 字高塚山10番地 0242-75-2525	(株)会津武家屋敷 歴史博物館 平12.11.28

イ 類似施設

名称	所在地・電話番号	設置者
ふくしま海洋科学館	いわき市小名浜字辰巳町50 0246-73-2525	福島県
福島県文化財センター白河館	白河市白坂一里段86 0248-21-0700	福島県
福島県歴史資料館	福島市春日町5-54 024-534-9195	福島県
ふれあい歴史館 (福島市資料展示室)	福島市上町39-1 024-563-7855	福島市
福島市民家園	福島市上名倉字大石前地内 024-593-5249	福島市
福島市古関裕而記念館	福島市入江町1-1 024-531-3012	福島市
福島市写真美術館	福島市森合町11-36 024-523-1202	福島市
UFOふれあい館	福島市飯野町大字青木字小手神森1-299 024-562-2002	福島市
民俗資料展示室	福島市飯野町大字明治字北小戸明利60 024-525-3785	福島市
羽山の森美術館	伊達郡川俣町大字西福沢字山柗内20 024-566-3367	川俣町
伊達市梁川美術館	伊達市梁川町字中町10 024-527-2656	伊達市
伊達市保原歴史文化資料館	伊達市保原町大泉字宮脇265 024-575-1615	伊達市
霊山子どもの村遊びと学びのミュージアム	伊達市霊山町石田字宝司沢9-1 024-589-2211	伊達市
二本松市歴史資料館	二本松市本町1-102 0243-23-3910	二本松市
二本松市智恵子記念館	二本松市油井字漆原町36 0243-22-6151	二本松市
二本松市大山忠作美術館	二本松市本町2-3-1 0243-24-1217	二本松市
あだたらふるさとホール	大玉村玉井字西庵183 0243-48-2569	大玉村
本宮市歴史民俗資料館	本宮市字南町裡130 0243-33-2546	本宮市
本宮市白沢ふれあい文化ホール	本宮市白岩字堤崎494-44 0243-44-3185	本宮市

名称	所在地・電話番号	設置者
郡山市開成館	郡山市開成3-3-7 024-923-2157	郡山市
郡山市歴史資料館	郡山市麓山1-8-3 024-932-5306	郡山市
郡山市こおりやま文学の森資料館	郡山市豊田町3-5 024-991-7610	郡山市
郡山市ふれあい科学館	郡山市駅前2-11-1ビッグアイ20F~24F 024-936-0201	郡山市
須賀川市歴史民俗資料館	須賀川市長沼字門口186 0248-67-2030	須賀川市
古殿町郷土文化保存伝習施設	古殿町大字松川字横川235 0247-53-2305	古殿町
天栄村ふるさと文化伝承館	天栄村大字大里字八石1-2 0248-81-1030	天栄村
石川町歴史民俗資料館	石川町字高田200-2 0247-26-3768	石川町
浅川町歴史民俗資料館	浅川町大字浅川字背戸谷地144-6 0247-36-2134	浅川町
吉田富三記念館	浅川町大字袖山字森下287 0247-36-4129	財団法人
三春町歴史民俗資料館	三春町字桜谷5 0247-62-5263	三春町
三春郷土人形館	三春町字大町30 0247-62-7053	三春町
小野町ふるさと文化の館・郷土資料館	小野町大字小野新町字中通2 0247-72-2120	小野町
田村市歴史民俗資料館	田村市船引町船引字四城内前196番地	田村市
白河市歴史民俗資料館	白河市中田7-1 0248-27-2310	白河市
白河集古苑	白河市郭内1-73 0248-24-5050	白河市
中山義秀記念文学館	白河市大信町屋字沢田25 0248-46-3614	白河市
白河市大信ふるさと文化伝承館	白河市大信町屋字沢田25 0248-46-3614	白河市
泉崎資料館	泉崎村大字泉崎字館24-9 0248-54-1533	泉崎村
あぶくま高原美術館	塙町大字那倉字吉元86-1 0247-42-2510	塙町
矢祭町歴史民俗資料館	矢祭町大字東館字石田25	矢祭町
国指定名勝会津松平氏庭園若松城天守閣	会津若松市花春町8-1 0242-27-2472	会津若松市
茶室麟閣	会津若松市追手町1-1 0242-27-4005	会津若松市
会津町方伝承館	会津若松市大町2-8-8 0242-22-8686	会津若松市
いなわしろ淡水魚館	猪苗代町大字長田字東中丸344-4 0242-65-2481	財団法人

名称	所在地・電話番号	設置者
喜多方市郷土民俗館	喜多方市柳原7503-1 0241-24-3821	喜多方市
喜多方蔵の里	喜多方市字押切2丁目109 0241-22-6592	喜多方市
喜多方市美術館	喜多方市押切2丁目2 0241-23-0404	喜多方市
喜多方市カイギュウランドたかさ	喜多方市高郷町西羽賀字和尚堂3163 0241-44-2924	喜多方市
喜多方市高郷郷土資料館	喜多方市高郷町上郷字天神後戊417 0241-44-2765	喜多方市
会津坂下町五浪美術記念館	会津坂下町字台ノ下842 0242-84-1233	会津坂下町
ほっといんやないづ縄文館	柳津町大字柳津字下平乙151-1 0241-41-1077	柳津町
会津美里町民俗資料館	会津美里町米田字堂ノ後甲149 0242-54-2368	会津美里町
三島町交流センター山びこ	三島町名入字諏訪ノ上418 0241-52-2165	三島町
からむし工芸博物館	昭和村大字佐倉字上ノ原1 0241-58-1677	昭和村
旧南会津郡役所	南会津町田島字丸山甲4681 0241-62-3848	南会津町
久川城資料館	南会津町青柳字久川23 0241-76-2191	南会津町
奥会津民俗館南郷館	南会津町界字川久保552 0241-73-2829	南会津町
奥会津民族館館岩館	南会津町松戸原55 0241-78-2110	南会津町
奥会津民族館伊南館	南会津町青柳字久川24	南会津町
檜枝岐村歴史民俗資料館	檜枝岐村字下ノ原887-2 0241-75-2342	檜枝岐村
会津只見考古館	只見町大字大倉字窪田33 0241-86-2175	只見町
只見町ブナセンター	只見町字町下2590 0241-72-8355	只見町
河井継之助記念館	只見町大字塩沢字上ノ台850-5 0241-82-2870	只見町
相馬市歴史民俗資料館	相馬市中村字大手先13 0244-37-2191	相馬市
鹿島歴史民俗資料館(廃止)	南相馬市鹿島区西町3-1 0244-46-4281	南相馬市
埴谷島尾記念文学資料館(休館中)	南相馬市小高区本町2-89-1 0244-44-3049	南相馬市
葛尾村郷土文化保存伝習館	葛尾村落合字落合11 0240-29-2008	葛尾村
双葉町歴史民俗資料館(休館中)	双葉町大字新山字本町27-1 0240-33-4763	双葉町
大熊町民俗伝承館(休館中)	大熊町大字下野字大野669-3 0240-32-3011	大熊町
富岡町歴史民俗資料館(休館中)	富岡町大字本岡字王塚622-1 0240-22-2626	富岡町

名称	所在地・電話番号	設置者
檜葉町歴史資料館 (休館中)	檜葉町大字北田字鐘突堂5-4 0240-25-2492	檜葉町
いわき市石炭・化石館	いわき市常磐湯本町向田3-1 0246-42-3155	いわき市
いわき市勿来関文学歴史館	いわき市勿来町関田長沢6-1 0246-65-6166	財団法人
いわき市アンモナイトセンター	いわき市大久町大久字鶴房 147-2 0246-82-4561	いわき市
いわき市考古資料館	いわき市常磐湯本町手這50-1 0246-43-0391	いわき市
いわき市立草野心平記念文学館	いわき市小川町高萩字下夕道 1-39 0246-83-0005	いわき市
いわき市草野心平生家	いわき市小川町上小川字植ノ内 6-1 0246-83-0005	いわき市
いわき市暮らしの伝承郷	いわき市鹿島町下矢田字散野 14-16 0246-29-2230	いわき市
原郷のこけし群西田記念館	福島市荒井字横塚3-183 024-593-0639	財団法人
種徳美術館	桑折町字陣屋12 024-582-5507	桑折町
東北サファリパーク	二本松市沢松倉1 0243-24-2336	株式会社
デコ屋敷資料館	郡山市西田町高柴字福内41 024-971-3900	私人
ふくしまの森科学体験センター (有)大桑原つつじ園	須賀川市虹の台100 0248-89-1120 須賀川市大桑原字竹ノ花13 0248-76-5857	財団法人 有限会社
(株)エイトファーム三春ハーブガーデン	三春町大字斉藤字仁井道126 024-942-1138	株式会社
リカちゃんキヤッスル	小野町小野新町中通51-3 0247-72-6364	株式会社
白河フラワーワールド	白河市南湖59 0248-23-2100	私人
南湖神社宝物館	白河市字菅生館2 0248-23-3015	私人
木の博物館	塙町大字伊香字松原160-13 0247-43-1480	有限会社
會津宮泉酒造(旧會津酒造歴史館)	會津若松市東栄町8-7 0242-26-0031	株式会社
會津葵シルクロード文明館 (社)福島県伝統産業会館	會津若松市追手町4-6 0242-27-1001 會津若松市大町1-7-3 0242-24-5757	株式会社 社団法人
大和川酒造北方風土館	喜多方市宇字町4761 0241-22-2233	私人
喜多方蔵品美術館	喜多方市梅竹7294-4 0241-24-3576	私人
桐の博物館	喜多方市押切南2-12 0241-22-1911	私人
うるし美術博物館	喜多方市宇東町4095 0241-24-4151	株式会社

名称	所在地・電話番号	設置者
御蔵入細井家資料館	南會津町静川字風下甲175 0241-62-0906	私人
福島さくら遊学舎	三春町大字鷹巣字瀬山213 0247-61-6345	株式会社

(3) 青少年教育関係施設の設置状況

種別	施設名	所在地・電話番号	設置者
県設置	福島県郡山自然の家	郡山市逢瀬町多田野字中丸山46 024-957-2111	福島県
	福島県会津自然の家	会津坂下町大字八日沢字西東山 4495-1 0242-83-2480	福島県
	福島県いわき海浜自然の家	いわき市久之浜町田之網字向山 53 0246-32-7700	福島県

名称	所在地・電話番号	設置者	
教育施設	国立那須甲子青少年自然の家	西郷村大字真船字村火6-1 0248-36-2331	文部科学省
	国立磐梯青少年交流の家	猪苗代町字五輪原7136-1 0242-62-2530	文部科学省
	市町村(条例)設置	38施設(別掲)	
	他県設置等	9施設(別掲)	

《市町村(条例)設置38施設》

名称	所在地・電話番号	設置者
福島県青少年会館	福島市黒岩字田部屋53-5 024-546-8311	公益財団法人
福島市社会教育会館「こぼし荘」	福島市庭坂字砥石山40-13 024-591-3366	福島市
福島市社会教育会館「立子山自然の家」	福島市立子山字金井作1 024-597-2951	福島市
福島市勤労青少年ホーム	福島市入江町1-1 024-531-6221	福島市
福島市子どもの夢を育む施設	福島市早稲町1-1 024-524-3131	福島市
霊山子どもの村キャンプ場	伊達市霊山町石田字宝司沢9-1 024-589-2211	伊達市
二本松市青年の家	二本松市榎戸1-92 0243-23-5121	二本松市
二本松市二本松勤労青少年ホーム	二本松市榎戸1-92 0243-23-5121	二本松市
二本松市安達勤労青少年ホーム	二本松市油井字濡石3-1 0243-23-3721	二本松市
本宮市勤労青少年ホーム	本宮市字矢来39-1 0243-33-2611	本宮市
郡山市青少年会館	郡山市大槻町字漆棒82 024-961-8282	郡山市
郡山市少年湖畔の村	郡山市湖南町横沢字村西112 024-982-2115	郡山市

(ビッグパレットふくしま)

郡山市安積町日出山字北千保19-8

名称	所在地・電話番号	設置者
郡山勤労青少年ホーム	郡山市麓山1丁目8-4 024-932-3027	郡山市
須賀川市市民の森	須賀川市塩田字音森20 0248-79-2187	須賀川市
須賀川市勤労青少年ホーム	須賀川市和田字柏崎44 0248-63-2154	須賀川市
須賀川市ふれあいセンター	須賀川市長祿町79 0248-72-0200	須賀川市
鏡石町勤労青少年ホーム	鏡石町中央59 0248-62-2115	鏡石町
鏡石町ふれあいの森公園	鏡石町小栗山71 0248-83-2381	鏡石町
三春町児童生活センター	三春町字大町7-1 0247-62-8666	三春町
田村市船引児童館	田村市船引町船引字石田151 0247-82-0690	田村市
小野町勤労青少年ホーム	小野町大字小野新町字中道2 0247-72-2125	小野町
石川町勤労青少年ホーム	石川町当町418-1 0247-26-2566	石川町
聖ヶ岩ふるさとの森	白河市大信限戸57及び59林班地内 0248-46-2471	白河市
会津若松市勤労青少年ホーム	会津若松市城東町14-52 0242-26-6662	会津若松市
会津若松市少年の家	会津若松市城東町15-62	会津若松市
青少年研修センター(わらび学園)	喜多方市熱塩加納町加納字村前乙549	喜多方市
喜多方市勤労青少年ホーム	喜多方市舞台田3119-1 0241-22-1403	喜多方市
びわ沢原森林公園	猪苗代町字琵琶沢原7095 0242-62-3291	猪苗代町
三島町生涯学習センター森の校舎カタクリ	三島町西方字上原3580 0241-48-5577	三島町
御蔵入の里会津山村道場	南会津町糸沢字西沢山3692-20 0241-66-2108	南会津町
野外活動施設(開墾小屋)	南会津町多々石字多々石入872-216	南会津町
針生青少年旅行村	南会津町針生字宮ノ下1734-1 0241-62-6200	南会津町
新地町勤労青少年ホーム	新地町大字福田字中里15-1 0244-62-3106	新地町
双葉町青年婦人会館(休館中)	双葉町長塚字谷沢町56 0240-33-2083	双葉町
グリーンフィールド富岡(休館中)	富岡町小浜304 0240-22-5566	富岡町
富岡町合宿センター(休館中)	富岡町小浜343 0240-22-7000	富岡町
檜葉町サイクリングターミナル展望の宿天神(休館中)	檜葉町北田字上ノ原27-29 0240-25-3113	檜葉町
いわき市勿来勤労青少年ホーム	いわき市金山町朝日台1 0246-63-2879	いわき市

参考 ※ いわき市生涯学習プラザ

いわき市平字一丁目1番地ティーワンビル
4・5階

※ 財団法人福島県産業振興センター産業交流館

《他県設置等9施設》

名称	所在地・電話番号	設置者
天栄村羽鳥湖畔オートキャンプ場	天栄村羽鳥字芝草2-4 0248-85-2033	財団法人
矢祭山友情の森	矢祭町大字山下字下河原1-1 0247-46-2162	財団法人
只見町青少年旅行村いこいの森	只見町大字只見字向山2832-2 0241-82-2432	財団法人
高清水自然公園	南会津町界字長池沢口4298-12 0241-73-2115	財団法人
小野田自然塾	埴町大字片貝字長久木363 0247-42-2311	財団法人
越谷市立あだたら高原少年自然の家	二本松市永田字長坂国有林14林班 0243-24-2561	越谷市
中野区常葉少年自然の家	田村市常葉町山根字鯉5-29 0247-77-2098	中野区

名称	所在地・電話番号	設置者
さいたま市立館岩少年自然の家	南会津町宮里字向山2847-1 0241-78-2311	さいたま市
SYDばんだいふれあいびあ	北塩原村松原字南黄連沢山 1157-192 0241-33-2335	財団法人

第9章 文 化

第1節 概要

近年、生活水準の向上、自由時間の増大及び生涯学習の進展を背景として、心の豊かさを実感できる生活の実現を求める県民意識が高まりをみせており、新たな文化を創造、発展させることが求められている。

このため、県教育委員会では、県民の自主性と創造性を尊重しながら、“知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成”を基本目標に、文化財の保存・継承と適切な活用、次代を担う子どもたちの地域の伝統文化を愛するところの醸成、地域に根ざした伝統文化などの文化的資源を活かした文化振興の取組みと地域活性化を基本的方向性として、施策「地域に根ざした伝統文化を保存・継承し、地域を愛するところをはぐくみます」を積極的に展開しており、その成果は次のとおりである。

1 文化活動の振興

高校生の芸術文化活動の充実向上を図るため、福島県高等学校文化連盟に対する助成を行った。

平成27年12月5日(土)、会津風雅堂において第34回福島県高等学校総合文化祭～ふくしまをつなぐ2015～活動優秀校公演が行われ、事務局校である大沼高等学校を中心とした実行委員会の協力により、成功裏のうちに終了した。

2 文化の伝承の充実

(1) 埋蔵文化財の保存の充実

開発事業に対して、事前の表面調査と試掘調査を実施するとともに、事業者側と協議を行い、可能な限り埋蔵文化財の現状保存に努めながら、記録の保存のための発掘調査を行った。

(2) 文化財防災設備等の整備促進

文化財防災設備、保存施設等の整備を促進するとともに、所有者又は管理団体等に対し日常的管理の強化を図るよう指導に当たった。

(3) 文化財保存助成の充実

国・県指定文化財の保存修理及び埋蔵文化財保存調査と一体となって、文化財を広く県民へ公開する「指定文化財保存活用事業」により助成を行った。

また、東日本大震災により被災した国・県指定文化財の修復事業に対し補助率を嵩上げし、助成を行うとともに、原発事故等により存続の危機にある民俗芸能の継承を図るため、震災により流出・毀損した用具類の新調・修理及び稽古等に必要な交通費等を助成した。

(4) 文化財の救援活動

東日本大震災により被災した双葉郡内町立歴史民俗資料館等の文化財を関係機関・団体の協力により搬出した。

搬出した文化財を、県文化財センター白河館（愛称まほろん）に設置した安定的に保管するための施設に搬送した。

また、搬出した文化財の一部をまほろんで展示・公開し

た。

3 文化施設の整備充実

(1) 県立美術館の整備充実

移動展等を開催するとともに、美術作品の収集と作品・作家等に関する調査研究を計画的に推進したほか、教育普及活動に努め、本県美術振興の中心的施設として機能の充実に努めた。

(2) 県立博物館の整備充実

展示資料の収集・整備に努め、調査研究を計画的に推進し、常設展・企画展等の充実を図るとともに教育普及のための各種事業を行い、県内博物館の中心的施設として機能の充実に努めた。

(3) 県文化財センター白河館（まほろん）

文化財の収蔵と被災した地域の文化財等の公開・活用及び埋蔵文化財担当職員等の研修を図り、文化財に親しみ、文化財への理解を深める施設として機能の充実に努めた。

第2節 文化活動の振興

1 芸術文化活動発表機会の充実

(1) 福島県高等学校文化連盟への助成

ア 平成27年度福島県高等学校文化連盟

福島県高等学校総合文化祭の開催に対する補助を行った。(補助対象事業費計：8,161千円、補助金額計：1,000千円)

役員

役職名	氏名	職	所属校	役職名	氏名	職	所属校
会長	源 俊 正 能	校長	安積黎明高等学校	監事	佐 藤 雅 通	教諭	大沼高等学校
副会長(私立)	森 涼	校長	学法石川高等学校	幹事	土 屋 裕 子	教諭	四倉高等学校
副会長(県北)	佐 藤 信 常	校長	安達高等学校	幹事	鍵 水 実	教諭	白河実業高等学校
副会長(県南)	二 瓶 賢 一	校長	白河実業高等学校	幹事	安 斎 泉	教諭	郡山商業高等学校
副会長(会津)	吉 田 佳 正	校長	大沼高等学校	幹事	飯 豊 利 子	教諭	白河旭高等学校
副会長(いわき)	長 田 公 雄	校長	四倉高等学校	幹事	岩 山 久 美 子	教諭	須賀川桐陽高等学校
副会長(相双)	大 和 田 範 雄	校長	相馬農業高等学校	幹事	津 瀧 亜 希 子	講師	安積黎明高等学校
理事長	三 條 敦	教諭	安積黎明高等学校				
事務局長	根 本 靖 彦	教諭	安積黎明高等学校	顧問	大 沼 博 文	課長	高校教育課
監事	竹 田 真 二	校長	郡山東高等学校				

専門部会長・専門部委員長

専門部	部会長	職	所属校	部委員長	職	所属校
演劇	菅 野 哲 哉	校長	光 南	岡 田 篤	教諭	福島東稜
高音連	佐 藤 恵 一	校長	田 島	星 弓 彦	教諭	福島工業
合唱	久 保 田 範 夫	校長	安 積	鈴 木 和 明	教諭	安 積
吹奏楽	丹 藤 茂	校長	会 津	山 岸 善 行	教諭	会 津
器楽管弦楽	小 林 喜 則	校長	郡 山 商	鈴 木 敦	教諭	郡 山 商
日本音楽	長 田 公 雄	校長	四 倉	瀬 谷 浩 子	教諭	小 名 浜
吟詠剣詩舞	浅 岡 秀 夫	校長	昌 平	賀 澤 裕 三	講師	昌 平
郷土芸能	大 和 田 範 雄	校長	相 馬 農	村 田 和 丈	教諭	相 馬 農
マーチング・B・パトシ	小 林 喜 則	校長	郡 山 商	横 田 日 夏	教諭	郡 山 商
美術・工芸	菅 野 哲 哉	校長	光 南	片 平 仁	教諭	福島工業
書道	吉 田 啓 一 郎	校長	福 島 西	鹿 山 俊	教諭	福 島 西
写真	田 代 公 啓	校長	福 島 島	阿 部 健 太 郎	教諭	福 島 島
放送	大 和 田 修	校長	郡 山	菊 地 彩 子	教諭	郡 山
囲碁	阿 部 正 春	校長	福 島 南	鈴 木 仁 孝	教諭	橘
将棋	田 代 公 啓	校長	福 島 島	根 本 郁 男	教諭	福 島 島
弁論	丹 藤 茂	校長	会 津	佐 藤 繁	教諭	会 津
小倉百人一首かるた	源 俊 正 能	校長	安 積 黎 明	橋 本 安 広	教諭	田 村
新聞	日 高 裕 志	校長	相 馬	武 内 義 明	教諭	相 馬
文芸	竹 田 真 二	校長	郡 山 東	池 上 貴 夫	教諭	郡 山 東
自然科学	坂 爪 靖 夫	校長	保 原	遠 藤 喜 光	教諭	安 積 黎 明
農業	菅 野 直 芳	校長	岩 瀬 農 業	鹿 股 住 緒	教諭	岩 瀬 農 業
工業	木 田 英 男	校長	郡 山 北 工	大 波 慶 次	教諭	郡 山 北 工
商業	喜 多 見 薫	校長	福 島 商	安 田 宗 章	教諭	福 島 商
家庭	鎌 田 由 人	校長	相 馬 東	朝 倉 由 美	教諭	相 馬 東
定通	根 本 良 政	校長	いわき翠の杜	星 美 奈	教諭	いわき翠の杜
特別支援学校	田 中 誠	校長	猪 苗 代 養 護	佐 藤 一 志	教諭	猪 苗 代 養 護
(国際教育)休止	渡 邊 望	校長	磐 城 桜 が 丘	佐 藤 一 志	教諭	磐 城 桜 が 丘
J R C	佐 藤 恵 一	校長	田 島	加 藤 竹 志	教諭	田 島

イ 第34回福島県高等学校総合文化祭

県内高校生の文化活動の成果発表と相互の交流を目的として、全県内において、平成27年5月から平成27年12月まで、専門部の行事を開催した。

ウ 第39回全国高等学校総合文化祭への参加

平成27年7月28日から8月1日まで、滋賀県で開催された文化祭に参加する229名を派遣した。

〔参加部門等及び参加生徒数〕

総合開会式1名、パレード（マーチングB・バトンT）11名、演劇35名、吹奏楽29名、日本音楽33名、吟詠剣詩舞13名、郷土芸能26名、美術・工芸6名、書道5名、写真8名、放送19名、囲碁5名、将棋6名、弁論2名、小倉百人一首9名、新聞6名、文芸5名、自然科学10名

エ 平成27年度福島県高文連専門部全国大会入賞状況

（ア） 団体

専 門 部	大 会 名	成 績	学 校 名
合 唱	第68回全日本合唱コンクール全国大会	金賞（1位相当） （文部科学大臣賞）	会 津
		金賞（2位相当） （埼玉県知事賞）	郡 山
		銀賞	福 島 東
		銅賞	安 積 黎 明
	第82回NHK全国学校音楽コンクール全国大会	金賞 （最優秀賞）	郡 山
吹 奏 楽	第63回全日本吹奏楽コンクール全国大会	金賞	磐 城
	第38回全日本アンサンブルコンテスト全国大会	金賞	湯 本
器 楽 ・ 管 弦 楽	日本学校合奏コンクール2015全国大会 グランドコンテスト	銀賞	郡 山 商
放 送	第62回NHK杯全国高校 放送コンテスト全国大会	ラジオドキュメント部門 最優秀賞 優良賞	磐 城 磐城桜が丘
		テレビドキュメント部門 優良賞 優良賞	磐 城 磐城桜が丘 原 町
	第39回全国高等学校総合文化祭滋賀大会放送部門	ビデオメッセージ部門 優秀賞 オーディオピクチャー部門 優秀賞	磐 城 磐城桜が丘 湯 本
弁 論	第63回全国高等学校決勝弁論大会	準優勝（群馬県議会議長賞）	会 津
新 聞	第2回高校新聞部インターハイ新聞コンクール	最優秀賞（読売新聞社賞）	郡 山 東
	第45回全国高校新聞コンクール	優 秀 校	安 積
文 芸	第30回全国高等学校文芸コンクール 文芸部誌部門	優 秀 賞	磐 城
工 業	第6回ものづくり日本大賞	内閣総理大臣賞	郡 山 北 工 業
	第6回国際ナノ・マイクロアプリケーション コンテスト	世界第3位 全国大会第2位	郡 山 北 工 業
商 業	平成27年度全経全国電卓競技大会	優 勝	郡 山 商 業
	第62回全国高等学校珠算・電卓競技大会 電卓部門	準 優 勝	郡 山 商 業
	第19回全日本電卓競技大会 高等学校の部	優 勝	郡 山 商 業
	平成27年度全経簿記電卓競技大会 全国大会電卓の部	優 勝	若 松 商 業
	第35回全国高等学校Ⅱ簿記選手権競技大会	IT部門 第3位	福 島 商 業
マーチン グバンド ・バトン トワリン グ	全国高等学校ダンスドリル選手権大会2015	プロップ部門 第2位	郡 山 商 業
	全国高等学校ダンスドリル選手権大会 冬季大会2016	POM部門 第1位	郡 山 商 業

(イ) 個人

専 門 部	大 会 名	成 績	学 校 名	氏 名
弁 論	第63回全国高等学校決勝弁論大会	内閣総理大臣賞 文部科学大臣賞 特選 (第3位相当)	会 津	加 藤 さ わ
	安達峰一郎記念 世界平和弁論大会			
	文部科学大臣杯全国青年弁論大会	優 秀 賞 名 古 屋 市 議 会 議 長 賞	会 津	武 田 夏 歩
文 芸	第30回全国高等学校文芸コンクール 小説部門 短歌部門	優 良 賞 優 良 賞	磐 城 城	石 井 茉 利 奈
			磐 城 城	佐 々 木 萌
放 送	第61回NHK杯全国高校放送コンテスト アナウンス部門	入 選	磐城桜が丘	新 井 田 花 音
家 庭	第63回全国高等学校家庭クラブ研究 発表大会 ホームプロジェクトの部	文部科学大臣賞	喜 多 方 東	渡 部 結 依
特 別 支 援	第21回全国特別支援学校文化祭 造形・美術部門	最 優 秀 賞	郡 山 養 護	蜂 須 賀 侑
農 業	全農学生「酪農の夢」コンクール	最 優 秀 賞	相 馬 農 業	高 山 直 哉
小倉百人一首かるた	第39回全国高等学校総合文化祭 小倉百人一首かるた部門 読手コンクールの部	全 国 優 秀 賞	安 積 黎 明	尾 形 真 由 紀
商 業	第62回全国高等学校珠算・電卓競技 大会 珠算部門 伝票算	第 2 等	郡 山 商 業	藤 井 杏 奈
	全国電卓競技大会 個人総合	優 勝	郡 山 商 業	鈴 木 樹 里
	第62回全国高等学校珠算・電卓競技 大会 電卓部門 個人総合	優 勝	郡 山 商 業	鈴 木 沙 也 加
	第62回全国高等学校珠算・電卓競技 大会 電卓部門 伝票算	第 2 等	郡 山 商 業	榊 亮 太
	全国高等学校簿記コンクール個人競技	優 秀 賞	若 松 商 業	渡 部 花 音
	平成27年度全経簿記電卓競技全国大 会 個人総合競技	優 準 優 勝	若 松 商 業 若 松 商 業	渡 部 美 咲 佐 藤 美 空
マーチン グバンド ・バトン トワリン グ	第7回全国高等学校ダンスドリル選 手権大会 冬季大会 Ms.SOLO 1年生部門	第 1 位	郡 山	鈴 木 梨 奈

オ 平成27年度福島県高等学校文化連盟表彰

(ア) 優秀団体

No.	団 体 名	所属校名	専 門 部	全 国 大 会 等 での 成 績
1	郡山北工業高校 コンピューター部	郡山北工 業 高 校	工 業	第6回国際ナノ・マイクロアプリケーションコンテスト2015 主催：MEMS パークコンソーシアム・東北大学マ イクロシステム融合研究開発センター 国内予選第2位（全国第1位相当） FirstPrize（世界3位）※世界10カ国23チーム参加 第6回ものづくり日本大賞 主催：経済産業省・国土交通省・厚生労働省・ 文部科学省 内閣総理大臣賞（全国1位相当）
2	磐城高 校 放 送 委 員 会	磐城高 校	放 送	第62回全国高校放送コンテスト 主催：全国放 送教育研究会連盟・NHK ラジオドキュメント部門優勝（全国第1位相当）

3	磐城桜が丘高校放送局	磐城桜が丘	放送	第39回全国高等学校総合文化祭滋賀大会 主催：全国高等学校文化連盟 ビデオメッセージ部門優秀賞（全国第1位相当）
4	湯本高校放送局	湯本	放送	第38回全国高等学校総合文化祭茨城大会放送部門 主催：全国高等学校文化連盟 オーディオ・ビクチャー部門優秀賞（全国第1位相当）
5	郡山商業高校珠算部	郡山商業高校	商業	平成27年度珠算・電卓競技大会 主催：全国商業高等学校協会 団体総合競技準優勝（全国第2位相当） 平成27年度全経簿記電卓競技大会 主催：全国経理教育協会 団体優勝（全国1位相当、3年連続）、個人総合優勝 第19回全日本電卓競技大会 主催：日本電卓技能検定協会 団体優勝（全国1位相当）
6	会津高校社会弁論部	会津高校	弁論	第63回全国高等学校決勝弁論大会 主催：群馬県立館林高校 団体の部準優勝（群馬県議会議長賞） （全国第2位相当）
7	郡山高校合唱部	郡山高校	合唱	第82回NHK全国学校音楽コンクール 金賞 （全国大会第1位相当） 第68回全日本合唱コンクール全国大会 金賞 埼玉県知事賞（全国第2位相当）
8	郡山商業高校チアリーディング部	郡山商業高校	マーチングバンド・バトン・トワリング	全国高等学校ダンスドリル選手権 2015 主催：NPO法人ミスダンスドリルチーム・インターナショナル・ジャパン プロップ部門 第2位（全国第2位相当） 全国高等学校ダンスドリル選手権大会ウインターカップ 主催：NPO法人ミスダンスドリルチーム・インターナショナル・ジャパンPOM部門第1位
9	会津高校合唱部	会津高校	合唱	第68回全日本合唱コンクール全国大会 金賞 文部科学大臣賞（全国大会1位相当）
10	磐城高校吹奏楽部	磐城高校	吹奏楽	第63回全日本吹奏楽コンクール全国大会 金賞
11	平商業高校吹奏楽部	平商業高校	吹奏楽	第39回全日本アンサンブルコンテスト全国大会 金賞
12	磐城高校文芸部	磐城高校	文芸	第30回全国高等学校文芸コンクール 優秀賞（全国第2位相当）
13	福島商業高校情報処理部	福島商業高校	情報処理	第35回全国高等学校IT簿記選手権大会IT部門 主催：学校法人立志舎 団体3位
14	若松商業高校簿記研究部	若松商業高校	簿記研究	全国簿記電卓競技大会（簿記部門） 主催：全国経理教育協会 団体競技優勝（全国第1位相当）
15	湯本高校放送局	湯本高校	放送	第39回全国高等学校総合文化祭滋賀大会 主催：全国高等学校文化連盟 オーディオビクチャー部門（全国1位相当）

(イ) 優秀個人

No.	氏名	所属校名	専門部	全国大会等での成績
1	加藤 さ わ	会津高校	弁論	第69回全国高等学校弁論大会 内閣総理大臣賞・文部科学大臣賞（全国第1位相当） 第4回安達峰一郎記念世界平和弁論大会 特選（全国第3位相当）
2	武田 夏 歩	会津高校	弁論	第59回文部科学大臣杯全国青年弁論大会 優秀賞 名古屋市議会議長賞（全国第2位相当）
3	高山 直 哉	相馬農業校	農業	第9回全農学生「酪農の夢」コンクール 最優秀賞（全国第1位相当）
4	尾形 真 由 紀	安積黎明校	小倉百人一首かるた	第39回全国高等学校総合文化祭滋賀大会小倉百人一首かるた部門 読手コンクールの部 全国優秀賞（全国第2位相当）
5	渡部 結 依	喜多方東校	家庭	第63回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会 ホームプロジェクト部門 文部科学大臣賞（全国第1位相当）
6	渡部 美 咲	若松商業校	商業	全国簿記電卓競技大会（簿記部門） 個人総合競技 優勝（全国第1位相当）
7	佐藤 美 空	若松商業校	商業	全国簿記電卓競技大会（簿記部門） 個人総合競技 準優勝（全国第2位相当）
8	渡部 花 音	若松商業校	商業	全国高等学校簿記コンクール 個人競技 優秀賞（全国第2位相当）
9	藤井 杏 奈	郡山商業校	商業	全国高等学校珠算・電卓競技大会 （全商）珠算の部 伝票算競技2等（全国第3位相当）
10	鈴木 樹 里	郡山商業校	商業	全国電卓競技大会 （全経）個人総合競技 優勝（全国第1位相当） 全国高等学校珠算・電卓競技大会 （全商）電卓の部 個人総合競技優勝（全国第1位相当）
11	鈴木 沙 也 加	郡山商業校	商業	全国高等学校珠算・電卓競技大会 （全商）電卓の部 伝票算競技優勝（全国第1位相当）
12	榊 亮 太	郡山商業高校	商業	全国高等学校珠算・電卓競技大会 （全商）電卓の部 伝票算競技2等（全国第3位相当）
13	鈴木 梨 奈	郡山高校	マーチングバンド・バトントワリング	全国高等学校ダンスドリル選手権大会ウィンターカップ 学年別ソロの部 第1位（全国第1位相当）
14	蜂須賀 渉	郡山養護学校	特別支援学校	第22回全国特別支援学校文化祭造形美術部門 最優秀賞（全国第1位）
15	蜂須賀 侑	郡山養護学校	特別支援学校	第21回全国特別支援学校文化祭造形美術部門 最優秀賞（全国第1位）
16	在原 駆	いわき秀英高校	将棋	第28回全国高等学校将棋竜王戦 第3位（第3位相当）

(ウ) 優秀指導者

No.	氏名	所属校名	専門部	指導歴等
1	吉田義仁	郡山北工業高 校	新聞専門部	第38回全国高等学校総合文化祭新聞部門年間紙面審査優良賞(郡山東高校)
2	佐藤繁	会津高校	福島県高文連事務局	第62回全国高等学校決勝弁論大会個人の部準優勝(館林市議会議長賞) 第63回全国高等学校決勝弁論大会準優勝(群馬県議会議長賞) 第69回全国高等学校弁論大会(内閣総理大臣賞・文部科学大臣賞) 第4回安田峰一郎記念世界平和弁論大会(特選) 第59回文部科学大臣杯全国青年弁論大会(優秀賞・名古屋市議会議長賞)
3	高橋佳典	福島明成高 校	農業専門部	第9回酪農の夢コンクール全国大会最優秀賞 平成27年度第66回日本学校農業クラブ連盟全国大会群馬大会意見発表会区分「食料・生産」優秀賞
4	遠藤教広	磐城高校	文芸専門部	平成24年度第27回全国高等学校文芸コンクール文芸部誌部門優秀賞(一ツ橋文芸教育振興賞)全国第3位相当 第30回全国高等学校文芸コンクール優秀賞

第3節 文化財の愛護と伝統文化の継承

1 文化財保護体制の充実

(1) 指定文化財保護体制の充実(文化財パトロール)

例年、文化財保護の万全を期すため、民間の有識者を文化財保護指導委員に委嘱し、パトロール計画に基づいて、定期的に国・県指定重要文化財や重要遺跡の巡視を行い、その実態把握に努めてきた。平成27年度も巡視対象地区を14地区に編成して実施した。

(2) 文化財保護指導者研修会

ア 趣旨

文化財に関する知識の普及と愛護精神の高揚を図るため、県文化財センター白河館が実施主体となり、文化財の保護について指導的立場にある関係者に対し、文化財に関する専門的事項について講習を行い、市町村における文化財保護行政の進展に役立てることを目的とする。

イ 期日及び場所

平成27年10月22日(木)～23日(金)

白河市

ウ 内容

(ア) 講義内容及び講師

- a 「文化財保護の基盤づくりについて」
白河市建設部都市政策室
- b 「藤沼湖土石流災害と文化財保護」
須賀川市教育委員会
- c 「福島県被災文化財等救援本部の活動」
福島県教育庁文化財課

(イ) 現地研修

- a 解説会 ふくしま復興展Ⅱ「よみがえる文化財」
- b 国指定史跡「小峰城跡」

(3) 市町村文化行政担当者会議

ア 趣旨

県内市町村の文化財行政担当者が職務を遂行するうえでの必要な知識の習得を図り、また、実務上の疑問点や問題点等について質疑・意見交換することによって、より円滑に文化財行政を推進させることを目的として開催した。

イ 期日及び場所

平成27年5月27日(水) 本庁舎正庁

ウ 内容

- (ア) 文化行政の動向
- (イ) 平成27年度事業について
- (ウ) 指定文化財の対応について

2 埋蔵文化財の保護の充実

(1) 埋蔵文化財保護体制

県の歴史と文化を物語る文化財や県内の遺跡への関心は、県民の中で着実に高まっており、福島県教育委員会は、埋蔵文化財(遺跡)についても保存・保護のため調査体制の充実を図ってきた。平成27年度は、東日本大震災からの復旧・復

興事業の埋蔵文化財調査の他府県市教育委員会から7名の派遣を受けて、文化財課の体制を強化した。

他府県市からの派遣

派遣期間	府 県 市 名
H27.4～H28.3	埼玉県、愛知県、長崎県
H27.4～9	鳥取県
H27.11	香川県
H27.12	青森県
H28.1～2	熊本県

また、(公財)福島県文化振興財団遺跡調査部においては、事業団職員22名、派遣教員3名、財団間出向職員3名、嘱託職員9名、計37名で調査にあたった。

福島県文化振興財団遺跡調査部職員数

年度	57	58	59	60	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7
人員	26	26	30	40	44	47	47	55	60	60	62	62	62	62
年度	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
人員	62	62	68	68	76	61	39	40	40	40	41	41	38	32
年度	22	23	24	25	26	27								
人員	26	26	35	40	39	37								

(平成14年度までは遺跡調査課定数)

(2) 開発事業地内の保護対策

開発事業地内の遺跡の保護は、①遺跡の所在・範囲・内容等を明らかにする「分布調査」・「試掘調査」の結果により、②事業者と遺跡を保護するための「保存協議」を行い、③現状保存ができない場合は、発掘調査により「記録保存」し、その成果を調査報告書としてまとめることで対応している。

ア 分布調査・試掘調査

分布調査・試掘調査は、遺跡を保護するための情報を収集することを目的としている。

試掘調査は、一般国道115号相馬福島道路13箇所99,900㎡、会津縦貫南道路4箇所13,800㎡、主要地方道小名浜道路1箇所10,000㎡を実施した。

イ 保存協議

昨年度の継続協議を含め、次の事業について関係機関と保存協議を実施した。

会津縦貫南道路、一般国道115号相馬福島道路の各事業関係機関、国道・県道の工事事務所等。

ウ 発掘調査

福島県教育委員会では、開発に伴う発掘調査(記録保存調査)を(公財)福島県文化振興財団に委託した。調査した遺跡は下記のとおり。

- ・阿武隈川上流河川改修事業：高木遺跡(須賀川市) 24,000㎡
- ・会津縦貫南道路：栗林遺跡(下郷町) 1,600㎡
- ・一般国道115号相馬福島(壺山)道路：福田遺跡他2(伊達市) 3,300㎡
- ・一般国道115号相馬福島道路(相馬～相馬西間)：横川B遺跡他1(相馬市) 2,400㎡

- ・農山漁村地域復興基盤総合整備事業：谷地中遺跡（南相馬市）
6,000㎡
- ・農山漁村地域復興基盤総合整備事業：五畝田・犬這遺跡（南相馬市）
4,700㎡
- ・県道広野小高線整備事業：南代遺跡（檜葉町）
3,400㎡
- ・県道北泉小高線整備事業：五畝田遺跡（南相馬市）
500㎡

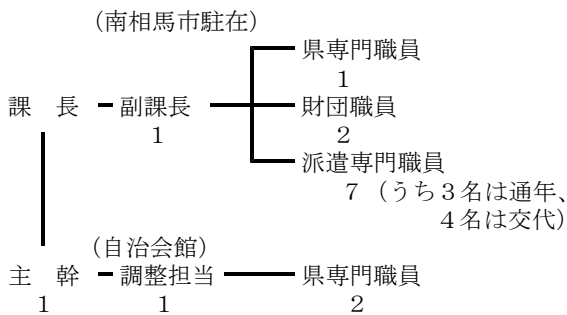
なお、県内市町村においても開発に伴う発掘調査が各市町村教育委員会によって実施しているが、遺跡の重要性や調査体制の実情に応じ、適時福島県教育委員会が指導助言している。

(3) 平成27年度の復興事業に係る埋蔵文化財調査状況

昨年度に引き続き、全国から専門職員7名の派遣を受けて県の復興調査態勢を強化し、県営ほ場再整備事業、河川海岸整備事業、海岸防災林関連事業等に係る埋蔵文化財の分布調査、試掘・確認調査を迅速に実施し、復興事業計画に遅れが出ないように対応した。

また、被災市町村の復興事業に対しても、専門職員所在の有無に関わらず技術協力を実施し、復興事業の迅速化に寄与してきた。

〈平成27年度〉復興調査体制



実施した調査は以下のとおりである。

- ア 分布調査
ほ場再整備、河川海岸整備事業、海岸防災林
約907万㎡
- イ 試掘・確認調査
ほ場再整備、道路改良、海岸防災林等
約93万㎡
- ウ 災害復興に係る市町村技術協力
 - ① 南相馬市
植物工場建設、土取場候補地、市内再開発関連等に係る分布調査、試掘・確認調査及び本発掘調査
 - ② 浪江町
土取場候補地、防災用道路建設、防災集団移転に係る分布調査及び試掘・確認調査
 - ③ 双葉町
常磐自動車道双葉インターチェンジ建設に係る分布調

査及び試掘・確認調査

- ④ 大熊町
メガソーラー事業、民間宿舎建設、復興拠点建設等に係る分布調査、試掘・確認調査、本発掘調査
- ⑤ 富岡町
メガソーラー事業に係る分布調査、試掘・確認調査
- ⑥ 檜葉町
県道改良、常磐道ならばスマートインターチェンジ建設等に係る分布調査、試掘・確認調査
- ⑦ 広野町
広野駅東開発、民間宿舎建設等に係る試掘・確認調査、本発掘調査
- ⑧ 川内村
工業団地建設に係る分布調査、試掘・確認調査

(4) 埋蔵文化財保護体制充実のための研修

ア 福島県文化財センター白河館文化財研修

埋蔵文化財の調査を担当する自治体・団体職員などを対象とした研修会を、(公財)福島県文化振興財団へ委託し、福島県文化財センター白河館研修事業として実施している。

イ 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所埋蔵文化財担当者専門研修

平成27年度研修を受けた者は、以下のとおり。

研修名称	期 日	受 講 者	
建造物保存活用 基礎課程	6月22日～	福島市	1名
	6月26日		
報告書作成 I 課程	7月6日～ 7月10日	白河市	1名
木器・木製品 調査課程	9月14日～	(公財)文化振興財団 伊達市	1名 1名
	9月18日		
三次元計測課程	9月28日～ 10月2日	県立博物館	1名

(5) 埋蔵文化財保護普及活動

平成27年度に刊行した埋蔵文化財調査報告書は以下のとおり。

- ア 福島県内遺跡分布調査報告22
- イ 会津縦貫北道路遺跡発掘調査報告16
- ウ 浅見川防災緑地関連遺跡発掘調査報告
- エ 県道北見小高線関連遺跡発掘調査報告1
- オ 農山漁村地域復興基盤総合整備事業関連遺跡調査報告1
- カ 一般国道115号相馬福島道路遺跡発掘調査報告3
- キ 東日本大震災復興関連遺跡調査報告2
- ク 一般国道115相馬福島道路遺跡発掘調査報告号4

(6) 市町村埋蔵文化財調査技術協力事業

この事業は、県内の市町村教育委員会が実施する埋蔵文化財発掘調査等について、市町村教育委員会からの要請により県教育委員会が埋蔵文化財の調査等に必要な技術

協力・支援する事業である。

調査等に必要な技術の協力・支援を行う職員は、県教育委員会の依頼により（公財）福島県文化振興財団が選任した財団職員で、分布調査、試掘確認調査、小規模な発掘調査及び出土遺物の整理や報告書作成に関する技術の協力・支援を行う。

平成27年度の技術協力の実績は、以下のとおり。

市町村	遺跡名	協力内容
福島市	腰浜廃寺跡	確認調査
川俣町	広田遺跡	確認調査
川俣町	大清水遺跡	確認調査
川俣町	後庵館跡遺跡	確認調査
川俣町	十郎内遺跡	確認調査
矢吹町	南地区	分布調査
矢吹町	明新上地区	分布調査
矢祭町	我満平遺跡	確認調査
矢祭町	中山遺跡	確認調査
矢祭町	割目遺跡	確認調査
南会津町	嶋山城跡	測量調査
大熊町	OK-B12	試掘調査
大熊町	上原A・B遺跡	試掘調査・確認調査
大熊町	道平遺跡	試掘調査・確認調査
浪江町	大平山遺跡	縄張図作成
広野町	柳町II遺跡	本発掘調査
広野町	東町IV遺跡	確認調査

(7) 文化財センター整備事業

福島県教育委員会が（公財）福島県文化振興財団に委託して実施した発掘調査により出土した遺物の保存処理及び調査・研究については、渡利の県施設を活用し、福島県文化財センター整備事業の一機能として実施している。主な業務として金属製品や木製品等脆弱な出土文化財の保管管理と劣化防止措置、出土した遺物の整理・梱包・搬送・文化財データベース入力を実施している。

(8) 平成27年度開発事業に伴う試掘確認調査件数

(平成27年4月～28年3月)

No.	調査原因	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
1	道路建設	12	1	3		5	16		37
2	河川・ダム・空港・港湾						9	1	10
3	学校建設						1		1
4	その他の建物	1	1		2		15	2	21
5	宅地造成・住宅等	47	76	3	1		29	8	164
6	都市計画等								0
7	公園造成など								0
8	土砂採取						9	1	10
9	農業関係	1			1		32	1	35
10	電気・ガス・水道		1		1		6		8
11	その他の開発	9	6		1		12	1	29
	計	70	85	6	6	5	129	14	315

※ 試掘確認調査件数の内訳は、県教育委員会が実施したものの65件、市町村教育委員会が実施したものの250件です。

(9) 平成27年度発掘調査件数

(平成27年4月～28年3月)

No.	調査原因	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
1	道路建設	5	1	2	1	1	4	1	15
2	河川・ダム・空港・港湾		1						1
3	学校建設								0
4	その他の建物	1		1			1		3
5	宅地造成・住宅等	3					1	1	5
6	都市計画等							1	1
7	公園造成など								0
8	土砂採取						1		1
9	農業関係				2		2		4
10	電気・ガス・水道								0
11	その他の開発	1		4			1		6
	小計	10	2	7	3	1	10	3	36
12	史跡整備	7		2	8				17
13	学術調査		1		2				3
	合計	17	3	9	13	1	10	3	56

※ 発掘調査件数の内訳は、県教育委員会が実施したものの11件、市町村教育委員会が実施したものの42件、大学等研究機関が実施したものの3件です。

※ 史跡整備等には、史跡整備・遺跡整備・保存目的の範囲内容確認調査が含まれます。

(10) 平成27年度開発事業に伴う試掘調査(周知の遺跡)

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
1	沖町遺跡	福島市渡利字沖町	福島市教委	4月9日～4月13日	242㎡	10㎡	奈良～平安	集落跡	個人住宅
2	鳥谷野館跡	福島市鳥谷野字館	福島市教委	4月16日～4月25日	781㎡	50㎡	中世	城館跡	宅地造成
3	沖町遺跡	福島市渡利字沖町	福島市教委	5月12日～5月15日	919㎡	34㎡	奈良～平安	集落跡	住宅
4	堂宮敷遺跡	福島市小倉寺字堂宮敷	福島市教委	5月21日～5月25日	2,531㎡	16㎡	平安	散布地	宅地造成
5	本内館跡	福島市本内字館 外	福島市教委	6月1日～6月11日	958㎡	40㎡	中世	城館跡	個人住宅
6	岩崎町遺跡	福島市渡利字岩崎町	福島市教委	6月15日～6月22日	237㎡	14㎡	奈良～平安	集落跡	その他開発
7	腰浜廃寺跡	福島市腰浜町	福島市教委	7月6日～7月8日	170㎡	14㎡	古墳～中世	社寺跡	その他開発
8	座頭町B遺跡	福島市大笹生字座頭町 外	福島市教委	7月9日～7月14日	530㎡	4㎡	奈良・平安	散布地	個人住宅
9	中原B遺跡	福島市松川町字中原	福島市教委	7月30日～8月5日	1,277㎡	100㎡	奈良・平安	散布地	宅地造成
10	鑑塚遺跡	福島市仁井田下鎌	福島市教委	7月31日～8月21日	1,469㎡	117㎡	縄文～平安	散布地・集落跡	個人住宅
11	道下遺跡	福島市森合字丹波谷地	福島市教委	8月24日～9月4日	5,055㎡	96㎡	縄文、弥生	散布地	宅地造成
12	道下遺跡	福島市森合字丹波谷地	福島市教委	9月3日～9月3日	202㎡	16㎡	縄文・弥生	散布地	その他開発
13	北五老内遺跡	福島市福島市旭町	福島市教委	9月14日～9月14日	257㎡	10㎡	奈良・平安	散布地	個人住宅
14	南沢又城跡	福島市南沢又字館	福島市教委	9月14日～10月2日	2,387㎡	99㎡	中世	城館跡	宅地造成
15	山ノ下遺跡	福島市渡利字柳小路	福島市教委	9月28日～9月30日	862㎡	54㎡	古墳・奈良・平安	散布地	宅地造成
16	南諏訪原遺跡	福島市松川町字南諏訪原	福島市教委	10月6日～10月13日	615㎡	56㎡	縄文・奈良・平安	集落跡	個人住宅
17	南諏訪原遺跡	福島市松川町字南諏訪原	福島市教委	10月8日～10月13日	585㎡	11㎡	縄文・奈良・平安	集落跡	個人住宅
18	古館跡	福島市飯坂町平野字館屋敷	福島市教委	10月15日～11月18日	2,482㎡	206㎡	中世	城館跡	宅地造成
19	北五老内遺跡	福島市北五老内町	福島市教委	10月20日～10月20日	77㎡	9㎡	奈良・平安	散布地	個人住宅
20	房ノ内遺跡	福島市黒岩字房ノ内	福島市教委	11月2日～11月13日	467㎡	50㎡	縄文・弥生・平安	散布地・集落跡	個人住宅
21	鑑塚遺跡	福島市吉倉字桜内	福島市教委	11月16日～11月18日	281㎡	36㎡	縄文・古墳・平安	集落跡	その他開発
22	古館跡	福島市飯坂町平野字館屋敷	福島市教委	11月16日～11月19日	1,188㎡	16㎡	個人	城館跡	個人住宅
23	二ツ石遺跡	福島市鳥谷野字水汲田	福島市教委	11月20日～1月13日	2,395㎡	215㎡	縄文・古墳・平安	散布地・集落跡	宅地造成
24	五郎兵衛館跡	福島市飯坂町字五郎兵衛館	福島市教委	11月24日～11月25日	190㎡	8㎡	中世	城館跡	個人住宅
25	台畑遺跡	福島市南矢野目字台畑	福島市教委	1月13日～1月22日	990㎡	67㎡	縄文・平安	散布地・集落跡	宅地造成
26	二ツ石遺跡	福島市鳥谷野字水汲田	福島市教委	1月14日～1月18日	924㎡	80㎡	縄文・古墳・平安	散布地・集落跡	その他開発
27	南諏訪原遺跡	福島市松川町字北諏訪原	福島市教委	2月16日～2月18日	2,118㎡	180㎡	縄文・奈良・平安	集落跡	その他開発
28	八郎内遺跡	福島市黒岩字八郎内	福島市教委	2月29日～3月2日	420㎡	40㎡	縄文・古墳・平安	散布地・集落跡	個人住宅
29	南沢又城跡	福島市南沢又字館	福島市教委	3月1日～3月29日	2,387㎡	99㎡	中世	城館跡	宅地造成
30	山ノ下遺跡	福島市渡利字山ノ下	福島市教委	3月9日～3月28日	594㎡	40㎡	古墳・平安・奈良	散布地	その他開発
31	古町遺跡	郡山市富久山町久保田	郡山市教委	4月22日～月日	556㎡	31㎡	古墳～平安	散布地	個人住宅
32	古町遺跡	郡山市福久山町久保田	郡山市教委	4月22日～月日	318㎡	14㎡	古墳～平安	散布地	個人住宅
33	西原遺跡群	郡山市富田町字町畑	郡山市教委	4月23日～月日	330㎡	14㎡	縄文・古墳	散布地	個人住宅

No.	遺 跡 名	所 在 地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時 代	種 別	調査原因
34	上野山遺跡	郡山市水門町	郡山市教委	4 月 27 日 ~ 月 日	476 ㎡	21 ㎡	平安	散布地	個人住宅
35	亀田遺跡群	郡山市下亀田	郡山市教委	4 月 28 日 ~ 月 日	876 ㎡	35 ㎡	古墳~平安	その他	住宅
36	上之内遺跡	郡山市富久山町福原字陣場	郡山市教委	5 月 8 日 ~ 月 日	290 ㎡	8 ㎡	平安	散布地	個人住宅
37	西原遺跡群	郡山市富田町字西原	郡山市教委	5 月 12 日 ~ 月 日	272 ㎡	11 ㎡	縄文・古墳	散布地	個人住宅
38	徳定 A・B 遺跡	郡山市田村町徳定	郡山市教委	5 月 13 日 ~ 月 日	572 ㎡	42 ㎡	縄文~平安	散布地	個人住宅
39	清水台遺跡	郡山市赤木町	郡山市教委	5 月 26 日 ~ 月 日	264 ㎡	17 ㎡	奈良	官衛跡	個人住宅
40	宿遺跡	郡山市田村町金屋字久保	郡山市教委	5 月 27 日 ~ 月 日	290 ㎡	6 ㎡	平安	散布地	その他建物
41	大島遺跡	郡山市富田町字矢ノ根石	郡山市教委	5 月 28 日 ~ 月 日	966 ㎡	42 ㎡	縄文~弥生・平安	散布地	住宅
42	咲田遺跡	郡山市咲田一丁目	郡山市教委	6 月 2 日 ~ 月 日	286 ㎡	6 ㎡	縄文・奈良~平安	散布地・その他	個人住宅
43	乙高遺跡	郡山市富久山町久保田	郡山市教委	6 月 11 日 ~ 月 日	1,924 ㎡	84 ㎡	縄文	散布地	宅地造成
44	新屋敷遺跡	郡山市新屋敷一丁目	郡山市教委	6 月 16 日 ~ 月 日	352 ㎡	11 ㎡	奈良~平安	散布地	住宅
45	柳橋遺跡	郡山市中田町柳橋字町	郡山市教委	6 月 23 日 ~ 月 日	294 ㎡	14 ㎡	縄文・奈良~平安	散布地	個人住宅
46	八雲遺跡	郡山市安積町荒井字八雲	郡山市教委	6 月 25 日 ~ 月 日	597 ㎡	13 ㎡	古墳~平安	散布地	住宅
47	長者窪遺跡	郡山市安積町笹川	郡山市教委	7 月 2 日 ~ 月 日	335 ㎡	7 ㎡	縄文	散布地	個人住宅
48	鳴神・柿内戸遺跡	郡山市富久山町福原	郡山市教委	7 月 6 日 ~ 月 日	165 ㎡	6 ㎡	縄文・古墳~平安	散布地	住宅
49	亀河内遺跡	郡山市田村町上行合	郡山市教委	7 月 7 日 ~ 月 日	258 ㎡	6 ㎡	古墳~中世	散布地	住宅
50	西原遺跡群	郡山市富田町字黒染	郡山市教委	7 月 13 日 ~ 月 日	1,172 ㎡	56 ㎡	縄文、古墳	散布地	個人住宅
51	並木遺跡	郡山市桑野五丁目	郡山市教委	7 月 14 日 ~ 月 日	214 ㎡	8 ㎡	縄文、平安	散布地	個人住宅
52	宮前遺跡	郡山市大槻町字町裏	郡山市教委	7 月 21 日 ~ 月 日	283 ㎡	14 ㎡	縄文	散布地	個人住宅
53	大槻城跡	郡山市大槻町字殿町	郡山市教委	7 月 21 日 ~ 月 日	238 ㎡	8 ㎡	中世	城館跡	個人住宅
54	山田原遺跡	郡山市逢瀬町多田野字北原	郡山市教委	7 月 27 日 ~ 月 日	624 ㎡	43 ㎡	縄文	散布地	個人住宅
55	阿久戸遺跡	郡山市町日東一丁目	郡山市教委	7 月 28 日 ~ 月 日	273 ㎡	28 ㎡	弥生~平安	散布地	個人住宅
56	水神山遺跡	郡山市富久山町久保田	郡山市教委	8 月 3 日 ~ 8 月 6 日	15,029 ㎡	81 ㎡	縄文	散布地	道路
57	愛宕遺跡	郡山市富久山町久保田	郡山市教委	8 月 10 日 ~ 月 日	271 ㎡	8 ㎡	奈良	散布地	住宅
58	愛宕遺跡	郡山市福久山町久保田	郡山市教委	8 月 10 日 ~ 月 日	414 ㎡	14 ㎡	奈良	散布地	住宅
59	清水内遺跡	郡山市大槻町字中谷地	郡山市教委	8 月 18 日 ~ 月 日	168 ㎡	8 ㎡	古墳	散布地	個人住宅
60	桃見台遺跡	郡山市桃見台	郡山市教委	8 月 18 日 ~ 月 日	218 ㎡	9 ㎡	縄文~平安	その他	個人住宅
61	恩田遺跡	郡山市富久山町久保田	郡山市教委	8 月 24 日 ~ 月 日	449 ㎡	8 ㎡	古墳~平安	散布地	個人住宅
62	並木遺跡	郡山市並木三丁目	郡山市教委	8 月 25 日 ~ 月 日	581 ㎡	11 ㎡	縄文、平安	散布地	店舗
63	亀田遺跡群	郡山市下亀田	郡山市教委	9 月 2 日 ~ 月 日	1,616 ㎡	56 ㎡	古墳~平安	その他	宅地造成
64	阿久戸遺跡	郡山市町東二丁目	郡山市教委	9 月 3 日 ~ 月 日	194 ㎡	9 ㎡	弥生~平安	散布地、その他	住宅
65	並木遺跡	郡山市並木四丁目	郡山市教委	9 月 4 日 ~ 月 日	226 ㎡	10 ㎡	縄文・平安	散布地	個人住宅
66	八雲遺跡	郡山市安積町荒井字八雲	郡山市教委	9 月 14 日 ~ 月 日	174 ㎡	11 ㎡	古墳~平安	散布地	個人住宅

No.	遺 跡 名	所 在 地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時 代	種 別	調査原因
67	八雲遺跡	郡山市荒井北井	郡山市教委	9月14日～月日	215㎡	9㎡	古墳～平安	散布地	個人住宅
68	乙高遺跡	郡山市富久山町久保田	郡山市教委	9月16日～月日	360㎡	6㎡	縄文	散布地	個人住宅
69	水神山遺跡	郡山市富久山町久保田	郡山市教委	9月18日～月日	263㎡	5㎡	縄文	散布地	個人住宅
70	徳定A・B遺跡	郡山市田村町徳定古屋敷	郡山市教委	9月28日～月日	478㎡	52㎡	縄文～平安	散布地	住宅
71	水見台遺跡	郡山市桜木二丁目	郡山市教委	10月1日～月日	330㎡	11㎡	縄文・奈良～平安	散布地	個人住宅
72	熱海遺跡	郡山市熱海二丁目	郡山市教委	10月6日～月日	213㎡	6㎡	旧石器・縄文	散布地	個人住宅
73	長者台遺跡	郡山市西田町鬼生田字大綱	郡山市教委	10月8日～月日	384㎡	28㎡	縄文・古墳～平安	散布地	個人住宅
74	神明町遺跡	郡山市神明町	郡山市教委	10月13日～月日	342㎡	14㎡	奈良～平安	散布地	その他開発
75	三御堂B遺跡	郡山市富久山町久保田	郡山市教委	10月15日～月日	1,194㎡	56㎡	平安	社寺跡・散布地	その他開発
76	下権現遺跡	郡山市安積町荒井字十九夜	郡山市教委	10月20日～月日	440㎡	8㎡	縄文～平安	散布地	個人住宅
77	並木遺跡	郡山市並木四丁目	郡山市教委	10月21日～月日	613㎡	25㎡	縄文・平安	散布地	住宅
78	大槻城跡	郡山市大槻町字殿町	郡山市教委	10月26日～月日	338㎡	14㎡	中世	城館跡	住宅
79	向館跡	郡山市富田町字下西田	郡山市教委	10月27日～月日	248㎡	14㎡	中世	城館跡	個人住宅
80	咲田遺跡	郡山市咲田二丁目	郡山市教委	10月28日～月日	834㎡	28㎡	縄文・奈良～平安	散布地・その他	住宅
81	下曲田遺跡	郡山市富田東	郡山市教委	11月4日～月日	543㎡	15㎡	平安	散布地	住宅
82	大師前遺跡	郡山市富久山町福原	郡山市教委	11月11日～月日	286㎡	10㎡	平安	散布地	店舗
83	太郎殿前遺跡	郡山市富久山町久保田	郡山市教委	11月11日～月日	331㎡	11㎡	古墳～平安	散布地	その他開発
84	長者窪遺跡	郡山市安積町笹川	郡山市教委	11月13日～月日	302㎡	14㎡	縄文	散布地	個人住宅
85	阿弥陀壇古墳群	郡山市堤一丁目	郡山市教委	11月17日～月日	239㎡	14㎡	古墳	古墳	個人住宅
86	大徳遺跡	郡山市富田町字大徳南	郡山市教委	11月20日～月日	1,800㎡	56㎡	縄文	散布地	宅地造成
87	上之内遺跡	郡山市富久山町福原	郡山市教委	12月1日～月日	2,589㎡	85㎡	平安	散布地	宅地造成
88	高倉遺跡	郡山市日和田町高倉	郡山市教委	12月3日～月日	389㎡	14㎡	平安	散布地	個人住宅
89	北ノ内遺跡	郡山市西田町三丁目	郡山市教委	12月7日～月日	3,000㎡	101㎡	縄文・平安・中世	散布地	ガス・電気・水道等
90	原ノ町遺跡	郡山市大槻町字原ノ町	郡山市教委	12月9日～月日	231㎡	8㎡	古墳～平安	散布地	個人住宅
91	柴宮山古墳群	郡山市大槻町字室ノ木東	郡山市教委	12月18日～月日	293㎡	17㎡	古墳	古墳	住宅
92	郷花遺跡	郡山市富久山町久保田	郡山市教委	12月21日～月日	2,947㎡	56㎡	奈良～平安	散布地	宅地造成
93	並木遺跡	郡山市並木五丁目	郡山市教委	12月22日～月日	668㎡	18㎡	縄文・平安	散布地	個人住宅
94	切払遺跡	郡山市熱海町熱海一丁目	郡山市教委	1月12日～月日	231㎡	14㎡	縄文	散布地	個人住宅
95	金畑遺跡	郡山市大槻町字針生金畑	郡山市教委	1月14日～月日	669㎡	14㎡	奈良～平安	散布地	個人住宅
96	亀田遺跡群	郡山市亀田二丁目	郡山市教委	1月21日～月日	490㎡	14㎡	古墳～平安	散布地	住宅
97	堀切西遺跡	郡山市大槻町字堀切西	郡山市教委	1月25日～月日	1,625㎡	49㎡	奈良～平安	散布地	宅地造成
98	成山館跡	郡山市安積町長久保一丁目	郡山市教委	1月28日～月日	681㎡	21㎡	中世	城館跡	宅地造成
99	郡山館跡	郡山市桜木一丁目	郡山市教委	2月2日～2月3日	1,195㎡	67㎡	中世	城館跡	住宅

No.	遺 跡 名	所 在 地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時 代	種 別	調査原因
100	並木遺跡	郡山市桑野四丁目	郡山市教委	2月4日～月日	1,521㎡	63㎡	平安	散布地	住宅
101	高倉遺跡	郡山市日和田町高倉	郡山市教委	2月9日～月日	627㎡	8㎡	平安	散布地	個人住宅
102	西原遺跡群	郡山市富田町字西原	郡山市教委	2月10日～月日	271㎡	8㎡	縄文・古墳	散布地	個人住宅
103	郡山館跡	郡山市桜木一丁目	郡山市教委	2月17日～月日	1,593㎡	53㎡	中世	城館跡	住宅
104	経蔵遺跡	郡山市安積町笹川字狐塚	郡山市教委	2月18日～月日	840㎡	42㎡	縄文～弥生	散布地	住宅
105	徳定A・B遺跡	郡山市田村町徳定字北堀込	郡山市教委	2月23日～月日	256㎡	8㎡	縄文～平安	散布地	その他開発
106	徳定A・B遺跡	郡山市田村町徳定字北堀込	郡山市教委	2月23日～月日	453㎡	28㎡	縄文～平安	散布地	その他開発
107	原ノ町遺跡	郡山市大槻町字原ノ町	郡山市教委	2月25日～月日	255㎡	10㎡	古墳～平安	散布地	個人住宅
108	二本木遺跡	郡山市大槻町字川廻	郡山市教委	2月25日～月日	164㎡	11㎡	古墳～平安	散布地	個人住宅
109	阿久戸遺跡	郡山市町東一丁目	郡山市教委	3月2日～月日	987㎡	42㎡	弥生～平安	散布地	個人住宅
110	宮前遺跡	郡山市大槻町字上柵	郡山市教委	3月3日～3月11日	252㎡	14㎡	縄文	散布地	個人住宅
111	大槻城跡	郡山市大槻町字城ノ内	郡山市教委	3月8日～月日	1,703㎡	48㎡	中世	城館跡	その他開発
112	天神南遺跡	郡山市富田町	郡山市教委	3月10日～月日	263㎡	7㎡	古墳～平安	散布地	個人住宅
113	向館跡	郡山市富田町字下西田	郡山市教委	3月10日～月日	281㎡	11㎡	中世	城館跡	個人住宅
114	並木遺跡	郡山市並木五丁目	郡山市教委	3月17日～月日	422㎡	8㎡	縄文・平安	散布地	店舗
115	中台遺跡	郡山市富久山町久保田	郡山市教委	3月18日～月日	947㎡	70㎡	古墳～平安	散布地	住宅
116	酒井酒井原遺跡	いわき市勿来町酒井酒井原	いわき市教委	6月17日～6月22日	987㎡	107㎡	縄文・古墳	集落跡	住宅
117	関船館下遺跡	いわき市常磐関船町馬場	いわき市教委	7月6日～7月23日	1,156㎡	120㎡	平安・中世	集落跡・城館跡	住宅
118	万谷遺跡	いわき市勿来町窪田万谷	いわき市教委	7月17日～7月28日	2,635㎡	270㎡	旧石器・縄文・古墳	集落跡	店舗
119	小原遺跡	いわき市岩間町小原	いわき市教委	8月3日～8月6日	107㎡	107㎡	縄文・古墳	集落跡	その他の開発
120	神山前館跡	いわき市泉町下川字薬師前地内	いわき市教委	9月10日～月日	3,615㎡	30㎡	中世	城館跡	宅地造成
121	松小屋館跡	いわき市渡辺町松小屋字下平	いわき市教委	11月5日～11月11日	18,000㎡	64㎡	中世	城館跡	ダム
122	赤井条里跡	いわき市平赤井字笹目田	いわき市教委	11月12日～11月16日	16,797㎡	264㎡	平安	生産遺跡	宅地造成
123	柿ノ目遺跡	いわき市平中山字柿ノ目	いわき市教委	12月4日～12月18日	18,000㎡	400㎡	古代	生産遺跡	宅地造成
124	小原遺跡	いわき市岩間町小原	いわき市教委	12月14日～12月17日	658㎡	23㎡	近現代	集落跡	その他建物
125	谷地川遺跡	いわき市泉町下川字谷地川	いわき市教委	2月29日～3月3日	642㎡	32㎡	古代～近世	散布地	住宅
126	塚原館跡	喜多方市字天満前	喜多方市教委	5月25日～5月29日	12,000㎡	120㎡	中世	城館跡	住宅
127	山信田貝塚	相馬市磯部字山信田	相馬市教委	6月3日～6月4日	396㎡	9㎡	縄文・奈良・平安	貝塚	道路
128	貴布根前遺跡	相馬市塚部字貴布根前	相馬市教委	6月23日～6月23日	144㎡	20㎡	奈良・平安	散布地	住宅
129	相馬中村城	相馬市中村字北町	相馬市教委	5月21日～5月26日	511㎡	40㎡	中世・近世	城館跡	個人住宅
130	篠竹遺跡	相馬市百槻字篠竹	相馬市教委	2月24日～3月3日	240㎡	24㎡	奈良・平安	散布地	住宅
131	地之内遺跡	相馬市日下石字地ノ内	相馬市教委	2月19日～2月23日	240㎡	24㎡	古墳・奈良・平安	散布地	個人住宅
132	寺内遺跡	相馬市馬場野寺寺内	相馬市教委	3月22日～3月30日	992㎡	50㎡	奈良・平安	散布地	住宅

No.	遺 跡 名	所 在 地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時 代	種 別	調査原因
133	天皇館跡	二本松市智恵子の森三丁目	二本松市教委	4月7日～4月8日	600㎡	20㎡	中世	城館	道路
134	三合地館跡	二本松市下川崎字上戸ノ内	二本松市教委	9月7日～月日	274㎡	20㎡	中世	城館	個人住宅
135	立石遺跡	二本松市錦町二丁目	二本松市教委	9月8日～9月16日	997㎡	100㎡	縄文	散布地	その他開発
136	二本松城跡	二本松市郭内三丁目	二本松市教委	12月14日～12月15日	213㎡	20㎡	中世～近世	城館	個人住宅
137	田地ヶ岡館跡 田地ヶ岡遺跡	二本松市塩沢一丁目	二本松市教委	12月22日～月日	26㎡	21㎡	縄文・中世	城館	その他開発
138	堤下B遺跡	南相馬市原町区北泉字堤下	南相馬市教委	4月16日～4月28日	9,700㎡	53㎡	弥生～平安	集落跡	土砂採取
139	榎内遺跡	南相馬市鹿島区横手字川原	南相馬市教委	4月20日～4月23日	1,596㎡	60㎡	縄文・弥生	散布地	住宅
140	大穴遺跡	南相馬市小高区大富字大穴	南相馬市教委	4月22日～4月23日	135,000㎡	66㎡	縄文	散布地	その他開発
141	戸ノ内遺跡	南相馬市鹿島区浮田字太田切外	南相馬市教委	4月30日～6月1日	22,000㎡	143㎡	縄文	集落跡	土砂採取
142	桜井原畑遺跡	南相馬市原町区桜井町二丁目	南相馬市教委	5月27日～6月2日	585㎡	46㎡	縄文～平安	集落跡	個人住宅
143	陣ヶ崎B遺跡	南相馬市原町区上太田字陣ヶ崎	南相馬市教委	5月29日～月日	485㎡	10㎡	縄文	散布地	個人住宅
144	八幡林遺跡	南相馬市鹿島区寺内字八幡林	南相馬市教委	5月29日～月日	100㎡	2㎡	縄文～古墳	集落跡	その他開発
145	榎木沢遺跡	南相馬市鹿島区浮田字榎木沢	南相馬市教委	6月1日～6月3日	4,500㎡	220㎡	弥生～近世	製鉄跡	その他開発
146	信田沢古館跡	南相馬市原町区信田沢 字嶺崎	南相馬市教委	6月8日～6月12日	7,950㎡	41㎡	中世	城館跡	土砂採取
147	巢掛場遺跡	南相馬市原町区萱浜 字巢掛場	南相馬市教委	6月15日～月日	693㎡	26㎡	縄文～中世	散布地	道路
148	八幡林遺跡	南相馬市鹿島区寺内 字八幡林	南相馬市教委	6月19日～6月22日	293㎡	36㎡	縄文～古墳	集落跡	個人住宅
149	八幡林遺跡	南相馬市鹿島区寺内 字八幡林	南相馬市教委	6月22日～7月14日	611㎡	52㎡	縄文～古墳	集落跡	住宅
150	袖原古墳群	南相馬市原町区大甕 字森合東	南相馬市教委	6月25日～6月29日	1,025㎡	28㎡	古墳	古墳	その他開発
151	八幡林遺跡	南相馬市鹿島区寺内 字八幡林	南相馬市教委	7月15日～月日	900㎡	900㎡	縄文～古墳	集落跡	個人住宅
152	切付遺跡	南相馬市原町区馬場字切付	南相馬市教委	7月22日～月日	473㎡	12㎡	奈良・平安	散布地	個人住宅
153	橋本町A遺跡	南相馬市原町区橋本町一丁目	南相馬市教委	7月23日～7月24日	453㎡	10㎡	旧石器	散布地	住宅
154	高見町C遺跡	南相馬市原町区高見町一丁目	南相馬市教委	8月25日～月日	757㎡	2㎡	弥生～平安	散布地	住宅
155	桜井D遺跡	南相馬市原町区上洪佐 字原田	南相馬市教委	9月14日～9月17日	2,064㎡	88㎡	弥生～平安	集落跡	住宅
156	桜井C遺跡	南相馬市原町区上洪佐 字原畑	南相馬市教委	9月24日～月日	331㎡	1㎡	弥生～平安	集落跡	個人住宅
157	桜井C遺跡	南相馬市原町区上洪佐 字原畑	南相馬市教委	10月26日～10月28日	317㎡	24㎡	弥生～平安	集落跡	個人住宅
158	八郎内遺跡	南相馬市鹿島区横手字町田	南相馬市教委	11月24日～月日	386㎡	2㎡	古墳～平安	散布地	個人住宅
159	追合C遺跡	南相馬市原町区金沢字追合	南相馬市教委	1月12日～1月14日	9,625㎡	52㎡	弥生・平安	製鉄跡	土砂採取
160	巢掛場遺跡	南相馬市原町区萱浜 字巢掛場	南相馬市教委	2月18日～月日	2,000㎡	20㎡	縄文～中世	散布地	その他建物
161	榎内遺跡	南相馬市鹿島区横手字御所内	南相馬市教委	3月3日～月日	213㎡	16㎡	縄文・弥生	散布地	個人住宅
162	川内迫B遺跡	南相馬市原町区下太田 字川内迫	南相馬市教委	3月3日～月日	256㎡	3㎡	縄文～平安	製鉄跡	ガス・電気・水道等
163	鷺内遺跡	南相馬市鹿島区寺内字鷺内	南相馬市教委	3月28日～3月31日	20,000㎡	300㎡	縄文	散布地	学校建設
164	実町遺跡	伊達市保原町字実町	伊達市教委	4月21日～月日	899㎡	9㎡	古墳・奈良・平安	散布地	個人住宅
165	大館遺跡	伊達市保原町大泉字平	伊達市教委	6月3日～月日	232㎡	4	古墳・中世	集落跡	個人住宅

No.	遺 跡 名	所 在 地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時 代	種 別	調査原因
166	中畑遺跡	伊達市中畑	伊達市教委	6 月 16 日 ~ 6 月 24 日	459 ㎡	14	平安・中世	散布地	個人住宅
167	宮下遺跡	伊達市保原町字城ノ内	伊達市教委	7 月 14 日 ~ 月 日	191 ㎡	6 ㎡	古墳~中世	散布地	個人住宅
168	修験伊達家極楽院旧跡	伊達市中畑	伊達市教委	7 月 22 日 ~ 月 日	1,076 ㎡	1 ㎡	中世・近世	社寺跡	個人住宅
169	小作逢遺跡	伊達市保原町大泉字小作逢	伊達市教委	9 月 4 日 ~ 月 日	498 ㎡	10 ㎡	古墳・奈良 ・平安	散布地	個人住宅
170	保原城跡	伊達市保原町字城ノ内	伊達市教委	9 月 30 日 ~ 10 月 1 日	281 ㎡	6 ㎡	中世	城館跡	個人住宅
171	金秀寺遺跡	伊達市宮前	伊達市教委	10 月 5 日 ~ 10 月 14 日	1,188 ㎡	24 ㎡	縄文・平安	散布地	宅地造成
172	堂庭遺跡	伊達市梁川町八幡字堂庭	伊達市教委	11 月 27 日 ~ 月 日	850 ㎡	1 ㎡	平安・中世	散布地	個人住宅
173	町谷川遺跡	伊達市梁川町字北町谷川	伊達市教委	11 月 27 日 ~ 月 日	327 ㎡	8 ㎡	縄文・平安 ・近世	散布地	個人住宅
174	金秀寺遺跡	伊達市長岡	伊達市教委	1 月 12 日 ~ 月 日	299 ㎡	4 ㎡	縄文・平安	散布地	個人住宅
175	万所・新田城跡	伊達市梁川町新田字町通	伊達市教委	2 月 8 日 ~ 月 日	654 ㎡	8 ㎡	縄文・奈良 ・中世・近世	城館跡、 散布地	個人住宅
176	町谷川遺跡	伊達市梁川町字北町谷川	伊達市教委	3 月 25 日 ~ 月 日	602 ㎡	3 ㎡	縄文・平安 ・近世	散布地	個人住宅
177	菖蒲沢A遺跡	伊達市保原町大泉字菖蒲沢	伊達市教委	1 月 29 日、	380 ㎡	9 ㎡	古墳・中世	集落跡	個人住宅
178	大学館跡	本宮市高木字大学	本宮市教委	8 月 24 日 ~ 8 月 25 日	- ㎡	94 ㎡	縄文・弥生 ・中世	城館跡	その他建物
179	山崎条里遺構	国見町大字山崎字滝山	国見町教委	4 月 20 日 ~ 月 日	365 ㎡	6 ㎡	古代	生産遺跡	住宅
180	佐野台館跡	国見町大字徳江字佐野台	国見町教委	5 月 7 日 ~ 月 日	370 ㎡	15 ㎡	中世	城館跡	住宅
181	山崎条里遺構	国見町大字山崎字深町	国見町教委	8 月 12 日 ~ 月 日	584 ㎡	36 ㎡	古代	生産遺跡	住宅
182	山崎条里遺構	国見町大字山崎字深町	国見町教委	8 月 12 日 ~ 月 日	344 ㎡	18 ㎡	古代	生産遺跡	住宅
183	広畑遺跡	川俣町大字羽田字広畑	川俣町教委	7 月 7 日 ~ 7 月 7 日	520 ㎡	52 ㎡	縄文	散布地	道路
184	大清水遺跡	川俣町山木屋字大清水	川俣町教委	9 月 1 日 ~ 9 月 1 日	360 ㎡	36 ㎡	縄文	散布地	宅地造成
185	後庵館遺跡	川俣町字後庵館	川俣町教委	1 月 20 日 ~ 1 月 21 日	5,800 ㎡	580 ㎡	縄文	散布地	個人住宅
186	十郎内遺跡	川俣町大字鶴沢字十郎内	川俣町教委	3 月 18 日 ~ 3 月 18 日	80 ㎡	8 ㎡	縄文	散布地	その他農業
187	横町館跡	西会津町野沢字下小屋	西会津町教委	7 月 1 日 ~ 8 月 4 日	5,710 ㎡	400 ㎡	中世・近世	城館跡	その他建物
188	上野尻遺跡	西会津町上野尻字下沖ノ原	西会津町教委	11 月 11 日 ~ 11 月 12 日	6 ㎡	6 ㎡	縄文	集落跡	その他開発
189	地理山遺跡	磐梯町大字大谷字地理山	磐梯町教委	3 月 17 日 ~ 3 月 18 日	36 ㎡	36 ㎡	縄 文	散布地	ガス・電気 ・水道等
190	殿田遺跡	湯川村大字笈川字殿田外	湯川村教委	6 月 9 日 ~ 6 月 23 日	2,120 ㎡	183 ㎡	縄文・奈良 ・平安	集落跡	その他建物
191	向原・中原遺跡	西郷村大字米字向原 ・間ノ原・中山前・中山下	西郷村教委	3 月 8 日 ~ 3 月 8 日	152,000 ㎡	500 ㎡	縄文・ 古墳~平安	散布地	宅地造成
192	棚倉城跡	棚倉町大字棚倉字城跡	棚倉町教委	7 月 1 日 ~ 8 月 12 日	1,021 ㎡	28 ㎡	近世	城館跡	個人住宅
193	棚倉城跡	棚倉町大字棚倉字城跡	棚倉町教委	9 月 24 日 ~ 10 月 16 日	802 ㎡	10 ㎡	近世	城館跡	個人住宅
194	我満平遺跡	矢祭町大字中石井字我満平	矢祭町教委	7 月 13 日 ~ 7 月 21 日	3,500 ㎡	76 ㎡	縄文・平安	散布地	道路
195	中山遺跡	矢祭町大字下関河内字中山	矢祭町教委	8 月 18 日 ~ 8 月 25 日	1,280 ㎡	88 ㎡	縄文	散布地	道路
196	割目遺跡	矢祭町大字中石井字割目	矢祭町教委	10 月 14 日 ~ 10 月 27 日	5,000 ㎡	497 ㎡	縄文・弥生 ・古墳・平安	散布地	道路
197	東町VI遺跡	広野町大字下北迫字東町	広野町教委	4 月 21 日 ~ 4 月 23 日	14,000 ㎡	572 ㎡	縄文・奈良	散布地・ 集落跡	住宅
198	東町VI遺跡	広野町大字下北迫字東町	広野町教委	5 月 25 日 ~ 5 月 27 日	8,295 ㎡	219 ㎡	縄文・奈良	散布地・ 集落跡	宅地造成

No.	遺 跡 名	所 在 地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時 代	種 別	調査原因
199	宮田糸里遺跡	広野町大字下北迫字火の口	広野町教委	5月28日～5月28日	490㎡	36㎡	奈良・平安	生産遺跡	工場
200	東町VI遺跡	広野町大字下北迫字東町	広野町教委	7月10日～7月10日	2,600㎡	149㎡	縄文・奈良	散布地・集落跡	住宅
201	東町VI遺跡	広野町大字下北迫字東町	広野町教委	9月17日～9月17日	3,571㎡	13㎡	縄文・奈良	散布地・集落跡	宅地造成
202	二ツ沼II遺跡	広野町大字下北迫字岩沢	広野町教委	8月28日～8月28日	1,131㎡	13㎡	弥生	散布地	工場
203	鍋塚遺跡	広野町大字上北迫字鍋塚	広野町教委	10月21日～10月21日	1,533㎡	13㎡	奈良・平安	散布地	住宅
204	大谷山根遺跡	檜葉町大字大谷字山根・堤下	檜葉町教委	10月5日～10月5日	2,951㎡	40㎡	平安・近代	散布地	その他建物
205	大谷上ノ原遺跡	檜葉町大字大谷字上ノ原・山根	檜葉町教委	1月26日～2月19日	14,100㎡	181㎡	縄文・古代	散布地・集落跡	道路
206	大谷山根遺跡	檜葉町大字大谷字山根・堤下	檜葉町教委	1月26日～2月19日	3,200㎡	20㎡	平安・近代	散布地	道路
207	片倉遺跡	富岡町大字上手岡字片倉	富岡町教委	2月29日～3月11日	29,100㎡	254㎡	縄文	散布地	ガス・電気・水道等
208	茂手木遺跡	富岡町大字上手岡字茂手木	富岡町教委	2月29日～3月11日	24,600㎡	194㎡	縄文	散布地	ガス・電気・水道等
209	後作A遺跡	富岡町大字上手岡字後作	富岡町教委	2月29日～3月11日	1,900㎡	12㎡	縄文	散布地	ガス・電気・水道等
210	道平遺跡	大熊町大字大川原字西平	大熊町教委	6月29日～7月2日	112,500㎡	1,370㎡	縄文	集落跡	その他開発
211	上平A遺跡	大熊町大字大川原字南平951	大熊町教委	7月3日～7月8日	25,000㎡	597㎡	縄文	集落跡	その他開発
212	南平C遺跡	大熊町大字大川原字南平	大熊町教委	9月16日	3,000㎡	166㎡	奈良・平安	散布地	その他建物
213	南平A遺跡	大熊町大字大川原字南平	大熊町教委	10月14日～10月15日	5,625㎡	115㎡	近世	散布地	その他開発
214	南平A遺跡	大熊町大字大川原字南平	大熊町教委	1月20日～1月21日	4,300㎡	313㎡	近世	散布地	その他建物
215	大平山城跡・寺院跡	浪江町大字請戸字大平山、字薬師前	浪江町教委	11月4日～12月18日	6,700㎡	6,700㎡	中世	城館跡・社寺跡	道路
216	大平山A横穴墓群	浪江町大字請戸字北迫	浪江町教委	11月4日～12月18日	680㎡	680㎡	古墳	横穴墓	道路
217	菅ノ沢二遺跡	新地町谷地小屋字菅ノ沢二	新地町教委	6月15日～6月30日	1,200㎡	108㎡	奈良・平安	生産遺跡	土砂採取
218	山岸遺跡	伊達市霊山町下小国字山岸・清水	福島県教委	5月22日～月日	1,300㎡	41㎡	縄文・平安	散布地	道路
219	上ノ台館跡	伊達市霊山町下小国字上ノ台	福島県教委	6月15日～7月29日	9,400㎡	254㎡	中世	城館跡	道路
220	瀧ノ入遺跡	下郷町白岩字瀧ノ入	福島県教委	10月22日～11月5日	5,600㎡	285㎡	縄文・弥生	散布地	道路
221	辻堂下遺跡	下郷町中妻字辻堂下	福島県教委	10月20日～月日	700㎡	16㎡	縄文	散布地	道路
222	南町古墳	南相馬市鹿島区南海老	福島県教委	8月3日～8月7日	400㎡	60㎡	古墳	古墳	海岸防災林
223	竹花遺跡	南相馬市鹿島区北右田字宮田・竹	福島県教委	6月22日～6月24日	10,800㎡	116㎡	弥生～中世	集落跡	農業基盤整備等
224	小島田遺跡	南相馬市鹿島区小島田	福島県教委	6月15日～6月18日	18,000㎡	256㎡	奈良	集落跡	農業基盤整備等
225	南才ノ上遺跡	南相馬市原町区萱浜	福島県教委	8月20日～8月24日	1,000㎡	80㎡	縄文・古墳～平安	散布地	農業基盤整備等
226	愛原遺跡	南相馬市原町区萱浜	福島県教委	8月21日～9月3日	9,500㎡	344㎡	奈良・平安	集落跡	農業基盤整備等
227	植松C遺跡	南相馬市原町区上高平	福島県教委	9月16日～9月25日	4,200㎡	94㎡	縄文・古代	集落跡	道路
228	五畝田B遺跡	南相馬市原町区零字五畝田	福島県教委	6月30日～7月2日	3,200㎡	132㎡	弥生	散布地	道路
229	岡和田館跡	南相馬市鹿島区岡和田	福島県教委	12月10日～12月22日	19,200㎡	258㎡	中世	城館跡	農業基盤整備等
230	大六天遺跡	南相馬市鹿島区江垂	福島県教委	1月7日～1月22日	52,000㎡	661㎡	古墳・奈良・平安	散布地・集落跡	農業基盤整備等
231	柚原古墳群	南相馬市鹿島区小島田	福島県教委	1月26日～月日	2,700㎡	41㎡	古墳	古墳	農業基盤整備等

No.	遺 跡 名	所 在 地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時 代	種 別	調査原因
232	小島田館跡	南相馬市鹿島区小島田	福島県教委	1 月 28 日 ~ 1 月 29 日	4,300 ㎡	30 ㎡	中世	城館跡	農業基盤整備等
233	高田遺跡	南相馬市鹿島区江垂	福島県教委	2 月 2 日 ~ 月 日	3,000 ㎡	30 ㎡	弥生	散布地	農業基盤整備等
234	市渡戸遺跡	南相馬市原町区片倉	福島県教委	2 月 5 日 ~ 月 日	1,500 ㎡	20 ㎡	縄文	散布地	農業基盤整備等
235	岩下遺跡	南相馬市原町区片倉	福島県教委	2 月 12 日 ~ 月 日	8,000 ㎡	40 ㎡	縄文	散布地	農業基盤整備等
236	辻内遺跡	南相馬市原町区辻内	福島県教委	月 日 ~ 月 日	900 ㎡	900 ㎡	平安	集落跡	住宅

(11) 平成27年度開発事業に伴う試掘調査（未周知範囲）

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
1	上代・小路尻地区	いわき市小川町高萩字上代・字小路尻	いわき市教委	6月15日～6月23日	24,770㎡	420㎡			宅地造成
2	石崎遺跡隣接地	いわき市平下大越字石崎	いわき市教委	1月14日～2月2日	6,870㎡	45㎡	古墳	集落跡	土砂採取
3	八幡前遺跡	いわき市泉町下川字八幡前	いわき市教委	1月19日～1月21日	4,331㎡	200㎡			その他建物
4	駒形第三地区	喜多方市塩川町中屋沢地内	喜多方市教委	10月14日～11月20日	1,700,000㎡	1,306㎡	縄文・古墳・中世	散布地	農業基盤整備等
5	入道迫地区	南相馬市原町区上高平字入道迫	南相馬市教委	5月8日～月日	7,809㎡	70㎡			土砂採取
6	北明内地区外	南相馬市原町区石神字北明内外	南相馬市教委	7月22日～9月14日	43,500㎡	340㎡			土砂採取
7	比丘尼沢地区	南相馬市原町区上北高平字比丘尼沢	南相馬市教委	7月30日～9月30日	9,600㎡	116㎡			土砂採取
8	大六天地区	南相馬市鹿島区江垂字大六天	南相馬市教委	8月19日～月20日	4,380㎡	195㎡			その他建物
9	下太田地区	南相馬市原町区下太田	南相馬市教委	1月12日～月日	100㎡	100㎡			工場
10	永田地区外	南相馬市鹿島区永田字永田外	南相馬市教委	3月16日～3月31日	73,370㎡	14㎡			土砂採取
11	清水地区 DT-B5 遺跡推定地	伊達市霊山町下小国字清水地内	伊達市教委	10月29日～月日	799㎡	20㎡			店舗
12	北口地区	国見町大字山崎字北口	国見町教委	1月20日～月日	305㎡	10㎡			住宅
13	下居平乙地区 CG-B13	下郷町大字高階字下居平乙	下郷町教委	6月1日～6月2日	1,600㎡	28㎡			道路
14	井出字小田地区	楡葉町大字井出字小田	楡葉町教委	8月12日～8月12日	400㎡	86㎡			道路
15	前原字浜城地区	楡葉町大字前原字浜城	楡葉町教委	9月15日～9月16日	900㎡	57㎡			道路
16	井出字木屋地区	楡葉町大字井出字木屋	楡葉町教委	1月6日～1月6日	1,600㎡	86㎡			道路
17	大谷山根遺跡隣接地	楡葉町大字大谷字山根	楡葉町教委	1月26日～2月19日	700㎡	6㎡			道路
18	上繁岡山根遺跡隣接地	楡葉町大字上繁岡山山根	楡葉町教委	2月23日～2月23日	8,281㎡	30㎡			その他建物
19	奥海遺跡隣接地	楡葉町大字井出字苧集	楡葉町教委	3月4日～3月8日	2,993㎡	90㎡			その他建物
20	中女平遺跡隣接地	楡葉町大字上小楯字女平	楡葉町教委	3月17日～3月17日	162㎡	30㎡			個人住宅
21	西平地区 OK-B10	大熊町大字大川原字西平	大熊町教委	7月9日～7月13日	13,281㎡	156㎡	縄文	集落跡	ガス・電気・水道等
22	西平地区 OK-B11	大熊町大字大川原字西平	大熊町教委	7月14日～7月15日	22,500㎡	717㎡	縄文	集落跡	ガス・電気・水道等
23	南平地区 OK-B7	大熊町大字大川原字南平	大熊町教委	8月31日～9月11日	10,000㎡	1,107㎡	縄文	集落跡	その他建物
24	南平地区 OK-B4	大熊町大字大川原字南平	大熊町教委	10月5日～10月15日	63,144㎡	54㎡			その他開発
25	南平地区 OK-B5	大熊町大字大川原字南平	大熊町教委	10月15日	8,438㎡	150㎡			その他開発
26	南平地区 OK-B6	大熊町大字大川原字南平	大熊町教委	10月16日～10月20日	21,831㎡	460㎡			その他開発
27	南平地区 OK-B6	大熊町大字大川原字南平	大熊町教委	10月19日	2,000㎡	100㎡			その他建物
28	南平地区 OK-B6	大熊町大字大川原字南平	大熊町教委	2月5日	7,000㎡	239㎡			その他建物
29	南平地区 OK-B9	大熊町大字大川原字南平	大熊町教委	2月8日～2月15日	10,000㎡	409㎡	縄文	集落跡	その他建物
30	南平地区 OK-B8	大熊町大字大川原字南平	大熊町教委	2月17日～2月22日	18,000㎡	343㎡	縄文	集落跡	その他建物
31	西平地区 OK-B1	大熊町大字大川原字西平	大熊町教委	3月15日～3月22日	21,831㎡	460㎡	古代・近世	生産遺跡	その他開発
32	南平地区 OK-B1	大熊町大字大川原字南平	大熊町教委	3月24日～3月25日	900㎡	362㎡			その他開発

33	唐沢地区 (F-B1~4)	双葉町大字寺沢字唐沢	双葉町教委	3月3日~3月8日	10,100 m ²	150 m ²			道路
34	山上地区	相馬市山上字荒屋舗	福島県教委	6月18日~6月19日	3,100 m ²	180 m ²	縄文	散布地	道路
35	今田地区	相馬市今田字山野	福島県教委	6月17日・11月11日	4,800 m ²	212 m ²			道路
36	今田地区	相馬市今田字東羽黒平 ・湧在小路	福島県教委	6月30日~11月10日	3,500 m ²	82 m ²			道路
37	下小国地区	伊達市霊山町下小国 字荒屋敷・桜町・沖	福島県教委	5月13日~5月21日	19,000 m ²	501 m ²	縄文	散布地	道路
38	下小国地区	伊達市霊山町下小国 字上ノ台	福島県教委	7月13日~7月29日	1,900 m ²	30 m ²	縄文・中世	散布地	道路
39	大柳地区	伊達市保原町大柳字柄窪入	福島県教委	11月24日~12月11日	18,500 m ²	707 m ²			道路
40	大柳地区	伊達市保原町大柳字柄窪入	福島県教委	12月9日~月日	1,400 m ²	32 m ²			道路
41	上保原地区	伊達市保原町上保原 字将帰坂	福島県教委	7月28日~8月5日	7,900 m ²	528 m ²			道路
42	川原田地区	桑折町松原字川原田・姫松 ・沢田・成田字半五郎	福島県教委	9月29日~10月9日	14,600 m ²	500 m ²	縄文・平安	散布地	道路
43	松原地区	桑折町松原字日照田	福島県教委	9月14日~9月28日	10,800 m ²	248 m ²	縄文・平安	散布地	道路
44	松原地区	桑折町松原字館ノ前	福島県教委	9月1日~9月4日	3,700 m ²	109 m ²			道路
45	高崎地区	下郷町高崎字下居平乙	福島県教委	10月21日~月日	1,200 m ²	68 m ²	縄文	散布地	道路
46	中妻地区	下郷町中妻字辻堂	福島県教委	10月21日~月日	4,700 m ²	55 m ²			道路
47	南海老地区	南相馬市鹿島区南海老	福島県教委	4月20日~4月23日	42,100 m ²	249 m ²			海岸防災林
48	西町地区	南相馬市鹿島区西町	福島県教委	5月11日~5月14日	14,000 m ²	262 m ²			住宅
49	北右田地区	南相馬市鹿島区北右田 字宮田	福島県教委	6月25日~6月26日	3,500 m ²	78 m ²	古墳	集落跡	農業基盤整備等
50	南海老地区	南相馬市鹿島区南海老	福島県教委	7月21日~8月7日	32,700 m ²	890 m ²			海岸防災林
51	南屋形地区	南相馬市鹿島区南屋形	福島県教委	9月28日~10月16日	13,500 m ²	976 m ²			農業基盤整備等
52	南屋形地区	南相馬市鹿島区南屋形	福島県教委	10月9日~10月19日	4,000 m ²	326 m ²			農業基盤整備等
53	南海老地区	南相馬市鹿島区南海老	福島県教委	10月14日~月日	11,500 m ²	120 m ²			海岸防災林
54	牛河内地区	南相馬市鹿島区牛河内地区	福島県教委	10月26日~11月25日	195,000 m ²	1,692 m ²			農業基盤整備等
55	岡和田地区	南相馬市鹿島区岡和田	福島県教委	11月27日~12月1日	22,600 m ²	164 m ²			農業基盤整備等
56	南海老地区	南相馬市鹿島区南海老	福島県教委	12月1日~12月2日	21,200 m ²	203 m ²			海岸防災林
57	金沢地区	南相馬市原町区金沢	福島県教委	6月8日~6月11日	16,700 m ²	160 m ²			海岸防災林
58	南町地区	南相馬市原町区南町	福島県教委	4月20日~4月22日	26,500 m ²	180 m ²			住宅
59	雫地区	南相馬市原町区雫	福島県教委	9月4日~9月15日	2,500 m ²	184 m ²			農業基盤整備等
60	萱浜地区	南相馬市原町区萱浜	福島県教委	8月31日~9月4日	13,400 m ²	340 m ²			農業基盤整備等
61	雫地区	南相馬市原町区雫	福島県教委	6月29日~月日	3,600 m ²	80 m ²			農業基盤整備等
62	平大越地区	いわき市平大越字中ノ町、 平藤間字北町田	福島県教委	11月4日~11月5日	60,600 m ²	106 m ²			農業基盤整備等
63	岡和田地区	南相馬市鹿島区岡和田	福島県教委	12月2日~12月25日	99,000 m ²	659 m ²			農業基盤整備等
64	榎内地区	南相馬市鹿島区榎内	福島県教委	12月17日~12月22日	31,000 m ²	380 m ²			農業基盤整備等
65	江垂地区	南相馬市鹿島区江垂	福島県教委	1月7日~1月12日	16,000 m ²	180 m ²			農業基盤整備等
66	小島田地区	南相馬市鹿島区小島田	福島県教委	1月25日~1月26日	17,000 m ²	180 m ²			農業基盤整備等

67	小島田地区	南相馬市鹿島区小島田	福島県教委	1月26日～1月28日	16,400㎡	190㎡			農業基盤整備等
68	小島田地区	南相馬市鹿島区小島田	福島県教委	1月29日～2月1日	9,300㎡	74㎡			農業基盤整備等
69	川子地区	南相馬市鹿島区川子	福島県教委	2月3日～2月4日	30,000㎡	175㎡			農業基盤整備等
70	塩崎地区	南相馬市鹿島区塩崎	福島県教委	2月2日～月日	2,000㎡	30㎡			農業基盤整備等
71	片倉地区	南相馬市原町区片倉	福島県教委	2月5日～2月12日	12,000㎡	125㎡			農業基盤整備等
72	矢川原地区	南相馬市原町区矢川原	福島県教委	2月15日～月日	5,600㎡	40㎡			農業基盤整備等
73	矢川原地区	南相馬市原町区矢川原	福島県教委	2月15日～月日	200㎡	20㎡			農業基盤整備等
74	矢川原地区	南相馬市原町区矢川原	福島県教委	2月15日～2月16日	1,200㎡	24㎡			農業基盤整備等
75	矢川原地区	南相馬市原町区矢川原	福島県教委	2月15日～2月16日	1,600㎡	40㎡			農業基盤整備等
76	浦尻地区	南相馬市小高区浦尻	福島県教委	4月13日～4月16日	19,000㎡	245㎡			海岸防災林
77	辻内地区	南相馬市小高区浦尻	福島県教委	5月18日～5月26日	18,000㎡	484㎡	平安	集落跡	住宅
78	塚原地区	南相馬市小高区塚原	福島県教委	7月6日～7月7日	6,400㎡	84㎡			河川
79	浦尻地区	南相馬市小高区浦尻	福島県教委	7月13日～月日	7,200㎡	110㎡			海岸防災林

(12) 平成27年度発掘調査一覧

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	時代	種別	調査原因
1	宮代館跡	福島市宮代字屋敷畑	福島市教委	5月18日～7月6日	640㎡	奈良・平安	城館跡・集落	宅地造成
2	宮代館跡	福島市宮代字屋敷畑	福島市教委	6月5日～7月6日	1,300㎡	奈良・平安	城館跡・集落	その他開発
3	福島城跡	福島市杉妻町	福島市教委	6月15日～11月5日	2,229㎡	近世	城館跡	その他建物
4	古館跡	福島市飯坂町平野字館屋敷	福島市教委	1月25日～3月30日	539㎡	中世	城館跡	宅地造成
5	門田条里制跡	会津若松市門田町大字堤沢字北村ほか	会津若松市教委	5月18日～11月13日	2,300㎡	弥生・奈良・平安	集落跡	農業基盤整備等
6	若松城郭内武家屋敷跡本一ノ丁跡	会津若松市山鹿町	会津若松市教委	7月6日～10月30日	636㎡	近世	城館跡	道路
7	郡山遺跡	会津若松市河東町郡山字神明台ほか	会津若松市教委	7月1日～9月11日	1,000㎡	縄文～中世	散布地	範囲確認
8	笹山原No.16遺跡	会津若松市湊町大字赤井字笹山原	郡山女子大学	5月9日～5月20日	96㎡	旧石器・縄文・奈良・平安	散布地	学術調査
9	西原遺跡	郡山市富久山町福原字西原	郡山市教委	7月31日～3月18日	1,361㎡	縄文・奈良・平安	散布地	道路
10	神谷作古墳群(101号墳)	いわき市平神谷作字腰巻	いわき市教委	4月1日～6月30日	1,310㎡	古墳・平安	古墳・集落跡	個人住宅
11	後田遺跡・後田古墳群	いわき市後田町源道平	いわき市教委	7月6日～7月30日	300㎡	縄文～古墳	古墳・集落跡	道路
12	泉町A遺跡	いわき市泉町滝尻字御前田	いわき市教委	2月4日～3月4日	285㎡	古墳	集落跡	区画整理
13	小峰城跡(竹之丸)	白河市郭内	白河市教委	4月1日～10月30日	300㎡	中世・近世	城館跡	自然崩壊
14	小峰城跡(帯曲輪門跡)	白河市郭内	白河市教委	5月11日～7月21日	40㎡	中世・近世	城館跡	自然崩壊
15	小峰城跡(帯曲輪西面)	白河市郭内	白河市教委	5月14日～8月28日	42㎡	中世・近世	城館跡	自然崩壊
16	町屋遺跡	白河市大信町屋	白河市教委	5月20日～8月8日	243㎡	縄文・古墳～平安	集落跡	道路
17	小峰城跡(本丸西・北面)	白河市郭内	白河市教委	8月3日～3月31日	460㎡	中世・近世	城館跡	自然崩壊
18	小峰城跡	白河市郭内	白河市教委	11月13日～2月12日	57㎡	中世・近世	城館跡	その他建物
19	団子山古墳	須賀川市日照田字入ノ久保	福島大学	8月12日～9月13日	46㎡	古墳	古墳	学術調査
20	古屋敷遺跡	喜多方市塩川町大田木字古屋敷	喜多方市教委	7月27日～9月11日	850㎡	縄文・古墳・中世	集落跡 古墳 豪族居館	史跡整備
21	灰塚山古墳	喜多方市慶徳町新宮字小山腰	東北学院大学	8月4日～9月4日	48㎡	古墳	古墳	学術調査
22	野田B遺跡	喜多方市塩川町五合字野田地内	喜多方市教委	10月6日～12月12日	2,473㎡	縄文・中世	集落跡	農業基盤整備等
23	郡山台遺跡	二本松市姫子松	二本松市教委	4月20日～6月24日	779㎡	古墳・奈良	官衙集落跡	住宅
24	二本松城跡	二本松市郭内三丁目・四丁目	二本松市教委	6月22日～7月17日	80㎡	中世・近世	城館跡	範囲確認
25	南海老南町遺跡	南相馬市鹿島区南海老字南町	南相馬市教委	9月1日～3月18日	6,500㎡	古墳～近世	集落跡	その他農業
26	梁川城跡	伊達市梁川町字南町頭	伊達市教委	11月9日～2月4日	124㎡	中世	城館跡	史跡整備
27	金秀寺遺跡	伊達市広前	伊達市教委	7月21日～10月20日	253㎡	縄文・平安	散布地	道路
28	堂庭遺跡	伊達市梁川町八幡字堂庭	伊達市教委	5月11日～6月12日	11㎡	平安・中世	散布地	範囲確認

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	時代	種別	調査原因
29	堂庭遺跡	伊達市梁川町八幡字堂庭	伊達市教委	3月8日～3月25日	93㎡	平安・中世	散布地	範囲確認
30	山崎糸里遺構	国見町大字山崎字堰下	国見町教委	8月11日～月日	60㎡	古代	生産遺跡	範囲確認
31	塚野目城跡	国見町大字塚野目字館前	国見町教委	9月1日～9月8日	55㎡	中世	城館跡	道路
32	阿津賀志山防塁	国見町大字石母田字国見山下	国見町教委	10月6日～12月1日	400㎡	古代	国史跡	史跡整備
33	阿津賀志山防塁	国見町大字石母田字国見山下	国見町教委	12月7日～1月29日	32㎡	古代	防塁	範囲確認
34	柏木城跡	北塩原村大字大塩字柏木城外	北塩原村教委	6月8日～12月21日	172㎡	中世	城館跡	範囲確認
35	慧日寺跡	磐梯町大字磐梯字本寺八幡外	磐梯町教委	6月25日～12月10日	400㎡	平安～近世	社寺跡	史跡整備
36	竈原遺跡	会津坂下町大字長井字竈	会津坂下町教委	5月11日～6月11日	36㎡	縄文	散布地	範囲確認
37	境ノ沢古墳群	会津坂下町大字船杉字境ノ沢乙、盗人沢乙	会津坂下町教委	6月11日～11月13日	794㎡	古墳	古墳	範囲確認
38	堂後遺跡	湯川村大字勝常字西外	湯川村教委	7月27日～9月16日	536㎡	縄文～近世	散布地	範囲確認
39	向羽黒山城跡	会津美里町字船場 地内	会津美里町教委	6月22日～11月30日	80㎡	中世	城館跡	史跡整備
40	天王内遺跡	棚倉町大字逆川字南原	棚倉町教委	2月18日～3月4日	110㎡	奈良・平安	散布地	範囲確認
41	棚倉城跡	棚倉町大字棚倉字城跡	棚倉町教委	2月15日～3月31日	41㎡	近世	城館跡	範囲確認
42	我満平遺跡	矢祭町大字中石井字我満平	矢祭町教委	1月18日～3月31日	1,000㎡	縄文	散布地	道路
43	柳町Ⅱ遺跡	広野町大字下浅見川字柳町	広野町教委	4月13日～6月30日	1,176㎡	縄文	散布地	宅地造成
44	高橋遺跡	檜葉町大字井出字高橋	檜葉町教委	5月18日～12月28日	2,300㎡	縄文・古代	散布地・集落跡等	その他開発
45	南平G遺跡	大熊町大字大川原字南平	大熊町教委	2月17日～3月16日	2,120㎡	縄文	集落跡	その他建物
46	栗林遺跡	下郷町大字中妻字柳ノ下	福島県教委	7月23日～12月4日	1,600㎡	縄文・弥生・近世	集落跡	道路
47	高木遺跡	須賀川市浜尾字高木	福島県教委	5月23日～2月26日	24,000㎡	弥生・古墳・平安・中世	集落跡	河川
48	福田遺跡	伊達市霊山町下小国字福田・桜町	福島県教委	6月29日～8月28日	1,100㎡	中世	集落跡	道路
49	沼ヶ入遺跡	伊達市霊山町下小国字沼ヶ入・御渡	福島県教委	7月27日～9月30日	1,300㎡	中世	集落跡	道路
50	上ノ台遺跡	伊達市霊山町下小国字玉田	福島県教委	10月13日～11月25日	900㎡	縄文・中世	生産遺跡・散布地	道路
51	横川B遺跡	相馬市山上字横川	福島県教委	5月12日～6月4日	1,600㎡	近世	集落跡	道路
52	東羽黒平遺跡	相馬市今田字東羽黒平	福島県教委	6月23日～7月17日	800㎡	縄文・平安	集落跡	道路
53	谷地中遺跡	南相馬市原町区金沢字谷地中	福島県教委	9月28日～2月10日	6,000㎡	弥生・奈良・平安	集落跡・生産遺跡	土砂採取
54	五畝田・犬這遺跡	南相馬市原町区零五畝田・犬這	福島県教委	4月22日～8月21日	4,700㎡	縄文～古墳・平安	集落跡	農業基盤整備等
55	五畝田B遺跡	南相馬市原町区零五畝田	福島県教委	10月5日～11月13日	500㎡	弥生～平安	集落跡	道路
56	南代遺跡	檜葉町大字下繁岡字南代	福島県教委	4月21日～1月21日	3,400㎡	弥生・奈良・平安	生産遺跡	道路

3 平成27年度文化財保存助成の充実

(1) 文化財保存助成事業

国指定文化財の防災設備保守点検等の管理に必要な経費について、助成を行った。

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額(単位:円)			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
国指定文化財の管理に関する事業	八葉寺	八葉寺阿弥陀堂	建造物	防災保守点検等	233,064	57,000	58,000	118,064
国指定文化財の管理に関する事業	延命寺	延命寺地藏堂	建造物	防災保守点検等	263,800	65,000	66,000	132,800
国指定文化財の管理に関する事業	飯盛正徳	旧正宗寺三匠堂	建造物	防災保守点検等	497,380	124,000	124,000	249,380
国指定文化財の管理に関する事業	横山操	旧滝沢本陣横山家住宅	建造物	防災保守点検等	255,960	63,000	63,000	129,960
国指定文化財の管理に関する事業	勝福寺	勝福寺観音堂	建造物	防災保守点検等	433,200	108,000	107,000	218,200
国指定文化財の管理に関する事業	熊野神社	熊野神社長床	建造物	防災保守点検等	1,149,720	286,000	286,000	577,720
国指定文化財の管理に関する事業	円満寺	円満寺観音堂	建造物	防災保守点検等	942,280	225,000	224,000	493,280
国指定文化財の管理に関する事業	飯野八幡宮	飯野八幡宮	建造物	防災保守点検等	842,023	206,000	206,000	430,023
国指定文化財の管理に関する事業	願成寺	阿弥陀堂(白水阿弥陀堂)	建造物	小修理	1,066,500	267,000	266,000	533,500
国指定文化財の管理に関する事業	福生寺	福生寺観音堂	建造物	防災保守点検	54,000	12,000	12,000	30,000
国指定文化財の管理に関する事業	常福院	常福院薬師堂	建造物	防災保守点検	54,000	11,000	11,000	32,000
国指定文化財の管理に関する事業	法用寺	法用寺本堂内厨子及び仏壇	建造物	防災保守点検	43,200	9,000	10,000	24,200
計	12件				5,835,127	1,433,000	1,433,000	2,969,127

(2) 指定文化財保存活用事業(災害復旧事業を除く)

文化財の修理・防災・整備・調査・管理、埋蔵文化財保存調査等の事業(保存事業)とそれらの文化財を活用した事業(活用事業)を一体的に行った事業(保存活用事業)に必要な経費について、助成を行った。

ア 国指定文化財

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額(単位:円)			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
建造物保存修理	横山操	旧滝沢本陣横山家住宅	建造物	屋根葺替	8,779,859	7,352,000	216,000	1,211,859
建造物保存修理	専称寺	専称寺本堂・総門	建造物	保存修理	19,825,800	16,643,000	630,000	2,552,800
建造物保存修理	飯野八幡宮	飯野八幡宮本殿	建造物	屋根葺替	36,330,000	25,200,000	2,070,000	9,060,000
建造物防災施設	八幡神社	八幡神社本殿・幣殿・拜殿	建造物	警報設備・消火設備・避雷設備	50,832,150	40,344,000	1,890,000	8,598,150
美術工芸品保存修理	会津若松市	会津大塚山古墳出土品	美術工芸品	修理	7,655,146	3,716,000	441,000	3,498,146
記念物保存修理	白河市	南湖公園	史跡	史跡整備	45,301,349	22,458,000	1,575,000	21,268,349
記念物保存修理	会津若松市	会津藩主松平家墓所	史跡	石像物現況調査	2,991,000	1,473,000	105,000	1,413,000
記念物保存修理	猪苗代町	会津藩主松平家墓所	史跡	環境整備	7,770,000	3,790,000	315,000	3,665,000
記念物保存修理	会津美里町	向羽黒山城跡	史跡	環境整備	5,772,286	2,811,000	245,000	2,716,286
記念物保存修理	南相馬市	観音堂石仏	史跡	環境整備	21,937,240	9,590,000	665,000	11,682,240
記念物保存施設	福島市	宮畑遺跡	史跡	保存展示施設	6,231,000	3,062,000	199,000	2,970,000
建造物保存修理	南会津町	南会津町前沢	伝統的建造物群	保存修理	4,322,736	2,754,000	189,000	1,379,736
建造物保存修理	下郷町	下郷町大内宿	伝統的建造物群	保存修理	22,979,018	14,462,000	1,134,000	7,383,018
重要無形民俗文化財伝承・活用等	相馬野馬追保存会	相馬野馬追	無形民俗	用具の修理・新調	2,352,755	1,150,000	270,000	932,755
計	14件				243,080,339	154,805,000	9,944,000	78,331,339

イ 県指定文化財

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額（単位：円）			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
建造物保存修理	安洞院	安洞院多宝塔	建造物	屋根修復等	8,233,000	0	2,192,000	6,041,000
建造物保存修理	南会津町	旧山内家住宅	建造物	茅屋根修復	12,207,663	0	2,688,000	9,519,663
美術工芸品保存修理	鮫川村	木造金剛力士立像	美術工芸品	仏像修復	2,894,308	0	960,000	1,934,308
記念物保存修理	南会津町	鴨山城跡	史跡	斜面崩落修復	3,409,670	0	1,130,000	2,279,670
記念物保存修理	隠津島神社	木幡山	史跡	斜面崩落修復（災害）	2,393,280	0	1,196,000	1,197,280
計	5件				29,137,921	0	8,166,000	20,971,921

【参考】平成26年度に県費補助交付決定を行い、平成27年度に継続しを行った事業

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	見込金額（単位：円）			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
建造物保存修理	奥之院	奥之院弁天堂	建造物	屋根葺替	12,704,000	8,125,000	810,000	3,769,000
計	1件				12,704,000	8,125,000	810,000	3,769,000

(3) 指定文化財保存活用事業（災害復旧事業）

東日本大震災により被災した国指定・県指定文化財の修復等保存事業に必要な経費について、助成を行った。

ア 国指定文化財

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額（単位：円）			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
建造物保存修理	専称寺	専称寺本堂及び総門	建造物	建物傾斜大を修復	220,000,000	187,000,000	16,500,000	16,500,000
建造物保存修理	会津民俗館	旧馬場家住宅	建造物	家屋傾斜、壁崩落箇所を修復	18,891,270	16,057,000	1,133,000	1,701,270
計	2件				238,891,270	203,057,000	17,633,000	18,201,270

イ 県指定文化財

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額（単位：円）			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
記念物保存修理	岩角山	岩角寺	名勝及び天然記念物	石垣のゆるみ、建物等を修復	44,300,889	0	22,150,000	22,150,889
建造物保存修理	福島市	旧阿部家住宅	建造物	垂木破損等を修復	14,076,640	0	7,038,000	7,038,640
計	2件				58,377,529	0	29,188,000	29,189,529

(4) 地域の「きずな」を結ぶ民俗芸能支援事業

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故による被害により避難を余儀なくされた地域の市町村で活動した保存団体が行う、用具類の新調・修理、稽古等に必要経費について、助成を行った。

市町村	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額 (単位:円)			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
浪江町	室原の田植踊	室原郷土芸能保存会	—	稽古	126,225	0	126,225	0
浪江町	大堀の神楽	大堀芸能保存会	—	用具の修理	666,100	0	666,100	0
浪江町	請戸の田植踊	請戸芸能保存会	—	用具の新調	660,000	0	660,000	0
飯館村	比曾の三匹獅子舞	比曾芸能保存会	無形民俗	稽古、公開	127,300	0	127,300	0
双葉町	前沢女宝財踊り	前沢婦人会芸能保存会	—	稽古、公開	224,800	0	206,350	18,450
双葉町	山田のじゃんがら念仏踊り	山田芸能保存会	—	稽古、公開	76,400	0	76,400	0
大熊町	熊川稚児鹿舞	熊川稚児鹿舞保存会	無形民俗	稽古、公開	270,350	0	250,000	20,350
南相馬市	川子の手踊り、田植え踊り、鳥刺し舞	川子手踊り保存会	—	用具の新調・修理	736,020	0	736,020	0
南相馬市	村上の神楽	村上神楽保存会	—	用具の新調	700,000	0	700,000	0
南相馬市	北右田の大蛇神楽	北右田神楽保存会	—	用具の新調	743,300	0	743,300	0
南相馬市	馬場の神楽	馬場民俗芸能保存会	無形民俗	用具の修理	700,000	0	700,000	0
浪江町	赤字木の神楽	赤字木芸能保存会	—	用具の修理	572,400	0	572,400	0
南相馬市	下太田の神楽	下太田神楽保存会	—	用具の修理	378,000	0	378,000	0
南相馬市	大富の宝財踊り	大富宝財踊り保存会	—	用具の新調	121,800	0	121,800	0
南相馬市	北萱浜の神楽と天狗舞	北萱浜神楽愛好会	無形民俗	用具の新調	105,840	0	105,840	0
南相馬市	南柚木の大蛇神楽	南柚木大蛇神楽保存会	—	用具の新調	356,400	0	356,400	0
南相馬市	北屋形の神楽	北屋形神楽保存会	—	用具の新調	378,000	0	378,000	0
浪江町	川添の神楽	川添芸能保存会	—	用具の修理	518,400	0	518,400	0
南相馬市	野馬懸	相馬野馬追野馬懸保存伝承委員会	無形民俗	用具の新調	243,080	0	243,080	0
南相馬市	寺内青年手踊り	寺内青年手踊り保存会	—	用具の新調	744,000	0	744,000	0
浪江町	大昼の神楽	大昼地区郷土芸能保存会	—	用具の新調	378,000	0	378,000	0
南相馬市	上浦の神楽	上浦神楽保存会	—	用具の修理、新調	74,313	0	74,313	0
計	22件				8,900,728	0	8,861,928	38,800

4 文化財の愛護と公開の推進

(1) 第56回北海道・東北ブロック民俗芸能大会

北海道・東北地区に伝承されている民俗芸能を広く一般に公開し、その価値を周知するとともに、無形民俗文化財の保存・伝承、文化財公開による地域振興等に寄与する。

ア 期 日 平成27年10月31日 リハーサル・実行委員会

11月 1日 開会式・民俗芸能公開

イ 場 所 仙台市民会館(宮城県仙台市)

ウ 公開演目 派遣団体 1団体

「鶉巢の早乙女踊」鶉巢の早乙女踊り保存会

(南会津町)

(2) 文化財保護強調週間の実施

文化財保護の一層の推進を図るために、11月1日から11月7日までの文化財保護強調週間を中心に、チラシを作成、配布し、県民に対し啓発を行った。

(3) 文化財防火デーの実施

文化財の防火について、所有者、管理者はもとより、県民の理解と協力を高めるため、1月26日の文化財防火デーを中心に、チラシを作成、配布するなど啓発を行った。

また、各市町村教育委員会においては、消防署等の協力を得て、防火訓練、防火診断、防火査察等を実施した。

5 銃砲刀剣類の登録状況

美術品若しくは骨とう品としての価値のある火縄式銃砲等の古式銃砲又は美術品としての価値のある刀剣類の登録審査会を次のとおり実施した。

(1) 登録審査委員

塚本憲司、佐藤安弘、阿部榮、溝井辰美

(2) 登録審査会の実施状況

期 日	会 場	審査数	失格数	登録数	左 の 内 訳	
					刀 剣	銃 砲
5月21日	いわき合同庁舎	51	2	49	49	0
7月15日	郡山市労働福祉会館	56	8	48	47	1
9月16日	会津若松合同庁舎	27	1	26	26	0
12月3日	ふくしま中町会館	57	1	56	56	0
2月16日	郡山市労働福祉会館	53	3	50	45	5
計		244	15	229	223	6

※ 再交付に係る審査を除く。

(3) 銃砲刀剣類の譲り受け・相続等の届け出状況

区 分	銃 砲 等	刀 剣 類
譲り受け	28	611
相 続	1	112
貸 付 け	0	0
保 管 の 委 託	0	0
計	29	723

第4節 公益財団法人福島県文化振興財団による文化財保護の推進

1 埋蔵文化財関係事業

(1) 遺跡分布調査事業

No.	内容	所在地	事業名	調査期間	面積(㎡)	結果
1	分布	伊達市	一般国道115号相馬福島道路遺跡分布調査	6/12	43,000	包蔵地の範囲変更を行った
2	試掘・確認	相馬市	一般国道115号相馬福島道路遺跡分布調査	6/11～11/11	11,400	遺跡を確認できず
		伊達市	馬福島道路遺跡分布調査	6/15～12/11	59,400	3遺跡を確認した
		桑折町	布調査	9/1～10/9	29,100	1遺跡を確認した
		下郷町	会津縦貫南道路遺跡分布調査	10/20～11/5	12,200	2遺跡を確認した
	いわき市	小名浜道路遺跡分布調査	11/18～12/11	10,000	1遺跡を確認した	
	計	3市2町			122,100	
3	測量	伊達市	一般国道115号相馬福島道路遺跡分布調査	4/22～4/24	27,900	上ノ台館跡の縄張り図を作成した

(2) 遺跡発掘調査事業

No.	事業名	市町村	遺跡名	調査面積(㎡)	調査期間	時代	主な検出遺構(特徴)など
1	会津縦貫南道路遺跡発掘調査	下郷町	栗林	1,600	7/23～12/4	縄文・弥生・近世	土坑18 井戸2 柵列1
		小計	1遺跡	1,600			
2	阿武隈川上流河川改修事業遺跡発掘調査	須賀川市	高木	24,000	5/23～H28.2/26	弥生・古墳・平安・中世	竪穴住居86 掘立柱建物16 柱穴列1 土坑48 溝25 焼土遺構2 方形区画遺構2 ピット200
		小計	1遺跡	24,000			
3	一般国道115号相馬福島道路(霊山道路)遺跡発掘調査	伊達市	福田	1,100	6/29～8/28	中世	土坑4 溝2 ピット26
			沼ヶ入	1,300	7/27～9/30	中世	掘立柱建物2 土坑9
			上ノ台	900	10/13～11/25	縄文・中世	木炭窯1 遺物包含層1
		小計	3遺跡	3,300			
4	一般国道115号相馬福島道路(相馬西道路)遺跡発掘調査	相馬市	横川B	1,600	5/12～6/4	近世	土坑7
			東羽黒平	800	6/23～7/17	縄文・平安	土坑2
		小計	2遺跡	1,600			

5	復興基盤総合整備事業遺跡発掘調査（金沢地区・零地区）	南相馬市	谷地中	6,000	9/28～ H28.2/10	弥生・奈良・平安	竪穴住居1 木炭窯3 製鉄炉4 廃滓場1 土坑24 集石1 性格不明遺構1
			五畝田・犬這	4,700	4/22～ 8/21	縄文・弥生・古墳・平安	竪穴住居12 土坑8 掘立柱建物1 埋甕1 土器焼成遺構1 性格不明遺構1
		小計	2遺跡	10,700			
6	県道北泉小高線整備事業遺跡発掘調査	南相馬市	五畝田B	500	10/5～ 11/13	弥生・古墳・奈良・平安	竪穴住居1 遺物包含層1
		小計	1遺跡	500			
7	県道広野小高線整備事業遺跡発掘調査	楢葉町	南代	3,400	4/21～ H28.1/21	弥生・奈良・平安	竪穴住居1 木炭窯6 製鉄炉7 廃滓場5 土坑13 溝2 竪穴状遺構1 特殊遺構1
		小計	1遺跡	3,400			
合計		4市2町	11遺跡	45,100			

(3) 発掘調査報告書刊行

No.	事業名	報告書名	収録遺跡名	頁数
1	遺跡分布調査	福島県内遺跡分布調査報告22	試掘調査18遺跡	43
2	会津縦貫北道路遺跡発掘調査	会津縦貫北道路遺跡発掘調査報告16	西木流D（2次）、鶴沼B（2次）、西坂才（2次）	264
3	一般国道115号相馬福島道路	一般国道115号相馬福島道路遺跡発掘調査報告3	向山、庚申向A	172
4		一般国道115号相馬福島道路遺跡発掘調査報告4	横川B、東羽黒平（2・3次）	58
5	復興基盤総合整備	農山漁村地域復興基盤総合整備関連遺跡調査報告1	天化沢A	465
6	県道北泉小高線	県道北泉小高線関連遺跡発掘調査報告1	五畝田・犬這	88
7	浅見川地区防災緑地	浅見川地区防災緑地関連遺跡発掘調査報告	本町、宮田条里	264
合計		7冊	29遺跡	1,354

(4) 県内市町村埋蔵文化財調査への技術協力事業

表面調査・試掘調査・発掘調査・その他									
No.	市町村名	遺跡名	面積（㎡）	時期	期間	業務内容	遺構	遺物	備考
1	会津南会津町	鳴山城	20	中世	10/7・8	測量調査	堀	—	空堀復旧工事

2	中 通 り	福島市	腰浜廃寺	170	奈良平安	7/6～8	確認調査	土坑・溝跡	土師器・須恵器・瓦・陶器	個人住宅
3		川俣町	後庵館遺跡	580	縄文	1/20・21	確認調査	竪穴住居・土坑・埋甕・遺物包含層	縄文土器・石器	個人住宅
4		矢吹町	南町地区	144,000	—	11/10	分布調査	—	—	メガソーラー建設
5			明新地区 (沼和久横穴古墳群)	30,000	古墳	2/15	分布調査	横穴墓	—	メガソーラー建設
6		矢祭町	我満平遺跡	2,700	縄文弥生平安	7/13～16・21	確認調査	竪穴住居・土坑・遺物包含層	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石器	県農道整備
7			中山遺跡	1,280	縄文	8/18～25のうち5日間	確認調査	遺物包含層	縄文土器・石器	一般国道349号道路改良
8			割目遺跡	5,600	縄文弥生古墳平安	10/14～27のうち9日間	確認調査	竪穴住居・掘立柱建物・土坑・溝・小穴	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石器	県農道整備
9		浜 通 り	南相馬市	OK-B12	35,000	—	5/11～14	試掘調査	土坑	—
10	上平A遺跡 上平B遺跡 道平遺跡 OK-B10 OK-B11		14,000	縄文	6/29～7/3 7/6～10 7/13～15	試掘 確認 調査	竪穴住居・土坑・遺物包含層	縄文土器	メガソーラー建設	
11	浪江町		大平山城跡	6,700	中世	10/23	縄張図作成	—	—	防災集団移転住宅，道路
12	広野町	東町Ⅳ遺跡	14,000	古代	4/21～23	確認調査	竪穴住居・掘立柱建物・溝	土師器・石器	ホテルおよび宿舎建設	
13		東町Ⅳ遺跡	5,000	古代	5/25～27	確認調査	竪穴住居・溝・土坑・小穴	土師器	広野町集合プロジェクト	

14		柳町Ⅱ遺跡	1,300	縄文 古代	4/20～6/ 12のうち 26日間	本発 掘調 査	竪穴住居 ・掘立柱 建物・溝	縄文土器・ 石器・須恵 器	広野駅 東側開 発整備
----	--	-------	-------	----------	--------------------------	---------------	----------------------	---------------------	-------------------

※市町村数および延べ事業数

2市6町（会津：1町、中通り：1市3町、浜通り：1市2町） 延べ14事業

2 文化財センター整備業務

業務名	箇所	内容	数量
① 出土品の管理	上吉田遺跡（会津若松市）等 木質遺物	劣化防止処理	3,540件
	上吉田遺跡（会津若松市）等 金属質遺物		7,070件
	上吉田遺跡（会津若松市）等 その他の資料		1,520件
	小計		12,130件
	沼ノ上遺跡（喜多方市）等	保存処理	60件
	合計		12,190件
② 出土品の整理・搬送	常磐自動車道遺跡発掘調査 横大道遺跡（南相馬市）等	整理済み出土遺物	488箱
		記録写真	10箱
	合計		498箱
③ 文化財データ入力	トロミ遺跡（二本松市）等	遺物データベース入力	1,840件

第10章 体育・健康

第1節 概要

東日本大震災により、甚大な被害を受けたが、「健康」や「体力」の必要性・重要性について、再認識されたところである。また、震災後の深刻な健康課題の解決に向けて、ふくしまっ子体力向上総合プロジェクトを策定した。これは、望ましい運動習慣や食習慣を形成するために、「自分手帳」を活用した生活改善、小学校体育専門アドバイザー及び運動部活動への外部指導者の派遣、学校等における個別・集団指導への外部人材・専門家の派遣、運動する楽しさを体感できる親子イベントの開催と体力向上表彰の実施、関係機関・団体によるチーム会議と外部評価を一体的に展開し、体力の向上及び肥満の解消を図るものである。

学校体育の充実については、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視し、運動を楽しみながら体力の向上を目指す授業の普及に努めた。

また、体育の授業のさらなる充実と運動部活動の一層の活性化を図るため、地域スポーツ人材の活用実践支援事業及び武道指導者派遣事業により、中学校の武道・ダンスの授業と中・高等学校の運動部活動に専門的な技能を有する地域のスポーツ人材を指導者として派遣し、教員との連携による効果的な指導の実践に努めた。

健康教育の充実・普及については、平成16年度から実施している「うつくしまっ子すこやか事業」の中で、平成19年度より「学校すこやかプラン」を展開し、関係機関との連携や地域を巻き込んだ学校保健委員会の活性化を目指して取り組んでいる。さらに児童生徒の自ら健康的な生活を営む実践力を育むための指導の在り方について研究を深め、関係機関と一体となって児童生徒の健康課題解決を目指している。また、食生活を取り巻く社会環境等の変化に伴い、偏った栄養摂取、肥満等の生活習慣病の増加及び若年化など、食に起因する新たな健康問題が増加している。こうした状況の下、生涯を通じた健康づくりの観点から、食に関する指導を一層充実するとともに、各種研修会・講習会の開催を通して、衛生管理指導の徹底を図り、豊かで安全な学校給食の実現に努めた。

1 学校体育の充実

学校における体育・スポーツ活動のより一層の充実を図るとともに、本県児童生徒の実態を把握し、今日的な課題の解決に資するため「子どもの体力向上支援委員会」を開催し、具体的な方策について検証した。

また、小・中・高等学校体育担当者連絡協議会や地域スポーツ人材の活用実践支援事業及び武道指導者派遣事業を実施し、運動に親しむ児童生徒の育成を図るとともに、体力・運動能力の向上と運動部活動の活性化に努めた。

さらに、県内すべての小学校に体育専門アドバイザーを派遣し、体育の授業の更なる充実と児童の運動習慣づくりに務めた。

2 学校保健・学校安全の充実

学校における健康教育の充実を図るため、ヘルスプロモーションの理念に基づく各種事業を推進している。「学校すこやかプラン」は、健康教育推進者研修会・ヘルシースマイル事業・心の健康教育セミナーの3つの柱で展開した。ヘルシースマイル事業は、肥満解消に向け、会津支援チーム、肥満に関する調査・分析チームを立ち上げ、地域の実情に応じ肥満解消に向けた協議・実践が展開された。心の健康教育セミナーでは、心の健康づくりの中心となる養護教諭の資質向上を目指し、健康相談の充実を図った。

顕彰事業関係では、県教育委員会が行う「福島県学校歯科保健優良校表彰」のほかに、県学校保健会の「学校保健優良学校表彰」を行った。ここでは、自校の健康教育にかかわる課題を的確に捉え、地域と連携し、組織的・計画的に課題解決に向けた取組を行うとともに、児童生徒の主体的な活動が行われた学校を表彰した。

学校安全に関しては、学校防災マニュアルの見直しを図るとともに、福島県学校安全指導者養成研修会を実施した。これは、全国で通学路上における交通事故が多発したことを受け、効果的な交通安全教育の在り方等について研修を行い、交通安全教育の推進・充実を図る目的で行った。

3 食育の推進

学校における食育の方向を示す「ふくしまっ子食育指針」に基づき、食べる力、感謝の心、郷土愛を育み、望ましい食習慣を形成することを目指し、給食の時間や特別活動、各教科等教育活動全体で食に関する指導の充実を図った。また、昨年度より東日本大震災後の新たな課題に対応するため、「ふくしまからはじめよう。元気なふくしまっ子食環境整備事業」を三部（保健福祉部、農林水産部、教育庁）連携事業として実施し、学校における食に関する指導体制の整備に努めた。さらに「朝食について見直そう週間運動」の一環で行った「ふくしまっ子ごはんコンテスト」では、応募総数が平成26年度の1.3倍である9,651点となり、家庭における食育への意識の向上につながった。

4 学校給食の充実

本年度の学校給食の実施状況を児童生徒数で見ると、食物アレルギー等で給食を受けない児童生徒を除き、完全給食は小学校99.8%、中学校98.2%、ミルク給食は小学校0.2%、中学校1.8%の実施率となっている。

米飯給食の週当たりの実施回数は学校1校あたり小学校3.35回、中学校3.36回、小・中学校平均で3.36回の実施となっている。学校給食費は、一食当たり小学校274円28銭、中学校320円4銭となっている。

次に、学校給食の充実を図るため、給食関係者を対象とした各種研修会をはじめ、学校栄養職員の専門的指導力を

高めるため、新規採用学校栄養職員研修、学校栄養職員経験者研修Ⅰ及び学校栄養職員専門研修を実施した。

さらに、食中毒防止等衛生管理の徹底を図るためには、平成21年4月1日に施行された「学校給食衛生管理基準」(文部科学省告示第64号)の遵守が必要であることから、その実施状況の確認及び指導・助言のため、各教育事務所の指導主事を中心として、単独校調理場60校、共同調理場13施設及び県立学校21施設について、学校給食施設訪問実施状況点検を実施した。

あわせて、安全・安心を確認した県農林水産物を学校給食に活用する市町村等の取組に対して「学校給食地場産物活用事業」を実施し、「いただきます。ふくしまさん」事業においては28市町村256校及び県立学校18校で実施し、学校給食おいしい県産農林水産物活用事業は34市町村249校で実施した。

第2節 表彰

1 体育関係

(1) 公益財団法人日本学校体育研究連合会表彰

ア 最優秀校 該当なし

イ 優良校 会津若松市立第四中学校

ウ 功労者

職名	氏名	学校・所属名
校長	菅野 則夫	郡山市立芳賀小学校
校長	山内 雄和	福島市立平野小学校
校長	佐藤 幸英	伊達市立霊山中学校
校長	箱崎二三彦	(元)福島県立会津高等学校

(2) 福島県学校体育研究連合会表彰

ア 優良校

学校名	校長名
いわき市立小名浜第二中学校	関内 健

イ 功労者

職名	氏名	学校名
校長	半澤勇一郎	(元)福島市立清明小学校
校長	大和田正恵	(元)郡山市立栃山神小学校
校長	丹 孝平	いわき市立御厩小学校
校長	西間木正行	須賀川市立仁井田小学校
校長	但野 真一	南相馬市立高平小学校
校長	住吉 哲也	二本松市立二本松第三中学校
校長	長沼 政美	郡山市立湖南中学校
校長	馬場 永好	南会津町立南会津中学校
校長	箱崎二三彦	福島県立会津高等学校
教諭	小久保英一知	福島県立安達高等学校

2 学校保健・学校安全関係

(1) 福島県教育委員会表彰

ア 学校保健功労者

氏名	役職名
桑島 利力	二本松市立二本松南小学校 元学校医
豊増 公一	福島県立須賀川養護学校 学校医
山崎 隆博	いわき市立草野中学校 学校歯科医
阿部 正敏	いわき市立植田東中学校 学校薬剤師

イ 特別功績者(児童・生徒・団体)の部

学校名	校長名
福島県立富岡高等学校 男子バドミントン部	山崎 雅弘

(2) 文部科学大臣表彰

ア 学校保健・学校安全表彰(獣医・獣歯科医・獣薬剤師)

区分	氏名	勤務校
学校医	中山 元二	いわき市立江名中学校
学校医	鈴木 孝雄	二本松市立安達太良小学校
学校歯科医	小汲 喜郎	(元)喜多方市立第一小学校

イ 学校保健・学校安全表彰(学校・団体)

該当なし

ウ 学校安全ボランティア活動奨励賞

学校名	代表者名
南向台安全パトロール隊	阿部 富雄
安全安心たまかごぶ隊川辺こぶ隊	須藤 久一

(3) 平成27年度歯科衛生図画・ポスター・書写・標語コンクール表彰

<最優秀入賞者>

ア 図画の部

学年	学校名	氏名
幼稚園	岡ノ内幼稚園	一條 涼
小学校1年	白河市立信夫第二小学校	平山 碧偉
小学校2年	福島市立水保小学校	星 和奏
小学校3年	福島市立水保小学校	穴戸 麻鈴
特別支援学校	福島県立会津養護学校竹田分校	芳賀 雄我

イ ポスターの部

◎ 小学校

学年	学校名	氏名
小学校4年	いわき市立渡辺小学校	古内 南那
小学校5年	会津若松市立湊小学校	小坂 真人
小学校6年	白河市立白河第五小学校	斎藤龍之介
特別支援学校	福島県立会津養護学校竹田分校	穴沢 梨奈

◎ 中学校

学年	学校名	氏名
中学校1年	白河市立白河中央中学校	矢内 彩裕
中学校2年	いわき市立泉小学校	鈴木 桃花

中学校3年	浅川町立浅川中学校	岡部二千夏
ウ 書写の部		
学 年	学 校 名	氏 名
小学校1年	いわき市立藤原小学校	岡田 愛唯
小学校2年	いわき市立湯本第一小学校	小野寺沙夏
小学校3年	須賀川市立第一小学校	小山 幹太
小学校4年	白河市立白河第二小学校	室井 将伍
小学校5年	会津若松市立一箕小学校	三富彩千香
小学校6年	二本松市立洪川小学校	遊佐 喬果
中学校全学年	いわき市立湯本第一中学校	末永 淳
特別支援学校	福島県立盲学校	渡邊いくみ

エ 標語の部		
学 年	学 校 名	氏 名
小・中学校	矢祭町立東館小学校	高橋美乃里
特別支援学校	福島県立須賀川養護学校郡山分校	塚野 栞菜

(4) 福島県学校歯科保健優良校表彰

ア 特別表彰 なし

イ 栄誉賞 1校

No.	域 内	学 校 名
1	会 津	喜多方市立第一小学校

ウ 最優秀賞 3校

No.	域 内	学 校 名
1	県 中	須賀川市立柏城小学校
2	県 南	白河市立信夫第二小学校
3	特 支	福島県立盲学校 (中学部)

エ 優秀賞 21校

◎小学校 (11学級以下) 13校

No.	域 内	学 校 名
1	県 北	福島市立水保小学校
2	県 中	須賀川市立白方小学校
3	県 中	田村市立緑小学校
4	県 南	西郷村立米小学校
5	県 南	西郷村立羽太小学校
6	会 津	磐梯町立磐梯第二小学校
7	会 津	喜多方市立上三宮小学校
8	会 津	喜多方市立駒形小学校
9	会 津	湯川村立笈川小学校
10	会 津	湯川村立勝常小学校
11	南会津	下郷町立江川小学校
12	南会津	只見町立明和小学校

13	いわき	いわき市立高野小学校
◎小学校 (12学級以上) 3校		
No.	域 内	学 校 名
14	県 北	福島市立清水小学校
15	県 南	白河市立釜子小学校
16	いわき	いわき市立中央台東小学校

◎中学校 (11学級以下) 2校

No.	域 内	学 校 名
17	県 中	須賀川市立長沼中学校
18	県 南	白河市立五箇中学校

◎中学校 (12学級以上) 1校

No.	域 内	学 校 名
19	県 中	田村市立船引中学校

◎特別支援学校 2校

No.	域 内	学 校 名
20	特 支	福島県立盲学校 (小学部)
21	特 支	福島県立いわき養護学校 (中学部)

オ 優秀活動奨励賞 1校

No.	域 内	学 校 名
1	県 中	須賀川市立仁井田小学校

カ 努力賞 44校

◎小学校 (11学級以下) 24校

No.	域 内	学 校 名
1	県 北	川俣町立福田小学校
2	県 北	川俣町立富田小学校
3	県 北	伊達市立柱沢小学校
4	県 北	伊達市立富成小学校
5	県 北	伊達市立小国小学校
6	県 北	二本松市立塩沢小学校
7	県 中	天栄村立大里小学校
8	県 中	玉川村立須釜小学校
9	県 中	平田村立蓬田小学校
10	県 中	平田村立小平小学校
11	県 中	浅川町立山白石小学校
12	県 中	田村市立広瀬小学校
13	県 中	田村市立関本小学校
14	県 中	田村市立西向小学校
15	県 中	田村市立芦沢小学校
16	県 中	三春町立中郷小学校
17	県 南	矢吹町立中畑小学校
18	県 南	矢祭町立東館小学校

19	会津	会津若松市立大戸小学校
20	会津	喜多方市立第三小学校
21	会津	喜多方市立熊倉小学校
22	会津	喜多方市立豊川小学校
23	いわき	いわき市立渡辺小学校
24	いわき	いわき市立長倉小学校

◎小学校（12学級以上） 5校

No.	域内	学校名
25	県北	桑折町立醸芳小学校
26	県中	石川町立石川小学校
27	県中	田村市立大越小学校
28	県南	西郷村立小田倉小学校
29	いわき	いわき市立郷ヶ丘小学校

◎中学校（11学級以下） 4校

No.	域内	学校名
30	県中	平田村立蓬田中学校
31	県中	平田村立小平中学校
32	県南	白河市立大信中学校
33	南会津	下郷町立下郷中学校

◎中学校（12学級以上） 3校

No.	域内	学校名
34	県中	石川町立石川中学校
35	県南	西郷村立西郷第一中学校
36	いわき	いわき市立中央台南中学校

◎特別支援学校 8校

No.	域内	学校名
37	特支	福島県立聾学校（小学部）
38	特支	福島県立聾学校（中学部）
39	特支	福島県立聾学校（高等部）
40	特支	福島県立郡山養護学校（小学部）
41	特支	福島県立相馬養護学校（小学部）
42	特支	福島県立相馬養護学校（中学部）
43	特支	福島県立相馬養護学校（高等部）
44	特支	福島県立いわき養護学校（小学部）

(5) 福島県学校保健会表彰

ア 健康づくり推進学校（1校）

No.	学校名	校長名
1	石川町立石川小学校	矢吹 伸一

イ 学校保健功労者（32名）

No.	職名	氏名	勤務校
1	学校医	高橋 重雄	川俣町立川俣南小学校
2	〃	和田 保男	いわき市立御厩保育所
3	〃	今井 徹	いわき市立泉中学校

4	〃	賀沢 秀雄	いわき市立小名浜東小学校
5	〃	矢吹 康	三春町立中妻小学校
6	〃	關 元行	福島県立白河実業高等学校
7	〃	小松 紘	福島県立会津養護学校
8	学校歯科医	坂本 博司	いわき市立豊間中学校
9	〃	寺田佐武郎	いわき市立白水小学校
10	〃	齋田 良昭	いわき市立平第四小学校
11	〃	勢島 昇	福島市立渡利小学校
12	〃	鈴木 修	福島市立清水小学校
13	〃	大桶 志延	福島市立野田中学校
14	〃	渡部 晴彦	西会津町立西会津中学校
15	〃	物江 暁	喜多方市立第三中学校
16	〃	松崎 賢造	喜多方市立駒形小学校
17	〃	長谷川 徹	いわき市立大野第二小学校
18	〃	門馬 功	いわき市立汐見が丘小学校
19	学校薬剤師	三好 正人	福島市立水原小学校
20	〃	櫻井 恵子	福島市立平田小学校
21	〃	浜田多恵子	三春町立三春中学校
22	〃	三浦 裕子	喜多方市立上三宮小学校
23	〃	津村真由美	喜多方市立堂島小学校
24	〃	山下 聖子	福島県立西郷養護学校
25	養護教諭	郡司 啓子	福島市立岳陽中学校
26	〃	服部 昌子	本宮市立本宮第二中学校
27	〃	黒羽久美子	田村市立船引中学
28	〃	渡邊 典子	白河市立五箇小学校
29	〃	齋藤 宇子	西郷村立熊倉小学校
30	〃	星 美智子	南会津町立館岩小学校
31	〃	木幡 淳子	郡山市立郡山第三中学校
32	〃	菅野 宏美	郡山市立桑野小学校

ウ 学校安全ボランティア活動奨励賞（3団体）

No.	団体名	代表者名
1	庭坂地区児童見守り隊	國井 一也
2	郡山市赤木小学校子ども見守り隊	佐久間正幸
3	三春町八島台環境防犯協会	山本 健

エ 学校保健会感謝状（4名）

No.	職名	氏名	勤務校
1	会長	菊池 辰夫	(前)福島県学校保健会
2	養護教諭	面川 幸子	(前)白河市立五箇中学校
3	〃	相川 洋子	(前)福島県立原町高等学校

4 | " | 渡邊 悦子 | (前)福島県立勿来高等学校

3 学校給食関係

(1) 文部科学大臣表彰

学校給食功労者

職名	氏名	所属
栄養教諭	二瓶美智子	会津坂下町立坂下中学校

(2) 公益財団法人福島県学校給食会会長・福島県学校給食研究会会長表彰

ア 学校給食優良団体

団体名	校長・施設長名
猪苗代町立猪苗代小学校	菊地 康則

イ 学校給食功労者

職名	氏名	所属
栄養教諭	佐藤 恵子	(前)伊達市立伊達中学校
栄養教諭	鈴木 百代	埴町立埴中学校
栄養教諭	赤津由紀子	いわき市立平第三中学校
主任栄養技師	斎藤ゆり子	(前)福島市立吉井田小学校
主任調理員	河原田栄子	県立白河第二高等学校

あづま総合運動公園 91名参加
 県中地区：平成27年8月21日（金）
 郡山総合体育館 98名参加
 県南地区：平成27年8月20日（木）
 白河市立表郷中学校 78名参加
 会津・南会津地区
 :平成27年8月7日（金）
 あいづ総合体育館 140名参加
 相双地区：平成27年7月31日（金）
 南相馬市スポーツセンター 68名参加
 いわき地区：平成27年8月17日（月）
 いわき総合体育館 113名参加

(3) ダンス・表現指導者養成研修会

平成27年8月3日（月）
 福島市国体記念体育館 68名参加

(4) 学校フォークダンス指導者養成研修会

平成27年11月12日（木）
 郡山西部体育館 42名参加

第3節 学校体育

1 学校体育関係各種研修

(1) 小・中・高体育担当者連絡協議会

県北：平成27年9月16日（水）
 県文化センター 168名参加
 県中：平成27年9月8日（火）
 郡山ユラックス熱海 206名参加
 県南：平成27年9月15日（火）
 中島村生涯学習センター 75名参加
 会津：平成27年9月9日（水）
 会津大学 116名参加
 南会津：平成27年9月17日（木）
 南会津町御蔵入交流館 24名参加
 相双：平成27年9月7日（月）
 万葉ふれあいセンター 56名参加
 いわき：平成27年9月10日（木）
 いわき合同庁舎南分庁舎 126名参加

(2) 子どもの体力向上指導者養成研修

県中央研修：平成27年6月24日（水）
 あづま総合運動公園 36名参加
 地区別研修
 県北地区：平成27年8月10日（月）

2 福島県高等学校体育連盟

(1) 平成27年度福島県高等学校体育連盟役員

顧問(歴代会長)	折 笠 常 弘(15代) 早 川 俊 一(16代) 齋 藤 久(18代) 砂子田 敦 博(19代) 杉 原 陸 夫(20代) 高 城 俊 春(21代) 齋 藤 和 也(22代) 古 市 孝 雄(23代) 富 田 孝 志(24代) 星 本 文(25代) 新井田 大(26代) 富 田 昭 夫(27代) 本 間 稔(28代) 塩 田 正 信(県教育庁健康教育課長) 遠 藤 均(県体育協会専務理事)	
参与(歴代理事長)	陸 勤(7代) 高 橋 充 雄(9代) 浅 尾 晃 左(11代) 菅 野 一 治(12代) 渡 辺 正 昭(13代) 赤 沼 健 一(14代) 渡 邊 正 仁(15代)	
会 長	長 岐 博 (田村高校長)	
副会長(地区会長)	田 代 公 啓 (福島高校長) 荒 井 勝 彦 (清陵情報高校長) 丹 藤 茂 (会津高校長) 渡 邊 望 (磐城桜が丘高校長) 鎌 田 由 人 (相馬東高校長)	
理 事 長	穉 本 哲 哉 (田村)	
事 務 局 長	齋 藤 靖 (田村)	
常 任 理 事	穂 積 祐 司 (健康教育課) 松 崎 法 夫 (県体育協会) 大 森 史 仁 (須賀川) 新 田 恭 弘 (田村) 千 田 則 和 (郡山萌世(通信制))	
常 任 理 事 ・ 理 事	県 北	☆◎ 瀬田川 広 行 (福島商業) ○ 三 浦 武 彦 (福島明成) 小 俣 宏 之 (川俣) 齊 藤 英 司 (桜の聖母学院) △ 金 成 舞 (桜の聖母学院)
	県 南	☆◎ 清 水 秀 昭 (郡山商業) ☆○ 堀 井 裕 典 (あさか開成) ☆ 古 川 幸 正 (石川) ☆ 須 藤 浩 治 (修明) ☆ 二 瓶 良 (帝京安積) △ 安 藤 千 陽 (須賀川)
	会 津	☆◎ 齋 藤 真 人 (葵) ○ 紅 屋 聡 (会津) 五十嵐 直 (喜多方桐桜) △ 佐 藤 克 久 (大沼)
	い わ き	☆◎ 菅 野 長 敏 (磐城桜が丘) ○ 阿 部 秀 幸 (いわき総合) 小 川 尚 之 (磐城) △ 菌 部 優 (磐城桜が丘)
	相 双	☆◎ 皆 原 邦 彦 (相馬) ○ 成 田 祐 介 (相馬東) 持 館 智 (相馬東) △ 金 子 聖 人 (相馬)
監 事	高 篠 直 也 (相馬) 大 内 悟 (安達)	
会 長 指 名 理 事	穂 積 祐 司 (健康教育課) 松 崎 法 夫 (県体育協会)	
幹 事	佐 藤 琢 麻 (安積黎明) 五 島 裕 美 (田村) 齊 藤 修 (郡山萌世(定時制))	
(公財)福体協理事	長 岐 博 (田村高校長)	
同 評 議 員	齋 藤 靖 (田村)	
東北高体連副会長	長 岐 博 (田村高校長)	
同 常 任 理 事	穉 本 哲 哉 (田村)	
同 理 事	齋 藤 靖 (田村)	

☆常任理事 ◎地区理事長 ○地区副理事長 △地区生徒理事

(2) 第61回福島県高等学校体育大会日程・会場

※○…終日 □…半日

開催地区	No.	種目名		日 程			会 場	参加人数
				5/30 (土)	5/31 (日)	6/1 (月)		
県北	1	サッカー	男子	5月23日(土)～25日(月)・30日(土)・31日(日)			十六沼公園サッカー場	600
			女子	○	○		十六沼公園サッカー場	60
	2	卓 球	6月6日(土)～8日(月)			福島市国体記念体育館	566	
	3	相 撲	○	○		福島市営相撲場	18	
	4	剣 道	○	○	□	福島市国体記念体育館	620	
	5	弓 道	○	○	□	福島明成高校弓道場	459	
	6	空 手 道	6月5日(金)～7日(日)			学法福島高校体育館	80	
	7	体 操	体操競技	5月22日(金)～24日(日)			福島市国体記念体育館	70
			新体操				福島市国体記念体育館	
	8	馬 術	○	○		JRA福島競馬場	49	
	9	フェンシング	○	○		福島商業高校 第2体育館	18	
10	カヌー競技	6月7日(日)			二本松市阿武隈漕艇場	13		
11	ライフル射撃	6月7日(日)			二本松市総合射撃場	33		
県南	12	陸上競技	5月22日(金)～25日(月)			開成山陸上競技場	1,474	
	13	バレーボール	6月6日(土)～8日(月)			郡山総合体育館 郡山北工高校 郡山高校 あさか開成高校	1,232	
	14	ソフトボール	6月6日(土)～8日(月)			東風の台運動公園 クリスタルパーク石川	630	
	15	ハンドボール	○	○	□	石川町総合体育館 学法石川高校 光南高校	688	
	16	バドミントン	○	○	□	郡山総合体育館	563	
	17	水 泳	飛 込	7月8日(水)			郡山カルチャーパークプール	5
	18	自転車競技	トラック	5月22日(金)～23日(土)			泉崎村 泉崎国際サイクルスタジアム	52
			ロード	5月24日(日)			西郷村 小田倉台上の周回コース	
	19	ホ ッ ケ ー	○			ルネサンス棚倉多目的広場	27	
	20	スケート	スピード	12月11日(金)			磐梯熱海スポーツパーク郡山スケート場	7
フィギュア			未定			磐梯熱海アイスアリーナ		
21	アーチェリー	5月23日(土)			三春町営グラウンド	29		
会津	22	テ ニ ス	○	○	□	あいづ総合運動公園テニスコート	622	
	23	柔 道	○	○	□	鶴ヶ城体育館	364	
	24	ボ ー ト	5月29日(金)～31日(日)			福島県営荻野漕艇場	87	
	25	登 山	5月27日(水)～30日(土)			会津駒ヶ岳・大津岐峠(檜枝岐村)	229	
	26	レスリング	○	○		田島高校	43	
	27	ス キ ー	28年1月13日(水)～16日(土)			アパソ: 会津高原だいらスキー場	35	
						カカ: 檜枝岐村七入クロスカントリーコース		
	28	なぎなた		○		葵高校第一体育館	28	
29	駅伝競走	10月20日(火)～21日(水)			猪苗代町	519		
いわき	30	バスケットボール	○	○	□	いわき市総合体育館 市内高校	900	
	31	ラクビフットボール	10月24日(土)・25日(日)・11月1日(日)・7日(土)			21世紀の森公園いわきグリーンフィールド・多目的広場	218	
	32	ソフトテニス	6月6日(土)～8日(月)			いわき市テニスコート	755	
	33	水 泳	競 泳	6月20日(土)～22日(月)			いわき市民プール	447
	34	軟式野球	7月4日(土)～6日(月)			いわき市南部スタジアム	39	
	35	ウエイトリフティング	○	○		いわき市総合体育館武道場	50	
	36	ボクシング	○	○		磐城緑蔭高校	20	
	37	ヨ ッ ト	○			いわき市 小名浜港(釜の前)	9	
相双	38	サッカー	男子	5月23日(土)～24日(日)			相馬光陽サッカー場	-
特殊専門部		定時制通信制	6月13日(土)～14日(日)			福島工業高校 福島中央高校 あづま総合運動公園	325	

3 福島県中学校体育連盟

(1) 平成27年度福島県中学校体育連盟役員

役職名	氏名	所属名	地区名
会長	鈴木 訓夫	郡山六中	中 中
地区 区長	住吉 哲也	二本松三中	北 中
	佐藤 卓弘	富田中	中 中
	面川 三雄	白河二中	南 中
	酒井 完	若松一中	会 津
	関内 健	小名浜二中	い わ き
	遠藤 隆徳	原町一中	相 双
理事長	福地 誠志	福島三中	北 中
理事	山本 秀和	県教育庁健康教育課指導主事	
	田中 信次	伊達中	北 中

役職名	氏名	所属名	地区名
理事	佐久間祐幸	小原田中	中 中
	馬場 正和	白河二中	南 中
	渡部 洋一	若松一中	会 津
	鈴木 雅之	平三中	い わ き
	藍原 広明	小高 中	相 双
監事	長沼 政美	湖南 中	中 中
	高橋 国雄	桶 売 中	い わ き
	山田 克行	富岡二中	相 双
顧問	佐々木祐司		中 中
事務局長	長正 壮平	福島三中	北 中

(2) 第58回福島県中学校体育大会

競技種目	競 技 場	期 日	参加人数
陸上競技	開成山陸上競技場	7月7日(火)～7月9日(木)	1,398
水泳競技	競泳	会津水泳場	7月22日(水)～7月24日(金)
	飛び込み	郡山カルチャーパークプール	7月8日(水)
軟式野球	開成山野球場	7月22日(水)～7月24日(金)	5,385
	牡丹台野球場	7月22日(水)～7月24日(金)	
	いわせグリーン球場	7月22日(水)	
	小野公園野球場	7月22日(水)	
ソフトボール	相馬光洋ソフトボール場	7月23日(木)～7月24日(金)	
バスケットボール	あいづ総合体育館	7月23日(木)～7月24日(金)	
バレーボール	郡山総合体育館	7月23日(木)～7月24日(金)	
	安積総合学習センター体育館	7月23日(木)	
	郡山西部体育館	7月23日(木)	
ソフトテニス	いわき市平テニスコート	7月23日(木)～7月24日(金)	
卓球	白河市中央体育館	7月23日(木)～7月24日(金)	
バドミントン	いわき市立総合体育館	7月23日(木)～7月24日(金)	
サッカー	鳥見山陸上競技場	7月22日(水)～7月24日(金)	
	郡山西部サッカー場	7月22日(水)	
ハンドボール	石川町総合体育館	7月22日(水)～7月24日(金)	
	学法石川高等学校体育館	7月22日(水)～7月23日(木)	
柔道	鶴ヶ城体育館	7月23日(木)～7月24日(金)	
剣道	県営あづま総合体育館	7月23日(木)～7月24日(金)	
相撲	福島市相撲場	7月23日(木)～7月24日(金)	
新体操	福島市国体記念体育館	7月22日(水)～7月24日(金)	
体操競技	福島市国体記念体育館	7月23日(木)～7月24日(金)	
駅伝競走	西郷村台上周辺コース	10月8日(木)～10月9日(金)	612
スケート	磐梯熱海スポーツパーク郡山スケート場	12月11日(金)	15
スキー	裏磐梯猫魔スキー場	1月12日(火)～1月14日(木)	250
	尾瀬檜枝岐CCスキーコース		

第4節 学校保健・学校安全

1 学校保健・学校安全研修会等

① 学校保健

事業名	期 日	会 場	参加人数
養護教諭 経験者 研修Ⅰ	校内研修(3日間) 校外研修(3日間)	学校の計画による 各教育事務所 の計画による 教育センター	20名
	宿泊研修 9月2日(水) ～9月4日(金)		
養護教諭 経験者 研修Ⅱ	校内研修(4日以上) 校外研修(6日以上)	学校の計画による 各教育事務所・ 学校の計画による 教育センター	13名
	宿泊研修 7月29日(水) ～7月31日(金)		
健康教育 推進者 研修会	11月12日(木)	県文化センター	60名
	11月20日(金)	安積総合学習 センター	105名
心の健康 教育セミナー	9月30日(水)	安積総合学習 センター	73名

3 教職員の健康管理

教職員の健康管理を適正に行うため、雇入時健康診断、教職員定期健康診断、教職員結核健康診断を実施した。

(1) 雇入時健康診断結果

教育庁及び県立学校等の新規採用教職員

ア 健康診断実施状況の内訳

受診者数	要注意者数		要精密検査者数	
	人数	割合	人数	割合
136	53	39.0%	28	20.6%

イ 精密検査の内訳

検査項目	聴力	血圧	貧血	血中脂質	肝機能	血糖	尿	心電図	胸部
受診者数	136	136	136	136	136	136	134	136	136
要精密検査者数	0	7	6	16	4	0	5	0	1
要精密検査率	0.0%	5.1%	4.4%	11.8%	2.9%	0%	3.7%	0.0%	0.7%

(注) 要精密検査者については、要精密検査項目が1人で2つ以上ある場合には、該当項目にそれぞれ計上した。

(2) 教職員定期健康診断結果

教育庁及び県立学校等教職員（新規採用教職員を除く）

ア 健康診断実施状況の内訳

区 分	受診者数	要注意者数		要精密検査者数		
		人数	人数	割合(%)	人数	割合(%)
年齢・性別	男性	3,290	885	26.9%	1,957	59.5%
	女性	2,013	733	36.4%	931	46.2%

2 児童・生徒の健康管理費補助

(1) 要保護児童生徒援助費補助金(医療費)

学校安全保健法第25条の規定に基づく補助金の交付状況は次のとおりである。

ア 県立学校

対象児童生徒数(人)		設置者が援助した額(円)	補助金 確定額(円)
区分	特別支援学校		
要保護	0	0	0
計	0	0	0

イ 市町村立学校

対象児童生徒数(人)				設置者が 援助した額 (円)	補助金 確定額 (円)
区分	小学校	中学校	特別支援学校		
要保護	48	22	0	2,122,946	1,057,000
計	48	22	0	2,122,946	1,057,000

	計	5,303	1,613	30.4%	2,888	54.5%
35歳未満	男性	696	265	38.1%	278	39.9%
	女性	683	203	29.7%	163	23.9%
	計	1,379	468	33.9%	441	32.0%
合計	男性	3,986	1,150	28.9%	2,235	56.1%
	女性	2,696	936	34.7%	1,094	40.6%
	計	6,682	2,086	31.2%	3,329	49.8%

イ 要精密検査の内訳

検査項目	聴力		血圧		貧血		血中脂質		肝機能		腎機能	
	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上
受診者数	1,377	5,288	1,379	5,297	1,379	5,287	1,379	5,287	1,379	5,287	1,379	5,071
要精密検査者数	14	308	39	619	49	248	260	1,378	106	555	51	174
要精密検査率	1.0%	5.8%	2.8%	11.7%	3.6%	4.7%	18.9%	26.1%	7.7%	10.5%	3.7%	3.4%

検査項目	血糖		尿		心電図		胃エックス線		大腸がん		眼底	
	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上
受診者数	1,379	5,299	1,348	5,252	/	5,260	/	4,274	/	5,006	/	5,223
要精密検査者数	10	260	72	296	/	183	/	258	/	289	/	228
要精密検査率	0.7%	4.9%	5.3%	5.6%	/	3.5%	/	6.0%	/	5.8%	/	4.4%

(注) 要精密検査者については、要精密検査項目が1人で2つ以上ある場合には、該当項目にそれぞれ計上した。

(3) 教職員結核健康診断結果

教育庁及び県立学校等教職員（新規採用教職員を除く）

受診者数	要精密検査者数	要精密検査率
6,439人	75人	1.7%

4 福島県学校保健会

(1) 会 員

- ア 県内小・中学校及び高等学校の児童生徒
- イ 学校医、学校歯科医、学校薬剤師及び学校保健関係者

(2) 財 政

平成27年度予算額 4,513,692円

(3) 事業概要

- ア 学校保健講習会の開催(県内21支部単位)
- イ 学校保健優良学校・学校保健功労者表彰・学校安全ボランティア奨励賞
- ウ 各種研究大会、講習会等への派遣
- エ 刊行物の発行
学校保健会報 第46号

5 独立行政法人日本スポーツ振興センター

(1) 災害共済給付契約加入状況

県立学校の平成27年度の加入幼児児童生徒数は45,809人で、前年度に比べ1,153人減少した。
児童生徒は、一部の長期欠席者等を除き全員加入している。

(2) 災害共済給付状況

県立学校において、平成27年度「学校管理下」で発生した児童生徒等の災害は、給付件数では4,298件(平成26年度4,277件)、給付金額では35,582,508円である。
給付件数では21件、給付金額では4,645,539円増加した。

(3) 平成27年度県立学校災害共済給付状況

区分	医療費		障害見舞金		死亡見舞金		供花料		合計	
	(発生件数) 給付件数	給付額	給付件数	給付額	給付件数	給付額	給付件数	給付額	(発生件数) 給付件数	給付額
幼稚園	1 (1)	3,196円	0	0円	0	0円	0	0円	1 (1)	3,196円

小学校	(17) 28	59,119	0	0	0	0	0	0	(17) 28	59,119	
中学校	(24) 35	280,144	0	0	0	0	0	0	(24) 35	280,144	
高等学校	全日制	(1,553) 4,182	31,149,069	3	3,740,000	0	0	1	170,000	(1,553) 4,186	35,059,069
	定時制	(18) 47	176,810	0	0	0	0	0	0	(18) 47	176,810
	通信制	(1) 1	4,170	0	0	0	0	0	0	(1) 1	4,170
合計	(1,614) 4,294	31,672,508	3	3,740,000	0	0	1	170,000	(1,614) 4,298	35,582,508	

(4) 学校安全支援業務

ア 各種研修会等への講師派遣

学校栄養職員 専門研修	宿泊研修 9月7日～9日	3日	教育センター	7
----------------	-----------------	----	--------	---

第5節 学校給食

1 学校給食に関する研修会

名称	開催月日	会場	参加人数
学校給食担当者会議	5月25日	ハイテクプラザ	75名
新規採用学校 栄養職員研修	校内研修 各15日	所属校・ 勤務共同調理場	3名
	校外研修 地区別研修A 4日 地区別研修B 3日	教育事務所の計 画による 市町村教育委員 会の計画による	
	宿泊研修A 3日 5月26日～ 28日	国立磐梯青年 交流の家	
	宿泊研修B 3日 10月14日～ 16日	教育センター	
学校栄養職員 経験者研修 I	校内研修 2日 校外研修 2日 7月23日～ 24日	所属校・勤務共 同調理場 教育センター	7名

2 学校給食用パン品質調査

学校給食用パン品質を良化して、学校給食の食事内容の充実向上に役立たせるため実施した。

教育事務所	調査件数
県北	5件
県中	19件
県南	8件
会津	3件
南会津	1件
相双	2件
いわき	8件
合計	46件

3 食育等に関する研修会等

(1) 学校における食の担当者連絡会議

- 日時 平成27年5月15日(金)
- 会場 県ハイテクプラザ
- 参加者 76名

(2) ふくしまっ子の食環境を考える会

- 県北：平成27年8月10日(月)
安達公民館 129名参加
- 県中：平成27年8月11日(火)
県ハイテクプラザ 99名参加
- 県南：平成27年7月29日(水)
白河合同庁舎 58名参加
- 会津：平成27年8月21日(金)
湯川村公民館 56名参加
- 南会津：平成27年8月6日(木)
御蔵入交流館 29名参加
- 相双：平成27年7月30日(木)

かしま交流センター 41名参加
 いわき：平成27年7月31日（金）
 いわき合同庁舎 73名参加

(3) 栄養教諭食育推進研修会

○ 日 時 平成27年11月18日（水）
 ○ 会 場 三春町立三春中学校 37名参加

4 地場産物活用のための研修会

(1) 地場産物活用のための検討会

第1回
 日 時 平成27年4月28日（火）
 会 場 ふくしま中町会 16名参加
 第2回
 日 時 平成27年11月13日（金）
 会 場 福島市学校給食センター 11名参加

5 学校給食関係の国庫助成実績

平成23年4月1日付け23文科施第3号文部科学大臣裁定「学校施設環境改善交付金要綱」に基づく交付金の状況は、次のとおりである。

平成27年度「学校施設環境改善交付金」（学校給食施設）

設置者名	交 付 額	学校又は共同調理場名	事 業 名	児童生徒数	構 造	交付面積
石川町	千円 21,022	石川小学校(Ⅱ期工事)	単独校調理場(新增築)	513 人	鉄筋コンクリート造(R)	221 m ²
いわき市	千円 122,722	勿来学校給食共同調理場(Ⅱ期工事)	共同調理場(新增築)	5,500 人	鉄骨造(S)	679 m ²
いわき市	千円 3,366	勿来学校給食共同調理場(Ⅱ期工事)	共同調理場(改築)			
須賀川市	千円 12,507	第二小学校(Ⅱ期工事)	単独校調理場(改築)	412 人	鉄筋コンクリート造(R)	139 m ²
計	千円 159,617	4件				

第6節 体育施設

1 公立学校施設整備費補助（学校体育諸施設補助）

(1) 水泳プール（屋外）

設 置 者 名	施 設 名	水面積 (m ²)	交付金額 (千円)
須賀川市	第一小学校	395	10,287
喜多方市	塩川中学校(Ⅰ期)	225	18,322
喜多方市	塩川中学校(Ⅱ期)	150	8,029
田村市	大越小学校(Ⅱ期)	274	14,667

田村市	(仮)滝根地区統合小学校(Ⅱ期)	274	14,667
-----	------------------	-----	--------

(2) 学校クラブハウス

設置者名	施設名	面積 (m ²)	交付金額 (千円)
会津若松市	鶴城小学校 (Ⅱ期)	77	4,461

(3) 中学校武道場

設置者名	施設名	面積 (m ²)	交付金額 (千円)
該当無し			

2 社会体育施設整備費補助

(1) 社会体育施設耐震化

設置者名	施設名	面積 (m ²)	交付金額 (千円)
二本松市	安達体育館	864	8,754

第11章 福 利 厚 生

[福利厚生事業]

第1節 概要

教職員の福利厚生については、教職員の生活の安定と福祉の向上を目指し、県教育委員会、公立学校共済組合及び一般財団法人福島県教職員互助会の3者が緊密な連携を保ち、各事業を実施した。

保健・厚生事業については、特定健康診査等を実施するとともに、教職員の健康管理を重点目標とし、生活習慣病の早期発見・早期治療等健康づくりを支援するための人間ドックや大腸がん検診等の健診事業のほか、保養所等利用助成事業

等を実施した。

また、教職員の生涯生活設計の推進のためのライフプラン講座、家庭における在宅介護術を身につけるための実技を中心とした在宅介護講座、心とからだの健康づくりのためのメンタルヘルスセミナーのほか、生活習慣病予防セミナーや女性のための健康セミナー、メンタルケアを目的としたセミナーなど各種講座を開催するとともに、ストレスチェック事業や教職員向けの健康相談事業として「こころとからだの健康相談」および「ふくしま教職員こころのケア事業」などを実施した。

第2節 保健・厚生事業

1 保健事業

(1) 特定健康診査等（共済組合）

平成27年度中に、40～74歳となった公立学校共済組合員（任意継続組合員も含む）とその被扶養者を対象に、特定健康診査を実施した。特定健康診査の結果、生活習慣病のリスクが高い場合、その程度に応じて特定保健指導を実施した。

対象者数	受診者数	受診率	保健指導
A	B	B / A	対象者
17,772人	15,380人	86.5%	2,692人（H27年度確定値）

(2) 人間ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

ア 教職員人間ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

平成27年4月1日現在、満35・38・40・43・45・48・50・53・55・58歳、61歳以上の教職員を対象に、人間ドック（脳ドックを含む。）を実施した。

対象者数	申込者数	受診者数	申込率	受診率		検診結果			
				B / A	C / A	C / B	異常なし	要注意	要精検
6,651人	5,493人	5,427人	84.4%	83.4%	98.8%	4.9%	34.8%	36.4%	23.9%

イ 配偶者人間ドック（共済組合・互助会）

平成27年4月1日現在、満35歳以上の被扶養配偶者を対象に、人間ドックを実施した。

申込者数	受診者数	受診率	検診結果			
			異常なし	要注意	要精検	治療中
287人	256人	92.6%	3.5%	34.4%	40.6%	21.5%

ウ 定年退職予定者人間ドック（互助会）

平成27年4月1日現在、満59歳の教職員を対象に、人間ドックを実施した。

対象者数	申込者数	受診者数	申込率	受診率		検診結果			
				B / A	C / A	C / B	異常なし	要注意	要精検
443人	364人	359人	82.2%	81.0%	98.6%	1.4%	25.6%	30.4%	42.6%

(3) 大腸がん検診（共済組合・互助会）

平成27年4月1日現在、満35歳以上の教職員（人間ドック及び脳ドック受診者を除く。）を対象に、大腸がん検診を実施した。

対象者数 A	申込者数 B	受診者数 C	申込率			受診率				検診結果			
			B / A	C / A	C / B	異常なし	要注意	要精検	治療中				
10,870人	819人	754人	7.5%	6.9%	92.1%	65.8%	24.3%	9.9%	0%				

(4) 乳がん・子宮がん検診（県・公立大学法人・共済組合・互助会）

平成27年4月1日現在、満20歳以上の女性教職員（人間ドック及び脳ドック受診者を除く。）を対象に、乳がん・子宮がん検診を実施した。

対象者数 A	申込者数 B	受診者数 C	申込率			受診率				検診結果			
			B / A	C / A	C / B	異常なし	要注意	要精検	治療中				
5,859人	4,072人	3,863人	55.5%	52.7%	95.0%	83.0%	9.8%	6.7%	0.5%				

(5) 脳ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

平成27年4月1日現在、満40・43・45・48・50・53・55・58歳、61歳以上の教職員を対象に、脳ドックを実施した。

※申込者数及び受診者数は教職員人間ドックの内数で、検診結果は人間ドック項目を除いた項目の構成比率である。

対象者数 A	申込者数 B	受診者数 C	申込率			受診率				検診結果			
			B / A	C / A	C / B	異常なし	要注意	要精検	治療中				
5,717人	899人	885人	15.7%	15.5%	98.4%	50.2%	26.6%	23.0%	0.2%				

(6) 脳検診（共済組合・互助会）

平成27年4月1日現在、満40・43・45・48・50・53・55・58歳、61歳以上の教職員を対象に、脳検診を実施した。

対象者数 A	申込者数 B	受診者数 C	申込率			受診率				検診結果			
			B / A	C / A	C / B	異常なし	要注意	要精検	治療中				
5,717人	1,853人	1,788人	32.4%	31.3%	96.5%	81.6%	11.8%	6.4%	0.2%				

(7) 肺がん検診（共済組合・互助会）

平成27年4月1日現在、満40歳以上の教職員を対象に、肺がん検診を実施した。

対象者数 A	申込者数 B	受診者数 C	申込率			受診率				検診結果			
			B / A	C / A	C / B	異常なし	要注意	要精検	治療中				
14,363人	1,676人	1,617人	11.7%	11.3%	96.5%	66.2%	27.5%	5.8%	0.5%				

(8) 胃がん検診（共済組合・互助会）

平成27年4月1日現在、満30・33歳の教職員を対象に胃がん検診を実施した。

対象者数 A	申込者数 B	受診者数 C	申込率			受診率				検診結果			
			B / A	C / A	C / B	異常なし	要注意	要精検	治療中				
532人	114人	103人	21.4%	19.4%	90.4%	86.4%	7.8%	5.8%	0%				

2 厚生事業

(1) 厚生事業

ア ライフプラン講座（共済組合・互助会）

教職員一人ひとりが、生涯にわたり健やかで充実したゆとりある生活を送ることができるよう、退職後の生活を視野に入れた生涯生活設計づくりとその実現を支援するため、ライフプラン講座を開催した。

日 程	平成27年8月10日
会 場	ビッグパレットふくしま
プログラム	ライフプラン設計演習 ○20代～30代コース 株式会社FP研究所 植田 健 氏 ○40代コース 株式会社FP研究所 今野 隆文 氏 ○50代～60代コース 株式会社FP研究所 三輪 鉄郎 氏 永田 忠則 氏 馬場 誠一 氏
受講者数	418人

イ 在宅介護講座（共済組合）

組合員を対象に、在宅介護に必要な知識や技術を身につけるための実技中心の1日介護講座を実施した。

日 程	平成27年 7月22日	平成27年 7月23日	平成27年 8月5日
会 場	福島県男女共生センター		
プログラム	(1) 講義「在宅介護の基礎知識」 (2) 実技Ⅰ「環境整備と更衣の仕方」 (3) 実技Ⅱ「排泄援助」 (4) 実技Ⅲ「清潔援助」 7月22日 (福島県介護福祉士会 小山田 米子 氏 関根 誠一 氏) 7月23日 (福島県介護福祉士会 松本 利一 氏 坂原 敦 氏) 8月5日 (福島県介護福祉士会 八巻 健一 氏 紺野 大輔 氏)		
受講者数	13人	18人	26人

ウ 管理・監督者メンタルヘルス研修会（県）

管理・監督者に対し、メンタルヘルスクエアに関する基礎知識や職場環境等の改善方法を習得させるため、研修会を実施した。

日 程	平成27年5月22日～平成27年9月7日(計12回)
会 場	県内各方部
講 師	ウェルリンク株式会社 小西喜朗氏、和田隆氏、武井規之氏
受講者数	計1,525人

エ 管理職員・各部人事管理担当者向けメンタルヘルス宿泊研修（県）

地方公務員災害補償基金の「東日本大震災に関連するメンタルヘルス総合対策事業」を活用し、教育庁及び県立学校等の管理職員・人事管理担当者を対象に福島、仙台、盛岡会場で実施した。

日 程	平成27年7月16日～17日	平成27年11月5日～6日
会 場	ザ・セレクトン福島 ほか	
プログラム	講演 ・支援者ストレスとその解決策 立教大学教授 香山 リカ 氏 基調講演 ・「ストレスに強くなる」の本当の意味 石井メンタルクリニック 坂田 成輝 氏 事例検討・グループワーク研修 株式会社アドバンテッジリスクマネジメント 飯塚 靖夫 氏	
受講者数	10人	2人

オ メンタルヘルスセミナー（共済組合）

組合員の心の健康を保持増進するため、メンタルヘルスに関する基礎知識を習得するための講座を開催した。

日 程	平成27年 7月27日	平成27年 7月28日	平成27年 8月3日	平成27年 8月7日
会 場	福島県文化センター	会津アピオスペース	いわき ゆったり館	ビッグパレットふくしま
プログラム	講演：メンタルヘルスの基礎知識 演習：コミュニケーションとプラスのストローク 体験：心すっきりリフレッシュ法 7月27日、7月28日 (株)カイテック 皆川芳弘氏、今林美都菜氏、藤野佳織氏 8月3日、8月7日 (株)カイテック 樋口恵子氏、今林美都菜氏			
受講者数	60人	47人	49人	96人

カ 女性のための健康セミナー（共済組合）

女性組合員を対象に、健康意識の向上を図るため、女性特有の病気についての知識や予防法等を習得する講演、実技を行うセミナーを開催した。

日 程	平成27年8月6日	平成27年8月7日
会 場	ビッグパレットふくしま	
プログラム	(1) 講演 「女性のための健康セミナー」 ((株)カイテック講師 樋口 恵子 氏) (2) 演習 「リラクゼーション法（ルームフレッシュナ	

ム	一作り」 ((株)カイトック講師 樋口 恵子 氏) (3) 実技 「足からの健康美!セルフフットセラピー」 ((株)カイトック講師 綿貫 恵子 氏)	
受講者数	102人	129人

キ 教職員のためのカラダ元気力アップ!セミナー (共済組合)

組合員を対象に、生活習慣病の知識と予防法等に関する講話と運動指導を行うセミナーを実施した。

日程	平成 27 年 7 月 29 日	平成 27 年 7 月 30 日	平成 27 年 7 月 31 日
会場	ビッグパレットふくしま	会津アピオスペース	福島県文化センター
プログラム	(1) 講演 「快適人生への未来日記」 (2) 演習 「セルフチェックでメタボ改善」 (3) 実技 「ボクシングエクササイズ&リラクゼーション」 (株)カイトック 講師 皆川 芳弘 氏		
受講人数	52 人	56 人	52 人

ク 保育補助 (共済組合)

平成27年度内に出産し又は出産を予定する女性組合員及び被扶養配偶者を有する組合員に対し、保育の支援及び福祉の向上に資するため、乳幼児の保育に必要な用品を出生児1人につき1セット交付した。

区分	内 容	交付件数
Aセット	肌着(ボディミニ)(70サイズ) 1枚 肌着(ボディオール)(70サイズ) 2枚	83件
Bセット	ベビー食器セット ベビーマグ エプロン	210件
Cセット	ベビー綿毛布 ベビータオルケット ベビー枕	100件
Dセット	月刊「赤ちゃん和妈妈」 1 2冊 お誕生号 1冊 単行本 「赤ちゃんのつぶやき」 1冊 「やさしい離乳食」 1冊 冊子 「お医者さんにかかるまでに」 1冊	31件
計		424件

ケ 教職員健康相談事業 (共済組合)

(こころとからだの健康相談)

健康上の不具合や心身の悩みについて相談を受けられるよう、19医療機関に相談業務を委託。

のべ利用件数 19件

コ 教職員相談事業 (県)

専任の相談員を配置し、教職員の各種相談に応じた。

相談件数 240件

サ メンタルヘルスサポート (セルフチェック) 事業

公立学校共済組合福島支部のホームページにアクセスし、所定の質問に回答することで、自己の状態を確認した。

アクセス数 28,733件

シ ふくしま教職員こころのケア事業 (共済組合)

東日本大震災を受けて、日常のストレスやこころの悩みを専門のカウンセラーに相談できる機会を提供するため、7カウンセリング機関に業務を委託。

カウンセリングのべ利用件数 716件

講師派遣利用件数 7件

グループカウンセリングコース・

ピアカウンセリングコース利用件数 0件

ス 教職員メンタルヘルスカウンセリング事業 (県)

常勤講師等臨時的任用職員の心の疾患の未然防止や心の健康保持増進を図るため7カウンセリング機関に業務を委託

カウンセリングのべ利用件数 3件

セ ストレスチェック事業 (共済組合)

公立学校共済組合の被災組合員等対策事業を活用し、2か年にわたり4月1日現在で偶数年齢の組合員を対象に実施した。(平成27年7月実施)

回答者数 8,318人

回答率 88.0%

ソ ストレスチェック・カウンセリング事業 (県)

地方公務員災害補償基金の「東日本大震災に関連するメンタルヘルス総合対策事業」を活用し、教育庁及び県立学校等教職員の正職員を対象に実施した。(平成27年11月実施)

回答者数 4,745人

回答率 83.0%

相談件数 419件

タ 保養所等利用助成 (共済組合)

組合員が福島支部指定の共済組合宿泊施設を利用した場合、利用料金の一部を助成した。あづま荘休館中は、地方職員共済組合飯坂保養所飯坂温泉「みちのく荘」への宿泊についてあづま荘利用時と同額の助成をした。

○ あづま荘利用助成

区分	助成対象	助成内容	助成件数
宿泊利用助成	組合員・被扶養者・配偶者・子・父母・祖父・母が宿泊したとき	1人1泊1食まで 2,000円 1人1泊2食3,000円	10,326件

		0円 等	
会議室 利用助成	組合員が開催する諸会 議	会議室料金の2 分の1の額	80件
結 婚 式 利用助成	新郎・新婦が組合員の とき	1組 200,000円	0件
	新郎・新婦の一方ある いは親が組合員のとき	1組 100,000円	0件
会 食 利用助成	組合員が5名以上で、 かつ1人5,000円以上の 会食を行ったとき	1人 1,000円	94件
法 要 利用助成	組合員及び直系親族が 法要を行うとき	利用額の30% (上限70,000円)	6件
年金受給 者等利用 助 成	福島支部発行の「宿泊 施設特別利用者証」の 交付を受けた者が宿泊 したとき	1人 1,000円	489件

○ 他支部保養所等利用助成

県内2、県外11の指定宿泊施設利用に対し、1人1泊
1,500円、計1,007件の助成を行った。

チ 指定旅館等利用助成（互助会）

会員の保養及び健康の保持増進を図るため、県内（26
施設）、県外（10施設）の宿泊施設等を指定し、会員が
利用したとき、利用料金の一部を助成した。

区 分	助成件数	金 額
宿泊利用助成	13,909件	36,117千円
会食利用助成	97件	97千円
アケアリン利用助成	594件	520千円
計	14,600件	36,734千円

ツ 弔慰供花（共済組合）

在職中に亡くなった組合員の霊前に供花を行い、哀悼
の意を表した。

供花件数 15件

テ リフレッシュ助成（互助会）

勤続10年及び20年の節目に心身のリフレッシュを図る
ための助成（旅行券又は宿泊施設利用券）を実施した。

実施件数 717件

ト 永年勤続リフレッシュ助成（互助会）

永年勤続表彰会員及び20年以上30年未満勤続し退職し
た会員等に対し、助成品（旅行券、宿泊施設利用券、図
書券又は文箱）を交付した。

永年勤続表彰会員 642名

20年以上30年未満勤続し退職した会員 12名

勤続30年以上で表彰を受けずに退職した会員 5名

(2) 公益事業

ア へき地等教育事業助成（互助会）

県人事委員会指定の特地以上のへき地学校及び特別支
援学校に在学する児童生徒の健全育成を図るため、これ

らの学校に図書を贈呈した。

対 象 校 105校

児童生徒数 6,425人

イ 互助会文庫（互助会）

県民の教育文化の向上に寄与するため、県立図書館に
図書を寄贈し、広く県民の利用に供した。

一般・児童生徒用 1,135冊（累計 59,952冊）

第3節 貸付事業

1 共済組合

平成27年度における共済組合貸付事業は、住宅貸付け（介
護構造部分貸付けを含む。）をはじめ、一般、教育、医療、
結婚、の5種類の貸付けを行った。

(1) 貸付けの状況

種別貸付けの状況は次のとおりである。

（単位：件、千円）

種別	件 数	金 額	金額割合
一般貸付け	134	161,994	37.3
住宅貸付け	19	162,496	37.4
教育貸付け	49	96,200	22.2
医療貸付け	3	3,500	0.8
結婚貸付け	6	9,871	2.3
計	211	434,061	100.0

第4節 宿泊・保養施設

公立学校共済組合では、組合員の福利厚生施設として、飯
坂保養所「あづま荘」を運営しているが、平成27年度の利用
状況は、次のとおりである。なお、平成28年2月から同年7
月まで耐震改修工事のため休館した。

種 別	施 設	
	あづま荘	
利 用 人 員	宿 泊	14,904人
	会 議	2,437人
	宴 会	467人
	婚 礼	0人
	休 憩	27人
	計	17,895人
利 用 率	宿 泊	50.4%
	宿 泊 外	2.6%

※利用率

$$\cdot \text{宿泊} = \frac{\text{利用人員（宿泊）}}{\text{宿泊延定員（宿泊定員} \times \text{営業日数）}} \times 100$$

$$\cdot \text{宿泊外} = \frac{\text{利用人員（会議・宴会・婚礼）}}{\text{宿泊外延定員（宿泊外定員} \times \text{営業日数）}} \times 100$$

第5節 児童手当（特例給付を含む）

次代の社会を担う児童の健やかな成長に資することを目的とする「児童手当法」に基づき、以下のとおり支給した。

（単位：人、千円）

	平成28年3月の 認定状況		支給額
	受給 資格者数	支給対象 児童数	
本庁・教育機関等	133	205	26,250
小学校	1,198	1,978	265,980
中学校	1,166	1,927	262,235
高等学校	1,160	1,954	261,150
特別支援学校	305	516	69,655
計	3,962	6,580	885,270

第6節 財産形成貯蓄制度

教職員の計画的な財産形成を促進するために財産形成貯蓄を導入し、昭和62年3月から控除預入を開始したが、平成27年度における契約状況は次のとおりである。

第8節 短期給付

1 共済組合

平成27年度末現在における組合員数は、現職組合員数19,395人（前年同期比57人減）、任意継続組合員366人（同36人減）の計19,761人（同93人減）である。

また、被扶養者数は、18,291人（同490人減）、組合員1人当たりの被扶養者数は、0.926人となっている。

平成27年度の共済組合短期給付の給付総額は、5,370,159千円で、前年度対比110,111千円の減少となった。

総額に占める割合は、法定給付 97.47%、附加給付 2.53%となっており、給付の内訳は次のとおりである。

共済組合短期給付内訳表

法定給付				附加給付			
種別		件数（件）	給付額（千円）	種別		件数（件）	給付額（千円）
医療給付	本人医療費	176,065	1,734,293	医療給付 その他 の給付	家族療養費	896	31,160
	家族医療費	151,828	1,468,404		家族訪問看護療養費	1	1
	高額療養費	2,597	267,063		出産費	314	15,700
	薬剤	146,004	981,483		家族出産費	131	6,550
	移送費	0	0		埋葬料	25	625
	小計	476,494	4,451,243		家族埋葬料	15	375
その他の給付	出産費	310	132,262		直営保健給付家族療養費	0	0
	家族出産費	126	54,463		傷病手当金	31	8,235
	埋葬料	25	1,250		災害見舞金	0	0
	家族埋葬料	15	750		結婚手当金	0	0
	傷病手当金	351	99,858		入院付加金	0	0
	出産手当金	15	2,167				
	休業手当金	0	0				
	育児休業手当金	2,551	488,467				

財産形成貯蓄契約状況

◎貯蓄種類別契約件数（平成28年3月31日現在）

（単位：件）

	期日指定 定期預金	金銭信託	公社債投 資信託	積立保険	計
一般貯蓄	7,978	73	170	643	8,864
年金貯蓄	1,938	54	69	327	2,388
住宅貯蓄	538	13	21	55	627
計	10,454	140	260	1,025	11,879

契約者数 9,135人

[福利給付事業]

第7節 概要

教職員の福利給付事業については、県教育委員会、公立学校共済組合、一般財団法人福島県教職員互助会において、組合員（会員）に対する各種の給付事業を実施した。

一方、長期給付事業については、教職員等への退職手当、恩給及び共済年金の支給を行った。

なお、平成27年度の年金額は平成26年度の特例水準の年金額との比較では基本的に0.9%の引き上げとなった。

また、恩給年額については、平成22年度に引き続き据え置きとなった。

介護休業手当金	45	4,073			
弔慰金	0	0			
家族弔慰金	0	0			
災害見舞金	0	0			
小計	3,438	783,290			
① 法定給付 計	479,932	5,234,533	② 附加給付 計	1,413	62,646

③ 一部負担金払戻金	2,160	72,980
短期給付合計(①+②+③)	483,505	5,370,159

2 互助会

平成27年度末現在の互助会の会員数は、16,734人（前年同期比479人減）となっている。

互助会給付規程に基づいた短期給付金及び厚生給付金事業の内訳については、次のとおりである。

(1) 短期給付金

種 別	件数 (件)	給付額 (千円)
医療補助金 (被扶養者)	12,763	53,379
死亡弔慰金	(会員)	16
	(被扶養者)	14
災害見舞金	0	0
出産見舞金	(会員)	241
	(被扶養者)	97
計	13,131	69,679

(2) 厚生給付金

種 別	件数 (件)	給付額 (千円)
医療給付金	43,536	166,806
死亡給付金	631	22,260
出産給付金	125	3,810
結婚祝金	187	9,350
入学祝金	567	17,010
入院療養見舞金	1,531	16,690
障がい見舞金	95	4,750
育児休業給付金	2,107	31,143
介護休暇給付金	18	1,710
計	48,797	273,529

第9節 長期給付

平成27年度の教職員等に対する退職給付の執行状況は、次のとおりである。

1 恩給

(1) 恩給の受給者数及び支給の状況

ア 支給人員及び支給額

普通恩給等の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

平成27年度末現在の受給者数は85人（前年度比14人減）、平成27年度における支給総額は131,173千円（同27,698千円減）となっており、受給者の高齢化に伴い、いずれも減少傾向にある。

学校種別	普通恩給		扶助料		退隠料		遺族扶助料		計	
	人員 (人)	支給額 (千円)	人員 (人)	支給額 (千円)	人員 (人)	支給額 (千円)	人員 (人)	支給額 (千円)	人員 (人)	支給額 (千円)
小学校	8	13,004	48	73,029	2	2,186	0	0	58	88,219
中学校	1	2,608	19	33,488	2	2,967	0	0	22	39,063
特別支援学校	0	0	0	0	0	0	1	111	1	111
高等学校	0	0	0	0	0	0	1	945	1	945
教育庁その他	0	0	2	1,890	0	0	1	945	3	2,835
計	9	15,612	69	108,407	4	5,153	3	2,001	85	131,173

イ 裁定及び失権

裁定を受けた者及び死亡等により受給権を失った者は、次のとおりである。(単位：人)

恩給種別	裁 定	失 権	左のうち 完全失権
普通恩給	0	2	2
扶 助 料	1	12	12
退 隠 料	0	1	1
遺族扶助料	0	0	0
計	1	15	15

(2) 恩給の改定について

恩給は、国民年金改定率(国民年金法第27条で規定する改定率)を基準に毎年度改定し、当該年度の4月以降に適用される。

直近の改定としては、平成21年度に0.9%の引き上げがされているが、22年度以降は実施していない。

2 退職手当

(1) 退職手当の支給人員及び支給額

退職手当の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

学校種別	人員 (人)	支給額 (千円)
教育庁・その他	11	233,938
小 学 校	1,146	7,464,655
中 学 校	755	2,811,399
高 等 学 校	491	2,764,397
特別支援学校	367	986,865
計	2,770	14,261,254

(2) 失業者の退職手当

退職手当のうち「失業者の退職手当」の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

学校種別	人員 (人)	支給額 (千円)
教育庁・その他	0	0
小 学 校	28	7,380
中 学 校	25	8,293
高 等 学 校	7	2,800
特別支援学校	8	2,259
計	68	20,732

3 年金

(1) 進達件数

老齢厚生(退職共済)年金等の本部への進達件数は、次のとおりである。

(単位：件)

進達区分	旧共済法による年金		新共済法・一元化法による年金					計
	退職年金	障害年金	老齢厚生(退職共済)年金	老齢厚生(退職共済)年金(特別)	老齢厚生(退職共済)年金(繰上)	障害厚生(共済)年金	遺族厚生(共済)年金	
決定請求	0	0	12	217	1	17	21	268
改定請求	0	0	7	30	0	0	0	37

(2) 支給人員及び支給額

老齢厚生(退職共済)年金等の平成27年度末現在における支給人員は21,571人で、平成27年度における支給額は387億201万3千円、平均年齢は77.5歳である。

平成27年10月の被用者年金一元化以降は、新たに厚生年金、職域加算額の年金及び年金払い退職給付の年金が決定されることになったが、一人の者に厚生年金と職域加算額の年金など複数の年金受給権が発生することになるため、年金種別ごとの受給者数が増加している。

前年度に比較して人員で469人の増加、支給額で1億785万4千円の増加となっている。

年金種別	受給者数(人)			平均年齢	平均年金額(円)	支給額(円)
	男	女	計			
厚 老 齢 厚 生 年 金	120	79	199	65.0	1,320,659	262,811,141
生 老 齢 厚 生 年 金 (特 別)	49	73	122	61.0	1,208,529	147,440,538
年 障 害 厚 生 年 金	0	0	0	—	0	0
金 遺 族 厚 生 年 金	1	8	9	70.9	1,208,272	10,874,448

	小 計	170	160	330	63.7		421,126,127
年 金 払 給 付	終身退職年金	0	0	0	—	0	0
	有期退職年金	0	0	0	—	0	0
	公務障害年金	0	0	0	—	0	0
	公務遺族年金	0	0	0	—	0	0
	小 計	0	0	0		—	0
新 共 済 年 金 ・ 職 域 加 算	退職共済年金(既裁定)	6,662	4,224	10,886	76.4	1,802,405	19,620,980,830
	退職共済年金(職域加算)	120	79	199	65.0	244,490	48,653,510
	退共(特別・既裁定)	883	898	1,781	62.7	1,480,828	2,637,354,668
	退共(特別・職域加算)	49	73	122	61.0	237,229	28,941,938
	退職共済年金(繰上)	0	0	0	—	0	0
	障害共済年金(既裁定)	162	132	294	60.3	1,188,579	349,442,226
	障害共済年金(職域加算)	0	0	0	—	0	0
	遺族共済年金(既裁定)	456	4,263	4,719	81.5	1,688,663	7,968,800,697
	遺族共済年金(職域加算)	2	19	21	78.7	116,424	2,444,904
	遺族共済年金(厚年計算)	1	12	13	82.9	1,827,707	23,760,191
	小 計	8,335	9,700	18,035	75.9		30,680,378,964
旧 共 済 年 金	退職年金	586	1,867	2,453	88.7	2,642,716	6,482,582,348
	減額退職年金	24	147	171	84.2	1,924,389	329,070,519
	通算退職年金	4	13	17	91.9	679,853	11,557,501
	障害年金	22	27	49	77.4	2,116,663	103,716,487
	遺族年金	19	495	514	85.5	1,309,122	672,888,708
	通算遺族年金	0	2	2	93.5	345,750	691,500
	小 計	655	2,551	3,206	87.8		7,600,507,063
合 計	9,160	12,411	21,571	77.5		38,702,012,154	

※支給額は平均年金額に受給者数を乗じた額である。

※受給者数について、一人の者に厚生年金及び職域加算額が裁定された場合はそれぞれ1件の年金受給権が発生するものとして合計している。

※既裁定とは一元化前に裁定された共済年金であり、職域加算とは一元化後に裁定された厚生年金等の旧職域部分の年金である。(遺族共済年金(職域加算)には、遺族厚生年金及び遺族共済年金(厚年計算)の旧職域部分を合算している。)

※厚年計算とは一元化後に受給権が発生した共済年金であり、厚生年金保険法が適用される。

(3) 年金額の改定

平成26年平均の全国消費者物価指数(生鮮食品を含む総合指数)の対前年比変動率はプラス2.7%、対前年度比名目手取り賃金変動率はプラス2.3%であった。

本来水準の額の算定については、新規裁定者(68歳未満)は名目手取り賃金変動率、既裁定者(68歳以上)は物価変動率を基準として再評価率を改定する。ただし、既裁定者については、物価変動率が名目手取り賃金変動率を上回り、かつ、名目手取り賃金変動率が1以上となる場合は名目手取り賃金変動率により改定されることから、新規裁定者・既裁定者ともに、原則として、名目手取り賃金変動率(2.3%)によって改定される。

さらに、平成27年度は、マクロ経済によるスライド調整

(▲0.9%)と特例水準の段階的な解消(▲0.5%)をあわせ、平成26年度の特例水準の年金額との比較では基本的に0.9%の引き上げとなった。

また、改定率政令の改正により、平成27年度の国民年金法による改定率は「0.999」とされた。

第12章 福島県教育センター

第1節 概要

教育センターは、教育に関する専門的・技術的事項の調査と研究、教育関係職員の研修、情報教育、教育相談及び教育図書・資料の作成・収集・提供等、本県の学校教育の向上・発展に寄与するための事業を実施してきた。

また、カリキュラムセンター業務として、学校や教職員及び市町村教育委員会をはじめとする教育機関等を対象に、学校経営を含む教育活動全般について、研究成果・資料・情報を提供するとともに、要請に応じて指導主事の派遣等の支援を行ってきた。

平成24年度は、平成23年度の初任者研修が震災の影響で十分な形で実施できなかったことを踏まえ、職能研修Ⅰに「2年次教員指導の実践講座」を設け、初任者の実践的指導力の向上を図った。他方で、震災の影響により小中学校教諭及び養護教諭の採用がなかったため、当該の基本研修は実施しなかった。しかし、年度末の平成25年3月19日本館東西棟の耐震改修や災害復旧工事が完成し震災以前の状態に戻ることができた。

これを受け平成25年度同様平成27年度についても、震災以前と同じ形態で、基本研修・職能研修・専門研修・自主講座などをセンターの全ての施設を使用しながら行うことができた。

なお、事業概要は、次のとおりである。

1 調査・研究事業

教育センターの使命、役割を自覚し、県教育委員会のシンクタンクとしての期待に十分こたえられるようにするとともに、本県の教育推進上の課題や学校教育の在り方に対応するために、本県学校教育の諸課題の解決に役立つ先導的・実証的な調査・研究を進めてきた。

(1) 調査

本県の教育に関する実態や課題を的確に把握するため、客観的で広範囲な基礎データを継続的に収集し分析した。さらに、その調査結果を教育センターでの研究に生かし、各学校や教育機関等へ提供した。

(2) 研究

「学校での様々な実践に生かす」視点から、本県の教育課題を具体的に把握し、それらの課題に対処する基礎的・実証的な研究を行った。

研究の推進に当たっては、研究調査のためのチームを組織し、また、教育センターの役割と学校現場のニーズに基づく研究とするために、研究協力校、研究協力者を全県的に募り、開かれた研究の実践に努めた。

調査研究チーム、情報教育チーム、教育相談チームがそ

れぞれ共同研究を行った。

これらの研究成果は、「教育センターWebサイト」「研究紀要」「所報ふくしま『窓』」等に掲載するとともに、平成27年11月26日(木)に実施した「福島県教育研究発表会」においても発表し、その成果を各学校や教育機関へ提供した。

2 研修事業

教職員の資質と指導力の向上を図るために、「平成27年度福島県公立学校教職員現職教育計画」に基づいて各種の研修講座を計画した。

基本研修、職能研修（職能研修Ⅰ、職能研修Ⅱ）、専門研修について、平成27年度の実績は、次のとおりであった。

講座数	71講座
講座開設数	130回
講座研修者数	4,343人(延べ人数)
講座開設期間	平成27年4月2日～平成28年2月19日
前年度比	
講座数	1減
講座開設数	5減
講座研修者数	91減

3 情報教育事業

福島県内の学校・教育関係機関を接続する「ふくしま教育総合ネットワーク(FKS)」において、安全・安心なサービス提供のためのネットワーク基盤の運用・整備や保守対応、テレビ会議システムの利用サポートを行った。また、青少年期における情報リテラシーを育むための「教育の情報化のインフラ」として、有害情報のフィルタリングやウイルス除去を行うとともに、FKSの利用方法の相談・問い合わせに対する対応・回答を行った。

情報教育研修では、学習指導要領へ対応した研修の充実を図り、「教科指導におけるICT活用」「児童生徒の情報活用能力の育成」「校務の情報化」を3つの柱とした「教育の情報化の推進」に向けて取り組んだ。

専門研修では、「校務処理における表計算(関数)講座」や「フラッシュ型教材を用いたICT活用の授業実践講座」、「Net Commonsによる学校Webサイト構築講座」、「校内ネットワークの管理と運用基礎講座」などを行った。また、基本研修での講義等とおして、「情報モラル教育」及び「教科指導におけるICT活用」の研修の充実を図った。さらに、職能研修では「教育の情報化」の講義を行い、教育の情報化が円滑かつ確実に実施されるよう努めた。

「情報モラル教育」については、小・中学校等の要請を受けて、児童生徒・教職員・保護者を対象に、出前講座等を行った。スマートフォン・ゲーム機・音楽プレイヤーの普及やSNS等の利用の増加に伴い、「情報モラル教育」は喫緊の課題

であり、実施数は近年急激に増加している。

4 教育相談事業

教育相談事業では、幼児及び児童生徒の教育上の諸問題について来所及び電話で相談を受け、問題の改善・解決をめざした。

来所相談では不登校、集団不適應に関する相談が、電話相談では学校への不満、いじめ、不登校に関する相談が多かった。

学校への不満やいじめに関する電話相談の中で早急な対応が必要と思われる事案については、当該校の管理職に情報を提供し、その共有に努めた。いじめに関する電話相談については、相談者の思いを受け止めるとともに、今後の対応を一緒に考えたり、身近な相談機関を紹介したりした。不登校に関する電話相談については、来所による相談も可能であることを積極的に伝えた。

5 教育図書・資料事業

県内教職員の教育活動に役立つ教育図書及び教育資料の収集・分類・整理に努め、データベース化して教育センターWebサイト(<http://www.center.fks.ed.jp/>)に掲載し、図書検索を可能にした。また、文献資料利用相談への対応並びに貸し出し等のサービスも行い、教職員の研修・研究活動を援助してきた。

教育センター広報誌「所報ふくしま『窓』」第169号、170号及び「研究紀要」第45集を発行した。

第2節 調査・研究事業

1 調査・研究

平成27年度の調査・研究として、教育庁より依頼された調査研究チーム、情報教育チーム、教育相談チームの3件に取り組んだ。

(1) 調査研究チームによる研究

「授業力の向上に係る校内研修の在り方に関する研究」
～校内研修についての実践的研究と実践資料の作成～

児童生徒の学力向上は本県の喫緊の課題であり、調査研究チームとしては「言語活動の充実(21、22年度)」「活用力の育成(23、24年度)」「教師のコーディネート(25年度)」と、教師の授業力向上についての研究を行ってきた。

教師の授業力向上のための取組を効果的に進めるためには、教師個々の取組を支える、学校全体としての研修の仕組み作りが不可欠であるという考えから、昨年度より上記の課題を設定し研究に取り組んだ。

昨年度は、県内の小・中・高等学校・特別支援学校に校内研修に係るアンケート調査を行い、次の4つの課題を導き出した。

- ・ 授業研究に対する意識に差がある。

- ・ 授業研究の方法に改善が必要である。
- ・ 授業研究が一人一人の授業力向上に効果的に結びついていない。
- ・ 校内研修を活性化させるためには、同僚性、協働性が求められる。

また、これらの課題を解決するために校内研修システムを提案した。今年度は、小学校2校、中学校1校の研究協力を得て実践を通して研究し、提案する校内研修システムの有効性を検証した。また、授業研究を中心とした校内研修の進め方(理論編)と協力校での実践概要(実践編)を、授業研究改善に向けた資料としてまとめ、ハンドブックを作成した。

研究協力校における実践的研究等の結果、次のような成果と課題が確認された。

(成果)

○ 授業力向上に有効な校内研修システム

研究協力校における実践を通じた有効性の検証結果から、提案した校内研修システムが、校内研修における4つの課題の解決に結び付き、教師個人の授業力向上に有効に機能することを確認できた。具体的には、今回提案した校内研修システムにおける授業力チェックシート等の活用により、自己課題の明確化を図り、授業研究を自身の授業力向上に結び付けることができた。また、授業研究を通して見えた授業改善内容を、日常の実践につなげる有効な手だてとして構築することができた。

○ 授業研究ハンドブックの作成

授業研究改善に向けた実践資料として、研究協力校での具体的実践を加えた、「授業研究ハンドブック」を作成できた。今後、各学校で、2種類のハンドブック(「授業改善ハンドブック」と「授業研究ハンドブック」)を併用しながら、授業改善に向けた校内研修を一層充実させることができると考える。県内各学校の特色を生かした継続的な実践により、教師個人の授業力が向上し、本県児童生徒の学力向上につながることを期待したい。

(課題)

○ 提案するシステムの有効性をさらに探る必要性

今年度の研究では一定の成果が確認できたが、さらなる効率化につながる事前研究の在り方など、学校の特色に応じたシステムの工夫を模索していかねばならない。また、今年度の研究協力校が、小学校2校、中学校1校と少なく、大規模校が含まれないなど、提案する校内研修システムの汎用性に関して検証の余地が残った。今後は、作成した「授業研究ハンドブック」を活用した、出前講座による研修実施等、実践の機会と場所を更に広げ、校種、規模を問わず効果的であるか、提案する校内研修システムの有効性を継続的に探る必要がある。

○ 児童生徒に問題解決的な学習となる授業づくり

授業研究において、授業が児童生徒にとって主体的な学びとなっていない、問題解決的でない等、学びの質や深まりが課題となる場面も散見される。これまでの研究を生か

した上で、学びの質や深まりの視点から、単元や1時間の授業をどうつくっていくか等、学習指導の在り方に関する研究も深めていく必要がある。

(2) 情報教育チームによる研究

情報モラル教育に関する研究

～小学生からの情報リテラシーの定着をめざして～

平成27年度は、昨年度に引き続き情報モラルに関する研究を進めてきた。情報端末の所持、インターネット利用が低年齢化していることから、今年度は研究対象を小学生にした。以下に研究の成果を述べる。

- 研究協力校において安心協ILASテストを実施し、児童の情報リテラシーを把握した。このことにより、研究協力校における情報リテラシーの定着度と課題を明確に捉えることができた。
- 専門研修等を通して、インターネット社会の現状を伝え、指導用の資料作成の支援を行うことで、各校で中心になって情報モラルを指導できる教員を増やすことができた。各校では、研修を受けた教員が、道徳の授業、児童への講話、教員への伝達講習など各校の実態に即して情報モラルを指導した。その結果、児童の情報リテラシーを向上させることができた。
- 家庭での情報モラル指導力の向上をねらい、出前講座で保護者にインターネット社会の現状に関する知識を与え、保護者としての責任感を持たせることができた。また、保護者啓発資料「すまあと通信」を作成・発行し、多くの学校で活用されている。
- 今年度出前講座を振り返り、学校からのニーズは児童生徒への指導と保護者への啓発にある。児童生徒に対しては当事者意識を持たせること、保護者へは監護責任を意識させることが求められている。学校と家庭の連携を図るために、教育センターとしての関わりが果たす役割は大きいと感じた。

(3) 教育相談チームによる研究

児童生徒を支援する力を高める校内研修に関する研究（第五年次）～生徒指導・教育相談に関する「実践資料」の活用～

本研究では、生徒指導・教育相談に関する「校内研修実践資料」（以下、「実践資料」）の活用を通して、教職員及び教職員組織の児童生徒を支援する力の向上をめざした。今年度は、「実践資料」の更なる普及と活用のために、既開発の「実践資料」を基にした他校種版「実践資料」の作成とWeb上での分類・整理や、「実践資料」を活用した校内研修への支援を進めた。また、校内研修前後における教職員のメンタルヘルスについても調査した。

その結果、次のような成果を得ることができた。

- 校種ごとに開発された「実践資料」の事例等を他の校種に適したものに置換し、どの内容の「実践資料」も全ての校種で活用することができるよう整備しなおした。

加えて、それらをWeb上で「校種」「内容の領域」「身に付けたい力」ごとに分類・整理しなおすことで、「実践資料」の利便性の向上を図ることができた。

- 4年制大学への進学を希望する生徒が多い高等学校において「実践資料」を活用した生徒指導・教育相談に関する校内研修を行ったところ、その有効性を確認することができた。
- 総合学科高校において、既存の校内委員会を活用しながら、学校のニーズに直結した新たな「実践資料」を学校と教育センター所員が共同で開発した。この取組は、校内研修が「センター主体」から「学校主体」に移行する上での一つのモデルとなった。この取組の結果、研修自体の目的が達成されたことに加え、教職員間の連帯感が増したり、「実践資料」の開発を担った校内委員会の委員の考えに深まりが生じたりするなどの効果が見られた。
- 前年度の当チームの専門研修受講者と前年度の当チーム所属長期研究員（以下、受講者等）に対して、校内研修実施の際に支援を行ったことで、受講者等は疑問や不安を軽減し自信をもって校内研修を行うことができた。
- 「実践資料」を活用した校内研修に参加した教職員の「ストレス状況」の一部の項目の値が低くなったこと、また、「ストレス対処状況」についても、教職員間で相談がしやすくなる等良好な変化が見られたこと等から、「実践資料」を活用した校内研修への参加が、教職員の「児童生徒を支援する力」を高めることのほか、教職員のメンタルヘルスの向上にも好ましい影響を及ぼすことを確認することができた。

2 長期研究員制度による研究

平成23年度より長期研究員制度が復活した。長期研究員は、年間を通じて各自が研究テーマを設定して計画、実践、評価、まとめを行うこととしている。平成27年度は、15名が研究に取り組み、福島県教育研究発表会では9名が成果を発表した。また、研究結果を『研究紀要』『研究報告書』にまとめるとともにWebサイトに掲載した。

第3節 研修事業

1 研修講座の概要

(1) 基本研修

ア 新規採用者・初任者研修

教職員としての基礎・基本を習得する研修である。

(7) 幼稚園教諭

a 園内における研修(10日)

b 園外における研修(10日)

・ 宿泊研修（3泊4日）

・ 地区別研修（各地区）（3日）

・ 参観研修（3日）

- (イ) 小学校及び中学校教諭
- a 校内における研修(150時間以上)
- b 校外における研修(22日)
- (a) 宿泊研修(6日)
- 宿泊研修A(2泊3日)
- 宿泊研修B(2泊3日)
- (b) 地区別研修(16日)
- ・地区別研修A(7日)(教育センター、各教育事務所による計画)
 - 一般研修、授業研修、へき地校研修、カウンセリング研修、特別支援学校研修
 - ・地区別研修B(9日)(市町村教育委員会、勤務校による計画)
 - 研究発表集会等研修、一般研修、社会奉仕体験活動研修、企業等体験研修、他校種園参観研修
- (ウ) 高等学校教諭
- a 校内における研修(150時間以上)
- b 校外における研修(22日)
- (a) 宿泊研修(8日)
- 基本研修(1泊2日)、一次研修(2泊3日)
- 二次研修(2泊3日)
- (b) 教科別研修(3日)(教科ごとに初任者配置校を会場として実施)
- (c) 地区別研修(11日)
- ・地区別研修A(7日)(各地区)
 - 一般研修、社会奉仕等体験研修、カウンセリング研修、特別活動等研修、安全教育研修
 - ・地区別研修B(4日)(各学校による計画)
 - 特別支援学校研修、他校での授業参観等研修
- ※ 校内研修で減じた30時間と、校外研修で減じた3日の研修は、平成28年度に新設された2年次教員フォローアップ研修において実施する予定となっている。
- (エ) 公立学校実習助手(高校教育課主管 高等学校初任者研修と合同開催)
- a 校内における研修(2日程度)
- b 校外における研修(10日)
- (a) 基本研修(1泊2日)
- (b) 地区別研修(各地区)
- 一般研修、社会奉仕等体験研修、カウンセリング研修、特別活動等研修、安全教育研修
- (オ) 養護教諭(小・中・高・特別支援学校)
- a 校内における研修(15日)
- b 校外における研修(14日)
- (a) 宿泊研修(6日)
- 宿泊研修A(2泊3日)
- 宿泊研修B(2泊3日)
- (c) 地区別研修(8日)
- ・地区別研修A(6日)(教育センターによる計画)
- 画)
- 一般研修、カウンセリング研修、企業等体験
- ・社会奉仕等体験研修
 - ・地区別研修B(2日)(各実施校による計画)
 - 特別支援学校研修、学校訪問研修
- (カ) 学校栄養職員
- a 学校等内における研修(15日)
- b 学校等外における研修(13日)
- (a) 宿泊研修(6日)
- ・宿泊研修A(共通研修)(2泊3日)
 - ・宿泊研修B(専門研修)(2泊3日)
- (b) 地区別研修(7日)
- ・地区別研修A(4日)(各地区)
 - 一般研修、特別支援学校研修、単独校実地研修、共同調理場実地研修
 - ・地区別研修B(3日)(各教育委員会による計画)
 - 一般研修、他校園参観研修、企業等体験研修
- イ 経験者研修Ⅰ
- 在職期間が5年に達した教職員を対象とし、専門的知識と技能を高め、資質の向上を図る研修である。
- (7) 小学校・中学校教諭
- a 校内研修(5日)
- b 校外研修(3日)
- 宿泊研修(2泊3日)
- (イ) 高等学校教諭
- a 校内研修(5日)
- b 校外研修(3日)
- 宿泊研修(2泊3日)
- (ウ) 養護教諭(小・中・高・特別支援学校)
- a 校内研修(3日)
- b 校外研修(3日)
- 宿泊研修(2泊3日)
- (エ) 学校栄養職員(隔年実施)
- a 校内研修(2日)
- b 校外研修(2日)
- 宿泊研修(1泊2日)
- ウ 経験者研修Ⅱ
- 在職期間が10年に達した教職員を対象とし、幅広い識見と豊かな社会性を得させ、併せて学校組織マネジメントに資する能力の育成を図るとともに、組織の中核として運営に資する人材の育成と職能の更なる向上を図る研修である。
- (7) 幼稚園教諭
- a 園内研修(7日)
- b 園外研修(5日)
- 宿泊研修(1泊2日)、共通研修(各地区)(1日)、社会体験研修(1日)、選択研修(1日)
- (イ) 小・中学校教諭
- a 校内における研修(15日)

- b 校外における研修(10日)
共通研修(各地区)(1日)、教科指導研修(2泊3日)
生徒指導研修(各地区)(1日)、社会体験研修Ⅰ(2日)、選択研修(3日)

教育センター(2泊3日)

(ウ) 高等学校教諭

- a 校内における研修(15日)
- b 校外における研修(10日)
共通研修(1日)、生徒指導研修(1日)、教科指導研修Ⅰ(1日)、教科指導研修Ⅱ(2日)、社会体験研修Ⅰ(2日)、選択研修(3日)

(エ) 養護教諭(小・中・高・特別支援学校)

- a 校内研修(4日)
- b 校外研修(6日)
共通研修(1日)、宿泊研修(2泊3日)、社会体験研修Ⅰ(1日)、選択研修(1日)

エ 経験者研修Ⅲ

教務主任、学年主任等の中堅教員に対する学校管理運営上の諸問題の解決や、専門的な職能の向上を図る研修である。

(ア) 県立学校教諭

教育センター(2泊3日)

(2) 職能研修

新任の校長・教頭・教務主任に対しての職能研修Ⅰ及び学校の教育活動が円滑に展開できるよう担当教員の職責・職能に応じた研修を実施する職能研修Ⅱを実施した。

ア 職能研修Ⅰ

- (ア) 市町村公立小・中・特別支援学校新任校長研修会
教育センター(1泊2日)
- (イ) 県立学校新任校長研修会
教育センター(1泊2日)
- (ウ) 市町村公立小・中・特別支援学校新任教頭研修会
教育センター(1泊2日)
- (エ) 県立学校新任教頭研修会
教育センター(1泊2日)
- (オ) 新任教務主任研修会(小・中・高・特別支援学校)
各地区(1日)(関係各教育事務所または各中核市教育委員会による計画)

イ 職能研修Ⅱ

- (ア) 複式学級担当教員研修会
教育センター(1泊2日)
- (イ) 免許外教科担任教員研修会
教育センター(2泊3日)
- (ウ) 校長のためのマネジメント講座
教育センター(1泊2日)
- (エ) 教頭のためのマネジメント講座
教育センター(1泊2日)
- (オ) 小・中学校におけるキャリア教育実践講座
教育センター(1泊2日)
- (カ) 学校栄養職員専門研修講座

(3) 専門研修

個に即応した指導力の向上を図るために、情報教育、学校教育相談(基礎、実践、予防・開発的教育相談)、道徳教育実践(小・中)、各教科(小・中・高)、高等学校理科実習実技などの各講座を実施した。

2 研修講座

(1) 平成27年度研修講座数・受講者数

ア 基本研修

	基本研修				計
	初任研	経験Ⅰ	経験Ⅱ	経験Ⅲ	
講座数	6	5	6	1	18
(延べ数)	46	7	19	1	73
延べ受講者数	2,297	199	616	67	3,179

イ 職能研修

	職能研修		計
	職能研修Ⅰ	職能研修Ⅱ	
講座数	4	6	10
(延べ数)	4	7	11
延べ受講者数	199	323	522

ウ 専門研修

	専門研修		計
	専門研修Ⅱ		
講座数	43		43
(延べ数)	46		46
延べ受講者数	642		642

エ 総計

	基本研修	職能研修	専門研修	計
講座数	18	10	43	71
(延べ数)	73	11	46	130
延べ受講者数	3,179	522	642	4,343

(2) 平成27年度研修講座実施状況

ア 基本研修

講座名	会場	期日	受講者数
幼稚園	教育センター	8月18日	51
		～8月21日	
小学校	磐青教育センター	5月26日	91
		～5月28日	
中学校	磐青教育センター	8月5日	69
		～8月7日	
中学校	磐青教育センター	5月26日	69
		～5月28日	
		7月29日	

初任者研修		ンター	～7月31日	
	高等学校	教育センター	4月2日 ～4月3日 4月22日 ～4月24日 2月17日 ～2月19日	46
	養護教諭	磐青 教育センター	5月26日 ～5月28日 10月7日 ～10月9日	27
	栄養職員	磐青 教育センター	5月26日 ～5月28日 10月15日 ～10月17日	3
	地区別 研修	幼・小・ 中・高・ 栄・養 (34講座)	各地区 で実施	1,623
経験者研修Ⅰ	小学校	教育センター	6月9日 ～6月11日	44
	中学校	教育センター	10月14日 ～10月16日 10月19日 ～10月21日	38
	高等学校	教育センター	同上	93
	養護教諭	教育センター	9月2日 ～9月4日	20
	栄養職員	教育センター	7月23日 ～7月24日	7
	経験者研修Ⅱ	幼稚園	教育センター	6月3日 ～6月4日
小学校		教育センター	9月28日 ～9月30日	53
中学校		教育センター	9月2日 ～9月4日	45
高等学校		教育センター	4月15日 7月7日 ～7月8日 2月9日 ～2月10日	56
養護教諭		教育センター	7月29日 ～7月31日	13
地区別 研修		幼・小・中 ・高・養 (14講座)	各地区 で開催	311
経験者研修Ⅲ	県立学校	教育センター	10月28日 ～10月30日	67

イ 職能研修

講座名		期日	受講者数
職 能 研 修 Ⅰ	市町村公立小・中・特別支援 学校新任校長研修会	4月30日 ～5月1日	76
	県立学校新任校長研修会	5月7日 ～5月8日	12
	市町村公立小・中・特別支援 学校新任教頭研修会	5月18日 ～5月19日	92
	県立学校新任教頭研修会	5月11日 ～5月12日	19
	市町村公立小・中・特別支援 学校新任教務主任研修会	各教育事務 所の日程	95
	県立学校新任教務主任研修会	各教育事務 所の日程	30
職 能 研 修 Ⅱ	複式学級担当教員研修会	5月28日 ～5月29日	39
	免許外教科担任教員研修会	5月13日 ～5月15日	40
		5月20日 ～5月22日	45
	校長のためのマネジメント 講座	6月18日 ～6月19日	77
	教頭のためのマネジメント 講座	9月17日 ～9月18日	76
	小・中学校におけるキャリア 教育実践講座	9月10日 ～9月11日	39
学校栄養職員専門研修講座	9月7日 ～9月9日	7	

ウ 専門研修

講座名		期日	受講者
教 科	言語活動の充実を図る国語指 導力向上講座(小)	8月20日 ～8月21日	22
	単元を貫く言語活動を位置付 けた国語科の単元づくり講座	10月26日 ～10月27日	11
	社会科の見方や考え方をはぐ くむ社会科の授業づくり講座	6月16日 ～6月17日	5
	算数的活動を取り入れた授業 づくり講座	8月20日 ～8月21日	21
	科学的な見方や考え方を養う 理科授業づくり講座(小)	6月16日 ～6月17日	7
	実践事例に学ぶ図画工作科指 導法講座	6月29日	13
	小学校外国語活動講座	8月18日 ～8月19日	9
	言語活動の充実を図る国語指 導力向上講座(中)	8月3日 ～8月4日	13
	数学的活動を取り入れた授業 づくり講座	7月2日 ～7月3日	7
	科学的な見方や考え方を養う	8月3日	8

教	理科授業づくり講座 (中)	～8月4日	
	匠に学ぶものづくり講座	8月18日 ～8月19日	6
育	読解力・表現力の向上を図る 英語指導講座	9月14日 ～9月15日	7
	思考力・表現力の向上を図る 数学問題作成・研究講座	8月3日 ～8月4日	12
系	科学的な自然観をはぐくむ理 科観察・実験講座	9月14日 ～9月15日	15
	実習助手のための理科観察・ 実験講座	7月2日 ～7月3日	10
系	教科書を活用してコミュニケ ーション能力をはぐくむ英語 指導力向上講座	8月5日 ～8月6日	10
	授業改善に結び付く国語科の 評価問題作成・研究講座	7月2日 ～7月3日	11
系	国語科指導におけるPISA型読 解力研究講座	9月14日 ～9月15日	16
	思考力・判断力・表現力を高 める社会科・地歴・公民科実 践講座	8月18日 ～8月19日	14
系	資料活用能力を育成する社会 科・地理歴史科の授業づくり 講座	7月2日 ～7月3日	11
	資料の活用・データの分析 (統計)における数学の指導 力向上講座	10月26日 ～10月27日	10
系	創作(音楽づくり)指導の充 実を図る授業実践講座	10月1日 ～10月2日	14
	日本伝統音楽の授業づくり講 座	7月2日 ～7月3日	10
系	創造性をはぐくむ図画工作・ 美術の鑑賞指導法講座①	6月16日 8月24日	21
	創造性をはぐくむ美術の表現 指導法講座	11月12日 ～11月13日	17
系	発想と技法を学ぶ書道実技講 座	9月8日	10
	「体づくり運動」の趣旨を踏 まえた体育指導力向上講座	8月4日 ～8月5日	19
系	児童生徒の「わかる」「でき る」を引き出す体育授業力向 上講座	10月1日 ～10月2日	18
	家庭科を担当する先生のため の基礎基本講座	8月18日 ～8月19日	4
系	消費者教育の充実を図る家庭 科の授業づくり講座	11月12日 ～11月13日	2
	英語科の言語活動における指 導と評価実践講座	7月2日 ～7月3日	10
系	児童生徒理解に生かす学校教 育相談基礎講座	7月22日 ～7月23日	37

教育 相談 系	事例研究を中心に児童生徒理 解を深める学校教育相談実践 講座	7月1日 ～7月2日 10月8日 ～10月9日 2月15日 ～2月16日	42
	人間関係づくりに生かす予防 ・開発的教育相談講座	6月16日	32
情 報	校務処理に生かす表計算(関 数)講座	6月29日	31
	校務処理に生かす表計算(統 計分析)講座	7月22日	19
教 育 系	フラッシュ型教材を用いたIC T活用の授業実践講座	9月15日	17
	校内ネットワークの管理と運 用基礎講座	8月6日 ～8月7日	13
系	NetCommonsによるグループウ ェア構築講座	10月1日	24
	NetCommonsによる学校Webサ イト構築講座	6月16日 ～6月17日	24
教科 外 教 育 系	情報モラル教育指導者実践講 座	10月27日	18
	今だから聞きたい道徳教育の 実践講座	9月10日 ～9月11日	11
系	よりよい学級・学校をつくる 特別活動指導力向上講座	6月16日 ～6月17日	11

3 指導主事派遣等

平成27年度の指導主事派遣及び出前講座の概要は次のとおりである。カッコ内は昨年度比。「出前講座」での指導主事派遣人数は、指導主事派遣人数を含む。

指導主事派遣人数	251名(30名減)
(内訳) 小学校	89名(7名減)
中学校	47名(3名増)
高等学校	20名(7名減)
教育委員会等	53名(10名増)
各種教育団体等	42名(29名減)

「出前講座」での指導主事派遣人数 157名

(内訳) 小学校	55名
中学校	41名
高等学校	19名
教育委員会等	33名
各種教育団体等	9名

第4節 情報教育事業

1 研修講座の概要

公立小・中・高等学校・特別支援学校の情報教育に関する教員研修(専門研修)の概要は以下のとおりである。

(1) ネットワークを活用するための講座（小・中・高・特支）

- ア 校内ネットワークの管理と運用基礎講座
- イ NetCommonsによるグループウェア構築講座

(2) 授業実践講座（小・中・高・特支）

- ア フラッシュ型教材を用いたICT活用の授業実践講座
- イ 情報モラル教育指導者実践講座
- ウ 新学習指導要領に対応した共通教科「情報」の授業実践講座

(3) 校務の効率化を目指す講座（小・中・高・特支）

- ア 校務処理に生かす表計算（関数）講座
- イ 校務処理に生かす表計算（統計分析）講座

(4) 学校Webサイトに関する講座（高・特支）

- ア NetCommonsによる学校Webサイト構築講座

基本研修においては、国や県の情報教育の施策に基づき情報教育の意義や重要性を強調し、また、個人情報への扱いや情報セキュリティについても、その重要性・緊急性に言及した。

自主講座においては、6月6日に表計算入門講座を実施し、各地から16名の参加を得た。また、一般社団法人「福島県情報産業協会」と連携した、中学生対象の「子どものためのロボット・ワークショップ」は、8月22日に7組の中学生とその保護者、5組の小学生とその保護者の参加により実施した。

2 施設利用概況

基本研修の実践講座の各教科において、「教科指導におけるICT活用」を共通項目で指導するため、パソコンやプロジェクタ等ICT機器の活用機会やパソコン研修室の利用は多く、以下のとおりであった。

パソコン研修室利用状況

利用区分	講座数	利用日数	実人数	延べ人数
教育センター研修	47	73	604	896
講座	基本研修	16	33	138
	専門研修 (出前講座)	22	29	330
	職能研修	9	11	136
教育庁研修	20	29	407	624
合計	67	102	1,011	1,520

第5節 教育相談

教育相談チームでは、来所及び電話による教育相談を受けている。今年度の来所相談・電話相談の概要は、以下のとおりである。

1 対象別

来所相談件数・電話相談回数

※ 対象の区分は、誰についての相談内容かで分けたものである。来所相談日数は103日、電話相談日数は243日であった。

種別	対象							計
	件数	人数	回数	回数	回数	回数	回数	
来所相談	件数	0	19	6	36	3	2	66
	人数	0	29	9	44	3	2	87
電話相談	回数	1	124	177	83	63	147	595

2 区分別

来所相談件数・電話相談回数

※ 対象の区分で数値の高い「性格行動」には「不登校」の相談、「教育一般」には「いじめ」、「学校への不満」の相談が含まれる。

種別	対象							計
	件数	人数	回数	回数	回数	回数	回数	
来所相談	件数	4	46	0	0	10		66
	人数	4	64	0	0	13	6	87
電話相談	回数	2	89	4	30	209	261	595

3 地区別来所相談件数

県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	県外	計
15	17	11	13	0	7	3	0	66

4 月別相談件数・回数

種別	月												計	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
来所相談	件数	0	1	5	16	1	1	17	2	3	3	18	1	66
	人数	0	4	9	17	2	2	20	4	5	2	20	2	87
電話相談	回数	45	56	65	54	43	57	66	48	48	44	37	32	595

第6節 教育図書・資料事業

全国各教育研究機関から送付された研究紀要や資料及び県内各学校から寄せられた研究資料を収集、整理・保管し、レファレンスサービスを行っている。所の研究成果を普及するため、研究紀要や「所報ふくしま『窓』」を刊行した。

1 教育図書・教育資料の収集

教育図書購入冊数	40冊
寄贈教育図書等（VTRを含む、教科書は除く）	5冊
定期刊行図書購入冊数	28冊
研究紀要等寄贈冊数	367冊
恵贈定期刊行物数	37冊

2 教育資料の刊行

研究紀要

第45集

所報ふくしま「窓」

第169号～第170号

付記

平成16年度より、教育センターにおいて、指導が不適切である教員等に対して長期特別研修を開始し、平成20年度から「指導が不適切である教員等の取扱いに関する要綱」に基づき、指導改善研修を実施している。平成27年度は1名。

第13章 福島県養護教育センター

第1節 概要

昭和61年の開所以来、関係機関と連携協力しながら、教育相談、教職員の研修、調査・研究、図書・資料の収集と情報提供、広報・啓発等の事業を行ってきた。

今年度は、第6次福島県総合教育計画（改訂版）に基づき、早期からの教育的支援、小・中学校及び高等学校に在籍する発達障がいを含む特別な支援を必要とする児童生徒等への支援、特別支援学校の専門性の向上と特別支援教育におけるセンター的機能の充実に向けた支援、関係機関との連携等の充実に努めてきた。

1 教育相談事業

障がい等の心配のある乳幼児・児童生徒に関する教育相談機関として、本人、保護者（家族）、保育所・幼稚園、小・中学校及び高等学校、特別支援学校関係者、教育委員会等からの依頼に応じ、疑問や悩みを一緒に話し合い、特別支援教育の専門的観点からの相談を行った。相談者の心情に寄り添い、相談を通して、子どもへの適切な支援策や指導法について共に見つけだすようにした。また、面接、行動観察、必要に応じて心理検査等を行い、関係機関との連携を図りながら専門的・総合的観点からの相談を進めた。

センター相談での相談受理件数は271件（昨年度比98%）、延べ件数は687件（昨年度比90%）であった。障がい種別による相談実件数では、情緒障がい（発達障がいを含む）に関する相談が最も多く約70%を占めている。知的障がいに関する相談は約20%であり、合わせると実件数全体の90%以上を占める。相談者は、保護者、教員、保育士、関係機関等である。

その他の地域においても、学校等に出向き、支援を必要としている子どもに対し、適切な支援と指導が行えるよう必要な支援や助言を行った。学校等のニーズに応じ、ケース検討会や校内研修会等の開催や運営等への支援を行った。さらに、地域における教育相談機能の質的向上を図るため、学校等と保健福祉の関係機関、教育委員会、教育事務所、医療機関等との適切な連携を支援し、地域の支援体制の整備を進めた。

2 教職員研修事業

特別支援学校の基本研修においては、教職経験年数に応じて、基礎的・基本的な事項を中心とした研修や教員の専門的な知識・能力の深化を図る研修、教員として教育活動全般にわたる広い視野に立った研修等を実施した。また、小・中学校や高等学校、特別支援学校の教員を対象とする職能研修では、その職責に応じた資質・力量の向上を目指した研修を行った。さらに、専門研修の各講座では、特別な支援を必要とする幼児児童生徒の正しい理解や教育的な対応、授業の改善や充実につながる研修を行うとともに、最新の知見を取り入れた各種講座を設け実施した。

基本研修の受講者は初任者研修48名（6回）、経験者研修Ⅰ33名（1回）、経験者研修Ⅱ31名（2回）で、受講者総数は延べ383名であった。職能研修の受講者総数は延べ521名（特別支援学級等新任担当教員研修会97名、特別支援学級担当教員研修会33名、小

・中学校特別支援教育コーディネーター研修会119名、高等学校特別支援コーディネーター研修会96名、特別支援学校コーディネーター研修会25名、特別支援学校実習教諭等研修会18名、通級指導教室担当教員研修会62名）、そして、専門研修講座（17講座）の総受講者は500名であった。また、研修の機会を広く提供する公開講座（6講座）の聴講者総数は74名で、自主研修講座（2講座）の参加者総数は92名であった。

3 調査研究・教育研究事業

震災後の本県が当面している特別支援教育の今日的課題及び学校における教育実践上の具体的課題解決に向けて、以下の研究等を行った。

(1) 調査研究

「特別支援学校のセンター的機能の活用による『共に学ぶ』ための環境づくりを目指して」（二年度）～小・中学校に在籍する肢体不自由のある児童生徒の学習状況調査を踏まえて～

平成26年度「小・中学校に在籍する肢体不自由のある児童生徒の学習状況調査」の結果・分析を踏まえ、平成27年度は、肢体不自由のある児童生徒が通常の学級に在籍する小学校3校と特別支援学級に在籍する中学校1校で、特別支援学校と連携し、『共に学ぶ』ための環境づくりを目指して学習の充実や支援方法、支援体制づくり等を一緒に考え、取り組む実践研究を行った。

(2) 教育研究

「小・中学校におけるチームによる支援体制づくりと授業の充実」（二年度）

平成24・25年度は、プロジェクト研究Ⅰ「チームで行う特別支援学校の授業改善の在り方」とプロジェクト研究Ⅱ「子どもが共に学ぶ小学校（特別支援学級等）の授業づくりー交流及び共同学習の充実に向けてー」をテーマとして研究を進め、複数の教員によるチームでの授業づくりが児童生徒の学びの充実につながることで成果として得られた。しかし、児童生徒の学びの充実のための組織的な支援体制整備等については課題が残った。

教育研究では、授業研究会で児童生徒の学びに視点をあてながら、通常の学級と特別支援学級で組織する授業研究会や委員会での横のつながりを重視して進めてきた。これにより、ケース会議で児童生徒のニーズ等を検討することによるチーム支援の取組と児童生徒への一貫した支援ができることや児童生徒の特性の理解、多様なニーズや学び方の共有と授業づくりができることで、校内支援体制づくりと授業の充実が図られることが明らかになった。

4 教育図書・資料の収集・提供事業

本県特別支援教育の中心的施設としての機能の充実をめざして広く特別支援教育関係図書・資料の収集に努め、関係教職員等が活用できるよう、整備・充実を図った。

本年度も特別支援教育の指導に関する図書の充実と教育資料の収集、Webページによる紹介等を推進した。

なお、3月末日現在での特別支援教育関係図書の蔵書数は

6, 420冊、定期刊行物5種、教育資料数4, 230点である。

5 広報・啓発事業

特別支援教育に関する情報及び資料、並びに本センターの事業内容を広報誌や各種発行物として関係諸機関等に配付し、特別支援教育に対する啓発や理解推進を図った。併せて、事業内容を多くの方々に伝えるため、Webページでも情報提供に努めた。

6 情報教育事業

研修講座を中心に、障がいのある児童生徒の学習を支援するため、ICT等支援機器の活用に関する研修の企画運営を行った。FKSテレビ会議システムによる学習指導の支援を行った。

第2節 教育相談事業

1 相談対象

相談は、障がいのある、又はその心配のある乳幼児、児童生徒及びその保護者や関係者を対象として実施した。相談の種類は次のとおりである。

- 視覚にかかわる相談
- 聴覚にかかわる相談
- 病弱・虚弱にかかわる相談
- 言語にかかわる相談
- 知的発達にかかわる相談
- 肢体不自由にかかわる相談

<年齢・学校別相談件数>

年齢・学校		乳幼児(歳)		小学校(学年)						中学校(学年)			高等学校(学年)			一般 他	計
		0~4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3		
センター 相談	実件数	14	24	18	22	30	23	23	29	21	13	14	14	5	7	14	271
	延件数	22	48	41	58	84	66	41	82	91	25	42	28	8	25	26	687

<障がい種別相談件数>

障がい種		視覚 障がい	聴覚 障がい	知的 障がい	肢体 不自由	病弱 虚弱	言語 障がい	情緒 障がい	重複 障がい	その他	計
センター 相談	実件数	0	12	55	5	4	3	191	1	0	271
	延件数	0	23	136	9	12	4	502	1	0	687

<地区別相談件数>

地区	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	その他	計
延件数	146	342	75	58	4	27	19	16	687

第3節 教職員研修事業

受講者の資質、指導力、専門性の向上をめざし、講座内容の一層の充実を図った。

- ・専門研修講座を17講座設け、そのうち6講座を公開講座とし、受講者のニーズに応えるようにした。
- ・講座は講義を中心としながらも、演習や実技、協議等に重点を置いて構成し、研修内容・方法に工夫を加えた。研修を通して受講者が自らの課題に気付き、その解決に主体的

○重複した障がいにかかわる相談

○情緒等(LD、ADHD、高機能自閉症、アスペルガー症候群、自閉症、緘黙、不登校等)にかかわる相談

2 形態

(1) センター相談

電話での申込みにより、来所日時をあらかじめ調整し、相談者の来所による教育相談を行った。また、相談の内容によっては電話のみによる相談も行った。

(2) 要請を受けての相談

困難な事例や特に必要な場合には学校等に出向き、現地においての相談を行った。また小・中学校、高等学校から支援要請を受け、事例研究を通しての相談を行った。

3 現状と課題

特別支援教育の相談については、各学校において特別支援教育の校内委員会や教育相談・進路指導、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが組織として機能してきたと考える。本センターの教育相談については、そのような地域・学校の機能とどのように連携していくのかをさらに検討が必要である。

相談者からの主訴では、幼児については、就学に向けて多様な学びの場の情報提供が多く、小学生では、他者とのコミュニケーションや学習面についてが多い。小学校高学年からは、生活において不適應を起こし、「暴力」「不登校」についての相談が増加している。子どもの困難さの背景を探る必要から、関係者によるケース会議の開催が重要となっている。

に取り組むことができるように、話し合いの活動を多く取り入れ、具体的な方策に結び付くようにした。

- ・特別支援教育に関する県内外の専門家や各学校で先進的な実践をしている教員などを招へいして、新たな知見を広げたり、具体的な実践に触れたりする機会の充実を図った。
- ・調査研究や教育研究等の成果を基にして、特別支援教育に関する専門的知識・技能の習得とともに、真摯に実践に取り組む資質の向上に努めた。

1 教職員の研修講座

(1) 専門研修

講座名	期日及び期間	受講者数(人)
発達障がいのある教育Ⅰ 発達障がいのある幼児児童生徒の基礎的な理解と対応	7月31日	49
発達障がいのある教育Ⅱ 発達障がいのある児童生徒の理解を深めるケース検討	8月18日	16
特別支援教育の充実Ⅰ 障がいのある子どもを支える保護者との連携	10月8日	36
特別支援教育の充実Ⅱ 通常の学級における授業のユニバーサルデザイン	8月7日	23
特別支援教育の充実Ⅲ 心理教育的アセスメントを生かした授業づくり	10月15日	20
特別支援教育の充実Ⅳ 自閉症のある児童生徒の理解	9月29日～30日	12
特別支援教育の充実Ⅴ キャリア発達と社会参加	10月20日	27
特別支援教育の充実Ⅵ 特別支援学校における医療的ケアと授業の実際	7月22日	13
特別支援教育実践力アップⅠ 知的障がいのある児童生徒の授業充実(基礎編)	7月7日	35
特別支援教育実践力アップⅡ 知的障がいのある児童生徒の授業充実(各教科を合わせた指導編)	9月17日	30
特別支援教育実践力アップⅢ 特別支援学校における重度重複障がいのある児童生徒の授業充実(自立活動編)	7月9～10日	16
特別支援教育実践力アップⅣ 特別支援学校における授業づくりー目標と評価の一体化を考えるー	10月2日	19
特別支援教育実践力アップⅤ 学校における安全・防災教育とリスクコミュニケーション	10月22日	7
特別支援教育実践力アップⅥ インクルーシブ教育システムにおける合理的配慮と教材・支援機器の活用	8月20日 8月21日	37 69
特別支援教育実践力アップⅦ 自閉症・情緒障がい特別支援学級の授業づくりー特性の理解とニーズの把握ー	8月6日	33
特別支援教育実践力アップⅧ 特別支援学級の学級経営ー校内支援体制と授業づくりー	8月10日	22
幼児期から児童期への支援を継続する幼小連携	7月27日	36
計		500
(他に公開講座に74名、自主研修講座に92名が参加)		

(2) 基本研修

研修名	期日及び期間	受講者数(人)
特別支援学校初任者研修 一般研修	4月15日～16日	48
特別支援学校初任者研修 カウンセリング研修	6月17日～18日	48
特別支援学校初任者研修 宿泊一次研修	7月28日～30日	48
特別支援学校初任者研修 教育課程別研修	9月16日	48
特別支援学校初任者研修 学部別研修	11月11日	48
特別支援学校初任者研修 宿泊二次研修	2月17日～19日	48
特別支援学校経験者研修Ⅰ 基本研修	6月30日～7月2日	33
特別支援学校経験者研修Ⅱ 共通研修	6月23日～25日	31
特別支援学校経験者研修Ⅱ 教科(領域)指導研修	1月21日～22日	31
計		383

(3) 職能研修

研修名	期日及び期間	受講者数(人)
特別支援学級等新任担当教員研修会	(共通) 4月22日～23日	97
	(地区別) 11月	71
特別支援学級担当教員研修会	(地区別) 9月	33
小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会	(地区別) 6月	119
高等学校特別支援コーディネーター研修会	(地区別) 5月	96
特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会	5月15日	25
特別支援学校実習教諭等研修会	7月14日	18
通級指導教室担当教員研修会	7月16日	62
計		521

第4節 調査研究・教育研究事業

1 調査研究

「特別支援学校のセンター的機能の活用による『共に学ぶ』ための環境づくりを目指して」(二年度)

～小・中学校に在籍する肢体不自由のある児童生徒の学習状況調査を踏まえて～

【研究の概要と構想】

平成27年度は、一年次の調査結果を踏まえ、小・中学校側からの支援ニーズを明らかにし、地域の教育資源としての特別支援学校のセンター的機能の活用・促進を図るとともに、基礎的環境整備の充実及び合理的配慮の提供による共に学ぶための環境づくりの実践について研究を行った。

研究にあたり、特別支援学校の2校(郡山養護学校、平養護学校)、二次調査の該当となった児童生徒が在籍している小学校3校(川俣町立川俣小学校、いわき市立郷ヶ丘小学校、いわき市立小名浜第二小学校)、中学校1校(福島市立福島第二中学校)と所管する教育委員会が連携して、肢体不自由のある児童生徒の学習の充実や支援の方法、支援体制づくり等を一緒に考え、共に取り組む実践を行った。

また、連携していくための大切な視点として、本人の持っている力を最大限に発揮するための配慮や支援と一緒に考えていくと同時に、学習の充実を目指した連携の在り方を模索し、各地域で連携のシステムを構築する。さらに、これらの具体的な実践事例を蓄積していくことで、市町村教育委員会や学校が行っている基礎的環境整備の充実や合理的配慮の提供に関する実践事例を整理する。その上で、本センターがこれらを好事例として提供していくことで、各市町村の教育委員会や小・中学校が、「共に学ぶ」環境づくりの充実が図られ、各地域(市町村)を単位としたインクルーシブ教育システム構築及び推進につながるのではないかと考えた。

【研究の内容】

(1) 特別支援学校のセンター的機能と小・中学校との連携

郡山養護学校は、通常の学級に在籍する川俣小学校と肢体不自由特別支援学級が設置されている福島第二中学校と連携を図り、平養護学校は、通常の学級に在籍する郷ヶ丘小学校と小名浜第二小学校との連携を図りながら研究に取り組んだ。

センター的機能の発揮にあたっては、一年次の実績と結果分析を活かして小・中学校のニーズに応じた支援が重要であると考え、その観点を次のように示した。

ア 「気づきやすい困難さ」の一つである、学習を支える配慮や支援

イ 「気づきにくい困難さ」の一つである、ものの見え方や捉えにくさへの配慮や支援

ウ センター的機能に求めるニーズの一つである、学習内容の変更・調整に関する相談と実践

(2) 研究協力校の実践(小・中学校のニーズを踏まえて)

ア 川俣小学校

センター的機能を活用して、筆記の困難さを軽減

しながら学習活動の充実を図る取組と学習内容の変更・調整の取組

イ 郷ヶ丘小学校

学習内容の変更・調整に関する体育(ポートボール)の取組

ウ 小名浜第二小学校

これまでの配慮や支援の工夫や共に学ぶ上で大切にしている学級経営についての取組

エ 福島第二中学校

これまでの配慮や支援の工夫や環境整備等の紹介及び外部専門家の意見を参考にしながら実施している自立活動や体育についての取組

【研究のまとめ】

実践により、各取組では、以下の点が重要であると明らかになった。

(1) 基礎的環境整備と合理的配慮の提供について

ア 一人一人の障がいの状態や教育的ニーズを踏まえ、児童生徒の持てる力を発揮するための検討。

イ 環境の変化や個人の成長、障がいの状態等の変化に伴う見直し。

ウ 対象となる児童生徒と周りの児童生徒同士が互いに違いを認め合える日頃の学級づくり。

(2) 特別支援学校(肢体不自由)のセンター的機能について

ア 一部の組織が行うセンター的機能ではなく、学校組織全体として取り組む体制と日々の授業実践との関連を踏まえた支援の提案ができる体制づくり。

イ 肢体不自由のある児童生徒の障がいの状態に合わせた代表的な配慮や支援のポイントとその背景をわかりやすくまとめて、地域に発信し双方向性が図られる仕組みづくり。

(3) 地域(市町村)のインクルーシブ教育システム構築と推進に向けて

ア 支援を受ける側と支援をする側という関係性にとらわれず、一緒に考え、一緒に取り組む関係性を大切にする。

イ 特別支援学校のセンター的機能を活用する小・中学校等は、外部の専門家の助言等を踏まえ、支援体制の中で何を活用して、肢体不自由のある児童生徒の学びを充実させていけるかを学校自身が考え、整理していくこと。

ウ 各地域における連携の在り方を模索し、各市町村におけるインクルーシブ教育システムを主体的に構築・推進していくこと。

2 教育研究

「小・中学校におけるチームによる支援体制づくりと授業の充実」(二年度)

【研究の内容】

児童生徒にかかわる教員が柔軟なチームを編成して、授業研究とケース会議を行うことを提案した。さらに、授業研究会では児童生徒の学びに視点をあてる。また、ケース会議で児童生徒の特性や教育的ニーズ、学び方を検討するために、以下の方法で行うことを提案した。

- 児童生徒の学ぶ姿に視点をあてる授業研究会
 - ・事前研究・事中研究・事後研究
- 児童生徒の姿から特性や教育的ニーズ、学び方を検討するケース会議
 - ・背景要因・教育的ニーズ・支援方法・共通理解

【研究校での取組】

(1) A校での取組

現職教育における特別支援教育部会での授業研究会では、授業者の悩みの解決や改善に生かされにくかった。そこで、授業研究会で児童の学ぶ姿に焦点をあてて考えること、さらに、知的障がいと自閉症・情緒障がい特別支援学級の横のつながりも加えて取り組んだ。

(2) 成果

ア 児童の学ぶ姿から、授業の評価ができ、児童生徒の特性や授業の手立てについて具体的に話し合うことができた。

イ 個別の指導計画に記入し、一貫した指導と支援を行うことにつながった。

ウ 通常の学級担任が授業を参観するなどの広がりが見られた。

(3) B校での取組

特別支援学級の児童の目標や指導と支援内容について、かかわる教員で共有する機会を持つことがほとんどなかった。そこで、授業研究会やケース会の在り方、通常の学級教員がケース会に参加し、児童の姿の特性等を検討することに取り組んだ。

(4) 成果

ア 児童の実態把握が進み、授業の目標と手立てを明確にすることができた

イ 通常の学級担任が、授業で特別支援学級の児童の目標を連携して考えることにつながった。

ウ 通級による指導担当者とも連携を深めることができた。

【研究の成果と課題】

(1) 成果

ア 柔軟なチーム体制で、児童生徒の学ぶ姿に視点をあてた授業研究会と児童生徒の姿から特性と教育的ニーズなどを検討するケース会議を行うことによって、授業の充実が図られると同時に、教員同士の児童生徒への意識の共有が図られ、組織の横のつながりによる取組となり、校内支援体制の充実につながる。

イ 特別支援学級の児童生徒をチームで理解する過程において、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒の学びの充実が意識されるようになった。組織の横の広まりによって、その他の組織の横のつながりが図られ、さらなる授業と校内支援体制の充実につながった。

(2) 課題

この成果を得るためには、次の3点が必要である。

ア 柔軟なチームの編成

イ 学びの主体である児童生徒に視点をあてること

ウ チーム力の向上

現状としては、この3点において、全ての学校の校内体制が充実しているとは限らない。今後、この研究で得られ

た成果をさらに広めていくために、この3点について専門研修、学校支援等で意識的に取り入れ、地域のインクルーシブ教育システム推進を図っていく。

第5節 教育図書・資料の収集・提供事業

1 教育図書・資料の収集・整理

(1) 教育図書の収集・整理

教育図書については、特別支援教育に関する専門図書の充実に努め、本年度71冊の新規購入及び受贈の結果、蔵書数は6,420冊になった。その種類は、障がい児の教育関係図書が1,308冊、その他の図書が5,112冊である。障がい児関係図書については、利用しやすいように障がい別(視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱、言語、情緒、重複障がい等)に配架している。

(2) 教育関係定期刊行物の収集・整理

教育関係定期刊行物は5種類購入し、いつでも閲覧できるように分類・配架した。

(3) 教育資料の収集・整理

全国の関係機関や県内の教育機関の協力により、研究紀要・研究報告書・ハンドブック等の収集に努め、本年度収集した215冊を分類・配架した。県内の資料についても、学校別に分類・配架した。

第6節 広報・啓発事業

1 所報「特別支援教育」(68号)

(1) 内容

ア 巻頭言

平成27年度第30回福島県養護教育センター研究発表会記念講演から

抄録「共生社会とインクルーシブ教育システムの構築」

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

理事長 宍戸 和成 氏

イ 特集「共生社会の形成に向けて」

その1 ～これから～

これからの養護教育センターの役割

福島県養護教育センター 所長 片寄 一

その2 ～これまで～

ー過去10年の歩みー

第九代 所長 志賀 力 氏

第十代 所長 吉田 雄二 氏

第十一代 所長 圓谷 美智子 氏

第十二代 所長 眞部 知子 氏

その3 ～つながり～

ー各機関等との協働と連携ー

福島県教育庁特別支援教育課 課長 上妻 弘 氏

福島県特別支援教育振興会 会長 柳沼 穹壹 氏

福島県総合療育センター 所長 武田 浩一郎 氏

その4 ～とりくみ～

「これからの共生社会とインクルーシブ教育システムの構築に向けて」～一人一人の学びを支えるチームによる支援体制づくりと授業の充実から～

(教育研究(二年度)から)

「小・中学校におけるチームによる支援体制づくりと授業の充実」

〈調査研究（二年度）から〉

「共に学ぶ授業づくりを目指した先生たちとの出会いから」～子どもの可能性と最大限の力を発揮する取組～

ウ インフォメーション

（ア）平成27年度教育相談・研修講座実施状況

（イ）研修講座から

（ウ）特別支援学校研修支援から

(2) 規格、ページ等

ア 規格 A4判

イ ページ数16ページ

ウ Webで公開

エ 各関係機関へ配付

2 研究紀要「第29号」

(1) 内容

ア 調査研究

「特別支援学校のセンター的機能の活用による『共に学ぶ』ための環境づくりを目指して」（第二年度）

～平成26年度 小・中学校に在籍する肢体不自由のある児童生徒の学習状況調査を踏まえて～

イ 教育研究

「小・中学校におけるチームによる支援体制づくりと授業の充実」（第二年度）

ウ 授業研究支援事業報告

「チームで行う特別支援学校の授業改善の在り方」

(2) 規格、ページ、部数

ア 規格 A4判

イ ページ数 72ページ

ウ Webで公開

エ 各関係機関へ配付

の運営管理を行った。また、Webで本センターの事業内容を多くの方々に伝えるため、研修や研究の広報充実に努めた。

広報・啓発事業担当者と協力し、「養護教育センターだより」を、Webサイトに掲載し、適宜更新を行った。

○本センターWebサイトアクセス件数 13,173件

（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

第7節 情報教育事業

1 ICT活用支援

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所と連携し、専門研修講座において、「インクルーシブ教育システム構築における合理的配慮と教材・支援機器の活用」を実施し、講義や教材・支援機器・ICT等の活用についての演習を行い、特別支援教育における教材・支援機器等の活用促進と実践力や専門性の向上を図った。

また、初任者研修の基本研修において、情報モラルに関する講義を実施した。

FKSテレビ会議システムの活用においては、特別支援学校と連携し、テレビ会議システムを活用した授業や訪問学級の児童生徒の行事参加を支援した。

2 情報機器活用

研修講座を中心に、支援機器に関する情報提供や作成支援及び貸出を行った。

3 情報教育ネットワークとWebサイトの充実

特別支援教育に関する情報発信をするために、Webサイト

第14章 福島県立図書館

第1節 概要

1 運営の概要

福島県立図書館は、平成17年10月に策定した『福島県立図書館「学びの環境づくり」』に基づき、県民の生涯にわたる多様な学習活動に応えるため、資料及び情報の計画的な収集を図るとともに市町村立図書館等との連携のもとに効果的な図書館活動の展開に努め、県民文化の向上に寄与することを目的とした事業を行っている。

さらに、平成25年度に策定した『福島県立図書館アクションプラン（第2次）』（平成25年度～29年度）の4つの方針・9つの行動に基づき読書環境、学習環境の整備やサービスの充実に努めた。

また、平成27年2月に策定された「第三次福島県子ども読書活動推進計画」（平成27年度～31年度）に基づき、計画実現のための事業推進にも取り組んでいる。

平成27年度の主要イベントとして、「入館者700万人達成記念イベント（10月28日）」「読書週間事業（午後9時まで開館時間を延長：10月31日）」を行った。

『福島県立図書館アクションプラン（第2次）』 4つの方針・9つの行動

- I 東日本大震災等により失われた読書環境、学習環境を取り戻します。
 - 1 東日本大震災等の記録をのこします。
 - 2 支援体制の基盤を整備します。
 - 3 読書環境、学習環境の整備を通じて「ふるさと再生」を支援します。
- II 県民一人ひとりのお役に立てるよう図書館環境を整えます。
 - 1 県民が必要とする情報を提供します。
 - 2 県民が利用しやすい環境を整備します。
 - 3 県民と共に歩む図書館を目指します。
- III 福島県の子どものための読書活動を推進します。
 - 1 「第二次福島県子ども読書活動推進計画」に基づき、県立図書館の役割を果たします。※現「第三次」
- IV 「図書館の図書館」として、図書館の振興を図ります。
 - 1 図書館・公民館の活動を支援します。
 - 2 高等教育機関、文化施設等関係機関との連携を図ります。

2 図書館協議会

(1) 図書館協議会委員名

[任期：平成27年10月21日～平成29年10月20日]

区分	氏名	所属団体等（主な役職名等）
学識経験者	千葉 養伍	福島大学人間発達文化学類（学類長・教授）
	土田 節子	いわき明星大学教養学部地域教養学科（非常勤講師）
	鎌田 喜之	株式会社福島民報社（編集局次長・地域交流室次長・販売局次長）
	加藤 卓哉	福島民友新聞社株式会社（取締役 論説委員長）
	山崎 由美	公募
	横山 秀人	公募
家庭教育	矢吹 貴美	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会
社会教育	渡辺 峯子	福島県公共図書館協会（須賀川市岩瀬図書館長）
学校教育関係	杉内 聡恵	福島県高等学校長協会（福島県立本宮高等学校長）
	田代 新一	福島県中学校長会（猪苗代町立吾妻中学校長）

（会長）千葉 養伍 （副会長）土田 節子

(2) 会議

開催日 12月4日 於：県立図書館

議題等

- ・平成27年度図書館利用実績（4月～10月分）について
- ・「福島県立図書館アクションプラン（第2次）」の取組状況について

第2節 資料の収集・整理

「福島県立図書館資料収集基本要綱」及び「福島県立図書館アクションプラン（第2次）」を踏まえ、県民からの資料要求に対応するために、各分野の基本資料を収集し迅速な整理に努めた。また、平成24年度に開設した「東日本大震災福島県復興ライブラリー」の整備充実に継続して行った。

1 図書館資料の収集

(1) 一般資料の収集

新刊・既刊を問わず、資料的価値や利用的価値の高い資料の収集を行った。官公庁刊物は主要なものを収集、年鑑白書や叢書等の継続資料については厳選し計画的な収集に努めた。文学作品は、受賞作品・候補作品や書評等で評価の高い作品を収集した。重点収集として、東日本大震災に関する資料をはじめ、調査相談に対応するために必要な各種参考図書、大活字本等のユニバーサルデザインに対応した資料の収集・整理に努めた。

(2) 地域資料の収集

福島県に関する資料の収集に努め、福島県人著作の収集は話題性等を考慮し購入した。非売品等の資料については出版した個人・団体・機関等へ寄贈を依頼し収集した。

行政資料についても各自自治体・部局へ資料収集の依頼を行い、特に県職員全員へメールで要請を行うなど積極的な収集に努め、当館HPの「行政資料一覧」を更新した。購入冊数 931冊に対して寄贈された冊数は3,800冊を越えた。

震災関連資料及び東京電力福島第一原子力発電所事故に関する資料に関しては、HP上やチラシ等で寄贈のお願いを掲載し、約1,500冊を収集し地域資料の約21%に及んだ。重点収集とした歴史の変遷を辿る地形図は県下を網羅できず継続購入とした。

(3) 地域視聴覚資料の収集

震災関連資料及び合唱・吹奏楽関係の資料を主に収集した。地元新聞のCD-ROMなど保存価値の高いものは継続的に収集し提供している。

(4) 児童資料・研究資料の収集

ア 児童資料

市町村のモデルとして運営している「こどものへや」用児童資料として、子どもの読書活動推進に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

重点収集として、東日本大震災に関する資料やユニバーサルデザインや多文化に対応した資料の収集に努めた。

イ 研究資料

「児童図書研究室」用研究資料として、児童図書に関する調査研究及び子どもの読書活動支援に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

また、読み聞かせ活動支援のための大型絵本や研究用児童資料としての主要な児童図書賞受賞作品も収集した。

重点収集として、子育て支援に役立つ資料の収集に努めた。

(5) 逐次刊行物の収集と整備

雑誌は、資料価値を重視し、専門的かつ高度な調査相談に対応できる資料を幅広く継続収集した。

新聞、雑誌の震災・原発事故関連記事についても収集に努めた。

(6) 市町村支援用資料の収集

図書館未設置の自治体や、県立図書館の利用環境が十分ではない過疎・中山間地域、また、東日本大震災に伴う被災地地域の読書活動に役立たせるため、新刊書を中心に、

話題性の高い文芸書や生活に密着した情報が掲載された実用書・時事関係資料等を収集した。

逐次刊行物受入状況

(単位：種)

区分	購入	寄贈・他	計
新聞	25	58	83
雑誌	236	847	1,083
官報等	3	0	3
合計	264	905	1,169

資料受入状況

(単位：冊)

区分	購入	寄贈・他	計
一般資料	4,223	1,675	5,898
地域・行政資料	931	4,567	5,498
児童図書	2,118	355	2,473
児童図書研究書	435	37	472
市町村支援資料	675	1,406	2,081
合計	8,382	8,040	16,422

資料受入状況・推移

(単位：冊)

平成25年度	平成26年度	平成27年度
24,521	22,755	16,422

(7) 特殊文庫の受入

福島県出身の詩人で、文芸評論家や児童文学者としても活躍した長田弘氏が平成27年5月3日に逝去された。その後、遺族より長田氏の蔵書類約8,500冊を当館に寄贈したいとの申し出があり、当館の特殊文庫「長田弘文庫」として受け入れることとした。11月から資料整理作業を開始し、文庫開設は平成28年度内の予定。

分類（区分）	26年度累計	27年度増加	27年度除籍	利用替え	27年度累計	
一般資料	0 総記	31,496	493	7	2	31,984
	1 哲学	25,266	255	9	0	25,512
	2 歴史	62,755	772	12	14	63,529
	3 社会科学	102,084	1,699	61	5	103,727
	4 自然科学	35,191	536	19	0	35,708
	5 工学・工業	33,957	570	37	11	34,501
	6 産業	27,360	357	10	1	27,708
	7 芸術	39,191	505	29	15	39,682
	8 語学	9,263	65	10	1	9,319
	9 文学	90,722	646	27	34	91,375
計	457,285	5,898	221	83	463,045	
地域資料	0 総記	16,423	442	1	3	16,867
	1 哲学	2,574	39	2	1	2,612
	2 歴史	35,025	714	3	22	35,758
	3 社会科学	59,823	1,981	8	3	61,799
	4 自然科学	8,874	321	0	3	9,198
	5 工学・工業	12,888	477	4	3	13,364
	6 産業	20,375	539	2	4	20,916
	7 芸術	15,381	383	2	3	15,765
	8 語学	831	32	0	2	865
	9 文学	26,457	570	1	27	27,053
計	198,651	5,498	23	71	204,197	
児童資料	研究資料	34,742	472	18	51	35,247
	児童図書	105,680	2,473	245	816	108,724
	計	140,422	2,945	263	867	143,971
逐次刊行物資料	雑誌	149,203	5,105	142	0	154,166
	新聞合本	14,890	160	0	0	15,050
	新聞記事ファイル	3,823	4	0	0	3,827
	計	167,916	5,269	142	0	173,043
特殊文庫	61,753	0	0	0	61,753	
館内用計	1,026,027	19,610	649	1,021	1,046,009	
市町村支援計	65,224	2,081	4,811	-1,021	61,473	
合計	1,091,251	21,691	5,460	0	1,107,482	

第3節 館内奉仕

開館日は288日、入館者は162,594人、1日平均565人の利用があった。震災の影響で平成23年度に大きく落ち込んだ入館者数だが、震災前（平成22年度）の7割程度に回復してきている。しかし大きな伸びはない。

入館者数

開館日数	288日
入館者数	162,594人
（1日平均）	565人

入館者数・推移

（単位：人）

平成25年度	平成26年度	平成27年度
174,911	167,097	162,594

1 調査相談（レファレンス）

県内外から、日常生活の中での質問、仕事上の調査研究等、多種多様な調査相談を受け、所蔵資料及び関係機関の協力を得て回答している。問い合わせは、口頭、電話、文書、FAX、電子メールにて受け付けている。総件数は昨年度より減少したが電話、文書、電子メール等の非来館での受け付けが増えている。

また、当館のホームページについては、トップページや「蔵書検索」へのアクセスが増加した。特に県内の図書館の所蔵資料を検索する「横断検索」の利用が大きく伸びた。

調査相談件数

（単位：件）

	一般・地域・逐刊	児童資料	小計
口頭	7,396	2,801	10,197
電話	1,415	106	1,521
文書	41	3	44
FAX	36	0	36
電子メール	128	2	130
合計	9,016	2,912	11,928

調査相談件数・推移

(単位：件)

平成25年度	平成26年度	平成27年度
11,585	12,133	11,928

ホームページアクセス件数

(単位：件)

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度
トップページ	130,593	135,196	148,481
蔵書検索	312,662	433,057	439,340
横断検索	322,396	237,057	399,524
デジタルライブラリー	6,410	5,069	4,684
こどものへや	3,842	4,052	3,489
県内図書館(業務用)	15,717	13,408	—
利用案内	14,717	13,247	14,128

2 館内サービス

「福島県立図書館アクションプラン(第2次)」を踏まえ、図書館資料の提供や各種講座の実施を通じ、地域の復興及び暮らしに役立つ情報の提供に努めた。

また、5月から新聞記事閲覧システムにおいて、来館により『福島民報縮刷版』[昭和51(1976)年10月-平成13(2001)年12月]の「県内政治」の記事見出しに含まれるキーワードでの記事検索ができるようになった。

さらに、12月より、当館のホームページから全ての所蔵資料(貸出可能なもの)の予約ができる新Web予約サービスを開始した。

3 館外個人貸出

登録者数は14,141人、貸出冊数は140,598冊、のべ人数は38,426人で、昨年度より若干減少した。

直接自宅へ資料が届く資料宅配サービス(有料)の利用は、32件、冊数は219冊で、昨年度より増加した。

館外個人貸出状況

分類	冊数	構成比(%)	分類	冊数	構成比(%)
総記	1,745	1.2	語学	1,299	0.9
哲学・宗教	4,210	3.0	文学	19,687	14.0
歴史・地理	7,002	5.0	地域資料	7,402	5.3
社会科学	11,141	8.0	新聞雑誌	8,609	6.1
自然科学	7,152	5.1	小計	86,458	61.5
工学・工業	6,635	4.7	児童	54,140	38.5
産業	3,411	2.4	合計	140,598	100.0
芸術	8,165	5.8			

館外個人貸出状況・推移

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度
冊数	130,545	141,191	140,598
のべ人数	36,274	39,591	38,426

館外個人貸出登録者数(登録有効期間3年)(単位：人)

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	合計
新規	3,285	3,577	3,145	10,007
更新者	1,452	1,260	1,422	4,134
合計	4,737	4,837	4,567	14,141

館外個人貸出登録者数・推移 (単位：人)

平成25年度	平成26年度	平成27年度
12,773	14,595	14,141

4 特別貸出

特別貸出とは、類縁機関での展示等のための貸出を行う制度で、資料・冊数・期間などの面で配慮している。

特別貸出状況

貸出先	件数	冊数
官公庁関係	9	351
図書館その他	54	356
会社・事業所	13	134
報道関係	0	0
学校	38	48
計	114	889

特別貸出状況・推移 (単位：冊)

平成25年度	平成26年度	平成27年度
586	1,134	889

5 一般資料

県民が必要とする多種多様な情報を迅速に提供するように資料整理等に努めた。

また、時事や季節、話題性のあるテーマで展示を行い資料の紹介に努めた。時事展示として、図書館振興月間に「“図書館”に出会おう」、夏休みの親子向けに「子どもたちの教科書を見てみよう!」、読書週間に「福島県立図書館30年間のジャンル別・貸出ランキング」、成人の日に合わせて若者に薦める「BOOKS FOR YOUTH～今しかみられないもの～」など7回実施。ミニ展示としては「ガーデニング～花のある生活～」 「気持ちを伝えよう～手紙の本～」 「本で世界を巡る」 「納涼怪談」 「戦後70年戦艦や戦闘機で振り返る第二次世界大戦」 「実は奥深い! 図録を読んでみませんか?」 「雪山の風景」、福島県立博物館移動展に合わせた「恐竜とその時代の生き物たち」など15回実施した。

さらに、パスファインダー「本の森への道しるべ」を作成し、効率かつ有効的な情報の提供に努めた。

6 地域資料

地域資料については、県内外の個人・団体などから様々な調査相談が寄せられていることから、迅速な対応を心がけ、的確な回答を導き出せるよう調査に取り組んだ。

企画や講座に併せ、ふくしまデスティネーションキャンペーン時には「出かけてみよう！まだまた知らない 福島の魅力」、「尾瀬に親しむ」「福島民報出版文化賞の38年」「禅と文、そして福島を生きる作家 玄侑宗久」「須賀川の銅版画画家 亜欧堂田善」などのミニ展示を12回実施し、パスファインダー「本の森への道しるべ」を6本作成し、資料の紹介に努めた。

10月31日に実施した読書週間事業「秋の夜長を図書館で」では特別展示として『阿武隈川水路図』全長13mの全容を初めて公開した。

また、書棚の見出しを整え、利用されやすい工夫を行った。

館外への貸出は例年と変わらず歴史地理部門が多く、地域資料の貸出冊数の36%を占め、東日本大震災関連資料は地域資料の貸出冊数の14%に留まった。貸出冊数全体は震災前平成22年度並であった。

貴重資料の撮影及び掲載許可の申請は20件程あり、デジタル化は平成8年度より継続して実施しているが、今年度より所蔵する『郷土誌』の作成を開始した。

7 逐次刊行物

東日本大震災・原発事故から4年が経過し、復興を記録する『地元新聞にみる原発関連見出し一覧』を平成27年12月31日現在までに更新し、ホームページに掲載した。

『福島県公立図書館 現行購入雑誌保存年限および保存館、現行受入新聞一覧』について、避難している大熊町、富岡町、双葉町、浪江町の4町以外から回答を得て発行した。

ミニ展示・軽読書コーナー展示については、毎月展示替えを行い「時代の流れをふりかえる」「おいしいものを食べて元気になろう！」など話題性や季節に配慮した。

パスファインダー「本の森への道しるべ」は、新規で2本作成し、2本の改訂を行った。

8 児童サービス

子どもの読書活動推進のために各種の事業を行った。

(1) こどものへや・児童図書研究室の運営

資料の貸出や調査相談をはじめ、「絵本コーナー」や「新着図書コーナー」などで推奨する資料の展示を行った。また、「子ども読書活動支援コーナー」では、読書活動関係者に対して情報提供を行った。

(2) おはなしかいの開催

乳幼児と保護者を対象とした「ちいさなおはなしかい」（毎月第2木曜日）や児童を対象に以下の「おはなしかい」を開催した。

・「夏の図書館ミステリーツアー」（8月18日～21日）

小学校の夏休みに合わせて、図書館の書庫探検を行い併せて、怖い話のおはなしかいを実施した。

・スペシャルクリスマス in 図書館（12月19日）

美術館の学芸員によるクリスマスの工作と、クリスマスの絵本の紹介と読み聞かせを行い、近づくクリスマスの気分を高めるおはなしかいを開催した。

・こども向け科学講座「火山の仕組み-吾妻山はいきている」と山のおはなしかい（12月23日）

磐梯山噴火記念館副館長の佐藤公氏による講座と火山に関する資料を紹介するブックトークを実施した。

・「ミステリーツアー～クリスマスバージョン～」

（12月24日）

小学校の冬休みに合わせて、図書館の書庫探検を行うクリスマスに関する資料や絵本の紹介をした。

(3) 図書館見学の受け入れ

学校等の要望に応え、施設見学や利用案内、読み聞かせ等を行い、図書館や本に親しむ機会の提供に努めた。

(4) 情報誌の発行

思春期の子どものための読書案内誌『LITTLE BIG』や児童サービス関連情報誌『児童図書研究ニュース』を発行し読書普及のための情報提供に努めた。

(5) 「子育て支援コーナー」の運営

子育てに役立つ図書や雑誌の展示や関係各課からのパンフレット配布等、情報提供に努めた。また、親子で楽しむ「わらべうた」「昔話」「料理」などのテーマ展示を行った。

(6) 子ども読書と科学のコラボ事業

科学のテーマ展示「天気」「自由研究」「新幹線」「宇宙」などを実施し資料を紹介した。

9 東日本大震災福島県復興ライブラリー

平成24年度より「東日本大震災福島県復興ライブラリー」を開設。常設コーナーとして、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の関連資料を中心に、地震、津波、体験記、放射線、除染、復興、防災、エネルギー問題等の資料を配架し、利用に供している。所蔵数は、平成28年3月11日現在で9,457タイトルとなっており、一覧リストを作成しHPにアップすると共に関係機関へ配布した。また、資料紹介として「ブックガイド」を刊行し利用促進を図った。

さらに、「巡回する福島県復興ライブラリー」として、資料やパネル等を出張展示用セットとして編成し活用を図っている。今年度は、茨城県筑西市立中央図書館（平成27年4月1日～5月10日）、栃木県宇都宮市立中央図書館（平成28年2月3日～3月14日）、東京都杉並区立成田図書館（平成28年3月4日～4月6日）の3箇所出張展示が開催された。

10 特殊文庫・貴重資料紹介コーナー

平成28年2月より新設。壁面にて各特殊文庫概要紹介パネルの掲示をはじめ、資料の一部配架や展示ケースにて貴重資料

料の展示などを行い、当館所蔵の特殊文庫や貴重資料の紹介に努めた。

1.1 複写サービス

コイン式コピー機は1台、レーザープリンター1台、カラープリンター1台、マイクロプリンター2台での対応となっている。資料媒体を変化させて保存することから、形態にあわせてそれぞれのプリンターで対応している。

複写利用状況

区 分	件 数	枚 数
自・他館処理	4,736	51,994

複写利用状況・推移 (単位：枚)

平成25年度	平成26年度	平成27年度
59,778	55,808	51,994

1.2 来館者用インターネットコーナー

来館者が利用できるインターネット端末を一般用に6台、こどものへやに1台設置し、情報提供の便宜を図っている。

また、当館職員による「はじめてのインターネット使い方講座」を2回にわたって実施し、インターネット利用の啓発を図った。

インターネット利用状況

区 分	人 数
一 般	6,658
児 童	52
合 計	6,710

インターネット利用状況・推移 (単位：人)

平成25年度	平成26年度	平成27年度
5,699	6,790	6,710

1.3 展示

(1) 展示コーナー企画展示

当館入り口の展示コーナーにおいて、テーマに沿った資料の展示を行った。

ア 「受賞児童図書展」(4月3日～5月6日)

平成26年度、国際アンデルセン賞作家賞を受賞した上橋菜穂子さんを中心に、世界の児童文学賞「国際アンデルセン賞」「カーネギー賞」「ケイト・グリーンウェイ賞」「コールデコット賞」「ニューベリー賞」を紹介し過去10年の受賞図書を展示した。

併せて、各賞を紹介するパスファインダーを作成し配布した。

イ 「山への誘い」(5月8日～6月3日)

新緑鮮やかな季節、山の魅力を伝える資料を3つのキーワードに区分して展示し紹介した。「見る」では

山の写真集など、「読む」では山岳雑誌や山岳小説など、「登る」では山のガイドブックや福島県内の山開きに関する情報誌などの資料を展示した。

併せてパスファインダーを作成し配布した。

ウ まほろん移動展「会津盆地と弥生時代」

(6月5日～7月1日)

公益財団法人福島県文化振興財団との共催事業として、平成27年2月7日～5月10日にかけて、福島県文化財センター白河館で開催した「まほろん収蔵資料展磐越自動車道の遺跡－会津盆地の弥生時代－」の移動展を行った。ふるさとにどのように文化が伝わり展開したのかをテーマに、会津盆地の遺跡から発掘された資料を展示し、会津盆地の弥生時代を紹介した。

併せて、福島県文化財センター白河館の専門学芸員・佐藤啓氏による関連講座「会津盆地の弥生時代－その展開と背景－(第1回ふくしまを知る連続講座)」を実施した。

エ 「復刻雑誌展」(7月3日～8月5日)

『青鞥』『明星』など教科書でも採り上げられた雑誌を中心に、当館で所蔵している“復刻された雑誌”を紹介した。

雑誌に関する理解と認識を深め、図書館資料としての雑誌の利活用促進を図ることを目的とした。

オ 「戦後70年展 本や雑誌でたどる文化史」

(8月7日～9月2日)

戦後70年の節目に、戦後の復興期から経済成長を遂げて今日に至るまでの世の中の流れについて、「文化」を中心に、それぞれの時代の関連資料を展示し、併せてその時代に読まれていた作品などを紹介した。

カ 「浜通りの記録をたどる資料展」

(9月4日～9月30日)

震災から4年半が経過することに合わせ、当館が連綿と収集・保存してきた、震災前までの浜通り地方に関する資料を展示し、描かれた歴史や文化を通して、地域に対する意識と図書館の役割を再認識する機会とした。

キ 福島県歴史資料館移動展「花と温泉」

(10月2日～11月4日)

公益財団法人福島県文化振興財団との共催事業として、7月18日～9月27日にかけて、福島県歴史資料館で開催した「収蔵資料展花と温泉－かおりと湯けむりの記憶－」の移動展を行った。福島の魅力の一つである「花」と「温泉」の史料を展示した。併せて、福島県歴史資料館の学芸員・小野孝太郎氏による講座「史料に見るふくしまの温泉(第2回ふくしまを知る連続講座)」を実施した。

ク ふれあい歴史館移動展「福島の引札」

(11月6日～12月2日)

福島市教育委員会との共催事業として、福島市ふれあい歴史館が所蔵する引札の展示を行った。江戸時代から大正末期にかけて、福島市内の商店等が配布した色鮮やかな引札約40点を展示した。

併せて、福島市史編纂室の柴田俊彰氏による講座「引札が語る商業のまち福島の歴史（第3回ふくしまを知る連続講座）」を実施した。

ケ 福島県立博物館移動展「藤井康文恐竜イラスト展」
(12月4日～平成28年1月6日)

福島県立博物館との共催事業として、同館が所蔵する、イラストレーター・藤井康文氏の恐竜イラスト原画11点を展示した。

コ 「鉄道の歴史」(平成28年1月8日～2月16日)

平成28年3月の北海道新幹線の開業に合わせて、日本の近代化の象徴でもあった「鉄道の歴史」をたどり、貴重な蒸気機関車の写真集や古い時刻表、鉄道関連の本や雑誌・新聞記事などを展示した。また、人気のイベント列車や全国の駅弁など、鉄道をより楽しむための資料も紹介した。

サ 「東日本大震災5年展～あのときそしてこれから～」(平成28年2月27日～4月6日)

東日本大震災から5年。震災を振り返り、忘れずに未来へ伝えていくため、震災記録の写真パネル(日本図書館協会より借用)や、当館所蔵の「東日本大震災福島県復興ライブラリー」の図書等を展示した。また、復興に向けた活動を掲載した図書や写真集、新聞などを紹介し、これからのを考える機会とした。

(2) ロビー展示

情報発信の一環としてロビー通路壁面を利用し、県民に作品発表の場を提供した。

ア 「折り紙手紙展」(4月3日～5月6日)

イ 「手漉き和紙に魅せられて」(5月8日～6月3日)

ウ 「水彩画展」(6月5日～7月1日)

エ 「第4回〈えがく会〉展」(7月3日～8月5日)

オ 「みんな知ってる絵本の絵展」(8月7日～9月2日)

カ 「「海柘榴(つばき)展」Re」(9月4日～9月30日)

キ 「「横井薫 鉛筆画」展」(10月2日～11月4日)

ク 「第7回網代澄亭と一門による刻字展」

(11月6日～12月2日)

ケ 「まなべゆきお 油絵近作展」

(12月4日～平成28年1月6日)

コ 「くらしに花を～アティシヤルワラーの魅力～」

(平成28年1月8日～2月16日)

サ 「翡翠」(平成28年2月25日～4月6日)

(3) 「梶井宮御流福島支部春季華道展」

長年ボランティアで当館に生け花を提供して下さっている方々による華道展を開催した。

期間 平成28年3月4日～3月6日

場所 エントランスホール及びセンターホール

(4) 「私のおすすめ本 メッセージカードコンテスト」展

県内の子どもたちが、感動や勇気をもたらした本を1枚のカードで紹介するコンテストの優秀作品25点と、該当図書を展示した。

期間 12月24日～平成28年1月24日

場所 エントランスホール

14 普及事業

県内公共図書館及び公民館図書室等、図書館関係施設職員の資質の向上を図るため、講演会や講座を実施することで、幅広い知識の習得を目指し、また、一般県民に対しても開放し、図書館としての情報発信を行い、地域文化の進展に寄与した。

(1) 文化講演会

ア 期 日 9月25日

イ 会 場 福島市アクティブシニアセンターA・O・Z
(アオウゼ)

ウ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館
図書室職等 52名

エ 演 題 「図書館は、国境をこえる

～カンボジアから東北へ～」

オ 講 師 (公社)シャンティ国際ボランティア会
広報課長兼東日本大震災図書館事業
アドバイザー 鎌倉幸子 氏

(2) 福島を知るための連続講座

第1回「会津盆地の弥生時代―その展開と背景―」

6月21日

講師 福島県文化財センター白河館 佐藤啓 氏

参加者21名

第2回「史料にみるふくしまの温泉」 10月18日

講師 福島県歴史資料館 小野孝太郎 氏

参加者40名

第3回「引札が語る商業のまち福島の歴史」

11月15日

講師 福島市史編纂室 柴田俊彰 氏

参加者62名

第4回「京都清水寺と大笹生斗蔵観音」 12月6日

講師 福島県考古学会顧問 鈴木啓 氏

参加者91名

第5回「亜細亜と欧州を結ぶ～須賀川の銅版画家亜欧堂田

善が見た世界～」 平成28年1月24日

講師 福島県立美術館 坂本篤史 氏

参加者53名

(3) 入館者700万人達成記念事業

昭和59年に現在地で開館してからの入館者数が700万人に達したことを記念して、記念事業を行った。

「達成記念イベント」

10月18日、入館者700万人目の利用者へ記念品(図書

カード)と花束を贈呈した。

「記念品の配布」

当館所蔵の錦絵をポストカードにした記念品を作成し、来館者へ配布した。絵柄は福島県の3地方にちなんだものとした。

浜通り：『諸国名所百選 奥州相馬妙見祭馬追の図』

中通り：『福島県岩代国福島町信夫橋眞景ノ図』

会津：『府県名所図会 福島県岩代猪苗代湖』

「記念展示」

開館当時、100万人、200万人・・・600万人達成の年を象徴する資料の展示を行った。

(4) 読書週間事業

読書週間にあわせて、開館時間を延長した事業を実施した。「秋の夜長を図書館で～特別な夕べ～」

開催日 10月31日

開館時間 9:30～21:00 (通常17:30まで)

「特別展示」

貴重資料「阿武隈川水路図」の展示と福島市史編纂室の守谷早苗氏によるギャラリートークを行った。

「語りを楽しむ夕べ」

ふくしま民話茶屋の会の方による昔話の語りを開催した。

「図書館見学」

公開図書室や書庫の案内を行った。

た。

(4) 文化施設連携事業

県内文化施設間の連携を図ることを目的に、福島県文化財センター白河館の事業(まほろん冬まつり)に参加し、移動図書館を県民に開放するとともに、延べ68冊の資料を貸出した。

移動図書館「あづま号」貸出状況・推移 (単位:冊数)

平成25年度	平成26年度	平成27年度
23,376	25,589	26,330

2 市町村援助のための支援貸出

大規模な図書館事業を行う市町村に対して、長期にわたり一括大量に資料の貸出しを行い、図書館・公民館図書室の読書・学習環境を支援した。

平成27年度の利用状況は次のとおりである。

本宮市教育委員会	2,447冊
喜多方市教育委員会	477冊
川俣町教育委員会	490冊
西郷村教育委員会	608冊
平田村教育委員会	549冊
西会津町教育委員会	300冊
合計	4,871冊

第4節 館外奉仕

1 移動図書館「あづま号」

以下の目的により巡回事業を実施し、連携協力を図るとともに、合計26,330冊の資料を貸出した。

(1) 図書館未設置町村支援

図書館未設置町村における図書館活動の促進を図ることを目的に、資料の貸出しと公民館図書室等の運営相談を行った。19自治体に巡回し、延べ21,639冊の資料を貸出した。

(2) 避難自治体支援事業

東日本大震災等の影響により避難を余儀なくされ、図書館等の運営が困難な6自治体に対し、読書環境を改善することを目的に巡回し資料の貸出しを行った。

該当自治体が設置する、仮設校及び仮設住宅等を巡回対象とし、仮設校に対しては、楡葉町・大熊町・葛尾村・飯館村の4自治体の幼稚園、小・中学校を延べ12回巡回し、2,101冊の貸出しを行った。その他、葛尾村の仮設住宅及び川内村公民館、浪江町の仮設図書館に対し、1,585冊を貸出した。

(3) 特別支援学校読書活動支援事業

日常的に図書館や読書施設、書店等の利用が困難な子どもたちの読書環境の向上を目的に、西郷養護学校と富岡養護学校の2校を巡回し、延べ927冊の資料を貸出し

3 福島県立図書館資料の譲与

再活用が十分見込まれる資料を、県内高等学校に対し譲与し、学校図書館蔵書の充実を支援した。

平成27年度の利用状況は次のとおりである。

県立ふたば未来学園高等学校	592冊
県立相馬東高等学校	79冊
県立光南高等学校	30冊
合計	701冊

また、更なる活用を図るため、高等学校・図書館・公民館としていた譲与対象枠を外した「図書リサイクル会」を実施し、小学校・保育園を中心とした県内41の団体に対し、4,110冊の資料を提供した。

4 学校図書館活動支援貸出

県内高等学校及び県立特別支援学校の図書館活動の充実を図るために、長期にわたり一括大量に図書の貸出しを行い、学校図書館読書・学習環境を支援した。

平成27年度は、県立ふたば未来学園高等学校に対し、1,500冊の資料を貸出した。

5 学校図書館活動支援セット貸出

県内の児童・生徒の学びの環境づくりを支援するため、県内の高等学校および特別支援学校、小・中学校等に対して、

その図書館活動の充実を図ることを目的に、118テーマ（延べ277セット）を編成し貸出を行った。

27年度の利用状況は、16団体に対し63セット（2,769冊）を貸出した。

6 広報資料の発行

(1) 館報「あづま」

新館移転後の入館者700万人達成を主たる記事構成とし、第65巻（通巻269号）を11月26日に発行した。

(2) 平成27年版福島県公共図書館・公民館図書室実態調査報告書（データ版）

図書館活動の振興に資するため、昭和54年度から、県内公共図書館・公民館図書室の実態調査を実施し、報告書としてまとめ、県立図書館ホームページに掲載している。

主な調査結果であるが、4月1日現在、市町村図書館と公民館図書室の合計蔵書冊数は6,429,455冊で、県民1人当たり3.36冊（前年度3.23冊）、年間増加冊数は421,454冊である。

また、平成26年度中の貸出図書冊数は、6,867,451冊（県民1人当たり3.58冊）であり、前年度と比べると総冊数では、178,448冊の増である。

(3) 福島県郷土資料情報

第56号を発行。貴重郷土資料探照は企画展示に併せ『磐城郡村誌』『宇多郡村誌』『石城郡誌』など浜通りの郡村誌・郡誌・郷土誌を紹介し、連載記事としては福島の児童文学者・福島県関係書誌の紹介をまとめた。

第5節 図書館協力

1 相互協力と遠隔地返却

協力貸出（他館との資料の貸借）サービス、遠隔地返却（当館資料を他館に返却する）サービスを行っている。

前年と比べて利用は減少した。

相互貸借状況

区分	県内		県外		合計	
	件数	冊数	件数	冊数	件数	冊数
貸出	1,003	4,769	448	701	1,451	5,470
借用	129	231	86	138	215	369
小計	1,132	5,000	534	839	1,666	5,839

相互貸借状況・推移 (単位：冊)

平成25年度	平成26年度	平成27年度
5,981	6,652	5,839

遠隔地返却冊数・推移（利用者が来館し、直接貸出しを受けた資料を県内公立図書館に返却した冊数） (単位：冊)

平成25年度	平成26年度	平成27年度
5,788	6,205	5,924

2 図書館協力車事業

県内市町村図書館などの運営を支援するため、各館を定期的に巡回し、情報の収集と提供、運営に関する相談を行った。また、協力貸出（資料の貸借）などの資料の搬送支援を行った。平成27年度は、7コースを編成し、26自治体と2高等教育機関に対し巡回した。

3 県内図書館職員研修会

県内図書館職員の資質向上と専門的知識の涵養を図るため、毎年行っている。

(1) 福島県図書館・公民館図書室職員等初任者研修会

- ア テーマ 「図書館サービスの基本」
- イ 期 日 5月27日
- ウ 会 場 福島市中央学習センター
- エ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 88名
- オ 講 師 県立図書館職員

(2) 福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会

- ア テーマ 「レファレンスサービスとコミュニケーション ～演習を交えて～」
- イ 期 日 11月23日
- ウ 会 場 県立図書館
- エ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 46名
- オ 講 師 多摩市立関戸図書館長 阿部 明美 氏

(3) 福島県内図書館初任者職員実務研修

- ア 期 日 6月17日～19日
- ウ 会 場 県立図書館
- エ 参加者 県内図書館職員等 4名
- オ 講 師 桜の聖母短期大学講師 木川田 朱美 氏
県立図書館職員

4 第13回福島県図書館研究集会

図書館業務及び読書活動推進に関わる実務的な業務研究会を行うとともに、情報交換や協議を行い図書館活動の振興を図ることを目的に実施している。

- ア テーマ 「見つめ直す図書館の姿
～出版文化の変化を視点として～」
- イ 期 日 10月30日
- ウ 会 場 白河市立図書館
- エ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 42名

オ 内容

①講演

- ・テーマ 「図書館を取り巻く現状と
取り組むべき課題
～出版流通の問題も踏まえて～」
- ・講師 元日本図書館協会事務局長 松岡 要 氏

②シンポジウム

- ・テーマ 「地域文化を支える図書館とは」
- ・パネラー 元日本図書館協会事務局長
松岡 要 氏
白河市立図書館 館長 田中 伸哉 氏
南相馬市立中央図書館 司書
高橋 将人 氏
- ・司会 県立図書館 専門司書 吉田 和紀

5 子どもの本がつなぐスマイルプロジェクト

東日本大震災で被災した子どもたちや親たちが、本とのふれあいを通して心を癒やすことを目的に、読み聞かせなどを行うフェスティバルを、平成26度より開催している。

プロジェクト実施に併せ、子どもたちに出会って欲しい絵本を紹介したブックリスト「絵本はともだち～あかちゃんと絵本を～」 「本はともだち～子どもと楽しむせかいのむかしばなし～」を作成配布した。

(1) 「絵本はともだち」

- ア 期 日 7月25日
- イ 会 場 南相馬市立中央図書館（南相馬市民情報交流センター）
- ウ 参加者 子どもと保護者・保育従事者・読書ボランティア・その他関係者等 80名

エ 内容

①講演

- ・テーマ 「親子で楽しむおはなしの世界」
- ・講師 幼児教育専門家 藤田 浩子 氏

②おはなしかい等

- ・実演者 新地町図書館ボランティア「スイミー」

(2) 「本はともだち」

- ア 期 日 11月3日
- イ 会 場 会津若松市生涯学習総合センター
(会津稽古堂)
- ウ 参加者 子どもと保護者・学校・保育関係者・読書ボランティア・その他 152名

エ 内容

①講演

- ・テーマ 「おはなしや本の世界を楽しもう」
- ・講師 浦安市教育委員会 主査 伊藤明美 氏

②おはなしかい等

- ・実演者 浦安市教育委員会 主査 伊藤明美 氏

6 県内大学図書館間との連携

県内の大学図書館及び公共図書館間における、「図書館資料の相互貸借」「複写」「参考業務」及び「一般社会人への共通利用証発行」等の協力体制を推進するため、“福島県内大学図書館連絡協議会”の公共図書館唯一の加盟館として、「福島県内大学図書館間相互利用制度」の維持に努めた。また、平成27年度は年度幹事館として、状況に照らした相互協力体制維持のため、その連絡調整に努めた。

同協議会には、県立図書館の他、県内20の市町村立図書館が参加館として参加している。参加している図書館は、福島市立図書館、二本松市立二本松図書館、郡山市中央図書館、須賀川市図書館、白河市立図書館、会津若松市立会津図書館、喜多方市立図書館、相馬市図書館、南相馬市立中央図書館、いわき市立いわき総合図書館、田村市図書館、小野町ふるさと文化の館、三春町民図書館、鏡石町図書館、矢吹町図書館、双葉町図書館、大熊町図書館、新地町図書館、浪江町図書館、本宮市立しらさわ夢図書館である。

さらに、福島大学附属図書館、及び、福島県立医科大学附属学術情報センター図書館とは、相互協力のための「ふくふくネット」を締結し、それに基づき活動を行った。

第15章 福島県立美術館

第1節 概要

1984年に開館した福島県立美術館は、さまざまなテーマに基づく展覧会、創作や芸術鑑賞のための各種講座等の事業を実施している。また、文化財としての美術作品の収集保存、美術や地域の芸術運動に関する調査研究を継続的に実施している。これらの活動を基盤に、美術の情報センターとしての機能を担っている。

当年度の美術館活動の概要は以下のとおりである。

1 美術館運営協議会

(1) 委員

- 山口 功 福島県中学校教育研究会美術専門部
(平成 25.1.1 ~)
- 番匠あつみ 福島県高等学校教育研究会美術工芸部会会員
(平成 27.1.1 ~)
- 遠藤俊博 公益財団法人福島県文化振興財団理事長
(平成 25.1.1 ~)
- 坂本節子 福島県家庭教育インストラクターいわきの会事務局長
(平成 25.1.1 ~)
- 酒井昌之 福島県美術協会会長
(平成 19.1.1 ~)
- 本保 晃 日本放送協会福島放送局長
(平成 27.10.17 ~)
- 星眞智子 西会津国際芸術村事務局長
(平成 27.1.1 ~)
- 清水眞砂 世田谷美術館教育普及課長兼分館長
(平成 27.1.1 ~)
- 齋藤美保子 郡山女子大学短期大学部教授
(平成 27.1.1 ~)
- 貝沼幹夫 福島県立美術館友会の会副会長
(平成 25.1.1 ~)

(2) 協議会の開催

- ア 期日 平成 28 年 2 月 25 日(木)
- イ 内容 ・運営協議会会長及び副会長の選出
・平成 27 年度事業実績の概要
・平成 28 年度事業計画案の概要
・県立美術館の運営等

2 他館等との連携

県内外の博物館施設および全国組織等との連携を図り運営・事業等に関する情報交換や研修等を実施した。

- 加盟団体 ・全国美術館会議 (理事)
・日本博物館協会 (会員)
・日本博物館協会東北支部 (監事)
・東北地区博物館協会 (監事)
・福島県博物館連絡協議会 (理事)

第2節 美術品の収集・保存

優れた美術作品鑑賞の機会を提供し、文化財を保存継承するために、コレクション(収蔵作品)の収集活動を継続的に行っている(ただし平成 22 年度以降、作品購入実績はない)。

今年度は作品 219 点および美術資料 15 件を寄贈により収蔵した。

1 収蔵作品点数(平成 28 年 3 月 31 日現在)

海外作品	450 点	
日本画	319 点	
洋画	803 点	
版画	1,143 点	
立体	129 点	
工芸	154 点	
書	37 点	
素描・下絵	197 点	
写真	410 点	
計	3,642 点	美術資料 44 件

2 収集評価委員会

(1) 委員

- 原田 光 岩手県立美術館長
(平成 23.12.1 ~)
- 村田眞宏 豊田市美術館長
(平成 23.12.1 ~)
- 荒屋鋪透 元ポーラ美術館長
(平成 23.12.1 ~)
- 三上満良 宮城県美術館副館長
(平成 23.12.1 ~)
- 佐々木吉晴 いわき市立美術館長
(平成 23.12.1 ~)

(2) 委員会の開催

- ア 期日 平成 28 年 2 月 10 日(火)
- イ 内容 ・平成 26 年度収集作品の報告
・平成 27 年度収集候補作品について

3 平成 27 年度収蔵作品

(1) 美術作品及び美術資料の収集

海外作品	ヤコブ・アガム	1 点
	アレキサンダー・コルダー	1 点
	ジャン・カルトン	1 点
	ロベール・クーチュリエ	1 点
	ヴェナンツォ・クロチェッティ	1 点
	シャルル・デスピオ	4 点
	ペリクレ・ファッツィーニ	1 点

	エミリオ・グレコ	2点	
	マリノ・マリーニ	1点	
	ヘンリー・ムーア	1点	
	オーギュスト・ロダン	3点	
国内：日本画	朝倉 摂	8点	
国内：洋画	鎌田正蔵	77点	
	川島 清	1点	
	佐藤忠良	7点	
	原 裕治	1点	
	舟越道子	1点	
	渡部 武	5点	
国内：素描・下絵			
	朝倉 摂	24点	
	鎌田正蔵	13点	
	笹戸千津子	4点	
	佐藤忠良	10点	
	舟越保武	1点	
国内：版画	草間彌生	1点	
	小磯良平	20点	
	佐藤忠良	10点	
	藤田嗣治	1点	
	吉川静子	1点	
国内・立体	吾妻兼治郎	2点	
	岩野勇三	1点	
	掛井五郎	1点	
	木内 克	2点	
	桜井祐一	1点	
	笹戸千津子	2点	
	佐藤忠良	1点	
	澄川喜一	1点	
	高田博厚	1点	
	流 政之	1点	
	西山勇三	1点	
	舟越保武	2点	
国内：工芸	木村芳雨	1点	
国内：資料	石原コレクション関係資料	4件	
	大嶋陽三関係資料	6件	
	鎌田正蔵関係資料	2件	
	川妻さち子関係資料	3件	
	計 219点 美術資料 15件		

(2) 図書資料の収集 (平成 28 年 1 月 31 日現在)

収蔵図書数 56,444 冊

4 保存修復

美術品の状態を維持回復し、美術品の保管・展示の環境を良好に保つために、計画的に美術品の修復や館内の保存環境調査を実施している。

(1) 彫刻作品の清掃と状態点検の実施

ア 時期 平成 28 年 3 月 5 日～7 日

イ 内容 エントランス、ロビーの彫刻作品の清掃と状態点検等

(2) 美術作品の修復

今年度は元永定正《作品 1》、斎藤義重《作品 13》、大山忠作《室内》の修復を実施した。

(3) 敷地内の放射線測定

ア 時期 毎月 1 回、計 12 回測定

イ 場所 美術館内および敷地内 計 45 か所

※虫菌害モニタリング調査は長期休館のため実施しなかった。

第 3 節 展示事業

1 常設展

収蔵および寄託の美術作品を展示している。美術の多様な領域や数多くの作家を紹介するとともに、作品の状態の保全に配慮して、年 4 回 (版画は年 8 回) 展示替えを行っている。

(1) コレクション展Ⅳ

ア 会期 平成 27 年 1 月 6 日 (火)～4 月 5 日 (日)

イ 主な内容

- ・没後 50 年 須田きょう中：《篝火》《枯山水石組》など
- ・院展の日本画：福王寺法林《バドガオンの月》など
- ・生誕 100 年 野地正記：《スダマティ》など
- ・100 年前の関根正二：《死を思う日》《大樹》《裸婦》など
- ・河野保雄コレクション：麻生三郎、竹久夢二など
- ・海外作品：ワイエス、ベン・シャーン、ルオーなど
- ・斎藤清とエルンスト

(2) 移動美術館

当館所蔵作品の一部を、県内の文化施設で公開展示する事業で、開催館との協働でテーマ、作品選定から実務までを行う。

今年度は長期休館にともない県内 4 会場で開催している。

ア ふるさと会津の人と四季 福島県立美術館名品展

(ア) 会期 平成 27 年 5 月 2 日 (土)～6 月 21 日 (日)

(イ) 会場 福島県立博物館 企画展示室

(会津若松市城東町 1-25)

(ウ) 展示数 61 点

(エ) 主催 福島県立美術館、福島県立博物館

(オ) 観覧料 一般・大学生 270(210)円、高校生以下無料

※()内は 20 名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 5,992 名

(キ) 概要

豊かな自然に囲まれ悠久の時を刻んできた会津地方には美術を育む風土が脈々と息づいており、日本画では湯田玉水、坂内青嵐、酒井三良ら、水彩画では相田直彦、春日部たすく、渡部菊二らなど、個性あふれる画家たちを輩出した。なかでも会津坂下町出身の斎藤清は、会津の風景を独自の造形感覚で表現し、戦後日本を代表する版画家となっている。本展ではこれら奥深い会津文化の魅力を、会津出身・ゆかりの画家たちの名品約 60 点により振り返った。

- (ク) 関連事業
- a ギャラリートーク
- (a) 期日 5月2日(土)
解説 早川博明(当館館長) 参加者 53名
- (b) 期日 5月16日(土)
解説 坂本篤史(当館副主任学芸員)、
白木ゆう美(当館学芸員)
参加者 44名
- (c) 期日 6月21日(日)
解説 堀 宜雄(当館専門学芸員) 参加者 42名
- b 公開対談「喜多方美術倶楽部をめぐって」
期日 6月6日(土)
解説 後藤 學氏(喜多方市美術館長)、
増淵鏡子(当館主任学芸員) 参加者 60名

イ 美術史を彩る名画の旅 福島県立美術館名品展

- (ア) 会期 平成27年10月16日(金)～11月23日(月・祝)
- (イ) 会場 須賀川市立博物館(須賀川市池上町6)
- (ウ) 展示数 68点
- (エ) 主催 須賀川市立博物館、福島県立美術館
- (オ) 観覧料 大人200(150)円、大学・高校生100(70)円、
中学生以下・65歳以上は無料

※()内は20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 5,128名

(キ) 概要

モネ、ピサロ、ルノワール、ワイエス、ベン・シャーンなどのフランス、アメリカ絵画から、関根正二、岸田劉生、安井曾太郎、速水御舟、村上華岳らの日本近代絵画まで、美術の教科書や画集を彩ってきた35名の巨匠たちの作品約70点を通して、当館コレクションの魅力に迫った。

- (ク) 関連事業
- a ギャラリートーク
- (a) 期日 10月17日(土)
解説 早川博明(当館館長) 参加者 70名
- (b) 期日 11月14日(土)
解説 坂本篤史(当館副主任学芸員)
参加者 40名
- b 視覚障がい者のための鑑賞ワークショップ
期日 11月22日(日)
解説 真下弥生氏(ルーテル学院大学非常勤講師)、
半田こずえ氏(明治学院大学非常勤講師)
参加者 20名

ウ ふるさとが誇る美術家たち 福島県立美術館名品展

- (ア) 会期 平成28年1月19日(火)～2月21日(日)
- (イ) 会場 大山忠作美術館、市民ギャラリー
(二本松市本町2-3-1 二本松市市民交流センター3F)
- (ウ) 展示数 44点
- (エ) 主催 福島県立美術館、二本松市教育委員会

(オ) 観覧料 大人 410(300)円、高校生以下 200(150)円
※()内は20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 1,041名

(キ) 概要

二本松市合併10周年を記念し、日本画科・大山忠作をはじめ、橋本高昇、橋本朝秀、橋本堅太郎、荻生天泉や石川良風、古川盛雄など二本松ゆかりの作家たちの作品を紹介。併せて、角田磐谷や斎藤清による福島の風景を描いた作品を紹介した。

(ク) ギャラリートーク

a 期日 1月23日(土)

解説 早川博明(当館館長) 参加者 50名

b 期日 2月6日(土)

解説 荒木康子(当館専門学芸員)、

白木ゆう美(当館学芸員) 参加者 50名

2 企画展

平成26年度会期から継続となった企画展示1回を開催した。

(1) 飛驒の円空 千光寺とその周辺の足跡

ア 会期 平成27年1月27日(火)～4月5日(日)

イ 分野 仏像

ウ 展示数 43点

エ 主催など

主催 飛驒の円空展開催実行委員会(福島県立美術館、
福島民友新聞社、飛驒千光寺)

協力 東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロ
モーション、高山市、高山市教育委員会

後援 福島市、福島市教育委員会、福島県市長会、福島
県町村会、福島県仏教会、福島県商工会議所連合
会、福島県商工会連合会、福島中央テレビ、ふく
しまFM、TeNYテレビ新潟、ミヤギテレビ、RAB
青森放送、テレビ岩手、ABS秋田放送

特別協賛 こころネットグループ、JAグループ福島

協賛 富士通、(公財)JKA

オ 観覧料 一般1,000(800)円、大学生900(800)円、高校
生以下無料 ※()内は前売および20名以上の団体料金

カ 観覧者数 6,659名(総観覧者数35,615名)

キ 概要

江戸時代前期、美濃国(現在の岐阜県)に生まれた僧、
円空(1632-1695)は、近畿から北海道まで諸国を巡っ
て造仏修行に励み、各地に5,000体以上の仏像を残して
いる。今回は円空ゆかりの飛驒・千光寺所蔵の「両面宿
儼坐像」「歓喜天立像」をはじめ、岐阜県高山市所在の
円空仏を展示した。なお本展は平成25年春に東京国立
博物館で開催された特別展を巡回展示したものである。

ク 関連事業

関連展示「円空さんに手紙を書こう 応募作品展」

展示期間 3月14日(土)～4月5日(日)

会場 美術館エントランスホール

第4節 調査研究事業

1 調査研究

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施している。

今年度は県内の美術品調査と、第二次世界大戦後に活躍した作家の調査を重点的に行った。

第5節 普及事業

美術をより深く知る喜びを得る機会を提供する事業として、さまざまな講座を開催している。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、学校と連携しての出張講座等を行っている。

1 館内解説

学校や公民館その他の団体での鑑賞者のために、鑑賞前に学芸員が美術館の概要、鑑賞のマナー、代表的な収蔵作品の解説、常設展示や企画展示の概要等のガイダンスを行っている。

今年度（平成27年4月1日～5日）の団体総数は9団体294人である。

2 実技教室

実技教室は、広く県民各層の美術に関する関心をふまえ、美術創作と鑑賞の理解を深める一助とする目的で、各種プログラムを実施している。今年度は長期休館にともない福島市内の施設を会場として開催した。

(1) 実技講座

ア 「創作のための人体クロッキー」

期日 平成27年9月27日(土)、10月3日(土)、4日(日)

講師 上田耕造氏（画家、アトリエ21主宰）

会場 福島県文化センター1階会議室

参加者 5名

イ 「西洋の古典画法：モザイクの制作」

期日 平成28年2月13日(土)、20日(土)、21日(日)

講師 森 敏美氏（東北生活文化大学教授）

会場 福島市A・O・Z（アオウゼ）大活動室4

参加者 7名

(2) 技法講座

ア 「西洋古典絵画に見るデッサンの画材と技法」

期日 平成27年6月27日(土)、28日(日)

会場 福島市A・O・Z（アオウゼ）大活動室4

講師 三浦明範氏（武蔵野美術大学教授）

参加者 9名

イ 「～ボックスアート～ふしぎな世界の入り口」

期日 平成28年1月30日(土)、31日(日)

会場 福島市A・O・Z（アオウゼ）大活動室4

講師 酒井賢司氏（イラストレーター、グラフィックデザイナー） 参加者 14名

(3) 親と子の美術教室

ア 「親子で作ろう！カラフルクレヨン」

期日 平成27年5月5日(火・祝)

会場 福島市A・O・Z（アオウゼ）大活動室4

講師 小原典子氏（美術家）

参加者 小学生の親子5組10名

イ 「親子でつくろう！アートなスイーツ」

期日 平成27年8月29日(土)

会場 福島市A・O・Z（アオウゼ）大活動室4

講師 森 愛子氏（造形作家）

参加者 小学生の親子5組12名

(4) 一日創作教室

ア 「光・色に触発されたイメージを描く」

期日 平成27年5月24日(日)

会場 福島市A・O・Z（アオウゼ）大活動室4

講師 久慈伸一（当館専門学芸員） 参加者 3名

イ 「スクラッチボードによる表現」

期日 平成27年11月15日(日)

会場 福島市A・O・Z（アオウゼ）大活動室4

講師 久慈伸一（当館専門学芸員） 参加者 7名

(5) わんぱくミュージアム

ア 「夏休み、工作大作戦！」

期日 平成27年7月25日(土)

会場 福島市A・O・Z（アオウゼ）大活動室4

講師 國島 敏（当館主任学芸員） 参加者 7名

イ 「くるくる・ゆらゆらモビールをつくろう！」

期日 平成27年10月31日(土)

会場 福島市A・O・Z（アオウゼ）大活動室4

講師 白木ゆう美（当館学芸員） 参加者 4名

ウ 「ちょっと大きなスノードームをつくろう！」

期日 平成27年12月20日(土)

会場 福島市A・O・Z（アオウゼ）大活動室4

講師 國島 敏（当館主任学芸員） 参加者 5名

3 美術館・学校教育連携事業

(1) 学校連携共同ワークショップ

学校からの要望をもとに平成15年度より開催する連携事業。子どもたちが作家と触れ合う機会として、作家・学校・美術館の共同による創作活動を中心にした「出張ワークショップ」を開催している。この事業により相互の協力関係を密にし、新鮮な体験を通して美術や美術館への関心を高めるとともに、通常は美術館を利用しにくい地域へも文化事業の還元を図る。

今年度は「おとなりアーティスト」をテーマに幼・小・中・高校合わせて12校で開催した。ワークショップ作品は平成28年1月5日(火)～11日(月・祝)の期間、福島市A・O・Z（アオウゼ）にて活動中のスナップ写真とあわせて展示した。

ア 「ごみりのべ (Waste Renovation) not RE CYCLE but NEW CYCLE! ～リサイクルじゃない新しいサイクルを考えよう～」

講師 アサノコウタ氏 (建築家)

- (ア) 期日 平成 27 年 9 月 19 日(土)、10 月 3 日(土)、
12 月 1 日(火)、12 月 15 日(火)
参加者 県立いわき総合高校 18 名
- (イ) 期日 平成 27 年 10 月 21 日(水)
参加者 二本松市立塩沢幼稚園 9 名
- (ウ) 期日 平成 27 年 12 月 26 日(土)、12 月 27 日(日)
参加者 日本大学工学部建築学科建築研究会 11 名

イ 「大地のえのぐで絵をえがこう！」

講師 佐藤 香氏 (土絵作家)

- (ア) 期日 平成 27 年 9 月 20 日(日)
参加者 天栄村立天栄中学校 8 名
- (イ) 期日 平成 27 年 9 月 25 日(金)、9 月 28 日(月)、
10 月 5 日(月)
参加者 会津美里町立高田中学校 111 名
- (ウ) 期日 平成 27 年 9 月 26 日(土)、10 月 11 日(日)、
10 月 12 日(月)、10 月 24 日(土)
参加者 会津若松市立第一中学校 20 名
- (エ) 期日 平成 27 年 10 月 10 日(土)
参加者 いわき市立磐崎中学校 20 名
- (オ) 期日 平成 27 年 10 月 14 日(水)
参加者 県立いわき養護学校くぼた校 6 名
- (カ) 期日 平成 27 年 10 月 23 日(金)
参加者 福島市立森合小学校 112 名

ウ 「つなげて、つくって、テキスタイル！」

講師 坂内まゆ子氏 (テキスタイル作家)

- (ア) 期日 平成 27 年 10 月 15 日(木)、10 月 16 日(金)
参加者 本宮市立本宮まゆみ小学校 52 名
- (イ) 期日 平成 27 年 10 月 20 日(火)、10 月 22 日(木)
参加者 学校法人堀内学園富岡幼稚園 18 名
- (ウ) 期日 平成 27 年 10 月 27 日(火)
参加者 二本松市はらせ幼稚園 10 名
- (エ) 期日 平成 27 年 11 月 18 日(水)、12 月 16 日(水)
参加者 認定こども園喜多方教会附属いづみ幼稚園 34 名

(2) 先生のための美術館入門

小学校図画工作、中学校・高等学校美術の鑑賞指導について講座を開講する福島県教育センターと連携しながら、学校における美術館の活用方法を考える。今年度は、県立博物館における移動展示「ふるさと会津の人と四季」展において開催した。

期日 平成 27 年 6 月 16 日(火)

参加者 小学校教諭 4 名、中学校教諭 6 名、高校教諭 1 名

(3) アートカード検討会

当館アートカードは、県内の小学生から高校生及びその教職員が主な利用対象者となる。制作にあたって、学校現場の意見を取り入れていくため、県内の小、中、高等学校の教諭及び教育関係者と検討会を実施した。

(ア) 第 1 回 6 月 13 日(土) 13 名出席

内容：当館アートカード概要説明及び検討事項の確認

(イ) 第 2 回 7 月 18 日(土) 15 名出席

内容：先生方の自作アートカード実践報告
アートカードを作る意義について等

(ウ) 第 3 回 9 月 12 日(土) 11 名出席

内容：先生方の自作アートカード実践報告
アートカードへの意見要望等

(エ) 第 4 回 10 月 17 日(土) 10 名出席

内容：展覧会に併せたアートカード実践報告
試作アートカード制作に向けての検討 (造形要素、配色、作家出身地、ジャンル等の確認)

(オ) 第 5 回 11 月 14 日(土) 13 名出席

内容：試作アートカード制作に向けての検討 (作品テーマ、児童・生徒の好み、シリーズ等について)

(カ) 第 6 回 12 月 13 日(日) 14 名出席

内容：試作アートカード制作に向けての検討 (全体のバランス、作品シリーズの中からのセレクト、微調整)

4 友の会、協力会との連携事業

(1) 友の会通常総会

期日 平成 27 年 5 月 31 日(日)

会場 美術館講義室 参加者 17 名

(2) 友の会美術映画鑑賞会

ア 「ヴァチカン美術館 3D 天国への入口」

期日 平成 27 年 4 月 18 日(土)

解説 「ヴァチカン美術館と映画の見所」

坂本篤史 (当館副主任学芸員)

会場 福島フォーラム 参加者 70 名

イ 「ターナー、光に愛を求めて」

期日 平成 27 年 9 月 5 日(土)

解説 「ターナーの生涯と画業について」

富岡進一氏 (郡山市立美術館学芸員)

会場 福島フォーラム 参加者 80 名

(3) 移動美術館「ふくしまからの発信 福島県立美術館所蔵世界の名作版画展／東日本大震災文化財救援活動報告展」

福島県立美術館協力会との共催により県文化センターで移動美術館展を開催した。2 部構成によりピカソ、ルオー、シャガール、エルンストの版画を展示。同時開催として「東日本大震災文化財救援活動報告展」を併催し、福島県内における被災文化財の救援活動について写真パネルをもとに紹介した。このほか会期中にコンサート、合唱プロジェクト等を実施し広く芸術に親しむ機会を提供した。

ア 会期 第 1 部「ルオー版画集ミセレーレ全作品」

平成 27 年 8 月 7 日(金)～20 日(木)

第 2 部「20 世紀ヨーロッパ版画の名作」

平成 27 年 9 月 9 日(水)～24 日(木)

イ 会場 福島県文化センター 2 階展示室

(福島市春日町 5-54)

ウ 展示数 第 1 部 58 点、第 2 部 79 点

エ 主催など

主催 福島県立美術館

共催 NPO 法人福島県立美術館協力会

後援 公益財団法人福島県文化財団、全国美術館会議、
福島大学うつくしまふくしま未来支援センター

オ 観覧料 無料

カ 観覧者数 第1部 754名、第2部 2,297名

キ 関連事業

(ア) ギャラリートーク

a 期日 8月8日(土)

解説 久慈伸一(当館専門学芸員) 参加者 15名

b 期日 8月15日(土)

解説 伊藤 匡(当館学芸課長) 参加者 15名

c 期日 9月12日(土)

解説 早川博明(当館館長) 参加者 30名

d 期日 9月19日(土)

解説 久慈伸一(当館専門学芸員) 参加者 30名

(イ) 「福島のかえ」公開制作および発表会

期日 9月21日(月・祝)

会場 福島県文化センター大ホール

後援 福島県合唱連盟

出演 タグチヒトシ氏(演出・作詞)、
畑中正人氏(作曲・サウンドデザイン)、
佐藤一成氏(声楽家・指揮)

参加者 60名 聴衆 102名

(4) ミュージアム・コンサート

福島県立美術館協力会、福島県立美術館友の会との共同開催によるコンサート。今年度は、県文化センターにおける移動展示「ふくしまからの発信」展において開催した。

「夏の夕べのコンサート シターの典雅な響き」

期日 平成27年8月8日(土)

会場 福島県文化センター2階展示室(参加無料)

演奏 中川啓子氏(シター奏者) 参加者 30名

(5) 友の会研修旅行

ア 「宇都宮美術館『パウル・クレー展』と那珂川町馬頭広重美術館を訪ねる旅」

期日 平成27年8月29日(土)

参加者 早川博明(当館館長)、伊藤匡(当館学芸課長)、
坂本篤史(当館副主任学芸員)ほか計41名

イ 「海外美術館研修 バリの美術館を巡る7日間の旅」

期日 平成27年11月10日(火)～16日(月)

参加者 早川博明(当館館長)ほか計19名

(6) 友の会実技講座

「カタチを変えて楽しめる絵を作る」

期日 平成27年11月7日(土)

講師 久慈伸一(当館専門学芸員)

会場 美術館実習室 参加者 7名

(1) 県立図書館との連携事業「スペシャルクリスマスin図書館」

小学生とその保護者を対象にした、図書館での絵本の読み聞かせと工作ワークショップ。

期日 平成27年12月19日(土)

参加者 24名(うち保護者10名)

(2) 文化財レスキュー事業

当館では平成25年5月13日より「福島県被災文化財等救援本部会議」の構成機関となり、県文化財課、県立博物館等と連携して東日本大震災により被災した文化財の救援活動にあっている。今年度は以下の活動に参加した。

ア 期日 平成27年5月12日(火)

場所 旧南相馬市立真野小学校、旧相馬女子高校

イ 期日 平成27年6月23日(火)

場所 浪江公民館請戸分館

(3) 公民館等への協力等

「県立美術館コレクションにみる魅惑の名画鑑賞 ～モネ、ルノワールからワイエス、関根正二まで～」

期日 平成27年12月5日(土)、12日(土)

講師 早川博明(当館館長)

会場 福島市吾妻学習センター 参加者 60名

第6節 施設・設備の整備

1 改修工事等

老朽化した施設・設備の改修工事等を実施した。

(1) 美術館・図書館空調設備等改修工事(電気)

平成26年12月11日～平成28年1月26日 (株)高電

(2) 美術館・図書館空調設備等改修工事(機械)

平成26年12月11日～平成28年1月26日

文化・倉島特定建設工事共同企業体

(3) 美術館トイレ改修工事(エントランス)

平成27年10月28日～平成28年1月25日

オークラ工業(株)

(4) 美術館屋根修繕工事(1工区)

平成27年12月3日～平成28年3月15日

田村建材(株)福島営業所

(5) 美術館屋根修繕工事(2工区)

平成27年12月28日～平成28年3月25日

田村建材(株)福島営業所

(6) 美術館企画展示室トイレ改修工事(機械設備)

平成28年2月23日～平成28年3月28日

(株)光和设备工業所

(7) 美術館企画展示室トイレ改修工事(電気設備)

平成28年2月23日～平成28年3月28日 (株)高電

5 その他の事業

第16章 福島県立博物館

第1節 概要

1 運営の概要

福島県立博物館は資料収集・常設展・企画展・調査研究・教育普及事業を中心に内容の充実を図っている。

今年度の博物館の活動の概要は次のとおりである。

2 運営協議会

(1) 委員

学校教育	金子 美津子	いわき市立小名浜東小学校長
	三輪 晶子	郡山市立高瀬中学校長
	山内 正之	県立会津学鳳中学校・高等学校長
社会教育	遠藤 俊博	福島県文化振興財団理事長
	安部 慎一	二本松市生涯学習課長
学識経験者	一ノ瀬 美枝	会津若松市教育委員会委員
	佐藤 彌右衛門	合資会社 大和川酒造店代表社員
	長尾 修	公立大学法人会津大学短期大学部社会福祉学科 非常勤講師
	大友 靖子	家庭教育インストラクター連絡協議会 理事
	齋藤 陽子	公募委員

(2) 会議

ア 第1回	平成27年7月2日(木)
議題	①平成27年度事業について ②中期目標の達成状況について ④次期中期目標について ⑤入館者数の推移について
イ 第2回	平成28年3月7日(木)
議題	①平成27年度事業の実施状況について ②平成28年度事業計画について ③博物館の使命について(改正案) ④第2期中期目標について(中間修正案) ⑤平成28年度予算の概要について

第2節 調査研究事業

1 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向けて、新たな研究成果と展示資料の収集のため、考古・歴史・民俗・美術・自然の各分野がテーマを設定し、調査を実施している。平成27年度は、以下の3テーマで調査研究を進めることとした。

(1) 当館所蔵新生代植物化石の再評価

ア 趣旨

当館自然分野の収蔵資料のなかで最も重要なものの一つに鈴木敬治植物化石コレクションがある。このコレクションは(故)鈴木敬治福島大学名誉教授が当館に寄贈されたもので、その内容の大部分は福島県内産の新生代植物化石である。すでにこれらの標本の10,000点以上が鑑定、整理されてきたが、最近、産地・地質時代にまとまりのある標本に関して、

ボランティアの力を借りながら、新たに1,000点以上の整理を進めることができた。そこで、これらについて鑑定内容を確認した上で成果を論文として公表し、コレクション整理の成果をさらに充実させたい。

イ 概要

金山町猿倉沢地域ほかの地域で化石産地確認調査を行うとともに、付近の地質概要を把握する。また、すでに収蔵されている同地域の植物化石について、同定内容の再確認、標本写真撮影、未登録標本のラベリングおよび登録等を順次行い、展示公開や博物館紀要への執筆等により成果を公表する。

平成27年度は鑑定済み標本のリスト化を中心に室内作業を進めてきた。しかしながら、専門家による標本鑑定の継続実施については旅費の不足との理由で中止された。

(2) 会津藩社倉制の研究

ア 趣旨

江戸時代には備荒貯蓄や米価調整のため、各藩や代官所においてさまざまなシステムの構築が試みられた。その備荒貯蓄政策の代表的なものは会津藩の例で、保科正之がはじめた社倉や社跡米の制度である。この制度は藩政時代から全国的にも注目されたが、その詳細について、系統的な研究はあまり行われていない。よって各種文献の調査等を行い、制度の具体的なシステムについて明らかにすることを目指す。

イ 概要

社倉の運用方法などを示す具体的な基礎資料を調べる中で「社倉方一式」という資料の存在が判明した。この資料が会津藩の社倉米の制度やその配分を具体的に知ることに出来る貴重なものであったため、平成26年度には当館紀要上で、続けて平成27年度にはポイント展で調査の成果を発表し、本研究は一応の区切りとした。

(3) 山口弥一郎調査資料の研究

ア 趣旨

山口弥一郎(1902-2000)は旧・新鶴村に生まれ、東北の地理学・民俗学研究に多大な業績を残した。近年では東日本大震災を経て著書『津浪と村』(1943年刊)が復刊され、津波災害と集落移動に関する研究が全国的に注目を集めている。しかし、磐梯山慧日寺資料館(磐梯町)に一括して収蔵されている山口が残した調査ノートや写真、蔵書などは、体系的な整理や目録作成にまで至っていない。本研究では磐梯町の協力のもと、同資料の整理・調査を進めることで、山口弥一郎の調査研究を見直し、人文科学的側面からの災害研究の新しい方向性を探っていく。

イ 概要

磐梯町と福島県立博物館で昨年度に取り交わした協約書にもとづき、平成27年度は磐梯町所蔵の山口弥一郎旧蔵資料の借用と整理を開始した。調査ノートや文書類について標題・年代等を目録化し、また写真撮影等を進めている。

(4) 考古資料による原始・古代の画期の再検討

ア 趣旨

I 縄文時代後半期から弥生時代初頭とII 古墳時代終末期から奈良時代(6世紀末～8世紀)の2つの時期を取り上げ、当館収蔵の当該期の考古資料を中心に取り上げ、資料の有する社会的背景を考察し、本県における原始・古代の時代変遷の画期を検討し考古地域史の確立を目指すものである

イ 概要

縄文時代では、南相馬市中才遺跡の晩期製塩土器を包含する土壌サンプルの水洗を行い、製塩手法や遺跡周辺環境に関わる微小巻貝類や製塩残滓類の抽出を目指した。正式な同定作業は未了であるが、肉眼観察では微小貝類は伴っていないようである。また同遺跡貯蔵穴堆積土に含まれる大型種子の同定を実施し、ニワトコ種子を検出した。古墳時代では日本列島北限資料として注目される中島村四穂田古墳出土短甲の塗膜分析結果を確認し、漆が塗布された資料であることが判明した。また福島市梅本古墳出土象嵌刀装具の分析を県ハイテクプラザの協力を得て実施し、素材に関する知見を得ている。

2 その他の調査研究事業

(1) 古文書整理事業

古文書類の調査・研究は、福島県の歴史をさぐるために欠かせない。しかし古文書を歴史資料として活用するためには1点ずつ整理を行い、表題・年代・形態・法量・状態などのデータを採取した上で博物館資料として登録する必要がある。

このため、購入・寄贈・寄託などにより当館で受け入れた古文書の整理・登録作業を行っている。また古文書原本を状態よく保存し後世に伝えていくため、古文書をマイクロ撮影し、原本のかわりに閲覧用に提供している。

平成27年度は、前年度に引き続き松崎達夫家寄贈資料の整理を継続して実施したほか、近年受け入れた小口の整理・登録を行った。また整理済の未登録資料(佐藤正夫家寄託資料 松下眞紀家寄贈資料、築田家追加寄託資料など)のデータ整備・登録も合わせて行った。マイクロ撮影は、前年度に引き続き「築田家追加寄託資料」の撮影を行った。

第3節 資料収集事業

1 収集展示委員会

博物館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12名の委員を委嘱している。

(1) 収集展示委員会委員

氏名	役職名	備考
有賀 祥隆	東北大学名誉教授	委員長
野沢 謙治	郡山女子大学短期大学部文化学教授	副委員長
入間田宣夫	一関市博物館館長	委員
大石 雅之	岩手県立博物館研究協力員、東北大学総合学術博物館協力研究員	委員
岡田 清一	東北福祉大学教授	委員

佐々木利和	北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員教授	委員
設楽 博己	東京大学大学院人文社会系研究科教授	委員
原田 一敏	東京芸術大学大学美術館教授	委員
三上 喜孝	国立歴史民俗博物館准教授	委員
村川 友彦	福島県史学会会長、元福島県歴史資料館課長	委員
柳田 俊雄	東北大学名誉教授、東北大学総合学術博物館協力研究員	委員
玉川 一郎	福島県考古学会会長	委員

(2) 会議

ア 日時：平成28年2月4日(木)

- イ 議題 ①平成27年度事業の実施概要について
 ②平成28年度事業計画について
 ③平成28年度の企画展等について
 ④開館30周年記念事業について
 ⑤その他

2 受贈・受託

(1) 歴史資料

ア 受贈

板かるた等	10件	個人
板かるた(箱入)	1件	個人
絵はがき	118件	個人
会府世稿・蘆名家記録極楽寺本・暦	91件	個人
小学筆算例題 卷之上	1件	個人
刀(無銘)ほか	2件	個人
本郷焼壺ほか	8件	個人
青い目の人形・稚児人形・人形ケース	3件	個人
事変勃発前団入殖後の略歴ほか	2件	個人
石井研堂収集資料「皇室関係」ほか	104件	個人
石井研堂収集資料「天 翻刻 15枚」	15件	個人

イ 受託

御家中面々御救金一件書付	1件	個人
--------------	----	----

(2) 美術資料

ア 受贈

桑漆絵重箱ほか	20件	個人
会津絵長手盆ほか	125件	個人
佐藤容斎筆「雛飾図」	1件	個人

イ 受託

日乃出図ほか	8件	個人
坂内文石筆 野宴図ほか	16件	個人
黒塗菊唐草蒔絵皿ほか	2件	個人
浦上春琴「山水図」	1件	個人
浦上春琴「白衣観音図」ほか	5件	個人

(3) 民俗資料

ア 受贈

こけしおよび関連資料	104件	個人
------------	------	----

パラシュート生地のコート	1件	個人
踏み俵ほか	23件	個人
笹野一刀彫（お鷹ぼっぱ）	1件	個人
赤子頭巾・着物・襦袢・脚絆	4件	個人
筵織り機・脛巾・脛巾織りほか	6件	個人
ハケゴ	1件	個人
手動式洗濯機	1件	個人
婚礼儀式順序並二役付ほか	2件	個人
火鉢	1件	個人

(4) 考古資料

ア 受贈		
磨製石斧ほか	10件	個人

(5) 自然資料

ア 受贈		
栃窪層産植物化石ほか一式	1件	個人
現世貝類標本ほか	92件	個人
国内産化石標本	17件	個人
米国ワイオミング州産魚類化石	1件	個人

3 購入

(1) 考古資料

山王遺跡出土題箋軸木簡（レプリカ）	1件	
-------------------	----	--

(2) 自然資料

エディアカラ生物化石ほか	14件	
--------------	-----	--

(3) 図書資料

ア 一般図書		
歴史分野 13冊、民俗分野 23冊、美術分野 3冊、自然分野 100冊、保存分野 10冊、計 149冊		
イ 定期刊行物	32種類	

第4節 保存管理事業

1 資料の収蔵

(1) 博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数の、現在までの累計を示す。件数は概数であり、「一括」で受け入れた資料も1件と数える。

収蔵資料数 (平成28年3月31日現在)

分野	件数	備考
考古	20,408	土器・石器・金属器ほか
民俗	13,333	生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか
歴史	22,180	書籍・文書資料ほか
美術	6,426	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	49,331	化石・岩石・鉱物ほか
合計	111,678	

(2) 図書および映像資料

ア 収蔵図書数 (平成28年3月31日現在)

考古分野：24,192冊 民俗分野：4,691冊
 歴史分野：9,886冊 美術分野：3,842冊
 自然分野：16,233冊 保存分野：1,671冊

その他：56,747冊 合計：117,262冊
 イ 収蔵映像資料数（平成28年3月31日現在）
 収蔵映像資料総数：1,370点

2 登録・整理

(1) 資料管理システムの運用

平成25年度中に、それまでのサーバクライアント方式による資料管理システムに換えて、新たにASP方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製 I.B. Museum SaaS を導入した。新システムは県教育委員会の FKS 回線を介してインターネットに接続した端末パソコンより使用するものとし、それまで使用してきた資料管理システム専用 LAN 回線は FKS 回線に一本化した。新システムでは多数のデータの一括登録や一括修正が可能となり、また、経年的なランニングコストが削減された。更に、インターネット上での資料情報の外部公開が可能となった。

本年度は、資料の登録および資料情報の外部公開においてシステムの本格的な運用を開始することを目的としたほか、継続してプログラムの初期不良の発見と修正に努めた。初期不良についてはかなり修正を進めたが、未だに修正完了に至っていない。それは旧システムの膨大な情報項目をすべて完全に移植したため項目の構成が煩雑となり、使用中に初めて発見される書式や登録方法の設定ミス等があるためである。また同様の理由から、項目を再構成しないと登録作業の煩雑さを解決できない部分が生じており、その一部は有償の改修が必要である。

(2) 資料の登録・資料情報の外部公開

整理が終了した資料のデータを資料管理システムに入力し、資料の登録を行った。表中の数値は登録済み資料の件数を示す。また、システムの資料情報外部公開機能を使用し、インターネット上で公開する所蔵資料情報を新たに追加した。資料の登録数・外部公開数はいずれも平成27年度中期目標の評価指標を達成した。ただ、資料情報の外部公開において検索機能をより使いやすく改良することが望まれるが、システムがASP方式であるため実施可能な修正に制限があり、今後、相当の工夫と時間が必要である。

登録資料数および資料情報の外部公開数を示す。

(平成28年3月31日現在)

分野	登録資料 (平成27年度)	登録資料 (累計)	資料情報 の外部公開 (平成 27年度)	資料情報 の外部公開 (累計)
考古	169	11,818	1,309	1,762
民俗	203	13,813	1,364	1,381
歴史	4,165	40,758	1,277	4,776
美術	5	6,224	0	23
自然	228	24,487	2,905	6,644
合計	4,770	97,100	6,855	14,586

(3) ボランティア

博物館資料の整理のため、次の通り資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った。

ア 自然資料整理

桑原 功 鈴木敬治氏寄贈資料中の調査露頭写真の整理
延べ31日

星総一郎 星総一郎氏寄贈化石標本の整理 延べ10日

イ 古文書整理

古文書整理ボランティア登録者のうち12名が延べ68日参加し、松崎達夫家文書の整理事業（表題・年代・法量などのデータ採取）を行った。終了したのは279点。参加者は五十嵐晴日子、大堀義子、小熊和子、川原太郎、菊池フミ子、小関栄助、小檜山裕三、佐藤敏子、佐野喜惣次、鈴木清二、馬場純、星弘明の諸氏。

3 保存

(1) 防虫作業等

ア 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫

4 貸出

(1) 博物館資料

資料名	貸出先	貸出期間	展覧会名
鈴木敬治コレクション植物化石標本 16点 福島県内産動物化石標本 7点 福島県内産動物化石標本（当館受託資料） 15点 フタバリュウ左脛骨標本（複製） 1点	国立科学博物館	平成27年6月26日～8月31日	福島県文化センターコラボミュージアム展示
安張遺跡出土 石棒 1点 上ノ台遺跡出土 石冠 1点	奥会津博物館	平成27年7月1日～10月10日	企画展「奥会津の縄文時代—縄文人からのメッセージ—」
和田の大仏出土 千体物片 26点 伝塚畑古墳出土 形象埴輪片 9点 大仏古墳群出土 玉類 4点 大仏15号墳出土 金銅製馬具 8点 跡見塚古墳群出土 銅釧・耳環 4点 出土地不詳 勾玉・ガラス玉 4点	須賀川市立博物館	平成27年7月11日～9月20日	企画展「ハックツ！すかがわ 考古学の世界」
泰西王侯騎馬図屏風（複製）動図・静図 豊臣秀吉朱印状（蒲生源左衛門尉あて） 1幅 九戸出陣陣立書 1幅 蒲生記（乾坤） 2冊	若松城天守閣郷土博物館	平成27年9月上旬～11月30日	企画展「築城者 蒲生氏郷」
稲荷塚遺跡1号竪穴出土 壺 1点（当館受託資料） 稲荷塚遺跡1号竪穴出土 器台 1点（当館受託資料） 稲荷塚遺跡1号竪穴出土 甕 1点（当館受託資料）	新潟市文化財センター	平成27年9月24日～平成28年1月22日	企画展「邪馬台国の時代1—東北南部（会津）の世界—」
蒲生氏郷法度条目 1幅 火事頭巾 1領 旗 1流	三春町歴史民俗資料館	平成27年10月1日～12月2日	特別展「蒲生氏の時代」

（一時、第1～第6収蔵庫）、エントランスホール、体験学習室、講堂、事務室、会議室、研究室、図書室、空調機械室など主要なスペースについて昆虫、室内塵埃中昆虫、空中浮遊菌、空中浮遊塵埃数、気相（アルカリガス定性、ホルムアルデヒド、酢酸、アンモニアの気中濃度）及び温度、湿度、照度等について調査を行った。

調査は季節による生息害虫等の状況を確認するため、7月28日～8月21日、11月4日～11月27日の2回にわたり実施した。

イ 燻蒸庫による燻蒸

新収蔵資料および企画展出品資料などを中心に約589件の資料を専門業者の設備に持ち込み、2月2日～9日に燻蒸を実施した。

蒲生家系図 1冊			
中島村四穂田古墳出土短甲復元模型 1点	(公財)郡山市文化・学 び振興公社文化財調査 研究センター	平成28年1月14日～平 成28年2月2日	企画展「古墳時代の郡山は どこまで分かったか—土 器・墓・ムラから探る—」
天保雛一式 5箱 (当館受託資料)	かわまたおりもの展示 館	平成28年1月15日～平 成28年4月30日	「ひな人形展」
谷文晁筆「赤壁図」 白雲筆「窮玄掌覧」(当館受託資料) 白雲他筆「三松亭書画卷」(当館受託資料) 松平定信筆「詠帰亭」(当館受託資料) 宿札「白川少将宿」(当館受託資料)	白河集古苑	平成28年1月25日～平 成28年3月下旬	特別企画展「松平定信とそ の時代—藩主定信をめぐ る人とモノ—」
富作遺跡出土縄文土器(深鉢) 3点 狸森遺跡出土縄文土器(深鉢) 1点	福島県文化財センター 白河館	平成28年2月9日～平 成28年5月22日	企画展「縄文土器の年代— その古さを読み解く—」
ハドロサウルス類(ヒロノリュウ)の頸椎 1点 ハドロサウルス類(ヒロノリュウ)の歯 1点	国立科学博物館	平成28年2月22日～平 成28年6月20日	「恐竜博2016」
雪村筆「蕭湘八景図帖」 1帖(当館受託 資料)	京都国立博物館 東京 国立博物館	平成28年3月中旬～平 成28年12月中旬	臨済禅師1150年・白隠禅 師250年遠諱記念「禅一心 をかたち—to」展
十二天図(恵日寺旧蔵)旧軸木2本(修復 銘有) ①正徳五年銘 ②正徳六年銘	磐梯町磐梯山恵日寺資 料館	平成28年3月25日～平 成28年12月2日	常設展

(2) 写真資料

総数：106件 195点

考古：16件 43点 民俗：6件 14点 歴史：58件 108点 美術：22件 26点 自然：4件 4点

第5節 展示事業

1 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々の暮らしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間の6つのテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。

平成21年度から、常設展示室内において、以下のようなテーマ展・ポイント展を実施している。

(1) テーマ展

常設展エリア内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として実施した。本年度が7年目である。全7回実施。

ア「ふるさとの考古資料5【富岡町】遺跡探訪」(部門：考古展示室)平成26年度～平成27年5月10日(日)

イ「内藤コレクション寄贈記念 中里壽作品展—自然へのまなざし—」(部門：歴史・美術展示室)4月25日(土)～6月21日(日)

ウ「ふるさとの考古資料6【飯館村】遺跡探訪」(部門：考古展示室)6月20日(土)～平成28年5月8日(日)

エ「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展」(部門：歴史・美術展示室)7月4日(土)～8月30日(日)

オ「現代「漆・歴史」考2015—吾子可苗×富樫孝男 漆の記憶展—」(部門：歴史・美術展示室)9月5日(土)～11月1日(日)

カ「けんぱくの宝2015」(部門：歴史・美術展示室)11月14日(土)～平成28年1月24日(日)

キ「建具指物師の仕事(わざ)—木村徳治展—」(部門：歴史・美術展示室)平成28年2月6日(土)～3月27日(日)

(2) ポイント展

常設展エリア内において、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として実施した。本年度が7年目である。全22回実施。

ア「喜多方市泉福寺の大日如来像」(総合：古代展示室)4月14日(火)～5月10日(日)

イ「蒲生氏郷像」(総合：近世展示室)4月14日(火)～5月10日(日)

ウ「会津恵日寺の宝物」(総合：中世展示室)4月14日(火)

～6月7日（日）
 エ「近世に書かれた中世の城絵図」（総合：中世展示室）4月14日（火）～6月7日（日）
 オ「松平定信像」（総合：近世展示室）4月14日（火）～6月7日（日）
 カ「戊辰戦記絵巻物」（総合：近・現代展示室）4月14日（火）～6月7日（日）
 キ「万祝(まいわい)—大漁の祝い着—」（部門：民俗展示室）4月17日（金）～6月10日（水）
 ク「まぼろしの土人形—根子町人形—」（部門：民俗展示室）6月12日（金）～8月12日（水）
 ケ「会津藩の社倉」（総合：近世展示室）7月18日（土）～8月21日（金）
 コ「天明飢饉の図」（総合：近世展示室）7月18日（土）～8月21日（金）
 サ「若松歩兵連隊」（総合：近・現代展示室）7月18日（土）～8月21日（金）
 シ「猪苗代のオシンメイサマ」（部門：民俗展示室）8月14日（金）～9月30日（水）
 ス「明治人の手紙—旧会津藩関係者の足跡」（総合：近・現代展示室）8月22日（土）～9月25日（金）
 セ「農鍛冶の仕事と道具—山口栄吾コレクション—」（部門：民俗展示室）10月2日（金）～12月2日（水）
 タ「藤井康文 恐竜イラスト原画展」（エントランスホール）10月3日（土）～11月15日（日）
 チ「石器に用いられた石」（総合：原始展示室）11月5日（木）～平成28年3月13日（日）
 ツ「縄文時代の植物利用—三島町荒屋敷遺跡の植物素材製品—」（総合：原始展示室）11月17日（火）～平成28年3月13日（日）
 テ「弥生時代の骨角器」（総合：原始展示室）11月17日（火）～平成28年3月13日（日）
 ト「郡役所のお仕事」（総合：古代展示室）11月25日（水）～平成28年3月13日（日）
 ナ「むかしの道具—洗たくとアイロンがけ—」（部門：民俗展示室）12月4日（金）～平成28年3月23日（水）
 ニ「地質図を読もう」（エントランスホール）平成28年1月22日（金）～2月28日（日）
 ノ「会津盆地の土地利用」（総合：自然展示室）平成28年2月18日（木）～3月31日（木）

2 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、期間を限定して開催している。

（1）夏の企画展「被災地からの考古学1—福島県浜通り地方の原始・古代」

ア 会 期：平成27年7月18日（土）～9月13日（日）
 開館日数：58日間
 イ 会 場：福島県立博物館企画展示室

ウ 入館者数：2,140人
 エ 担当学芸員：考古分野：荒木 隆
 オ 趣 旨

本展は東日本大震災で大きな被害を受けた浜通り地方に焦点を当て、浜通り地方が東北地方の歴史の中で果たしてきた役割について考古資料から振り返るものであった。常磐高速道路及び各種復興調査の成果をもとに新しい浜通り像を明らかにしていくことを中心に浜通り地方に対する認識を新たにするとともに、浜通り地方の復興に向けた取り組みについても注目していくものであった。

今回の展示を通して、本県浜通り地方が東北と関東、さらに中部、関西地方まで幅広い交流を行ってきたことや、奈良時代以降の東北地方開発の拠点として福島県浜通り地方が重要拠点として中央政府から認識され、各種の先端技術がいち早く導入された点などを明らかにすることができた。

本展は日本芸術振興会の芸術文化振興基金からの助成を受けて実施しており、福島県立博物館の展示終了後、いわき市考古資料館と南相馬市博物館を巡回している。

カ 展示構成

プロローグ 浜通り地方って、どんな所？

第1部 常磐道で行く浜通り遺跡の旅発見！—常磐道建設で目覚めた遺跡が語る浜通りの歴史—

第2部 浜通り地方 復興調査で大発見！—発掘した面積は小さいけれど、こんなことも分かったよ—

第3部 浜通り地方市町村 ふるさとお宝自慢！—発掘調査でよみがえった各市町村自慢の出土品たち—

第4部 ふるさとの顔 浜通り地方の顔 大集合！—縄文時代から平安時代までの顔・顔・顔 オンパレード—

第5部 浜通り地方の復興に向けて—被災した文化財の復旧と文化財レスキュー事業—

キ 展示資料総数 322点

ク 主な展示資料

旧石器時代：三貫地貝塚出土石器（新地町）

縄文時代：浦尻貝塚出土骨角器（南相馬市）

田子平遺跡出土土面（浪江町）

弥生時代：美シ森遺跡出土土器（檜葉町）

古墳時代：丸塚古墳出土埴輪（相馬市）

清戸迫横穴出土須恵器（双葉町）

飛鳥時代：棚和古墳出土須恵器（大熊町）

奈良時代：桜田IV遺跡出土土師器（広野町）

小浜代遺跡出土瓦（富岡町）

平安時代：横手廃寺跡出土瓦（南相馬市）

ケ 関連行事

①企画展記念講演会（4回）

第1回「ふくしま復興調査元年」

日 時：7月25日（土）13時30分～15時00分

会 場：福島県立博物館講堂

講 師：兵庫県考古博物館 山本誠氏

第2回「復興調査最前線1 派遣職員が見たふくしまの遺跡」

日時：8月8日(土)13時30分～15時00分

会場：福島県立博物館講堂

講師：京都府教育委員会文化財保護課 中居和志氏
公益財団法人山形県埋蔵文化財センター 天本昌希氏
第3回「浜通り地方から福島県の歴史を読み解く」

日時：8月15日(土)13時30分～15時00分

会場：福島県立博物館講堂

講師：当館学芸員 荒木隆

第4回「復興調査最前線2 市町村教育委員会の調査から」

日時：9月5日(土)13時30分～15時00分

会場：福島県立博物館講堂

講師：公益財団法人いわき市教育文化事業団 木幡成雄
南相馬市教育委員会文化財課 荒淑人

②企画展解説会(17回)

日時：7月18日(土)・19日(日)・20日(月)・25日(土)
・26日(日)、8月2日(日)・8日(土)・9日(日)・15日
(土)・16日(日)・21日(金)・23日(日)・30日(日)
、9月5日(土)・6日(日)・12日(土)・13日(日)

場所：福島県立博物館企画展示室

③オリジナルグッズ製作ミステリー体験

日時：7月19日(日)・26日(日)・8月2日(日)・9日(日)
・16日(日)・23日(日)・30日(日)・9月6日(日)

場所：福島県立博物館企画展示室

コ 成果と課題

・現在、東日本大震災の復興を進めている浜通り地方についての歴史的理解が深まり、県内だけでなく県外の来館者に対しても、浜通り地方で行われている復興事業に関わる発掘調査の状況や文化財レスキュー事業について情報発信することができた。

・企画展終了後、浜通り地方のいわき市と南相馬市を会場に展示内容をコンパクトにした移動展を実施したが、中通り地方で開催することができなかった。また、県外、特に福島県から避難している住民が多い首都圏の都県立博物館で巡回展示を行い、福島県の復興の様子を積極的に情報発信する機会を設ける計画も企画当初があったが、予算的な制約の中で実現できなかった。別な機会を利用しながら、福島県の現状を県外に発信する事業についても検討していきたい。

(2) 秋の企画展「相馬中村藩の人びと」

ア 会期：平成27年10月10日(土)～11月29日(日) 開館
日数：44日間

イ 会場：福島県立博物館企画展示室

ウ 入館者数：1808人

エ 担当学芸員：歴史分野：高橋充他

オ 趣旨

福島県の相双地域では、江戸時代に相馬家を藩主とする中村藩の時代が約250年間続いた。鎌倉時代以来続く相馬氏の系図、江戸時代に描かれた野馬追絵巻や城下絵図、藩士の家系に伝えられた古文書や、製陶・製塩に関する資料、寺社に伝えられた宝物などを展示公開した。この地域は、東日本大震

災によって大きな被害を受けてしまった。救出された資料も展示しながら、先人たちの歩みをふり返ることで、復旧・復興を少しでも後押しできることを意図して企画した。

カ 展示構成

プロローグ 相馬家と中村藩

第1章 旅人の見た相馬の風景

第2章 ささまざまな仕事と暮らし

第3章 祈りの姿

キ 展示資料総数 113件(会期中に展示替えあり)

ク おもな展示資料

○野馬追絵巻(相馬市教育委員会蔵)

○料理伝書・折形(双葉町教育委員会蔵・当館寄託)

○大堀相馬焼(福島県文化財センター白河館蔵)

○相馬家婚礼道具(同慶寺蔵・当館寄託)

○両界種子曼荼羅(大聖寺蔵・当館寄託)

ケ 関連行事

記念講演会「相馬中村藩の成立と家格形成」

日時：10月17日(土)13:30～15:00

会場：当館講堂

講師：東北福祉大学教授 岡田清一氏

関連講座「御料理方に学ぶ!江戸時代の料理作法―折形を折ってみよう」

日時：10月31日(土)13:30～15:00

会場：当館実習室

講師：食文化研究家 平出美穂子氏

展示解説会

日時：10月10日(土) 11月7日(土)・14日(土)・19日(木)・21日(土)・26日(木)・28日(土) 各回とも13:30～14:30

会場：当館企画展示室

講師：当館学芸員 高橋充

コ 成果と課題

浜通り地域の歴史とくに近世の歴史をテーマにした初めての企画展となった。展示構成の工夫のひとつとして、第1章では実在した会津から相馬への旅行記(紀行文)「目さめ日記」の内容に沿って、野馬追に関する絵画資料や海岸部・中村城下の絵地図を配置し、羅列的になりがちな展示にストーリー性を持たせようと試みた。また、浜通り地域とはゆかりの少ない会津地域の方々にも興味をもってもらい、両者を結びつける視点を提供しようとした。アンケートの感想などをみると、「目さめ日記」や野馬追絵巻に興味をもった来館者が多く、一定の効果はあったと思われる。ただし、紀行文の内容の説明などが足りず、物足りなさを感じるという意見もあった。

アンケートの集計によると、相双地域からの来館者の割合が37%と高く、とくに地元の方々に観覧していただきたいという意図は、ある程度伝わった。会津若松市に避難している大熊町の町民の方々には、チラシを全戸に配布するような取り組みも一定の効果があった。一方で、会津若松市内など通常の企画展で割合の高い地域からの来館者は少なかった(若松市内は16

%)。入館者全体数が低迷した原因も、そのあたりに求められる。相双地域の歴史の魅力を、その他の地域の方々にも伝えられるように十分に内容を掘り下げられなかった点が、最大の反省点である。

3 特集展

特集展は、新しく収集した寄贈・寄託資料を中心に、特定のテーマに基づいて一定の期間開催する展示会であるが、特に予算化せず常設展費の予算の枠内でやりくりした。

(1) 「震災遺産を考えるーガレキから我歴へ」

ア 会 期：平成27年2月11日(木・祝)～3月21日(月・祝)

イ 会 場：エントランスホール・企画展示室

ウ 観覧者数：4,450人

エ 担当学芸員 高橋満・金澤文利

オ 主 催：ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会

共 催：東北大学学術資源研究公開センター

東北大学災害科学国際研究所

東北大学グローバル安全学トップリーダー育成プログラム

カ 趣 旨

ふくしま震災遺産保全プロジェクトでは、東日本大震災を歴史と位置づけること、歴史として共有し、未来に伝えることを目指している。そのためにはまず「福島県に何が起きたのか?」「福島県に何が生じたのか?」を明らかにすることを出発点として、それらが産み出された背景や要因を探っていく必要があると考えている。

震災で福島県に起きたこと、すなわち「ふくしまの経験」を示す歴史的資料として、私たちは震災が産み出したモノ・震災を示すパシヨに着目し、これを「震災遺産」と呼んでいる。福島県における本震災には、地震・津波・原子力発電所事故が与えたダメージと、これに対応した救助・避難・支援・除染などの様々な局面があり、この局面ごとにあるいは局面が重なって多量の瓦礫、広域に分布する仮設住宅団地、除染物質の広大な集積など非日常の光景が震災から5年の今も産み出されている。

本プロジェクトでは、震災遺産が震災の経験だけでなく震災前まであった人々の生活や日常を伝える手段になると考え平成26年度からフィールド調査や資料を収集・保全する取り組みを開始した。

本特集展は福島県立博物館に実行委員会事務局を置く、ふくしま震災遺産保全プロジェクトのアウトリーチ事業「震災遺産を考えるⅡ」会津セッションを構成するプログラムの一つとして開催した。震災遺産の調査・収集活動やその成果を収集資料や写真パネルで紹介し、震災の多様性を震災遺産から考え、震災から5年のふくしまを振り返るとともにプロジェクトのこれまでの活動を県民や広く一般に紹介する機会とする。

キ 構 成

1 あの日・あの時から一揺れる大地・迫る海・崩壊した「安全」

・2011年3月11日からの5年間に発生した出来事を、象徴的な震災遺産の展示から振り返る。

2 「避難」の多様性

・一次避難所。「一日だけの避難所」などふくしま特有の避難生活を避難所資料から考える。

3 断絶する「日常」・学校・生活・仕事

・震災や原発事故で断絶する日常を被災地に残されたままとなった器物から回復しない「日常」を紹介する。

4 思いがけない「未来」

・震災によって、新たに生み出されたものから福島県の特殊性を考える。

ク 主な展示資料

・震災の時刻で止まった時計 (富岡・いわき)

・震災当日の新聞が入ったままの自動販売機 (浪江)

・津波で曲がった橋の欄干 (いわき)

・活断層剥ぎ取り標本 (いわき)

・火事で溶けた街灯 (いわき)

・避難誘導したパトカーの部品 (富岡)

・配達されなかった新聞包み (浪江)

・被災地名を示す道路標識 (南相馬・浪江)

・避難所で使われたロウソク (富岡)

・非常用飲料水 (双葉)

・安定ヨウ素剤 (富岡)

・横断幕「富岡は負けん！」 (富岡)

ケ 関連事業

① 「3Dデジタル震災遺構アーカイブ体験」

東北大学と連携して平成26年度から開始した県内所在震災遺構の3Dポイントクラウドデータ取得によるデジタル記録保存事業の成果を県内で初公開する事業である。企画展示室内のブースに東北大学の機器とマーカーを設置し、県内の「震災遺構」を最新技術MR(複合現実Mixed Realityの略、複合現実：仮想現実と現実世界をリアルタイムで融合させる技術)による3次元バーチャル映像としてヘッドマウントディスプレイで閲覧する催しを会期中実施した。参加者は1,531名である。

② 展示解説会

会期中に15回開催した。参加者は164名である。

4 移動展

(1) 美術館移動展「写真展 東北—風土・人・暮らし」

ア 会 期 平成27年5月2日(土)～6月21日(日) 開館

日数：44日間

イ 会 場 福島県立博物館企画展示室

ウ 入館者数 5,992人

エ 担当学芸員 美術分野：川延安直・小林めぐみ

オ 趣 旨

2014年に開館30周年を迎えた、福島市にある福島県立美術館は、近現代の欧米・日本の美術と県出身作家の作品を中心に、3,000点以上の美術品を収蔵している。これらの収蔵作品を県内各地で気軽に鑑賞してもらおうと、当館にて会津出身・

ゆかりの画家たちの名品展を開催した。長い歴史を刻んできた会津地方では、美術愛好家の惜しめない支援もあり、美術を育む風土が近代以降も脈々と息づいている。こうして、日本画では湯田玉水、坂内青嵐、酒井三良など、水彩画では相田直彦、春日部たすく、渡部菊二など、個性あふれる画家たちを輩出した。さらに、会津坂下町出身の斎藤清は、会津の風景を独自の造形感覚で表現し、戦後日本を代表する版画家となった。本展覧会は、会津の画家たちによる多彩な近代美術の魅力を、約50点の日本画、水彩画、版画により探り、豊かな風土が育んだ会津文化の広がりを紹介した。

カ 展示構成

会津出身・ゆかりの15作家、出品点数61点

日本画：小川芋銭^{うせん}・湯田玉水・坂内青嵐^{せいめい}・猪巻清明^{せいまい}・酒井三良^{はくちょう}・酒井白澄^{はくちょう}・菊地養之助

水彩画：相田直彦・赤城泰舒^{やすのぶ}・春日部たすく・渡部菊二・百合子・長沢節

版画：森田恒友・斎藤清

キ 関連事業

公開対談「喜多方美術倶楽部」をめぐって」

講師：後藤學（喜多方市美術館館長）×増淵鏡子（福島県立美術館学芸員）

日時：6月6日（土）13時30分～15時

会場：企画展示室

ギャラリートーク第1回

講師：早川博明（福島県立美術館館長）

日時：5月2日（土）13時30分～14時30分

会場：企画展示室

ギャラリートーク第2回

講師：坂本篤史・白木ゆう美（福島県立美術館学芸員）

日時：5月16日（土）13時30分～14時30分

会場：企画展示室

ギャラリートーク第3回

講師：堀宜雄（福島県立美術館学芸員）

日時：6月21日（日）13時30分～14時30分

ク 成果と課題

多くの美術家を輩出しながら、美術館のない会津若松市においてまとまった点数の会津ゆかりの画家の作品を紹介できた。この点に対して、来館者の評価は高かったように思われる。県立美術館との連携によりこうした移動展の定期的な開催方法を検討できないだろうか。

県立博物館の企画展の一部や、当館の収蔵品を市町村の博物館・資料館で公開して欲しいという要望も多いため移動展を実施してきた。本年度は三春町歴史民俗資料館より、これまでに実施したことのない自然史系の展覧会を開催したいとの要望があった。また県立図書館より、「県立図書館連携事業」への協力を要請された。これらの要望に対して本年度は自然分野が対応し、以下の通り2本の移動展を実施した。

（2）移動展「見る・さわる 世界の化石」

ア 会期：平成27年7月18日（土）～8月30日（日）

イ 会場：三春町歴史民俗資料館企画展示室

ウ 入館者数：757人

エ 担当学芸員：相田優、香内修、猪瀬弘瑛、竹谷陽二郎

オ 趣旨：

この移動展は、当館が主に県内の博物館・資料館等と共催して実施するためにパッケージとして用意し、各館・施設等に開催を募っている企画の一つである。今回は三春町歴史民俗資料館との共催展として実施した。

内容的には、当館が所蔵する世界の化石標本に基づき、生物の歴史と化石の楽しさを紹介する展示である。世界各地・各時代の代表的な化石により、生物の進化と多様性、地球の歴史を知ることができる構成となっている。今回は、福島県から産出した各時代の化石もいくらか紹介することとした。また、化石を手にとってその感触を肌で感じ取ってもらうため、化石にさわれるコーナーをかなり広く設置した。

カ 展示構成

1. 古生代の生き物たち —生物の爆発的発展—
2. 中生代の生き物たち —アンモナイトと恐竜—
3. 新生代の生き物たち —哺乳類の繁栄—
4. 化石にさわってみよう

キ 展示資料総数：約400点

ク 主な展示資料

リンボク、グロッソプテリス、四放サンゴ、腕足類、ウミユリ、ウミサソリ、甲冑魚、オウムガイ類、アンモナイト類、硬骨魚類、始祖鳥、カセキイチョウ、プロトケラトプス頭骨、ステゴロフォドンゾウ下顎骨、マンモスの牙、サーベルタイガー頭骨、他

ケ 関連行事

①展示解説会

日時：平成27年7月18日（土）13:30～14:30

場所：三春町歴史民俗資料館企画展示室

講師：福島県立博物館学芸員

②実技講座「化石標本をつくろう」

日時：平成27年7月25日（土）13:30～15:30

場所：三春町さくら湖自然観察ステーション研修室（三春町大字西方字石畑270-1）

講師：福島県立博物館学芸員

コ 成果と課題

・開催館の企画展示室が広めだったので、かなり充実した展示を構成することができた。また、広報宣伝や展示作業を始めとして、移動展の実施全般に関して開催館との緊密な協力体制を築くことができたため、企画段階から展示撤収までスムーズに運営することができた。

・スムーズな運営と裏腹に、入館者数は思いのほか伸びなかった。「見る・さわる 世界の化石」はこれまでに数回開催しているが、入館者数はいずれも1,000人をはるかに越えており、初回の旧梁川町ではパレオパラドキシア同時展示の効果もあったとはいえ4,000人以上の入館者を迎えている。入

館者が1,000人に満たなかったのは今回が初めてである。

・開催館が展示会場脇の休憩室にアンケートを設置したが、会期中の回答数自体が著しく少なく（10数枚）、しかもそのほとんどは周辺市町からの来館者による回答だった。したがってアンケートからは入館者が少ない原因を読み取ることができなかった。

・推測に過ぎないが、入館者が少なかった原因の一つとして、三春町が全町域に渡りほぼ化石が産出しない土地柄であるため、化石や古生物に興味を持ったことのある人口が少ないのではないかという点が挙げられる。他に、若年層の人口減少が思い当たる。

（3）移動展「藤井康文 恐竜イラスト原画展」

ア 会期：平成27年12月4日（金）～平成28年1月6日（水）

イ 会場：県立図書館展示コーナー（無料）

ウ 入館者数：1,015人

エ 担当学芸員 相田優、香内修、猪瀬弘瑛、竹谷陽二郎
オ 趣旨

本年度当初より、県立図書館から「県立図書館連携事業」への協力を要請されていた。これに対して、本年度当館で実施するポイント展「藤井康文 恐竜イラスト原画展」を図書館でも実施することを予定していた。その後、この展示を「県立博物館移動展」と銘打ちたいとの希望が図書館より寄せられたため館内で協議した結果、正式に当館の「移動展」扱いとして開催することとした。

カ 展示内容

著名な科学イラストレーターである藤井康文氏が当館に寄贈して下さった11点の恐竜イラストと、関連する標本を展示紹介する。

キ 主な展示資料

- ・恐竜イラスト 11点
- ・関連標本 5点

ク 成果と課題

・観覧者数は図書館側が人員を配置しカウンターで計数した。その結果、短い会期にもかかわらず千人以上の観覧者があったことが判明した。展示は評判が良かったよだとの感想が、図書館側担当者から聞かれた。

・図書館側では、イラストの展示と連動させて恐竜・古生物などの図鑑類、書籍などを展示しており、図書館でのコラボレーション事業として展示がうまく機能したと考えられる。

・図書館の展示コーナーはトピック展示を行うための小さなスペースであり、ストーリーのある展示はできない。そのため、今後も同様の連携を行う場合、取り上げることが可能なテーマはかなり制限されることに留意する必要がある。

5 指定文化財の公開

本館の展示で以下の指定文化財の公開を行った。（館蔵・寄託品などは除く）。

（1）国指定

該当なし

（2）県指定（福島県指定）

〈県重有民〉「旧修験岩崎家所蔵修験資料」のうち
9点（福島県相馬市 個人）

企画展「相馬中村藩の人びと」展示公開

6 展示解説

（1）展示解説員

平成26年度の展示解説員は13名で、前年度と変わらなかった。これに加えて前年度と同様に常設展示室内で2名分の監視員を委託できる予算を確保したが、展示解説員の増員を図ることができなかった。企画展についても、展示予算の中で監視員1名を予算化し、通常の展示解説員1名に監視員1名を交えた体制で展示室の対応をせざるをえない状況であった。

さらに、企画展開催時には企画展示室の入口のモギリに人数を割かれるなどするため、常設展示室内に対応できる人員が不足する状況が恒常的に続いている。これらの状況に対して、学芸員による解説活動を増やし、定数減の状況を乗り切る対策をとっている。

このような展示解説員の減員により、過去に実施されていた解説員が主となる講座などは、今年度も実施できない状況であった。

また、展示解説員は来館者に展示を解説・案内することが第一の役割であるが、定数減により展示解説員1人で対応しなければならぬエリアが広がった関係で十分な解説活動ができない場合が少なく、最低限の監視業務を行うので精一杯の状況であることが多かった。きめ細やかな展示解説活動をはじめとしたより質の高い行政サービスを保障するために展示解説員に対する研修を実施するなど、質的向上に向けた努力を行っているが、展示解説員の人数不足という量的課題については、引き続き検討をしていく必要がある。

展示解説員の業務は、総合ガイダンスと名付けられた受付での来館者への対応をはじめとして展示や館内の業務をよく知っている職員でなければ担当できない内容がほとんどである。現在の減員状況の中でどうか対応している状況であるが、現在の定数では通常業務を実施する上では限界の状態であり、来館者への解説サービスを考えた場合、定数増が図られなければ、本来の業務にも支障を来す可能性が出てくる。

ア やさしい展示解説

展示解説員による常設展の定時解説で、原則的に他の行事の入っていない土曜と日曜日の午前11時、午後2時の2回開催を基本に実施している。1回の所要時間は約30分。今年度のやさしい展示解説は5月16日から3月26日の期間実施した。

実施状況：実施日数：90日 総参加人数：110人

イ 通し解説

非定期的に行われる常設展・企画展の解説。主として来館の個人・団体の要望に応じて展示解説員1名が全体を解説するもの。解説員の減員のため、通し解説は困難になってきているが、予約の団体の要望にこたえる形で実施してきていることが多い。

実施回数：40回

ウ 部屋送り解説

非定期的な常設展・企画展の解説。主として来館する個人の要望に応じ、各展示室の担当として立っている解説員が順に引き継いで解説する。

実施回数：49回

エ 体験講座

体験講座などの解説員が主体となって実施する講座は、解説員業務に比して人数が少ないために平成26年度も実施されなかった。

ただし、七夕の時期には竹飾り、クリスマスには手製のクリスマスツリー、小正月に合わせての団子飾り、ひな祭りの時期に自作の雛人形の段飾りなど、解説員が自分たちで作ったものを体験学習室内に展示することは継続している。

また、ゴールドデンウィークを中心に時代衣装の試着体験に加え、期間限定で甲冑の試着体験も行うなど、体験的な活動の充実を図っている。

(2) 学芸員

企画展および特集展の開催中は展示解説のために職員を配置する場が増えることになり、展示解説員だけでは解説員の昼休みや休憩時間の減員に対応できない状況であるため、学芸員が代わって展示室に立つことになっている。原則1コマ45分である。27年度は年間で308回を数えた。学芸員が展示室に立つことは単なる解説員の肩代わりではなく、実際に展示室に立つことにより得るもの、気づくものが多かったが、通常業務とのバランスの点で今後の検討が必要である。

また、企画展、テーマ展、特集展については、公民館、研究団体などからの依頼に応じて、担当分野の学芸員が展示解説を実施した。

(3) 展示解説のための印刷物

ア 福島県立博物館常設展示解説図録

常設展の解説図録。昭和61年初版発行。106 p.

イ 福島県立博物館ガイドブック

常設展の展示内容をコンパクトに解説。裏方の館活動も紹介。昭和61年発行。28 p.

ウ Fukushima Museum Permanent Exhibition Guide Book

英文展示解説パンフレット。希望する来館者に無償配布。平成18年発行。14 p.

7 体験学習室

エントランスホール隣に設置してある無料で使用できる場所。囲炉裏のついた畳敷きの座敷と木のフローリングの部分がある。昔のおもちゃが用意されていて、自由に遊べるほか、季節ごとに昔の着物を着ることができる。着付けは衣服の上からだがかなり本格的で好評を得ている。また資料に触れるハンズオンコーナーは半年ごとの入れ替えになっている。この部屋には展示解説員が常駐し来館者に対応している。

(1) 衣装

ア 衣装着付け

体験学習室で時代衣装の着付け体験を行っている。着衣の

ままその上に着る形ではあるが、かなり本格的な衣装着付けであり、展示解説員は着付けの技術をきちんと学ばなければならないし、一回の時間もかかる。しかし、他の博物館ではここまできちんと着つけることはそれほど多くはないと思われる。当館の体験学習室のセールス・ポイントでもある。

(ア) 衣装着付け件数 530件

(イ) 着付けた衣装

春：打掛・番具足 夏：水干・半袴

秋：壺装束・町人旅姿 冬：山伏・白拍子

衣装の着付けはかなり本格的なものなので、そのため解説員の研修時間も多くかかるし、多人数の要望には一度に応え難い面もある。しかし、着終わった姿を鏡に映したり、デジカメで撮影したりして満足する来館者が多く見られる。

イ 衣装展示

春：大鎧・十二単 夏：稚児鎧・白拍子

秋：打掛・南蛮装束 冬：編綴・大工

イ 手作り資料展示

季節に関する手作りの資料を展示した。製作は展示解説員が担当。

7月：七夕飾り / 12月：クリスマスツリー / 1月：団子さし / 3月：手作り雛人形

ウ おもちゃ

畳の上で幼児におもちゃで遊ばせるお母さんや家族連れが多くみられる。壁の引き出しに用意されているおもちゃの利用も多い。修理を必要とするおもちゃもあり、解説員の係で担当している。

おもちゃの修理：50件

エ ハンズオンコーナー

来館者が展示品を実際に手に取り使用法を体験できるコーナー

会 期：平成27年4月～平成28年3月「古代の音色と輝き」（考古分野）

平成27年8月～平成28年3月「縄文土器パズル」（考古分野）

8 リニューアルチーム

将来の福島県立博物館リニューアルに向けて、福島県立博物館の課題の洗い出しとその対応策の検討の端緒をつけた。対応策の試行として平成28年度の福島県立博物館開館30周年事業を計画。展示・イベント・広報の各事業を立案した。

あわせて、リニューアルを実施した博物館・美術館の視察を実施し、新たな博物館・美術館の役割、リニューアルのコンセプト、リニューアルの成果等への情報収集を行った。

第6節 東日本大震災からの復興支援

平成23年3月11日午後2時46分、宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生した。震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200kmの広範囲に及んだ。福島県立博物館のある会津若松市は震度5強の揺れを被った。福島県立博物館では、建物の躯体そのものには被害はなかった。しかし、設備および資

料に若干の被害があり展示室の安全性の確認と修繕工事のため当面のあいだ休館とした。再開したのは平成23年4月12日（火）である。

福島県域は地震とそれに伴う津波、そして東京電力福島第一原子力発電所の事故により甚大な被害を被った。当館では、震災からの復興支援を目的として、平成24年度に新たに「ふくしまの文化・自然遺産の発掘と再生プロジェクト」を立ち上げた。これは次の3つの柱からなっている。

1 ふくしまの宝の発掘と保全

市町村や文化施設および大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・収集し、その価値を明らかにすることに努める。

2 ふくしまの宝の公開と活用

救出および新たに収集した文化財およびその研究成果をさまざまな形で県民に発信し、地域の誇りをとりもどすとともに、それらを教材として、ふくしまの未来を担う子供たちの育成を図る。

3 ふくしまの再生と活性化

文化施設や地域の文化団体、市民グループと連携し、文化資源を活用した地域おこし、文化的事業の開催など、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図る。

このコンセプトに基づいて復興支援の事業を展開している。平成26年度は次の事業を実施した。

1 文化財レスキュー

(1) 平成27年度の活動

ア レスキュー作業の体制

前年度から継続して、福島第一原発事故による旧警戒区域内の資料館が所蔵する資料のレスキュー活動を、「福島県被災文化財等救援本部」（以下「救援本部」、当館は副代表・幹事・事務局）が中心となって行った（打ち合せ・幹事会など5回実施）。文化庁、文化財防災ネットワーク推進本部の支援指導を受けた。イ 旧警戒区域内の資料に関する作業

「救援本部」の計画にしたがって、①南相馬市内の資料の移送（5月）、②双葉町仏堂資料の搬出（6月）、③浪江町の区有文書の保全（7～8月）などを実施した。

ウ 保管施設の環境調査委

旧警戒区域から運び出された資料を保管する福島県文化財センター白河館（まほろん）の仮収蔵庫の環境調査に協力した（2回）。

エ レスキューされた資料の展示公開

（ア）当館テーマ展「ふるさとの考古資料5【富岡町】遺跡探訪」（平成26年6月17日～平成27年5月10日）

（イ）当館テーマ展「ふるさとの考古資料6【飯館村】遺跡探訪」（平成27年6月20日～平成28年5月8日）

（ウ）当館企画展「被災地からの考古学1」（平成27年7月18日～9月13日）

（エ）当館企画展「相馬中村藩の人びと」（平成27年10月10日～11月29日）

（オ）当館移動展「被災地からの考古学1」（いわき市考古資料館 平成27年10月3日～12月14日）

（カ）当館移動展「被災地からの考古学1」（南相馬市博物館 平成28年1月16日～3月6日）

オ 研修会・研優会への参加

11月5日～6日に福島県博物館連絡協議会研修会が開催された（会場：アクアマリンふくしま）。その他、救援本部主催の研修会や、他県の一時保管施設の現地調査などに参加した。

(2) 震災から5年間のまとめと今後の課題

東日本大震災の発災から5年が経過した。各年次の活動内容は既刊の年報で紹介してきたが、これまでの5年間の取り組みをまとめ、今後の課題を記す。

ア 当館での被災文化財等の受け入れ状況

5年間で受け入れた件数は25件。受け入れた時期は、平成23年度がピークで、平成24・25年度は次第に減少し、平成26・27年度はなかった。平成23年度は、まさに緊急時の対応として件数が多いが、次第に各市町村の機能が復旧し救援本部の体制が整う中で件数は落ち着いていった。

受け入れの手続きは、平成23年度については「一時預かり」、その後は通常の受託（あるいは受贈）で対応した。保管場所については、平成23年度には臨時に考古作業室等を使用し、その後は通常通り収蔵庫へ移動させた。

受け入れ後に整理作業などを終えたものもあるが、未完了の資料群として、美術分野1件、歴史分野1件、自然分野2件、合計4件があり、今後継続して作業することが必要である。また、すでに返還したものもあるが、今後も旧警戒区域の再編・避難指示解除、復旧・復興の進み方に応じて返還してゆくことになるものもある。

イ レスキュー活動の実施状況

震災当初の平成23年度は、当館独自の活動と、ふくしま歴史資料保全ネットワークと連動した形でおもに活動し、平成24年度以後は、おもに救援本部の枠組みの中で活動した。被災地域や保管施設等へ出張して現地で活動した日数・人数については、下記の表の通りである。

年度	おもな内容	のべ日数	のべ人数
平成23	被災文化財・資料の調査・受け入れ、修復・整理、会議	25	57
平成24	会議、旧警戒区域資料館資料の搬出、保管施設の環境調査	52	108
平成25	会議、旧警戒区域資料館資料の搬出、保管施設の環境調査	58	128
平成26	会議、保管施設の環境調査、旧警戒区域学校資料等の搬出	33	61
平成27	会議、旧警戒区域仏堂・個人資料等の搬出	19	31

活動のピークは、平成24年度・25年度で、おもに旧警戒区域内の資料館（大熊町・富岡町・双葉町）資料の搬出作

業、保管施設（旧相馬女子高校等）の環境調査が、この時期に集中して行われた。その後、平成26年度・27年度は漸減した。

資料館所蔵以外の資料（学校など公的機関の資料、寺社・仏堂等の資料、個人所有の資料など）への対応は、各市町村からの要請を受けてサポートする体制をとりながら、今後も継続してゆく見通しである。

ウ その他の活動

レスキューした資料を、当館の企画展や移動展、あるいは常設展示内のテーマ展・ポイント展において展示公開した。また活動に関する報告会や研修会を企画したり、参加することがあった。

エ 今後の課題

震災後の5年の間に実施できたことの概要は、上記の通りである。東京電力福島第一原子力発電所事故によって住民の避難地域（旧警戒区域）が発生してしまった福島県においては、とり残された市町村の資料館資料を、県外からの多大な協力を仰ぎながら、組織的にレスキューできたことが、ひとつの大きな成果であった。今後の課題は、これらの資料が地域の歴史や文化を語る資料として、再び活用されるための場が創出されることである。

また、住民の方々の帰還や浜通り地域の復興が進む中で資料館所蔵以外の地域の様々な資料を、あらためて適切に保全してゆくことも、今後の重要な課題である。

今回の東日本大震災では、福島県としても、県立博物館としても、文化財の被災に備えたしくみや準備が十分にできていたとはいえない。ふたたび災害に襲われた場合に備えて当館の現状を点検し、改善すべきところや改善することや、県内の組織と連携した体制づくりを再構築してゆくことが、もうひとつの大きな課題になっている。

2 ふくしま応援ミュージアムイベント

従来実施してきたミュージアムイベントを、「ふくしま応援ミュージアムイベント」と名付け、被災された方々への励ましや、福島県を応援する意図をもったイベントを企画し実施した。

（1）玄如節と会津の民謡

ア 日 時：平成27年6月27日（土） 13：30～15：00

イ 会 場：エントランスホール

ウ 参加者数：85人

エ 共 催：玄如節顕彰会の皆さん

オ 内 容

玄如節は、即興の掛合で歌うのを基本とする会津の民謡の源流でもある。今回のイベントでは、会津や東北各県の民謡を唄と踊りをまじえて披露し、最後に玄如節がもとになって生まれたといわれる民謡「会津磐梯山」でしめくくった。

（2）市民盆踊り

ア 日 時：平成27年8月15日（土）19：00～20：30

イ 会 場：福島県立博物館 玄関前庭

ウ 参加者数：350人

エ 共 催：会津磐梯山盆踊り保存会

オ 内 容

博物館前庭に櫓を組み、会津磐梯山の歌に合わせて自由参加での盆踊り大会を開催した。踊りを通して、先の戦争やこの度の大地震でやむなく生命を奪われてしまわれた方々に、あらためて追悼と感謝の祈りを捧げた。

（3）夏休みナイトミュージアム

ア 日 時：平成27年8月22日（土）17時30分～19時

イ 会 場：福島県立博物館常設展示室

ウ 参加者数：80人

エ 講 師：当館学芸員 相田優・金澤文利・佐藤洋一

オ 内 容

いつもと違う雰囲気真っ暗闇な展示室の中を、懐中電灯の光を頼りに見学する「ナイトミュージアム」は、例年人気の高いイベントである。例年参加申込み者数が多いため、本年度は昨年度より定員を20名増員した。

（4）クリスマス！クラシックアンサンブルコンサート

ア 日 時：平成27年12月19日（土）13時30分～15時

イ 会 場：福島県立博物館エントランスホール

ウ 参加者数：244人

エ 出 演：会津室内楽団 アンサンブル Coderanni

オ 内 容

毎年恒例となっている12月第3土曜日のクリスマスコンサート。音楽好きの方々にも博物館に親しんでいただく機会とするため、10年来行っており、毎回好評を博している。今回は会津地域在住の方々13人にご出演いただき、モンティ作曲「チャルダッシュ」などのクラシック音楽に、「荒野の果てに」「きよしこの夜」などのクリスマスソングも交えて16曲の演奏を聴いていただいた。

3 復興応援パートナー事業

平成24年度より「中期目標」に新たに掲げた「14. ふくしまの再生と活性化」を実現するものとして「福島県立博物館復興応援パートナー事業」を実施した。

◎ふくしまの再生と活性化

博物館などの文化施設、地域の文化団体や市民グループが連携し、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図る。

被災者支援のための文化的事業の開催

（1）被災者を応援し元気づける文化的な事業の開催

（2）各種団体が企画する支援文化事業の受け入れおよび支援

この目標に該当し、福島県の文化や歴史、自然の豊かさを伝える事業、東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所事故に向き合い、福島復興や再生を考え、将来像を共有することを目的とした事業の開催をパートナーとしてサポートすることと定めた。

これにより、文化による復興支援事業の効果的でスムーズな開催運営を促し、県民がそれらに享受する機会をより多く創出する。また、県立の文化施設として福島県立博物館が福島県の文化的復興支援における役割・責務を果たすことも

目的とする。

●復興応援パートナー事業

No.	事業名	主催者・代表	日時	会場
1	「3.11 ふくしま復興への想いを込めて2016from 会津」	会津地方振興局	3月5日 (土)	講堂・体験学習室・中庭・エントランスホール
			参加人数	
			864人	

4 はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト 2015

(1) プロジェクト概要

昔を探り 今に向き合い 未来をつくる
 街に集い 森に分け入り 海辺にたたずむ
 思いを語り 心を描き ともに歩む
 今、結ばれる、はま・なか・あいづ
 ア 開催趣旨

2011年3月11日の東日本大震災、その後の東京電力福島第一原子力発電所事故により、福島県内には津波・地震による被害に加え放射線汚染被害、さらに、そこに由来するコミュニティの分断、風評被害が発生し、今なお多くの局面で復旧・復興が急がれています。

この状況から一歩でも前進するため、福島県立博物館と福島県下の各地域の博物館、文化事業に携わる大学、NPOなどの諸団体が連携し文化活動の支援を行うことを目的に、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトを2012年にスタートしました。

2012年度は、地域への愛着を象徴するような文化財の活用配慮し復興につながる文化的事業の継続的な展開をめざしました。

2013年度は前年度の実績を踏まえ、事業をさらに発展させるとともに、福島県立博物館と地域との協働、他分野との連携・融合、地域へのアウトリーチを積極的に推進しました。

2014年度は、震災後4年目の福島に必要な文化的な事業を、各団体との協議の上で計画し、福島の文化の豊かさの再認識福島の現状の共有と発信を柱に実施しました。

震災後、数年間が経過し、被災者がおかれている環境、福島県民が被っている精神的な負担の状況は変化しています。また、県内各地域が抱える問題・課題の差異が時間の経過と共に際立つようになり、福島県を地理的に区分する「はま・なか・あいづ」それぞれの地域の問題・課題への丁寧なりサーチと対応が必須となってきています。

2015年度はそれらの解決につながるアプローチとなることを目的に、8つのプロジェクトを展開しました。

イ コンセプト

福島の文化を再発見し伝えること。新たに創造すること。

福島には、長い時間の積み重ねの中で生まれ、継承されてきたさまざまな文化があります。

それらは、はま・なか・あいづ各地域、海の、街の、山の豊

かな表情を持っています。

福島の文化にあらためて出会い、福島で大切にされてきた生き方、暮らし方、考え方を知り、学ぶ。

それは、今、この国に生きる私たち、未来に生きる子供たちにとって大事な示唆となるはずで

福島文化を再発見する。

そして、それを伝え、みなさんと共有する。

そこから、未来へとつながる文化の創造の可能性が広がります。

福島が直面する課題を共有し、みなさんと考える場を生み出すこと。

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故によって福島は多くの課題に直面し、今なお苦悩しています。

その苦しみの多くは、しかし、私たちの暮らしと社会のあり方のきしみでもあります。

福島がおかれた状況は、ひとり福島だけのものではなく、やがて来るこの国の未来の姿の一部でもあるのです。

過去に学び、現在に向き合ってこそ、私たちは未来を創造することができます。

福島の課題を知り、思いを語り、ともに考えること。

そこから、進むべき道が見えてくることを信じて、私たちは、はま・なか・あいづの文化を結び、福島とあなたを結びます。

ウ 開催概要

(ア) 実施期間：2015年4月9日～2016年3月31日

(イ) プロジェクト活動期間：2015年4月22日
～2016年2月29日

(ウ) 参加アーティスト：約20人

(エ) 主な活動エリア：南相馬市、浪江町、大熊町、いわき市、飯館村、福島市、西郷村、石川町、喜多方市、会津若松市、西会津町、三島町、他

(オ) 主催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

(カ) 構成団体：南相馬市博物館／福島大学芸術による地域創造研究所／福島大学うつくしまふくしま未来支援センター／いいたてまでいの会／NPO法人まちづくり喜多方／福島県立博物館

(キ) 協力団体：南相馬市国際交流協会／南相馬市市民活動サポートセンター／NPO法人まちづくりNPO新町なみえ／ふくしまキッチンガーデン運営協議会／NPO法人西会津ローカルフレンズ／NPO法人Wunder ground

(ク) 実行委員会委員長：赤坂憲雄（福島県立博物館長）

(ケ) 事務局：福島県立博物館

(コ) 助成：平成27年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

(2) プロジェクト

1. プロジェクト成果展（長野県大町市）
2. プロジェクト成果展（静岡県静岡市）
3. プロジェクト成果展（京都府京都市）

4. プロジェクト成果展（静岡県浜松市）
5. 記憶の紡ぎ場 南相馬コミュニティ創造プロジェクト
6. 記憶の紡ぎ場 暮らしの記憶プロジェクト
7. 記憶の紡ぎ場 相馬野馬追の記憶プロジェクト
8. 記憶の紡ぎ場 いわきセタプロジェクト
9. 記憶の紡ぎ場 飯館村の記憶と記録プロジェクト
10. 〈北〉を学び、知るプロジェクト
11. 福島祝いの膳プロジェクト
12. 夢の学び舎プロジェクト いわき学校プロジェクト
13. 夢の学び舎プロジェクト いいたて学校プロジェクト
14. 夢の学び舎プロジェクト 浪江学校プロジェクト
15. 岡部昌生フロッタージュプロジェクト
16. 福島写真美術館プロジェクト
17. 「黒塚」発信プロジェクト
18. グランド・ラウンドテーブル

実行委員会

1. プロジェクト成果展

（1）大町市会場

2015年度は県外4ヶ所で、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの成果展を開催した。2012年度から継続している事業成果の公開は、震災と原発事故の風化・忘却が進む近年積極的に展開すべきものとする。2015年度は、本プロジェクトに参加した写真家・アーティストらの協力を得て県外諸団体との連携で成果展を開催できた。関係者各位に深く感謝したい。

長野県大町市では、福島写真美術館プロジェクト参加写真家の本郷毅史氏の協力により大町市教育委員会と本プロジェクト実行委員会の主催により大町市のギャラリー・いーずらを会場に初の県外展を開催できた。会期中開催したギャラリートークは福島の実状と教訓を伝える場となった。大町市に避難した大熊町の方にお会いできたことは、成果展の一つの使命を示されたようであった。

ア 会 期：2015年7月31日（金）～8月23日（日）※月曜日休館

イ 会 場：ギャラリー・いーずら（長野県大町市3300-1）

ウ 協 力：大町市美術振興専門委員/原始感覚美術実行委員会/信濃大町食とアートの廻廊実行委員会

エ 主 催：大町市教育委員会/はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

（2）静岡市会場

静岡県静岡市では、夢の学び舎プロジェクト参加アーティストの乾久子氏と静岡大学平野雅彦教授、会場となった金座ボタニカの下山晶子氏らの協力を得て、かつての会社社員寮をリノベーションしたアートスペース金座ボタニカで開催した。乾氏・フードデザイナー中山晴奈氏（福島祝いの膳担当）・静岡大学教授白井嘉尚氏・赤坂憲雄実行委員長が登壇したトークセッションは満員の参加者で、赤坂委員長からの提言「福島を自分の事に」を真剣に持ち帰ってくださった。

ア 会 期：2016年1月9日（土）～1月22日（金）※1月11日、1

2日、18日、19日は休廊

イ 会 場：金座ボタニカ3F・4Fアートスペース（静岡県静岡市葵区研屋町25）

（3）京都市会場

京都市の京都造形芸術大学ギャラリー・オーブで開催した成果展「FUKUSHIMA SPEAKS」は、本プロジェクト実行委員会と京都造形芸術大学の主催。福島写真美術館プロジェクト参加作家華道家・片桐功敦氏のキュレーションで開催した同展は広い展示空間を利用し福島写真美術館参加作家の赤阪友昭氏・安田佐智種氏・片桐功敦氏・本郷毅史氏と岡部昌生フロッタージュプロジェクトの岡部氏作品を展示した。5回のクロストークを開催し、福島の記憶が薄れつつある関西圏で積極的な発信を行なった。

ア 会 期：2016年1月22日（金）～1月31日（日）

イ 会 場：京都造形芸術大学ギャラリー・オーブ（京都市左京区北白川瓜生山2-116京都造形芸術大学人間館1F）

ウ 主 催：京都造形芸術大学/はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

（4）浜松市会場

最後の成果展は静岡県浜松市の鴨江アートセンターで開催した。同時に開催されていた飯館村の暮らしを伝える「いいたてミュージアム」とも共鳴し、浜松市のNPO法人クリエイティブサポートレッツのみなさんの積極的な参加もあった。

最終日にトークセッション「福島でレジデンス制作をすること」を開催、南相馬市で数ヶ月の滞在制作を行なった華道家・片桐功敦氏、福島の水源域をたびたび踏査して撮影している本郷毅史氏が福島で制作することの意義と課題について語り合った。

ア 会 期：2016年2月18日（木）～2月28日（日）※2月22日は休館

イ 会 場：鴨江アートセンター

ウ 主 催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

エ 主 催：鴨江アートセンター

オ 協 力：NPO法人クリエイティブサポートセンターレッツ

（5）南相馬コミュニティ創造プロジェクト

入居者が減る仮設住宅、今後増加する災害復興公営住宅などで予想されるコミュニティの課題に取り組むためにコミュニケーションアーティスト開発好明氏により提案されたプランが「愛銀行」。コミュニケーションのためのお金が要らない銀行を仮想したアートワークショップである。参加者はまず自分の「できること」「やってみたいこと」を考える。

次に、お互いに出し合った「できること」「やってみたいこと」を組み合わせて実現することを考える。さらに、実現の方法を考えて、実際に行動する。参加を通して自分を愛し他者を愛する体験をする。

「愛銀行」ワークショップによる、災害復興公営住宅等の入居者の方々の語らいの場、新たな交流のきっかけを創出することを目指し、数度の公開ミーティング、試行ワークショ

ップを行なった。南相馬市では、これまで、はま・なか・あ
いづ文化連携プロジェクトに御協力いただいた市民の方を中心
に、手法、課題、効果について話し合い、現地コーディネ
ーターの必要性が重要とされた。その後、福島大学渡邊晃一
教授の協力を得て、福島大学で試行ワークショップを行なっ
た。学生3~4名が一組となり、4組のチームでワークショップ
に取り組んだ。あるチームは、「誕生日会をやりたい」「
餃子を作れる」「似顔絵を描ける」という「できること」「
やってみよう」とが集まり、その場にあった黒板、コピー
用紙などを利用して即席の餃子パーティーが開かれた。プレゼ
ントは黒板に描かれた似顔絵である。また、別のチームには
「手芸店を開きたい」という「やってみよう」に対して
「手芸が趣味で教えられる」という「できること」が見事に
マッチし、その場で手芸教室が始まった。「海外旅行がした
い」「歌を唄いたい」「楽器を演奏できる」がそろったチ
ームでは即興で世界一周の歌が生まれた。

試行ワークショップを通じて、同じ専攻の学生のように親
しい者の間にもある意外な一面を互いに知り、尊重すること
で、より関係性を深めることができる手応えを感じた。避難
が長期化している仮設住宅のサロン活動などで効果が期待で
きるだろう。

試行ワークショップを経て、南相馬市でのコーディネ
ーターを探したが、それ以降の事業展開には至らなかった。本
事業では試行ワークショップにより手法を確立することができ
たが、その後も「愛銀行」の活動は開発氏により続けられて
おり、個展などでの発表により福島の現状が発信されている
ことに感謝したい。

〈試行ワークショップ〉

ア 開催日時：2015年10月2日（金）

イ 会場：福島大学美術棟

（6）暮らしの記憶プロジェクト

「ここが縁側で、こうして庭を眺めました。」「あの頃は
こんな夕陽は見られませんでした。」現地インタビューに御
協力いただいた浪江町のKさんは、このような言葉を聞かせて
くださった。

「暮らしの記憶プロジェクト」は2014年度に「福島写真美
術館プロジェクト」に参加したアーティスト安田佐智種氏の
プロジェクトを継続、更新したものである。「福島写真美術
館プロジェクト」で取り組んだのは津波で流失した住宅基礎
を素材にした作品制作であった。復旧作業により被災地の整
地が進み、残された住宅基礎の遺構も姿を消している。それ
は、津波で奪われた暮らしの痕跡、土地の記憶、そこにあっ
た暮らしを消し去ることでもある。2015年度はこれまでに制
作した作品の素材となった住宅の住民の方からそこで営まれ
ていた当時の暮らし、現在の住宅での暮らしの様子をお聞き
し、震災と東京電力福島第一原子力発電所事故によりしいら
れた被災地と被災者の変化をアーカイブ化することを目指し
た。冒頭のKさんの言葉は浪江町請戸のかつての御自宅跡での
インタビューの際の言葉である。当日は美しい夕陽の中、作

業を終えた。インタビューはまず作品の素材となった住宅の
かつての住民を探すことから始まった。住宅地図をてがかり
に浪江町役場、南相馬市小高区の区長さんを訪ねて情報を収
集、住民の方々をご紹介いただいた。数名の方に連絡し、避
難先、元の住宅跡などでインタビューを行い、かつての住ま
い、現在の住まいの見取り図を描いていただきながらその状
況を録音・録画した。8名のインタビューは書き起こしテキ
スト化されている。今後さらに映像編集がなされ作品化され
る予定である。

本事業は大規模な復旧事業の中でともすれば見過ごされ
記録されることもない多くの被災者の個人史と地域の記憶を
美術作品としてとどめ後世に残す貴重な事業である。被災の
状況、現在の状況によって被災者の方々の心情はさまざま
である。インタビューは細心の配慮と注意をもってなされる
べきで、プライバシー保護にも慎重でなければならない。デリ
ケートな交渉・調整にあたっていただいた南相馬市、浪江町
の関係者の方々、そしてなによりインタビューに応じてくだ
さった皆様と安田氏に深く感謝申し上げる。

（7）相馬野馬追の記憶

写真家高杉記子氏は、震災後、国指定重要無形文化財相
馬野馬追に出会った。2012年の福島写真プロジェクトに参加
し、その後も、祭りに参加する騎馬武者の方々を丹念に取材し
ポートレートを撮り続けている。現在は騎馬武者の方々と信
頼関係を構築し、震災後も絶えることなく地域の誇りとして
続けられた祭りの魅力とそれを取り巻く人々の思いを記録し
ている。その蓄積は地域の文化資産としての意義を持ち始め
ており、2015年度はこれまでに撮影されたポートレートを
展示する展覧会「野馬追ダイアログ」を南相馬市民文化会館
ゆめはっとギャラリーで開催。地元で公開の機会がなかった
作品を紹介することができた。

合わせてモデルとなった小高区を中心とする騎馬武者の
皆さん、モデレーターの南相馬市博物館学芸員二上文彦氏
によるトークセッション「小高ダイアログ」を開催した。騎
馬武者によるトークイベントは地元南相馬市でもこれまで
開催されることはなく、ポートレート作品を仲立ちとしたア
ートプロジェクトの繋ぐ力によって実現したイベントであ
った。今回築かれた関係性は今後の制作と野馬追のさらなる
追跡に活かされていくことだろう。

ア 展覧会「野馬追ダイアログ」

（ア）会 期：2016年2月3日（水）～2月12日（金）

（イ）会 場：南相馬市民文化会館ゆめはっとギャラリー
イ トークセッション「小高ダイアログ」

（ア）開催日：2016年2月11日（木・祝）

（イ）会 場：南相馬市民文化会館ゆめはっとギャラリー

（ウ）出 演：阿部裕真氏（御小人頭、小高郷騎馬武者）
佐藤邦夫（小高郷騎馬会長）

高島絹代（前小高商工会女性部長）

本田信夫（前三社五郷騎馬会長、土魂会会長）

山澤 征（小高区行政区長会長、相馬野馬追小高区執行委員

長)

鎌田真吾 (小高郷騎馬武者)

モデレーター：二上文彦 (南相馬市博物館学芸員) ・高杉記子 (写真家)

(8) いわき七夕

地域の祭礼の活性化とアートによる復興公営住宅のコミュニティ支援の両者を目標としたプロジェクト。いわき駅前商店街で開催される七夕まつりは、自由で創造的な飾りの造形に特徴があり、この地域を代表する行事として親しまれている。しかし他地域同様商店街の賑わい創出に取り組みねばならない状況であり、七夕まつりにも何らかの活性化が求められていた。一方、震災の津波とその後の東京電力福島第一原子力発電所事故による多くの避難者がいわき市内に避難しており、さまざまな軋轢が地域に生じてしまっている。本プロジェクトの舞台となったいわき市小名浜の下神白団地をはじめ復興公営住宅への移転にともなうコミュニティの再建も大きな課題である。下神白団地は原発事故による4町からの避難者が別々の棟に入居し、さらに隣接していわき市の津波被災者が入居する団地が建設されている。入居者には独居の高齢者も多くコミュニティの再生が求められていた。そこで、団地入居者が七夕飾りの制作によっていわき七夕へ参加することで、団地内でのコミュニティの創出と七夕まつりの活性化につながるのではと考えた。

そこで、NPO 法人Wunder ground、NPO法人3.11被災者を支援するいわき連絡協議会、アーティスト竹内寿一氏が中心となり団地集会所で七夕飾りを制作した。七夕に参加するという目的意識、人と交流する楽しみ、ものを作り上げる喜びを共有することを大切に、アーティストやスタッフは寄り添う姿勢で臨んだ。完成した七夕飾りには参加者のさまざまな故郷が融合し、審査員特別賞を受賞した。

もちろん受賞が目的ではない。地域の祭礼を素材にアートが介在することで新たなコミュニティを創造できた。今後、同様の課題に向き合う際のサンプルとなりえるだろう。

七夕参加の後も、参加者はカフェ、おでん屋台、ベンチなどに取り組んでいる。コミュニティは次第に自立した創造的な場に成長している。こうした取り組みへの支援は七夕プロジェクトから別のアートプロジェクト (福島芸術計画×ART SUPPORT TOHOKU TOKYO) に引き継がれた。アートプロジェクトの協働という点からも本プロジェクトの意義は小さくなかったと思われる。

また、下神白団地での七夕飾り作りワークショップと並行していわき市平のアートスペースで行った、一般参加の七夕飾りワークショップには、地域の子どもたちなどが参加。地域の素材に取材した七夕飾りのテーマとして、いわき市に所在する海洋水族館アクアマリンふくしまが調査を行っているシーラカンスを選択。アーティスト竹内寿一氏と制作協力のいわき市の芸術集団十中八九が、参加者のアイデアを形にするサポートを行った。2015年8月に行われた七夕祭りには、下神白団地、平のアートスペース双方で作られた七夕飾りが

並んで掲げられ、原発事故避難者とその受け入れ地域であるいわき市住民の交流の場ともなった。平のアートスペースもまた審査員特別賞を受賞。ダブル受賞自体が、両者の交流のシンボルともなった。

ア 下神白団地復興公営住宅七夕飾り制作ワークショップ

(ア) 日 時：2015年6月25日 (木)、7月6日 (月)、7月13日 (月)

(イ) 会 場：下神白団地復興公営住宅集会所

(ウ) 講 師：竹内寿一

(エ) 講師補助：横山典子 (造形作家)

(オ) 共催：NPO法人3.11被災者を支援するいわき連絡協議会

(カ)：NPO法人Wunder ground/福島芸術計画×ART SUPPORT TOHOKU TOKYO/平商店会連合会

(キ) 主催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

イ 平七夕飾り制作ワークショップ

(ア) 日 時：平成27年 7月4日 (土)・7月5日 (日)・7月11日 (土)・7月19日 (日)・7月26日 (日)・8月2日 (日)

(イ) 会 場：もりたか屋

(ウ) 講 師：竹内寿一

(エ) 講師補助：宮本洋平 (造形作家)

(オ) 協力：NPO法人Wunder ground/NPO法人3.11を支援するいわき連絡協議会/平商店会連合会

(カ) 制作協力：十中八九 (芸術集団)

(キ) 主催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

(9) 飯館村の記憶と記録

本プロジェクトでは東京電力福島第一原子力発電所事故により全村避難をしている飯館村のみなさんへの聞き書き調査と、写真家の岩根愛氏による村人の話しの中の重要な場所、思い出の場所での360度風景写真の撮影を行った。避難が長期化する中で、大事な場所、思い出の場所の景色は変容し、除染活動による変化も日々進んでいる。そのような飯館村の現在を記録し、伝える事業だった。

また、飯館村の現状を広く伝える機会として現地視察ツアー「飯館村の試みと未来」を二日間にわたって開催した。両日とも定員が埋まるバスで飯館村内の除染現場、小規模太陽光発電所、試験農場、警戒区域ゲートなどを回った。一日目は農業を通して村の復興と現状発信に尽力する菅野宗夫氏のお話を現地でうかがった。二日目は飯館村文化財保護審議会委員の佐藤俊雄氏にバスに同乗していただき村内を回った後、福島市で飯館村を支援しているいいたてまでの会主催の「いいたてミュージアム」を見学し解散した。

東京電力福島第一原子力発電所からは40km以上離れているにもかかわらず原発事故による放射能汚染でいまだ全村避難状況にある飯館村では広大な地域で除染作業が行なわれており、村の景観は大きく変貌している。福島県内では良く知ら

れているこうした状況も県外には十分に伝わっておらず、参加者には少なからず驚きだったようだ。

参加したアーティストや静岡県NPO法人メンバーは、この体験がきっかけとなり、福島の現状に深く関心を持ち、静岡県内での成果展に結びついていった。ツアーからの波及効果はこのように大きく、今後も必要とされている事業である。

ア 現地視察ツアー「飯舘村の試みと未来」

(ア) 日 時：平成27年11月7日(土)

8日(日) 12:30～17:00

(イ) 開催地：飯舘村

(ウ) 講師：菅野宗夫(農業・ふくしま再生の会)、佐藤俊雄(飯舘村文化財保護審議会委員)

(エ) 主催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

(10) 〈北〉を学び、知るプロジェクト

東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故によって傷ついた福島、東北の復興のためには、自らの足下を見つめ直し掘り起こすことが必要である。そのことによって震災と原発事故で何が失われ、何を回復しなければならないのかが分かるはずだ。「〈北〉を学び、知る」プロジェクトは福島・東北の精神性、アイデンティティを学ぶ開かれた場と機会を創出する。

今年度は、エクスカージョン・シンポジウム・トークセッションからなる2日間のプログラムを喜多州市山都町(旧山都町)・昭和村で行なった。最初に地域史研究者とこの地域で活動実績のあるアーティスト丸山芳子氏・千葉奈穂子氏が講師を勤めエクスカージョンを実施、山岳信仰の足跡を山都町地区に探った。同日後半は「北を学ぶということ」をテーマに人類学者・石倉敏明氏、地域のまちづくり活動実践者IORI倶楽部事務局長・金親丈史氏、東北芸術工科大学大学院生でチュートリアル活動「東北画は可能か？」に参加する石原葉氏・久松知子氏が講師を勤め、それぞれが東北、北方についての取り組みを語った。

翌日はフィールドを昭和村に移し、「カラムシと民俗」をテーマにエクスカージョン、「昭和村に暮して」をテーマにトークセッションを行なった。カラムシ栽培とその商品化、織り姫と呼ばれる後継者育成事業に長年取り組んできた昭和村では、後継者による積極的なカラムシへの取り組みが行なわれる一方、農家民宿などを中心に食文化などの地域文化が大切に扱われている。参加者同様、参加者を受け入れた昭和村の担当者も村の文化にあらためて気付く機会となったのではないだろうか。同じ福島県会津地方でも個性的、特徴的な地域は多く存在する。今後はそうした地域同士が学びを通して結び付く事業展開も可能だろう。

ア 〈北〉を学ぶ エクスカージョン・シンポジウム・トークセッション

(ア) 開催日：平成27年8月27日(木)、28日(金)

(イ) 会場：大和川酒造北方風土館 良志久庵、織姫交流館
8月27日(木)

・13:00～16:30 エクスカージョン「山と暮らし」

(ウ) 講師：小澤弘道(前喜多州市文化課長・会津坂下町史編纂室専門員)・丸山芳子(美術家)

・17:00～19:00 シンポジウム「北を学ぶということ」

(ウ) 講師：石倉敏明(秋田公立美術大学教授)・石原葉・久松知子(東北芸術工科大学大学院・東北画は可能か?メンバー)・金親丈史(IORI倶楽部事務局長)

モデレーター：丸山芳子

8月28日(金)

・9:00～12:30 エクスカージョン「カラムシと民俗」

(ウ) 講師：舟木由貴子(渡し舟主宰・元織姫)、千葉奈穂子(写真家)

・14:00～15:30 トークセッション「昭和村に暮らして」

(ウ) ゲスト：千葉奈穂子(写真家)・皆川キヌイ(農家民宿 やすらぎの宿とまり木経営)・菅野博昭(かすみ草専業農家・昭和花き研究会会長)・舟木由貴子

モデレーター：丸山芳子

(エ) 主催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

(11) 福島祝いの膳プロジェクト

福島では農水産物、食の安全・信頼が東京電力福島第一原子力発電所事故により大きく傷つき、いまだ回復の途上にある。こうした課題を抱えてはいるが、福島の食文化は実に豊かな広がりを持っている。県内各地での食材・食文化リサーチを継続しており、2015年度は、檜枝岐村・いわき市・南相馬市でリサーチを行なった。檜枝岐村ではハコネサンショウウオの漁を続けている方から漁法と加工法の聴き取りを行なった。いわき市では水産業と水産物の現状を調査した。東京電力福島第一原子力発電所からの汚染水により操業が制限されている福島県内の水産業であるが、カレイなど多様な魚種と加工法があることが確認できた。南相馬市では、南相馬市博物館の協力を得て、南相馬市小高区の浦尻貝塚資料から縄文時代の食文化についてレクチャーを受けた。

調査・制作期間：平成27年8月、平成28年1～2月

(12-1) 夢の学び舎プロジェクト いわき学校プロジェクト

豊間ことばの学校

津波被害を受けたいわき市豊間地区。辛くも難をまぬがれたいわき市立豊間小学校は、地域の拠点として震災後支援の受け入れ先の役割も果たしてきた。落ち着かない中での学校生活が続くにつれ、児童たちの学力低下が認められるようになった。そこで学校がはじめたのは児童の「ことば力」を培うことだった。教科の学習濃度をあげるのではなく、自らの考えを言語化する能力、相手の言葉を理解する能力をつけることがすべての教科の学力アップに繋がると考えたからだ。その取り組みをアートプロジェクトの切り口で支援したのが「豊間ことばの学校」。様々なジャンルの表現者が講師役を担い、多様なアプローチで児童たちの表現力を開放していった。

第1回の講師はアーティストの乾久子さん。ワークショップ「くじ引きドローイング」は、ある人が書いた言葉のくじを引いた人が、その言葉から想起する絵を描く（ドローイングをする）というもの。乾さんが静岡県から持参したくじを豊間小学校の児童が引き言葉がもたらすイメージを描いた。豊間小学校の児童が記したくじは後に静岡県でのワークショップで使われ、ワークショップを通じた福島県と静岡県の子どもたちの応答ともなった。

第2回、第3回の講師は俳優のカタヨセヒロシさん。即興芝居、即興パフォーマンスを得意とするカタヨセさんに導かれて、言葉と身体表現のキャッチボールをしながら子どもたちは言葉の瞬発力を鍛えた。第3回では、グループにわかれて台本を作成。何をどのような言葉と身体で演じるかを自分たちで考え、試みた。

第4回、第5回の講師はNPO法人芸術資源開発機構(ARDA)に所属し、対話型美術鑑賞を行っている鑑賞コミュニケーターのみなさんが講師。東西の名画をカードにしたアートカードを用いて感想の言葉を紡いだり、海辺の小学校である豊間小学校のために選曲されたドビュッシーの「海」を聞いてイメージする絵を描いたり。複数のコミュニケーターが対応することで、子どもたちの表現力が丁寧に引き出された。豊間ことばの学校には、1年生から6年生までの全学年から希望者30名（1学期実施の第1回のみ27名）が参加。回を重ねるにつれ、自発的に言葉を発し、自由に表現を楽しむ姿が印象に残るようになった。スタート時に課題としてあった児童たちの学力の低下は解消し、向上していることを学校から嬉しい成果としてお聞きしている。

ア くじ引きドローイング／ことばと絵のリレー

(ア) 日 時：2015年7月10日（金）14:30～16:00

(イ) 講 師：乾久子

イ ことばとカラダ 感じて動いて、みんなの物語をつくらう

(ア) 日 時：平成27年10月30日（金）14:30～16:00・11月6日（金）14:30～16:00

(イ) 講師：カタヨセヒロシ

ウ 音楽で何がみえる？音を描こう

(ア) 日 時：2015年12月11日（金）13:40～15:10

(イ) 講 師：ARDA

エ みてみてはなそう！絵の世界

(ア) 日 時：2015年12月18日（金）14:30～16:00

(イ) 講 師：ARDA

(12-2) 夢の学び舎プロジェクト いわき学校プロジェクト

好間土曜学校～アートな自然～

福島県の太平洋側の南端にあるいわき市には、東京電力福島第一原子力発電所事故から避難した人々が多く移り住んでいる。事故当時、遠方に避難した人も何度かの転居の後に、県内でも特に故郷と気候風土が近く、かつ便の良いいわき市を居住地に選択することが多いからだ。

いわき市立好間第一小学校の学区にも複数の仮設住宅がある。避難してきた児童と受け入れ地域の児童が、自然に仲良くなる場をつくりたいという学校の課題に応じて実施されたのが「好間土曜学校」。休日の土曜日に開催する学校の学びのテーマには「自然の素晴らしさ」を掲げた。複数の表現者が講師となり、それぞれの表現手法でテーマを学び、創造を楽しむ授業を行った。

第1回の講師はアーティストの吉田重信さん。会場は広い窓を持つ廊下。赤・青・黄色のカラーシートを思い思いの形に切って窓に貼り付けた。カラーシートは、太陽の光を受けて廊下に影をつくる。影の形や濃淡から、太陽の運行や光の強さと影の関係を実感できた。

第2回の講師は陶芸家・美術家の出町光識さん。校庭で自分が気になる自然のかけらを集めた後、自然の歴史の産物でもある土を捏ねて好きな形の器をつくり、校庭から集めた葉、枝、木の実などを押し当てて、自然の足跡をつけた。

第3回の講師は美術家の河合晋平さん。人工物であるピンやチューブを素材にイモムシを制作。人工物を素材に自分の中から生まれる生き物。人工と自然について感じ取りながらつくったイモムシは、いわき市の形の葉っぱを食べているように展示した。

第4回の講師は書家の千葉清藍さん。いわき市を流れる夏井川の水と福島県産の油と和紙を使って墨流しを行った。福島には自然の恵みでできた豊かな産物があること、地域の水の大切さを学びつつ、偶然性の中で生まれる模様を楽しんだ。

第5回の講師はなにわホネホネ団の西沢真樹子さんと浜口美幸さん。ゲスト講師は地質・化石研究者の竹谷陽二郎さんと鈴木直さん、アーティストの吉田重信さん。いわき市で発見されたフタバサウルス（フタバズキリュウ）について、竹谷さんとフタバズキリュウの化石の発見者である鈴木さんのお話を聞いた後に、骨からわかる生き物の骨格について西沢さんと浜口さんがレクチャー。吉田さんのアドバイスを受けながら実物大のフタバサウルスの貼り絵を制作。いわき市の太古の生き物を学びつつ楽しく作ったカラフルなフタバサウルスが校内に展示された。

好間土曜学校には、4年生から6年生までの希望者約40人が参加。創造を楽しみつつ、自然の多様な姿や地域の歴史などを学んだ。自然や歴史の要素を取り込んだアートワークショップの可能性を感じさせるプログラムだった。

ア 光の鳥と好間の空

(ア) 日 時：平成27年7月4日（土）9:30～11:30

(イ) 講 師：吉田重信

イ テトテトハアト葉っぱの足跡をお皿に残そう

(ア) 日 時：2015年10月10日（土）9:30～12:30

(イ) 講 師：出町光識

ウ いわきの水と墨で福島の紙にもようをつけよう！～夏井川の水で墨流し～

(ア) 日 時：2015年11月7日（土）9:30～12:30

(イ) 講 師：千葉清藍

**エ プリオルガノンのつくり方～イモムシの気持ちになって
大好きないわきを食べよう！**

(ア) 日 時：2015年12月12日(土) 9:30～12:00

(イ) 講 師：河合晋平

**オ 実物大!?フタバサウルの海をつくろう～はりえで復活
むかしの生きもの～**

(ア) 日 時：2016年1月30日(土) 9:00～12:00

(イ) 講 師：なにわホネホネ団

ゲスト講師：鈴木直、竹谷陽二郎、吉田重信

(13) 夢の学び舎プロジェクト いいたて学校プロジェクト

東京電力福島第一原子力発電所事故により全村避難となった飯館村。世代を渡って受け継がれてきた地域の文化が断絶することを止めようと、飯館村立飯館中学校が2012年からはじめたのが、村民から村の文化を学ぶ「ふるさと学習」だった。毎年1年生は伝統芸能の田植踊りを学び、2年生は昔語りを聞いて紙芝居を作成。3年生は味噌作りを体験してオリジナルの味噌料理レシピを考えている。

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトでは、最も難易度が高い伝統芸能を学ぶ1年生に田植踊りの本来の意味を実感する機会を設け、その活動の様子、生徒たちの変化などを捉えた映像作品の制作を行う支援を行った。

飯館村には9つの田植踊りがあった。飯館村の田植踊りは、小正月に行われるその年の豊作祈願の踊りだ。数の多さは寒冷な飯館村が稲作に厳しい環境だったことを裏付ける。田植踊りは、単に踊りというだけでなく、厳しい環境でも土地を耕し、作物を育て、文化を積み重ねてきた故郷の歴史を伝えるものでもある。

集落の家々をめぐる祈りを捧げてきた田植踊り本来の姿を体験する古民家公演には、年間を通じて田植踊りの指導にあたっている保存会のみなさんをはじめ、衣装の着付け、会場利用などで村内外の多くの大人の協力もあった。

中学校入学したての5月から田植踊りを学びはじめ、仮設住宅や村の敬老会で披露し村のお年寄りたちから感謝を受け、次第に村の文化を受け継いでいる自覚を持つようになる生徒たちの変化は、カメラマンの赤間政昭さんが丁寧に追いかけた。現在の飯館村の風景を織り交ぜた映像作品は、飯館村の今を、今の日本に、そして将来の生徒たちに伝えることだろう。

ア 田植え踊り古民家公演

(ア) 日 時：平成27年12月10日(木) 14:45～15:45

(イ) 会 場：境野家

(ウ) 撮 影：赤間政昭

(エ) 踊 り：飯館中学校1年生

(オ) 踊り指導・伴奏：飯館村飯樋町田植え踊り保存会の皆さん

(カ) 着付け協力：飯樋町の皆さん

(キ) 振付協力：小林由佳(振付師・ダンサー)、手代木花野(振付師・ダンサー)

(ク) 協力：いいたてまでの会

(14) 夢の学び舎プロジェクト 浪江学校プロジェクト

浪江町立浪江小学校と津島小学校は、東京電力福島第一原子力発電所事故後、福島県二本松市に避難し、旧下川崎小学校の校舎を仮校舎としている。故郷を離れた時間が重なるにつれて、浪江町について知ることが少なくなっている児童たちに、故郷の良さを伝えるべく創設されたのが「ふるさとなみえ科」だ。巨事故からの避難という異常事態にあって、浪江小学校もまた学校が果たせる役割を考え、動いている。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトでは、「ふるさとなみえ科」で生まれた浪江町を読んだ句を読み札とする絵札つくりと校内展示のお手伝いした。

浪江町の海や公園、お祭りや伝統工芸などを讀んだ句には作成した児童たちの思いが詰まっている。それを視覚化する作業に絵本作家の飯野和好さんが協力した。ご自身のイラストによるカルタ制作の実績がある飯野さんが「できるだけはっきりと強い色合いで」というポイントを伝えると、あとは児童たちが自由に発想することを重視した。完成した絵札は力強さも感じられる仕上がりととなった。

年度末には、お気に入りの絵札を紹介する展示を校内で実施。生徒たち自ら作文した解説を添え「なみえっこカルタ」を通じて浪江町を伝える「浪江小学校ミュージアム」を作り上げた。

ア 浪江町カルタ制作ワークショップ

(ア) 日 時：2015年10月 7日(水)・10月13日(火) 13:50～15:30

(イ) 会 場：浪江小学校二本松仮校舎

(ウ) 講 師：飯野和好

イ 浪江カルタ展示ワークショップ

(ア) 日 時：2016年3月10日(木) 14:25～15:15

(イ) 会 場：浪江小学校二本松仮校舎

(15) 岡部昌生フロッタージュプロジェクト

2012年より継続している本プロジェクトは、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの中心となるプロジェクトである。当初の南相馬市を中心とする活動から飯館村、大熊町、石川町へと活動範囲を拡大している。震災後の生々しい記憶被災地の歴史と記憶の古層をフロッタージュの技法で採取、記録する活動を続けてきた。その過程で南相馬市では津波の被害と密接な関係がある干拓と耕地整理の歴史が、さらに大熊町、石川町における活動では、同町立歴史民俗資料館の協力により原発事故に至る近代史の断面にエネルギー産地としての福島の姿が浮かび上がった。石川町は大正から昭和40年代まで石英、長石などの鉱物を盛んに産出していた。そのため、戦時中は軍部によるウラン採掘が試みられた歴史があり原発事故後、注目を集めることとなった。しかし、重視すべきはウラン採掘に至った資源産地としての福島の歴史であろう。残された選鉱場基礎のコンクリート塊のフロッタージュはこの歴史を県内外に伝える大作となった。

沿岸部、東京電力福島第一原子力発電所からは遠く、震災

の影響が無かった飯館村では放射能汚染による深刻な被害が引き起こされ、全村避難が未だに続いていることは福島県内では周知の問題である。しかし、震災から5年を間近にして県外での震災の記憶の風化は一層進行している。2015年度は飯館村で伐採されたイグネの切株の連作に取り組んだ。イグネとは季節風から家屋敷を護り、燃料・木材を得るための屋敷林である。除染作業が大規模に進む飯館村内では多くのイグネが伐採された。同村内佐須の個人宅にあるイグネも例外ではない。震災のみならず原発事故の影響がなおも拡大している福島の現状を伝える強いメッセージを持った作品制作はまだ終わりが見えない。

プロジェクト成果展は福島市、いわき市で開催し今年度の成果を紹介した。福島市ではトークイベントを開催。制作趣旨について語った。成果展京都会場はその広いスペースを利用しこれまでの福島での岡部昌生プロッタージュプロジェクトを俯瞰できる構成となった。実物のモノと触れ合うことでしか生まれない岡部氏のプロッタージュは震災と原発事故を経験した福島の証言者として今後も重要な存在として成長していくだろう。

ア 成果展福島

- (ア) 会 期：平成27年10月17日(土)～10月30日(金)
- (イ) 会 場：県庁南再エネビル3階
- (ウ) 協力：飯館電力株式会社

イ トークセッション「被曝樹／被爆樹」

- (ア) 開催日：平成27年10月18日(日)
- (イ) 会 場：県庁南再エネビル3階

ウ 成果展いわき

- (ア) 会 期：10月24日(土)～11月27日(金) ※会期中無休
- (イ) 会 場：もりたか屋3F 福島県いわき市平3-34
- (ウ) 協 力：特定非営利活動法人 Wunder ground

(16) 福島写真美術館プロジェクト

震災後いち早く活発な活動が始まった写真・映像表現に着目し、震災後に変った福島の姿、震災後も変わらない福島の姿をとどめる活動を支援し、成果を公開している。2015年度は「福島環境記録」・「福島の水源をたどる」・「福島の自然を紹介する」・「福島の民俗を紹介する」の4プロジェクトを4名の写真家が担当した。

福島環境記録プロジェクトは、写真家赤阪友昭氏が担当。奥会津地方の三島町間方集落で、山と自然とともにある集落の人々の暮らしを追った。限界集落と呼ばれながらも豊かさに満ちた生活は原発事故後の希望でもある。成果展「山で生きる」を三島町交流センター山びこで開催し、会期中4日間「移動式赤阪写真館」を開催、ポートレート撮影を通じて地域の人々の姿を記録し、交流のきっかけとなった。広報紙の体裁の簡易な記録集を作成し集落各戸に配布した。地域の再発見につながるのを期待している。

福島の水源をたどるプロジェクトは、写真家本郷毅史氏が担当。福島を代表する河川の阿武隈川、夏井川などで源流を探り撮影した。震災でも変ることなく流れ続ける清冽な水は

生命の源でもあり、原発事故後にさらに輝きを増している。いわき市で行なわれた展覧会に招かれるなど、本プロジェクトをきっかけに活動が広がっている。

福島の自然を紹介するプロジェクトに参加した写真家村越としや氏は須賀川市の実家周辺をたびたび撮影している。写真家にとっては親しい何気ない風景だが、そこを撮影する意味は原発事故後に変化したという。写真家の視線は地域と人の関係性を考えさせる。福島県出身の若手写真家としても活躍を期待し、支援していきたい。

福島の民俗を紹介するプロジェクトには写真家土田ヒロミ氏が参加、原発事故後から福島県内の撮影を続けている写真家と連携し、除染作業などで変貌する里山や田園を撮影、記録した。

第1回福島写真美術館プロジェクト成果展は、長野県大町市の大町リノプロを会場に開催。商店街の活性化と市民活動の場として空き店舗を改装した会場で地域の方々と協働して展示作業を行った。第2回は、福島市の県庁南再エネビルを会場に開催した。

ア 福島環境記録プロジェクト成果展「山で生きる」

- (ア) 会 期：平成28年2月11日(木)～2月21日(日)
- (イ) 会 場：三島町交流センター山びこ
- (ウ) 後 援：三島町
- (オ) 主 催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

イ 移動式赤阪写真館

- (ア) 日 時：平成28年2月13日(土)～2月14日(日)・2月20日(土)～2月21日(日)
- (イ) 撮 影：赤阪友昭

ウ 福島写真美術館プロジェクト成果展in大町

- (ア) 会 期：平成27年8月1日(土)～8月24日(月) 10:00～17:00
- (イ) 会 場：大町リノプロ
- (ウ) 共 催：原始感覚美術祭実行委員会
- (エ) 後 援：大町市教育委員会
- (オ) 協 力：大町リノベーションプロジェクト／信濃大町食とアートの回廊実行委員会

エ 福島写真美術館プロジェクト成果展in福島

- (ア) 会 期：2016年2月8日(土)～2月21日(日) 10:00～17:00
- (イ) 会 場：県庁南再エネビル3F
- (ウ) 協 力：飯館電力株式会社
- (エ) 主 催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

(17) 黒塚発信プロジェクト

安達ヶ原の鬼婆伝説は謡曲「黒塚」として広く知られている。生き肝を求め都から奥州安達ヶ原に流れ着いた乳母は黒塚の岩屋にこもりその日を待つ。念願の生き肝を得た女が見たものは都に置いてきた我が子に与えたお守りであった。悲

しみのため女は鬼女と化す。深い悲しみと怒りが凝縮したこの説話には、原発事故後の実に今日的な東北の宿命が色濃くにじむ。本プロジェクトでは福島大学渡邊晃一教授を中心に黒塚をテーマに福島の課題を身体表現によって表現することに取り組んでいる。

2014年度に舞踊家・コンテンポラリーダンサーの平山素子氏主演、映像監督高明氏による映像作品「KUROZUKA黒と朱」を黒塚ゆかりの二本松市の観世寺、浪江町の津波被災地、南相馬市、福島大学で撮影した。引き続き、2015年度は、舞踏家大野慶人氏主演、映像監督古田晃司氏による映像作品「KUROZUKA黒と光」を制作した。慶人氏の父大野一雄氏がかつて黒塚を演じた際の衣裳を使用した公演は一般にも公開され、黒塚の現地に取材した映像を交え編集した。

評論家・東雅夫氏、伝統芸能研究者・懸田弘訓氏、福島大学教授・鈴木裕美子氏をお招きし渡邊氏がモデレーターをつとめたトークセッション「黒塚」では、「KUROZUKA黒と朱」「KUROZUKA黒と光」を上映し、民俗学・文学・美術の視点から黒塚の源流について活発なトークが行なわれた。映像は他団体の学会、シンポジウムなどでも視聴され、福島・東北の歴史と教訓を伝えている。

ア 対談「大野慶人×渡邊晃一」

(ア) 日 時：平成27年12月20日（日）18：00～20：00
(イ) 会 場：大野一雄舞踏研究所
(ウ) 協 力：大野一雄舞踏研究所
(エ) 主 催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

イ 公演「Kurozuka 黒と光」

(ア) 日 時：平成27年12月21日（月）14：00～18：00
(イ) 会 場：大野一雄舞踏研究所
(ウ) 協 力：大野一雄舞踏研究所
(エ) 主 催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

ウ 「黒塚」上映会＋トークセッション

(ア) 日 時：平成28年2月21日（日）14:00～16:30
(イ) 会 場：フォーラム福島
(ウ) 出 演：東雅夫（文芸評論家／「幽」編集顧問）・和合亮一（詩人）・懸田弘訓（伝統芸能研究者／福島県民俗芸能学会調査団团长）・鈴木裕美子（舞踏研究者／福島大学教授）
(エ) モデレーター：渡邊晃一（美術家／福島大学教授）
(オ) 主 催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

(18) グランド・ラウンドテーブル

クロージング・フォーラム

グランド・ラウンドテーブルは、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの事業報告、発信、そして福島県内で震災後に行われている文化活動の情報共有を目的に年間数回行っている。今年度は3回開催、第1回は「ここで作る演劇、演劇で創るこれから」をテーマに、地域文化の拠点施設いわき芸術文化交流館アリオスで開催。近年、いわき市を中心に演劇

に関わる活動を展開してきた方々、演劇的表現を追求するアーティストが集い、様々な場所で行われる演劇公演の事例から、演劇が持つ《場所性》と《可能性》を参加者と共に考えた。登壇者は、相馬千秋（アートプロデューサー）・やなぎみわ（アーティスト、京都造形芸術大学教授）・岩間賢（アーティスト、愛知県立芸術大学講師）・長谷基弘（劇作家、演出家、劇団桃唄309代表）・永山智行（劇作家、演出家、劇団こふく劇場代表、宮城県立芸術劇場演劇ディレクター）・くらもちひろゆき（劇作家、演出家、架空の劇団 主宰）・カタヨセヒロシ（俳優、ダンサー、6dim+ 共同主宰）・島崎圭介（NPO法人Wunder Ground 前代表）の各氏、モデレーターを執行委員長赤坂憲雄がつとめた。

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から5年を迎え、被災地では日常の回復とともに震災の記憶の風化が進んでいる。第2回のグランド・ラウンドテーブルは南相馬市市民情報交流センターを会場に開催した。津波被害と原発事故の二重の苦難を経験した南相馬市でのグランド・ラウンドテーブルでは、年月を経ても決して忘れてはいけない「鎮魂」の思い、前に進むための「忘却」、そして苦難を乗り越えた先に立ち上がる「創造」をテーマに掲げた。第1部は、南相馬市に長期滞在制作を行なった片桐功敦氏、地域の民俗を長年研究している岩崎真幸氏、震災後災害FMの番組を通じて地域の方との対話を継続し、2015年南相馬市に転居した柳美里氏、起業などを通じて小高区の地域再生に取り組む和田智行氏に登壇いただき、この3つのキーワードを指針に語り合った。

第2部、第3部は、小高区と同慶寺を会場にお借りした。第2部では、大堀相馬焼・春山窯の御協力、講師を勤める華道家・片桐功敦氏によるワークショップによって大堀相馬焼を花器に同慶寺本堂を花で飾った。参加者はいまだ自由な立ち入りができない地域となったままの大堀相馬焼の産地に思いをはせたことだろう。第3部では、柳氏、片桐氏に同慶寺御住職田中徳雲氏に加わっていただいた。双相地域の歴史の基盤を作った相馬家の菩提寺での語りは、南相馬発の新しい文化の萌を感じさせた。

第3回のグランド・ラウンドテーブルはクロージング・フォーラムとして福島県立博物館を会場に開催した。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトは、アートプロジェクトを中心にトークイベント、ワークショップ、展覧会などを福島県内外の諸団体と協働して2012年から実施してきた。同じく重要な目的の一つが、福島県内でのアートを介したネットワークの形成、これまでにない新たな視点を持った文化の創出である。

本フォーラムでは、これまで国内の多くのアートプロジェクトを支援し、ネットワーク化を推進してきた企業メセナ協議会専務理事加藤種男氏、本プロジェクト参加作家の岡部昌生氏、いわき市でのプロジェクト展開の中核として携わったNPO Wunder Groundの会田勝康氏、実行委員会メンバーでもある南相馬市博物館学芸員二上文彦氏を招き、「アートは何を

残せたか 震災から5年の福島・アート・地域」をテーマに報告、講演、クロストークを行った。会田氏、二上氏からは本事業がコミュニティ、地域文化に与えた成果について報告があった。岡部氏からは福島で制作に臨むアーティストの姿勢について言及がなされ、加藤氏からは福島でのアートプロジェクトの可能性について示唆に富むご講演をいただいた。今年度までの締めくくりであると同時にこれからのスタートでもあった。

ア 第1回グランド・ラウンドテーブルinいわき

「ここで作る演劇 演劇で創るこれから」

(ア) 日 時：平成27年6月13日(土) 15:30~19:30・2月14日(日) 13:00~17:00

(イ) 会 場：いわき芸術文化交流館アリオス本館2Fカンテイナーネ

(ウ) 講 師：相馬千秋(アートプロデューサー/NPO法人芸術公社代表理事)・やなぎみわ(アーティスト/京都造形芸術大学美術工芸学科教授)・岩間賢(アーティスト/愛知県立芸術大学講師)・長谷基弘(劇作家/演出家/劇団桃唄309代表)・永山智行(劇作家/演出家/劇団こふく劇場代表/宮崎県立芸術劇場演劇ディレクター)・くらもちひろゆき(劇作家/演出家/架空の劇団主宰)・カタヨセヒロシ(即興パフォーマンス集団6-dim+共同主宰)・島崎圭介(NPO法人Wunder ground代表)・赤坂憲雄(福島県立博物館長/学習院大学教授/はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員長)

(エ) 協 力：NPO法人Wunder ground

(オ) 主 催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

イ 第2回グランド・ラウンドテーブル

「震災から5年 鎮魂・忘却・創造」

(ア) 日 時：平成27年11月27日(金) 13:30~17:30・11月28日(土) 10:30~16:00

(イ) 会 場：南相馬市市民情報交流センター 大会議室、同慶寺

(ウ) 講 師：岩崎真幸(みちのく民俗文化研究所代表)、片桐功敦(華道家)・柳美里(小説家、劇作家)・和田智行(小高ワーカーズベース代表)・田中徳雲(同慶寺住職)

(エ) 協 力：南相馬市博物館/同慶寺/大堀相馬焼協同組合/春山窯

(オ) 主 催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

ウ はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトクロージングフォーラム

「アートは何を残せたか 震災から5年の福島・アート・地域」

(ア) 日 時：平成28年3月6日(日) 14:45~18:30

(イ) 会 場：福島県立博物館 講堂

(ウ) 特別講演講師：加藤種男氏(アサヒビール芸術文化財団事務局長)

(エ) 講演講師：岡部昌生氏(美術家)

(オ) 報 告：二上文彦氏(南相馬市博物館学芸員)、会田勝康氏(NPO法人 Wunder groundコミュニティコーディネーター)

(カ) 主 催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

実行委員会

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会は県内の西会津町から南相馬市、いわき市の各地域を拠点に活動するNPO、団体、文化施設、大学等のメンバーで構成する。2015年度は5回の実行委員会が開催された。協議・検討・報告・連絡の場となっただけでなく志を共有する場でもあった。その志とは言うまでもなく、福島の復興に尽力することである。

福島県は広い。各地域では独自に文化芸術活動が行われ、またその芽が芽生えつつある。そうした芽を育てるインキュベーションの場、結び付けるアーツカウンシルとして、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会が機能できる可能性が見えてきている。

5 震災遺産保全プロジェクト

東日本太平洋沖地震は県内に甚大な被害をもたらし、原発事故も引き起こした。これらにより多量の瓦礫、仮設住宅や汚染物質の保管施設など予想しなかった非日常の景観を新たに生み出した。本プロジェクトは、震災が発生させたこれらの遺産を次世代に震災の経験を伝える地域の重要な歴史資料と捉え、それらを保全し、防災教育等へ活かすための取り組みである。

事業は文化庁の文化芸術振興費補助金(地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業)の採択を受け、実行委員会を組織(実行委員会構成団体：相馬中村層群研究会・南相馬市博物館・双葉町歴史民俗資料館・富岡町歴史民俗資料館・いわき市石炭化石館・ふくしま海洋科学館・いわき自然史研究会・福島県立博物館)し、事務局を県立博物館内において以下の事業を実施した。

1. 各種検討会議の開催

検討会議は5月・10月・3月に開催し、延20名の委員の出席があった。年度当初では、「震災年表」の作成や「Jビレッジ」など復興に関わる現場の調査も必要との意見があった。2回目の会議では、阪神淡路地区の先進事例調査報告が行われ、「人と未来防災センター」等の施設運営にOBや当事者が深く関わっていることが重要であるとの声が相次いだ。また何を伝えるのかを明確に、保持していかないと、施設の独自性が失われることや、一般化してしまう恐れがあるとの意見もあった。最終報告では、中身の濃い普及事業があるのに参加者が少ないものもあり、効率・効果的な広報や、震災を継承すべき世代がすでに存在していること、たとえば当時小学1年生がこの春に中学生になるなど震災からの経年に対応したプログラムの開発の必要性も提案があった。

2. 震災遺産の調査・保全の実施

(1) 震災遺産に関する各種調査の実施

①総合調査・収集の実施（調査・収集）

調査・保全は約30回実施し、収集した震災遺産は600件程である。今年度は震災の多様性・広域性を意識し、本県浜通り地方の9自治体に加え、避難や原子力発電所事故の影響が及んだ中通りや会津地方の7自治体でも調査・保全を実施した。特に「避難」関係では一次避難所・長期継続避難所・応急仮設住宅団地の調査を行い一定の成果を上げた。浪江町や富岡町の一次避難所はほぼ1日だけ運営された場所がそのまま残っている学校があり、遺留品の全リスト作成と収集保全を実施した。また富岡町では避難所対応や全町避難を指示した「災害対策本部」跡も存置されており、調査と全資料の回収を行っている。存置された状況は机の上の遺留品を含めすべて手計測により平面図を作成した。これらにより市町村間での災害備蓄品の差異や、個別の避難所ごとの不足物品の把握が可能となり、また災害対策本部と避難所における避難者人数の把握や情報伝達のあり方など当時の状況を検証できる歴史資料となり、今後の防災・減災や災害対応に寄与することができると考えている。

②震災標本採取（標本作成）

平成23年4月11日、震災の発生から1ヵ月後にいわき市域を中心に大きな余震が襲い、各地に地表活断層が出現した。その多くは改変され今は田人地区の山林中に残されている。地震や地殻変動、そして震災遺産の多様性も示すものとして着目し（平成26年度は講演会と見学会を実施）、そのメカニズムと震災の記憶を伝えるため可視的・可動的な教材化するため、活断層の通過するラインを発掘し現れた断層部分の剥ぎ取り標本を作製した。作業は10月中旬に地区協議会のメンバーと協働で行い、剥ぎ取る段階では地元中学生の参加もあった。中学生は震災当時小学校低学年であり、震災の記憶が薄い世代である。ふるさとに何が起きたのかを改めて知る機会となった。

③先進事例調査（事例調査）

8月中旬に、大震災から20年経った阪神淡路地区の大震災メモリアル施設の大小7箇所の調査及び視察を実施した。「人と未来防災センター」が代表的な施設であるが、多様な観点・手法で震災を伝えてきた実績がある。また淡路島には野島断層を保存する施設があり、いわき市田人地区の活断層を地域歴史資産と活用する観点から、外部協力者としていわき市田人支所の地区協議会担当職員が同行し、負の遺産を地域振興に活かすためのイメージを持っていただくことを企図した。

また、8月下旬には、日本ジオパークに認定されている福島県磐梯山ジオパークの視察研修をいわき市田人地区協議会メンバー8人が参加して実施した。これも田人地区の活断層を地域資源として利活用するため、管理・運営・利活用のノウハウとマンパワーの展開の仕方を学ぶことを目的としている。研修会にはジオパークの認定ガイド3名を講師として迎

え、熱心な質疑応答が繰り返された。

(2) 資料の整理・保全

収集した資料は原則的にすべて福島県立博物館へ搬送している。ここからの扱いは通常の博物館資料と同じであり、燻蒸を行って収蔵庫に保管される。燻蒸はコンテナ付トラック内で実施する「トラック燻蒸」方式を委託して行った。

一部の資料は脆弱化しており、補強や修復の措置が必要である。また鉄製のものは津波被災により錆化が進んでおり、試験的な脱塩処理を実施した。その際津波によって付着した土砂などは津波を示す痕跡として保持する方針とし、脱塩や洗浄時に剥落しないようにアクリル樹脂で固着するようにした。このような措置は通常に博物館資料に対してはあまり採用されない手法であり、痕跡を残す意味について今後検討が必要になってくると思われる。

このほか脆弱資料や脆弱部分としてプラスチック製やフジツボなどの生態痕跡があり、文化財科学や保存科学の観点から、適切と思われる試薬を準備し、補強措置を実施した。データベース構築では、震災遺産現地で撮影した写真も膨大な量があり、日付ごとのデータファイルから地域地点別ファイルに移行する作業を継続した。同時に地区・地点別の基礎データベースの更新も実施し、一部データをデータベースソフトに移行するため、フォーマットの整備に着手した。またデータベース作業の一環として、「震災年表」を作成した。これは、原子力災害による避難指示区域の変更など日々刻々と変化する状況が、震災遺産の意味付けに直結する場面が多い中で、状況や制度の変化を確認できるものが必要だとの観点から整備に着手したものである。福島民報社の縮刷版（DVD）を参考に、取り上げる項目を検討して震災発生から約5年分の年表データベースを作成し、その成果の一部は福島県立博物館での震災遺産展示会場で活用した。

3. 普及事業の開催

(1) 野外講座

①体験型震災遺産保全事業（ワークショップ）

前述のいわき市田人地区の活断層の剥ぎ取り作業を本事業の一環として実施した。博物館やプロジェクトだけの単独事業ではなく、地域の歴史・文化資産として地域の人々に広く公開し、ふるさとに何が起きたのか認識してもらうことを目的として実施した。体験プログラムは、地層同定や剥ぎ取り作業指導で現地指導に立ち会った大学講師の説明を受け、理解を深めた上で保全作業を体験するものである。保全作業期間中の参加者及び見学者は102名、実行委員会及び地区協議会の参加者は延58人であった。

②震災遺産現地説明会（現地説明会）

アウトリーチ事業いわきセッションのプログラムの一つとして12月13日に富岡町で実施した。富岡駅前の津波被災状況や富岡町文化交流センター内に設けられた「災害対策本部」跡などを視察した。いわき市からマイクロバスに乗り、富岡町職員（実行委員）が案内・説明を行った。とくに後者はいままで公開されることがないため、仙台や東京方面など遠

方より参加者があり、受付開始早々に定員に達した。

なお富岡駅周辺は復興工事により現在は、更地になっている。災害対策本部も施設改修工事のため2月に物品の撤収が完了したため、全国的にも稀な災害対策本部跡の公開は最初で最後となった。

(2) 震災遺産を活用した教育普及事業

①アウトリーチ事業「震災遺産を考えるⅡ」の実施（アウトリーチ）

下記県内4会場で震災遺産の展示会をメインプログラムとしてアウトリーチ事業を開催した。郡山セッションは1日だけの開催であったが、他会場では昨年度からの要望を受け、長期の開催とした。福島大学セッションではシンポジウム、いわきセッションでは講演会と富岡町震災遺産見学会を実施した。会津セッションでは、トークセッションと県内で初めて「震災遺構」をテーマにしたシンポジウムを開催した。同時開催として平成26年度から継続している県内の震災遺構3次元デジタル計測（東北大学との連携事業）の成果をミックスドリアリティ（MR）のブースを構築してアーカイブ体験する事業を県内で初めて実施した。

・9月5日 郡山セッション（共催）（会場：郡山市中央公民館）プログラム参加者88名

・9月26日～10月6日 福島大学セッション（主催）プログラム参加者411名

・12月5日～12月20日 いわきセッション（主催）（会場：いわき市石炭・化石館）プログラム参加者4,894名

・2月11日～3月21日 会津セッション（主催）（会場：福島県立博物館）プログラム参加者6,365名

②震災遺産教育活用研修会（研修会）

7月31日に震災遺産の学校教育現場での利活用に繋げる

機会として県立博物館で研修会を開催した。中学及び高校の教職員11名が参加した。震災遺産保全プロジェクトの概要を説明した後に、震災遺物の見学を行った。その後の質疑応答の中で、現在の学校現場の防災教育は、放射能教育が主体で、実際に命を守る教育がまだ手薄だという発言があった。震災遺産は生々しさもあるが、防災を意識するきっかけになり得るとの意見もあった。

③震災遺産出前講座（出前講座）

平成27年度の学校連携事業は、高校文化祭への協力として実現した。会津地域の高校の生徒が、就職活動や県外への進学準備を進める中で「福島は大丈夫？」と問い掛けられても現実感が乏しく自分の言葉で答えられなかった経験がきっかけだという。上述の研修会に参加した担当教師の引率の下、博物館にて収集震災遺産の見学と浜通り地区の被災地訪問を行い、その成果を文化祭の震災遺産展示会で公表した。高校生の思いにどれほど寄り与えたのか不明な点もあるが、高校生のそうした思いに触れることができたのはプロジェクトとしても貴重な経験であった。

(3) 情報発信

①事業紹介パンフレット作成（パンフレット）

プロジェクトの取り組みを紹介するパンフレットを5,000部発行。主に県内文化施設や県立学校等に配布した。

②ホームページ作成（ホームページ）

独自ホームページの作成はできなかったが、事務局を置く福島県立博物館のHP上で適宜情報発信を実施した。

第7節 平成27年度行事

平成27年度講座・講演会等行事一覧

(1) 館長講座

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
『司馬遼太郎の東北紀行』①	赤坂憲雄	館長	4月16日(木)	150
『司馬遼太郎の東北紀行』②	赤坂憲雄	館長	5月21日(木)	148
『司馬遼太郎の東北紀行』③	赤坂憲雄	館長	6月18日(木)	130
『司馬遼太郎の東北紀行』④	赤坂憲雄	館長	7月16日(木)	138
『司馬遼太郎の東北紀行』⑤	赤坂憲雄	館長	8月20日(木)	124
『司馬遼太郎の東北紀行』⑥	赤坂憲雄	館長	9月17日(木)	123
『司馬遼太郎の東北紀行』⑦	赤坂憲雄	館長	10月15日(木)	135
『司馬遼太郎の東北紀行』⑧	赤坂憲雄	館長	11月19日(木)	116
『司馬遼太郎の東北紀行』⑨	赤坂憲雄	館長	12月17日(木)	101
『震災から5年を迎えて①』 「それでも、文化の力を信じてみたい」	赤坂憲雄 紺野美沙子	館長	1月21日(木)	155
『震災から5年を迎えて②』 トークセッション「震災画像・震災アーカイブの可能性」	赤坂憲雄 金澤文利	館長	2月18日(木)	110
『震災から5年を迎えて③』 シンポジウム「震災遺構を考えるー震災を伝えるためにー」	赤坂憲雄	館長	3月19日(土)	125

(2) 考古学講座

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
実技講座「土器作り1」	森 幸彦	学芸員	8月1日(土)	20
実技講座「土器作り2」	森 幸彦	学芸員	8月2日(日)	20
実技講座「土器の野焼き」	森 幸彦	学芸員	10月4日(日)	20
考古学講座「サロンド考古学」	荒木 隆	学芸員	1月24日(日)	16
考古学講座「サロンド考古学」	荒木 隆	学芸員	2月28日(日)	75
考古学講座「サロンド考古学」	荒木 隆	学芸員	3月27日(日)	60
考古学講座「流廃寺成立の背景」	荒木 隆	学芸員	11月29日(日)	13
考古学講座「勾玉・ガラス玉を作ろう」	高橋 満	学芸員	3月26日(土)	20

(3) 民俗講座

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
映像で見るふくしま伝承の技①「紙を漉く技術～ふくしまの手漉き和紙～」	大里正樹	学芸員	5月16日(土)	18
映像で見るふくしま伝承の技②「奥会津の曲げ物づくり」	内山大介	学芸員	7月11日(土)	14
映像で見るふくしま伝承の技③「ふくしまの炭焼き」	二瓶浩伸	学芸員	9月19日(土)	18
映像で見るふくしま伝承の技④「村のかじや～会津地方の野鍛冶の記録～」	大里正樹	学芸員	11月1日(土)	8
映像で見るふくしま伝承の技⑤「会津の和ろうそくづくり」	内山大介	学芸員	1月23日(土)	18

(4) 歴史講座

テーマ	講師	講師所属	期日	参加人数
面白資料で読む歴史①「江戸時代の絵暦に挑戦！」	阿部綾子	学芸員	6月13日(土)	23
面白資料で読む歴史②「180年前の東北の旅」	高橋 充	学芸員	6月20日(土)	22
面白資料で読む歴史③「1923ー大正12年の世相ー」	田中伸一	学芸員	8月22日(土)	11

面白資料で読む歴史④「考物（かんがえもの）に挑戦 －明治時代の子ども脳トレ－	佐藤洋一	学芸員	8月29日(土)	20
---	------	-----	----------	----

(5) 自然史講座

テーマ	講師	講師所属	期日	参加人数
野外講座「化石をさがそう」	相田 優他3名	学芸員	9月26日(土)	31
実技講座「化石標本をつくろう」	竹谷陽二郎他3名	学芸員	9月27日(日)	17
野外講座「鶴ヶ城の野鳥」	古川裕司	野鳥研究家	11月15日(日)	12

(6) 保存科学講座

テーマ	講師	講師所属	期日	参加人数
高校生向けの保存科学	杉崎佐保恵	学芸員	3月12日(土)	1

(7) ギャラリートーク

テーマ	講師	講師所属	期日	参加人数
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」①	荒木 隆	学芸員	4月12日(火)	20
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」②	荒木 隆	学芸員	5月10日(土)	9
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」③	荒木 隆	学芸員	6月14日(日)	6
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」④	荒木 隆	学芸員	7月12日(日)	15
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」⑤	荒木 隆	学芸員	8月9日(日)	19
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」⑥	荒木 隆	学芸員	9月13日(日)	10
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」⑦	荒木 隆	学芸員	10月11日(日)	20
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」⑧	荒木 隆	学芸員	11月8日(日)	10
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」⑨	荒木 隆	学芸員	12月13日(日)	7
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」⑩	荒木 隆	学芸員	1月10日(日)	8
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」⑪	荒木 隆	学芸員	2月21日(日)	5
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」⑫	荒木 隆	学芸員	3月13日(日)	9

(8) 指導者向け研修

テーマ	講師	講師所属	期日	参加人数
博物館利用指導者研修会	田中伸一ほか	学芸員	7月31日(金)	11

(9) 実技講座

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
「小旗をつくろう」	大野青峯 大野久子	伝統技術保持者	5月5日(火・祝)	20
会津・三島の編み組み細工「ヒロロの小物入れ作り」1	角田キイ子 海老名一子	伝統技術保持者	7月11日(土)	21
会津・三島の編み組み細工「ヒロロの小物入れ作り」2	角田キイ子 海老名一子	伝統技術保持者	7月12日(日)	21
「縄文時代の編み物を再現しよう！」	本間一恵	バスケットリー作家	1月1日(日)	15
博物館だより読者モデル 時代衣装撮影会		学習支援班	2月27日(土)	5

(10) 実演

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
「大堀相馬焼の絵付け」	半谷みどり	大堀相馬焼窯元 休閑窯	6月21日(土)	13
「昔語り」	横山幸子	語り部	9月12日(土)	30
紙芝居「スーパー古事記」①	荒木 隆	学芸員	4月26日(日)	18
紙芝居「スーパー古事記」②	荒木 隆	学芸員	5月24日(日)	20
紙芝居「スーパー古事記」③	荒木 隆	学芸員	6月28日(日)	18
紙芝居「スーパー古事記」④	荒木 隆	学芸員	7月26日(日)	22
紙芝居「スーパー古事記」⑤	荒木 隆	学芸員	8月23日(日)	20

紙芝居「スーパー古事記」⑥	荒木 隆	学芸員	9月27日(日)	31
紙芝居「スーパー古事記」⑦	荒木 隆	学芸員	10月25日(日)	10
紙芝居「スーパー古事記」⑧	荒木 隆	学芸員	11月22日(日)	15

(11) 企画展関連行事(記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等)

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
企画展講座「壁画古墳の模型を作ろう」①	荒木隆	当館学芸員	4月25日(土)	8
企画展「ふるさと会津の人と四季ー福島県立美術館名品展ー」ギャラリートーク	早川博明	福島県立美術館長	5月2日(土)	45
企画展「ふるさと会津の人と四季ー福島県立美術館名品展ー」ギャラリートーク	坂本篤史 白木ゆう美	福島県立美術館学芸員	5月16日(土)	53
企画展講座「壁画古墳の模型を作ろう」②	荒木隆	当館学芸員	5月23日(土)	6
企画展講座「壁画古墳の模型を作ろう」③	荒木隆	当館学芸員	5月30日(土)	5
企画展イベント「公開対談 喜多方美術倶楽部をめぐって」	後藤 學 増淵鏡子	喜多方市美術館長 福島県立美術館学芸員	6月6日(土)	53
企画展「ふるさと会津の人と四季ー福島県立美術館名品展ー」ギャラリートーク	堀 宣雄	福島県立美術館学芸員	6月21日(日)	42
企画展記念講演会「ふくしま復興調査元年ー阪神淡路大震災と東日本大震災ー」	山本 誠	兵庫県立考古博物館 埋蔵文化財課長	7月25日(土)	40
企画展「被災地からの考古学1ー福島県浜通り地方の原始・古代」展示解説会	荒木 隆	当館学芸員	7月25日(土)	20
企画展記念講演会「復興調査最前線1ー派遣職員が見たふくしまの遺跡ー」	荒木 隆	当館学芸員	8月8日(土)	53
企画展記念講演会「浜通り地方から福島県の古代を読み解く1」	荒木 隆	当館学芸員	8月15日(土)	33
企画展記念講演会「復興調査最前線2ー浜通り地方市町村教育委員会の調査ー」	木幡成雄 荒 淑史	いわき市教育文化事業団 南相馬市教育委員会	9月5日(土)	39
企画展「相馬中村藩の人びと」展示解説会	高橋 充	当館学芸員	10月10日(土)	40
企画展記念講演会「相馬中村藩の成立と家格形成」	岡田清一	東北福祉大学教授	10月17日(土)	58
企画展関連講座「御料理方に学ぶ!江戸の料理作法ー折形を折ってみようー」	平出美穂子	食文化研究家	10月31日(土)	15
企画展「相馬中村藩の人びと」展示解説会	高橋 充	当館学芸員	11月7日(土)	15
企画展「相馬中村藩の人びと」展示解説会	高橋 充	当館学芸員	11月14日(土)	4
企画展「相馬中村藩の人びと」展示解説会	高橋 充	当館学芸員	11月21日(土)	25
企画展「相馬中村藩の人びと」展示解説会	高橋 充	当館学芸員	11月28日(土)	16
特集展「震災遺産を考えるーガレキから我歴へー」展示解説会	震災遺産保全プロジェクト担当学芸員	当館学芸員	2月11日(木・祝)	12
特集展「震災遺産を考えるーガレキから我歴へー」展示解説会	震災遺産保全プロジェクト担当学芸員	当館学芸員	2月14日(日)	20
特集展「震災遺産を考えるーガレキから我歴へー」展示解説会	震災遺産保全プロジェクト担当学芸員	当館学芸員	2月21日(日)	35

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
	芸員			
特集展「震災遺産を考えるーガレキから我歴へー」展示解説会	震災遺産保全プロジェクト担当学芸員	当館学芸員	2月28日(日)	9
特集展「震災遺産を考えるーガレキから我歴へー」展示解説会	震災遺産保全プロジェクト担当学芸員	当館学芸員	3月6日(日)	19
特集展「震災遺産を考えるーガレキから我歴へー」展示解説会	震災遺産保全プロジェクト担当学芸員	当館学芸員	3月13日(日)	24
特集展「震災遺産を考えるーガレキから我歴へー」展示解説会	震災遺産保全プロジェクト担当学芸員	当館学芸員	3月20日(日)	18
特集展「震災遺産を考えるーガレキから我歴へー」展示解説会	震災遺産保全プロジェクト担当学芸員	当館学芸員	3月21日(月・祝)	27

(12) ミュージアムイベント

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
玄如節と会津の民謡		玄如節顕彰会	6月27日(土)	85
夏休み子ども映画会「アナと雪の女王」		シネマエール東北	7月20日(月・祝)	50
会津磐梯山・市民盆踊り		会津磐梯山盆踊り保存会	8月15日(土)	315
夏休みナイトミュージアム	各分野学芸員	学芸員	8月22日(土)	80
ハワイアンinけんぱく		モハル・ハワイアンズ	9月20日(日)	178
おはなしのへや2015inけんぱく		読み聞かせグループ「おはなしのへや」	10月24日(土)	25
クリスマス!クラシックアンサンブルコンサート		会津室内楽団Coderanni	12月19日(日)	244

(13) 共催事業

テーマ	主催	講師・所属等	期日	参加人数
森のはこ舟アートプロジェクトフォーラム	森のはこ舟アートプロジェクト(県文化振興課)	川延安直 小林めぐみ	5月16日(土)	85
移動展「見る・さわる 世界の化石」展示解説会	三春町歴史民俗資料館	相田 優 他1名	7月18日(土)	35
移動展関連講座「化石標本をつくろう」	三春町歴史民俗資料館	相田 優 他3名	7月25日(土)	34
移動展「被災地からの考古学inいわき」記念講演会「浜通り地方から福島県の古代を読み解く」	いわき市考古資料館	荒木 隆	10月10日(土)	39
移動展「被災地からの考古学inいわき」関連事業 中央大学学術講演会「東日本	中央大学文学部教授	小林謙一	10月24日(土)	95

テーマ	主催	講師・所属等	期日	参加人数
大震災と考古学」				
移動展「被災地からの考古学inいわき」 記念講演会 「復興調査から見てきた いわき地方の歴史」	いわき市考古資料館	木幡成雄	12月5日(土)	45
移動展「藤井康文 恐竜イラスト原画展」	福島県立図書館	自然分野	12月4日(金)～1 月6日(水)	1015
移動展「被災地からの考古学in南相馬」 記念講演会 「浜通り地方から福島県の 古代を読み解く」	南相馬市博物館	荒木 隆	1月30日(土)	75
移動展「被災地からの考古学in南相馬」 記念講演会 「シリーズ浜通りの地方の 製鉄を考える」	日本古代生産蜃鈿生産研 究会	吉田秀亨	2月6日(土)	30
移動展「被災地からの考古学in南相馬」 記念講演会 「復興調査から見てきた 南相馬地方の歴史」	南相馬市教育委員会文化 課	荒 淑人	2月27日(土)	20
復興応援パートナー事業 「3.11ふくし ま復興への想いを込めて2016from会津」	福島県会津地方振興局	学習支援班	3月5日(土)	864

(14) 後援事業

テーマ	主催	講師・所属等	期日	参加人数
福島県造形サークル連合大会講演会	阿部宏行	北海道教育大学教授	8月1日(土)	70
シンポジウム「国立自然史博物館をふ くしまに！」	西 弘嗣	東北大学総合学術博物館	9月3日(木)	51
玄如節顕彰碑建立15周年記念事業 「玄如節 再興・再考・最高！」		玄如節顕彰会	10月23日(金)	85
会津史学会歴史文化講演会 「会津と相馬を歩き交った人々」	高橋 充	当館学芸員	10月25日(日)	66
会津史談会公開文化講座「縄文人の愛 と死」	森 幸彦	当館学芸員	11月26日(木)	101
会津若松市教育委員会主催 「会津大 塚山古墳出土品講演会」	塚本敏史	元興寺文化財研究所	12月12日(土)	173
会津民俗研究会公開講座「廃村の民俗 ー東山湯の入りの生活を語るー」	佐々木長生 滝沢洋之	会津民俗研究会	12月23日(水・祝)	108

(15) 企画展・特集展内覧会(友の会)

テーマ	主催	講師・所属等	期日	参加人数
写真展「東北ー風土・人・暮らし」	美術	川延安直	4月18日(金)	65
企画展「ふるさと会津の人と四季」	美術	川延安直	5月1日(金)	65
企画展「被災地からの考古学1」	考古	荒木 隆	7月17日(金)	43
企画展「相馬中村藩の人びと」	歴史	高橋 充	10月9日(金)	60

平成27年度講座・講演会等の回数と参加者数

テーマ	回数	参加者数
(1) 館長講座	12	1,555
(2) 考古学講座	8	244
(3) 民俗講座	5	76
(4) 歴史講座	4	76
(5) 自然史講座	3	60

テーマ	回数	参加者数
(6) 保存科学講座	1	1
(7) ギャラリートーク	12	138
(8) 指導者向け研修	1	11
(9) 実技講座	4	82
(10) 実演	10	197
(11) 企画展関連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等）	27	734
(12) ミュージアムイベント	7	977
(13) 共催事業	11	2,337
(14) 後援事業	7	654
(15) 企画展・特集展内覧会（友の会）	3	168
計	115	7,310

第17章 福島県自然の家

第1節 沿革及び所在地

1 沿革

昭和47年県内初の県立少年自然の家として、また、東北でも3番目の宿泊研修用の先導的施設として「福島県郡山少年自然の家」を開設。

昭和50年海浜型の青少年社会教育施設として「福島県海浜青年の家」(以下「青年の家」という。)を開設。同年発足した「財団法人福島県海浜青年の家」が管理運営を行うこととなる。

昭和56年県立少年自然の家2施設目となる「福島県会津少年自然の家」を開設。

平成8年「福島県いわき海浜自然の家」を開設。これに伴い、「青年の家」の名称を「福島県相馬海浜自然の家」に改める。運営財団の名称を「財団法人福島県海浜自然の家」に変更し、海浜型2施設の管理運営を行うこととなる。

平成10年福島県教育庁の直営であった「福島県郡山少年自然の家」及び「福島県会津少年自然の家」の名称を「福島県郡山自然の家」及び「福島県会津自然の家」と改める。これにより財団の名称を「財団法人福島県自然の家」に変更し、県内4施設の管理運営を行うこととなる。

平成18年度から指定管理者制度を導入し、平成20年度までの3年間「財団法人福島県自然の家」が指定管理者となり4施設の管理運営を行うこととなる。

指定管理者であった財団が平成20年度末をもって解散したため。平成21年度から4施設とも県の直営による管理運営となる。

平成22年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」が「財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。なお、他3施設については検討会の条件を満たす団体がいないため直営による運営が継続されることとなる。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、「福島県会津自然の家」は同年7月2日まで「福島県郡山自然の家」は同年8月28日まで避難所として運営を行う。また「福島県いわき海浜自然の家」の指定管理は震災の影響により平成23年11月1日からの開始となる。なお「福島県相馬海浜自然の家」は地震・津波の甚大な被害を受け平成24年3月31日をもって公所廃止となる。

平成25年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」について平成26年度から平成30年度まで「財団法人いわき市教育文化事業団(平成26年度より公益財団法人に移行)」に指定管理することとなる。

2 所在地

(1) 福島県郡山自然の家

福島県郡山市逢瀬町多田野字中丸山46
〒963-0213 TEL 024-957-2111
FAX 024-957-2112

URL <http://www.koriyama-nc.fks.ed.jp/>

(2) 福島県会津自然の家

福島県河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山4495-1
〒969-6504 TEL 0242-83-2480
FAX 0242-83-2481

URL <http://www.aizu-nc.fks.ed.jp/>

(3) 福島県いわき海浜自然の家

福島県いわき市久之浜町田之網字向山53
〒979-0335 TEL 0246-32-7700
FAX 0246-32-7730

URL <http://www.iwaki-nc.fks.ed.jp/>

第2節 教育目標及び基本的視点

1 教育目標

恵まれた自然環境の中で、野外学習や集団宿泊活動など様々な活動を通して主体的に対応できる人々の育成を目指す生涯学習の推進のため、次の目標を設定する。

- (1) 自然の恩恵にふれ、自然に親しむ心や敬虔の念を育てる。
- (2) 集団宿泊活動を通して規律・協同・友愛及び奉仕の精神を養う。
- (3) 自然体験活動を通して自ら実践し、創造する態度を育てる。

2 基本的視点

豊かな自然体験を楽しめる施設として、その機能を十分に発揮するために、施設・設備の整備や運営方法の確立・改善に努め、利用者が充実した活動を展開できるよう、次の基本的視点に基づきそれぞれの施設の運営にあたる。

- (1) 所員の英知と創意を結集し、施設の充実・整備を図り活気と魅力ある施設の運営に努める。
- (2) 利用者の多様なニーズや利用目的に応じた柔軟な運営を行うよう努める。
- (3) 立地条件を生かした特色ある企画事業を展開するとともに、学校や地域に生きる活動種目やその指導方法の研究開発に努める。
- (4) 民間の指導者の協力や高校生・大学生等のボランティアの受け入れを得るように努める。
- (5) 現代的課題の解決に対応する事業を推進し、その情報の発信に努める。

第3節 各施設の利用者数

		平成27年度			延べ人数推移				
		団体数	利用人数	延べ人数	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
4月	郡山	41	1,087	1,496	1,514	0	1,207	1,624	1,587
	会津	24	1,247	1,528	2,484	0	1,216	1,140	1,155
	いわき	24	1,222	1,727	2,976	0	3,164	1,093	1,715
	計	89	3,556	4,751	6,974	0	5,587	3,857	4,457
5月	郡山	46	1,082	1,516	1,824	0	1,428	1,215	1,352
	会津	40	1,820	3,049	3,001	0	3,241	3,991	3,592
	いわき	19	1,979	2,077	6,668	0	3,030	2,781	1,647
	計	105	4,881	6,642	11,493	0	7,699	7,987	6,591
6月	郡山	45	2,250	3,821	3,947	0	3,193	3,938	3,416
	会津	68	2,271	4,366	4,661	0	5,853	6,172	5,109
	いわき	31	905	1,750	12,284	0	2,638	1,088	1,897
	計	144	5,426	9,937	20,892	0	11,684	11,198	10,422
7月	郡山	53	1,954	3,314	4,798	338	2,234	2,982	3,045
	会津	74	3,228	5,513	6,381	1,197	5,334	4,895	5,118
	いわき	81	3,456	6,109	11,575	0	5,709	3,733	4,985
	計	208	8,638	14,936	22,754	1,535	13,277	11,610	13,028
8月	郡山	42	1,692	3,056	3,053	1,079	2,254	2,835	2,879
	会津	50	1,806	3,352	5,204	3,436	4,710	2,853	5,377
	いわき	51	2,389	5,089	5,930	0	5,829	4,609	4,015
	計	143	5,887	11,497	14,187	4,515	12,793	10,297	12,271
9月	郡山	46	2,950	4,329	4,442	3,591	4,200	4,406	6,166
	会津	55	2,458	4,437	4,163	5,955	6,798	4,879	6,481
	いわき	37	2,860	3,716	11,560	0	891	3,051	5,842
	計	138	8,268	12,482	20,165	9,546	11,889	12,336	18,489
10月	郡山	46	2,817	3,496	4,677	2,949	2,007	2,608	3,029
	会津	52	3,669	4,432	4,577	4,664	5,559	4,153	5,064
	いわき	46	1,923	2,217	9,190	0	2,241	2,453	2,286
	計	144	8,409	10,145	18,444	7,613	9,807	9,214	10,379
11月	郡山	34	904	1,027	1,199	1,112	1,266	1,525	1,442
	会津	30	984	1,446	996	1,602	1,665	1,692	3,043
	いわき	33	1,627	2,368	2,038	509	730	1,388	2,018
	計	97	3,515	4,841	4,233	3,223	3,661	4,605	6,503
12月	郡山	38	1,058	1,736	982	786	984	1,383	980
	会津	12	446	652	746	604	658	800	559
	いわき	31	1,417	1,551	1,349	235	990	2,332	3,129
	計	81	2,921	3,939	3,077	1,625	2,632	4,515	4,668
1月	郡山	37	796	1,132	575	796	668	1,008	895
	会津	41	1,731	2,404	3,583	2,503	2,685	2,419	2,998
	いわき	29	1,332	1,807	1,243	2,717	1,089	1,670	1,832
	計	117	4,210	5,725	5,401	6,016	4,442	5,097	5,725
2月	郡山	25	760	964	1,360	731	1,544	1,331	1,030
	会津	37	1,587	1,802	4,002	2,540	2,464	1,916	1,751
	いわき	42	2,398	2,968	1,310	3,790	1,662	2,037	2,720
	計	104	4,745	5,734	6,672	7,061	5,670	5,284	5,501
3月	郡山	41	893	1,231	90	903	937	1,253	1,050
	会津	18	458	706	1,265	1,011	772	738	899
	いわき	57	2,323	3,308	488	4,574	2,161	3,088	2,342
	計	116	3,674	5,245	1,843	6,488	3,870	5,079	4,291
累計	郡山	494	18,243	27,118	28,461	12,285	21,922	26,108	26,871
	会津	501	21,705	33,687	41,063	23,512	40,955	35,648	41,146
	いわき	481	23,831	34,687	66,611	11,825	30,134	29,323	34,428
	合計	1,476	63,779	95,492	136,135	47,622	93,011	91,079	102,445

福島県郡山自然の家

第1節 概要

郡山自然の家は、昭和47年に「福島県少年自然の家」という名称で設立され、小・中学校の宿泊体験学習の場として開所して以来42年が経過し、平成26年5月には、延べ利用者数が160万人に達した。

本施設は、郡山駅より西へ約11km、郡山南インターより車で約8分という交通の便に恵まれ、しかも豊かな自然環境に囲まれている都市近郊型の自然の家であり、心身共に健全な青少年と心豊かな社会人を育成することを目的とした教育施設である。

平成20年度まで11年間、県内4つの自然の家を運営してきた財団法人福島県自然の家が解散し、平成21年度から県直営としての運営形態に変わり6年目を終了した。

利用者は、これまで主体であった小・中学生のみならず、園児、高校生、一般社会人、家族など利用者層が多様多様になってきている。恵まれた自然環境の中で、「みどり・であい・感動」をキャッチフレーズに、野外活動や集団宿泊活動を通して、「自然に親しむ心や畏敬の念」「規律・協同・友愛・奉仕の精神」「自ら実践し、創造する態度」の育成を目指し、様々な活動を展開してきた。

生涯学習の拠点として、広く県民に利用していただけるような施設を目指し、施設の改築・改修や本館の段差を解消するなど障がい者にもやさしい施設づくりを進めてきた。

また、園児から高齢者までの幅広い年齢層に対応し、多くの人に利用していただけるよう、多種多様な企画事業を展開するとともに、特色あるプログラムの開発に努めてきた。

さらに、放射線の影響を心配する利用者の声に応えるため、毎月エリア内の放射線量を測定してホームページに掲載したり、クラフト活動で使用する木材等については、放射線量の低い地域から採集したり、「みどりの宅配便」を利用して全国から取り寄せたりした。また、放射線量が比較的高い場所のこまめな除草や表土の除去、活動コース付近の落ち葉等の清掃を実施し放射線量の低減化に努めた。

年間の利用状況は、震災前の9割程度まで回復し、利用団体数493団体、延べ利用者数27,118人となった。

1 職員組織

職員組織は、以下のとおりである。

職名	所長	主幹兼次長	主任主事	主任主事	社会教育主事	指導主事	計
人員	1	1	1	1	2	0	6

2 平成27年度重点目標と成果

「復興加速の年」と位置づけ、利用者数を震災前の水準まで戻すために次の点に力を入れて取り組んできた。

(1) 利用団体への効果的な支援の充実

ア 団体が主体的に活動できるようにするために、学校利用・社会教育団体利用ともに、利用団体の指導者との連携を密にしてきた。学校利用については、4月と7月に「学校利用指導者研修会」を実施し、フィールドワークやアーチェリーなどの実技研修の他、施設の概要説明や活動計画の立案に対しての指導・援助を行った。また、事前打合せや実地踏査・下見等を奨励し、各利用団体が主体的に活動できるように支援した。

イ 社会教育団体の利用については、6月と7月に「社会教育団体利用指導者研修会」を実施し、施設見学や活動計画の調整などを行った。また、各団体代表者との電話連絡を密にし、各団体の利用目的に応じた活動が展開できるよう努めた。

ウ 職員の技能及び資質の向上を図るために、各種研修会に積極的に参加するなど、職員の研修に力を入れた。また、利用団体の指導者及び利用者の声をアンケート等により集約・分析して、職員の対応や準備物、食事等の改善に努めるとともに、利用者の立場に立った施設の運営に努めた。

(2) 特色ある企画事業の運営

ア 季節感を生かした魅力ある企画事業を計画するとともに、外部講師やボランティアを積極的に活用したり、地域や関係機関との連携を図ったりすることができた。

イ 前年度の反省や評価を踏まえ内容や方法等に工夫・改善を加え、参加者の満足度を高める運営に努めた。

ウ 利用者増を図るために新規の企画事業を立案し、幅広い年代に応じた特色ある企画事業を実施することができた。

(3) 広報の充実と利用促進

ア 多くの団体に利用してもらえるよう、利用拡大に向けて、積極的に広報活動を行ってきた。学校利用の拡大については、管内小中学校長会議において、より多くの学校に利用していただけるようPR活動を行った。春と秋の年2回、県中管内小中学校長会議でのPR活動を実施した。

イ 企画事業案内や事業実施後の企画事業のあしあとをホームページに掲載するなど、ホームページの改善・充実に努めた。また、毎月エリア内13カ所の放射線量をホームページに掲載し、利用者が安心して利用できるよう配慮した。

ウ 企画事業では、報道機関を通じた周知活動や広報活動を積極的に行い、利用拡大に努めた。また、新聞社やタウン誌に企画事業に関する記事の掲載の依頼をすること

で、多くの方の参加につなげることができた。

エ 利用促進を図るため、平成25年度から家族を対象とした会員登録制度を立ち上げ、名称を本所のマスコットキャラクターにちなんで「サザンピーククラブ」とした。登録した会員には会員証を発行して入所手続きの簡略化を図ったり、企画事業の案内を送付したりして利用促進につなげた。また、利用回数に応じて、特製のシールやキーホルダーを贈呈した。137家族、506名が会員となっている。

(4) 安全管理と保健安全指導の徹底

ア 「事故はどこでもいつでも起こり得る」という認識に立って、所員の安全意識の向上を図り、施設設備の日常点検及び定期点検の実施はもちろんのこと、利用者に対しても働きかけ、積極的に安全対策を行ってきた。

また、特に次の点に力を入れてきた。

- 各団体の活動前のコース点検や遊具点検の徹底
- 食中毒防止のための、手洗い・アルコール消毒の徹底
- 食物アレルギー対応のための、利用団体との連絡・調整及び食堂との連携・協力
- スズメバチ対策のための、捕虫装置の設置と点検
- 松食い虫による倒木防止のための計画的な伐採

イ 防災に関しては食堂等の委託業者にも参加してもらい、消火訓練や火災が起きたことを想定した避難訓練を実施するとともに、日常の点検を怠ることのないようにした。

さらに、不審者の侵入防止を図るためのマニュアルを作成して職員研修により理解を深めた。常に来所者に声をかけ、車止めや施設の施錠に万全を期すなどして、安全管理に努めてきた。

(5) 施設・設備の整備

ア 利用者が快適に利用できるように、現在の施設環境のもとでできることは何かを考えながら、ハード面とソフト面の両面から改善を行ってきた。

また、安全対策として、利用者が利用する総合活動館やアスレチックなどの遊具全般の点検と併せて必要な補修整備に努めてきた。

イ 館内については、季節ごとの掲示に心がけたり、利用者から届いた写真や手紙を工夫して掲示したりするなど、変化のある計画的な掲示に努めた。

- テント120名 (20張)

3 敷地面積

- 237,587.59㎡

4 建物面積

- 延床面積 3,806.08㎡
 - ・本館 (管理棟・宿泊室・研修室・浴室)
 - ・体育館、総合活動館、野外活動センター、東西炊飯場、ロッジ等

5 設備備品等

- 野外活動設備
 - ・みどりの広場アスレチック
 - ※28年度リニューアルオープン
 - ・フィールドアドベンチャーコース
 - ※29年度リニューアルオープン
 - ・アーチェリー場 (24的)
 - ・ナイトハイクコース (3コース)
 - ・スコアオリエンテーリングポスト (20)
 - ・フィールドワークコース (赤・青)
 - ・スタンプラリー (20)
 - ・営火場 (3)
- その他
 - ・野外炊飯用具
 - ・インラインスケート
 - ・frisbeeゴルフ
 - ・フロッカー
 - ・キンボール
 - ・ペタンク
 - ・マウンテンバイク
 - ・グランドゴルフ
 - ・ターゲットバードゴルフ
 - ・そり
 - ・各種クラフト用具
 - ・伝承遊びセット
 - ・ピアノ
 - ・双眼鏡
 - ・液晶プロジェクター
 - ・インターネット接続大型液晶テレビ等
 - ・ジェットヒーター
 - ・ブルーヒーター

第2節 施設・設備の概要

1 所在地

〒963-0213

郡山市逢瀬町多田野字中丸山46番地

2 宿泊定員

- 本館166名 (14部屋)
- ロッジ126名 (9棟)

第3節 利用状況

郡山自然の家の利用者は、次のように大別される。

- 保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、大学等の園児や児童生徒、学生及び引率者
- スポーツ少年団、子ども会育成会、公民館、学校・学級

PTA等の社会教育団体に所属する児童生徒及び引率者

- 家族等その他のグループ等

本年度の利用団体数は494団体、利用者数は、実利用者が18,243人、延べ利用者27,118人であり利用状況の詳細は、次のとおりである。

1 月別利用状況

月	種別 区分	学 校 教 育 団 体						社 会 教 育 団 体				ファミリー	企画事業	合計
		幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学等	少年	青年	一般成人	高齢者			
4	団体数	4	1	0	0	0	0	22	2	3	0	1	8	41
	利用人員	117	29	0	0	0	0	320	18	123	0	7	473	1,087
	延人数	117	29	0	0	0	0	525	33	312	0	7	473	1,496
5	団体数	3	7	0	0	1	0	20	3	7	1	0	4	46
	利用人員	78	353	0	0	11	0	293	83	121	25	0	118	1,082
	延人数	78	624	0	0	22	0	368	156	121	25	0	122	1,516
6	団体数	2	19	0	1	2	0	16	0	1	0	2	2	45
	利用人員	30	1,233	0	35	115	0	672	0	6	0	13	146	2,250
	延人数	30	2,369	0	35	230	0	986	0	12	0	13	146	3,821
7	団体数	8	7	0	1	2	0	28	4	1	0	0	2	53
	利用人員	386	421	0	31	36	0	896	72	13	0	0	99	1,954
	延人数	769	836	0	31	72	0	1,337	157	13	0	0	99	3,312
8	団体数	2	0	0	0	1	0	30	7	1	0	0	1	42
	利用人員	66	0	0	0	13	0	896	310	69	0	0	20	1,692
	延人数	132	0	0	0	13	0	2,214	512	125	0	0	60	3,056
9	団体数	0	23	0	0	4	0	11	7	0	0	0	2	46
	利用人員	0	1,295	0	0	128	0	359	314	0	0	0	205	2,950
	延人数	0	2,292	0	0	196	0	516	471	0	0	0	205	4,329
10	団体数	1	16	0	2	1	0	14	9	1	0	0	1	46
	利用人員	50	959	0	114	43	0	1,142	282	22	0	0	109	2,817
	延人数	50	1,436	0	114	43	0	1,211	415	22	0	0	109	3,496
11	団体数	2	3	0	0	0	1	16	4	0	0	2	6	34
	利用人員	38	83	0	0	0	82	241	301	0	0	10	149	904
	延人数	38	83	0	0	0	82	330	329	0	0	16	149	1,027
12	団体数	10	1	0	0	1	0	18	2	0	3	0	3	38
	利用人員	280	53	0	0	30	0	488	16	0	55	0	136	1,058
	延人数	527	53	0	0	30	0	905	30	0	55	0	136	1,736
1	団体数	4	1	0	0	1	0	21	3	1	0	0	6	37
	利用人員	108	14	0	0	30	0	309	25	31	0	0	279	796
	延人数	108	14	0	0	30	0	422	44	31	0	0	483	1,132
2	団体数	9	2	0	0	1	0	20	0	0	0	0	6	25
	利用人員	305	55	0	0	63	0	217	0	0	0	0	120	760
	延人数	305	55	0	0	159	0	305	0	0	0	0	140	964
3	団体数	8	0	0	0	0	0	20	8	8	0	0	5	41
	利用人員	188	0	0	0	0	0	487	147	147	0	0	71	893
	延人数	188	0	0	0	0	0	658	314	314	0	0	71	1,231
合 計	団体数	53	80	0	4	14	1	223	49	15	4	5	46	493
	利用人員	1,646	4,495	0	180	469	82	6,638	1,568	385	80	30	2,670	18,243
	延人数	2,342	7,791	0	180	795	82	9,777	2,461	636	80	36	2,938	27,118

2 利用団体別・宿泊日数利用状況

(1) 利用者数

項目	団体数	実利用者数	延宿泊者数	延利用者数
利用者数	493	18,243	8,875	27,118
(キャンプ)	(2)	(59)	(118)	(177)
(ロッジ)	(12)	(482)	(546)	(1,028)

(2) 利用受入日

項目	利用可能日	利用日数	宿泊可能日	宿泊日数
利用日数	289	263	238	130
(キャンプ)	(103)	(3)	(103)	(3)
(ロッジ)	(103)	(19)	(109)	(18)

(3) 利用者区分

泊 数	種別 区分	学 校 教 育 団 体						社 会 教 育 団 体				ファミリー	企画事業	合計
		幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学等	少年	青年	一般成人	高齢者			
1 泊 日	団体数	37	26	0	4	6	1	148	19	10	4	4	41	300
	実利用者数	1,009	1,373	0	180	191	82	3,957	781	281	80	24	2,422	10,380
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者数	1,009	1,373	0	180	191	82	3,957	781	281	80	24	2,422	10,380
1 泊 日	団体数	12	50	0	0	7	0	66	26	2	0	1	4	168
	実利用者数	578	2,948	0	0	230	0	2,265	702	62	0	6	228	7,019
	延宿泊者数	578	2,948	0	0	230	0	2,265	702	62	0	6	228	7,019
	延利用者数	1,156	5,896	0	0	460	0	4,530	1,404	124	0	12	456	14,038
2 泊 日	団体数	4	4	0	0	1	0	8	3	1	0	0	1	22
	実利用者数	59	174	0	0	48	0	374	64	21	0	0	20	760
	延宿泊者数	118	348	0	0	96	0	748	128	42	0	0	40	1,520
	延利用者数	177	522	0	0	144	0	1,122	192	63	0	0	60	2,280
3 泊 日	団体数	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
	実利用者数	0	0	0	0	0	0	42	21	0	0	0	0	63
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	126	63	0	0	0	0	189
	延利用者数	0	0	0	0	0	0	168	84	0	0	0	0	252
4 泊 日	団体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 泊 上	団体数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	21	0	0	0	21
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	147	0	0	0	147
	延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	168	0	0	0	168
合 計	団体数	53	80	0	4	14	1	223	49	14	4	5	46	493
	実利用者数	1,646	4,495	0	180	469	82	6,638	1,568	385	80	30	2,670	18,243
	延宿泊者数	696	3,296	0	0	326	0	3,139	893	251	0	6	268	8,875
	延利用者数	2,342	7,791	0	180	795	82	9,777	2,461	636	80	36	2,938	27,118

3 研修活動の分類と実施団体数

活動分類		学校教育利用団体						社会教育 利用団体	合計	
		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学等			
野 外 活 動	キャン プ 活 動	ロッジ泊	0	3	0	0	0	0	21	24
		テント泊	0	0	0	0	0	0	10	10
		キャンピング(テント設営・撤収)	0	0	0	0	0	0	7	7
		野外炊飯	0	14	0	5	6	0	49	74
		キャンプファイヤー	3	7	0	0	1	0	14	25
		キャンドルファイヤー	7	17	0	0	4	0	1	29
	自然 ふ れ あ い 活 動	自然散策	8	4	0	0	1	0	6	19
		ネイチャーゲーム	0	5	0	1	1	0	6	13
		フィールドワーク	1	32	0	0	2	0	16	51
		フィールドアドベンチャー	0	4	0	0	0	0	0	4
		スコアオリエンテーリング	0	16	0	0	0	0	5	21
		スタンプラリー	1	11	0	0	0	0	5	17
		ウォークラリー	0	1	0	0	0	0	1	2
		沢遊び	0	1	0	0	1	0	2	4
		ハイキング	0	1	0	0	0	0	6	7
		登山	0	1	0	0	0	0	3	4
		雪遊び・そりすべり	2	0	0	0	0	0	0	2
	レ ク ・ ゲ ー ム	ナイトハイク	0	16	0	0	1	0	7	24
		星空ウォッチング	0	5	0	0	0	0	3	8
		伝承遊び	0	1	0	0	0	0	2	3
		旗とりゲーム	0	4	0	0	0	0	0	4
		室内スポーツ	7	7	0	0	10	1	99	124
		サザンビーチチャレラン	0	2	0	0	0	0	1	3
		室内アーチェリー	0	5	0	0	1	0	2	8
		室内ハッパク・ビンゴ・ボード	0	2	0	0	0	0	0	2
		室内サーキット	37	33	0	0	12	0	83	165
		アーチェリー	0	34	0	0	0	0	40	74
マウンテンバイク		0	17	0	0	0	0	13	30	
インラインスケート		0	30	0	0	0	0	13	43	
フリスビーゴルフ		0	20	0	0	2	0	6	28	
フィールドアスレチック		0	4	0	0	0	0	0	4	
グラウンドゴルフ	1	3	0	0	1	0	4	9		
フロッカー	1	3	0	0	1	0	4	9		
キンボール	0	2	0	0	0	0	3	5		
その他の屋外スポーツ	2	3	0	0	0	1	8	14		
室 内 活 動	文化 活 動	施設を訪ねて	1	5	0	0	0	0	0	6
		室内研修	5	0	0	2	9	0	130	146
		ボランティア	0	9	0	1	0	0	1	11
	ク ラ ブ ト 活 動	張り子面	0	1	0	0	0	0	1	2
		森の標本箱	2	12	0	0	0	0	9	23
		押し花アート	1	2	0	0	1	0	2	6
		焼き板	0	5	0	0	0	0	0	5
		草木染め	0	2	0	0	0	0	3	5
		革細工	0	7	0	0	0	0	4	11
		プラ板キーホルダー	2	2	0	0	0	0	4	8
		絵手紙	1	0	0	0	0	0	1	2
		缶バッジ	3	6	0	0	0	0	6	15
		万年カレンダー	0	2	0	0	0	0	8	10
		森林環境学習プログラム	0	2	0	0	0	0	0	2
職場体験学習プログラム	0	0	0	0	0	0	0	0		
高齢者対応クラブ教室	0	0	0	0	0	0	4	4		
合 計		85	363	0	9	54	2	613	1,126	

※複数選択

第4節 企画事業

1 研修会事業

(1) 学校利用指導者研修会（第1回、第2回）

ア 目的

当所を主体的に利用することができるようにするため、活動計画の立て方や研修の進め方について研修し、指導者としての資質を高める。

イ 期日・対象校及び参加者数

(ア) 第1回

期日 平成27年4月22日(水)
対象校 4月～7月まで利用の学校
参加者 43名

(イ) 第2回

期日 平成27年7月28日(火)
対象校 8月～3月まで利用の学校
参加者 44名

ウ 研修内容（第1回、第2回とも同じ内容）

- ・施設案内
- ・実技研修（フィールドワーク、スコアOL、室内アーチェリー、ニュースポーツなど）
- ・全体会
- ・施設の利用の仕方等
- ・活動プログラムの調整（所バス利用調整を含む）

(2) 社会教育団体利用指導者研修会（第1回、第2回）

ア 目的

当所を主体的に利用できるようにするため、研修計画の立て方や研修の進め方について研修し、指導者としての資質を高める。

イ 期日・対象者及び参加者数

(ア) 第1回

期日 平成27年6月14日(日)
対象 6月～7月まで利用団体の指導者
参加者 60名

(イ) 第2回

期日 平成27年7月5日(日)
対象 8月～9月までの利用団体の指導者
参加者 55名

ウ 研修内容（第1回、第2回とも同じ内容）

- ・全体会
- ・施設の利用の仕方等
- ・活動プログラムの作成及び調整（所バス利用調整を含む）

2 利用拡大事業

(1) サクラ・カタクリ週間

ア 目的

自然の家周辺にある桜やカタクリの群生地を觀賞し、春の自然を満喫する。

イ 期日・対象者及び参加者数

期日 平成27年4月5日(日)～26日(日)
対象者 どなたでも
参加者 83名
(山野草教室)平成27年4月18日(土)
参加者 22名

ウ 活動内容

- ・サクラやカタクリなどの觀賞
- ・山菜調理体験(山野草教室)

(2) さくらウォーク

ア 目的

春の野山や田園地帯を歩きながら自然に親しみ、健康増進を図る。

イ 期日・対象者及び参加者数

期日 平成27年4月25日(土)
対象者 どなたでも
参加者 71名

ウ 活動内容

- ・自然の家を出発し、ショートコース約5km、ロングコース約10kmのウォーキング
- ・活動館開放
- ・アーチェリー、インラインスケート体験
- ・ニュースポーツ体験

(3) 安積山登山

ア 目的

新緑の安積山をトレッキングし、さわやかな汗を流しながら、身近な自然に親しむ。

イ 期日・対象者及び参加者数

期日 平成27年5月15日(金)～16日(土)
対象者 小学3年生以上
参加者 35名

ウ 活動内容

- ・御霊櫃峠入口から額取山山頂を経由し、熱海登山口までの縦走登山

(4) 親子でスコアOLに挑戦

ア 目的

親子(家族)で本所の活動プログラムに挑戦し、ふれあいを深めるとともに、本所のPRにつなげる。

イ 期日・対象者及び参加者数

期日 平成27年6月7日(日)
対象者 親子または祖父母と孫
参加者 86名

ウ 活動内容

- ・スコアOL
- ・サザピーククラブ会員募集
- ・活動館開放

(5) 夢冒険キャンプ

ア 目的

キャンプ生活を通して、自然との共存を図りながら、様々な困難に打ち勝つことのできる子どもたちを育成す

る。

- イ 期日・対象者及び参加者数
期 日 平成27年8月5日(水)～7日(金)
対象者 小学5年生～中学2年生
参加者 20名

ウ 活動内容

- (ア) 第1日
・開講式・オリエンテーション
・サイクリング・ニジマスつかみ・沢遊び
・テント設営・野外炊飯・星空観測会
- (イ) 第2日
・サイクリング・湖水浴
・野外炊飯・ナイトハイク
- (ウ) 第3日
・クラフト(竹細工)
・うどん打ち体験
・閉講式

(6) 第13回郡山自然の家オープンデー

(ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業 夏期間)

- ア 目的
豊かな自然環境の中で、心身ともに健全な青少年を育成するとともに、県民に体験活動の場を提供する。

- イ 期日・対象者及び参加者数
期 日 平成27年9月13日(日)
対象者 どなたでも
参加者 854名

ウ 活動内容

- ・オープニングセレモニー(郡山市立郡山第三中学校吹奏楽部によるマーチング)
- ・各種プログラム体験(インラインスケート・活動館開放・木工クラフトなど)
- ・イベント参加(ザリガニ釣り・遊びながらアイスクリームを作ろう・巨大シャボン玉・似顔絵コーナーなど)
- ・公園の駅「おうせ茶屋」出店
- ・ステージ発表「郡山少年少女合唱団、他3団体」

(7) 手ぶらで、いも煮会

- ア 目的
野外炊飯を通して、友だちや家族との交流を深める。

- イ 期日・対象者及び参加者数
期 日 平成27年10月18日(日)
平成27年10月25日(日)
対象者 家族またはグループ
参加者 205名

ウ 活動内容

- ・野外炊飯(いも煮会)
- ・インラインスケート、アーチェリー体験
- ・活動館開放

(8) 深まる秋! まるごと体験

- ア 目的

本所ならではの人気プログラムを体験し、秋ならではの「食」を楽しむ機会とする。

- イ 期日・対象者及び参加者数
期 日 平成27年11月1日(日)
対象者 どなたでも
参加者 62名

ウ 活動内容

- ・自然散策、フィールドビンゴ、インラインスケート
- ・ランプシェード、焼きリンゴ製作

(9) メリークリスマス!&ハッピーニューイヤー!

- ア 目的
自然の家の周辺にある素材を生かしたリースや置物などを作るクラフト活動を通して、自然とのふれあいを深める。

- イ 期日・対象者及び参加者数
期 日 平成27年12月6日(日)
対象者 どなたでも
参加者 111名

ウ 活動内容

- ・クリスマスリースづくり(外部講師による)
- ・門松づくり(外部講師による)

(10) わくわく!ファミリー冬のつどい

- ア 目的
スキー体験や冬ならではの遊びを通して、家族の絆や家族間の交流を深める。

- イ 期日・対象者及び参加者数
期 日 平成28年1月30日(土)～31日(日)
対象者 小・中学生を含む家族
参加者 36名

ウ 活動内容

- ・猪苗代スキー場でのスキー体験、そり滑り
- ・クラフト体験(万華鏡)

(11) なすかしの森キンボール教室 in 郡山

- ア 目的
キンボールスポーツを広めるとともに、家族の交流を深める。

- イ 期日・対象者及び参加者数
期 日 平成28年2月13日(土)～14日(日)
対象者 小学生を含む親子
参加者 20名

ウ 活動内容

- ・キンボール教室(外部講師による)
- ・活動館開放

(12) 冬の文化祭「クラフトまつり」

(ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業 冬期間)

- ア 目的
各種クラフトづくりや食堂での食事を体験することを通して利用拡大を図る。

- イ 期日・対象者及び参加者数
期 日 平成28年2月21日(日)

対象者 どなたでも

参加者 63名

ウ 活動内容

- ・革細工
- ・木工工作
- ・わりばしゴム鉄砲づくり、飛ばし大会
- ・表彰式（ゴム鉄砲・年間最多利用者）

(13) 活動館開放します

ア 目的

外で思い切り遊べない子どもたち（特別支援児含む）に屋内施設を開放し、からだを動かす機会を提供する。

イ 期日・対象者及び参加者数

期 日 前期 平成27年4月の日曜日(4回)

5月の日曜日(2回)

後期 一般 平成27年11月～平成28年3月

毎日曜日(14回)

特支 平成27年11月～平成28年3月

月1回土曜日(4回)

対象者 幼児及び小学生（特別支援児含む）

とその家族

参加者 総勢632名

ウ 活動内容

- ・室内サーキット(10種類)
- ・各種遊具を使った活動（ストラックアウト、竹馬、一輪車、縄跳びなど）

(14) 特別企画 自然の家でからだを動かそう

ア 目的

幼稚園・保育園（所）限定の特別企画であり、総合活動館や屋外での雪遊び等を行い、子どもたちの健康維持増進を図るとともに、体力を高める。

イ 期日・参加者数

期 日 平成27年11月17日(火)～平成28年3月25日

(金)までの平日、9:00～16:00までとする

参加者 22団体、総勢614名

ウ 活動内容

- ・総合活動館のアスレチック
- ・屋外での雪遊び、そり滑り

※2回以上利用された団体には園児に顔写真入りの缶バッジを記念にプレゼントする。

ウ 活動内容

- ・10kmコースの休憩場所で活用
(トイレ休憩・梨の試食・自然の家の説明)
- ・自然の家～きこの岩コースの所員による警備

(2) 第28回浄土松公園まつり

ア 目的

郡山市を代表する自然公園である浄土松公園内を、市内外の観光客に散策してもらい、本市及び逢瀬町のイメージアップに貢献する。

イ 期日・参加者数

期 日 平成27年10月12日(祝・月)

参加者 800名(全参加者数)

ウ 活動内容

- ・クラフト体験(缶バッジ)

(3) 会津の冬を満喫！ウィンターフェスティバル(会津自然の家企画)

ア 目的

会津自然の家での宿泊、雪国ならではの冬を楽しむ活動や伝統的な活動を通して、会津の冬や伝統文化のすばらしさを体験させるとともに、参加者相互の交流を深める。

イ 期日・参加者数

期 日 平成28年1月30日(土)～31日(日)

参加者 168名(全参加者数)

ウ 活動内容

- ・スキー
- ・スノーシュー、そり滑り
- ・会津の民話

3 協力事業

(1) ノルディックウォークin出逢いのまち逢瀬2015

ア 目的

逢瀬公園をスタート・ゴールにし、6kmと10kmのコースを参加者同士の交流を深め、秋の逢瀬町を楽しんで歩く。

イ 期日・参加者数

期 日 平成27年10月4日(日)

参加者 71名(10km参加者数)

福島県会津自然の家

第1節 概要

福島県会津自然の家は、恵まれた自然環境の中で、自然に親しむ活動や集団宿泊生活、野外活動を体験することにより心豊かで心身ともに健全な県民を育成することを目的とした生涯学習施設である。

昭和56年4月に開所し、本年度末で35年になり、開所以来多くの方々にご利用いただいているところである。

本年度の利用者数は、3万3千人強であった。これは、「ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業」の実施をはじめ、様々な企画事業や、新たな利用者層への利用促進に努めてきたものの、平成26年度のみ連携事業が終了したことや、少子化などによって利用者数が減少した。

また、5つの重点目標を掲げ、その達成に努めるとともに、誰もが利用しやすい魅力的な施設をめざして運営の改善を図り、時代や利用者のニーズに対応した生涯学習施設の役割に積極的に取り組んできた。

1 職員組織

職名	所長	次長	副主査	主任社会教育主事	社会教育主事	指導主事	体験活動指導員	嘱託運転手	計
人員	1	1	1	1	3	1	3	1	12

2 平成27年度重点目標と成果

(1) 事故の絶無を期する安全管理と保健安全指導を徹底します。

ア 日常（事前、事中、事後）及び定期の安全・確認の徹底

イ 利用者への適時的確な指導助言

ウ 傷病、感染症（インフルエンザ、感染性胃腸炎等）防止

エ 施設の整備、修繕

(2) 「好感度」の高い施設を目指す親切な接遇に努めます。

ア 笑顔と元気なあいさつ、親切・ていねいな接遇

イ 利用者一人一人の立場に立った支援及び利用目的や目標達成のための支援

ウ 施設内・フィールド内ごみゼロ及び整理整頓

(3) 教育目標を達成する研修プログラムを充実します。

ア 新たなプログラム開発による閑散期の活用方法の工夫

イ ボランティアの確保及び活用の充実

ウ 里山、堤及び周辺環境の活用、四季を通して体験できる野外活動の充実

エ 職員一人一人の絶えざる研鑽と修養

(4) 生涯学習施設の拠点として、独創的で多様な企画事業と研修会を充実します。

ア 自然体験活動の促進及び歴史・文化に係る事業の工夫

イ 社会や利用者のニーズに応え、前年踏襲にとらわれない事業の企画立案

ウ P D C Aサイクルの確実な実施

エ 地域及び生涯学習施設（自然の家、公民館、美術館、博物館、図書館等）との連携

(5) 利用者数、利用者層を拡大する効果的で多様な広報活動を充実します。

ア 誘客活動の工夫

イ 記録の蓄積及びデータの確実な分析

ウ ホームページ、広報紙の充実及び適時的確な更新

エ 所内外掲示・環境構成の充実

<取組の結果>

(1) 利用者の目的達成度（利用団体による自己評価「利用者の声」）

ア 利用者が回答している「利用者の声」の達成度の平均値が3.72（昨年度3.72）である。これは、昨年度と同等であるが、かなり高い数値であり（93%）、ほとんどの団体が達成感をもって終了できたことを意味する。

イ 利用者の記述を見ると、所員の団体に対するていねいで利用者の立場に立った的確な支援が高く評価され、利用者の目的達成に大きくかかわったものにとらえられる。一方で、利用者からの様々な要望については、一つ一つ検討してていねいに利用者に対応策などを返すことによって、本所利用の改善に結び付け、かつ利用者との信頼関係をつくる機会とした。

(2) 職員に対する満足度（利用団体による他者評価「利用状況調査表」）

ア 上記(1)「利用者による目的達成度に係る自己評価」だけでなく、本所、担当職員の支援に対する評価も調査した。

イ 平均値が3.73（94%）と、かなり高い数値を示した。上記(1)と同様に、職員の誠心誠意、利用者の立場に立った誠実かつ適切な対応が高く評価されたものと考えられる。

(3) 経営・運営ビジョンの達成度（職員による自己評価

ア 評価が比較的高い項目

(ア) 自然に親しむ活動を通じ、感動する心や自然を愛する心を育む。 【3.18→3.62】

(イ) 明るく笑顔で対応し、誰に対しても温かい気配り

や心配りができ、誰からも好感がもてる職員

【3.36→3.75】

(ウ) 利用者の安全を最優先に、柔軟に、臨機応変に適切な判断や行動ができる職員 【3.36→3.75】

(エ) 豊かなコミュニケーションと協力態勢をとり、人間関係に配慮できる職員 【3.45→3.62】

(オ) 事故の絶無を期する安全管理と保健安全指導を徹底します。 【3.09→3.50】

(カ) 日常（事前、事中、事後）及び定期の安全・確認の徹底 【3.18→3.62】

(キ) 利用者への適時的確な助言指導 【3.45→3.50】

(ク) 「好感度」の高い施設を目指す親切的な接遇に努めます。 【3.45→3.62】

(ケ) 笑顔と元気なあいさつ、親切・ていねいな接遇 【3.63→3.75】

(コ) 利用者一人一人の立場に立った支援及び利用目的や目標達成のための支援 【3.36→3.50】

(サ) 利用者数、利用者層を拡大する効果的で多様な広報活動 【3.00→3.50】

イ 評価が比較的低い項目

(ア) 年間利用者4万人以上 【2.90→2.75】

(イ) 年間利用稼働率85%以上 【2.90→2.75】

(ウ) 年間宿泊稼働率70%以上 【2.72→2.62】

(エ) 新たなプログラム開発による閑散期の活用方法の工夫 【2.54→2.62】

(オ) 地域及び生涯学習施設（自然の家、公民館、美術館、博物館、図書館等）との連携 【2.45→2.50】

ウ 評価が大きく向上した項目（9月→2月）

(ア) 進んで仕事を見つけ、率先して行動できる職員 【3.09→3.37】

(イ) 事故の絶無を期する安全管理と保健安全指導を徹底します。 【3.09→3.50】

(ウ) 利用者の安全を最優先に、柔軟に、臨機応変に適切な判断や行動ができる職員 【3.36→3.75】

(エ) 日常（事前、事中、事後）及び定期の安全・確認の徹底 【3.18→3.62】

(オ) 傷病、感染症（インフルエンザ、感染性胃腸炎等）防止 【2.81→3.25】

(カ) 里山、堤及び周辺環境の活用、四季を通して体験できる野外活動の充実 【2.45→2.87】

(キ) 職員一人一人の絶えざる研鑽と修養 【2.90→3.25】

(ク) P D C Aサイクルの確実な実施 【2.72→3.12】

(ケ) 利用者数、利用者層を拡大する効果的で多様な広報活動を充実します。 【3.00→3.50】

以上から、「笑顔と元気なあいさつ、親切・ていねいな接遇」「利用者の安全を最優先に、柔軟に、臨機応変に適切な判断や行動ができる職員」が上位にきており、職員のビジョン達成に向けて意識的に取り組んでいることが伺える。

一方で、成果目標である「年間利用者4万人以上」「年間利用稼働率85%以上」については、達成までには至らなかったことで、対応策について課題があるととらえている。既存の取り組みにとどまらず、新たな対応策を検討する必要がある。また、「地域及び生涯学習施設（自然の家、公民館、美術館、博物館、図書館等）との連携」については、今後積極的に働きかけ、利用促進の観点からも検討が必要である。

(4) 企画事業に対する評価（職員による自己評価）

ア どの取組に対しても、3.7以上の高い自己評価を与えている。担当者が、昨年度の反省を踏まえ、課題となった事項についての改善策を明確にして事業にのぞんだことで、事業目的は十分達成できたと評価した結果と考える。

イ 次年度については、特に利用促進の観点に加えて、教育研究事業を位置づけ、事業を実施する意義についても、起案段階からしっかりと意識して取り組んでいきたい。

第2節 施設・設備の概要

1 所在地

(1) 河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山4495番1

2 宿泊定員

- (1) 本館 25室 290名(うち1室障がい者用)
- (2) ロッジ 10棟 150名
- (3) テント 10張 60名

3 敷地面積

(1) 249,654㎡

4 建物面積

- (1) 延床面積 5,462.7365㎡
 - ア 管理研修棟（鉄筋造2階建）
 - イ 宿泊棟（鉄筋造2階建）
 - ウ プレイホール（鉄筋造）
 - エ アセンブリホール（鉄筋造）
 - オ 機械棟（鉄筋造3階建）
 - カ ロッジ（木造平屋建）
 - キ 野外活動管理センター（鉄筋造）
 - ク 炊飯場（鉄筋造）
 - ケ 薪置場（コンクリートブロック造）
 - コ 車庫（鉄筋造）
 - サ 野外便所（鉄筋造）

5 運動広場面積

(1) 8,500㎡

6 設備備品等

- (1) フィールドアスレチック
- (2) 野外活動用具、野外炊飯用具、運動用具
- (3) 双眼鏡、天体望遠鏡、テレビ、VTR
- (4) 液晶プロジェクター、CDカセットプレーヤー
- (5) ピアノ、オルガン
- (6) 伝承遊びセット
- (7) クラフト用具
- (8) 各種オリエンテーリング用具
- (9) アルペンスキー
- (10) 歩くスキー（クロスカン트리ースキー）
- (11) そり
- (12) スノーシュー
- (13) 營火場（4箇所）
- (14) 諸活動コース
- (15) その他

第3節 利用状況

1 当施設の利用可能対象者

- (1) 学校団体（小学校、中学校、特別支援学校、高校、大学、高等専門学校、幼稚園等の構成員及びその指導者）
- (2) 社会教育団体（公民館、子ども会、保育所、スポーツ少年団体、家族、老人会、勤労青少年団体等）の構成員及びその指導者
- (3) 教育長が適当と認めた者
- (4) その他、家族などの一般人

2 平成27年度の利用団体数

- (1) 501団体
- (2) 実利用者数21,705人
- (3) 延利用者数33,687人

3 子どもたちへ体験活動機会提供

- (1) 「ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業」（夏・冬各1回）
- (2) 企画事業の実施（21事業）

4 利用状況

- (1) 月別利用状況、利用団体別・宿泊日数別利用状況、研修活動の分類と実施団体数についての詳細は、次の表のとおりである。

5 月別利用状況

(平成28年3月31日現在)

月	種別 区分	学校教育団体						社会教育団体				家族	企画事業	合計
		幼稚園等	小学校	中学校	高校	特別支援学校	大学等	少年	青年	一般	高齢者			
4	団体数	0	3	5	3	0	0	3	0	4	0	0	6	24
	利用人員	0	7	328	118	0	0	119	0	22	0	0	653	1,247
	延人数	0	7	374	222	0	0	230	0	42	0	0	653	1,528
5	団体数	5	23	2	2	0	0	6	0	0	0	0	2	40
	利用人員	160	901	133	36	0	0	70	0	17	0	0	503	1,820
	延人数	160	2,030	133	97	0	0	70	0	23	0	0	536	3,049
6	団体数	5	34	0	0	0	0	27	1	0	0	0	1	68
	利用人員	215	1,416	0	0	0	0	493	55	37	0	0	55	2,271
	延人数	245	3,315	0	0	0	0	536	163	52	0	0	55	4,366
7	団体数	13	20	0	0	0	0	36	4	0	0	0	1	74
	利用人員	628	799	0	0	0	0	1,627	114	28	0	0	32	3,228
	延人数	1,013	1,871	0	0	0	0	2,279	284	34	0	0	32	5,513
8	団体数	2	6	2	0	0	2	28	3	0	2	3	2	50
	利用人員	117	170	23	0	0	61	1,035	113	13	4	20	250	1,806
	延人数	192	439	23	0	0	300	1,754	304	13	4	39	284	3,352
9	団体数	2	29	2	0	0	1	15	0	5	0	0	1	55
	利用人員	141	1,405	127	0	0	14	431	0	80	0	0	260	2,458
	延人数	174	3,046	321	0	0	56	479	0	101	0	0	260	4,437
10	団体数	9	21	1	0	0	0	8	0	4	3	1	5	52
	利用人員	412	895	120	0	0	0	473	0	556	62	5	1,146	3,669
	延人数	412	1,595	120	0	0	0	524	0	563	62	10	1,146	4,432
11	団体数	1	4	0	1	0	0	6	1	5	4	0	8	30
	利用人員	44	143	0	57	0	0	109	23	48	71	0	489	984
	延人数	44	164	0	57	0	0	134	69	52	71	0	855	1,446
12	団体数	0	0	0	0	0	0	5	0	1	1	0	5	12
	利用人員	0	0	0	0	0	0	134	0	57	24	0	231	446
	延人数	0	0	0	0	0	0	195	0	57	24	0	376	652
1	団体数	17	4	0	0	0	0	16	1	1	0	0	2	41
	利用人員	670	121	0	0	0	0	606	8	17	0	0	309	1,731
	延人数	796	150	0	0	0	0	942	16	23	0	0	477	2,404
2	団体数	19	1	1	0	0	0	8	0	4	1	0	3	37
	利用人員	905	54	40	0	0	0	287	0	59	15	0	227	1,587
	延人数	1,038	54	80	0	0	0	329	0	59	15	0	227	1,802
3	団体数	1	0	2	0	0	2	6	1	5	0	0	1	18
	利用人員	60	0	3	0	0	30	125	47	9	0	0	184	458
	延人数	60	0	3	0	0	109	220	121	9	0	0	184	706
合計	団体数	74	145	15	6	0	5	164	11	29	11	4	37	501
	利用人員	3,352	5,911	774	211	0	105	5,509	360	943	176	25	4,339	21,705
	延人数	4,134	12,671	1,054	376	0	465	7,692	957	1,028	176	49	5,085	33,687

前年対比

期間	区分	26年度	27年度	増減
4月	団体数	529	501	-28
	実利用者	27,175	21,705	-5,470
3月	延利用者	41,146	33,687	-7,459

6 利用団体別・宿泊日数利用状況

(1) 利用者数 ()はキャンプ、ロッジ内数

項目	団体数	実利用者数	延宿泊者数	延利用者数
利用者数	501	21,705	11,982	33,687
(キャンプ)	(2)	(17)	(0)	(17)
(ロッジ)	(7)	(245)	(234)	(479)

(2) 利用者受け入れ日数

項目	利用可能日	利用日数	宿泊可能日	宿泊日数
利用日数	293	234	244	145
(キャンプ)	(149)	(2)	(149)	(2)
(ロッジ)	(149)	(7)	(149)	(7)

(3) 利用者区分

泊	種別 区分	学校教育団体						社会教育団体				家族	企画事業	合計
		幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	福祉支援学校	大学等	少年	青年	一般	高齢者			
1 泊 日	団体数	62	35	12	2	0	0	116	2	25	11	1	28	294
	実利用者数	2,655	1,053	591	102	0	2	3,694	36	883	176	11	3,854	13,057
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者数	2,655	1,053	591	102	0	2	3,694	36	883	176	11	3,854	13,057
1 泊 日	団体数	10	64	2	2	0	0	39	2	2	0	2	5	128
	実利用者数	612	2,956	86	53	0	0	1,447	51	35	0	9	346	5,595
	延宿泊者数	612	2,956	86	53	0	0	1,447	51	35	0	9	346	5,595
	延利用者数	1,224	5,912	172	106	0	0	2,894	102	70	0	18	692	11,190
2 泊 日	団体数	2	46	1	2	0	1	9	7	2	0	0	1	71
	実利用者数	85	1,902	97	56	0	26	368	273	25	0	0	17	2,849
	延宿泊者数	170	3,804	194	112	0	52	736	546	50	0	0	34	5,698
	延利用者数	255	5,706	291	168	0	78	1,104	819	75	0	0	51	8,547
3 泊 日	団体数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3	5
	実利用者数	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	5	122	142
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	45	0	0	0	0	15	366	426
	延利用者数	0	0	0	0	0	60	0	0	0	0	20	488	568
4 泊 日	団体数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	実利用者数	0	0	0	0	0	55	0	0	0	0	0	0	55
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	220	0	0	0	0	0	0	220
	延利用者数	0	0	0	0	0	275	0	0	0	0	0	0	275
5 泊 以上	団体数	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
	実利用者数	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	7
	延宿泊者数	0	0	0	0	0	43	0	0	0	0	0	0	43
	延利用者数	0	0	0	0	0	50	0	0	0	0	0	0	50
合計	団体数	74	145	15	6	0	5	164	11	29	11	4	37	501
	実利用者数	3,352	5,911	774	211	0	105	5,509	360	943	176	25	4,339	21,705
	延宿泊者数	782	6,760	280	165	0	360	2,183	597	85	0	24	746	11,982
	延利用者数	4,134	12,671	1,054	376	0	465	7,692	957	1,028	176	49	5,085	33,687

7 研修活動の分類と実施団体数

(平成28年3月31日現在)

(1) 野外活動

No.	プログラム名	学校	社教	計
1	フィールドアスレチック	37	36	73
2	宇宙大作戦	66	7	73
3	カヌー	48	19	67
4	野外炊飯	44	17	61
5	どきどきナイトハイク	52	3	55
6	キャンプファイア	45	9	54
7	そり・チューブ滑り	29	5	34
8	火おこし体験	14	9	23
9	U F O ゴルフ	18	4	22
10	会津の歴史・町並みハイク	17	3	20
11	散策	12	6	18
12	樹木オリエンテーリング	15	1	16
13	バウムクーヘン	2	12	14
14	自然観察	10	4	14
15	ダッチオープン(ピザ)	2	11	13
16	アルペンスキー	7	3	10
17	星空ウォッチング	6	3	9
18	地層と化石の観察	9	0	9
19	アニマルランドの冒険	8	0	8
20	草滑り	6	2	8
21	ビンゴオリエンテーリング	6	2	8
22	スコアオリエンテーリング	5	2	7
23	バーベキュー	1	5	6
24	森遊び	5	0	5
25	焼き板	3	1	4
26	森林環境学習	3	0	3
27	雪遊び	0	3	3
28	ネイチャーゲーム	2	1	3
29	登山	2	1	3
30	川の学習	2	0	2
31	ハイキング	2	0	2
32	雪上ハイキング	0	1	1
33	昆虫ウォッチング	0	0	0
34	かにの沢で遊ぼう	0	0	0
35	雪像づくり	0	0	0
36	どうぶつ村の大運動会	0	0	0
37	史跡めぐり	0	0	0
38	アニマルトレッキング	0	0	0
39	おごろくオリエンテーリング	0	0	0
40	ウォークラリー	0	0	0

(2) 室内活動

No.	プログラム名	学校	社教	計
1	クラフト	28	26	54
2	ニュースポーツ	15	37	52
3	室内ゲーム	19	13	32
4	キャンドルファイア	28	0	28
5	信頼関係づくりゲーム	14	9	23
6	会津の民話	8	1	9
7	ケーキづくり	2	2	4
8	絵手紙	1	3	4
9	テーブルマナー教室	0	4	4
10	伝統工芸	3	0	3
11	そば打ち体験	0	1	1
12	読み聞かせ	0	0	0
13	団体独自(学習会他)	16	83	99
14	ダンス、剣道等練習	0	11	11
15	音楽関係練習(吹奏楽他)	0	5	5

※ クラフトには、森の生きものたち、ストーンペインティング、もっくんキーホルダー、すかし葉づくり、竹とんぼ等の活動を含む。

第4節 企画事業

1 指導者の研修

(1) 学校団体指導者事前研修会

ア 目的

- (ア) 本所の設立の趣旨、教育目標、方針、利用のねらい及び運営方法を理解させる。
- (イ) 児童生徒が安全に生活し充実した活動が行えるよう屋内外の施設環境を確認するとともに、各種プログラムのねらいや配慮事項を理解させ、効果的な活動計画が作成できるようにさせる。
- (ウ) 集団宿泊生活が円滑かつ効果的に進められるよう、同じ時期に宿泊する他の学校団体との活動及び役割分担等について調整を図らせる。

イ 期日、対象、参加者数

- (ア) 第1回：平成27年4月15日（水）
5/8～6/12に利用する学校の教職員39名参加
- (イ) 第2回：平成27年4月16日（木）
6/16～7/18に利用する学校の教職員42名参加
- (ウ) 第3回：平成27年4月22日（水）
8/26～9/25に利用する学校の教職員27名参加
- (エ) 第4回：平成27年4月23日（木）
9/29～10/29に利用する学校の教職員15名参加

ウ 研修内容

- (ア) 利用の仕方及び利用日までの手続き準備物の確認
- (イ) 活動計画の作成及び同時期利用団体との調整
- (ウ) プログラム及び活動内容、指導方法の理解
- (エ) 施設及び避難経路の確認

(2) 社会教育団体指導者事前研修会

ア 目的

- (ア) 本所の設立の趣旨、教育目標、方針、利用のねらい及び運営方法を理解させる。
- (イ) 社会教育活動が安全に充実したものになるよう屋内外の施設環境を確認するとともに、各種プログラムのねらいや配慮事項を理解させ、効果的な活動計画が作成できるようにさせる。
- (ウ) 集団宿泊生活が円滑かつ効果的に進められるよう、同じ時期に宿泊する他の社会教育団体との活動及び役割分担等について調整を図らせる。

イ 期日、対象、参加者数

- 平成27年6月14日（日）
7/18～8/22に利用する社会教育団体の指導者55名参加

ウ 研修内容

- (ア) 利用の仕方及び利用日までの手続き準備物の確認
- (イ) 活動計画の作成及び同時期利用団体との調整
- (ウ) プログラム及び活動内容、指導方法の理解

(エ) 施設及び避難経路の確認

2 利用促進事業

(1) 第11回高寺山山開き（会津坂下町との共催）

ア 目的

- (ア) いにしへのロマンと豊かな自然を有する高寺山の山開きを行い、登山者の安全を願うとともに、町の教育観光資源を広く内外に広報し地域振興に資する。
- (イ) 参加者同士が共に汗を流し登山することにより、健康づくりと温かい心の交流の機会を提供する。

イ 期日、対象、参加者数

- (ア) 平成27年4月12日（日）一日行事 500名参加
- (イ) 一般対象

ウ 活動内容

- (ア) 山開き式典
- (イ) 高寺山登山
- (ウ) お楽しみ抽選会、さくら汁サービス

(2) 春のオープンデー

ア 目的

- (ア) 自然の家オープンデーを実施することにより、県民に会津自然の家内外の環境やプログラムについて公開する。
- (イ) 子どもたちに、心身ともにリラックスできる環境とプログラムを体験する機会を提供し明るく楽しい活動をさせる。

イ 期日、対象、参加者数

- (ア) 平成27年5月10日（日）一日行事 470名参加
- (イ) 県内の幼児、小・中学生とその家族対象
- (ウ) ボランティア10名

ウ 活動内容

- (ア) プログラム体験コーナー（無料）
カヌー体験、アスレチック（種目を限定）、森遊び、火起こし体験、ビンゴ OL、UFO ゴルフ、クラフト、バウムクーヘン（デモンストレーション）
- (イ) プログラム体験コーナー（有料）
ピザ作り

(3) 大自然わくわくキャンプ

ア 目的

- (ア) 会津自然の家や会津地方の豊かな自然の中での体験活動を通して、健全な心と体、自然に親しむ気持ちを養わせる。
- (イ) 宿泊体験を通して参加者同士の交流を図らせる。

イ 期日、対象、参加者数

(ア) 平成27年8月5日(土)～7日(月) 2泊3日

11名参加

(イ) 県内の小学校5年生～中学生対象

ウ 活動内容

(ア) テント張り体験、班旗作り、山の幸炊き込みご飯
・キャベツとベーコンの丸ごと煮作り

(イ) バードウォッチング、天体観測、川の活動、キャンプファイア

(ウ) フィールドアスレチック、ピザ作り

(4) お月見コンサート2015

ア 目的

(ア) 中秋の名月の時期に天体望遠鏡で月面を觀賞し、年中行事としての「月見」の体験をさせる。

(イ) 「月見」にふさわしい音楽や民話の語りを聴き、世代を越え、共に秋の夜長を楽しむ。

イ 期日、対象、参加者数、出演者数

(ア) 平成27年9月26日(土) 一日行事 260名参加

(イ) 一般対象

(ウ) 講話講師、トーンチャイム&ピアノ演奏、民話の出演者8名

ウ 活動内容

(ア) 月面觀賞～天体望遠鏡による月面観察、講話

(イ) 音楽鑑賞～トーンチャイム&ピアノの演奏

(ウ) 会津の民話

(5) アスレチックチャレンジデー

ア 目的

(ア) 県民にフィールドアスレチックコースを開放することにより、自然や運動することの楽しさを感得させる。

(イ) 自然体験機能及び生涯学習機能を備えた本所への理解を深めさせ、今後の集客につなげる。

イ 期日、対象、参加者数

(ア) 第1回：平成27年10月4日(日) 301名参加

第2回：平成27年10月11日(日) 45名参加

第3回：平成27年10月25日(日) 191名参加

(イ) 県内の幼児、小・中学生とその家族対象

ウ 活動内容

(ア) フィールドアスレチックスタート付近で受付

(イ) スタート時に安全面(服装、軍手不要、使用禁止箇所、毒性動植物等)を説明

(6) 第12回会津自然の家あったかふれあいまつり

ア 目的

(ア) 県民に施設及び周辺の環境を開放するとともに、活動プログラムを体験できる場を提供することにより、自然体験機能及び生涯学習機能を兼ね備えた本所への理解を深めさせ、今後の集客につなげる。

(イ) 各団体と連携を図ることにより体験活動を充実を

図る。

イ 期日、対象、参加者数

(ア) 平成27年10月18日(日) 一日行事 516名参加

(イ) 一般対象

(ウ) 協力団体参加者103名

ウ 活動内容

(ア) プログラム体験コーナー

(イ) 協力団体による展示・体験コーナー

(ウ) 協力団体による模擬店販売

(エ) 施設開放

(7) 東松峠ウォーキング大会2015

ア 目的

(ア) 「旧越後街道」は、古くから会津若松と新潟県新発田市を結ぶ重要な街道であり、文化庁が選定する「歴史の道百選」に選定されており、地域の歴史的文化遺産である「東松峠」の再確認と継承・維持と保護の一環とする。

(イ) 東松峠ウォーキング大会に、地区外から参加を集うことにより、交流・地域の活性化を図る。

イ 期日、対象、参加者数

(ア) 平成27年10月24日(土) 103名参加

(イ) 一般対象

ウ 活動内容

コース

高寺コミュニティーセンター→天屋・本名→三本松→旧道→里檀→東松洞門→峠の茶屋跡→新道→三本松→天屋の阿弥陀様(希望者)→高寺コミュニティーセンター ※片門薬師堂(希望者)

(8) 通学キャンプ

ア 目的

(ア) 自然の家での集団生活や様々な体験活動を通して、子どもたちの自律的な生活態度やよりよい人間関係を形成するための社会性を育成する。

(イ) 中学校進学前に、他校との交流を図ることによって中学校進学の不安を取り除く。

イ 期日、対象、参加者数

(ア) 地区別実施期日

a 喜多方市立第二中学校地区 29名参加

平成27年11月4日(水)～11月7日(土) 3泊4日

b 会津坂下町立坂下中学校地区 55名参加

平成27年11月18日(水)～11月21日(土) 3泊4日

c 会津若松市立北会津中学校地区 38名参加

平成27年11月25日(水)～11月28日(土) 3泊4日

(イ) 当該中学校区の小学校4・5・6年生

ウ 活動内容

(ア) 信頼関係づくりゲーム

(イ) 学習(宿題、自主学習、読書等)

(ウ) 木工クラフト、フィールドアスレチック、森遊び、

キンボール
(エ) 室内ゲーム

(9) 打って食べて大満足 新そばにチャレンジ

ア 目的

そば打ち体験を通して、郷土の食生活、食の大切さを理解し、参加者同士の交流を深める。

イ 期日、対象、参加者数

(ア) 第1回：平成27年11月14日(土)

52名参加、講師2名、ボランティア3名

第2回：平成27年11月15日(日)

58名参加、講師1名、ボランティア3名

第3回：平成27年11月22日(土)

58名参加、講師2名、ボランティア2名

(イ) 一般対象

ウ 活動内容

(ア) そば打ち実演

(イ) そば打ち体験

(ウ) そば茹で実演

(エ) そば茹で体験

(オ) 試食

(10) 手作り森のクリスマス

ア 目的

クリスマスケーキ、クラフトづくりを通して、楽しみながらケーキを作ったり、自然素材を工夫したりすることにより、家族やグループ間の交流、親睦を深める。

イ 期日、対象、参加者数

(ア) 第1回：平成27年12月5日(土)

37名参加、講師1名

第2回：平成27年12月6日(日)

51名参加、講師1名

(イ) 県内の小・中学生とその家族対象

ウ 活動内容

(ア) クリスマスケーキ作り

a 講師の実演

b 生地づくり、ロールの仕方、デコレート

(イ) クリスマスクラフト作成

(ウ) 試食

(11) なすかしの森親子キンボール教室in会津

ア 目的

那須甲子・磐梯・いわき海浜・郡山・会津の福島県内の国公立施設でキンボール教室を実施することにより、福島県内でのキンボールの認知度を高め、プレーを通して、家族や友人との交流を深め、他人を思いやる心や協調性、ルールを守ることの大切さなどを学び、子どもの豊かな人間性を育む。

イ 期日、対象、参加者数

(ア) 平成27年12月12日(土)～13日(日) 44名参加

(イ) 小学生を含む親子(保護者が1名参加すれば、その子どもの友だちの参加も可)

(ウ) 講師 齋藤大介氏(日本キンボールスポーツ福島県連盟理事長)

ウ 活動内容

(ア) 交流ゲームとルール説明

(イ) 実践練習

(ウ) 練習試合とまとめ

(12) 冬休み学習宿

ア 目的

(ア) 児童に冬季休業中の学習課題等に効果的に取り組む場を設定する。

(イ) 自主性や創造性を育みながら学習の仕方を身に付けさせたり、基本的な生活習慣を身に付けさせる。

(ウ) 児童のふれあいの場を設定し、参加者相互の交流を図る。

イ 期日、対象、参加者数

(ア) 第1回：平成27年12月25日(金)～26日(土) A班

1泊2日 39名参加

第2回：平成27年12月26日(土)～27日(日) B班

1泊2日 62名参加

(イ) 県内の小学校4・5・6年生

ウ 活動内容

(ア) 信頼関係づくりゲーム

(イ) 学習(国語、社会、算数、理科)

(ウ) 体力づくり(キンボールほか)

(13) 会津の冬を満喫! ウィンターフェスティバル

ア 目的

会津自然の家での宿泊、雪国ならではの冬を楽しむ活動などを通して、会津の冬や伝統文化のすばらしさを体験するとともに、参加者相互の交流を深めさせる。

イ 期日、対象、参加者数

(ア) 平成28年1月23日(土)～24日(日) 1泊2日

168名参加

(イ) 県内の小・中学生とその家族対象

ウ 活動内容

(ア) 1日目：そりすべり、チューブすべり、エアボードすべり、スノーシュー体験、雪灯籠作り、会津の民話

(イ) 2日目：猪苗代スキー場(スキー、スノーボード、そり、エアボード)

(14) そりチャレンジデー

ア 目的

県民にそりゲレンデを開放することにより、会津の冬の楽しさを感じさせるとともに、冬の自然体験を備えた本所への理解を深めさせ、今後の集客につなげる。

イ 期日、対象、参加者数

- (ア) 第1回：平成28年1月31日（日）141名参加
- 第2回：平成28年2月7日（日）52名参加
- 第3回：平成28年2月21日（日）中止（雪不足）
- 第4回：平成28年2月28日（日）中止（雪不足）
- (イ) 県内の幼児、小・中学生とその家族対象
- ウ 活動内容
 - (ア) そりすべり、チューブすべり、エアボードすべり

(15) 集団づくりスキルアップセミナー

- ア 目的

集団の中での望ましい人間関係づくりのための手法や考え方を学ぶ機会を提供することで、学校教育・青少年教育・地域活動等の指導者としての資質を向上させる。
- イ 期日、対象、参加者数
 - (ア) 平成28年2月7日（日）24名参加
 - (イ) 学校教育関係者、青少年教育関係者、青少年団体指導者、地域リーダー、学生等対象
 - (ウ) 講師 二瓶重和氏（上級カウンセラー、会津若松市立門田小学校長）
- ウ 活動内容
 - (ア) 講義
 - (イ) 演習（構成的グループエンカウンター、プロジェクトアドベンチャー）

(16) みんな集まれ！クラフトキッズフェア

- ア 目的
 - (ア) 親子で工夫し、楽しみながらクラフト作成を行うことにより、子どもの発想力や創造力を高めたり、親子の絆を深めたりする。
 - (イ) クラフト作成の場を提供することにより、本所のプログラムについて理解を深める機会とする。
- イ 期日、対象、参加者数
 - (ア) 平成28年3月5日（土）176名参加
 - (イ) 県内の幼児、小・中学生とその家族対象
 - (ウ) ボランティア8名
- ウ 活動内容
 - (ア) 木工クラフト
 - (イ) 竹とんぼ
 - (ウ) 割りばし鉄砲
 - (エ) プラスチック板加工
 - (オ) カラーキャンドル

徒に対し、自立心や忍耐力、協調性を養わせるとともに、自然と調和することの大切さを感じさせる。

- イ 期日、対象、参加者数
 - (ア) 平成27年8月23日（日）一日行事 233名参加
 - (イ) 県内の幼児、小・中学生とその家族対象
 - (ウ) 派遣支援員3名、ボランティア11名
- ウ 活動内容
 - (ア) プログラム体験コーナー
 - a アスレチック、カヌー体験、UFO ゴルフ、ミニ樹木オリエンテーリング、森遊び、クラフト
 - (イ) 野外クッキング体験コーナー
 - a バウムクーヘン

(2) ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業

- 会津自然の家スノーフェスタ
- ア 目的

冬の会津での自然体験活動を通して、自立心や忍耐力、協調性を養うとともに、自然と調和することの大切さを知る。
- イ 期日、対象、参加者数
 - (ア) 平成28年2月14日（日）一日行事 151名参加
 - (イ) 県内の幼児、小・中学生とその家族対象
 - (ウ) 派遣支援員4名、インストラクター10名
- ウ 活動内容
 - (ア) 猪苗代スキー場集合・解散
 - a スキー体験
 - b そりすべり
 - c エアボードすべり

3 その他の企画事業

(1) ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業

会津自然の家サマーフェスタ

- ア 目的

自然の中での冒険体験等を通して、幼児、児童、生

福島県いわき海浜自然の家

第1節 概要

福島県いわき海浜自然の家は、海と山の豊かな自然環境の中で様々な活動や集団宿泊体験を通して、心身ともに健全な青少年を育成することを目的とした社会教育施設として平成8年7月に開所した。

開所以来、学校の利用はもとより、スポーツ少年団、子ども会などの社会教育団体や家族などのあらゆる年齢層に利用されてきた。

しかし、平成23年3月11日の東日本大震災により休所を余儀なくされ、同年11月1日から財団法人いわき市教育文化事業団を指定管理者として一部再開した。以降、利用者が少しでも安心して利用できる環境を創出するため、活動エリアの放射線量測定及びデータの公開を行うとともに、低減措置を講じている。

平成23年度には本館周辺、平成24年度にはつどいの広場やいこいの広場、及び第5営火場周辺の芝生張替等による線量低減措置、平成25年度にはトリムランドの除染、野営場入り口付近の崩落現場の復旧工事を実施。平成26年度には野営場の除染を行い、安全安心な活動エリアの拡大・復旧に努めた。なお、復旧工事等により平成25年度まで使用できなかったロッジ・野外炊飯場等については、除染終了後の平成26年7月より使用を再開している。また、山林部分の放射線対策は進まずフィールドアスレチックコースや冒険の森歩道を利用した活動プログラムの再開はできなかった。しかしながら、四倉海岸の海水浴の再開に合わせて、砂の芸術や磯遊びなどの当施設の目玉である海浜活動の一部を再開した。

平成27年度の利用状況は、481団体、延べ利用数34,687人で、震災前の平成22年度（546団体66,611人）に比して52%ほどであった。社会教育団体の利用は増えているが、学校教育団体の利用は、129団体延べ10,035人（平成22年度は342団体、延べ50,576人）と、団体数では三分の一程度、延べ人数では2割にも満たない状況であった。

1 平成27年度重点目標と成果

震災によって、これまでの自然体験活動が制限される中、少しでも多くの利用者が、新たな発見や感動、満足感・充実感を味わうことにより、本来の活動目的が達成されるよう次の目標に取り組んだ。

(1) 本施設の設置目的の明確化とその周知及び利用促進を図る。

ア 自然体験活動が制限される中で教育施設として、青少年健全育成を目的とした利用のあり方などを考えながら受け入れを実施。野外での活動内容が制限されていることから、ペンダント作りなどの新たなクラフト活動の充実を図った。

イ オープンデーやクラフトのつどいなどの企画事業を充実させ、利用の促進・広報につなげることができた。

ウ 小・中学校等への利用促進のための情報提供、PR活動に努めるとともに、生涯学習施設としての役割に鑑み、教育文化施設や公民館への広報活動を行い、史跡・文化財めぐり、健康体操、ニュースポーツなどを実施。更には、公民館等との連携事業を展開するなど、新たな利用者開拓を行った。

(2) 利用者のニーズに対応した施設運営に努める。

ア 幼児から高齢者まで、多様なニーズに対応した幅広いプログラムの開発とクラフト活動に努めた。

イ 企画事業を通してアンケート調査を実施し、利用者のニーズについての調査・研究を行い、ニーズに応じた支援を実施した。また、利用者の自主性・主体性を助長できるように、工夫・改善に努めた。

(3) 事故の未然防止、危機管理体制の充実に努める。

ア 受付やオリエンテーション、活動支援において安全のための適切な助言や指導を行った。

イ 学校・社会教育団体ともに事前研修会を実施し、安全で有効かつ適切な施設の活用について周知徹底するとともに、利用団体の指導者に対して適切な指示を行い安全教育の充実に図った。

ウ 東日本大震災を教訓として、事故発生時の緊急対応及び連絡体制を明確にし、情報の共有化を徹底し危機管理体制の充実に努めた。

無線アンテナ設備の設置による海浜活動時等の情報通信網の整備や自然災害等での避難方法のマニュアル化など、利用者の安全と被害防止に努めた。

エ 本年度も利用不可であったが、フィールドアスレチックコース等の安全点検を定期的に行うとともに、利用可能な遊具等の安全管理に努めた。

また、施設全体と活動エリアである海岸、さらに非活動エリア内山間部の放射線量の測定を定期的実施して公表した。

(4) 定期的な業務内容の点検と改善に努める。

ア 計画的かつ定期的な評価により、改善点の明確化を図り、密度の高い施設運営に努めた。

イ 多面的かつ多角的な視点から、業務遂行の在り方について検討し、開かれた施設運営に努めた。

ウ 利用者へのアンケート結果を参考に、業務遂行の在り方を検討し、利用者の目線に立った支援や管理運営に努めた。

(5) 地域との連携を深め、生涯学習実践の場として機能する施設運営に努める。

ア 環境ボランティアを中心に地域との関係を密接にし、地域に根ざした施設づくりに努めた。

イ 支援ボランティアが企画事業の一端を自主運営するなど、ボランティア活動の場の充実に努めた。

ウ 公民館、支所、消防署、交番、教育文化施設等のほか、

地域の各種団体など、関係機関との連携強化に努めた。
エ オープンデーやくらふとのつどいなど、地域の連携・協力を得て開催した。

庫 他)

- 野外活動設備 (フィールドアスレチックコース、冒険の森歩道、トリムランド、営火場5ヵ所、各種オリエンテーリングコース、ナイトハイキングコース、ウォークラリーコース、ロープコース、マウンテンバイクコース 他)
- 多目的広場 (ソフトボール、マウンテンバイクコース、サッカーゴール 他)
- その他 (視聴覚機器、無線機 天体望遠鏡、双眼鏡、七宝焼窯、マウンテンバイク、釣り用具一式、海浜用具一式、大型バス 他)

2 職員組織

所長	次長	事務主任	指導員	教育指導専門員	体験活動指導員	運転手	事務補助員	環境整備員	計
1	1	1	4	1	4	2	2	2	18

第2節 施設・設備の概要

1 所在地

いわき市久之浜町田之網字向山53

2 宿泊定員

- 本館定員 300名 (和室28室)
- ロッジ定員 160名 (10棟)
- テント定員 100名 (25張)

3 敷地面積

- 350,171㎡

4 建物面積

- 6,696.97㎡
- 中心施設
本館 (宿泊室、オリエンテーションホール、研修室、野外学習室、事務室、食堂、浴室等)
体育館
- 野外施設
管理棟、ロッジ、便所等

5 野外活動施設面積

- つどいの広場 7,000㎡
- 多目的広場 8,890㎡
- 自然観察園 4,050㎡
- みんなの広場 4,700㎡

6 設備備品等

- 体育館 (バレーボールコート2面、バスケットボールコート1面(バスケットボールリング、ミニバスケットボールリング)、バドミントンコート2面、卓球台3台、ピアノ1台 キンボール 他)
- 野営場 (野外炊飯、キャンプ用品一式、冷蔵

第3節 利用状況

1 平成27年度 月別利用状況一覧表（3月末現在）

(1) 前年対比

期間	区分	26年度	27年度	増減
4月～3月	団体数	500	481	-19
	実利用者	24,614	23,831	-783
	延利用者	34,428	34,687	259

(2) 利用実績及び申込状況

月	種別 区分	学校教育団体						社会教育団体				ファミリー	企画事業	合計
		幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	特別支援	大学等	少年	青年	一般成人	高齢者			
4	団体数	1	1	0	4	0	0	8	4	1	3	0	2	24
	実利用者	276	53	0	235	0	0	302	159	76	74	0	47	1,222
	延利用者	276	53	0	428	0	0	328	433	76	74	0	59	1,727
5	団体数	3	2	0	0	0	0	1	2	5	3	1	2	19
	実利用者	217	135	0	0	0	0	17	68	173	77	15	1,277	1,979
	延利用者	217	135	0	0	0	0	34	136	173	77	28	1,277	2,077
6	団体数	0	12	0	0	2	0	8	0	5	2	0	2	31
	実利用者	0	399	0	0	43	0	305	0	88	43	0	27	905
	延利用者	0	1,034	0	0	65	0	493	0	88	43	0	27	1,750
7	団体数	4	13	1	2	1	0	34	6	10	2	6	2	81
	実利用者	159	529	35	178	70	0	1,689	184	507	32	46	27	3,456
	延利用者	313	1,309	35	528	140	0	2,643	458	540	32	84	27	6,109
8	団体数	0	2	0	0	0	3	29	6	5	1	3	2	51
	実利用者	0	51	0	0	0	56	1,808	268	142	13	14	37	2,389
	延利用者	0	51	0	0	0	185	3,663	915	165	13	33	64	5,089
9	団体数	0	11	4	1	3	4	7	0	0	6	0	1	37
	実利用者	0	466	382	70	72	79	309	0	0	109	0	1,373	2,860
	延利用者	0	906	382	70	144	264	468	0	0	109	0	1,373	3,716
10	団体数	7	1	2	0	0	0	9	0	10	15	0	2	46
	実利用者	617	72	58	0	0	0	327	0	495	340	0	14	1,923
	延利用者	763	72	58	0	0	0	439	0	531	340	0	14	2,217
11	団体数	1	3	0	0	0	0	8	3	9	6	0	3	33
	実利用者	77	267	0	0	0	0	451	253	413	107	0	59	1,627
	延利用者	77	267	0	0	0	0	702	571	546	107	0	98	2,368
12	団体数	1	1	0	2	0	0	15	1	2	6	1	2	31
	実利用者	16	37	0	498	0	0	586	20	37	180	2	41	1,417
	延利用者	16	37	0	498	0	0	667	40	37	180	4	72	1,551
1	団体数	7	0	0	0	1	0	8	4	3	2	1	3	29
	実利用者	266	0	0	0	17	0	357	247	183	18	5	239	1,332
	延利用者	266	0	0	0	17	0	432	414	183	18	15	462	1,807
2	団体数	15	0	1	1	0	2	16	1	2	2	0	2	42
	実利用者	639	0	17	18	0	21	570	11	28	44	0	1,050	2,398
	延利用者	771	0	17	36	0	42	942	22	44	44	0	1,050	2,968
3	団体数	8	2	0	0	0	0	31	7	2	5	1	1	57
	実利用者	335	228	0	0	0	0	986	257	189	142	13	173	2,323
	延利用者	335	228	0	0	0	0	1,420	752	235	142	23	173	3,308
合計	団体数	47	48	8	10	7	9	174	34	54	53	13	24	481
	実利用者	2,602	2,237	492	999	202	156	7,707	1,467	2,331	1,179	95	4,364	23,831
	延利用者	3,034	4,092	492	1,560	366	491	12,231	3,741	2,618	1,179	187	4,696	34,687

2 平成27年度 利用団体別・宿泊日数別利用状況

(1) 利用者数 () はキャンプ等の内数 (2) 利用者受け入れ日数

項目	団体数	実利用者	延利用者
利用者数	481	23,831	34,687
(キャンプ)	0	0	0
(ロッジ)	27	903	1,806

項目	利用可能日	利用日数	宿泊可能日	宿泊日数
利用日数	292	255	230	123
(キャンプ)	150	0	118	0
(ロッジ)	150	19	118	19

3 利用者区分

泊数	種別 区分	学校教育団体						社会教育団体				ファミリー	企画事業	合計
		幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	特別支援	大学等	少年	青年	一般成人	高齢者			
1泊1日	団体数	41	16	8	5	2	0	81	1	45	53	1	18	271
	実利用者	2,309	1,001	492	613	38	0	3,637	109	2,108	1,179	13	4,032	15,531
	延利用者	2,309	1,001	492	613	38	0	3,637	109	2,108	1,179	13	4,032	15,531
1泊2日	団体数	4	15	0	4	5	3	87	18	8	0	10	6	160
	実利用者	154	617	0	211	164	31	3,714	720	191	0	72	332	6,206
	延利用者	308	1,234	0	422	328	62	7,428	1,440	382	0	144	664	12,412
2泊3日	団体数	2	17	0	1	0	3	4	12	0	0	2	0	41
	実利用者	139	619	0	175	0	71	265	405	0	0	10	0	1,684
	延利用者	417	1,857	0	525	0	213	795	1,215	0	0	30	0	5,052
3泊4日	団体数	0	0	0	0	0	3	1	2	1	0	0	0	7
	実利用者	0	0	0	0	0	54	84	188	32	0	0	0	358
	延利用者	0	0	0	0	0	216	336	752	128	0	0	0	1,432
4泊5日	団体数	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
	実利用者	0	0	0	0	0	0	7	45	0	0	0	0	52
	延利用者	0	0	0	0	0	0	35	225	0	0	0	0	260
5泊以上	団体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実利用者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延利用者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	団体数	47	48	8	10	7	9	174	34	54	53	13	24	481
	実利用者	2,602	2,237	492	999	202	156	7,707	1,467	2,331	1,179	95	4,364	23,831
	延利用者	3,034	4,092	492	1,560	366	491	12,231	3,741	2,618	1,179	187	4,696	34,687

3 平成27年度 研究活動の分類と実施団体数

			学 校 団 体						社会教育団体				ファミリー	主催	合計	
			幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	養護学校	大学等	少年	青年	一般成人	高齢者				
A 野外活動	1	1	ネイチャーゲーム	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
	2	2	遊具（トリムランド）で遊ぼう	4	7	0	0	1	0	16	0	1	0	3	0	32
	3	3	動物オリエンテーリング	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	4
	4	4	野外炊飯	1	16	4	1	3	0	32	5	1	1	2	0	66
	5	5	トレッキング	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
	6	6	マウンテンバイク	0	3	0	0	0	0	2	0	0	0	4	0	9
	7	7	伝承遊び（屋外編）	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
	8	8	ニュースポーツ（屋外編）	0	2	1	0	0	0	5	2	1	1	1	0	13
	9	9	冒険の森散策	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10	10	ネイチャーラリー	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
	11	11	ロープコース	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12	12	フィールドアスレチック	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	13	13	スコアオリエンテーリング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14	14	ポイントオリエンテーリング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	15	ビンゴオリエンテーリング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	16	16	グリーンオリエンテーリング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	17	17	海浜オリエンテーリング	0	5	1	0	0	0	10	0	0	0	1	0	17
B 海浜活動	18	1	磯遊び	2	20	0	0	0	0	8	0	0	0	4	0	34
	19	2	魚釣り	0	3	0	0	0	0	2	0	0	0	3	0	8
	20	3	砂の芸術	1	14	0	0	1	0	4	0	0	0	0	0	20
	21	4	海岸ウォークラリー	1	7	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	9
	22	5	サイクリング	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	3
	23	6	ボディボード	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	24	7	いかだ乗り	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	25	8	カヤック（カヌー）乗り	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C 室内活動	26	1	伝承遊び（室内編）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	
	27	2	いきいき健康体操	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	7	
	28	3	スポーツ、ニュースポーツ体験	8	2	0	1	1	0	69	7	7	14	6	0	115
	29	4	室内ゲーム	10	6	0	0	1	0	22	1	2	0	1	0	43
	30	5	室内ビンゴオリエンテーリング	7	5	0	1	1	0	29	0	0	0	2	0	45
	31	6	海浜何でもチャンピオン	5	1	0	0	1	0	5	0	0	1	2	0	15
	32	7	海浜フレンドパーク	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3

			学 校 団 体					社会教育団体				ファミリー	主催	合計		
			幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	養護学校	大学等	少年	青年	一般成人				高齢者	
33	D ナイト 活動	1	スターウォッチング	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	3
34		2	ナイトハイキング	1	20	0	0	1	0	10	2	0	0	3	0	37
35		3	キャンプファイア	2	13	0	0	0	0	18	2	1	0	0	0	36
36		4	ボンファイア	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3
37		5	キャンドルファイア	2	8	0	1	4	0	6	0	0	0	1	0	22
38		6	ナイトハント	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	5
39	E	1	いわき史跡めぐり	0	0	0	0	0	0	1	0	0	12	0	0	13
40		2	いわき浜めぐり	0	0	0	0	1	0	3	0	0	2	0	0	6
41		3	いわき市考古資料館	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	3
42		4	いわき市アンモナイトセンター	2	1	0	0	0	0	4	0	0	4	0	0	11
43		5	いわき市草野心平記念文学館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	5
44		6	いわき市暮らしの伝承郷	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4	0	0	5
45		7	いわき市石炭化石館	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
46		8	いわき市フラワーセンター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3
47		9	アクアマリンふくしま	0	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	5
48		10	いわきデイクルーズ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
49	F 創作 活動	1	しおり	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
50		2	飛ぶ輪っか	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
51		3	キーホルダー	0	3	0	0	0	0	8	0	3	0	4	0	18
52		4	木彫るだー	1	1	0	0	1	0	3	0	1	0	0	0	7
53		5	木製コースター	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
54		6	ストーンアート	0	1	0	0	2	0	3	0	0	0	1	0	7
55		7	貝飾り	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	4
56		8	貝の壁飾り	1	3	0	0	2	0	6	0	0	0	0	0	12
57		9	貝の絵ろうそく	1	1	0	0	0	0	8	0	0	0	1	1	12
58		10	草木染め（木綿）	0	0	0	1	0	0	5	0	0	6	0	0	12
59		11	草木染め（絹）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
60		12	七宝焼	0	0	0	0	0	0	3	1	2	4	0	0	10
61		13	エコバック	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3
62		14	海浜下敷き	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	4
63		15	海浜ペンダント	0	1	0	0	0	0	9	0	0	1	0	0	11
64		16	すりガラスアート	0	0	0	1	0	0	2	1	0	0	1	0	5
65	G	1	研修・講座等の会場	0	1	0	8	1	0	40	29	10	4	0	4	97
66		2	生涯学習の会場	0	0	0	0	0	0	4	0	3	2	1	0	10
67		3	合唱・合奏等練習	0	0	1	0	0	0	2	8	1	1	0	0	13
68	H	1	連携事業	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
合計			50	157	7	16	21	0	364	61	36	79	49	5	845	

第4節 企画事業

1 研修会事業

(1) 学校団体指導者事前研修会

ア 目的

当所での利用にあたって自主的、主体的な活動を展開するため、施設見学や実技研修を行い、研修計画の立案やその実施についての理解を深める。また、学校間で調整を図り、宿泊体験活動が円滑に実施できるようにする。

イ 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成27年4月22日(水)～23日(木)
- ・対象 平成27年度利用の学校団体
- ・参加者数 35名

ウ 研修内容

- ・施設紹介と利用の仕方について
- ・本所プログラム活動の紹介
- ・活動プログラムの作成・調整

(2) 社会教育団体指導者事前研修会

ア 目的

施設見学や実技研修を通して、自主的、主体的な活動の進め方や研修計画の立て方の理解を深め、活動が円滑に実施できるようにする。

イ 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成27年5月29日(金)
- ・対象 平成27年7月1日以降の利用団体及び参加希望団体
- ・参加者数 37名

ウ 研修内容

- ・施設紹介と利用の仕方について
- ・本所プログラム活動の紹介
- ・海浜活動(磯遊び)

2 利用促進事業

(1) 春のオープナー

ア 目的

施設を地域の人々に広く開放し、当所への理解を深め、地域の中で自然の家の役割を認識し、多くの方々の協力及び参加を得ながら地域づくりやまちづくりに貢献する。更に、ボランティアスタッフにより地域とのつながりを深め、生涯学習活動や施設運営の充実を図る。

イ 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成27年5月24日(日)
- ・対象 県民
- ・参加者数 1,240名

ウ 内容

ニュースポーツ(ストラックアウト、グラウンドゴルフなど)、餅つき、海浜オリエンテーリング、クラブス小名浜によるチアリーディングショー、十和奏一鼓による太鼓演奏、クラフト体験(キーホルダー、割り箸鉄砲、スライム作り、こま作り)、野外炊飯、消防車・救急

車展示、海浜レストラン、海浜風呂など。

(2) ボランティア養成講座

ア 目的

自然体験活動を支援する上で、必要な知識と技術を習得するとともに、当所の事業・支援ボランティアとして活動ができるよう養成する。

イ 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成27年6月7日(日) 参加者数 20名
平成27年7月19日(日) 参加者数 17名
平成27年10月25日(日) 参加者数 9名
平成27年11月29日(日) 参加者数 12名
- ・対象 高校生・大学生・一般

ウ 内容

今年度実施予定の自然体験活動についての研修。

(3) ふれあいサマーキャンプ

ア 目的

自然体験を通して自然や人とふれあう喜びを体得するとともに、協調性・社会性を身につける。

イ 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成27年8月1日(土)～2日(日)
- ・対象 小学生
- ・参加者数 15名

ウ 内容

海浜活動(砂の芸術 ボディボード)交流ゲーム、野外炊飯、海浜オリエンテーリング、すいか割りなど。

(4) 秋のオープナー(ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業)

ア 目的

施設を地域の人々に広く開放し、当所への理解を深め、地域の中で自然の家の役割を認識し、多くの方々の協力及び参加を得ながら地域づくりやまちづくりに貢献する。更に、ボランティアスタッフにより地域とのつながりを深め、生涯学習活動や施設運営の充実を図る。

イ 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成27年9月27日(日)
- ・対象 県民
- ・参加者数 1,373名

ウ 内容

ニュースポーツ(グラウンドゴルフ、ストラックアウト、ベタンクなど)、消防車・救急車展示、クラフト体験(缶バッジ、下敷き、キーホルダーなど)、魚つかみ取り、火おこし体験、好間高校によるフラダンスショー、磐錦会による金魚展示、海浜レストラン、海浜風呂など。

(5) ふれあいオータムキャンプ

ア 目的

災害が起こった際に適切な判断・行動がとれるよう、防災に関する基本的な知識や技術を身につけるとともに、集団行動を通して、人とふれあう喜びを体得し、規律や協調性を身につけ、自立心を養う。

- イ 期日・対象及び参加者数
 ・期日 平成27年11月14日(土)～15日(日)
 ・対象 小学生
 ・参加者数 32名
- ウ 内容
 ダンボールハウス作り、野外炊飯(空き缶でご飯炊き)、
 キャンドルファイア、復興現場の視察など。

(6) 親子のつどいファミリーウィンターランド

- ア 目的
 親子での共同作業をとおして家族の絆を深めるとともに、他の家族との交流の促進を図る。
 地域の人材やボランティアへ活動の場を提供し、交流の推進を図る。
- イ 期日・対象及び参加者数
 ・期日 平成27年12月12日(土)～13日(日)
 ・対象 小学生の親子
 ・参加者数 24名
- ウ 内容
 親子ゲーム、クラフト体験(卓上プラネタリウム)、スターウォッチング、アウトドアクッキング(ダッチオーブンで燻製作り)など。

(7) 体験の風リレーションシップ事業

なすかしの森キンボール教室inいわき

- ア 目的
 福島県のキンボールの認知度を高めることを目的とし、プレーを通して家族や友達との交流を深めた。
- イ 期日・対象及び参加者数
 ・期日 平成28年1月16日(土)～17日(日)
 ・対象 小学生を含む保護者
 ・参加者数 50人
- ウ 内容
 プレーを通して家族や友達との交流を深め、他人を思いやる心や協調性、ルールを守ることの大切さなどを学び、子どもの豊かな人間性を育んだ。

(8) クラフトのつどい(第2回はふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業)

- ア 目的
 県民にクラフト制作を楽しむ体験活動の場を提供し、生涯学習の振興に寄与する。また、県民の本所への理解・利用推進を図る。
- イ 期日・対象及び参加者数
 ・期日 第1回平成28年1月22日(金)参加者数 15名
 第2回平成28年2月7日(日)参加者数 851名
 ・対象 県民
- ウ 内容
 PP バンドのバッグ作り、万華鏡作り、餅つき、けん玉チャンピオンの実演、昔遊びなど。

(9) 森の音楽会

- ア 目的
 いわき市出身の若手音楽家の演奏を身近で鑑賞するこ

とにより、音楽に対する関心を高めるとともに県民の本所への理解・利用促進を図る。

- イ 期日・対象及び参加者数
 ・期日 平成28年3月6日(日)
 ・対象 県内の成人、家族
 ・参加者数 173名

- ウ 内容
 ディナーバイキング料理とフルーツ演奏を楽しんだ。

(10) ヤバイセラス化石展講演会

- ア 目的
 川村学園女子大学二上政夫教授を中心とした研究グループが、ヤバイセラスについて国際学術誌に研究成果を発表するのを機に、双葉層群足沢層の特徴を県民にわかりやすく解説する。
- イ 期日・対象及び参加者数
 ・期日 平成28年2月21日(日)
 ・対象 県民
 ・参加者数 199名
- ウ 内容
 講演会のほか、ゆるキャラ作りの無料体験など。

3 その他の企画事業

(1) 公民館等連携講座

- ア 目的
 いわき市立公民館等と連携し、所バスを活用した史跡見学・文化財めぐり、ニュースポーツ、クラフト体験などを行い、社会教育団体等の利用促進を図った。
- イ 期間・対象及び参加者数
 ・期日 平成27年4月1日(水)～
 平成28年3月31日(木)〈全27件〉
 ・対象 一般成人 参加者数 555名
- ウ 内容
 史跡めぐり、クラフト・ニュースポーツ体験や健康体操など。

(2) 出前講座

- ア 目的
 自然の家の活動内容の紹介と学校及び社会教育団体等への利用促進を図るために、また、生涯学習教育の一環として出前講座を行った。
- イ 期間・対象及び参加者数
 ・期日 平成27年4月1日(水)～
 平成28年3月31日(木)〈全23件〉
 ・対象 学校、市内公民館など 参加者数 637名
 ・内容 地域の歴史講座・クラフトなど。

4 協力事業

(1) 福島の冬！ ウィンターフェスティバル

(主催：会津自然の家)

ア 目的

福島の冬の風情や伝統文化のすばらしさを発見させるとともに参加者相互の交流を図った。

イ 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年1月23日(土)～24日(日)
- ・対象 小・中学生とその保護者
- ・参加者数 35名(当所からの参加者)

ウ 内容

スキー・雪遊びなど

第18章 福島県文化財センター白河館

第1節 白河館の運営状況

1 利用者数

平成27年度の入館者は前年度の入館者（27,166人）とほぼ同数であった。団体利用は、前年度に比べ1,370名減少した。平成13年7月の開館からの延べ入館者数は、456,903人となった。

（平成28年3月31日現在）

	入館者数(人)	ホームページ・データベースアクセス件数(件)
4月	2,079	311,180
5月	3,555	33,777
6月	2,651	21,712
7月	2,937	4,345
8月	2,369	4,468
9月	3,059	3,697
10月	2,277	3,831
11月	1,679	3,630

12月	2,253	3,646
1月	1,173	3,242
2月	1,719	3,502
3月	1,476	8,158
計	27,227	405,188

2 入館者の内訳と傾向

1日平均来館者数 4月：83人 5月：132人
 6月：106人 7月：101人
 8月：79人 9月：118人
 10月：84人 11月：67人
 12月：98人 1月：49人
 2月：75人 3月：55人

地域別利用状況 県内者 86%（うち白河市 41%）
 県外者 14%

年齢層別利用状況 入館者全体のうち、児童生徒（高校生以下）が41%、団体入館者が33%を占める。

3 団体利用者の内訳と傾向

（単位 人）（平成28年3月31日現在）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
幼稚園・保育園	団体数		1	1			1		1					4
	入館者数		28	29			32		24					113
小学校	団体数	15	8	23	13		8	10			7	4	1	89
	入館者数	837	337	1,227	749		422	632			267	109	73	4,653
中学校	団体数	1	2			1	2							6
	入館者数	182	117			52	96							447
高等学校	団体数		1						1					2
	入館者数		30						18					48
養護学校	団体数						1							1
	入館者数						13							13
大学	団体数	1	1			1	1	1	1		1		1	8
	入館者数	72	35			41	9	16	9		23		10	215
幼小中高PTA (保護者のみ)	団体数													0
	入館者数													0
幼小中高PTA (保護者と児童生徒)	団体数		1	4	1		2	2						10
	入館者数		70	199	53		124	78						524
研究会	団体数			1	1		1							3
	入館者数			9	50		80							139
子ども会	団体数				2	1								3
	入館者数				147	57								204

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
公民館等	団体数			3	4	3	7	2	4					23
	入館者数			62	137	86	200	58	79					622
福祉施設・ デイケアサービス	団体数		3	4	2	3		7	2	2		1	1	25
	入館者数		51	78	46	55		126	33	30		9	12	440
資料館等	団体数		2					1						3
	入館者数		94					30						124
歴史研究団体	団体数					2							1	3
	入館者数					13							16	29
県・市町村・ 教委・審議会等	団体数					4	3	4	1	2				14
	入館者数					181	42	96	25	42				386
その他	団体数	2	7	2	4	2	4	7	7	1		1	3	40
	入館者数	34	167	47	59	23	335	116	125	73		20	32	1,031
計	団体数	19	26	38	27	17	30	34	17	5	8	6	7	234
	入館者数	1,125	929	1,651	1,241	508	1,353	1,152	313	145	290	138	143	8,988
総入館者に占める 団体入館者の割合%		54	26	62	42	21	44	51	19	6	25	8	10	33

4 情報発信事業の利用者

文化財データベースアクセス件数358,403件

(平成28年3月31日現在)

(文化財データベース公開件数368,662件、文化財情報提供システム406件をインターネット上で公開し、白河館のイベント情報等もホームページで紹介している。)

5 資料管理業務

県教育委員会による調査の出土品約50,000箱を、教育・普及・研究への活用が可能な環境に整備して収蔵管理。

写真掲載・転載の申し込み37件、出土品借受の申し込み24件。収蔵庫保管品の館内閲覧22件。

6 研修事業の状況

埋蔵文化財や無形の文化財の調査・保護を担当する自治体・団体職員、学校教育・生涯学習に携わる教職員などを対象とした研修を実施する。

区分	研修対象者	研修内容
基礎研修	教職員・市町村職員等	主に発掘調査技術の向上と整理技術の向上などをめざす。
専門研修	教職員・市町村職員等	考古資料を基に、深く細やかな指導を行うための知識や技術の習得と、総合的な歴史価値判断能力の習得などをめざす。
特別研修	教職員・市町村職員等	上記以外の研修(教職員を主な対象とする発掘調査研修、市町村職員等の要望に応じて随時実施する研修、無形の文化財に関する研修等)

(1) 平成27年度研修実施状況

(平成28年3月31日現在)

参加者：合計 482名

・基礎研修

「文化財写真の保全とデジタル記録管理」	5月23日	参加者 15名
「土師器の編年と文字資料」	7月4日	参加者 25名
「教職員等発掘調査体験研修」	8月5日～7日	参加者 12名
「映像記録作成の方法と課題」	12月5日	参加者 13名
「遺跡と史料にみる慶長五年の白河」	2月20日	参加者112名

・専門研修

「縄文時代の北緯40度」	9月26日	参加者 28名
「文化財保護指導者研修会」	10月22・23日	参加者139名
「文化財の保全と記録技術」	11月7日	参加者 16名
「縄文早・前期土器群とAMS年代測定」	1月23日	参加者 15名

<特別研修>

「文化財保全ワークショップ」	6月20日	参加者 11名
「会津盆地の弥生時代」	6月21日	参加者 42名
「古代の泉崎」	8月28日	参加者 9名
「考古学調査から見た平田村」	1月26日	参加者 26名
「県南地方の縄文文化について」	3月16日	参加者 19名

7 体験学習事業の状況

過去の生活の一部を体験しながら学べるよう、復元品等を用いた体験学習の普及活動を、館内・館外で行う。

活動を行うための施設として、屋内に体験活動室、別棟として体験学習館を設けている。また、野外展示施設では、体験広場を囲むように、縄文時代の家、前方後円墳、奈良時代の家、奈良時代の倉庫、製鉄炉、室町時代の館を復元展示している。

(1) 常時体験型体験学習

事前に予約を必要としない個人来館者を対象に実施するメニューと、事前予約制で、団体会験学習を希望する場合を対象とするものを用意している。内容は、火おこし、勾玉づくり、土器づくりなどである。

常時体験型体験活動状況 (平成28年3月31日現在)

	来館者数(人)	体験者数(人)	割合(%)
4月	2,079	2,680	129
5月	3,555	1,468	41
6月	2,651	2,711	102
7月	2,937	2,401	82
8月	2,369	1,590	67
9月	3,059	1,939	63
10月	2,277	1,925	85
11月	1,679	884	53
12月	2,253	309	14
1月	1,173	622	53
2月	1,719	647	38
3月	1,476	643	44
計	27,227	17,819	

※ 体験者数は1人で複数メニューを体験した場合も合算した延べ人数である。

(2) 募集型体験学習

事前に参加者を募集して土器づくり・布づくりなどの単発プログラムを行う「実技講座」、事前に参加者を募集し、関連性・継続性のあるメニューを年間6回実施する「まほろん森の塾」などのプログラム。

・まほろん森の塾

第1回「入塾式・昔を知る」	5月17日	参加者 7名
第2回「昔の技を学ぼう」	6月28日	参加者 8名
第3回「夏まつりに参加しよう」	7月26日	参加者 5名
第4回「まほろん探険」	9月 6日	参加者 7名
第5回「縄文時代の料理をつくる」	10月 4日	参加者 7名
第6回「石器づくり・修了式」	11月15日	参加者 8名

・実技講座

「家族で土器づくり初級編①製作」	5月10日	参加者 14名
「家族で土器づくり初級編②野焼き」	6月14日	参加者 11名
「カラムシから布をつくろう①刈取り」	6月28日	参加者 14名
「カラムシから布をつくろう②糸づくり」	7月19日	参加者 13名
「親子で石器をつくろう」	8月 1日	参加者 10名

「古代の染色にちょうせん」	8月 8日	参加者 18名
「カラムシから布をつくろう③布づくり」	8月30日	参加者 14名
「家族で土笛をつくろう」	9月26日	参加者 19名
「茶碗づくり①製作」	10月18日	参加者 24名
「古代の印章をつくろう」	11月8日	参加者 11名
「茶碗づくり②絵付け」	11月22日	参加者 24名
「ミニチュア鏡をつくろう」	11月29日	参加者 14名
「家族で門松をつくろう」	12月20日	参加者 21名
「親子で土偶・土面をつくろう①製作」	1月24日	参加者 12名

「縄文土器づくり上級編①製作」	1月30日	参加者 12名
「縄文土器づくり上級編②文様づけ」	1月31日	参加者 11名
「親子でアクセサリーをつくろう」	2月21日	参加者 13名
「親子で土偶・土面をつくろう②野焼き」	2月28日	参加者 7名
「縄文土器づくり上級編③野焼き」	2月28日	参加者 12名

(3) まほろんイベント

「GWまほろんまつり」	5月2日～6日	参加者 1,832名
「まほろん夏まつり」	7月26日	参加者 551名
「まほろんを描こう」	9月19日～23日	参加者 97名
「まほろん秋まつり」	11月 3日	参加者 441名
「まほろん感謝デー」	12月 6日	参加者 1,312名
「まほろん双六大会」	1月17日	参加者 13名
「まほろん冬まつり」	2月14日	参加者 631名

(4) 「おでかけまほろん」

文化財センター白河館の職員が、土器や体験学習器材を携えて、学校を訪問し、体験学習の支援をしたり、先生方と連携して授業を進めるプログラム。平成27年度は44校で実施。参加者数は延べ1,185名。

(平成27年度実績(実施日順)：須賀川市立大森小学校、二本松市立油井小学校、伊達市立小手小学校、福島市立蓬萊東小学校、泉崎村立泉崎第二小学校、磐梯町立磐梯第二小学校、南会津町立館岩小学校、葛尾村立葛尾小学校、伊達市立伊達小学校、浅川町立浅川小学校、川俣町立福田小学校、本宮市立糠沢小学校、本宮市立白岩小学校、会津坂下町立坂下南小学校、伊達市立白根小学校、本宮市立五百川小学校、北塩原村立裏磐梯小学校、郡山市立根木屋小学校、二本松市立杉田小学校、須賀川市立稲田小学校、小野町立夏井第一小学校、福島市立茂庭小学校、いわき市立湯本第二小学校、県立須賀川養護学校、二本松市立旭小学校、二本松市立新殿小学校、矢祭町立石井小学校、川俣町立川俣南小学校、二本松市立石井小学校、桑折町立伊達崎小学校、二本松市立原瀬小学校、昭和村立昭和小学校、喜多方市立駒形小学校、県立聾学校会津分校、伊達市立上保原小学校、伊達市立堰本小学校、柳津町立柳津小学校、須賀川市立白方小学校、県立須賀川養護学校医大分校、本宮市立和田小学校、県立平養護学校、伊達市立伊達東小学校、県立あぶくま養護学校、県

立盲学校

(5) まほろん出前講座

公民館等生涯学習施設で実施される活動等を対象として、弓矢体験、勾玉づくりなどの体験学習を実施する。平成27年度は6か所で実施し、124名が参加した。

(平成27年度実績(実施日順)：須賀川市小塩江公民館、二本松市中央公民館、南会津町奥会津博物館、須賀川市中央公民館、桑折町中央公民館、小野町ふるさと文化の館)

(6) まるごとまほろん

文化財センター白河館に収蔵する発掘資料を、各地の行事等で展示するとともに、火おこし、弓矢などの体験学習も実施するプログラム。平成27年度は7か所で実施し、1,830名が参加した。

(平成27年度実績：ふくしま海洋科学館、楽蔵(白河市)、那須甲子青少年自然の家、須賀川市教育委員会、磐梯青少年交流の家、大玉村あだたらふるさとホール、那須高原ビジターセンター)

(7) 講座・講演会

館長の講演会、白河館の学芸員などが講師となる「まほろん文化財講座」を開催した。

・館長講演会 シリーズ『世界史と考古学』

第1回「世界史の中の縄文文化—その人類史的な価値—」 5月17日 聴講者 32名

第2回「人間観と異文化理解の歩み」 7月18日 聴講者 28名

第3回「聖書と石斧」 9月12日 聴講者 38名

第4回「人間はサル仲間だって？」 11月15日 聴講者 26名

第5回「地下の物たちに過去を語らせよ—近代考古学の誕生—」 2月6日 聴講者 31名

・文化財講演会

「出土文字から古代のふくしまを描く」 6月6日 聴講者 60名

「世界遺産“平泉”と奥州藤原氏」 7月25日 聴講者 74名

「古代末の福島と陣が峯城跡」 8月29日 聴講者 72名

「災害痕跡を掘る—発掘調査からわかる災害と復興—」 11月28日 聴講者 29名

「白川城と小峰城」 12月12日 聴講者 87名

「旧石器時代研究のいま—方法論の反省を踏まえて—」 1月9日 聴講者 68名

「縄文土器の地域性—浜通りの特性を中心に—」 3月5日 聴講者 52名

・文化財に関するビデオ上映会

「被災地の伝統芸能—被災の現状と取り組み—」 10月17日 観覧者 32名

8 常設展事業

常設展示室では、収蔵遺物や復元品を、「見て、触れて、考え、学ぶ」というプロセスを通じて理解しやすい形で展示している。

常設展示では、次の各展示コーナーにより構成される。「話題の遺跡」、「みんなの研究ひろば」、「しらかわ歴史名場面」「ふくしまの宝物」については年間数回程度の展示替えを行っている。

- めぐみの森(導入部)
- 暮らしのうつりかわり
- 暮らしをささえた道具たち
- 遺跡を掘る
- 話題の遺跡(最新の話題になった遺跡の発掘調査成果等を紹介する)
- みんなの研究ひろば(体験学習などを通して得られた成果や、児童、生徒、一般研究家の研究成果等の発表の場として活用する。平成27年度は、被災地から救出された文化財の展示コーナーとしても活用した)
- ふくしまの文化財
- のぞいてみよう福島の遺産
- しらかわ歴史名場面(白河地方の文化財を集め、白河地方の歴史の一コマを展示する)
- クイズふくしま歴史発見

9 企画展事業

特別展示室では、指定文化財展・収蔵資料展などの企画展を開催している。

(1) 企画展

・ふくしま復興展 I

「古代の文字—出土文字資料から見たふくしま—」

5月30日～7月5日 観覧者3,278名

・指定文化財展

「奥州藤原氏の時代とふくしま—会津坂下町陣が峯城跡の謎—」 7月25日～9月27日 観覧者5,996名

・ふくしま復興展 II

「よみがえる文化財—震災からの救出活動と再生への取り組み—」 10月17日～12月6日 観覧者4,219名

・収蔵資料展

「縄文土器の年代—その古さを読み解く—」

3月5日～5月8日 観覧者1,302名

(平成27年度中入館者数)

(2) 移動展

・収蔵資料展

「磐越自動車道の遺跡—会津盆地の弥生時代—」

福島県立図書館

6月5日～7月1日

10 ボランティア運営事業

(1) 「まほろんボランティア」の活動状況

- ・施設・展示の案内
- ・体験学習用器材の整備など
- ・ボランティア連絡会(3回開催)

(2) 登録数

個人ボランティア 22名

第19章 文化スポーツ局

※ 平成19年度まで教育庁が所管していた事業等を掲載。

第1節 組織

文化やスポーツは、人々の暮らしに潤いや生きがいをもたらす、豊かな感性や創造性を持った人づくり、魅力ある地域づくりの原動力になることから、文化・スポーツの教育的側面に配慮しつつ、本県の個性豊かな文化を再認識し、守り、伝え、はぐくみ、生かしていくため、平成20年度から知事部局（企画調整部文化スポーツ局）において所管し、全庁を挙げて総合的に展開することとした。

○ 文化スポーツ局 局長 篠木 敏明
次 長 阿部 雅人

	職 名	課長等名
文化振興課	課長	鶴見 宏幸
	総括主幹兼副課長	村上 利通
	主幹	大波 真吾
生涯学習課	部参事兼課長	力丸 忠博
	副課長兼主任主査	石田 弘枝
スポーツ課	課長	遠藤 均
	主幹兼副課長	荒川 隆男

第2節 附属機関

1 福島県文化振興審議会

根拠法令 福島県文化振興条例(平成16年福島県条例第45号)

目的 福島県文化振興条例の規定に定められた事項を審議するとともに、知事の諮問に応じ、文化振興に関する事項を調査審議する。

(1) 福島県文化振興審議会委員

任期：平成26年11月7日～平成28年11月6日

氏 名	役 職 名	備 考
石 堂 常 世	郡山女子大学副学長	
岩 崎 真 幸	みちのく民俗文化研究所代表	
小 畑 瓊 子	朝日座を楽しむ会会長	
片 野 一	福島大学人間発達文化学類教授	(会 長)
冠 木 紳 一 郎	市役所通りを良くする会会長	
佐々木 吉 晴	いわき市立美術館長	
鳴 原 明 寿	福島県芸術文化団体連合会副会長	(副 会 長)
新 城 希 子	元福島県人事委員会委員長	
田 村 奈 保 子	福島大学行政政策学類教授	
宗 田 利 八 郎	公募委員	

2 福島県生涯学習審議会

根拠法令 生涯学習の振興のための施策の推進体制の整備に関する法律(平成2年6月29日法律第71号)第10条及び福島県生涯学習審議会条例(平成3年10月5日条例第65号)

に関する重要事項を調査・審議する。

目的 生涯学習の振興に資するための施策の総合的な推進

(1) 福島県生涯学習審議会委員(第12期)

任期：平成26年7月31日～平成28年7月30日(五十音順)

氏名	役職名	備考
石田全史	(公社)日本青年会議所福島ブロック協議会会長	
小沢喜仁	福島大学副学長	会長
小野修	会津若松市教育委員会社会教育指導員	(公募)
双石正義	福島県公民館連絡協議会会長	
斎藤公子	福島県レクリエーション協会事務局次長	
佐久間静子	いわきユネスコ協会事務局長	
三瓶千香子	桜の聖母短期大学部生涯学習センター長補佐	
下山功枝	NHK文化センター福島支社長	
首藤亜希子	特定非営利活動法人育児サポートココネット・ママ代表理事	
高橋明子	喜多方市山都町公民館社会教育指導員	(公募)
中尾根康宏	日本銀行福島支店長	
中山恵理	郡山市立美術館主任学芸員	
古川雅之	福島県社会福祉協議会副会長	副会長
松本トミ子	浪江町婦人会会長	
水嶋克典	(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構福島職業訓練支援センター訓練課長	

3 福島県スポーツ推進審議会

根拠法令 平成23年8月24日に施行したスポーツ基本法により、福島県条例を全面改正した。平成23年11月1日以降、名称も「福島県スポーツ推進審議会」となった。

○スポーツ基本法(平成23年法律第78号)第31条及び福島県スポーツ推進審議会条例(平成23年福島県条例第87号)

目的 地方スポーツ推進その他のスポーツの推進に関する重要事項を調査審議する。

(1) 平成27年度第1回福島県スポーツ推進審議会

ア 日時：平成27年7月31日(金)
13:30～15:50

イ 場所：福島県西庁舎 12階 講堂

ウ 報告(ア)福島県スポーツ推進計画について

(イ)東京オリンピック・パラリンピック関連復興推進事業について

(ウ)東京オリンピック・パラリンピックに向けた本県選手強化について

(エ)「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2016」本県開催について

エ 意見交換

「ふくしまの子どもの肥満や、体力低下の実態把握と健康課題の解決に向けて」

(2) 平成27年度第2回福島県スポーツ推進審議会

ア 時間：平成28年2月12日(金)
13:30～15:50

イ 場所：福島県庁本庁舎 5階 正庁

ウ 報告(ア)平成27年度スポーツ課事業報告について

(イ)平成27年度公益財団法人福島県体育協会事業報告について

(ウ)「平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果の概要について

(エ)2020東京オリンピック・パラリンピック関連復興推進事業について

エ 意見交換

「福島県スポーツ推進基本計画」の実施状況
(ア)スポーツ推進体制の整備について

(3) 平成27年度福島県スポーツ推進審議会委員

役職名は就任時のもの
任期 平成26年9月1日～平成28年8月31日

領 域	氏 名	役 職 名	備 考
学識経験者	中 澤 謙	公立大学法人会津大学文化研究センター上級准教授	
	安 田 俊 宏	国立大学法人福島大学人間発達文化学類准教授	
	菊 池 信太郎	医療法人仁寿会菊池医院院長	
体育団体代表	片 平 俊 夫	公益財団法人福島県体育協会副会長	
	齋 藤 俊 蔵	公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会理事	
	斉 藤 富美子	NPO法人福島県レクリエーション協会理事	
	米 津 とき子	福島県スポーツ推進委員協議会副会長	
	班 目 秀 雄	元JOCナショナルコーチ（自転車）	
	長 岐 博	福島県高等学校体育連盟会長	県立田村高等学校長
	鈴 木 訓 夫	福島県中学校体育連盟会長	郡山市立郡山第六中学校長
	齋 藤 道 子	NPO法人うつくしまスポーツルーターズ理事	
健康・栄養	山 崎 有理子	公立藤田総合病院栄養管理室長	
市町村・ 公益団体	馬 場 孝 允	福島県町村会副会長	
	原 瀬 久美子	福島県都市教育長協議会会員	
	齋 藤 可 子	福島県商工会議所女性連合会会長	
公募	遠 藤 ノブ子	ならはスポーツクラブゼネラルマネジャー	
	永 井 隆太郎	i-stepトレーニングセンターフロアディレクター	

第3節 表彰

1 文化功労賞受賞者

芸術部門（音 楽） 高麗 正宣
芸術部門（美 術） 小林 昇
(五十音順)

2 第68回福島県文学賞受賞者 () 本名

(1) 小説・ドラマ部門(4名)

準 賞 「それからの人たち」 志 賀 邦 子
奨 励 賞 「うさぎの息子」 前 川 うづき
奨 励 賞 「私は親不幸」 吉 田 奈津美
青少年奨励賞 「青紫の日」 佐々木 有 美

(2) エッセー・ノンフィクション部門(3名)

文 学 賞 「十八才 夏へんろ」 小 磯 まさひろ
(小磯 匡大)
準 賞 「我が信達の自然誌」 菊 地 久 典
奨 励 賞 「筆入れ大臣」 後 藤 さとみ

(3) 詩 部 門(4名)

文 学 賞 「呪いの効かなくなったこの時代に」
片 岡 真 琴
(片岡 美有季)
準 賞 「桜花」 薄 井 弘 子
奨 励 賞 「大地」 坂 本 清 人

青少年奨励賞 「わたしの し」 西 村 美 咲

(4) 短 歌 部 門(4名)

文 学 賞 「風を待つ」 藤 田 美智子
準 賞 「復活祭のころ」 志 賀 朝 子
奨 励 賞 「空と繋がる」 氏 家 真紀子
青少年奨励賞 「幸福論」 山 内 佑 美

(5) 俳 句 部 門(6名)

準 賞 「あの日より」 大河原 政 夫
準 賞 「避難暮らし」 渡 部 健
奨 励 賞 「こほろぎ」 佐 伯 律 子
奨 励 賞 「新参者」 田 中 まゆみ
奨 励 賞 「フクシマ」 西 内 正 浩
青少年奨励賞 「花」 半 杭 沙 菜

3 文化・スポーツ知事感謝状受賞者

文化部門 会津工芸新生会
文化部門 青田 道雄
文化部門 折笠 光助
スポーツ部門 菅野 一治
スポーツ部門 佐藤 祀男

(部門別／五十音順)

4 体育・スポーツ関係

(1) 叙勲

氏名	役職名
該当なし	

(2) 文部科学大臣表彰

ア 生涯スポーツ功労者表彰

氏名	役職名
鵜沼 秀雄 (いわき市)	福島県ラグビーフットボール協会 名誉会長
坂本 守 (郡山市)	郡山市バレーボール協会顧問

イ 優良団体

団体名	代表者
四倉卓球クラブ (いわき市)	佐藤 好晴

ウ スポーツ推進委員功労者

氏名	役職名
石井 文和 (須賀川市)	須賀川市スポーツ推進委員会会長
菅野 力雄 (二本松市)	二本松市スポーツ推進委員会会長

(3) スポーツ推進委員表彰

ア 全国スポーツ推進委員連合功労者表彰

No.	支部名	市町村名	氏名
1	福島	福島市	松田 義
2	伊達	伊達市	清野 良治
3	安達	二本松市	斎藤 康雄
4	東白川	塙町	鈴木 太一
5	いわき	いわき市	佐藤奈美子

イ 全国スポーツ推進委員連合優良団体表彰

No.	支部名	市町村名	氏名
			該当なし

ウ 全国スポーツ推進委員連合30年勤続表彰

No.	支部名	市町村名	氏名
1	福島	川俣町	安田 仙松
2	伊達	伊達市	寺島 武
3	石川	浅川町	岡田 長次
4	西白河	白河市	佐久間正巳

エ 東北地区スポーツ推進委員協議会功労者表彰

No.	支部名	市町村名	氏名
1	福島	福島市	鈴木 みよ
2	福島	川俣町	布野 清子

No.	支部名	市町村名	氏名
3	伊達	桑折町	大内 伸一
4	郡山	郡山市	服部 忠男
5	郡山	郡山市	鈴木 高雄
6	田村	三春町	三瓶 清友
7	西白河	矢吹町	小針 栄子
8	東白川	棚倉町	松本 一伺
9	北会津	磐梯町	鈴木 祐美
10	北会津	会津若松市	伊藤富士江
11	耶麻	喜多方市	上野 恵子
12	相馬	新地町	八巻 京子
13	双葉	双葉町	栗田 要
14	双葉	双葉町	天野 月子
15	いわき	いわき市	鈴木 俊次

オ 福島県スポーツ推進委員協議会功労者表彰

No.	支部名	市町村名	氏名
1	伊達	伊達市	熊倉 勉
2	伊達	伊達市	野田 直人
3	安達	二本松市	遠藤 茂雄
4	安達	二本松市	安藤みちよ
5	安達	二本松市	野地伊勢治
6	安達	本宮市	渡邊 隆一
7	郡山	郡山市	佐野 光江
8	郡山	郡山市	岡部 岸子
9	郡山	郡山市	橋本 昇一
10	郡山	郡山市	國分 保美
11	郡山	郡山市	本田 茂
12	郡山	郡山市	三本木正光
13	郡山	郡山市	遠藤 茂
14	田村	三春町	佐藤 久
15	田村	三春町	戸松 嘉明
16	田村	田村市	猪狩 徳孝
17	田村	田村市	加藤 久生
18	田村	田村市	松本 正男
19	田村	田村市	早川 和典
20	西白河	中島村	瀬谷 貴之
21	西白河	白河市	野口 定義
22	東白川	棚倉町	岡部 宏昭
23	東白川	鮫川村	坂本 清美
24	東白川	鮫川村	宗田 貴
25	東白川	鮫川村	矢吹 和浩
26	東白川	鮫川村	蛭田清代枝
27	北会津	会津若松市	横澤 勇司
28	耶麻	喜多方市	穴澤 裕侯
29	耶麻	喜多方市	田中 剛
30	両沼	昭和村	本名 民子
31	南会津	只見町	馬場 由人

カ 福島県スポーツ推進委員協議会感謝状贈呈者

No.	支部名	市町村名	氏名
1	いわき	いわき市	坂本 満恵

(4) 公益財団法人福島県体育協会表彰

ア 優秀選手賞（個人）

競技名	氏名	所属
陸上競技	紫村仁美	(株)東邦銀行
〃	青木沙弥佳	(株)東邦銀行
〃	渡辺真弓	(株)東邦銀行
〃	千葉麻美	(株)東邦銀行
〃	佐藤若菜	(株)東邦銀行
〃	小枝理奈	大東文化大学3年
〃	山下航平	筑波大学3年
〃	佐藤皓人	日大東北高校1年
〃	山下潤	福島高校3年
〃	田母神一喜	学法石川高校3年
〃	遠藤日向	学法石川高校2年
〃	渡部佳朗	城西大学1年
〃	秋山尚子	相馬東高校3年
ソフトテニス	小谷菜津美	住友ゴム工業(株)白河工場
〃	大槻麗	住友ゴム工業(株)白河工場
〃	中村和樹	学法石川高校3年
〃	川嶋雅也	学法石川高校3年
ハンドボール	阿部奎太	学法石川高校3年
〃	柴崎加奈	郡山女子大学附属高校3年
卓球	甚野道雄	県北卓友会
〃	深谷和花	富久山卓球クラブ
〃	原田春輝	喜多方卓球ランド
水泳	守永隆	国士舘大学3年
〃	寺田拓未	スウィン大教いわき
〃	服部翼	福島スイミングスクール
〃	国分香奈	スウィン大教郡山
自転車競技	緑川裕也	日本大学3年
〃	吉田優樹	日本大学3年
〃	橋本壮史	中央大学2年
〃	渡邊歩	学法石川高校3年
〃	渡邊祐希	学法石川高校3年
〃	小玉和寿	学法石川高校3年
〃	鈴木涼介	白河実業高校3年
〃	石井洋輝	白河実業高校1年
バドミントン	吉田邦男	ゼビオ(株)
〃	塚野美和子	福島県バドミントン協会
〃	山川美佐江	いわきレディース
〃	永井香代子	いわきレディース
〃	遠藤夫美子	郡山ポピーバドミントンクラブ
〃	高松悦子	会津BC

競技名	氏名	所属
バドミントン	齋藤太一	早稲田大学4年
〃	渡辺勇大	富岡高校3年
〃	三橋健也	富岡高校3年
〃	川上紗恵奈	富岡高校3年
〃	山澤直貴	富岡高校2年
〃	本田大樹	富岡高校2年
〃	仁平菜月	富岡高校2年
〃	高橋明日香	ふたば未来学園高校1年
〃	後藤サシ	猪苗代中学校2年
〃	山下啓輔	猪苗代中学校1年
〃	染谷菜々美	猪苗代中学校2年
スキー	星野純子	チームリステル
〃	西沢岳人	チームリステル
〃	長谷部宏仁	猪苗代高校2年
〃	渡部剛弘	明治大学4年
馬術	吉田学人	成田乗馬倶楽部
バレーボール	熊倉允	順天堂大学2年
〃	後藤滉貴	順天堂大学3年
〃	酒井大祐	サントリーサンバーズ
ウエイトリフティング	今野金哉	福島県ウエイトリフティング協会
〃	大内俊幸	(有)丸中建設
〃	清野裕司	福島明成高校(教)
〃	吉田真弘	デイサービスセンターいしかわ
〃	官野由佳	J A 郡山市
〃	近内三孝	日本大学2年
〃	佐藤啓隆	日本体育大学1年
〃	後藤潤也	福島明成高校3年
〃	青木智也	田村高校3年
〃	宍戸大輔	福島工業高校2年
レスリング	湯浅悠人	田島高校3年
〃	前田翔吾	クリナップ(株)
〃	田野倉翔太	クリナップ(株)
〃	鈴木博恵	クリナップ(株)
〃	井上佳子	クリナップ(株)
フェンシング	佐藤真春	川俣高校3年
銃剣道	山口あやこ	陸上自衛隊第119教育大隊341中隊
〃	斑目穂高	阿武隈小学校6年
なぎなた	齋藤啓侑	会津学鳳中学校2年
〃	古川初希	一箕中学校3年
〃	黒澤真衣	一箕中学校3年

競技名	氏名	所属
なぎなた	佐藤佳依	会津学鳳中学校3年
〃	白岩桜	会津若松市立第四中学校3年
〃	高橋優芽	会津若松市立第四中学校3年
〃	猪俣朋花	会津学鳳中学校2年
〃	藤沼千裕	会津学鳳中学校2年
〃	奥住遥風	城北小学校2年
〃	齋藤侃駿	会津若松ザベリオ学園小学校2年
アイスホッケー	佐藤永和	明治大学4年
ゴルフ	蛭田みな美	学法石川高校3年
カヌー	小久保南海	安達高校3年
〃	鈴木康大	(株)久野製作所
〃	片野希優	福島県立総合衛生学院2年
トライアスロン	鋤崎隆也	順天堂大学4年
スポーツチャンバラ	市川右京	福島大学附属中学校3年
〃	本田亮	福島明成高校3年
〃	大崎駿	平工業高校2年

イ 優秀指導者賞

競技名	氏名	所属
陸上競技	川本和久	福島大学
〃	赤沼健一	福島高校
〃	松田和宏	学法石川高校
ソフトテニス	大槻三喜	(株)SRIビジネスアソシエーツ
〃	小豆畑隆則	西郷第一中学校
卓球	五十嵐修二	喜多方卓球ランド
〃	原田一孝	喜多方卓球ランド
剣道	菅野篤士	鎌田剣道スポーツ少年団
水泳	志田正弘	スウィン大教スイミングスクールいわき
自転車競技	矢吹靖弘	学法石川高校
バスケットボール	金田雅之	杉妻ミニバスケットボールスポーツ少年団
バドミントン	大堀均	富岡高校
〃	本多裕樹	富岡高校
〃	二瓶良	帝京安積高校
〃	大堀麻紀	福島県バドミントン協会
体操(新体操)	山田智史	華舞翔新体操倶楽部

競技名	氏名	所属
スポーツチャンバラ	中原陽悠	中村第一中学校2年
柔道	半谷静香	盲学校
陸上競技	佐々木真菜	盲学校高等部
〃	佐藤智美	(株)東邦銀行
車椅子バスケットボール	増子恵美	(公財)福島県障がい者スポーツ協会
〃	上村知佳	エイベックス・ホールディングス
〃	佐藤聡	(株)ダイユーエイト
剣道	金成亨	東日本国際大学附属昌平高校2年
陸上競技	高橋直生	福島第一中学校3年
ソフトテニス	北野亮介	西郷第一中学校3年
〃	鈴木竜弥	西郷第一中学校3年
〃	根本拓哉	西郷第一中学校3年
〃	檜山遥斗	西郷第一中学校3年
バドミントン	水井ひらり	猪苗代中学校3年
〃	福本真恵七	猪苗代中学校3年
〃	佐藤杏	猪苗代中学校3年

競技名	氏名	所属
馬術	杉本隆雄	stable FEDERA
ソフトボール	和田広	帝京安積高校
〃	小林憲人	オールいわきソフトボールクラブ
バレーボール	鈴木礼子	みまヤスポーツ少年団
ウエイトリフティング	鈴木宗徹	田村高校
〃	小野寺浩亀	福島明成高校
フェンシング	廣瀬了之	川俣高校
銃剣道	舘石久盟蔵	福島県銃剣道連盟
なぎなた	武藤小夜子	会津学鳳中学校
〃	新田葵	会津若松ザベリオ学園高校
カヌー	小久保英一知	安達高校
綱引	齋藤慶司	木幡べんてんジュニア綱引クラブ
〃	小澤宏史	行仁綱引クラブ
陸上競技	加藤悦子	福島第一中学校
バドミントン	齋藤亘	猪苗代中学校
ソフトテニス	齋藤嘉徳	二本松第一中学校

ウ 優秀選手賞 (団体)

競技名	団体名	実績	順位
陸上競技	東邦銀行	第63回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会 女子団体総合	第1位
〃	東邦銀行	第63回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会 団体総合	第3位
〃	東邦銀行	第63回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会 女子4×100mR	第1位
〃	東邦銀行	東邦カップ第4回ふくしまリレーズ 女子4×200mリレー 日本記録樹立	日本記録
〃	東邦銀行	第99回日本陸上競技選手権リレー競技大会 女子4×100mR	第2位
ソフトテニス	福島県	第26回都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会	第1位
〃	福島県	第70回国民体育大会ソフトテニス競技 成年女子	第3位
卓球	喜多方卓球ランド	第34回全日本クラブ卓球選手権大会 男子小中学の部	第3位
剣道	鎌田剣道スポーツ少年団	第37回全国スポーツ少年団剣道交流大会	第3位
自転車競技	白河実業高校自転車競技部	平成27年度全国高等学校総合体育大会自転車競技 4kmチームパーシュート	第4位
〃	学法石川高校自転車競技部	平成26年度全国高等学校選抜自転車競技大会 学校対抗総合成績	第3位
〃	学法石川高校自転車競技部	平成27年度全国高等学校総合体育大会自転車競技 ロード総合成績	第1位
〃	学法石川高校自転車競技部	平成27年度全国高等学校総合体育大会自転車競技 学校対抗総合成績	第3位
バスケットボール	杉妻ミニバスケットボールスポーツ少年団	平成26年度全国ミニバスケットボール大会 ブロック	第2位
バドミントン	福島県	第70回国民体育大会バドミントン競技 成年男子	第1位
〃	福島県	第70回国民体育大会バドミントン競技 成年女子	第4位
〃	福島県	第70回国民体育大会バドミントン競技 少年男子	第1位
〃	富岡高校	第43回全国高等学校選抜バドミントン大会 男子学校対抗	第2位
〃	富岡高校・ふたば未来学園高校	平成27年度全国高等学校総合体育大会バドミントン競技 男子学校対抗	第3位
〃	富岡高校	第43回全国高等学校選抜バドミントン大会 女子学校対抗	第2位
〃	富岡高校・ふたば未来学園高校	平成27年度全国高等学校総合体育大会バドミントン競技 女子学校対抗	第2位
体操 (新体操)	華舞翔新体操倶楽部	第33回全日本ジュニア新体操選手権大会	第3位
ソフトボール	帝京安積高校	第33回全国高等学校女子ソフトボール選抜大会	第3位
〃	オールいわきソフトボールクラブ	第30回全日本壮年ソフトボール大会	第3位
バレーボール	みまやスポーツ少年団	第35回全日本バレーボール小学生大会	第3位
銃剣道	福島県	第70回国民体育大会銃剣道競技 少年男子	第3位
なぎなた	会津若松ザベリオ学園高校	平成27年度全国高等学校総合体育大会なぎなた競技 団体試合	第2位
ボウリング	福島県	第70回国民体育大会ボウリング競技 成年女子	第2位
綱引	木幡べんてんジュニア	2015全日本ジュニア綱引選手権大会 (ジュニア360kg以下の部)	第1位
〃	行仁青龍	2015全日本ジュニア綱引選手権大会 (ジュニア360kg以下の部)	第2位
バドミントン	猪苗代中学校校部	平成27年度全国中学校体育大会バドミントン競技 男子団体	第3位
バドミントン	猪苗代中学校校部	平成27年度全国中学校体育大会バドミントン競技 女子団体	第3位
ソフトテニス	二本松第一中学校校部	平成27年度全国中学校体育大会ソフトテニス競技 男子団体	第3位

エ スポーツ功労賞

所属団体	氏 名	市町村名
県北地域連合会	佐藤 彰男	二本松市
〃	宍戸 一郎	本宮市
県中地域連合会	渡邊 信明	須賀川市
相双地域連合会	草野 清貴	相馬市
会津地域連合会	石田 扶	喜多方市
〃	矢澤 昇	三島町
野球	遠藤喜志雄	郡山市
テニス	黒沢 新生	福島市
バスケットボール	宇野 伸一	郡山市
ボクシング	斎藤 卓夫	福島市
体操	斎藤 宏	福島市
スキー	五十嵐憲雄	猪苗代町
馬術	高平 浩美	南相馬市
山岳	三森 一男	白河市
なぎなた	五十嵐 義	会津若松市
オリエンテーリング	市川 公男	二本松市
綱引	関根 篤實	須賀川市

オ 社会体育優良団体賞

所属団体	氏 名	実 績 等
スキー	福島県マスターズ スキー協会	<ul style="list-style-type: none"> ・スキー技術研修会の開催と参加（基礎・競技スキー・会員記録会） ・県スキー連盟主催の行事への参加（県総体・公認大会） ・全日本スキー連盟公認マスターズ大会、A級、B級大会の積極的参加 ・県外各種スキー大会への参加 ・本協会発行「白銀」の発行 現在240号 28年間 ・マスターズ層のスキー普及を通じて、スポーツの振興に寄与している。
鏡石町	特定非営利活動法人 かがみいしスポーツクラブ	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型地域スポーツクラブとして設立以来、「地域スポーツ」「生涯スポーツ」推進のため「多世代交流」「仲間づくり」「健康・生きがいくくり」をテーマに、子どもから高齢者まで幅広い世代の町民を対象に多種多様なスポーツ事業の実施や運営を行っている。 ・「いつでも」「どこでも」「だれでも」スポーツを楽しめるよう教室やイベントの自主開催を積極的に行っており、町民のニーズを把握しながら、年々事業内容を充実させスポーツ実施人口の増加や競技力向上に大きく貢献している。 ・スポーツを通した会員交流も積極的に行い、仲間づくりやまちづくりに貢献している。 ・総合型地域スポーツクラブの県中ユニオン事務局も務めており、広域的交流の中心としても積極的な活動を行っている。

カ 特別賞

所属団体	氏 名	実 績 等
バドミントン	福島県バドミントン協会	第70回国民体育大会バドミントン競技 競技別総合優勝
スキー	鈴木 猛史 (KYB株式会社)	2014/2015IPC障害者アルペンスキーワールドカップ 男子シッティング 総合1位 男子シッティング スラローム 第1位 2014/2015IPC障害者アルペンスキー世界選手権 男子シッティング スラローム 第1位

所属団体	氏名	市町村名
野球	遠藤喜志雄	郡山市
テニス	黒沢 新生	福島市
バスケットボール	宇野 伸一	郡山市
ボクシング	斎藤 卓夫	福島市
体操	斎藤 宏	福島市
スキー	五十嵐憲雄	猪苗代町
馬術	高平 浩美	南相馬市
山岳	三森 一男	白河市
なぎなた	五十嵐 義	会津若松市
オリエンテーリング	市川 公男	二本松市
綱引	関根 篤實	須賀川市

オ 社会体育優良団体賞

所属団体	氏名	実績等
スキー	福島県マスターズ スキー協会	<ul style="list-style-type: none"> ・スキー技術研修会の開催と参加（基礎・競技スキー・会員記録会） ・県スキー連盟主催の行事への参加（県総体・公認大会） ・全日本スキー連盟公認マスターズ大会、A級、B級大会の積極的参加 ・県外各種スキー大会への参加 ・本協会発行「白銀」の発行 現在240号 28年間 ・マスターズ層のスキー普及を通じて、スポーツの振興に寄与している。
鏡石町	特定非営利活動法人 かがみいしスポーツクラブ	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型地域スポーツクラブとして設立以来、「地域スポーツ」「生涯スポーツ」推進のため「多世代交流」「仲間づくり」「健康・生きがいがづくり」をテーマに、子どもから高齢者まで幅広い世代の町民を対象に多種多様なスポーツ事業の実施や運営を行っている。 ・「いつでも」「どこでも」「だれでも」スポーツを楽しめるよう教室やイベントの自主開催を積極的に行っており、町民のニーズを把握しながら、年々事業内容を充実させスポーツ実施人口の増加や競技力向上に大きく貢献している。 ・スポーツを通じた会員交流も積極的に行い、仲間づくりやまちづくりに貢献している。 ・総合型地域スポーツクラブの県中ユニオン事務局も務めており、広域的交流の中心としても積極的な活動を行っている。

カ 特別賞

所属団体	氏名	実績等
バドミントン	福島県バドミントン協会	第70回国民体育大会バドミントン競技 競技別総合優勝
スキー	鈴木 猛史 (KYB株式会社)	2014/2015IPC障害者アルペンスキーワールドカップ 男子シッティング 総合1位 男子シッティング スラローム 第1位 2014/2015IPC障害者アルペンスキー世界選手権 男子シッティング スラローム 第1位

第4節 文化

1 概要

(1) 文化の振興

ア 文化振興の力による創造的な復興

東日本大震災・原子力災害などによる社会経済情勢の変化を踏まえ、文化の力による創造的な復興を目指し、平成25年3月に、平成33年度を目標年次とする新たな文化振興基本計画「ふくしま文化元気創造プラン」を策定した。

県民の文化に親しみ交流する機会の創出及び文化活動の発表の場の充実を図るとともに、さまざまな文化資源を活用した地域活性化の取組み促進するなど、芸術文化の振興を図った。

イ 県民の文化活動の促進

県民の文化活動が促進されるよう、県総合美術展覧会、県文学賞の内容を充実し、作品の応募の奨励を図るとともに、文化団体が主体となり運営している県芸術祭の充実に努めた。

また、平成28年3月に第9回の声楽アンサンブルコンテスト全国大会を開催した。

ウ 芸術の鑑賞その他文化に接する機会の充実

福島県文化振興財団の積極的な自主事業、支援事業の展開により、県民の優れた文化芸術を鑑賞する機会や文化活動に親しむ機会の充実に努めた。

エ 民俗芸能（伝統芸能）の継承及び発展

県内外の避難先等において、地域コミュニティを維持するよりどころとなる地域の祭りや民俗芸能等を確かな形で継続し、かつ、継承できるよう、担い手や後継者の育成、確保に努めた。

オ 文化振興による地域づくり

人と人、人と地域のきずなを強め、地域の復興や活性化、地域づくりにつながるよう、地域の特性や様々な資源を活かした文化振興に努めた。

(2) 福島県文化センターの管理運営

県民の芸術及び文化の振興を図るため設置した福島県文化センターの効率的な運営を図るため、指定管理者に運営を委ねてきた。平成20年に指定した指定管理者の指定期間が平成26年3月31日をもって満了したことから、平成26年4月1日からの5年間の指定管理者について選定を行い、公益財団法人福島県文化振興財団を指定管理者として指定し、運営を委ねることとなった。

2 文化の振興

(1) 芸術の鑑賞その他文化に接する機会の充実

ア 第68回福島県文学賞

(ア) 趣旨

県民から作品を公募して優秀作品を顕彰し、本県文学の振興と文化の進展を図る。

(イ) 応募数

小説・ドラマ52点、エッセー・ノンフィクション34点、詩27点、短歌49点、俳句72点、計234点

(ウ) 受賞者数種別

部門	種別	文学賞	準賞	奨励賞	青少年奨励賞	計
小説・ドラマ		0	1	2	1	4
エッセー・ノンフィクション		1	1	1	0	3
詩		1	1	1	1	4
短歌		1	1	1	1	4
俳句		0	2	3	1	6
計		3	6	8	4	21

(エ) 審査委員

(小説・ドラマ)

松村 栄子、九頭見和夫、高見沢 功

(エッセー・ノンフィクション)

古川日出男、川延 安直、鈴木 篤夫

(詩) 荒川 洋治、長久保鐘多、齋藤 貢

(短歌) 小池 光、遠藤たか子、本田 一弘

(俳句) 黒田 杏子、江井 芳朗、永瀬 十悟

(オ) 企画委員

植村 美洋、長谷川 由美、高坂 光憲、

齋藤 芳生、池田 義弘、鎌田 喜之、

鶴見 宏幸

イ 第69回福島県総合美術展覧会

(ア) 趣旨

県内及び県出身者から作品を公募して展覧し、本県美術の振興を図る。

(イ) 会期

日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書(5部門1期開催)

平成27年6月19日(金)～6月28日(日)

出品数876点 陳列数693点

(ウ) 運営委員

新井 浩、石山信子、伊藤匡、岩崎道弘、遠藤俊博、

大沼博文、折笠光助、菊田博、齋藤勝正、齋藤義弘

酒井昌之、佐川正人、須藤靖典、田久芳涯、

鶴見宏幸、長谷川雄一、秦真龍、濱田清

(五十音順)

ウ 第54回県芸術祭

県芸術文化団体連合会が主体となって6月から12月までの7か月間を開催期間として実施した。

(7) 平成27年度福島県芸術祭行事参加状況（主催行事）

区 分	行事名	開催月日	開催場所
開幕行事	第54回福島県芸術祭開幕式典・開幕行事	9月6日	須賀川市文化センター
全県組織 行 事	第83回福島県美術協会展	10月16日～10月25日	福島県文化センター
	第52回福島県彫刻会展	10月16日～10月25日	福島県文化センター
	第43回福島県写真展	10月27日～11月3日	福島県文化センター
	第69回福島県合唱コンクール	8月28日～8月30日	福島県文化センター
	第53回福島県吹奏楽コンクール	8月1日～8月2日 8月8日～8月9日	郡山市民文化センター いわき芸術文化交流館アリオス
	創立50周年記念福島県三曲連盟演奏会	10月4日	福島県文化センター
	第32回福島県「現代吟詠のつどい」 in会津若松大会	10月24日	会津若松市文化センター
	福島県吟剣詩舞道第49回大会	10月31日	須賀川市文化センター
	福島県俳句大会	10月25日	郡山女子大学芸術館
	第63回福島県短歌祭	10月11日	郡山市民文化センター
	福島県芸術祭「詩祭・講演と朗読のつどい」	9月27日	郡山市民交流プラザビックアイ
	第54回福島県芸術祭川柳大会・第11回郡山市民川柳大会	9月24日	郡山市民交流プラザビックアイ
	第51回福島県おかあさん合唱祭	10月11日	郡山女子大学建学記念講堂
	ふくしま民謡のつどい	9月27日	三春交流館
	福島県書作家連盟第33回展	11月13日～11月15日	福島県文化センター
	第55回福島県書道協会展	11月27日～11月29日	福島県文化センター
	第42回福島県観世流謡曲大会	9月20日	下郷町ふれあいセンター
	第32回福島県声楽協会演奏会	11月15日	會津風雅堂
	第41回福島県日本画協会展	9月2日～9月6日	福島県文化センター
	福島オペラ協会第8回メンバーズ・コンサート ガラ・コンサート	12月6日	福島県文化センター
	第39回福島県書道連盟選抜展	10月8日～10月11日	福島県文化センター
	第27回福島県篆刻会展	9月16日～9月20日	コラッセふくしま プレゼンテーションルーム
	第24回福島県日本画連盟展	8月5日～8月9日	福島県文化センター
	第39回福島県版画展	8月19日～8月23日	郡山市民交流プラザビックアイ
		25行事	

(イ) 参 加 行 事

部門 区分	行事数	出演者数(点)数	来場者数
音 楽	14	2, 9 6 0	1 2, 3 1 2
演 劇	2	120	7 0 0
美 術	2 2	5, 8 9 3	2 4, 4 7 8
文 学	6	2, 0 9 9	4 5 6
舞 踊	5	4 3 3	3, 7 0 0
生活文化	6	2 3 5	1, 6 3 0
総 合	1 0	2 4, 3 8 6	3 8, 4 9 6
計	6 5	3 6, 1 2 6	8 1, 7 7 2

(2) 声楽アンサンブルコンテスト全国大会開催事業

ア 趣旨

全国的に活躍している本県の合唱活動の更なる発展を図るため、継続的に全国規模のコンクールを開催し、「合唱王国ふくしま」を全国に発信する。

イ 第9回大会の開催

- (ア) 期日 平成28年3月18日(金)～21日(月・祝)
- (イ) 部門 中学校部門・高等学校部門・一般部門
各部門金賞受賞団体による本選
- (ウ) 出演団体数126団体(推薦93団体、公募33団体)
中学校部門 41団体
高等学校部門 43団体
一般部門 42団体

(3) アートによる新生ふくしま推進事業

① 森のはこ舟アートプロジェクト(森林文化の活用による地域再生プロジェクト)

ア 趣旨

地域活力の創出と心のケアという視点から福島の復興を促進し、新たな福島のイメージを創造することを目標に、豊かで特色ある福島の森林文化をテーマとしたアートプロジェクトの展開。

イ 実施内容

- (ア) フォーラム
1 回開催、参加者数 75名
- (イ) セミナー
1 回開催、参加者数 153名
- (ウ) 南相馬エリア
2 プログラム開催、参加者数 87名
- (エ) 喜多方エリア
2 プログラム開催、参加者数1,325名
- (オ) 西会津エリア
1 プログラム開催、参加者数 485名
- (カ) 三島エリア
2 プログラム開催、参加者数 729名
- (キ) 西会津×三島エリア
1 プログラム開催、参加者数 196名
- (ク) 猪苗代エリア
1 プログラム開催、参加者数 40名
- (ケ) 北塩原エリア
1 プログラム開催、参加者数 710名

② アーティスト×学校プロジェクト

ア 趣旨

福島の未来を担う子どもたちに、アートに触れてもらい、心豊かな成長と創造する場を与えるため、各学校等において児童・生徒対象のワークショップを開催。

イ 実施内容

- (ア) 「ごみりのべ」
実施校 3校、参加者数 89名
- (イ) 「大地のえのぐで絵をえがこう!」
実施校 6校、参加者数 448名
- (ウ) 「つなげて、つくって、テキストイル!」
実施校 4校、参加者数 218名
- (エ) 子どもたちの制作した作品展示
日時:1月5日～1月11日
場所:福島市アオウゼ

(4) 「地域のたから」伝統芸能承継事業

ア 趣旨

存続の危機にある民俗芸能の継承・発展のため、公演の機会を提供するとともに、民俗芸能団体の実情に応じた総合的な支援を行う。

イ 実施内容

- (ア) 民俗芸能承継公演事業
「ふるさとの祭り開催」
会場:南相馬市
期日:平成27年10月31日(土)～11月1日(日)
参加団体:県外1団体、県内19団体、計20団体
- (イ) 民俗芸能復興サポート事業
「専門家を派遣し地区説明会や個別訪問等の実施」
地区説明会 11回
個別訪問 35団体

(5) 文化で元気!「新生ふくしま」グランドステージ事業

ア 趣旨

全国的に著名な芸術家等による公演、展覧会等を積極的に誘致することにより、県民の心の復興とともに観客の増加を図り、いきいきとした県民の姿を通して“新生ふくしま”を全国に発信し、更なる文化振興を図る。

イ 実施内容

交付 15件(公演 12件 展覧会 3件)

(6) チャレンジふくしまパフォーミングアーツプロジェクト

ア 趣旨

福島県内の中学生・高校生がプロの劇作家・音楽家等から指導を受けながら、自らの力でミュージカルの創作・公演を行うことで、人々に元気や感動を与えることの素晴らしさを知り、明日のふくしまを創造する力を養う。また、創作や公演の模様を全国に向け発信し、ふくしまの「今」を伝えることで、風評払拭を図る。

イ 実施内容

- (ア) 劇作家・音楽家等によるワークショップ
計51回開催 参加者数延べ1,188名
- (イ) 公演
期日 平成28年3月26日(土)
場所 福島県文化センター大ホール
来場者数 約500名

第5節 生涯学習

1 概要

いつでも、どこでも、だれでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価される社会、すなわち生涯学習社会を目指し、県民が主体的、継続的に学習活動に取り組めるよう、生涯学習に関する情報や学習機会を体系化してインターネットで提供するシステムである「県民カレッジ(まなびとファインダー)」を運営・推進し、県民の学習活動を支援した。

また、福島県を復興し地域コミュニティを再生するには、地域課題を解決するための県民一人ひとりの「力」が欠かせないことから、地域をつなぐ活動や地域課題を解決するための学びの場の提供を行い、地域の核となる人材を養成するための事業「全国生涯学習ネットワークフォーラム2015福島大会」を実施した。

東日本大震災は、地震、津波、原子力災害、風評被害と日本がこれまで経験したことのない複合災害であり、これらかつてない体験、記録、記憶、教訓を次世代に継承することが必要であることから、資料の収集及び保存等を行った。

さらに、子どもたちが、地域の現状やふくしまの未来について考え、新聞にまとめHP等を活用し、県内外に発信する「ジャーナリストスクール」や、ふくしまのよさや夢・希望等について、放送原稿等にまとめ、ラジオ放送等の中で自分の声で発信する「パーソナリティアカデミー」を実施し、ふくしまの復興を担う子どもたちの育成に努めた。

2 生涯学習の推進体制

(1) 福島県生涯学習審議会の開催

第1回

日時 平成28年2月10日(水)13:30～15:00
場所 ホテルサンルートプラザ福島 芙蓉の間
内容 福島県生涯学習基本計画の進行管理について

3 生涯学習情報提供及び啓発

(1) 県民カレッジ(まなびとファインダー)の推進

県民の多様なニーズや学習活動の広域化に対応するため、県・市町村・大学等高等教育機関、民間教育機関等が連携・協力し、県民が主体的、継続的に学習活動に取り組めるよう、生涯学習に関する情報や学習機会を体系化して提供するしくみである「県民カレッジ(まなびとファインダー)」を運営し、生涯学習の推進に努めた。

ア 生涯学習情報提供システムの整備・運営

県内各地域における様々な生涯学習関連情報をインターネットにより一元的かつ体系化して提供し、県民の生涯学習活動を支援した。

アクセス状況 221,049件
ホームページアドレス
<http://www.yumemanabito.jp>

イ インターネットによる講座の配信

県民がいつでもどこでも学べるインターネットによる講座を配信した。

ウ 連携講座

県と市町村、高等教育機関、民間事業者、NPO等市民団体の学習実施機関とが連携し、様々な講座を体系化し、提供した。

連携機関 103団体
提供講座数 245講座

(出典：市町村生涯学習行政に関する調査及び福島県生涯学習関連事業(福島県))

4 生涯学習による復興応援

(1) 生涯学習による復興応援事業の実施

福島県を復興し地域コミュニティを再生するには、地域課題を解決するための県民一人ひとりの「力」が欠かせないことから、地域をつなぐ活動や地域課題を解決するための学びの場の提供を行い、地域の核となる人材を養成したり、復興に向け全力で取り組む「ふくしまの今」を伝え、全国に発信したりするための事業「全国生涯学習ネットワークフォーラム2015福島大会」を実施した。

ア プレイベント

日時 平成27年7月～9月
会場 県内9箇所
参加人数 839名

イ メインフォーラム

日時 平成27年11月8日(日)～9日(月)
会場 コラッセふくしま
参加人数 285名

ウ フィールドワーク・ラーニング

日時 平成27年11月10日(火)
ルート 福島発～相馬～広野～Jビレッジ～楡葉～富岡駅前～大熊・双葉～浪江～福島着
参加人数 36名

5 復興を担う子どもたちの育成

(1) ふるさと「ふくしま」の学び事業 (ジャーナリストスクール)

子どもたち(小学校高学年～高校生)が、復興に向けてがんばる本県の現状や地域の文化、自然などについて取材し、地域のおかれている現状や、「ふくしま」の未来について考え、新聞にまとめ、HPなどを活用し県内外に発信した。

日時 平成27年7月22日(水)～24日(金)(2泊3日)
場所 アピオスペース
国立磐梯青少年交流の家
参加者数 受講者33名

特別講師 ジャーナリスト・東京工業大学教授
池上 彰氏
講師 県立相馬高校 武内教諭
福島民報社及び福島民友新聞社の協力

(2) ふるさと「ふくしま」の学び事業 (パーソナリティアカデミー)

子どもたち（小学校高学年～中学生）が、ふくしまの良さや夢・希望等について、ふくしまにゆかりのある方々にインタビューし、放送原稿等にまとめ、ラジオ放送の中で自分の言葉でその思いやふくしまの「いま」を発信した。

- ① 日時 平成28年1月10日(日)～11日(月)
場所 ラジオ福島 (福島市)
参加者数 受講者10名
特別講師 ラグビー日本代表 大野 均氏
お笑い芸人 あばれる君
- ② 日時 平成28年1月16日(土)～17日(日)
場所 ラジオ福島 (福島市)
参加者数 受講者11名
特別講師 アイドル歌手 舞木香純氏
料理人 野崎洋光氏

第6節 スポーツ

1 概要

今年度も本県出身、あるいは本県にゆかりのある選手が、とりわけジュニア世代が世界の舞台で活躍を見せた。陸上競技では日・中・韓ジュニア陸上競技大会で田母神一喜選手（学法石川高3年）が優勝、アジア・クロスカントリーでは遠藤日向選手（学法石川高2年）が5位入賞を果たした。バドミントン競技でも、ニュージーランドオープン2015とベトナムオープン2015で川上紗恵奈選手（富岡高3年）が女子シングルで優勝、三橋健也選手、渡辺勇大選手（富岡高3年）がオーストラリアジュニアインターナショナル2015とデンマークジュニア2015で優勝した。その他、バドミントン競技で富岡高校の選手が世界ジュニア選手権大会に派遣され男女とも3位入賞を果たしている。中・高校生が世界の舞台で活躍し、スポーツの力で県民に勇気や元気を与えた。

その他の競技でも、中・高校生を中心に国際大会に参加し、若い世代が世界の舞台で活躍するとともに、スポーツの力で県民に勇気や元気を与えた。

スポーツの振興については、平成22年3月に福島県スポーツ振興基本計画を策定したが、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により本県を取り巻く社会経済情勢は大きく変化したこと、また、国が平成23年8月にスポーツ基本法を制定、平成24年3月にスポーツ基本計画を策定したことを踏まえ、平成25年3月に福島県スポーツ推進基本計画（ふくしまスポーツ元気創造プラン）への見直しを行った。本計画は、30年後を展望しながら、平成25年度を初年度とする8年間のスポーツ振興の指針となるもので、それを基に各種事業を展開している。

生涯スポーツに関しては、平成14年度にあづま総合体育館内に「うつくしま広域スポーツセンター」を、Jビレッジ内に「浜通り広域スポーツセンター」を、平成15年度には、玉川村たまかわ文化体育館内に「中通り広域スポーツセンター」を、平成16年度には、会津若松市ふれあい広場ふれあい体育館内に「会津広域スポーツセンター」を設置した。その後、平成17年度に「うつくしま広域スポーツセンター」を(財)福島県体育協会内に、平成18年度に「浜通り広域スポーツセンター」を富岡町教育支援センターにそれぞれ移転し、県内4つの広域スポーツセンターが中心となり、地域住民が主体的に運営する総合型地域スポーツクラブの育成・定着を図ってきた。本年度末に浜通り広域スポーツセンターを閉所し、今後は「うつくしま広域スポーツセンター」の1センター体制で支援を図っていく。（中通り広域SCは平成21年度末、会津広域SCは平成26年度末に閉所。）

競技力向上に関しては、本県競技力の維持・向上を図るために、ジュニア期からの長期的・計画的な指導を行う「競技力向上総合システム」の構築に向け、うつくしまスポーツキッズ発掘事業や「陸上王国福島」パワーアップ事業等の事業を実施し、一貫指導体制の確立を図っているところである。また、ふくしまから世界へ！「ふくしま夢アスリート」育成支援事業も2年目を迎え、国際的な競技力向上を見据えた支援事業を推進している。

2 生涯スポーツ・競技スポーツの振興

○ 生涯スポーツ

県民の誰もが、生涯にわたってそれぞれの体力や年齢、興味関心、目的等に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも気軽にスポーツに親しみ、豊かなスポーツライフを実現するため、「ふくしまスポーツ元気創造プラン」に基づき、各種事業を展開した。

(1) スポーツ振興推進の整備充実

① うつくしま広域スポーツセンター事業

総合型地域スポーツクラブの創設・育成・定着及び広域市町村圏のスポーツ活動を支援した。

また、平成22年に設立された「うつくしま総合型スポーツクラブユニオン（福島県版の総合型地域スポーツクラブ連絡協議会）」は、クラブのネットワーク化や、魅力あるクラブを目指し活動した。

② 公益財団法人福島県スポーツ振興基金助成事業

ア スポーツ・レクリエーション指導者の養成・確保及び充実に対する事業への助成

イ 生涯スポーツの振興に対する事業への助成

ウ スポーツ施設の整備と活用に対する事業への助成

エ その他基金の目的を達成するために必要な事業への助成

③ ふくしまレクリエーションフェスタ2015の開催

平成27年9月12日（土）～13日（日）に福島市内9会場において20種目を開催。天候に恵まれ、延べ3,951人が参加した。

④ 県総合体育大会県民スポーツ大会の開催

第68回福島県総合体育大会県民スポーツ大会を7地区において実施し、参加者は3,552名であった。

(2) 県スポーツ推進委員協議会研修会等の開催

県スポーツ推進委員協議会の研修大会への支援を通じ、スポーツ推進委員の資質の向上を図った。

ア 福島県スポーツ推進委員研究大会

10月23日（金）～24日（土）福島市

イ 女性スポーツ推進委員研修会6月 4日（木）郡山市

ウ 新任スポーツ推進委員研修会6月18日（木）郡山市

○ 競技スポーツ

本県選手が国際大会や各種全国大会において活躍し、好成績を収めることを目的に、(公財)福島県体育協会をはじめ、関係競技団体等と連携し、競技力向上体制の整備はもとより、指導者の養成・確保及び選手の育成・強化などに加え、発掘から強化までの一貫指導体制の確立を目指し、各種事業の推

進に努めた。特に、ふくしまから世界へ！「ふくしま夢アスリート」育成支援事業は、①スタートダッシュミーティング、②交流事業、③ふれあい教室、④マルチサポート事業により世界で活躍が期待できる選手を支援するとともに、⑤トップコーチ養成事業により日本代表選手を育成するスポーツ環境の整備を目指して事業の推進を図っている。また、「陸上王国福島」パワーアップ事業では、平成22年度から3年間取り組んだ「陸上王国福島」基盤整備事業の成果を活用し諸事業を実施した。また、川本教授、東邦銀行のアスリートを講師にお迎えし、トップアスリート陸上教室を行い、陸上競技をツールに子どもたちの体力向上と心身の健康、将来の日本一の陸上選手発掘を目指し事業を展開した。さらには、本県のお家芸と言われた競技の選手と指導者の両面を重点的に強化して競技力を回復させ、福島県のスポーツ環境の復活の象徴とする「スポーツ環境復興緊急対策事業」を実施している。

(1) スポーツ団体の状況

ア 公益財団法人福島県体育協会（平成27年度）役員一覧

役職	氏名	備考	役職	氏名	備考
名誉顧問	内堀 雅雄	県知事	理事	岡部 新一郎	県ハンドボール協会会長
顧問	宗形 守敏	県ハンドボール協会名誉会長	理事	木村 六朗	県ソフトボール協会会長(途中辞任)
会長	須佐 喜夫	県テニス協会会長	理事	新井田 大	県ボート協会会長
副会長	片平 俊夫	福島陸上競技協会名誉顧問	理事	山本 和子	県なぎなた連盟会長(途中辞任)
副会長	安藤 喜勝	県中地域連合会長	理事	一条 高志	県北地域連合会長
副会長	長岐 博	県高等学校体育連盟会長	理事	大橋 哲男	会津地域連合会長
副会長	西山 尚利	学識経験者(県議会議員)	理事	貝田 美郎	南会津地域連合会長
副会長	佐藤 祀男	県バレーボール協会顧問	理事	佐久間光弘	相双地域連合会長
専務理事	遠藤 均	県スポーツ課長	理事	坂本 満恵	いわき市体育協会会長
常務理事	森崎 俊紘	県トライアスロン協会副会長	理事	堀川 哲男	学識経験者(県医師会)
常務理事	深谷 秀三	県卓球協会会長	理事	大場 秀樹	学識経験者(県議会議員)
常務理事	櫻井 和朋	県南地域連合会長	理事	伊藤 達也	学識経験者(県議会議員)
常務理事	星 本文	県スポーツ少年団本部長	理事	吉田真希子	学識経験者(アスリート)
常務理事	鈴木 訓夫	県中学校体育連盟会長	監事	佐藤 英壽	県スケート連盟会長
理事	白石 豊	学識経験者(大学)	監事	壺岐ひろみ	県水泳連盟会長
理事	渡部 孝美	県スキー連盟会長	監事	渡邊 幹夫	外部
理事	太田 豊秋	県馬術連盟会長			

イ 公益財団法人福島県体育協会加盟団体の登録状況

(ア) 競技・種目団体

団体名	登録人数	団体名	登録人数	団体名	登録人数
福島陸上競技協会	5,497	体操協会	310	ゲートボール協会	3,312
野球連盟	14,358	スキー連盟	436	少林寺拳法連盟	1,025
ソフトテニス連盟	10,434	スケート連盟	43	トランポリン協会	0
テニス協会	2,376	馬術連盟	55	オリエンテーリング協会	54
サッカー協会	12,352	ソフトボール協会	6,409	パワーリフティング協会	30
ハンドボール協会	1,811	バレーボール協会	10,505	ダンススポーツ連盟	752
卓球協会	9,186	ウエイトリフティング協会	108	武術太極拳連盟	1,120
剣道連盟	6,950	レスリング協会	129	綱引連盟	410
ボート協会	167	フェンシング協会	56	トライアスロン協会	351

水泳連盟	2,381	山岳連盟	358	グラウンドゴルフ協会	5,800
自転車競技連盟	123	銃剣道連盟	1,685	野球協会	635
ホッケー協会	112	クレ射撃協会	52	テコンドー協会	45
相撲連盟	228	セーリング連盟	32	バウンドテニス協会	253
ライフル射撃協会	90	空手道連盟	775	ハング・パラグライダー連盟	86
バスケットボール協会	12,063	アーチェリー協会	165	スポーツチャンバラ協会	655
バドミントン協会	5,979	なぎなた連盟	167	インディアカ協会	465
ボクシング連盟	39	アイスホッケー連盟	144	ボールルームダンス連盟	333
柔道連盟	3,085	ボウリング連盟	184	合気道連盟	666
弓道連盟	2,640	ゴルフ連盟	519	障がい者スポーツ協会	—
ラグビーフットボール協会	731	カヌー協会	51	合計	127,772

イ 福島県スポーツ少年団

平成27年11月末日 現在

	市町村	団数	指導者数			団員数				市町村	団数	指導者数			団員数					
			計	男	女	計	小	中	高			計	男	女	計	小	中	高		
県北支部										会津支部										
1	福島市	146	924	733	191	2,897	2,106	754	37	30	会津若松市	64	491	388	103	1,607	1,116	436	55	
2	川俣町	10	74	64	10	181	140	40	1	31	磐梯町	4	21	12	9	75	61	14	0	
3	桑折町	7	54	48	6	125	97	22	6	32	猪苗代町	18	226	180	46	576	467	101	8	
4	伊達市	39	268	210	58	768	592	173	3	33	会津坂下町	12	109	77	32	344	221	123	0	
5	国見町	6	57	43	14	169	123	46	0	34	湯川村	6	29	29	0	102	78	24	0	
6	二本松市	41	347	260	87	899	697	194	8	35	柳津町	1	38	30	8	149	87	62	0	
7	大玉村	5	41	37	4	115	115	0	0	36	会津美里町	12	23	FALSE	23	316	247	69	0	
8	本宮市	27	185	157	28	550	473	75	2	37	三島町	4	21	14	7	76	63	13	0	
	計	281	1,950	1,552	398	5,704	4,343	1,304	57	38	金山町	1	15	14	1	37	18	18	1	
										39	喜多方市	48	293	224	69	1,116	819	288	9	
県中支部										北塩原村										
9	郡山市	127	1,049	905	144	3,091	2,515	533	43	41	西会津町	6	39	34	5	118	93	25	0	
10	三春町	16	124	109	15	313	274	35	4		計	180	1,336	1,030	306	4,612	3,328	1,211	73	
11	小野町	11	49	42	7	200	181	13	6											
12	田村市	29	264	213	51	565	460	99	6	南会津支部										
13	須賀川市	36	252	215	37	883	679	174	30	42	南会津町	24	195	162	33	576	397	154	25	
14	鏡石町	8	49	41	8	275	207	61	7	43	下郷町	8	58	42	16	134	96	37	1	
15	天栄村	2	34	23	11	81	66	15	0	44	桧枝岐村	1	5	5	0	17	16	1	0	
16	石川町	7	58	49	9	155	140	15	0	45	只見町	5	40	34	6	96	74	22	0	
17	玉川村	5	38	26	12	93	52	41	0		計	38	298	243	55	823	583	214	26	
18	平田村	6	55	41	14	82	78	4	0											
19	浅川町	3	50	40	10	123	123	0	0	相双支部										
20	古殿町	3	25	20	5	52	43	9	0	46	広野町	1	61	50	11	130	106	24	0	
	計	253	2,047	1,724	323	5,913	4,818	999	96	47	檜葉町	8	50	40	10	129	97	32	0	
										48	富岡町	17	117	98	19	383	271	104	8	
県南支部										川内村										
21	棚倉町	15	102	78	24	352	269	83	0	50	大熊町	9	67	61	6	357	249	103	5	
22	塙町	9	60	50	10	128	65	60	3	51	双葉町	8	70	63	7	186	107	78	1	
23	矢祭町	3	12	10	2	59	33	26	0	52	浪江町	22	111	104	7	413	288	122	3	
24	鮫川村	2	24	22	2	43	43	0	0	53	葛尾村	1	18	13	5	38	30	7	1	
25	白河市	50	335	269	66	1,001	669	330	2	54	新地町	11	70	62	8	249	153	96	0	
26	西郷村	21	118	101	17	375	246	129	0	55	相馬市	33	186	167	19	706	440	266	0	
27	中島村	5	27	27	0	94	86	8	0	56	南相馬市	76	409	326	83	1,370	993	342	35	
28	矢吹町	6	64	53	11	178	178	0	0	57	飯舘村	6	24	23	1	122	83	39	0	
29	泉崎村	4	39	32	7	94	68	26	0		計	196	1,196	1,015	181	4,153	2,851	1,249	53	
	計	115	781	642	139	2,324	1,657	662	5											
										いわき支部										
										58	いわき市	150	716	548	168	2,930	2,237	688	5	
※ 今年度の登録数は、東日本大震災の被害県に対する日本スポーツ少年団登録の特別措置(平成22年度登録をしている場合、今年度の登録申請ができなくともスポーツ少年団活動は通常通り認めること)により、相双地区10市町村と川俣町山木屋地区および田村市都路地区は平成22年度の登録数と同様になる。											平成27年度合計		1,213	8,324	6,754	1,570	26,459	19,817	6,327	315
											平成26年度		1,269	8,511	6,939	1,572	27,233	20,433	6,500	300
											比較		-56	-187	-185	-2	-774	-616	-173	15

ウ スポーツ安全協会傷害保険加入状況

この傷害保険は、スポーツ及び社会教育活動の普及・振興に寄与することを目的として、昭和46年に事業を開始して以来、現在（2016年3月）では約28万団体、897万人が加入する世界に類のない大型保険である。本県の加入者は、5,617団体、150,431人で全人口の7.9%となっている。誰でも安心してスポーツ活動や社会教育活動に親しむことができるよう、なお一層普及に力を注いでいく必要がある。

(2) 第68回福島県総合体育大会

東日本大震災の影響などにより、一部開催できない競技種目があったものの、国民体育大会・東北総合体育大会選手選考会等、スポーツ少年団大会及び県民スポーツ大会の三本柱の形で開催することができた。

本大会は、本県最大のスポーツイベントで国民体育大会・東北総合体育大会選手選考会等52競技、スポーツ少年団体育大会18競技、県民スポーツ大会7地域9競技を28市町村で実施した。

ア 国体・東北総体選手選考会

No.	競技名	開催市町村	期 日	会 場	参加人数
1	陸上競技	福島市	7/9(木)～12(日)	とうほうみんなのスタジアム	1,536
2	軟式野球	いわき市	6/20(土)～21(日) 27(土)	いわきグリーンスタジアム・南部スタジアム 平野球場・小名浜野球場	372
3	ソフトテニス	郡山市	7/4(土)～5(日) 7/11(土)～12(日)	郡山庭球場(成年) 郡山庭球場(少年)	740
4	テニス	会津若松市 天栄村	7/4(土)～6(月) 7/4(土)～6(月)	会津総合運動公園テニスコート・あいづドーム(成年) 羽鳥湖高原レジャーの森テニスコート(少年)	776
5	サッカー	福島市	7/18(土)～19(日) 8/2(日)	十六沼公園サッカー場(成年男子・女子) 十六沼公園サッカー場(壮年)	301
6	ハンドボール	本宮市	7/4(土)～6(月)	本宮市総合体育館	607
7	卓球	本宮市 須賀川市	6/21(日) 7/9(木)～11(土) 7/12(日)	本宮市総合体育館(成年の一部) 須賀川アリーナ(少年) 須賀川アリーナ(成年・壮年・教職員)	795
8	剣道	郡山市 いわき市	6/7(日) 7/4(土)～5(日)	西部第二体育館(成年・高齢者) いわき市立総合体育館(少年)	652
9	ボート	喜多方市	6/12(金)～14(日)	県営荻野漕艇場	245
10	水泳	郡山市	8/1(土)～2(日)	郡山カルチャーパークプール(競泳) 郡山カルチャーパークプール(飛込)	681
11	自転車競技	泉崎村 西郷村	6/4(木)～5(金) 6/6(土) 6/7(日)	泉崎国際サイクルスタジアム(トラック)(少年男子) 泉崎国際サイクルスタジアム(トラック)(少男以外) 東京女子医大セミナーハウス発着周回コース(ロード)	145
12	ホッケー	棚倉町	7/12(日)	ルネサンス棚倉多目的広場	112
13	相撲	南相馬市	7/12(日)	南相馬市相撲場	91
14	ライフル射撃	福島市 二本松市	7/11(土) 7/12(日)	県警察学校拳銃射撃場(CP) 二本松市総合射撃場(CP以外)	161
15	バスケットボール	郡山市	7/10(金)～13(月)	郡山総合体育館・西部体育館 郡山市内高等学校体育館	1,704
16	バドミントン	会津若松市	7/9(木)～11(土) 7/11(土)～12(日)	あいづ総合体育館(少年) あいづ総合体育館(成年)	711
17	ボクシング	伊達市	7/10(金)～12(日)	保原体育館	78
18	柔道	福島市	7/19(日)	国体記念体育館	539
19	弓道	郡山市	7/3(金)～5(日) 7/12(日)	開成山弓道場(少年) 開成山弓道場(成年)	562
20	ラグビーフットボール	福島市 福島市 いわき市	5/23(土)～24(日) 5/29(金)～30(土) 6/7(日) 14(日)・21(日)	あづま総合運動公園スポーツイベント広場 補助陸上競技場(少年) あづま総合運動公園スポーツイベント広場(成年) 鮫川河川敷グラウンド(成年)	499
21	体操	郡山市	6/13(土) 6/12(金)～13(土) 6/19(金)～20(土)	郡山総合体育館(体操競技:成年) 郡山総合体育館(体操競技:少年) 郡山西部体育館(新体操)	291

No.	競技名	開催市町村	期 日	会 場	参加人数
22	スキ	猪苗代町	平成28年 1/16(土)～19(火)	猪苗代スキー場(アルペン)	100
		檜枝岐村		尾瀬檜枝岐クロスカントリー競技場(クロスカントリー)	
23	スケート	郡山市	12/12(土)	磐梯熱海スポーツパーク郡山スケート場(スピード)	80
			12/27(日)	磐梯熱海アイスアリーナ(フィギュア)	
24	馬術	南相馬市	6/27(土)～28(日)	南相馬市馬事公苑	52
25	ソフトボール	会津若松市	6/13(土)～14(日) 20(土)	会津総合運動公園多目的広場・小松原多目的運動場・門田緑地公園(成年男子)	1,286
			6/20(土)	門田緑地公園(成年女子)	
		喜多方市 会津若松市	7/11(土)～12(日)	押切川スポーツ広場(少年男子)	
				会津総合運動公園多目的広場(少年女子)	
26	バレーボール	いわき市	7/9(木)～11(土)	いわき市立総合体育館・内郷コミュニティセンター	1,278
				平工業高等学校体育館(少年男女)	
			7/11(土)～12(日)	いわき市立総合体育館(成年男女)	
27	ウエイトリフティング	福島市	7/11(土)～12(日)	福島明成高等学校格技場	140
28	レスリング	南会津町	7/11(土)～12(日)	田島高等学校体育館	96
29	フェンシング	川俣町	7/18(土)～19(日)	川俣町体育館	122
30	山岳	郡山市	6/21(日)	トレイルロック	67
31	銃剣道	郡山市	6/7(日)	陸上自衛隊郡山駐屯地体育館	118
32	クレー射撃	二本松市	7/12(日)	二本松市総合射撃場	48
33	セーリング	猪苗代町	7/11(土)～12(日)	猪苗代湖(志田浜)	45
34	空手道	下郷町	7/12(日)	下郷町大川ふるさと公園コミュニティセンター	182
35	アーチェリー	福島市	7/11(土)～12(日)	あづま総合運動公園スポーツイベント広場	90
36	なぎなた	会津若松市	7/12(日)	鶴ヶ城総合体育館	180
37	アイスホッケー	郡山市	11/21(土)～22(日)	磐梯熱海アイスアリーナ	95
38	ボウリング	郡山市	5/10(日)	ボウルアピア郡山	62
39	ゴルフ	棚倉町	6/1(月)	新ゲインズボローカントリー倶楽部	95
40	カヌー	二本松市	5/30(土)	阿武隈川島山コース(スローム・ワイルドウォーター)	96
			6/7(日)	阿武隈漕艇場(スプリント)	
41	ゲートボール	本宮市	8/30(日)	本宮総合運動公園多目的グラウンド	232
42	少林寺拳法	須賀川市	6/28(日)	須賀川アリーナ	278
43	トランポリン	郡山市	6/27(土)～28(日)	河内小学校旧夏出分校体育館	67
44	オリエンテーリング	須賀川市	7/12(日)	翠ヶ丘公園	55
45	パワーリフティング	福島市	11/1(日)	あづま総合運動公園陸上競技場トレーニング室	38
46	ダンススポーツ	川俣町	6/28(日)	川俣町体育館	109
47	武術太極拳	福島市	10/3(土)～4(日)	国体記念体育館サブアリーナ	130
48	トライアスロン	中止	中止	中止	—
49	綱引	南相馬市	7/12(日)	南相馬市スポーツセンター	171
50	グラウンド・ゴルフ	須賀川市	7/23(木)	福島空港緑のスポーツエリア	512
51	バウンドテニス	須賀川市	7/20(月)	須賀川市中央体育館	82
52	バグ・パラグライディング	田村市	8/29(土)	仙台平	34
53	スポーツチャンバラ	福島市	7/5(日)	国体記念体育館	388
54	テコンドー	中止	中止	中止	—

イ スポーツ少年団体育大会

No.	競技名	開催市町村	期 日	参加人員	参加人数
1	軟式野球	いわき市	6/13(土)～14(日) 21(日)	南部スタジアム(小学生)	565
				小名浜野球場(小学生)	
			6/27(土)～28(日)	小名浜野球場(小学生)	
				いわきグリーンスタジアム(中学生)	
2	ソフトテニス	福島市	6/21(日)	福島市庭球場	464
3	テニス	郡山市	8/1(土)～2(日)	郡山庭球場	201
4	卓球	須賀川市	7/12(日)	須賀川アリーナ	315
5	剣道	郡山市	8/2(日)	西部体育館	327
6	自転車競技	泉崎村	6/6(土)	泉崎国際サイクルスタジアム(トラック)	31
		西郷村	6/7(日)	東京女子医大セミナーハウス発着周回コース(ロード)	
7	バスケットボール	白河市	7/18(土)～19(日)	白河市中央体育館(小学生の部)	967
				国体記念体育館(小学生の部)	
		相馬市	8/1(土)～2(日)	相馬東高等学校体育館(中学生の部)	
8	柔道	郡山市	9/13(日)	西部第二体育館	432
9	ラグビーフットボール	会津若松市	9/13(日)	会津大学グラウンド	159
10	体操	郡山市	6/13(土)～14(日)	郡山総合体育館(体操競技)	329
			6/20(土)～21(日)	郡山西部体育館(新体操)	
11	スキー	金山町	平成28年 2/14(日)・2/20(土)	フェアリーランドかねやま(アルペン)	166
		猪苗代町	平成28年 2/14(日)・2/20(土)	猪苗代町クロスカントリーコース(クロカン)	
12	スケート	郡山市	12/27(日)	磐梯熱海アイスアリーナ(フィギュア)	68
			12/12(土)	磐梯熱海スポーツパーク郡山スケート場(スピード)	
13	ソフトボール	湯川村	5/30(土)～31(日)	湯川村営野球場(女子)	615
		会津若松市	6/6(土)～7(日)	会津総合運動公園多目的広場(男子)	
14	バレーボール	いわき市	7/25(土)～26(日)	いわき市立総合体育館 他	884
15	フェンシング	川俣町	7/18(土)～19(日)	川俣町体育館	93
16	なぎなた	会津若松市	7/12(日)	鶴ヶ城体育館	225
17	レスリング	南会津町	7/11(土)	田島高等学校体育館	104
18	スポーツチャンバラ	福島市	7/5(日)	国体記念体育館	357

ウ 県民スポーツ大会

地区	開催市町村	競技名	開催期日	参加人員	参加人数
県北	伊達市	壮年ソフトボール	7/12(日)	伊達市月館運動広場	678
		卓球		伊達市梁川体育館	
	国見町	ソフトテニス		国見町上野台運動公園	
	川俣町	バドミントン		川俣町体育館	
	桑折町	家庭バレーボール		桑折町第2体育館、醸芳中学校体育館	
	伊達市	テニス		保原総合公園	
県中	郡山市	壮年ソフトボール	8/23(日)	ふるさとの森スポーツ広場	619
		ソフトテニス		郡山庭球場	
		バドミントン		西部体育館	
		家庭バレーボール		西部第二体育館	
県南	矢吹町	壮年ソフトボール	8/23(日)	町営矢吹球場	419
		卓球		矢吹小学校体育館	
		ソフトテニス		町民テニスコート	
		バドミントン		矢吹中学校体育館	
		家庭バレーボール			
会津	会津坂下町	壮年ソフトボール	8/2(日)	会津坂下町立坂下中学校	571
		卓球		会津坂下町民体育館	
	柳津町	ソフトテニス		柳津運動公園町営庭球場	
	会津坂下町	バドミントン		会津坂下町立坂下中学校体育館	
		家庭バレーボール		会津坂下町立坂下南小学校体育館	
	柳津町	テニス		柳津運動公園町営庭球場	
南会津	南会津町	壮年ソフトボール	8/23(日)	びわのかげ運動公園ソフトボール場	323
	下郷町	フットサル	8/30(日)	大川ふるさと公園コミュニティセンター	
	南会津町	ゴルフ	9/6(日)	会津高原たかつえカントリークラブ	
		家庭バレーボール	8/23(日)	南郷体育館	
	下郷町	グラウンド・ゴルフ	8/30(日)	大川ふるさと公園	
相双	南相馬市	壮年ソフトボール	8/2(日)	北新田野球場 ほか	297
		卓球		南相馬市スポーツセンター	
		ソフトテニス		南相馬市テニスコート	
		バドミントン		南相馬市スポーツセンター	
		家庭バレーボール		石神中学校体育館	
いわき	いわき市	壮年ソフトボール	8/9(日)	好間多目的広場	645
		ソフトテニス		南部テニスコート	
		家庭バレーボール		平体育館	
		グラウンド・ゴルフ		21世紀の森公園	

(3) 第42回東北総合体育大会

第42回東北総合体育大会は、岩手県内10市5町1村、青森県内1市で開催された。

本県選手団は、本部役員14名、監督・選手902名が参加した。今回は、来年度開催される希望郷いわて国体のリハーサル大会となる競技もあり、ボウリング、テニス、ウエイトリフティング、自転車競技、軟式野球、ソフトボール、バドミントン、山岳、銃剣道の9競技で総合優勝を果たした。

主会期 平成27年8月21日(金)～23日(日)

No.	競技名	競技期間	派遣場所		派遣人数
1	水球(水球)	8/1～2	盛岡市	盛岡市立総合プール	9
2	ボート	7/17～29	花巻市	田瀬湖ボート場	41
3	カヌー(スラローム・ワイルドウォーター)	7/4～5	奥州市	胆沢川特設カヌー競技場	5
	カヌー(スプリント)	7/17～18	盛岡市	岩手県立御所湖広域公園漕艇場	17
4	ボウリング	7/10～12	盛岡市	ビックハウススーパーレーン	16
5	ゴルフ	7/15～16	八幡平市	南部富士カントリークラブ	4
6	陸上競技	8/29～30	北上市	北上総合運動公園北上陸上競技場	90
7	サッカー	8/13～16	盛岡市	盛岡南公園球技場 岩手県営運動公園サッカー・ラグビー場 第1グラウンド	49
8	テニス	8/22～23	盛岡市	盛岡市立太田テニスコート	8
9	ホッケー	8/20～23	岩手町	岩手町ホッケー場 岩手町総合グラウンド	62
10	ボクシング	8/28～30	盛岡市	岩手県営武道館	13
11	バレーボール	8/28～30	花巻市	花巻市総合体育館アネックス	52
12	体操競技	7/17～19	盛岡市	盛岡市アイスアリーナ	24
	新体操	7/25～26	北上市	北上総合体育館	8
13	バスケットボール	8/14～16	盛岡市 雫石町	盛岡体育館 雫石町民体育館	51
14	レスリング	8/29～30	宮古市	宮古市民総合体育館	21
15	ウエイトリフティング	8/22～23	奥州市	奥州市江刺中央体育館	20
16	ハンドボール	8/13～16	花巻市	花巻市総合体育館	52

17	自転車 (トラック)	7/24~25	紫波町	紫波自転車競技場	20
	自転車 (ロード)	7/26		紫波東部周回コース	
18	ソフトテニス	8/29~30	北上市	和賀川グリーンパークテニスコート	24
19	卓球	8/16~18	奥州市	奥州市総合体育館	20
20	軟式野球	8/22~23	洋野町	オーシャン・ビュー・スタジアム ライジング・サン・スタジアム	16
21	相撲	8/29~30	八幡平市	八幡平市総合運動公園体育館「特設相撲場」	14
22	馬術	8/15~16	奥州市	岩手県競馬組合水沢競馬場	9
23	フェンシング	8/21~23	一関市	東山総合体育館	14
24	柔道	8/22~23	久慈市	久慈市民体育館	20
25	ソフトボール	8/20~23	花巻市	石鳥谷ふれあい運動公園	54
26	バドミントン	8/20~21	北上市	北上総合体育館	16
27	弓道	8/22~23	奥州市	奥州市水沢弓道場	16
28	ライフル射撃	8/21~23	八幡平市	八幡平市田山射撃場 旧八幡平市立田山中学校特設会場	15
29	剣道	8/29	二戸市	二戸市総合スポーツセンター	22
30	ラグビーフットボール (成年)	8/22~23	釜石市	釜石市球技場	38
	ラグビーフットボール (少年)	8/20~23	八幡平市	八幡平市ラグビー場	
31	山岳	7/24~26	盛岡市	岩手県営運動公園登はん競技場	12
32	アーチェリー	8/22~23	雫石町	雫石町総合運動公園陸上競技場	14
33	空手道	8/22~23	盛岡市	岩手県営武道館	16
34	銃剣道	8/23	雫石町	雫石町営体育館	7
35	クレール射撃	8/22~23	花巻市	花巻市クレール射撃場	6
36	なぎなた	8/22~23	一戸町	一戸町体育館	7
38	アイスホッケー	12/5~6 12/12~13	八戸市	テクノルアイスパーク八戸	35

(4) 国民体育大会

ア 第70回国民体育大会

第70回国民体育大会において、本県は、冬季・本大会に531名の選手団を派遣し、男女総合成績第31位866点、女子総合35位430.5点の成績であった。

陸上競技を始め、レスリング、ウエイトリフティング、バドミントンで優勝者を輩出するなど活躍が見られ、昨年度の35位より順位を4つ上げ30位台前半の成績を収めた。

なお、参加状況、競技成績については、下記のとおりである。

(ア) 参加状況

大会	区分	会 期	開 催 地	団 長	参 加 競 技 数	派 遣 人 数			
						役 員	監 督	選 手	合 計
冬季大会	スケート アイスホッケー 競技会	H27. 1/28(水) ～2/1(日)	群馬県 前橋市 渋川市 高崎市	佐藤 英壽	2	11	5	33	49
	スキー競技会	H27. 2/20(金) ～2/23(月)	群馬県 片品村	渡部 孝美	1	9	10	45	64
本大会		H27. 9/26(土) ～10/6(火)	和歌山県 和歌山市 他	須佐 喜夫	33	18	61	339	418
		(バスケットボール競技：9/22(火)～26(土))							
		(会期前競技：9/6(日)～13(日))							

(イ) 競技成績

大会	区分	天 皇 杯				皇 后 杯			
		競技得点	参加得点	得点合計	順 位	競技得点	参加得点	得点合計	順 位
スケート競技会		13点	10点	23.0点	20位	6点	10点	16点	18位
アイスホッケー競技会		0点	10点	10.0点	13位	—	—	—	—
スキー競技会		6点	10点	16.0点	18位	5点	10点	15点	14位
本大会		447点	370点	817.0点	30位	129.5点	270点	399.5点	36位
合計		466点	400点	866点	31位	140.5点	290点	430.5点	35位

(ウ) 入賞状況

a 冬季大会

スケート競技		競技得点 13点		天皇杯 20位		皇后杯 18位	
種 別	種 目	順 位	得 点	選 手 名	所 属		
成年男子	スピード 1000m	8	1	古川 耀	山梨学院大学	4年	
成年女子	スピード 1500m	6	3	水澤 彩佳	日本体育大学	1年	
	スピード 2000mR	7	2	吾妻 優 渡邊 唯 古川 幸樹	山梨学院大学 山梨学院大学 ノボルディスクファーマ(株)	4年 4年	
少年男子	スピード 1000m	6	3	水澤 彩佳	日本体育大学	1年	
	スピード 2000mR	6	3	鈴木 大地	安積高等学校	2年	
				水澤 拓海	安積高等学校	3年	
少年女子	スピード 500m			鈴木 大地	安積高等学校	2年	
				増子 建紀	郡山商業高等学校	2年	
				古川 徹	郡山商業高等学校	1年	
				増子 楓佳	熱海中学校	3年	

スキー競技		競技得点	6点	天皇杯	18位	皇后杯	14位
種別	種目	順位	得点	選手名	所属		
成年女子	Bジャイアントスラローム	4	5	兼子佳代	東山温泉スキークラブ		
少年男子	クロスカントリーリレー	8	1	渡部 颯 鈴木 健大 星 水月 鈴木 蓮	会津工業高等学校	3年	
					猪苗代高等学校	3年	
					南会津高等学校	2年	
					会津工業高等学校	2年	

b 本大会

水泳競技		競技得点	22点	天皇杯	24位	皇后杯	22位
種別	種目	順位	得点	選手名	所属		
少年男子	A100m自由形	3	6	服部 翼	福島成蹊高等学校 3年		
少年男子	A200mバタフライ	3	6	寺田 拓未	湯本高等学校 3年		
少年女子	A100m自由形	6	3	国分 香奈	日大東北高等学校 2年		
少年女子	A50m自由形	2	7	国分 香奈	日大東北高等学校 2年		

陸上競技		競技得点	61.5点	天皇杯	12位	皇后杯	19位
種別	種目	順位	得点	選手名	所属		
成年女子	100m	6	3	渡辺 真弓	東邦銀行		
	400m	3	6	千葉 麻美	東邦銀行		
	ハンマー投	8	1	佐藤 若菜	東邦銀行		
	100mH	6	3	安部 遥香	福島大学 3年		
少年男子	A100m	3	6	山下 潤	福島高等学校 3年		
	A5000m	1	8	遠藤 日向	学法石川高等学校 2年		
	A400mH	7	2	岩崎 崇文	郡山東高等学校 3年		
	A棒高跳	5	4	佐藤 啓太	福島成蹊高等学校 3年		
	B110mH	6	3	高橋 直生	福島第一中学校 3年		
	B走幅跳	5	4	須藤 悠太	郡山東高等学校 1年		
	B砲丸投	2	7	佐藤 皓人	日大東北高等学校 1年		
	共通800m	1	8	田母神 一喜	学法石川高等学校 3年		
	共通走高跳	7	1.5	木村 利紀弥	平工業高等学校 3年		
少年女子	共通砲丸投	4	5	秋山 尚子	相馬東高等学校 3年		

ボート競技		競技得点	1点	天皇杯	32位	皇后杯	27位
種別	種目	順位	得点	選手名	所属		
少年男子	シングルスカル	8	1	石塚 慎之助	田村高等学校 2年		

ボクシング競技		競技得点	2.5点	天皇杯	26位
種別	種目	順位	得点	選手名	所属
少年男子	ピン級	5	2.5	高橋 一誠	福島明成高等学校 2年

レスリング競技		競技得点	21点	天皇杯	26位
種別	種目	順位	得点	選手名	所属
成年男子	グレコローマンスタイル85kg級	5	2.5	渡部 広章	男山酒造
	グレコローマンスタイル98kg級	5	2.5	角田 友紀	J A会津いいで喜多方グリーンセンター
	フリースタイル65kg級	1	8	前田 翔吾	クリナップ(株)
少年男子	フリースタイル120kg級	5	2.5	壽松木 勇貴	喜多方桐桜高等学校 2年
	グレコローマンスタイル66kg級	3	5.5	湯浅 悠人	田島高等学校 3年

ウェイトリフティング競技		競技得点	66点	天皇杯	4位
種別	種目	順位	得点	選手名	所属
成年男子	53kg級スナッチ	3	6	吉田 真弘	デイサービスいしかわ
	53kg級C&J	1	8	吉田 真弘	デイサービスいしかわ
	69kg級スナッチ	6	3	近内 三孝	日本大学 2年
	69kg級C&J	6	3	近内 三孝	日本大学 2年
	105kg級スナッチ	8	1	小湊 和輝	江信特殊硝子(株)
	105kg級超級スナッチ	7	2	菅野 真央	早稲田大学 4年
少年男子	105kg級超級C&J	7	2	菅野 真央	早稲田大学 4年
	56kg級スナッチ	3	6	後藤 潤也	福島明成高等学校 3年
	56kg級C&J	2	7	後藤 潤也	福島明成高等学校 3年
	77kg級スナッチ	2	7	宍戸 大輔	福島工業高等学校 2年
	77kg級C&J	2	7	宍戸 大輔	福島工業高等学校 2年
	94kg級スナッチ	3	6	青木 智也	田村高等学校 3年
	94kg級C&J	1	8	青木 智也	田村高等学校 3年

自転車競技		競技得点	11点	天皇杯	19位
種別	種目	順位	得点	選手名	所属
成年男子	スプリント	8	1	牧田 賢也	福島県自転車競技連盟
少年男子	個人ロード・レース	1	8	渡邊 祐希	学法石川高等学校 3年
	ポイント・レース	7	2	小玉 和寿	学法石川高等学校 3年

ソフトテニス競技		競技得点	30点	天皇杯	10位	皇后杯	7位
種別	種目	順位	得点	選手名	所属		
成年女子		3	30	小谷 菜津美	住友ゴム工業(株)		
	大槻 麗			住友ゴム工業(株)			
	原野 亜衣			住友ゴム工業(株)			
	米山 芽玖			住友ゴム工業(株)			
	大槻 桜			住友ゴム工業(株)			

軟式野球競技		競技得点	16点	天皇杯	7位
種別	種目	順位	得点	選手名	所属
成年男子		7	16	及川 俊也	(株) タンガロイ
	白石 卓也			(株) タンガロイ	
	蛭田 稔真			(株) タンガロイ	
	梶原 宏孝			(株) タンガロイ	
	竹沢 大貴			(株) タンガロイ	
	古川 哲也			(株) タンガロイ	
	古内 康			(株) タンガロイ	
	目黒 将司			(株) タンガロイ	
	宜志 富凌馬			(株) タンガロイ	
	荻野 翔太			(株) タンガロイ	
	川崎 智洋			(株) タンガロイ	
	四家 祐雅			(株) タンガロイ	
	酒井 剛史			(株) タンガロイ	
田子 弘樹	アルパイン技研(株)				
柏村 雄二	日本工機(株)				

相撲競技		競技得点	7.5点	天皇杯	12位		
種別	種目	順位	得点	選手名	所属		
成年男子	団体	5	7.5	大波 渥 斎藤 健 工藤 豪人	東洋大学	3年	
					東邦銀行		
					日大東北高等学校	教員	

馬術競技		競技得点	21点	天皇杯	15位	皇后杯	27位
種別	種目	順位	得点	選手名	所属		
成年男子	トップスコア	1	8	吉田 学人	成田乗馬クラブ		
	標準障害飛越	1	8	吉田 学人	成田乗馬クラブ		
少年	標準障害飛越	7	2	杉本 瑞生	御殿場西高等学校 1年		
	トップスコア	6	3	杉本 瑞生	御殿場西高等学校 1年		

フェンシング競技		競技得点	6点	天皇杯	22位	皇后杯	17位
種別	種目	順位	得点	選手名	所属		
成年男子	フルーレ	8	3	田代 大幸 今野 勝 菅野 慶嗣	佐藤商事株式会社 福島支店		
少年男子	フルーレ	8	3	高橋 恋 佐藤 真春 廣瀬 新	川俣ホーム (株) J I E C 川俣高等学校 3年 川俣高等学校 3年 福島高等学校 2年		

ソフトボール競技		競技得点	20点	天皇杯	16位	皇后杯	14位
種別	種目	順位	得点	選手名	所属		
少年男子		5	20	花見 大介 佐藤 優樹 遠藤 篤志 竹島 宗希 藤島 尚樹 岡部 樹滉 五十嵐 康人 重川 葵 佐藤 右京 渡邊 智範 伊藤 大樹 渡邊 航生 須賀 祐一	須賀川高等学校 3年 須賀川高等学校 3年 須賀川高等学校 3年 須賀川高等学校 2年 須賀川高等学校 2年 須賀川高等学校 2年 郡山北工業高等学校 3年 郡山北工業高等学校 3年 郡山北工業高等学校 3年 郡山北工業高等学校 3年 郡山北工業高等学校 2年 郡山北工業高等学校 2年 安積黎明高等学校 2年		

バドミントン競技		競技得点	70.5点	天皇杯	1位	皇后杯	3位
種別	種目	順位	得点	選手名	所 属		
成年男子		1	24	齋藤 太一 松居 圭一郎 内藤 浩司	早稲田大学	4年	
成年女子		4	15	大堀 彩 早田 紗希 東野 有紗	日本体育大学 (株)日立情報通信エンジニアリング NTT 東日本(株) ヨネックス(株)	3年	
少年男子		1	24	渡辺 勇大 三橋 健也	富岡高等学校	3年	
少年女子		5	7.5	山澤 直貴 川上 紗恵奈 仁平 菜月 高橋 明日香	富岡高等学校 富岡高等学校 富岡高等学校 ふたば未来学園高等学校	2年 3年 2年 1年	

カヌー競技		競技得点	25点	天皇杯	19位	皇后杯	14位
種別	種目	順位	得点	選手名	所 属		
成年男子	カヤックシングル500m	2	7	鈴木 康大	(株)久野製作所		
成年男子	カヤックシングル200m	4	5	鈴木 康大	(株)久野製作所		
少年女子	カヤックシングル500m	2	7	小久保 南海	安達高等学校	3年	
少年女子	カヤックシングル200m	3	6	小久保 南海	安達高等学校	3年	

銃剣道競技		競技得点	24点	天皇杯	2位		
種別	種目	順位	得点	選手名	所 属		
成年男子		7	6	齋藤 慎一 菅野 学	第44普通科連隊		
少年男子		3	18	秋元 陽樹 渡邊 峻 佐藤 凌 浅田 忠治	第44普通科連隊 福島工業高等学校 福島南高等学校 福島高等学校	1年 2年 2年	

なぎなた競技		競技得点	15点	天皇杯	11位	皇后杯	11位
種別	種目	順位	得点	選手名	所 属		
少年女子	演技	4	15	佐藤 里咲 大井川 澯 目黒 百花	会津若松ザベリオ学園高等学校 会津若松ザベリオ学園高等学校 会津若松ザベリオ学園高等学校	3年 2年 2年	

ボウリング競技		競技得点	27点	天皇杯	11位	皇后杯	10位
種別	種目	順位	得点	選手名	所 属		
成年男子	団体戦(2人)	7	6	伊藤 丈 遠藤 邦夫	(株)東北装美 インテリア・エンドー		
成年女子	団体戦(2人)	2	21	大河内 未来 鈴木 英子	郡山女子大学 日立オートモティブシステムズ(株)	1年	

(5) 各種共催行事(スポーツ課関係)

行事名	主催者名	場所
第68回福島県総合体育大会	福島県総合体育大会実行委員会	県内各地
第27回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会	福島民報社	白河市～福島市

イ 第71回国民体育大会

第71回国民体育大会冬季大会スケート競技会では、男女総合成績第23位、スキー競技会では男女総合第14位の成績を収め、冬季大会における男女総合成績は、第23位で本大会に引き継いだ。

(ア) 参加状況

大会	区分	会 期	開 催 地	団 長	参 加 競 技 数	派 遣 人 数			
						役 員	監 督	選 手	合 計
冬季大会	スケート アイスホッケー 競技会	H28. 1/27(水) ～1/31(日)	岩手県 盛岡市 花巻市 二戸市	佐藤 憲保	2	11	4	34	49
	スキー 競技会	H28. 2/20(土) ～2/23(火)	岩手県 八幡平市	渡部 孝美	1	10	10	46	66

(イ) 競技成績

大会	区分	天 皇 杯				皇 后 杯			
		競技得点	参加得点	得点合計	順 位	競技得点	参加得点	得点合計	順 位
スケート競技会		11点	10点	21点	23位	8点	10点	18点	18位
アイスホッケー競技会		0点	10点	10点	13位	—	—	—	—
スキー競技会		10.5点	10点	20.5点	14位	0点	10点	10点	17位
合 計		21.5点	30点	51.5点	23位	8点	20点	28点	22位

(ウ) 入賞状況

a 冬季大会

スケート競技		競技得点 11点		天皇杯 23位		皇后杯 18位	
種 別	種 目	順 位	得 点	選 手 名		所 属	
成年男子	スピード 500m	8	1	古川 耀		SSX ー LINX	
	スピード 2000mR	8	1	古川 耀		SSX ー LINX	
成年女子	スピード 2000mR	6	3	吾妻 義尚		総合南東北病院	
				清水 秀昭		郡山商業高等学校 教員	
				渡邊 晟		山梨学院大学 2年	
				渡邊 唯		ジョイフィット郡山	
少年男子	スピード 2000mR	8	1	吾妻 優		北斗型枠製作所	
				古川 幸樹		ノボノルディスクファーマ(株)	
				水澤 彩佳		日本体育大学 2年	
				古川 徹		郡山商業高等学校 2年	
				増子 建紀		郡山商業高等学校 3年	
少年女子	スピード 2000mR	8	1	鈴木 大地		安積高等学校 3年	
				鈴木 瑞騎		郡山商業高等学校 3年	
				木田 綾音		郡山商業高等学校 1年	
				秋山 光希		喜久田中学校 3年	
				秋山 光希		喜久田中学校 3年	
				木田 綾音		郡山商業高等学校 1年	
				増子 楓佳		郡山商業高等学校 1年	
				黒澤 萌恵		郡山第五中学校 3年	
秋山 光希		喜久田中学校 3年					

スキー競技		競技得点 10.5点		天皇杯 14位		皇后杯 17位	
種 別	種 目	順 位	得 点	選 手 名		所 属	
成年男子	Aジャイアントスラローム	7	2	大山 瑠		近畿大学 4年	
少年男子	スペシャルジャンプ	5	3.5	渡部 大輝		猪苗代高等学校 3年	
	コンバインド	5	4	渡部 大輝		猪苗代高等学校 3年	
	ジャイアントスラローム	9	1	高橋 海里		猪苗代高等学校 3年	

※スキー競技における少年男子ジャイアントスラロームの得点は、上位に3名の北海道の選手がいたため、繰り上がりで得点した。

(6) 平成27年度国際大会出場選手一覧

平成27年4月1日～平成28年1月15日

No.	競技名	出場大会名	氏名 (所属)	開催場所	期間	種目・成績	出身校等
1	レスリング	2015年ビトランススキ国際大会	田野倉翔太 (クリナップ)	ポーランド ワルシャワ	7/25～26	グレコローマンスタイル59kg級 10位	
2	レスリング	アジア選手権	鈴木 博恵 (クリナップ)	カタール ドーハ	5/6～9	75kg級 1位	
3	レスリング	世界選手権	田野倉翔太 (クリナップ)	アメリカ ラスベガス	9/10～12	グレコローマンスタイル59kg級 28位	
4	陸上	2015ワールドリレーズ	渡辺 真弓 (東邦銀行)	バハマ ナッソー	5/2～3	4×100mR 予選敗退	福島大学卒
5	陸上	2015ワールドリレーズ	千葉 麻美 (東邦銀行)	バハマ ナッソー	5/2～3	4×400mR 10位	福島大学卒
6	陸上	2015ワールドリレーズ	青木沙弥佳 (東邦銀行)	バハマ ナッソー	5/2～3	4×400mR 10位	福島大学卒
7	陸上	アジア選手権	渡辺 真弓 (東邦銀行)	中国 武漢	6/3～7	準決勝	福島大学卒
8	陸上	アジア選手権	千葉 麻美 (東邦銀行)	中国 武漢	6/3～7	400m 7位 4×400mR 4位	福島大学卒
9	陸上	アジア選手権	青木沙弥佳 (東邦銀行)	中国 武漢	6/3～7	400m 6位 4×400mR 4位	福島大学卒
10	陸上	世界選手権	青木沙弥佳 (東邦銀行)	中国 北京	8/29	予選落ち 日本新記録	福島大学卒
11	陸上	世界選手権	千葉 麻美 (東邦銀行)	中国 北京	8/29	予選落ち 日本新記録	福島大学卒
12	陸上	世界ユース選手権大会	遠藤 日向 (学校法人石川高校)	アメリカ合衆国 コロンビア	7/15～19	3000m 5位	
13	陸上	世界ユース選手権大会	田母神一喜 (学校法人石川高校)	アメリカ合衆国 コロンビア	7/15～19	800m 7位	
14	陸上	ソウル2015 IBSAワールド ゲームス	佐藤 智美 (東邦銀行)	韓国 ソウル	5/12	T13クラス100m 2位	
15	陸上	第28回ユニバーシアード競技大 会	小枝 理奈 (大東大)	韓国 光州	7/2～14	10000m 5位 5000m 8位	田村高校卒
16	陸上	日・中・韓ジュニア陸上	田母神一喜 (学校法人石川高校)	韓国 済州特別自治道	8/26～27	1500m 1位	
17	ハンドボール	第23回日・中・韓ジュニア交流 競技会	阿部 奎太 (学校法人石川高校)	韓国 済州特別自治道	8/25～27	2位	
18	ハンドボール	第23回日・中・韓ジュニア交流 競技会	柴崎 加奈 (郡山女子大附属高校)	韓国 済州特別自治道	8/25～27	3位	
19	ハンドボール	第28回ユニバーシアード競技大 会	白石 さと (オムロン)	韓国 光州	7/2～14	11位	郡山第一 中学校卒
20	バドミントン	2015世界ジュニアバドミントン 選手権大会	渡辺 勇大 (富岡高校)	ペルー リマ市	11/4～17	団体 3位 男子シングルス2回戦 男子ダブルス3位	
21	バドミントン	2015世界ジュニアバドミントン 選手権大会	三橋 健也 (富岡高校)	ペルー リマ市	11/4～17	団体 3位 男子シングルス4回戦 男子ダブルス3位	
22	バドミントン	2015世界ジュニアバドミントン 選手権大会	川上紗恵奈 (富岡高校)	ペルー リマ市	11/4～17	団体 3位 女子シングルス 4回戦	

No.	競技名	出場大会名	氏名 (所属)	開催場所	期 間	種目・成績	出身校等
23	バドミントン	2015世界ジュニアバドミントン選手権大会	仁平 菜月 (富岡高校)	ペルー リマ市	11/4~17	団体 3位 女子シングルス 3位	
24	バドミントン	K&Dグラフィックス/ヨネックスグランプリ	渡辺 勇大 (富岡高校)	アメリカ合衆国 オレンジ市	12/7~12	男子ダブルス 1回戦	
25	バドミントン	K&Dグラフィックス/ヨネックスグランプリ	三橋 健也 (富岡高校)	アメリカ合衆国 オレンジ市	12/7~12	男子ダブルス 1回戦	
26	バドミントン	アジアジュニアU17&U15選手権2015	水井ひらり (猪苗代中学校)	インドネシア クデュス	10/7~11	女子シングルスU17 3位 女子ダブルスU17 2回戦	
27	バドミントン	アジアジュニアU17&U15選手権2015	福本真恵七 (猪苗代中学校)	インドネシア クデュス	10/7~11	女子ダブルスU17 2回戦 混合ダブルスU17 2回戦	
28	バドミントン	アジアジュニアU17&U15選手権2015	稲光翔太郎 (猪苗代中学校)	インドネシア クデュス	10/7~11	男子ダブルスU15 2回戦	
29	バドミントン	アジアジュニアU17&U15選手権2015	山下 啓輔 (猪苗代中学校)	インドネシア クデュス	10/7~11	男子シングルスU15 1回戦 ダブルスU15 2回戦 混合ダブルスU15 2回戦	
30	バドミントン	アジアジュニアU17&U15選手権2015	内山 智尋 (猪苗代中学校)	インドネシア クデュス	10/7~11	女子シングルスU15 3回戦 女子ダブルスU15 1回戦	
31	バドミントン	アジアジュニアU19選手権2015	渡辺 勇大 (富岡高校)	タイ バンコク	6/28~7/5	団体 3位 男子シングルス 3位 男子ダブルス 1回戦	
32	バドミントン	アジアジュニアU19選手権2015	三橋 健也 (富岡高校)	タイ バンコク	6/28~7/5	団体 3位 男子ダブルス 1回戦	
33	バドミントン	アジアジュニアU19選手権2015	川上紗恵奈 (富岡高校)	タイ バンコク	6/28~7/5	団体 3位 女子シングルス ベスト8	
34	バドミントン	アジアジュニアU19選手権2015	仁平 菜月 (富岡高校)	タイ バンコク	6/28~7/5	団体 3位 女子シングルス ベスト8	
35	バドミントン	オーストラリアジュニアインターナショナル2015	三橋 健也 (富岡高校)	オーストラリア バララト	9/10~13	男子シングルス 1位 男子ダブルス 1位	
36	バドミントン	韓国マスターズ2015	齋藤 太一 (早稲田大学)	韓国 全州	11/3~8	男子ダブルス 予選2回戦	富岡高校卒
37	バドミントン	シンガポールユースインターナショナル2015	山下 啓輔 (猪苗代中学校)	シンガポール	11/16~22	U15男子シングルス 2回戦 U15男子ダブルス 2回戦	
38	バドミントン	シンガポールユースインターナショナル2015	水井ひらり (猪苗代中学校)	シンガポール	11/16~22	U17女子シングルス 1位 U17女子ダブルス ベスト8	
39	バドミントン	シンガポールユースインターナショナル2015	福本真恵七 (猪苗代中学校)	シンガポール	11/16~22	U17女子ダブルス ベスト8	
40	バドミントン	シンガポールユースインターナショナル2015	内山 智尋 (猪苗代中学校)	シンガポール	11/16~22	U15女子シングルス 2位 U15女子ダブルス 1位	
41	バドミントン	シンガポールユースインターナショナル2015	稲光翔太郎 (猪苗代中学校)	シンガポール	11/16~22	U15男子ダブルス 2回戦	
42	バドミントン	第28回ユニバーシアード競技大会	浦谷 夏未 (北都銀行)	韓国 光州	7/2~14	団体 ベスト8 女子ダブルス 3回戦 混合ダブルス 2回戦	尚志高校卒
43	バドミントン	第28回ユニバーシアード競技大会	篠田 未来 (日立化成)	韓国 光州	7/2~14	団体 ベスト8 女子ダブルス 3回戦 混合ダブルス 2回戦	富岡高校卒
44	バドミントン	デンマークジュニア2015	渡辺 勇大 (富岡高校)	デンマーク ゲントフテ	10/8~11	男子シングルス 1位 男子ダブルス 1位	
45	バドミントン	デンマークジュニア2015	三橋 健也 (富岡高校)	デンマーク ゲントフテ	10/8~11	男子シングルス 3位 男子ダブルス 1位	
46	バドミントン	ニュージーランドオープン2015	川上紗恵奈 (富岡高校)	ニュージーランド オークランド	4/28~5/3	女子シングルス 1位	

No.	競技名	出場大会名	氏名 (所属)	開催場所	期 間	種目・成績	出身校等
47	バドミントン	ニュージーランドオープン2015	仁平 菜月 (富岡高校)	ニュージーランド オークランド	4/28~5/3	女子シングルス ベスト8	
48	バドミントン	ベトナムオープン2015	川上紗恵奈 (富岡高校)	ベトナム ホーチミン	8/24~30	女子シングルス 1位	
49	バドミントン	ベトナムオープン2015	仁平 菜月 (富岡高校)	ベトナム ホーチミン	8/24~30	女子シングルス 2回戦	
50	バドミントン	ロシアオープン2015	渡辺 勇大 (富岡高校)	ロシア ウラジオストク	7/21~26	男子ダブルス 2回戦 混合ダブルス 2位	
51	バドミントン	ロシアオープン2015	三橋 健也 (富岡高校)	ロシア ウラジオストク	7/21~26	男子ダブルス 2回戦 混合ダブルス 2回戦	
52	バドミントン	日・韓高校生バドミントン交流 競技会	山澤 直貴 (富岡高校)	東京都	12/15~17	団体戦 日本3勝 韓国0勝	
53	バドミントン	日・韓高校生バドミントン交流 競技会	本田 大樹 (富岡高校)	東京都	12/15~17	団体戦 日本3勝 韓国0勝	
54	バドミントン	日・韓高校生バドミントン交流 競技会	金子 真大 (ふたば未来学園高校)	東京都	12/15~17	団体戦 日本3勝 韓国0勝	
55	バドミントン	日・韓高校生バドミントン交流 競技会	久保田友之祐 (ふたば未来学園高校)	東京都	12/15~17	団体戦 日本3勝 韓国0勝	
56	バドミントン	日・韓高校生バドミントン交流 競技会	高橋明日香 (ふたば未来学園高校)	東京都	12/15~17	団体戦 日本2勝 韓国1勝	
57	バドミントン	日・韓高校生バドミントン交流 競技会	由良なぎさ (ふたば未来学園高校)	東京都	12/15~17	団体戦 日本2勝 韓国1勝	
58	ソフトテニス	第14回チャイナカップ	小谷菜津美 (ダンロップ)	中国 武漢	6/20~24	女子シングルス 1位 女子ダブルス 3位	
59	ソフトテニス	第14回チャイナカップ	米山 芽玖 (ダンロップ)	中国 武漢	6/20~24	女子ダブルス 3位	
60	ソフトテニス	モンゴルオープンソフトテニス 国際大会2015	原野 亜衣 (ダンロップ)	モンゴル	8/15~17	女子シングルス 1位 女子ダブルス 2位	
61	ソフトテニス	モンゴルオープンソフトテニス 国際大会2015	小谷菜津美 (ダンロップ)	モンゴル	8/15~17	女子シングルス 3位 女子ダブルス 1位	
62	ソフトテニス	モンゴルオープンソフトテニス 国際大会2015	米山 芽玖 (ダンロップ)	モンゴル	8/15~17	女子シングルス 5位 女子ダブルス 2位	
63	ソフトテニス	モンゴルオープンソフトテニス 国際大会2015	大槻 麗 (ダンロップ)	モンゴル	8/15~17	女子シングルス 3位 女子ダブルス 1位	
64	スキー	FIS公認 ウィスラーカップ 2015 U-16	長谷部宏仁 (猪苗代高校)	カナダ ウィスラー	4/3~5	回転3位	
65	スキー	FIS公認 ウィスラーカップ 2015 U-16	長谷部宏仁 (猪苗代高校)	カナダ ウィスラー	4/3~5	大回転3位	
66	自転車	UCIロード世界選手権大会	渡邊 歩 (学法石川)	アメリカ合衆国 リッチモンド	9/21~27	ジュニア 途中棄権	
67	自転車	ジュニアネイションズカップ ツールドラピティビ	渡邊 歩 (学校法人石川高校)	カナダ	7/22~28	ジュニア 2 1位	
68	サッカー	AFC U-19女子選手権中国 2015	水谷 有希 (筑波大学)	中国	8/18~29	優勝	富岡高校卒 (アカデミー福島)
69	サッカー	第28回ユニバーシアード競技大 会	浦田 佳徳 (順天堂大学)	韓国 光州	7/2~14	銅メダル	富岡高校卒 (アカデミー福島)
70	サッカー	第28回ユニバーシアード競技大 会	吉武 愛美 (吉備国際大学)	韓国 光州	7/2~14	銅メダル	富岡高校卒 (アカデミー福島)

No.	競技名	出場大会名	氏名 (所属)	開催場所	期 間	種目・成績	出身校等
71	サッカー	第28回ユニバーシアード競技大会	本多 由佳 (大阪体育大学)	韓国 光州	7/2~14	銅メダル	富岡高校卒 (アカデミー福島)
72	サッカー	第28回ユニバーシアード競技大会	山守 杏奈 (筑波大学)	韓国 光州	7/2~14	銅メダル	富岡高校卒 (アカデミー福島)
73	サッカー	第28回ユニバーシアード競技大会	須永 愛海 (仙台大学)	韓国 光州	7/2~14	銅メダル	富岡高校卒 (アカデミー福島)
74	サッカー	第28回ユニバーシアード競技大会	井上 ねね (日本体育大学)	韓国 光州	7/2~14	銅メダル	富岡高校卒 (アカデミー福島)
75	ゴルフ	ジュニアワールドカップ2015	蛭田みなみ (学校法人石川高校)	日本 (愛知県豊田市)	6/14~19	個人3位 団体優勝	
76	カヌー	2015アジアカヌースプリント選手権大会	鈴木 康大 (久野製作所)	インドネシア バラバン	11/4~8	シニア男子カヤックペア 4位	
77	カヌー	2015アジアカヌースプリント選手権大会	小久保南海 (安達高校)	インドネシア バラバン	11/4~8	ジュニア女子カヤックペア 2位	
78	カヌー	2015カヌースプリントジュニア世界選手権大会	小久保南海 (安達高校)	ポルトガル モンテモル	7/24~26	女子カヤックペア 準決勝 女子カヤックフォア 9位	
79	ウエイト リフティング	世界ジュニア	近内 三孝 (日本大学)	ポーランド (プロツワフ)	6/6~13	69kg級 6位	田村高校卒
80	卓球	第24回東アジアホープズ卓球大会	深谷 和花 (富久山卓球クラブ)	日本 (大阪府)	8/27~28	日本B 女子団体 第3位 個人 予選グループ3位	郡山ザベリオ 学園小学校6年
81	卓球	第24回東アジアホープズ卓球大会	原田 春輝 (喜多方卓球ランド)	日本 (大阪府)	8/27~28	日本B 男子団体 第5位 個人 予選グループ第2位 決勝 1回戦	大熊町立大野 小学校6年
82	水泳 (競泳)	NSWオープン選手権	寺田 拓未 (湯本高校)	オーストラリア	3/4~6		
83	水泳 (競泳)	シンガポールエージ選手権大会	国分 香奈 (日本大学東北高校)	シンガポール	3/16~20		
84	レスリング	ヤリギン国際大会	浜田 千穂 (クリナップ)	ロシア クラスノヤルスク	1/29~30	女子53kg 2位	
85	トライアスロン	ITUアメリカンカップ	菊池日出子 (トライアスロンアカデミー福島)	メキシコ マサトラン	2/28	4位	棚倉町出身 現 本宮町在住
86	トライアスロン	ITUアメリカンカップ	菊池日出子 (トライアスロンアカデミー福島)	アメリカ合衆国 クレルモント	3/7	3位	棚倉町出身 現 本宮町在住
87	トライアスロン	ITUワールドカップ	菊池日出子 (トライアスロンアカデミー福島)	オーストラリア ムラバ	3/14	29位	棚倉町出身 現 本宮町在住
88	トライアスロン	ITUアジアカップ	菊池日出子 (トライアスロンアカデミー福島)	フィリピン スービックベイ	4/26	2位	棚倉町出身 現 本宮町在住
89	トライアスロン	ITUワールドカップ	菊池日出子 (トライアスロンアカデミー福島)	中国 成都	5/9	25位	棚倉町出身 現 本宮町在住
90	トライアスロン	ITUワールドカップ	菊池日出子 (トライアスロンアカデミー福島)	ハンガリー ティサエバローシュ	8/8	32位	棚倉町出身 現 本宮町在住
91	トライアスロン	ITUアジアカップ	菊池日出子 (トライアスロンアカデミー福島)	日本 村上	9/20	5位	棚倉町出身 現 本宮町在住
92	トライアスロン	ITUアジアカップ	菊池日出子 (トライアスロンアカデミー福島)	インドネシア パリアマン	11/28	2位	棚倉町出身 現 本宮町在住

スタッフ等

No.	競技名	出場大会名	氏名 (所属)	開催場所	期間		
1	バスケットボール	第28回ユニバーシアード競技大会	萩原美樹子 (JX日能日石エネルギー(株))	韓国 光州			監督
2	水泳 (競泳)	第28回ユニバーシアード競技大会	大木 賢二 (スウィン大宮スイミングスクール)	韓国 光州			コーチ
3	バスケットボール	第28回ユニバーシアード競技大会	池内 泰明 (拓殖大学)	韓国 光州			監督
4	サッカー	第28回ユニバーシアード競技大会	岡部 拓人 (株)NCS学院)	韓国 光州			帯同審判
5	カヌー	2015カヌースプリントジュニア世界選手権大会	小久保英一知 (安達高校)	ポルトガル モンテモル	7/24~26		監督
6	カヌー	2015アジアカヌースプリント選手権大会	小久保英一知 (安達高校)	インドネシア バラバン	11/4~8		ジュニア コーチ
7	バドミントン	アジアジュニアU19選手権2015	大堀 均 (富岡高校)	タイ バンコク	6/28~7/5		コーチ
8	バドミントン	アジアジュニアU17&U15選手権2015	齋藤 亘 (猪苗代中学校)	インドネシア クデュス	10/7~11		コーチ
9	バドミントン	2015世界ジュニアバドミントン選手権大会	大堀 均 (富岡高校)	ペルー リマ市	11/4~17		コーチ
10	トライアスロン	A S T Cアジア選手権大会	蓮沼 哲哉 (福島大学)	台湾	6/12		U 2 3 女子 マネージャー
11	トライアスロン	I T U世界選手権	蓮沼 哲哉 (福島大学)	アメリカ合衆国 シカゴ	9/12		U 2 3 女子 マネージャー
12	トライアスロン	A S T Cアジアカップ パリアマン	蓮沼 哲哉 (福島大学)	インドネシア	11/28		選手団帯同 コーチ

※以下は本県ゆかりの選手

No.	競技名	出場大会名	氏名 (所属)	開催場所	期間	種目・成績	本県とのゆかり
1	バスケットボール	第3回F I B A A S I A U-16女子バスケットボール選手権大会	遠藤 桐 (桜花学園高校1年)	スリランカ コロombo	11/18~25		白河中央中→ 桜花学園高
2	バドミントン	中国マスターズ2015	東野 有紗 (日本ユニシス)	中国 常州市	4/14~19	女子ダブルス 3位	富岡高校卒
4	バドミントン	ニュージーランドオープン2015	大堀 彩 (N T T 東日本)	ニュージーランド オークランド	4/28~5/3	男子シングルス 3位	富岡高校卒
5	バドミントン	ニュージーランドオープン2015	松居圭一郎 (日本体育大学)	ニュージーランド オークランド	4/28~5/3	男子ダブルス 2回戦	富岡高校卒
6	バドミントン	第14回世界国別対抗バドミントン選手権大会	桃田 賢斗 (N T T 東日本)	中国 東莞市	5/10~17	2位	富岡高校卒
7	バドミントン	オーストラリアオープン2015	桃田 賢斗 (N T T 東日本)	オーストラリア シドニー	5/26~31	男子シングルス 2回戦	富岡高校卒
8	バドミントン	インドネシアオープン2015	桃田 賢斗 (N T T 東日本)	インドネシア ジャカルタ	6/2~7	男子シングルス 1位	富岡高校卒
9	バドミントン	U S オープン2015	大堀 彩 (N T T 東日本)	アメリカ合衆国 ニューヨーク	6/16~21	女子シングルス 2回戦	富岡高校卒

No.	競技名	出場大会名	氏名 (所属)	開催場所	期 間	種目・成績	本県とのゆかり
10	バドミントン	USオープン2015	保木 卓郎 (トナミ運輸)	アメリカ合衆国 ニューヨーク	6/16~21	男子ダブルス 3位	富岡高校卒
11	バドミントン	USオープン2015	小林 優吾 (トナミ運輸)	アメリカ合衆国 ニューヨーク	6/16~21	男子ダブルス 3位	富岡高校卒
12	バドミントン	カナダオープン2015	大堀 彩 (NTT東日本)	カナダ カルガリー	6/23~28	女子シングルス ベスト8	富岡高校卒
13	バドミントン	チャイニーズタイペイオープン	大堀 彩 (NTT東日本)	台湾 台北	7/14~19	女子シングルス 1回戦	富岡高校卒
14	バドミントン	ロシアオープン2015	東野 有紗 (日本ユニシス)	ロシア ウラジオストク	7/21~26	混合ダブルス 2位 女子ダブルス ベスト8	富岡高校卒
15	バドミントン	第22回世界バドミントン選手権大会	桃田 賢斗 (NTT東日本)	インドネシア ジャカルタ	8/10~16	男子シングルス 3位	富岡高校卒
16	バドミントン	ベトナムオープン2015	齋藤 太一 (早稲田大学)	ベトナム ホーチミン	8/24~30	男子ダブルス 2回戦	富岡高校卒
17	バドミントン	韓国オープン2015	大堀 彩 (NTT東日本)	韓国 ソウル	9/15~20	女子シングルス 2回戦	富岡高校卒
18	バドミントン	韓国オープン2015	桃田 賢斗 (NTT東日本)	韓国 ソウル	9/15~20	男子シングルス 3位	富岡高校卒
19	バドミントン	チャイニーズタイペイグランプリ2015	保木 卓郎 (トナミ運輸)	台湾 台北	10/13~18	男子ダブルス 3位 男子シングルス 予選	富岡高校卒
20	バドミントン	チャイニーズタイペイグランプリ2015	小林 優吾 (トナミ運輸)	台湾 台北	10/13~18	男子ダブルス 3位 混合ダブルス 1回戦	富岡高校卒
21	バドミントン	デンマークオープン2015	桃田 賢斗 (NTT東日本)	デンマーク ゲントフテ	10/13~18	男子シングルス ベスト8	富岡高校卒
22	バドミントン	フランスオープン2015	桃田 賢斗 (NTT東日本)	フランス パリ	10/20~25	男子シングルス 2回戦	富岡高校卒
23	バドミントン	韓国マスターズ2015	大堀 彩 (NTT東日本)	韓国 全州	11/3~8	女子シングルス 1回戦	富岡高校卒
24	バドミントン	韓国マスターズ2015	保木 卓郎 (トナミ運輸)	韓国 全州	11/3~8	男子ダブルス 1回戦	富岡高校卒
25	バドミントン	韓国マスターズ2015	小林 優吾 (トナミ運輸)	韓国 全州	11/3~8	男子ダブルス 1回戦 混合ダブルス 2回戦	富岡高校卒
26	カヌー	2015アジアカヌースプリント選手権大会	宮田 悠佑 (和歌山県カヌー協会)	インドネシア パラバン	11/4~8	シニア男子カヤックペア 4位	安達高校卒
27	バドミントン	BWFワールドスーパーシリーズ2015	桃田 賢斗 (NTT東日本)	アラブ首長国連邦 ドバイ	12/9~13	男子シングルス 1位	富岡高校卒
28	バドミントン	K&Dグラフィックス/ヨネックスグランプリ	保木 卓郎 (トナミ運輸)	アメリカ合衆国 オレンジ市	12/7~12	男子ダブルス 2回戦	富岡高校卒
29	バドミントン	K&Dグラフィックス/ヨネックスグランプリ	小林 優吾 (トナミ運輸)	アメリカ合衆国 オレンジ市	12/7~12	男子ダブルス 2回戦	富岡高校卒
30	バドミントン	香港オープン2015	桃田 賢斗 (NTT東日本)	香港 特別行政区	11/17~22	男子シングルス 2回戦	富岡高校卒
31	バドミントン	マカオオープン2015	大堀 彩 (NTT東日本)	中国 マカオ特別行政区	11/24~29	女子シングルス 2回戦	富岡高校卒
32	バドミントン	マレーシアインターナショナルチャレンジ	保木 卓郎 (トナミ運輸)	マレーシア アロールスター	11/10~15	男子ダブルス 3回戦	
33	バドミントン	マレーシアインターナショナルチャレンジ	小林 優吾 (トナミ運輸)	マレーシア アロールスター	11/10~15	男子ダブルス 3回戦	

No.	競技名	出場大会名	氏名 (所属)	開催場所	期 間	種目・成績	本県とのゆかり
34	自転車	アジア選手権	窪木 一茂 (N I P P O)	日本 伊豆	1/27	団体追い抜き 2位	学法石川卒
35	自転車	アジア選手権	渡辺 一成 (日本競輪選手会)	日本 伊豆	1/27	ケイリン 5位	小高工業卒
36	トライアスロン	A S T CアジアU23選手権大会	鋤崎 隆也	台湾	6/12	7位	
37	トライアスロン	A S T CアジアU23選手権大会	佐藤 志帆	台湾	6/12	1位	
38	トライアスロン	I T U世界U23選手権	佐藤 志帆	アメリカ合衆国 シカゴ	9/12	2 2位	

(参考) 国際大会出場選手数 (平成10年度～平成27年度)

年 度	人 数
平成10年度	27
平成11年度	22
平成12年度	50
平成13年度	44
平成14年度	32
平成15年度	29
平成16年度	28
平成17年度	44
平成18年度	49
平成19年度	53
平成20年度	64
平成21年度	73
平成22年度	101
平成23年度	57
平成24年度	66
平成25年度	120
平成26年度	113
平成27年度	92

(出場選手数は延べ人数)

3 体育・スポーツ施設

(1) 体育・スポーツ施設の管理及び利用状況

県営体育施設の効率的活用と施設管理の万全を期し、もって地域スポーツの振興を図るため、当該施設設置市町村等に管理を委託した。

ア 施設管理一覧

施設名	所在地	管理方法	受託者	摘要
クライミングウォール	福島市	指定管理	(公財)福島県都市公園・緑化協会	平成18年4月1日より
荻野漕艇場	喜多方市	事務委託	喜多方市	〃

※事務委託(地自法第252条の14第1項)

イ 施設の利用状況

施設の利用状況は、次のとおりである。

施設名		利用状況	摘要
荻野漕艇場	漕艇	2,098 隻	
	トレーニング室	1,270 時間	

ふくしま海洋科学館

第1節 施設の概要

1 本館施設

- (1) 場所：福島県いわき市小名浜字辰巳町50番地
- (2) 施設：鉄骨・鉄筋コンクリート造
- ア 階数：地上4階建て
- イ 高さ：34m（展望室）
- ウ 敷地面積：56,265.1m²（駐車場含む）
- エ 延床面積：15,650.52m²
①本館12,935.11m²、②えっぐ1,266.7m²、
③わくわく里山縄文の里1,448.71m²
- オ 総水量：6,220t（メイン水槽：潮目の大水槽2,050t、
蛇の目ビーチ1,600t、BIOBIOかっぱの里430t）

2 水生生物保全センター

- (1) 場所：福島県いわき市小名浜字辰巳町47番地の1
- (2) 施設：鉄筋コンクリート、鉄骨造
- ア 階数：地上2階建て
- イ 延床面積：925.09m²

3 海水取水・送水施設

- (1) 場所：福島県いわき市小名浜下神白字松下
- (2) 施設：
- ア ろ過送水棟：1棟180.04m²
- イ 取水ポンプ棟：1棟84.43m²
- ウ 取水管：182.2m
- エ 送水管：2,875.9m
- オ 揚水管：146.0m

4 展示生物の収集、蓄養施設

当施設の「黒潮水槽」等において展示をしている大型魚類の採集・蓄養を行うため、海上生け簀を借り上げている。

- (1) 場所：鹿児島県大島郡（奄美大島）瀬戸内町
- (2) 施設：生け簀

第2節 各種事業

1 飼育展示事業

(1) 常設展示

展示のメインテーマを「潮目の海～黒潮と親潮の出会い～」としている。

「福島県の海」において、最も特徴的な事象である黒潮と親潮の境界「潮目」をテーマとして取り上げ、豊かな生物相を中心とした潮目の海の自然、潮目の科学、人と海とのかかわり合い、そして地球環境問題まで幅広い分野を紹介した。

(2) 飼育展示活動

ア 生物収集事業

展示生物（水生生物、陸上小動物及び植物）の主な採集、購入及び輸送は以下のとおりです。

(7) 淡水生物採集

オイカワ、イトヨ他県内生物の採集及び熱帯生物を購入した。

(4) 沿岸生物採集

県水産試験場調査船乗船採集（ホウボウ、サブロウ他）、松川浦採集（アマモ、ギンポ類他）、潜水採集（マヒトデ、マナマコ他）を行った。

(9) 深海生物採集

駿河湾にてROVを使用し、コトクラゲを採集した。

(5) 北方系生物採集

北海道（オホーツク海沿岸）において、ハダカカメガイやナメダング等の沿岸生物及びオオメンダコやオグチボヤ等の深海性生物を採集した。

(6) 南方系生物採集

マイワシを購入・輸送し、黒潮水槽に搬入した。

(8) サンゴ礁、マングローブ生物採集

奄美大島や沖縄での採集及び購入により収集した。

(3) 植物

県内採集及び購入により収集した。

(7) 当館で飼育しているゴマフアザラシが繁殖しオス1頭が誕生した。

(7) ユーラシアカワウソの雌1頭をオーストリアより搬入した。

(7) 当館で飼育しているユーラシアカワウソが繁殖し雌2頭が誕生した。

(8) 北海道で保護されたクラカケアザラシの雄1頭を搬入した。

(9) フェネックの雄1頭を購入により当館に搬入した。

(8) トドの雄1頭をブリーディングローンにより鴨川シーワールドより当館に搬入した。

イ 南方系生物蓄養事業

奄美大島の海上生け簀にて、カツオを蓄養し、当館に搬入した。

ウ 水生生物保全センター運営事業

(7) 和歌山県串本町にて、カマスサワラの飼育実験を行った。また、タチウオ、アカムツ他を収集した。

(4) 県内希少生物の繁殖

シナイモツゴ、タガメ等の繁殖研究を継続した。

(9) 深海生物生息域環境調査

駿河湾にてROV調査を行った。

(5) 深海性生物の飼育

オオメンダコ、コトクラゲ、オオグチボヤ他飼育実験を行った。

エ 飼育生物管理事業

本館収容生物(植物を含む)の展示及び飼育管理を実施した。

2 移動水族館事業

移動水族館専用車(アクアラバン)により、各地域・各施設のイベント等に出展し、普段当館に足を運ぶことができない人にも海の生物に親しむ機会を提供し、自然の事象への興味、関心を高めてもらうとともに、開催地における地域振興に貢献した。

また、主催者からの要請に応じ、有料で移動水族館専用車を派遣し、計13か所で開催した。

3 研究交流事業

(1) 学会・研究会等

ア 平成27年5月31日

第11回福島原発事故による長期影響地域の生活回復のためのダイアログセミナーにおいて「海で測る」と題した講話を行った。

イ 平成27年7月21日

当館において「第2回ユーラシアカワソウ国際繁殖検討会議」を開催し、国内および当館の飼育繁殖状況を報告し、ヨーロッパでの飼育状況の報告を受けた。

ウ 平成27年9月16日

当館において、第10回弁財天うなぎプロジェクト研究会を開催し、今までの調査結果を報告すると共に今後の調査について討議を行った。

エ 平成27年10月

平成26年9月に北海道羅臼沖で採取したエビが、当館と千葉県立中央博物館の駒井智幸博士との共同研究による論文により新種として認められ、「ラウスツノナガモエビ」と命名した。

オ 平成27年11月24日

インドネシア ジャカルタにおいて、シーラカンス研究および保全にかかるワークショップを開催し、インドネシアシーラカンス調査について報告した。また、インドネシアシーラカンス標本の日本での解剖と実験計画について協議した。

カ 平成27年11月

当館と千葉県立中央博物館の駒井智幸博士との共同研究による論文を平成27年11月に公表し、北海道羅臼沖で捕獲されているヒゴロモエビが、別種の「ラウスブドウエビ(新称)」であることが明らかになった。

キ 平成27年11月27日～29日

第56回日本動物園水族館教育研究会沖縄大会の事務局として研究会の運営を行った。また、この研究会の中で「いわき市中央卸売市場「いわき魚塾」と協働したHappy Oceansプログラムの開催について」の発表を行った。

ク 平成27年12月11日～12日

水族館シンポジウムにおいて「オオメンダコの水槽内行動の観察」、「遠隔操作型水中探査機(ROV)を用いた陸棚周辺海域の底生生物採集の試み」についてポスター発表した。

ケ 平成27年12月12日～23日

パラオ共和国において、PICRCと共同でウナギ調査を行い、採集したオオウナギ(3)を本館パラオコーナーに展示した。

コ 平成28年1月28日

第60回全国水族館技術者研究会において「オオメンダコの飼育と展示」を研究発表した。

サ 平成28年3月5日

第10回めひかりサミット「持続可能な水産資源の活用についてHappy Oceans」を開催し、マグロ資源をはじめ県内水面～沿岸漁業、震災、原発事故から復活した木戸川漁業等幅広い内容で市民に情報を発信した。

4 海洋文化推進事業

インドネシアにおいてシーラカンスを始めとする海洋生物の保全活動を一層推進するための海洋保全施設を設置した。

また、インドネシア北スラウェシ州でシーラカンス調査を実施し、新たにロラックおよびビトゥンでシーラカンスの生息を確認した。

5 企画営業事業

(1) 企画管理事業

接客や案内誘導等の業務委託、年間パスポートの販売等を通して来館者サービスの向上に努めた。

ア 券売・受付業務の委託

券売・改札業務において、専門業者へ委託することにより接客の質向上を図った。

イ 年間パスポートの販売

利用者の利便性に配慮するとともに、リピーター増を図るため、「年間パスポート」の販売促進に努めた。

また、「福島県子育て応援パスポート事業」に協賛し、「年間パスポート」の割引販売を実施した。

(2) 広報宣伝事業

ア 各種媒体等を活用した広報

(ア) テレビCM

a 夏休み向け：県内4局、宮城4局、新潟4局、山形2局で放映した。

b 春休み向け：県内2局、宮城1局、新潟2局で放映した。

(イ) ラジオCM

a 夏休み向け：県内3局で放送した。

(ウ) 新聞

地元3紙及び隣県の地方紙などに、観光シーズンに

おける誘客を目的とした広告を掲載した。

(エ) 旅行誌等

「るるぶ」(JTB出版)、「まっふる」(昭文社)、「びあ」(びあ)に誘客広告を掲載した。

また、夏季を中心に県外のフリーペーパーや情報誌に広告を掲載した。

(オ) 看板

福島空港に広報看板を掲出した。

(カ) その他

県内の新聞、情報誌においてパブリシティを活用した広報活動を積極的に展開した。

イ ポスター・パンフレット等の作成・活用

(ア) 館内案内リーフレット

館内案内リーフレットを来館者に配布したほか、県内外の観光施設、旅行エージェント、公共施設等に配布したり館外でのPR活動で配布を行った。

(イ) イベントチラシ・ポスター

季節のイベントごとにチラシ・ポスターを作成して県内外の公共施設等に配布・掲出したほか、市内の新聞折り込みや小学校、幼稚園の全児童・園児への配布を行った。夏季はわくわく里山縄文の里オープンのPRチラシを県内及び関東・東北各都県の小学校児童に約200万部配布した。

(ウ) イベントカレンダー

県内外の宿泊施設、旅行エージェント、公共施設等に配布した。

ウ 館内外における季節演出及び催事等の実施

(ア) GWイベント(5月)

GWに合わせて開館時間を午後7時まで延長し、イベントを開催した。

(イ) 潮干狩り(5月、6月)

5月GW明けから6月末までの毎週日曜日に、蛇の目ビーチで潮干狩りを開催した。

(ウ) わくわく里山・縄文の里まつり(7~8月)

7月20日の縄文の里オープンを記念し、7~8月の期間に縄文の狩猟採集にちなんだイベントを開催した。

(エ) クリスマスイベント(12月)

クリスマス期間の計2日、開館時間を午後7時まで延長し、参加型イベントを実施した。

(オ) 那須どうぶつ王国ふれあいどうぶつえん(12~1月)

小名浜潮目交流館にてアクアマリンふくしま主催の移動動物園を開催した。

(カ) お正月イベント(1月)

お正月プレゼント、生き物かるた大会、フィギュア釣りを実施した。

(キ) 門松の設置(1月)

(ク) ひなまつりイベント(2~3月)

つるし雛を館内に展示した。

(ケ) スプリングイベント(3~4月)

生け花と金魚の展示および参加型イベントを開催した。

エ アクアラバンを活用した営業・広報宣伝

移動水族館専用車両(通称:アクアラバン)により県内外のイベントに出展し、営業・広報宣伝を推進した。

出展か所数 21か所 観覧者数 41,352名

オ キャラクター「権兵衛」によるPR

館内で来館者に対するサービスのほか、移動水族館や県外での観光PRにおいて、権兵衛によるPRを行った。

(3) 観光誘致事業

ア 地元旅館ホテル等との連携の強化

当館への誘客を図るため、地元温泉旅館組合(いわき湯本温泉旅館協同組合、小名浜旅館ホテル組合)、近隣6宿泊施設(小名浜オーシャンホテル等)、ホテルハワイアンズ、母畑温泉八幡屋及びかんぼの宿いわきにおいて、契約宿泊施設の宿泊者限定入館券の販売を実施した。

イ 団体旅行等の誘客促進対策の実施

団体旅行客については、営業活動を強化するとともに、県及び市等の補助事業(宿泊費や交通費の補助)を活用して誘客促進に努めた。

ウ コンビニ前売券販売の実施

コンビニエンスストア店舗における前売券販売に取り組み、県外からの誘客を促進した。

(4) 地域交流事業

小名浜まちづくり市民会議への参画など、積極的に周辺地域との交流を深めるとともに地域振興に貢献した。

6 学習交流事業

(1) 解説活動事業

子どもから大人まで多くの人々が、海の生物や環境について楽しみながら学び、考え、交流のできる施設をめざし、一般来館者を対象に次のような解説活動を実施した。

ア バックヤードツアー

当館のボランティアが展示水槽のキーパースペース、実験室、調餌室、サービスヤード、濾過槽、ホルマリン室を案内しながら、水族館の仕組みや飼育員の仕事について紹介した。

イ ハンズオン解説

アクアマリンえっぐのボランティアーズステーションにおいて、小名浜港で採集したプランクトンの観察や化石、標本などを手に取って観察できるハンズオン解説を行った。

ウ アクアマリンえっぐワークショップ

アクアマリンえっぐのワークショップコーナーにおいて、塗り絵と点結びを実施した。

12月23日から1月11日までの期間は、大洗水族

館で活動するボランティア「マンボラクラブ」と協働した「チンアナゴを作ろう」を開催した。

エ オリエンテーリング

悪天候で釣り体験を中止した際の体験活動の提供として、アクアマリンえっぐの展示生物に関する問題を解かせるオリエンテーリングを実施した。

オ ワークショップの開催

いわき市が開催した海遊祭のイベントの一環として、7月25日はアクアマリンパークにおいて東京都葛西臨海水族園の移動水族館車「うみくる号」と一緒に当館のアクアラバンを運行し、移動水族館を開催した。

7月26日には小名浜美食ホテル2号棟において、日本渚の美術協会の「渚のオシャレな小物入れ教室」といわき魚塾の「お魚タッチ水族館」を開催した。

8月29日と30日には、オセアニックガレリアの北側において日本渚の美術協会の「渚のオシャレな小物入れ教室」を開催した。

2月6日には、海藻押し葉協会より講師を招き、海藻押し葉標本作りのスクールを開催した。

(2) 企画展開催事業

来館者サービスの向上と館の広報を兼ね、常設展示を拡充させるとともに、テーマを定めた展示を以下の内容で実施した。

ア 動物園水族館飼育員の写真展

期間：平成27年4月4日（土）～平成27年4月22日（水）

概要：北関東の動物園水族館と連携した共同企画の巡回写真展として、各園館の職員が撮影した動物の写真を展示した。

イ パラオ関連展示

4月8日に天皇陛下がパラオをご訪問されるのに合わせ、パラオ国際サンゴ礁センター内において「パラオのハゼ展」を開催した。

ウ 島サミット開催記念企画「パラオのハゼ写真展」

期間：平成27年4月25日（土）～平成27年6月7日（日）

概要：いわき市で開催された太平洋島諸国首脳会議「島サミット」に合せ、パラオのハゼ写真展を開催した。

エ 開館15年記念写真展「災害をのりこえる」

期間：平成27年6月13日（土）～平成27年10月4日（日）

概要：開館15周年を記念し、東日本大震災の被災と復興の様子を写真展として紹介した。

オ 小名浜国際環境芸術祭

期間：平成27年9月19日（土）～平成27年11月8日（日）

概要：大漁旗をテーマとしたデザイン展を実施し、芸術を通して環境保全のメッセージを発信するとともに、芸術による地域交流を図った。

カ キッズアート展「はっぴーじょうもんDOMEN」

期間：平成27年9月27日（土）～平成27年11月8日（日）

概要：粘土で縄文の土面をつくるワークショップと展示を行なった。

キ 海の男たちの盆栽展

期間：平成27年10月28日（水）～平成27年11月3日（火）

概要：黒松等の古木の迫力ある作品や秋の草花等による作品を展示した。

ク よみがえれ木戸川

期間：平成27年11月14日（土）～

概要：サケ漁が再開した木戸川をテーマに企画展を開催した。

ケ 干支展

期間：平成27年12月27日（日）～平成28年1月12日（火）

概要：申年にちなみサル顔に似たランの一種「モンキーオーキッド」の展示を行った。

コ ファイト7企画「飼育係の写真展」

期間：平成27年3月21日（土）～平成27年4月22日（水）

概要：当館と北関東6園館の飼育職員が撮影した写真を展示した。

サ わくわく里山・縄文の里ワークショップ

(ア) 縄文焼き陶芸教室

期間：平成27年10月10日、15日、22日

概要：いわき市在住の陶芸家、本多博史氏を講師に、縄文土器作りの陶芸教室を開催した。

(イ) 親子で縄文野焼き体験

期間：平成28年3月26日、27日、4月3日

概要：親子で縄文土器作りを行い、えっぐの森に設置した窯で野焼きを行った。

(ウ) ドジョウつかみ大会

期間：平成27年4月4日、5日、8月8日、9日

概要：えっぐの森とおまつり広場において、ドジョウつかみ大会を開催した。

(3) 展示事業

魅力ある展示を維持するため、展示品、種名板、情報ソフト等の更新を随時行い、図書や映像ソフト等の充実にも努めた。

(4) 学校教育関連事業

ア ガイダンス

当館に来館した学校団体を対象に施設の展示概要の紹介と館利用上の注意点等を解説するガイダンスを実施した。（14回実施、対象者数861名）

イ 館内学習

当館に来館した学校団体を対象に研修室などで授業を行った。当館の釣り堀を利用した命の教育、獣医の仕事の紹介、震災からの復興などをテーマとした学習を実施した。（92回実施、対象者数5,156名）

ウ 移動水族館の実施

移動水族館専用車（アクアラバン）による生物の観察、標本や化石などを手に取って観察をするハンズオン展示、震災からの復興をテーマにしたレクチャーを行う移動水族館を実施した。平成27年度は、アクアマリンいなわしろカワセミ水族館がオープンしたことから、この広報を兼ねて磐越道沿線の市町村を対象に開催した。（16校、対象者数3,202名）

エ 職場体験・インターンシップ・博物館学芸員実習の実施

中学校、高等学校、大学の生徒・学生を対象に、業務体験をとおして職業観・勤労観の習得や進路指導の一環を目的とした実習を実施した。

(ア) 中学校・高等学校生徒の職場体験

10回実施 対象生徒数56名

(イ) 大学生のインターンシップ

1回実施 対象学生数3名

オ 館内学習支援事業

いわき市内の小学校を対象に当館のバスで児童を送り、館内において学習活動を実施した。

（11回実施、対象者数234名）

カ 教職員セミナー、教員研修の実施

8月4日から6日の3日、アクアマリンいなわしろカワセミ水族館を会場に県内の教職員を集めて館の利用の説明や体験活動を体験してもらう教職員セミナーを開催し、67名が参加した。また、県いわき教育事務所からの依頼による高等学校初任者研修や経験者研修を実施した。

(5) 情報提供事業

ア 情報コーナー

情報コーナーでは、国内外の友好園館の展示を開始した。

イ インターネットによる情報提供

生物の搬入、搬出及び繁殖出産情報や季節ごとのイベント、企画展の詳細情報や参加体験プログラムの募集等の情報をホームページから発信しました。

また、風評被害払拭に関わる環境放射線量や海水中放射性物質質量など放射線量の情報も毎週更新した。

更に、フェイスブック、ツイッターを活用した情報提供も行った。

ウ 機関誌の発行

水族館活動をはじめ、生物や海に関するさまざまな情報を掲載した機関誌「AMF NEWS」を年4回発行した（発行部数5,500部/回）。

7 スクール開催事業

(1) スクールの開催

海の生物に親しみ、自然の事象について興味、関心を高めることを目的に、各種スクールを開催した。

ア キッズプログラム 7回 114名

イ ナイトプログラム 5回 121名

ウ ハッピーオーシャンプログラム 8回 92名

(2) 炭火烧体験

子ども漁業博物館「うおのぞき」の命の体験プログラムとして、活きたホタテガイやハマグリ、サザエなどの活きた魚介類とアジやメヒカリ、イカなどの干物を炭火で焼いて食べる炭火烧体験とかつお節を削る体験を提供した。

(3) 釣り体験

アクアマリンえっぐの釣り場において魚を釣って調理し、食べるという体験を提供し、子どもたちに命の教育の場を提供した。（参加者数18,929組）

(4) 他団体と連携をした被災者支援活動

全国の博物館が被災した児童を支援しようと集まった子ども☆ひかりプロジェクトのメンバーと共に、6月14日に仙台縄文の森公園、8月26日にアクアマリンふくしま、10月12日に南相馬市博物館、12月13日仙台八木山動物公園において子ども☆ひかりフェスティバルを開催した。

8 ボランティア等活動事業

アクアマリンふくしまボランティアの会による自主的、積極的なボランティア活動を通して、来館者の学習活動を支援するとともに、多様な交流を促進した。また、ボランティア活動者に対しては、資質向上のための専門研修を継続的にを行い、本施設を自らの学習・実践の場として積極的に提供した。

第1期～第17期ボランティア更新者	209名
第18期新規ボランティア登録者	15名
登録者数(平成28年3月31日現在)	224名

第3節 月別入館者数

平成27年度における当館の入館者状況は次のとおりである。

月	開館日数	入館者数	個人	団体	無料
4月	30日	33,557	24,260	3,127	6,170
5月	31日	73,870	52,940	4,804	16,126
6月	30日	36,671	23,329	5,885	7,457
7月	31日	57,880	40,722	5,134	12,024
8月	31日	114,201	88,307	3,255	22,639
9月	30日	51,837	36,397	6,698	8,742
10月	31日	38,843	22,957	9,139	6,747
11月	30日	34,709	23,776	4,490	6,443
12月	31日	29,305	21,510	2,473	5,322
1月	31日	27,822	21,662	1,195	4,965
2月	29日	23,294	15,501	2,274	5,519
3月	31日	36,641	26,632	1,627	8,382
合計	366日	558,630	397,993	50,101	110,536

第4節 公益財団法人ふくしま海洋科学館の概要

1 財団法人の名称

公益財団法人ふくしま海洋科学館（設立当初の名称「財団法人ふくしま海洋学習館」。平成12年4月1日「財団法人ふくしま海洋科学館」に名称変更。平成25年4月1日公益財団法人に移行。）

2 財団法人の目的

海洋生物及び海洋文化・科学に関する展示・研究並びに環境保全等に関する教育普及を実施するとともに、本県にふさわしい地域特性を生かした生涯学習の振興を図り、もって本県教育・文化の振興と生涯学習社会の実現に寄与する。

3 財団法人の事業

本財団法人では、設立目的を踏まえ、以下の事業を行う。

- (1) 海洋生物（その他の水族を含む）の収集、飼育、展示及び調査研究に関する事業
- (2) 海洋文化・科学に関する資料の収集、展示及び調査研究に関する事業
- (3) 海洋に係る生物・文化・科学等に関する教育普及及び地域交流に関する事業
- (4) 海洋生物の保護及び保全の研究に関する事業
- (5) 身近な自然環境の保全及び修復、再生、持続的利用に関する事業
- (6) 上記(1)から(5)の事業を行うための公の施設等の管理運営に関する事業
- (7) その他公益目的を達成するために必要な事業
- (8) ショップ及びレストランの運営等に関する事業
- (9) その他上記事業に関連する事業

4 基本財産

本財団法人は、県の社会教育施設を管理する組織となる性格に鑑み、設立の基礎となる基本財産については、県100%出捐の法人である。（出捐額 150,000千円）

5 組織（平成28年3月現在）

(1) 役員、評議員

ア 役員及び評議員の人数

理事8名、監事2名、評議員9名

イ 役員及び評議員の任期

理事の任期は2年とする。

監事及び評議員の任期は4年とする。

(2) 事務局

ア グループ・チームの設置

事務局にアクアマリン事業調整グループ、アクアマリン企画経営グループ、アクアマリンプロロググループ、アクアマリンシーラカンス研究所、アクアマリン国際交流グループ、アクアマリン潮目の海グループ、アクアマリン環境研究所、アクアマリン緑の水族館グループ、ア

クアマリン命の教育グループを置く。また、平成27年度より従たる事務所として、いなわしろカワセミ水族館を設置した。

アクアマリン事業調整グループにアクアマリン事業調整チーム、副館長直轄にアクアマリン防災行動隊、アクアマリン企画経営グループにアクアマリンおまつりチーム、アクアマリン観光交流チーム、アクアマリン地域交流おいしい水族館チーム、アクアマリンデザイン研究所、アクアマリンプロロググループにアクアマリンプロログチーム、アクアマリンシーラカンス研究所にアクアマリングリーンアイプロジェクト、アクアマリン潮目の海グループにアクアマリン潮目の海チーム、アクアマリン環境研究所にアクアマリン環境研究所・放射線調査プロジェクト、アクアマリン環境研究所・動物健康室、アクアマリン環境研究所・弁財天うなぎプロジェクト、アクアマリン緑の水族館グループにアクアマリン緑の水族館JOHMON OASISチーム、アクアマリン緑の水族館KID ZOOチーム、アクアマリン命の教育グループにアクアマリン命の教育チーム、アクアマリン命の教育プログラムチーム、アクアマリン編集委員会を置く。いなわしろカワセミ水族館に、アクアマリンいなわしろカワセミ水族館チームを置く。

イ 職員の人数

平成27年度の事務局体制は、館長（理事長兼務）、副館長（常務理事兼務）を含め、正規職員数（定数）46名。この外、臨時的な職員を別に置く。

ウ 職員の身分

	財団職員	県派遣者
館長	1	
副館長	1	1
アクアマリン事業調整グループ	3	2
アクアマリン企画経営グループ	8	0
アクアマリンプロロググループ	5	0
アクアマリン潮目の海グループ	6	0
アクアマリン環境研究所	2	0
アクアマリン緑の水族館グループ	7	0
アクアマリン命の教育グループ	5	3
アクアマリンデザイン研究所	(委嘱)	0
いなわしろカワセミ水族館	2	0
計	40	6

エ 役員、評議員名簿（敬称略）

【理事長】

ふくしま海洋科学館長	安部義孝
------------	------

【理事】

元日本魚類学会長	上野輝彌
----------	------

元 上 野 動 物 園 長	小 宮 輝 之
福島県企画調整部文化スポーツ局次長	阿 部 雅 人
生 物 生 態 研 究 所 長	谷 口 旭
F M い わ き パ ー ソ ナ リ テ ィ ー	馬 場 典 枝
N P O 日 本 渚 の 美 術 協 会 長	本 間 清
ふくしま海洋科学館副館長	塩 見 俊 夫

【監 事】

丹野公認会計士・税理士事務所代表	丹 野 勇 雄
福島県企画調整部企画調整課長	安 齋 浩 記

【評 議 員】

いわき商工会議所会頭	小 野 栄 重
いわき明星大学人文学部 現代社会学科 学科主任 教授	神 山 敬 章
童謡のまちづくり市民会議会長	九頭見 淑 子
冷 泉 寺 住 職	酒 主 照 之
小名浜機船底曳網漁業協同組合 代 表 理 事 組 合 長	野 崎 哲
武蔵野美術大学名誉教授	森 豪 男
福島県企画調整部文化スポーツ局長	篠 木 敏 明
ぴあ（株）代表取締役社長	矢 内 廣
大 國 魂 神 社 宮 司	山 名 隆 弘

福島県文化センター

第1節 概要

福島県文化センターは、県民の文化振興を図るために設置されたもので、福島県文化会館及び福島県歴史資料館の2つの施設をもって構成されている。

この文化センターの管理運営は、県が公益財団法人福島県文化振興財団に委託し、同法人はこの施設の設置目的に沿って県民の文化活動の場としてその利用に供し、利用者の便宜を図るとともに、各種の文化事業を展開し、あるいは歴史、文化関係資料の収集、整理、保管、調査研究を行っている。

1 業務内容

福島県文化センターを構成する施設の業務内容は、概ね次のとおりである。

(1) 福島県文化会館

- 文学、音楽、演劇、舞踊等の芸術の振興に関すること。
- 社会科学、自然科学等の学術の振興に関すること。
- 文化会館の施設及びその付属設備の利用に関すること。

(2) 福島県歴史資料館

- 県に関する文書資料、考古資料、民俗資料、その他の歴史資料に関する調査研究及びその利用に関すること。
- 歴史資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の主催及びその開催の援助に関すること。

第2節 施設の概要

所在地 福島市春日町5-54
敷地面積 26,525㎡
建築面積 5,906㎡
建築延面積 11,438㎡
構造 鉄骨・鉄筋コンクリート造り 地下1階、地上3階、塔屋1階
竣工 昭和45年7月31日

1 福島県文化会館

地階 中央監視室、空調・電気機械室、奈落
1階 大ホール(1,752席)、小ホール(379席)、リハーサル室(107㎡)、和室(20畳2室)、楽屋(4室)、浴室、視聴覚室(108席)、会議室、事務室、収蔵庫など
2階 会議室兼展示室(466㎡)、託児室(42㎡)など
3階 展示室(505㎡×2室)、ギャラリー(366㎡)、事務室、倉庫など

2 福島県歴史資料館

1階 展示室(180㎡)、事務室
2階 事務室、研究室、閲覧室、文書庫(252㎡×3)など
3階 文化財収蔵庫(455㎡)

第3節 事業の実施状況

平成27年度に福島県文化センターが実施した事業の概要は、次のとおりである。

1 管理運営事業

平成27年度における福島県文化センターの利用状況は、次のとおりである。

(1) 福島県文化会館

施設名	大ホール	小ホール	視聴覚室	1F 会議室	応接室	2F 会議室	3F 展示室	3F ギャラリー	窓口利用	館外利用	合計
入場者数(人)	172,749	40,984	2,293	1,660	113	25,677	76,426	9,102	13,035	26,513	368,552
稼働日数(日)	231	237	142	210	128	262	275	117			
稼働率(%)	67	69	41	61	37	76	80	34			

開館日数 345日

(備考)

- ・館外利用者数は、館外で実施した自主事業への参加者数である。
- ・稼働率 = 稼働日数 ÷ 開館日数 (345) × 100% で表す。

(2) 福島県歴史資料館

ア 利用状況

種別	利用人数	利用点数	内容
閲覧利用	1,409	4,918	会社員・公務員・教員・学生・研究者等
特別貸出利用	—	67	福島市教育委員会等
施設利用	11,613	4,985	入館者

イ 資料収蔵状況

種別	受入	返却	合計(累計)	内容
文書資料	1,758	0	209,277	県及び諸家寄贈・寄託資料
文献	0	0	44,936	寄贈・購入等

2 文化情報の発信

県民が、それぞれの価値観に基づいて主体的に文化活動に参加し、豊かな人生を楽しむことができるよう、文化情報誌の発行と、インターネット・ホームページによる文化情報の発信を実施した。

(1) 文化情報誌『ふくしま文化情報』の発行

編集方針：本県の文化行事に関する情報を幅広く収集し、広く県民に提供した。写真を多用し、見やすい誌面構成となるよう努めた。

発行部数：1回5,500部 年10回発行

内容：各月のおすすめ催事を「今月のピックアップ」として写真入りで紹介した。また、県内各地の文化イベントの中から地域の特色を生かした行事に注目し、「イベントアラカルト」として紹介した。

配布先：県内の市町村教育委員会・公民館・高校・大学・文化施設・公民館・文化団体・報道機関・病院など。

(2) 福島県歴史資料館『福島県史料情報』の発行

編集方針：福島県の地域性や県民の関心を考慮して資料を取り上げ、分かりやすい資料写真の掲載により読者の理解を深めることに努めた。

発行部数：年3回、各号1,000部

内容：歴史資料の情報、収蔵資料の紹介、歴史資料の調査研究成果など。

配布先：県内の市町村教育委員会・大学・文化施設・文化団体。

(3) インターネットによる情報提供

文化センターホームページには『ふくしま文化情報』に載せている県内の文化イベント情報をさらに充実させて掲載した。

「音楽」「展示」「演劇・舞台」「講演・講座」「自主上映」及び「その他」のジャンルごとに掲載した。

また、当財団が管理運営する各施設の企画事業情報及び県内の文化イベント情報を編集し、「福島県文化振興財団メールマガジン」として毎月1回配信した。

3 歴史資料館事業

事業名	期日・開催場所等	目的及び内容等	入場者数
収蔵資料展「花と温泉－かおりと湯けむりの記憶－」（前期）	4月25日～7月5日 県歴史資料館展示室	ふくしまデスティネーションキャンペーンの開催に合わせ、ふくしまの魅力の一つである花と温泉をテーマに、江戸時代の絵師蠣崎波響・熊坂的山が描いた花々や飯坂温泉などの絵図・鳥瞰図・絵葉書などを展示。	2,139名
収蔵資料展「花と温泉－かおりと湯けむりの記憶－」（後期）	7月18日～9月27日 県歴史資料館展示室	ふくしまデスティネーションキャンペーンの開催に合わせ、ふくしまの魅力の一つである花と温泉をテーマに、江戸時代の絵師蠣崎波響・熊坂的山が描いた花々や、高湯温泉・飯坂温泉などの全景図・鳥瞰図・絵葉書などを展示。前期の展示史料を全点展示替した。	2,488名
パネル展「江戸時代の豆知識」	10月10日～11月1日 県歴史資料館展示室	江戸時代に使われた街道、お金の数え方、時刻の表し方などを解説し、当時の庶民の知識を紹介する。	358名

歴史資料館移動展「花と温泉－かおりと湯けむりの記憶－」	10月2日～11月4日 福島県立図書館	ふくしまデスティネーションキャンペーンの関連展示「花と温泉－かおりと湯けむりの記憶－」で用いた主要な史料を展示。	1,115名
「歴史に学ぶ！ふくしまの記憶－人と木のかかわり－」	11月14日～12月20日 県歴史資料館展示室	古来より人々の生活にとって欠かせない資源である木をテーマに、材木に関する古文書、樹木や木製品が描かれた典籍、出土した木製品などを展示。	1,167名
収蔵資料展「新公開史料展」	1月16日～3月21日 県歴史資料館展示室	2015年3月に刊行した『福島県歴史資料館収蔵資料目録』第46集に収録された「旧湯野村文書（その一）」「大槻豈氏寄贈文書」「菅野宏家寄贈文書（その二）」「郡司大助家文書（その二）」「我妻家文書（その二）」「松本喜輝家文書（その二）」の史料を展示。	2,212名
古文書講座①～④	①7月18日 ②8月2日 ③9月6日 ④9月19日 県文化センター2階会議室	古文書解説初心者を対象とする講座。講座では「口留番所の文書を読み解く」をテーマに、歴史資料館に収蔵されている「長谷部家文書」をテキストとし、只見町叶津にあった江戸時代の八十里越口留番所の実態や機能について分かりやすく解説。	①117名 ②99名 ③103名 ④103名
フィルム上映会	①8月1日 ②10月3日 ③11月28日 県文化センター視聴覚室	①『先祖供養』他3本 ②『人形に込めた祈り』他4本 ③『柳橋の獅子舞』他3本	①10名 ②22名 ③22名
歴史資料館友の会行事	4月～1月 計7回	総会、友の会講座、展示見学会、歴史散策などの実施を支援。	会員数131名
校外学習協力	5件（24日間）	中学校、大学等の生徒の校外学習、インターンシップ、博物館実習への協力。	35名
地域史研究講習会	10月31日 県文化センター2階会議室	報告1「江戸時代における磐城の古式捕鯨について」報告2「陸奥国戸籍と古代の集落」講演「鎌倉幕府南奥の武士団－御家人制の視点から－」の3本の講習を実施した。	85名

4 文化事業

区分	事業名	期日・開催場所等	内容等	入場者数	
ふくしま文化復興事業	キッズシアター	6月10日～7月1日 県内6市3町16公演を実施	県内各地の教育委員会等との共催により、演劇公演を実施。 こんにやく座「口はロボットの口」	計10,685名	
	ファミリーシアター	【音楽公演】 10月27日～29日 4町1村5公演	演目／「オペラってなあに？」 ～歌劇「セヴィリアの理髪師」～	計1,958名	
		【児童劇公演】 9月7日～9日 3町3公演	劇団あとむ「あとむの時間はアンデルセン」	計1,122名	
	歴史再発見事業	復興関連遺跡発掘調査成果報告会 12月13日 2階会議室	被災地の歴史と伝統文化を見直す機運を創出し、ふくしまの復興に資することを目的に、震災復興事業に伴う文化財調査の成果報告と展示を実施。	87名	
		資料展 11月14日～12月20日 歴史資料館展示室		1,167名	
	子どもの芸術文化体験事業	7月14日～2月16日 実施回数/124回 派遣講師/延べ216名	子どもたちの健全な育成に資するため、多くのジャンルのアーティストを県内の幼稚園や学校等に派遣。	計13,756名	
	復興共催事業	震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム in 福島	7月18日～8月2日 3階展示室	主催/国立科学博物館・全国科学博物館振興財団	3,315名
		『ねこ』岩合光昭写真展	4月5日～5月10日 3階展示室	主催/福島民報社	20,148名
		「オリビア・ニュートン・ジョン ジャパンツアー」福島公演	5月2日 大ホール	主催/株式会社テレビユー福島	1,700名
		高橋真梨子コンサート Mariko Takahashi Concert vol.39 2015	6月27日 大ホール	主催/株式会社ノースロードミュージック	1,700名
トリックアート in 福島		9月12日～9月27日 3階展示室	主催/福島テレビ株式会社	9,768名	
オールナイトニッポン in 福島		9月27日 大ホール	主催/株式会社ラジオ福島	650名	

	劇団四季ミュージカル「クレイジー・フォー・ユー」	10月10日 大ホール	主催/株式会社テレビユー福島	1,700名
	NHKチャリティステージ「いないいないばあ!あつまれ!ワンワンわんだーらんど」福島公演	10月25日 大ホール	主催/NHK福島放送局	3,000名
	想いでの詩コンサート2015	11月8日 大ホール	主催/株式会社福島中央テレビ	1,010名
	チームラボアイランド 学ぶ!未来の遊園地 in 福島	12月19日～平成28年1月20日 3階展示室	主催/株式会社テレビユー福島	18,429名
	島津亜矢コンサート	2月20日 大ホール 2回公演	主催/株式会社ギルドネクスト	2,100名
	布施明 AKIRA FUSE LIVE 2015-2016	2月27日 大ホール	主催/株式会社テレビユー福島	950名
	NHK公開番組収録 Music for Tomorrow in Fukushima	3月6日 大ホール	主催/NHK福島放送局	1,376名
舞台芸術等鑑賞事業	古典劇場 松竹大歌舞伎公演	7月16日 昼・夜2回公演 大ホール	日本古来の伝統芸能の継承・普及を目的に、歌舞伎公演を実施。 出演/中村橋之助、中村福助他	計1,311名
	狂言公演	10月29日 大ホール	日本古来より民衆の生活に生き育まれてきた伝統芸能の狂言公演を実施。 出演/野村万作、野村萬斎 他	1,211名
	マイホールコンサート	平成28年1月31日 大ホール	ふくしまの文化活動を担う人材育成と県民に親しまれる施設作りを目的に、出演者を公募して実施。 出演/14団体	627名
	イベント運営、舞台技術ボランティアワークショップ	平成28年1月31日 大ホール	マイホールコンサートの運営に携わるボランティアを募集し、舞台運営の体験をもらった。	5名
	映画鑑賞事	子ども映画会	7月23日・28日、8月4日 小ホール	子どもたちの豊かな情操教育と健全な余暇活動のため、学校の夏休み期間中に実施。
	名作シネマ	平成28年2月16日・	映画人口の増加と映像文化の	計706名

	業	17日 小ホール	振興を目的に、歴史に残る名画を上映。		
	ジャズコンサート	LIVE IN ふくしま ジャズ・コンサート Vol.2	9月11日 大ホール	岩手県民会館・東京エレクトロンホール宮城（宮城県民会館）・当センターの3館が連携し、世界的に活躍するジャズギタリストのラリー・カールトンと、日本を代表する世界的ジャズ・トランペット奏者の日野皓正によるコンサートを実施。	1,161名
共催事業	第69回福島県総合美術展覧会	6月19日～28日 2・3階展示室		主催/福島県他	7,579名

第4節 公益財団法人福島県文化振興財団の概要

1 法人の名称

公益財団法人福島県文化振興財団

2 財団の目的

芸術文化の振興及び文化財等の調査研究、保存、活用等を図り、もって県民の教育、学術及び文化の振興に寄与する。

3 定款に定める事業

(1) 公益目的事業

- 文学、音楽、演劇、舞踊等の芸術文化事業
- 文書、考古、民俗等の歴史資料の収集、研究、整理、保管及び展示等の事業
- 埋蔵文化財の調査、研究、整理及び保存等の事業
- 文化財保護の教育普及並びに文化財の展示、保管及び研修に関する事業
- 文化活動に関する助成及び顕彰に関する事業
- その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(2) その他の事業

- 物品販売等に関する事業
- 公益目的事業以外の施設貸与に関する事業
- その他この法人の公益目的事業の推進に資する事業

4 組織（平成28年3月31日現在）

(1) 役員、評議員

理事12名及び監事2名、評議員10名

(2) 組織体制

- ・事務局（総務課）
- ・福島県文化センター（文化推進課、歴史資料課）
- ・福島県文化財センター白河館（総務課、学芸課）
- ・遺跡調査部（調査課）
- ・正規職員55名

役員名簿（平成28年3月31日現在）

職	氏名	現職
理事長	遠藤 俊博	福島県文化センター館長
副理事長	菊池 徹夫	福島県文化財センター 白河館長 早稲田大学名誉教授
専務理事	大河原 薫	事務局長
理事	阿部 雅人	福島県企画調整部文化スポーツ局次長
〃	小野 利廣	福島県南土建工業株式会社代表取締役 白河地区経営者協会会長 一般社団法人福島県建設業協会会長
〃	新城 猪之吉	末廣酒造株式会社代表取締役 福島県酒造組合会長 日本酒造組合中央会理事 東北支部長

〃	須佐由起子	元福島県教育委員会委員長 一般財団法人脳神経疾患研究所理事
〃	高城俊春	元福島県教育委員会教育長 福島県芸術文化団体連合会会長 公益財団法人東邦銀行教育・文化財団理事長
〃	高萩阿都志	株式会社タイヘイドライブースクール代表取締役社長 いわき中央地区交通安全事業主会会長
〃	平田公子	国立大学法人福島大学名誉教授
〃	山口哲子	宇都宮文星短期大学名誉教授
〃	渡邊和裕	福島商工会議所副会頭 福島市観光コンベンション協会会長
監事	齋藤忠	公認会計士
〃	芳賀裕	司法書士

評議員名簿 (平成28年3月31日現在)

氏名	現職
五十嵐乃里枝	一般社団法人会津自然エネルギー機構代表理事
懸田弘訓	福島県文化財保護審議会委員
小松信之	福島県市長会常務理事兼事務局長
齋藤美保子	郡山女子大学短期大学部教授
澤田修	企業組合劇団風の子東北代表理事
篠木敏明	福島県企画調整部文化スポーツ局長
宗田利八郎	倉美館(棚倉町文化センター)運営協会監事
新妻香織	NPO法人フー太郎の森基金理事長
馬目順一	いわき市教育委員会教育長職務代理者
安田清敏	福島県町村会事務局長

*五十音順

5 助成・顕彰事業

(1) 助成事業

県民の文化活動が自主的に活発に推進されるよう、個人又は文化団体の活動を援助・奨励し、本県文化の振興に寄与することを目的として実施した。

・助成件数 88件

・助成金額 総額 19,242,000円

(2) 顕彰事業

本県文化の普及、向上、保存及び伝承に貢献した個人又は団体を顕彰した。

・顕彰者

部門	種別	氏名・団体名
美術	団体	書淳会
	団体	日本画創美会
音楽	団体	石川女声コーラス
	個人	矢部玄信
文学	個人	小林勇三
生活文化	団体	しらかわ語りの会
文化財の保護	個人	山田利男